

科目目標		
学科	全学共通科目 全学共通基礎科目	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	H101	基礎教育を身に付けコース専門科目の準備
学年・期	1年・前期	講義の目的
授業科目名	人間環境学	授業のテーマ
単位数	2	人間環境学は人間環境大学の根本理念である。この理念について十分に理解することは、全体知を目指し、又、環境の各々の専門を修めるという目的を達成するために不可欠である。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	必修	人間環境学の理念と人間環境大学とについて、その歴史と設立の意義を理解することとともに、人間環境学の学問、研究、教育における歴史的な意義を理解する。そのために、現在広く学問がどのようなシステムになっているのか、そしてその課題がどのようなものか理解し、さらに、現在人類社会が直面しているさまざまな課題と学問の役割について考察する。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である	①人間環境 ②人間環境学 ③人間環境大学 ④学問 ⑤哲学 ⑥科学 ⑦環境問題 ⑧心の問題 ⑨大学 ⑩大学改革
関連資格		到達目標
担当教員名	内藤可夫	学問の起こりと大学の成立、学問の理念の成立と変遷、そして、今日の世界的な大学改革の流れを把握し、その文脈から人間環境大学の設立の理念の意義を理解し、人間環境学の学修の意義、学問の意義を理解し、自分自身が主体的に学ぶ為の学問への動機付けを確認する。

授業計画 テキスト

回	主題	回	主題
1	人間環境大学の設立	9	近現代における学問の変容
2	人間環境大学の概要	10	我が国における学問の歴史
3	人間環境大学の学問理念「人間環境学」	11	世界的な大学および学問の変化
4	学問とは何か	12	環境問題と人間環境学
5	諸文化における学問	13	こころの問題と人間環境学
6	ヨーロッパにおける学問の理念と哲学	14	歴史・文化と人間環境学
7	ヨーロッパにおける学問の歴史(1)	15	人間環境学の意義
8	ヨーロッパにおける学問の歴史(2)		

評価方法	論述試験
------	------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	適宜配布
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	全学共通科目 全学共通基礎科目		
カリキュラムの中での位置づけ	基礎教育を身に付けコース専門科目の準備		
科目コード	H102		
講義の目的			
学年・期	1年・前期		
授業科目名	基礎ゼミナール I		
授業のテーマ	基礎ゼミナールは、本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的な技能や、知的探究心を鍛錬することを目的としています。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯の意識を育てます。		
単位数	1		
授業の概要	1. 基礎ゼミナールは、I（前期）とII（後期）に区分され、両科目は必修科目です。 2. 基礎ゼミナールでは、共通テキストを使用して、ノート・テイキング、文献調査、レポート作成、プレゼンテーションなど大学に必要な基礎的技法を学びます。		
授業形態	基礎演習		
必修・選択	必修		
科目のキーワード	①聴く ②読む ③書く ④調べる ⑤整理する ⑥まとめる ⑦表現する ⑧伝える ⑨考える ⑩議論する		
前提とする科目			
到達目標			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格			
担当教員名	日比野・伊藤・吉田・島崎・岡・菅原		
大学の学習に必要な基礎学力、基礎的技能を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	第1章 スタディスキルズとは	9	第5章 大学図書館における情報収集(その2)
2	第2章 ノート・テイキング(その1)	10	第6章 インターネットによる情報収集(その1)
3	第2章 ノート・テイキング(その2)	11	第6章 インターネットによる情報収集(その2)
4	第3章 リーディングの基本スキル(その1)	12	第7章 情報の整理(その1)
5	第3章 リーディングの基本スキル(その2)	13	第7章 情報の整理(その2)
6	第4章 より深いリーディングのために(その1)	14	第8章 アカデミックライティングの基本スキル(その1)
7	第4章 より深いリーディングのために(その2)	15	第8章 アカデミックライティングの基本スキル(その2)
8	第5章 大学図書館における情報収集(その1)		
評価方法	レポート課題		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『知へのステップ(改訂版)』(くろしお出版) 担当教員によっては別途、補助教材を使用することがあります。		
参考文献			
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	全学共通科目 全学共通基礎科目
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	H103
基礎教育を身に付けコース専門科目の準備	
講義の目的	
学年・期	1年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	基礎ゼミナールⅡ
基礎ゼミナールは、本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的な技能や、知的探究心を鍛錬することを目的としています。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯の意識を育てます。	
単位数	1
授業の概要	
1. 基礎ゼミナールは、Ⅰ（前期）とⅡ（後期）に区分され、両科目は必修科目です。 2. 基礎ゼミナールⅡでは、前期で学んだことに加え、コンピューターを利用した技法を学び、基礎的現代的な教養や社会問題、問題の発見と解決、創造と発想、調査研究の方法など幅広い分野を取り上げ、大学に必要な基礎的技法を学びます。	
授業形態	基礎演習
必修・選択	必修
科目のキーワード	
①聴く ②読む ③書く ④調べる ⑤整理する ⑥まとめる ⑦表現する ⑧伝える ⑨考える ⑩議論する	
到達目標	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である
関連資格	
大学の学習に必要な基礎学力、基礎的技能を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。	
担当教員名	日比野・伊藤・吉田・島崎・岡・菅原

授業計画

回	主題	回	主題
1	第9章 効果的なアカデミックライティングのために(その1)	9	身の回りにある問題を見つけてみよう(その1)
2	第9章 効果的なアカデミックライティングのために(その2)	10	身の回りにある問題を見つけてみよう(その2)
3	第10章 パソコンによるライティングスキル(その1)	11	図書館やインターネットで情報を収集してみよう(その1)
4	第10章 パソコンによるライティングスキル(その2)	12	図書館やインターネットで情報を収集してみよう(その2)
5	第11章 プレゼンテーションの基本スキル(その1)	13	レポートを作成してみよう(その1)
6	第11章 プレゼンテーションの基本スキル(その2)	14	レポートを作成してみよう(その2)
7	第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために(その1)	15	プレゼンテーションをしてみよう
8	第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために(その2)		

評価方法	レポート課題およびプレゼンテーション
------	--------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	『知へのステップ(改訂版)』(くろしお出版) 担当教員によっては別途、補助教材を使用することがあります。
-----	--

参考文献	
------	--

実験・実習・教材費	なし
-----------	----

科目目標			
学科	全学共通科目 日本語リテラシ		
科目コード	H121		
学年・期	1年・前期		
授業科目名	日本語リテラシ I (共通)		
単位数	1		
授業形態	基礎演習		
必修・選択	必修		
前提とする科目			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格			
担当教員名	日比野・伊藤・吉田・島崎・菅原 石上		
カリキュラムの中での位置づけ			
基礎教育を身に付けコース専門科目の準備			
講義の目的			
授業のテーマ			
本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な日本語の能力を高めるために、基礎的な日本語表現技術を学ぶことを目的とする。			
授業の概要			
1. 日本語リテラシーは、I (前期)とII (後期)に区分される。 2. 共通テキストを使用して、日本語表現の基礎を学ぶ。 3. 漢字マスターを利用して2級程度の漢字が自在に使えるようにする。			
科目のキーワード			
①聴く ②読む ③書く ④日本語 ⑤ことばと文化 ⑥まとめる ⑦表現する ⑧伝える ⑨考える ⑩議論する			
到達目標			
大学の学習で必要な日本語能力を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。また漢字検定試験2級合格を目標とする。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	話し言葉と書き言葉	9	同音・同訓異義語の使い分け(その1)
2	漢字の読み方と言葉の意味(その1)	10	同音・同訓異義語の使い分け(その2)
3	文の組み立て	11	同音・同訓異義語の使い分け(その3)
4	漢字の読み方と言葉の意味(その2)	12	意味の限定(その1)
5	視点(その1)	13	意味の限定(その2)
6	視点(その2)	14	言葉の順序(その1)
7	漢字の読み方と言葉の意味(その3)	15	言葉の順序(その2)
8	文のつなぎ方		
評価方法	テスト		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	名古屋大学日本語表現研究会『書き込み式日本語表現ノート』(三弥井書店) 数研出版編集部『漢字能力検定5～2級対応級別漢字マスター』(数研出版)		
参考文献			
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	全学共通科目 日本語リテラシ
科目コード	H121
学年・期	1年・前期
授業科目名	日本語リテラシ I (留学生クラス)
単位数	1
授業形態	基礎演習
必修・選択	必修
前提とする科目	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である
関連資格	
担当教員名	文野峯子

カリキュラムの中での位置づけ

基礎教育を身に付けコース専門科目の準備

講義の目的

授業のテーマ

本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な日本語の能力を高めるために、基礎的な日本語表現技術を学ぶことを目的とする。

授業の概要

1. 日本語リテラシーは、I (前期)とII (後期)に区分される。  
 2. 中級文型およびN1レベルの文字語彙の習得と定着をめざす。  
 3. ニュース等を聴き取り、ノートをとること、概要を文章化する作業をとおして日本語能力を高める。

科目のキーワード

①聴く ②読む ③書く ④日本語 ⑤ことばと文化  
 ⑥まとめる ⑦表現する ⑧伝える ⑨考える ⑩議論する

到達目標

大学の学習に必要な日本語能力を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。また漢字検定試験2級合格を目標とする。

授業計画

回	主題	回	主題
1	聴くトレーニングと読むトレーニング	9	聴くトレーニングと読むトレーニング
2	聴くトレーニングと読むトレーニング	10	聴くトレーニングと読むトレーニング
3	聴くトレーニングと読むトレーニング	11	聴くトレーニングと読むトレーニング
4	聴くトレーニングと読むトレーニング	12	聴くトレーニングと読むトレーニング
5	聴くトレーニングと読むトレーニング	13	聴くトレーニングと読むトレーニング
6	聴くトレーニングと読むトレーニング	14	聴くトレーニングと読むトレーニング
7	聴くトレーニングと読むトレーニング	15	聴くトレーニングと読むトレーニング
8	聴くトレーニングと読むトレーニング		

評価方法 提出課題 30% 小テスト 20% 期末テスト 50%

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	授業時に指示
参考文献	『聴くトレーニング:聴解・聴読解(応用編)』(スリーエー・ネットワーク) 『読むトレーニング(基礎編)(応用編)』(スリーエー・ネットワーク)
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	全学共通科目 日本語リテラシ		
科目コード	H122		
学年・期	1年・後期		
授業科目名	日本語リテラシⅡ(共通)		
単位数	1		
授業形態	基礎演習		
必修・選択	必修		
前提とする科目			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格			
担当教員名	日比野・伊藤・吉田・島崎・菅原		
カリキュラムの中での位置づけ			
基礎教育を身に付けコース専門科目の準備			
講義の目的			
授業のテーマ			
本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な日本語の能力を高めるために、基礎的な日本語表現技術を学ぶことを目的とする。			
授業の概要			
1. 日本語リテラシーは、Ⅰ(前期)とⅡ(後期)に区分される。 2. 共通テキストを使用して、日本語表現の基礎を学ぶ。 3. 漢字マスターを利用して2級程度の漢字が自在に使えるようにする。			
科目のキーワード			
①聴く ②読む ③書く ④日本語 ⑤ことばと文化 ⑥まとめる ⑦表現する ⑧伝える ⑨考える ⑩議論する			
到達目標			
大学の学習で必要な日本語能力を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。また漢字検定試験2級合格を目標とする。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	定義・分類の表現(1)	9	言葉の呼応
2	定義・分類の表現(2)	10	定型表現・慣用句
3	比較・対照の表現(1)	11	引用の表現(1)
4	比較・対照の表現(2)	12	引用の表現(2)
5	類義語の使い方	13	敬語
6	対義語の使い方	14	注意すべき敬語
7	列挙・順序・因果関係の表現(1)	15	四字熟語、仮名遣い・送り仮名の使い方
8	列挙・順序・因果関係の表現(2)		
評価方法	テスト		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	名古屋大学日本語表現研究会『書き込み式日本語表現ノート』(三弥井書店) 数研出版編集部『漢字能力検定5～2級対応級別漢字マスター』(数研出版)		
参考文献			
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	全学共通科目 日本語リテラシ
科目コード	H122
学年・期	1年・後期
授業科目名	日本語リテラシⅡ(留学生クラス)
単位数	1
授業形態	基礎演習
必修・選択	必修
前提とする科目	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である
関連資格	
担当教員名	文野峯子

カリキュラムの中での位置づけ

基礎教育を身に付けコース専門科目の準備

講義の目的

授業のテーマ

本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な日本語の能力を高めるために、基礎的な日本語表現技術を学ぶことを目的とする。

授業の概要

1. 日本語リテラシーは、Ⅰ(前期)とⅡ(後期)に区分される。  
 2. 中級文型およびN1レベルの文字語彙の習得と定着をめざす。  
 3. ニュース等を聴き取り、ノートをとること、概要を文章化する作業をとおして日本語能力を高める。

科目のキーワード

①聴く ②読む ③書く ④日本語 ⑤ことばと文化  
 ⑥まとめる ⑦表現する ⑧伝える ⑨考える ⑩議論する

到達目標

大学の学習に必要な日本語能力を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。また漢字検定試験2級合格を目標とする。

授業計画

回	主題	回	主題
1	文型の習得とキーワードを聴き取る	9	文型の習得と要約文の評価・検討
2	文型の習得とキーワードを聴き取る	10	文型の習得と要約文の作成
3	文型の習得と長い文章を聴き取る	11	文型の習得と要約文の評価・検討
4	文型の習得とニュースの要約を作成する	12	文型の習得と要約文の作成
5	文型の習得と要約文の評価・検討	13	文型の習得と要約文の評価・検討
6	文型の習得とニュースの要約を作成する	14	文型の習得と要約文の作成
7	文型の習得と要約文の評価・検討	15	文型の習得と要約文の評価・検討
8	文型の習得と新聞記事の要約を作成する		

評価方法

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	授業時に指示
参考文献	『どなたときどう使う日本語表現文型500』(アルク) 『日本語能力試験1級対策問題集—文法・文字・語彙の総仕上げ』(創拓社)
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	全学共通科目		
カリキュラムの中での位置づけ	グローバルな視野を養う基本とする。		
科目コード	A091		
講義の目的			
学年・期	1年～3年・前期		
授業科目名	海外大学単位互換科目B		
授業のテーマ	1. 「獲得型」学習。学生各自が、主体的かつ積極的に活動に参加し、知識・能力を獲得する。 2. 価値観や母語の異なる他者と共に学び合う活動を通して、他者理解だけでなく自己理解を深める。		
単位数	2		
授業の概要	この科目は、本学と海外の大学が結んだ単位互換協定にもとづいて実施される。本学の学生が当該科目を履修した場合、修得した科目の単位は2科目(2単位×2ヵ年=4単位)まで本学の「全学共通基礎科目」の科目として卒業要件単位に算入できる。		
授業形態			
必修・選択	自由選択		
科目のキーワード	①学生主体 ②協働学習 ③異文化交流 ④リーダーシップ		
前提とする科目			
到達目標			
展開科目			
関連資格	協働学習活動に主体的に活動に参加することを通して、広い視野、責任感、自主性、コミュニケーション力、リーダーシップ等社会人に求められる能力を身につける。		
担当教員名	文野・花井		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	掲示板立ち上げ、自己紹介	9	合宿研修5日目 フィールド調査 (夜)全体報告会 グループミーティング
2	研究テーマを決める 活動日程を決める 宿泊場所との連絡・下見	10	合宿研修6日目 発表会 送別会
3	グループ編成、グループ毎にスカイプミーティング開始(週1)	11	清掃、精算 移動(台湾の学生を見送る)
4	フィールド調査内容の決定・フィールドとの連絡 「菜」作成	12	報告書作成1
5	合宿研修1日目 歓迎会 グループ調査日程確認	13	報告書作成2
6	合宿研修2日目 フィールド調査 (夜)全体報告会 グループミーティング	14	報告書作成3 お礼状、報告書送付
7	合宿研修3日目 フィールド調査 (夜)全体報告会 グループミーティング	15	反省会
8	合宿研修4日目 フィールド調査 (夜)全体報告会 グループミーティング		
評価方法	準備期間の貢献度 10% グループ演習 25% 活動報告 25% 口頭発表 30% 報告書作成 10%		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	なし		
参考文献	各々のフィールドに関する文献		
実験・実習・教材費	活動フィールドや活動内容によって実費(数千円程度)が必要となる場合がある。(詳細は事前説明会で説明する。)		



科目目標			
学科	全学共通科目		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	A078		
グローバルな視野を養う基本とする。			
講義の目的			
学年・期	2年～3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	海外大学単位互換科目D		
海外における協働学習、研究			
単位数	1		
授業の概要	台湾の東海大学の授業を本学の学生が履修し単位を取得する。この活動は、事前(インターネットを利用した準備活動、事前勉強会)、集中授業期間(台湾をフィールドとしたフィールド調査・研究、研究成果発表)、事後(テレビ会議を利用した報告書作成)という3つの部分で構成される。台湾のどこを中心にフィールド調査・研究を行うかにより、台湾における活動内容は変わる。台湾の大学のキャンパスで授業に参加することもある。実際の活動は、日台混成のグループを中心に行う。活動中、日本の学生は東海大学の学生と寝食を共にするため、生活全体が協働作業となる。学生ひとりひとり、すべての部分に主体的に参加し、グループ内及び調査対象とするコミュニティの他者とコミュニケーションを密にとり、よい人間関係を構築することが活動の前提として求められる。		
必修・選択	自由選択		
科目のキーワード			
①学生主体 ②協働学習 ③異文化接触 ④海外生活体験			
前提とする科目			
到達目標			
展開科目			
関連資格			
1) 言語や文化が異なる他者とコミュニケーションや議論ができるようになる。 2) 自分を客観的にとらえ、社会に位置付けることができるようになる。 3) 他者との相互行為を通じて、学ぶ力を身に付ける。			
担当教員名	文野・花井		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	フェースブックで自己紹介	9	(台湾)合宿研修5日目 フィールド調査まとめ (夜)全体報告会 グループミーティング
2	研究テーマを決める	10	(台湾)合宿研修6日目 発表会 送別会
3	グループ編成、グループ毎にスカイプミーティング開始(週1) 全体テレビ会議	11	清掃、移動 帰国
4	フィールド調査内容の決定、国内のテーマに関連するフィールドの調査	12	報告書作成1(テレビ会議)
5	(台湾)合宿研修1日目 歓迎会 グループ調査日程確認	13	報告書作成2(テレビ会議)
6	(台湾)合宿研修2日目 フィールド調査 (夜)全体報告会 グループミーティング	14	報告書作成3(テレビ会議)
7	(台湾)合宿研修3日目 フィールド調査 (夜)全体報告会 グループミーティング	15	反省会(テレビ会議)
8	(台湾)合宿研修4日目 フィールド調査 (夜)全体報告会 グループミーティング		
評価方法	グループ演習 35% 口頭発表 30%	活動報告 25% 報告書作成 10%	
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	各フィールドに関する文献やWeb情報		
実験・実習・教材費	渡航費、活動費		

科目目標	
学科	全学共通科目 日本語リテラシ
科目コード	H123
学年・期	1年・前期
授業科目名	総合日本語 I
単位数	1
授業形態	基礎演習
必修・選択	留学生必修
前提とする科目	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である
関連資格	
担当教員名	文野峯子

カリキュラムの中での位置づけ

基礎教育を身に付けコース専門科目の準備

講義の目的

授業のテーマ

アカデミック用語の習得、指示を正確に聞き取る力の養成、伝わる話し方

授業の概要

文字語彙の拡充、聴解・報告・発表の練習など日本語力全般のブラッシュアップを行う。プロジェクトワークの授業では、印象的な自己紹介、自身の故郷や自文化を紹介する。故郷紹介は、パワーポイントを使って故郷の魅力をPRする。発表原稿作成により作文力を身につける。

科目のキーワード

①漢字語彙 ②聴解力 ③話す力 ④プロジェクトワーク

到達目標

アカデミック用語が含まれる講義が正確に聞き取れ理解できるようになる。自分のこと、身近なことを日本人にわかるように、説明できるようになる。CEFR外国語能力評価基準のB1レベルを目指す。

授業計画

回	主題	回	主題
1	聴くトレーニング3, 4 拗音、長音を含む語彙	9	聴くトレーニング レポート作成 故郷紹介 アウトライン作成
2	聴くトレーニング5, 6 濁音、半濁音を含む語彙、その他の語彙 自己紹介モデル文 評価	10	聴くトレーニング 日本社会 故郷紹介 PPT作成
3	聴くトレーニング 慣用表現 自己紹介文 作成	11	聴くトレーニング 日本経済 故郷紹介 読み原稿作成
4	聴くトレーニング 慣用表現 四字熟語 自己紹介文検討	12	聴くトレーニング 調査 故郷紹介 読み原稿検討
5	聴くトレーニング 留学生生活 自己紹介 発表練習	13	故郷紹介 発表練習
6	自己紹介 発表	14	故郷紹介 発表
7	聴くトレーニング 留学生生活 故郷紹介 モデル評価	15	故郷紹介 発表
8	聴くトレーニング インターネット 故郷紹介 資料探し		

評価方法 試験 及び 発表を総合的に評価

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	『聴くトレーニング 聴解・聴読解(応用編)』スリーエーネットワーク
参考文献	授業時に提示
実験・実習・教材費	なし

科目目標	
学科	全学共通科目 日本語リテラン
科目コード	H124
学年・期	1年・後期
授業科目名	総合日本語Ⅱ
単位数	1
授業形態	基礎演習
必修・選択	留学生必修
前提とする科目	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である
関連資格	
担当教員名	文野峯子
カリキュラムの中での位置づけ	
基礎教育を身に付けコース専門科目の準備	
講義の目的	
授業のテーマ	
アカデミック用語拡充、正確な文章、伝わる話し方	
授業の概要	
1. キーワード、メモをしながら重要事項を聞き取る練習。2. 不足する情報を予測したり補足したりして、報告文を聞き取る練習、2. メモを元に、聞き取った文を復元する練習、4. 自分の考えを相手に分かるように話す練習	
科目のキーワード	
①アカデミック語彙 ②正確な文 ③わかりやすい話し方	
到達目標	
アカデミック用語を使って文章が書けるようになる。自分の考えを相手に分かるように話すことができるようになる。CEFR外国語能力評価基準のB2レベルを目指す。	

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	聴くトレーニング パート2-1 推測しながら聴く1 メモを取りながら聴く	9	自分を語る(日本で驚いたこと)原案作成
2	聴くトレーニング 2-2 推測しながら聴く2 キーワードをもとに文章復元	10	自分を語る(日本で驚いたこと)発表・評価
3	聴くトレーニング 2-3 推測しながら聴く2 文完成	11	自分を語る(最近のニュース) ニュースを聞く
4	聴くトレーニング 2-4 文完成	12	自分を語る(最近のニュース)原案作成
5	聴くトレーニング 2-5 文完成	13	自分を語る(ニュース)発表・評価
6	聴くトレーニング 2-6 自分を語る(趣味) 原案作成	14	自分を語る(大学で学ぶことと将来)原案作成
7	聴くトレーニング 2-7 自分を語る(趣味) 話す練習	15	自分を語る(大学で学ぶことと将来)発表・評価
8	自分を語る(趣味)発表・評価		

評価方法	試験 及び 発表
------	----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	『聴くトレーニング(応用編)』スリーエーネットワーク
参考文献	授業時に指示
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	全学共通科目 キャリアデザイン		
科目コード	H141		
学年・期	1年・前期		
授業科目名	キャリアデザイン I		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	必修		
前提とする科目			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格			
担当教員名	川口・樋口		
カリキュラムの中での位置づけ			
基礎教育を身に付けコース専門科目の準備			
講義の目的			
授業のテーマ			
キャリアデザインとは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもある。社会が大きく転換している今、就職・進学を問わず、社会環境はめまぐるしく変化している。社会や自分を取り巻く環境をしっかりと見極め自分の将来についてイメージできるようになることを目標とする。			
授業の概要			
大学生として大切な学業に励むとともに、多様な経験を通じて「自分は将来どんな仕事に就き、どんな生き方をを目指すのか」を意識して4年間の学生生活を送るために必要な指針や目標を学ぶ。			
科目のキーワード			
①キャリア形成 ②自己理解 ③仕事理解 ④将来設計 ⑤キャリア選択 ⑥グローバルな視野 ⑦判断力 ⑧意思決定力			
到達目標			
大学入学の目的を整理し、卒業時になりたい自分をイメージし、そのために必要な行動がとれるようになることを目標とする。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	未来予想図
2	キャリアガイダンス	10	価値観分析
3	環境コース・経営コースについて	11	志向性分析
4	心理コース・日本研究コースについて	12	業界・職種研究
5	主体的なキャリア形成の必要性	13	企業研究
6	自分史作り	14	社会で求められる力
7	自己適性検査	15	卒業時になりたい自分
8	性格分析		
評価方法	授業の取り組み 50% 課題・演習 50%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	樋口貴子著『キャリアデザインの基礎』(株)キャリアデザイン *授業時に販売		
参考文献	授業時に指示		
実験・実習・教材費	なし *教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布		

科目目標		
学科	全学共通科目 キャリアデザイン	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	H141	基礎教育を身に付けコース専門科目の準備
学年・期	1年・前期	講義の目的
授業科目名	キャリアデザインⅠ (再履修者クラス)	授業のテーマ キャリアデザインとは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもある。社会が大きく転換している今、就職・進学を問わず、社会環境はめまぐるしく変化している。社会や自分を取り巻く環境をしっかりと見極め自分の将来についてイメージできるようになることを目標とする。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	大学生として大切な学業に励むとともに、多様な経験を通じて「自分は将来どんな仕事に就き、どんな生き方をを目指すのか」を意識して4年間の学生生活を送るために必要な指針や目標を学ぶ。
必修・選択	必修	科目のキーワード
前提とする科目		①キャリア形成 ②自己理解 ③仕事理解 ④将来設計 ⑤キャリア選択 ⑥グローバルな視野 ⑦判断力 ⑧意思決定力
展開科目	キャリアデザインⅡ ビジネスコミュニケーション	到達目標
関連資格		大学入学の目的を整理し、卒業時になりたい自分をイメージし、そのために必要な行動がとれるようになることを目標とする。
担当教員名	樋口・三井	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	主体的なキャリア形成の必要性	9	職種研究
2	自分史作り	10	企業研究
3	性格分析	11	21世紀に求められる人材像
4	社会経済の動向と雇用形態の多様化	12	プレゼンテーション準備①
5	未来予想図	13	プレゼンテーション準備②
6	価値観分析	14	プレゼンテーション発表
7	志向性分析	15	卒業時になりたい自分
8	業界研究		
評価方法	授業の取り組み 50% 課題・演習 50%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	樋口貴子著『キャリアデザインの基礎』(株)キャリアデザイン * 授業時に販売		
参考文献	授業時に指示		
実験・実習・教材費	なし * 教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布		

科目目標			
学科	全学共通科目 キャリアデザイン		
科目コード	H142		
学年・期	3年・前期		
授業科目名	ビジネスコミュニケーション		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	自由選択		
前提とする科目			
展開科目			
関連資格			
担当教員名	樋口・三井		
カリキュラムの中での位置づけ			
基礎教育を身に付けコース専門科目の準備			
講義の目的			
授業のテーマ			
将来、ビジネスパーソンとして社会で活躍するためには、専門知識や業務処理能力だけでなく、ビジネスを円滑に進めたりするうえで必要不可欠な「相手の話を正しく理解し、自分の意思を正しく伝達し表現する」といった意思疎通をはかるコミュニケーション能力が必要となる。本授業では、ビジネスコミュニケーション能力の基本から実際までを理解したうえで、実践的なスキルの習得する。			
授業の概要			
就職(採用選考)にあたって最も重視される「コミュニケーション能力」とは何かを理解したうえで、ビジネスシーンを想定したケーススタディやロールプレイングを通じて、実際の場面で活用できるビジネスコミュニケーションを身に付ける。			
科目のキーワード			
①コミュニケーション能力 ②情報伝達 ③意見主張 ④意見集約 ⑤プレゼンテーション ⑥社交性(社会的相互関係力) ⑦効果的な社会参加			
到達目標			
実践的なビジネスコミュニケーションスキルを身に付け、実際の場面で活用できることを目標とする。さらに、採用試験の一つであるグループディスカッションや面接にも応用できるスキルを身に付けることを目標とする。(就職希望者はぜひ受講してください。)			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ビジネスコミュニケーションとは	9	情報伝達のスキル
2	相手の尊重、人間関係の常識	10	意見主張のスキル
3	チームワーク	11	アサーショントレーニング
4	話し方と聞き方の基本	12	意見集約のスキル
5	ノンバーバルスキルとバーバルスキル	13	コンセンサストレーニング
6	効果的な話し方トレーニング	14	プレゼンテーションの企画、設計
7	質問のスキル	15	プレゼンテーションの実施
8	効果的な聞き方トレーニング		
評価方法	授業の取り組み 50% 課題・演習 50%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	樋口貴子著『就職スキル・コミュニケーションスキル』(有)キャリアサポーター *最初の授業時に販売		
参考文献	授業時に指示		
実験・実習・教材費	なし *教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布		

科目目標	
学科	全学共通科目 キャリアデザイン
科目コード	H143
学年・期	3年・後期
授業科目名	キャリア形成演習
単位数	1
授業形態	実習
必修・選択	自由選択
前提とする科目	
展開科目	
関連資格	
担当教員名	樋口・三井

カリキュラムの中での位置づけ

基礎教育を身に付けコース専門科目の準備

講義の目的

授業のテーマ

本格的な就職活動を控え、実践的な就職活動の対策として1泊2日の合宿形式で就職力の強化をはかる。

授業の概要

各種採用選考を模擬体験することにより、就職活動における自らの課題を明確にする。また、それを踏まえて今後どのように就職活動を進めていけばよいのかを体験的に学習する。

科目のキーワード

①キャリア形成 ②キャリア選択 ③将来設計 ④就職活動 ⑤社会への移行準備  
⑥判断力 ⑦意思決定力 ⑧効果的な社会参加

到達目標

自らの将来展望を明確化するとともに、その実現に向けて、今後の就職活動を主体的かつ自立的に進めることができる力を身に付けることを目標とする。

授業計画

回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	応募書類準備
2	最近の就職事情	10	履歴書作成①
3	採用側の本音	11	履歴書作成②
4	会社説明会	12	筆記試験対策
5	面接選考	13	模擬面接①
6	グループ討議①	14	模擬面接②
7	グループ討議②	15	今後の目標設定
8	面接マナー		

評価方法 授業の取り組み 50% 課題・演習 50%

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	大学指定「キャリアハンドブック&就職活動手帳」 *就職・進路相談室より配布
参考文献	授業時に指示
実験・実習・教材費	参加費5,000円(教材費・宿泊費・食費等を含む)

科目目標			
学科	全学共通科目 情報関係科目		
カリキュラムの中での位置づけ	基礎教育を身に付けコース専門科目の準備		
科目コード	H201		
講義の目的			
学年・期	1年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	情報実習 I		
情報技術を正確に効率よく活用するための基礎知識の習得や、実習を通してワープロソフト・表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基礎を学ぶと共に、メールやインターネットのマナーなどの基本的な情報リテラシーを学ぶ。			
単位数	1		
授業の概要			
授業形態	実習		
インターネットの使い方、メールの送受信、またその際に必要となるセキュリティやマナーなど、情報技術を活用する上で必須となる知識を学ぶ。ワード・エクセル・パワーポイントの操作を、実習を通して身に付ける。			
必修・選択	必修		
科目のキーワード			
①コンピュータ ②IT ③情報技術 ④情報リテラシー ⑤ワープロソフト ⑥表計算ソフト ⑦プレゼンテーションソフト ⑧メール ⑨インターネット			
前提とする科目			
到達目標			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格	ITパスポート		
講義に教科書を持って出席し、講義中に出される課題を作成・印刷できること。ワードでの文書作成能力として、文書作成と書式設定、表の作成と書式設定、図形描画を使い、作成・印刷できること。インターネットを使う上で知っておくべき事柄を理解すること。			
担当教員名	飛鷹・水谷		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	パソコン・ウィンドウズ基礎	9	ワードでのオブジェクトの作成
2	日本語入力	10	ワードでの図形描画とスマートアート
3	インターネット基礎	11	ワードとエクセルで差し込み印刷
4	インターネットの危険と倫理、メールの活用	12	ワードでのオブジェクトを効果的に使った文書
5	インターネット接続のしくみ	13	ワードの図形描画演習1
6	ワード基礎	14	ワードの図形描画演習2
7	ワードの書式設定と編集	15	ワード総合演習
8	ワードの作表		
評価方法	3回の小テストの点数の合計と、講義で出題する課題、授業態度での減点、出席点の合計で評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	「Windows 7対応30時間でマスターWord2010」(実教出版株式会社)、「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2014」(日経BP社)		
参考文献			
実験・実習・教材費			



科目目標			
学科	全学共通科目 情報関係科目		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	H202		
基礎教育を身に付けコース専門科目の準備			
講義の目的			
学年・期	1年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	情報実習 II		
情報技術を正確に効率よく活用するための基礎知識の習得や、実習を通して表計算ソフト・プレゼンテーションソフトの基礎を学ぶと共に、メールやインターネットのセキュリティや知的財産権などの情報リテラシーを学ぶ。			
単位数	1		
授業の概要			
授業形態	実習		
インターネットの使い方、メールの送受信、またその際に必要となるセキュリティやマナーなど、情報技術を活用する上で必須となる知識を学ぶ。エクセル・パワーポイントの操作を、実習を通して身に付ける。			
必修・選択	必修		
科目のキーワード			
①コンピュータ ②IT ③情報技術 ④情報リテラシー ⑤表計算ソフト ⑥プレゼンテーションソフト ⑦メール ⑧インターネット ⑨情報セキュリティ			
前提とする科目			
到達目標			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格	ITパスポート		
講義に教科書を持って出席し、講義中に出される課題を作成・印刷できること。エクセルを活用する能力として、表計算、グラフ作成、データベース的利用などができ、資料作成ができること。インターネットを使う上で知っておくべき事柄を理解すること。			
担当教員名	飛鷹・広田		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	パワーポイント基礎とインターネットについて	9	グラフ作成基礎
2	パワーポイント実践とインターネットセキュリティについて	10	グラフ作成応用
3	情報倫理とルール	11	データベースの活用
4	パワーポイント実習	12	関数応用
5	エクセル基礎	13	その他の関数
6	基本的な表計算	14	エクセル実践問題
7	絶対参照	15	ワードとの連携
8	IF関数		
評価方法	3回の小テストの点数の合計と、講義で出題する課題、授業態度での減点、出席点の合計で評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	「Windows 7対応30時間でマスターExcel2010」(実教出版株式会社)、「キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2014」(日経BP社)		
参考文献			
実験・実習・教材費			

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目		
カリキュラムの中での位置づけ	グローバルな見方を身につける為		
科目コード	H301		
講義の目的			
学年・期	1年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	英語 I		
英語で、ある程度身近な話題であれば複雑な内容のものでも理解でき、自分の興味関心のある分野について文章を作成することができ、説明することが出来るレベルことを目標とする			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
英語の基礎力に応じたクラス編成(授業の詳細は各クラス担当者から配布) 英語の3つの力(Listening, Reading, Speaking)を総合的に学ぶ。			
必修・選択	必修		
科目のキーワード			
①聴く ②読む ③書く ④表現する ⑤ことばと文化 ⑥語彙 ⑦グローバルな視野 ⑧コミュニケーション力			
前提とする科目			
到達目標			
展開科目			
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
①日常的なレベルでの会話を理解することができること ②標準的なレベルの英文を読んで理解することができること ③英語で意見や理由などを説明できること (ヨーロッパ言語共通参照枠B2レベル)			
担当教員名	岡・石上・白井		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	Listening Reading Speaking	9	Listening Reading Speaking
2	Listening Reading Speaking	10	Listening Reading Speaking
3	Listening Reading Speaking	11	Listening Reading Speaking
4	Listening Reading Speaking	12	Listening Reading Speaking
5	Listening Reading Speaking	13	Listening Reading Speaking
6	Listening Reading Speaking	14	Listening Reading Speaking
7	Listening Reading Speaking	15	Listening Reading Speaking
8	Listening Reading Speaking		
評価方法	期末試験		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	クラス指定の教科書		
参考文献			
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	全学共通科目 外国語科目
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	H302
講義の目的	グローバルな見方を身につける為
学年・期	1年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	英語Ⅱ
英語で、ある程度身近な話題であれば複雑な内容のものでも理解でき、自分の興味関心のある分野について文章を作成することができ、説明することが出来るレベルことを目標とする	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
英語の基礎力に応じたクラス編成(授業の詳細は各クラス担当者から配布) 英語の3つの力(Listening, Reading, Speaking)を総合的に学ぶ。	
必修・選択	必修
科目のキーワード	
①聴く ②読む ③書く ④表現する ⑤ことばと文化 ⑥語彙 ⑦グローバルな視野 ⑧コミュニケーション力	
前提とする科目	
到達目標	
展開科目	
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)
①日常的なレベルでの会話を理解することができること ②標準的なレベルの英文を読んで理解することができること ③英語で意見や理由などを説明できること(ヨーロッパ言語共通参照枠B1レベル)	
担当教員名	岡・石上・白井

授業計画			
回	主題	回	主題
1	Listening Reading Speaking	9	Listening Reading Speaking
2	Listening Reading Speaking	10	Listening Reading Speaking
3	Listening Reading Speaking	11	Listening Reading Speaking
4	Listening Reading Speaking	12	Listening Reading Speaking
5	Listening Reading Speaking	13	Listening Reading Speaking
6	Listening Reading Speaking	14	Listening Reading Speaking
7	Listening Reading Speaking	15	Listening Reading Speaking
8	Listening Reading Speaking		
評価方法	期末試験		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	クラス指定の教科書		
参考文献			
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目		
カリキュラムの中での位置づけ	グローバルな見方を身につける為		
科目コード	H303		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業科目名	英語Ⅲ		
授業のテーマ	この授業のテーマは、英語を通して世界を知ることです。英字新聞などに掲載された英文記事を読み、実用的な英語力を養います。英文の文と文の間の論理展開、段落と段落の論理展開、文全体の構造を考えながら精読しますので、もう一度しっかり英文を読みこなす力をつけたい学生には適しています。ゆっくり、ていねいな授業を行いますので、ぜひチャレンジしてください。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
授業の概要	毎回、さまざまな分野の英文を声にだして読み、文法・構文を理解しながら精読し、その英文を聴き、文と文、段落と段落の関係等について考えます。また、英語の授業ですので、重要な単語や構文を暗唱します。		
必修・選択	自由選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	①英字新聞を読む ②実用英語技能検定試験(英検)準1級およびTOEIC試験対策 ③英語を学習するだけでなく、英文を考える ④大学院入試対策、入社試験対策、さらに上の英語力を目指す学生にぴったり ⑤英文を精読する		
到達目標			
展開科目			
関連資格	実用英語技能検定試験(英検)準1級 教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
担当教員名	石上文正		
独力で英文記事を読むことができる英語力、実用英語技能検定試験準1級程度の英語力の育成を目指します。具体的には、英文を深く読みこなす力をつけ、さらに人前で声を出して読んだり、暗唱したりする訓練を通じて、コミュニケーション力を高めることが目標です。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	Chapter 1 国内政治	9	Chapter 3 外交・国際会議
2	Chapter 1 国内政治	10	Chapter 4 海外トピックス・文化
3	Chapter 1 国内政治	11	Chapter 4 海外トピックス・文化
4	Chapter 2 ビジネス	12	Chapter 4 海外トピックス・文化
5	Chapter 2 ビジネス	13	Chapter 5 軍事
6	Chapter 2 ビジネス	14	Chapter 5 軍事
7	Chapter 3 外交・国際会議	15	Chapter 5 軍事
8	Chapter 3 外交・国際会議		
評価方法	決められた英文の音読をすることが評価の最低条件で、評価は、期末の定期試験の成績によって行う。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『時事英語の総合演習 2014年度版』朝日出版社 1,500円＋消費税		
参考文献	英和中辞典程度のもの		
実験・実習・教材費			

科目目標	
学科	全学共通科目 外国語科目
カリキュラムの中での位置づけ	グローバルな見方を身につける為
科目コード	H304
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業科目名	英語Ⅳ
授業のテーマ	この授業のテーマは、英語を通して世界を知ることです。英字新聞などに掲載された英文記事を読み、実用的な英語力を養います。英文の文と文の間の論理展開、段落と段落の論理展開、文全体の構造を考えながら精読しますので、もう一度しっかり英文を読みこなす力をつけたい学生には適しています。ゆっくり、ていねいな授業を行いますので、ぜひチャレンジしてください。
単位数	2
授業の概要	毎週、さまざまな分野の英文を声にだして読み、文法・構文を理解しながら精読し、その英文を聴き、文と文、段落と段落の関係等について考えます。また、英語の授業ですので、重要な単語や構文を暗唱します。
授業形態	講義
必修・選択	自由選択
科目のキーワード	①新聞の英語を読む ②実用英語技能検定試験(英検)準1級およびTOEIC試験対策 ③英語を学習するだけでなく、英文を考える ④大学院入試対策、入社試験対策、さらに上の英語力を目指す学生にぴったり ⑤英文を精読する
前提とする科目	
到達目標	
展開科目	
関連資格	実用英語技能検定試験(英検)準1級 教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)
担当教員名	石上 文正
独力で英文記事を読むことができる英語力、実用英語技能検定試験準1級程度の英語力の育成を目指します。具体的には、英文を深く読みこなす力をつけ、さらに人前で声を出して読んだり、暗唱したりする訓練を通じて、コミュニケーション力を高めることが目標です。	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	Chapter 6 災害・気象	9	Chapter 8 環境・資源・エネルギー
2	Chapter 6 災害・気象	10	環境問題に関する自作プリント
3	Chapter 6 災害・気象	11	環境問題に関する自作プリント
4	Chapter 7 犯罪・司法	12	環境問題に関する自作プリント
5	Chapter 7 犯罪・司法	13	Chapter9 科学・医療
6	Chapter 7 犯罪・司法	14	Chapter9 科学・医療
7	Chapter 8 環境・資源・エネルギー	15	Chapter9 科学・医療
8	Chapter 8 環境・資源・エネルギー		

評価方法	決められた英文の音読をすることが評価の最低条件で、評価は、期末の定期試験の成績によって行う。
------	--

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	『時事英語の総合演習 2014年度版』 朝日出版社 1,500円＋消費税
参考文献	英和中辞典程度のもの
実験・実習・教材費	

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目		
科目コード	H305		
学年・期	3年・前期		
授業科目名	英語 V		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	自由選択		
前提とする科目			
展開科目			
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
担当教員名	白井恵三		
カリキュラムの中での位置づけ			
グローバルな見方を身につける為			
講義の目的			
授業のテーマ			
食と栄養をテーマとした英文を読み、読解力だけではなく、それについての一般知識とTOEIC等英語の資格試験において出題されるようになった専門用語を身につけます。			
授業の概要			
英文を読み、各文を構造的に解説します。また、本文で使用された有効な表現を確認し、また、ディクテーションをすることでリスニング力も強化します。			
科目のキーワード			
①読解力 ②文の構造 ③文法力 ④語彙力 ⑤リスニング力			
到達目標			
授業内容を十分に理解している。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	主要な栄養素	9	食の安全
2	健康補助食品	10	菜食主義
3	食物アレルギー	11	摂食障害
4	肥満の時限爆弾	12	健康的な日本料理の文化
5	クラッシュダイエット	13	食事と妊娠生活
6	糖尿病	14	ジェイミー・オリバーの「フィードミーベター」
7	食べ物	15	栄養士になる
8	食品の保存		
評価方法	期末試験(100%)による総合評価。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	Akiko Tsuda他著「健康生活に見る食育と栄養」南雲堂 1,700円		
参考文献			
実験・実習・教材費			

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目	カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	H306	グローバルな見方を身につける為	
学年・期	1年・前期	講義の目的	
授業科目名	英会話 I	授業のテーマ	
単位数	2	Each week we wil study a new topic and grammar point. Students will get the chance to listen to and use English in a natural way	
授業形態	演習	授業の概要	
必修・選択	自由選択	Students should be able to use English in a natural way. They will be required to speak and listen to English on a weekly basis.	
前提とする科目		科目のキーワード	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である	Speaking, listening, communication	
関連資格		到達目標	
担当教員名	ジェラルド・マクレラン	Students will be required to do pair work and group work in this class. They will, therefore, be required to speak and use English. Students will be monitored and will have to show improvement in order to pass the course	
授業計画			
回	主題	回	主題
1	Unit 1: Exchange students	9	Unit 5: Physical Appearance
2	Unit 1	10	Unit 5
3	Unit 2: Eating out	11	Unit 6: Jobs
4	Unit 2	12	Unit 6
5	Unit 3: Music	13	Unit 7: Personality
6	Unit 3	14	Unit 7
7	Unit 4: Activities	15	Review
8	Unit 4		
評価方法	Effort/ Participation: 30 % . Class Tests: 70 % . Students who DO NOT attend this class will fail.		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S		
学習目標を相応に達成している.....	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B		
学習目標の最低限は満たしている.....	C		
学習目標の最低限を満たしていない.....	D		
教科書	David Nunan, Go For it! Thomson,		
参考文献			
実験・実習・教材費	None		

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目		
科目コード	H307		
学年・期	1年・後期		
授業科目名	英会話Ⅱ		
単位数	2		
授業形態	演習		
必修・選択	自由選択		
前提とする科目			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格			
担当教員名	ジェラルド・マクレラン		
カリキュラムの中での位置づけ			
グローバルな見方を身につける為			
講義の目的			
授業のテーマ			
In this class students will be required to communicate in English. They will learn how to write simple sentences and to ask and answer questions.			
授業の概要			
We will cover the basic grammar points and students should become familiar using them.			
科目のキーワード			
Speaking, listening, communication			
到達目標			
The aim of this class is to allow students to use English in a natural way and to improve their communication skills			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	Unit 8: Weather	9	Unit 12: Fun and Fitness
2	Unit 8	10	Unit 12
3	Unit 9: Vacations	11	Unit 13: Health
4	Unit 9	12	Unit 14: Summer Plans
5	Unit 10: Buying Gifts	13	Unit 14
6	Unit 10	14	Unit 15: Getting Around
7	Unit 11: Rules	15	review
8	Unit 11		
評価方法	Effort/ Participation: 30% . Class Tests: 70% . Students who DO NOT attend this class will fail.		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	David Nunan, Go For it! Thomson,		
参考文献			
実験・実習・教材費	None		



科目目標	
学科	全学共通科目 外国語科目
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	H308
グローバルな見方を身につける為	
講義の目的	
学年・期	1年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	フランス語 I
現在フランス語が使われている地域とその歴史的経緯について概観し、フランス語を学ぶ意味について考える。フランス語を使ってコミュニケーションをとるとはどのようなことかについて考えを進め、コミュニケーションに必要な基礎知識(文法・語彙・表現)を学ぶ。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
フランス語の基礎を学びながら、フランス語とフランス文化の理解を深める。日常的に使われるきわめて簡単な表現を理解し、簡単な内容であればフランス語でやり取りができるところまで到達できるようにする。	
必修・選択	自由選択
科目のキーワード	
①聴く ②読む ③書く ④グローバルな視野 ⑤異文化理解	
前提とする科目	
到達目標	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)
「言語に関するヨーロッパ共通基準(CEF)」のA1(基礎レベル入門:くだけた言い回しや日常的な語句、および具体的な用件をすませるためによく使われる簡単な表現を理解し用いることができる)またはフランス語技能検定試験5級合格ラインに到達できること	
担当教員名	日比野雅彦

授業計画			
回	主題	回	主題
1	(1) ヨーロッパの中のフランス、フランスの文化	9	(9) カフェで
2	(2) フランスとフランス語、つづり字と発音のしくみ	10	形容詞の使い方
3	(3) 到着、あいさつ	11	電話をかける
4	(4) 名詞と基本表現	12	代名詞の使い方
5	(5) ホテルで	13	道を尋ねる
6	(6) 動詞の基礎(1)	14	パリの美術館
7	(7) ランデヴー	15	まとめ
8	(8) パリの人々、フランスの通貨		
評価方法	期末テスト		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	藤田裕二 著 『新・彼女は食いしん坊!』 朝日出版社、2,400円		
参考文献	『ロベール・クレム和辞典』(駿河台出版社)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『プログレッシブ仏和辞典』(小学館)、 『ディコム和辞典』(白水社)、『クラウン仏和辞典』(三省堂)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目		
カリキュラムの中での位置づけ	グローバルな見方を身につける為		
科目コード	H309		
講義の目的			
学年・期	1年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	ドイツ語 I		
ドイツ語文法の基礎を学び、基本的な単語・表現を記憶する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
会話調の短い簡明な文章でドイツ語への入門を導く教科書(全9課)に即し、ドイツ語文法の基礎知識の獲得を目指す。Iでは第4課終了までを扱う。目安として、1年後にBeethovenの第9交響曲のAn die Freude「歓喜に寄す」の歌詞を文法的に完全に理解しドイツ語的に歌えるように指導したい。			
必修・選択	自由選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	①ドイツ語 ②基礎 ③ドリル		
到達目標			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
ドイツ語の基礎文法と基本語彙の習得。受講者は、必ず予習をして出席すること。この作業なしで出席しても実力は上がらないし、評価も出来ない。			
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
担当教員名	伊藤利行		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	概論:ドイツ語の特徴と学習方法など	9	第2課-3
2	発音1	10	第3課-1
3	発音2	11	第3課-2
4	第1課-1	12	第3課-3
5	第1課-2	13	第4課-1
6	第1課-3	14	第4課-2
7	第2課-1	15	第4課-3
8	第2課-2		
評価方法	① 授業への参加態度(間違っても良いからあらかじめ見当をつけておく)。必ず予習して出席すること。 ② 宿題を課す。各課終了毎にテストを行う。 ③ 上記の幾つかの平常点の合計で行い学期末定期試験は原則行わない予定である。授業の進展上、最終課のテスト時間が確保できない場合のみ、定期試験期間中に当該課のテストを行う事がある。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『はじめようドイツ語』(郁文堂)ISBN 978-4-261-01217-0 ¥2,500+税		
参考文献	＜参考書＞:(一)応次のものを挙げておく(常木実『標準ドイツ語』(郁文堂)¥2,500<推薦辞書>:(このほかにあるが、一応次のものを推薦する。学習意欲に応じて選択のこと) a) 中級以上のドイツ語までやる気のある人には、『郁文堂独和辞典』第2版(郁文堂)¥4,200[語彙数11万語] b) 入門・初級程度で終わるつもりの人には、『新キャンパス独和辞典』(郁文堂)¥3,000[語彙数2万3千語] c) どちらか迷っている人には、『クラウン独和辞典』第3版(三省堂)¥4,100[語彙数6万4000語]や『アクセス独和辞典』第3版(三修社)¥4,100[語彙数7万3500語]や『フロイデ独和辞典』(白水社)¥4,000[語彙数7万5千語]など		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	全学共通科目 外国語科目	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	H310	グローバルな見方を身につける為
学年・期	1年・前期	講義の目的
授業科目名	中国語 I	授業のテーマ
単位数	2	初めて中国語を学ぶ人を対象とした入門講座。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	自由選択	①ピンインと簡体字を習得する。②基礎的な文法事項を学び、それらを用いた表現を練習する。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である。	①動詞述語文 ②形容詞述語文 ③疑問文 ④人称代名詞 ⑤指示代名詞 ⑥時間詞 ⑦助動詞 ⑧介詞(前置詞)
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)	到達目標
担当教員名	渡 昌弘	①ピンインを正しく発音できる。②教科書収録の重要な表現が読み書きできる。

授業計画

回	主題	回	主題
1	発音	9	時間詞と時刻
2	人称代名詞、「是」の用法	10	アスペクト助詞
3	「的」の用法、名前について	11	選択疑問文
4	動詞述語文、疑問詞	12	副詞「都」、助動詞「想」
5	副詞「也」	13	反復疑問文、意志表示
6	場所を示す指示代名詞	14	前置詞「在」、助動詞「能」「会」
7	形容詞述語文、量詞	15	まとめ
8	連動文、指示代名詞		

評価方法	期末試験。
------	-------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	竹島金吾監修 最新2訂版『中国語はじめての一步』、白水社、2,200円(税別)
参考文献	辞書などは授業内で紹介する。
実験・実習・教材費	なし。

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目		
カリキュラムの中での位置づけ	グローバルな見方を身につける為		
科目コード	H311		
講義の目的			
学年・期	1年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	フランス語Ⅱ		
授業の概要	現在フランス語が使われている地域とその歴史的経緯について概観し、フランス語を学ぶ意味について考える。フランス語を使ってコミュニケーションをとるとはどのようなことかについて考えを進め、コミュニケーションに必要な基礎知識(文法・語彙・表現)を学ぶ。		
単位数	2		
授業の概要	フランス語の基礎を学びながら、フランス語とフランス文化の理解を深める。日常的に使われるきわめて簡単な表現を理解し、簡単な内容であればフランス語でやり取りができるところまで到達できるようにする。		
授業形態	講義		
科目のキーワード			
必修・選択	自由選択		
①聴く ②読む ③書く ④グローバルな視野 ⑤異文化理解			
前提とする科目	フランス語Ⅰ		
到達目標			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
「言語に関するヨーロッパ共通基準(CEF)」のA1(基礎レベル入門:くだけた言い回しや日常的な語句、および具体的な用件をすませるためによく使われる簡単な表現を理解し用いることができる)またはフランス語技能検定試験5級合格ラインに到達できること			
担当教員名	日比野雅彦		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	前期の確認事項	9	サッカーを見に行く
2	買い物をする	10	代名動詞
3	パリの中の日本	11	旅の話
4	食べ物の表現	12	別れ
5	目的語の代名詞	13	フランス語の検定試験にチャレンジ(1)
6	デパートで	14	フランス語の検定試験にチャレンジ(2)
7	過去の表現	15	まとめ、フランス語のステップアップには
8	友達を広げる表現		
評価方法	期末テスト		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	藤田裕二 著 『新・彼女は食いしん坊!』 朝日出版社、2,400円		
参考文献	『ロベール・クレム和辞典』(駿河台出版社)、『プチ・ロワイヤル和辞典』(旺文社)、 『プログレッシブ和辞典』(小学館)、『ディコム和辞典』(白水社)、『クラウン和辞典』(三省堂)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	全学共通科目 外国語科目
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	H312
グローバルな見方を身につける為	
講義の目的	
学年・期	1年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	ドイツ語Ⅱ
ドイツ語文法の基礎を学び、基本的な単語・表現を記憶する。	
単位数	2
授業の概要	
ドイツ語Ⅰの続きであるので、ドイツ語Ⅰを単位習得済みであることが受講の前提となる。	
授業形態	講義
会話調の短い簡明な文章でドイツ語への入門を導く教科書(全9課)に即し、ドイツ語文法の基礎知識の獲得を目指す。第5課から第9課までを扱う。	
必修・選択	自由選択
科目のキーワード	
①ドイツ語 ②基礎 ③ドリル	
前提とする科目	ドイツ語Ⅰ
到達目標	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)
ドイツ語の基礎文法と基本語彙の習得。受講者は、必ず予習をして出席すること。この作業なしで出席しても実力は上がらないし、評価も出来ない。	
担当教員名	伊藤利行

授業計画

回	主題	回	主題
1	第5課-1	9	第7課-3
2	第5課-2	10	第8課-1
3	第5課-3	11	第8課-2
4	第6課-1	12	第8課-3
5	第6課-2	13	第9課-1
6	第6課-3	14	第9課-2
7	第7課-1	15	第9課-3
8	第7課-2		

評価方法	① 授業への参加態度(間違っても良いからあらかじめ見当をつけておく)。必ず予習して出席すること。 ② 宿題を課す。各課終了毎にテストを行う。 ③ 上記の幾つかの平常点の合計で行い学期末定期試験は原則行わない予定である。授業の進展上、最終課のテスト時間が確保できない場合のみ、定期試験期間中に当該課のテストを行う事がある。
------	--

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	『はじめようドイツ語』(郁文堂)ISBN 978-4-261-01217-0 ¥2,500+税
-----	---

参考文献	<参考書>:(一)応次のものを挙げておく常木実『標準ドイツ語』(郁文堂)¥2,500 <推薦辞書>:(このほかにもあるが、一応次のものを推薦する。学習意欲に応じて選択のこと) a) 中級以上のドイツ語までやる気のある人には、『郁文堂独和辞典』第2版(郁文堂)¥4,200[語彙数11万語] b) 入門・初級程度で終わるつもりの人には、『新キャンパス独和辞典』(郁文堂)¥3,000[語彙数2万3千語] c) どちらか迷っている人には、『クラウン独和辞典』第3版(三省堂)¥4,100[語彙数6万4000語]や『アクセス独和辞典』第3版(三省堂)¥4,100[語彙数7万3500語]や『フロイデ独和辞典』(白水社)¥4,000[語彙数7万5千語]など
------	--

実験・実習・教材費	なし
-----------	----

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目		
科目コード	H313		
学年・期	1年・後期		
授業科目名	中国語Ⅱ		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	自由選択		
前提とする科目			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
担当教員名	渡 昌弘		
カリキュラムの中での位置づけ			
グローバルな見方を身につける為			
講義の目的			
授業のテーマ			
「中国語Ⅰ」に続き、初めて中国語を学ぶ人を対象とする。			
授業の概要			
①ピンインと簡体字を習得する。 ②基礎的な文法事項を学び、それらを用いた表現を練習する。			
科目のキーワード			
①二重目的語の文 ②「是～的」構文 ③比較構文 ④使役文 ⑤「把」構文 ⑥助動詞 ⑦アスペクト助詞 ⑧補語			
到達目標			
①ピンインを正しく発音できる。 ②教科書収録の重要な表現が読み書きできる。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	年月日・曜日、時間量	9	禁止の表現
2	助動詞「打算」「要」	10	方位詞、変化の「了」
3	動作の回数・順番	11	「是～的」構文
4	二重目的語の文	12	接続詞の用法
5	アスペクト助詞「着」、動詞の重ね型	13	使役文
6	程度副詞	14	「把」構文
7	結果補語、方向補語	15	まとめ
8	「比」を用いた比較構文		
評価方法	期末試験。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	中国語Ⅰで使用したテキストの残りの部分。		
参考文献	辞書などは授業内で紹介する。		
実験・実習・教材費	なし。		

科目目標	
学科	全学共通科目 外国語科目
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	H314
グローバルな見方を身につける為	
講義の目的	
学年・期	2年～4年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	上級日本語 I
論説文を限られた時間内に正確に読み取る力の養成、アカデミックな用語、漢字語の習得・拡充、正しい日本語の使い方の習得	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
新聞や日本語能力試験に出題された論説文等を制限時間内に読む。日本語能力試験の語彙・文法問題を担当を決めて予習し発表する。毎回の小テストは学生が担当を決めて作成し、解説も行う。	
必修・選択	自由選択
科目のキーワード	
前提とする科目	「総合日本語Ⅱ」でA以上の成績の者あるいはそれと同等の日本語力があると認められた者
①語彙力 ②読解力 ③日本語能力試験N1	
到達目標	
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である
関連資格	
留学生は、日本語能力試験N1が求める語彙力、文法力、読解力を身につけることを目標とする。日本人学生は、論説文を正確に読み取る力、正しい日本語の使い方ができるようになることを目標とする。	
担当教員名	文野峯子

授業計画			
回	主題	回	主題
1	日本語能力試験過去問題・練習問題 文字語彙	9	日本語能力試験過去問題・練習問題 読解、文法7
2	日本語能力試験過去問題・練習問題 文字語彙	10	新聞を読み要旨をとる1
3	読むトレーニング: 中心文を探す 文法1	11	新聞を読み要旨をとる2
4	読むトレーニング: 中心文を探す2 文法2	12	新聞を読み要旨をとる3
5	日本語能力試験過去問題・練習問題 読解、文法3	13	新聞を読み要旨をとる4
6	日本語能力試験過去問題・練習問題 読解、文法4	14	新聞を読み要旨をとる5
7	日本語能力試験過去問題・練習問題 読解、文法5	15	新聞を読み要旨をとる6
8	日本語能力試験過去問題・練習問題 読解、文法6		
評価方法	試験		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	特に指定しない。		
参考文献	『日本語能力試験直前対策N1文字・語彙・文法』『どなたときどう使う日本語表現文型辞典』アルク 『留学生の日本語 3 論文読解編』アカデミック研究会		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	全学共通科目 外国語科目		
カリキュラムの中での位置づけ	グローバルな見方を身につける為		
科目コード	H315		
講義の目的			
学年・期	2年～4年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	上級日本語Ⅱ		
日本で就職するために必要な知識および日本語能力を身につける。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
就職情報誌を読み、日本企業が求める人材・能力を理解する。志望理由書を書く。面接の準備をする。			
必修・選択	自由選択		
科目のキーワード			
前提とする科目			
①就職活動 ②志望理由書 ③就職面接			
到達目標			
展開科目	当科目は専門科目を受講する前の基礎科目である		
就職活動に必要な基礎的な知識、日本語能力を身につける。			
関連資格			
1. 日本企業が求める人材・能力を理解する。 2. 志望理由書が書ける。 3. 面接で日本企業に受け入れられる応答ができる。			
担当教員名	文野峯子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	求められる能力を読み取る1 先輩の体験談を読む	9	想定質問に答える1 答えを考える
2	求められる能力を読み取る2 就職情報誌を読む	10	想定質問に答える2 答えの内容を検討する
3	自己分析・自己診断 必要な能力、不足する能力を明確にする	11	想定質問に答える3 面接練習
4	志望理由書 モデルを分析的に読む	12	想定質問に答える4 答え案を考える
5	志望理由書 モデルに習って自分の志望理由書を作成する	13	想定質問に答える5 答え案を検討する
6	志望理由書 検討	14	想定質問に答える6 練習
7	面接について知る 質問内容、答え方、留意点	15	模擬面接
8	日本企業研究 先輩の就職先を調べる 仕事内容をまとめる		
評価方法	試験 及び 提出物		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	特になし		
参考文献	『外国人留学生のための日本就職オールガイド』凡人社『新・外国人留学生のための面接』凡人社		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	2年次生:全学共通科目 3年次生:歴史・文化環境専攻 日本研究コース(華道)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	D312	日本の伝統文化に関する科目
学年・期	2年・前期	講義の目的
授業科目名	華道史A	授業のテーマ
単位数	2	・「いけばな」の発生から今日までの変遷を知る。 ・中国挿花と「日本いけばな」の関係を知る。 ・伝統文化の一つである「いけばな」が果たしてきた役割を知る。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	2年次生:卒業要件単位算入不可 3年次生:自由選択	・華道史年表にそって、時代時代の流れを知るとともに時代ごとの作品(デモ)に触れる。 ・花器と花材の変遷とともに、花形の変化、飾る場所の変化を知る。 ・レポートを提出することにより、より深い知識を身につける。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目		①室町期のたてばなを見てみよう。 ②江戸初期の立花を見てみよう。 ③京都研修旅行により時代を感じてみよう。
関連資格		到達目標
担当教員名	三浦友馨	・いけばなの歴史をとらえて日本の伝統文化を知る。

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	いけばな前史 日本古代	9	室町前期の"花"
2	いけばな前史 日本古代	10	いけばなの発生
3	いけばな前史 日本奈良平安	11	いけばなの発生
4	いけばな前史 中日とのかかわり	12	室町期後期のいけばな
5	いけばな前史 中日とのかかわり	13	室町期後期のいけばな
6	鎌倉期の"花"	14	江戸前期のいけばな
7	鎌倉期の"花"	15	江戸前期のいけばな
8	室町期 前期の花		

評価方法	レポートによる評価 100%
------	----------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	華道史年表(日本華道社発行)
参考文献	なし
実験・実習・教材費	0

科目目標			
学科	2年次生:全学共通科目 3年次生:歴史・文化環境専攻 日本研究コース(華道)		
カリキュラムの中での位置づけ	日本の伝統文化に関する科目		
科目コード	D313		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業科目名	華道史B		
授業のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いけばな」の発生から今日までの変遷を知る。</li> <li>・中国挿花と「日本いけばな」の関係を知る。</li> <li>・伝統文化の一つである「いけばな」が果たしてきた役割を知る。</li> <li>・京都研修旅行により、実物に触れたりして「いけばな」に接近してみる。</li> </ul>		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
科目のキーワード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポートを提出することにより、より深い知識を身につける。</li> <li>・京都研修旅行の計画・実施を通じ、より深い理解を得る。</li> </ul>		
必修・選択	2年次生:卒業要件単位算入不可 3年次生:自由選択		
前提とする科目			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>①室町期のたてばなを見てみよう。</li> <li>②江戸初期の立花を見てみよう。</li> <li>③京都研修旅行により時代を感じてみよう。</li> <li>④池坊 550 年祭の行事に参加し、時代の流れを実感してみよう。</li> </ul>		
展開科目			
関連資格			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いけばなの歴史をとらえて日本の伝統文化を知る。</li> </ul>		
担当教員名	三浦友馨		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	江戸中期のいけばな	9	京都研修
2	江戸中期のいけばな	10	京都研修
3	江戸中期のいけばな	11	京都研修
4	江戸後期のいけばな	12	京都研修
5	江戸後期のいけばな	13	京都研修
6	明治期から現代のいけばな	14	京都研修
7	明治期から現代のいけばな	15	京都研修の総括
8	京都研修について		
評価方法	レポートによる評価 100%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	華道史年表(日本華道社発行)		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし 京都研修旅行(11/15,16)…現地集合現地解散、交通費・宿泊費は各自負担、入館料 3,000 円程となります。		

科目目標			
学科	2年次生:全学共通科目 3年次生:歴史・文化環境専攻 日本研究コース(華道)		
カリキュラムの中での位置づけ	日本の伝統文化に関する科目		
科目コード	D329		
講義の目的			
学年・期	2年・通年		
授業のテーマ			
授業科目名	2年次生:華道実習(生花) 3年次生:華道実習IA(生花)		
授業の概要	日本伝統文化のいけ花(生花)を習得する。		
単位数	2年次生:2 3年次生:(1)		
授業形態	実習		
四季の植物の美しい姿を一瓶の中に生ける。			
必修・選択	2年次生:卒業要件単位算入不可 3年次生:自由選択		
科目のキーワード	①四季の植物の名前・出生を覚える		
前提とする科目			
到達目標			
展開科目			
関連資格	①生花の構成から自然の世界に目を向ける。植物を生かして生けられる様にする。 ②出席日数により池坊から学生価格で免許状を取得。		
担当教員名	加藤碧玻		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	デモンストレーション	16	生花二種生 実習、構成
2	生花一種生 役枝(三儀)の説明	17	生花二種生 実習、構成
3	生花一種生 役枝(三儀) + 構成の説明	18	生花二種生 実習、構成
4	生花一種生 役枝(三儀) + 構成の説明	19	生花二種生 実習、構成
5	生花一種生 役枝(三儀) + 構成 + あしらいの説明	20	生花二種生 実習、構成
6	生花一種生 5本生	21	生花二種生 実習、構成
7	生花一種生 5本生	22	生花二種生 実習、構成
8	生花一種生 5本生	23	生花二種生 実習、構成
9	生花一種生 5本生	24	生花二種生 実習、構成
10	生花一種生 7本生	25	生花二種生 実習、構成
11	生花一種生 7本生	26	生花二種生 実習、構成
12	生花一種生 7本生	27	生花二種生 実習、構成
13	生花一種生 9本生	28	一種生 特殊生
14	生花一種生 9本生	29	一種生 特殊生
15	生花一種生 9本生	30	正月花
評価方法	出席率と態度、実習作品を評価		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	必要に応じてコピーを配布		
実験・実習・教材費	26,040円(「生花」花代@840×30回分+@840正月花)、道具を持っていない場合は、別途道具代が必要(約3,100円)		

科目目標		
学科	2年次生:全学共通科目 3年次生:歴史・文化環境専攻 日本研究コース(華道)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	D330	日本の伝統文化に関する科目
学年・期	2年・通年	講義の目的
授業科目名	2年次生:華道実習(自由花) 3年次生:華道実習IB(自由花)	授業のテーマ
単位数	2年次生:2 3年次生:(1)	授業の概要
授業形態	実習	植物の特徴を見つけ出し、それを生かして生ける。
必修・選択	2年次生:卒業要件単位算入不可 3年次生:自由選択	科目のキーワード
前提とする科目		①線、面、点、マッス ②たて、ななめ、よこ ③基本形を学ぶ
展開科目		到達目標
関連資格		・自由花の基本を学び、次へのステップアップを計る。 ・出席日数により(テキストの後に)スタンプを押す。 ・出席日数により池坊の免許状を学生価格にて取得できます。
担当教員名	加藤碧玻	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	デモンストレーション	16	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
2	基本 植物の特徴を見つけ出す	17	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
3	基本 植物の特徴を見つけ出す	18	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
4	基本 植物の特徴から線、面、点、マッスに分類	19	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
5	基本 植物の特徴から線、面、点、マッスに分類	20	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
6	基本 植物の特徴から線、面、点、マッスに分類	21	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
7	基本 植物の特徴から線、面、点、マッスに分類	22	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
8	基本 構成(たて、ななめ、よこ)	23	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
9	基本 構成(たて、ななめ、よこ)	24	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
10	基本 構成(たて、ななめ、よこ)	25	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
11	基本 構成(たて、ななめ、よこ)	26	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
12	基本 挿し口の変化	27	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
13	基本 挿し口の変化	28	植物の特徴を生かした自由花48種の生け方
14	基本 挿し口の変化	29	クリスマス花
15	基本 挿し口の変化	30	正月花
評価方法	出席率と授業態度、実習作品を評価		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	自由花入門テキスト		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	26,880円(「自由花」花代@840×30回分+@840×2回分 正月花、クリスマス花)、道具を持っていない場合は、別途道具代が必要(約3,100円)		

科目目標			
学科	3年次生:歴史・文化環境専攻 日本研究コース(華道)		
科目コード	D331		
学年・期	3年・通年		
授業科目名	華道実習IIA(生花)		
単位数	3年次生:(1)		
授業形態	実習		
必修・選択	3年次生:自由選択		
前提とする科目			
展開科目			
関連資格			
担当教員名	加藤碧玻		
カリキュラムの中での位置づけ			
日本の伝統文化に関する科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
五百余年続いて来た池坊のいけ花(生花)を習得する。			
授業の概要			
一木一草の命の営みを観察し、草木の出生を尋ね、生花の形の中で生かす。			
科目のキーワード			
①出生を生かす一種生 ②調和美を見出す二種生 ③融合調和美の三種生 ④草木の姿を生かして生ける新風体を勉強			
到達目標			
①四季折節に咲く草木が雨露風雪に耐えて、気象のかすかな変化に微妙に反応する姿を花瓶に生ける。 ②出席日数により池坊の免許状を学生価格にて取得			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	デモンストレーション	16	三種生
2	一種生	17	三種生
3	一種生	18	三種生と新風体のちがい
4	一種生	19	三種生と新風体のちがい
5	二種生	20	新風体
6	二種生	21	新風体
7	二種生	22	新風体
8	二種生	23	新風体
9	二種生	24	新風体
10	二種生	25	新風体
11	三種生	26	新風体
12	三種生	27	新風体
13	三種生	28	特殊生一種生
14	三種生	29	特殊生一種生
15	三種生	30	正月花
評価方法	出席率と授業態度、実習作品を評価		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	必要に応じてコピーを配布		
実験・実習・教材費	26,040円(「生花」花代@840×30回分+@840正月花)		

科目目標			
学科	3年次生:歴史・文化環境専攻 日本研究コース(華道)		
カリキュラムの中での位置づけ	日本の伝統文化に関する科目		
科目コード	D332		
講義の目的			
学年・期	3年・通年		
授業のテーマ	形式のない自由花で自分の思い、感情等を見た人に伝える。		
授業科目名	華道実習IIB(自由花)		
授業の概要			
単位数	3年次生:(1)		
授業形態	実習		
入門テキスト付の花器を使い表現方法を増し、変化型の花器を使いより一層表現内容を豊かにする。			
必修・選択	3年次生:自由選択		
科目のキーワード	①色彩、形、方向等の組合せ ②花器との調和を学ぶ		
前提とする科目			
到達目標			
展開科目			
関連資格	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の表現しようとする感情を色と形、方向を加えてあらわす。</li> <li>植物の特徴を見つけ出す目を養う。</li> <li>出席日数によって池坊の免許状を学生価格に取得する事ができます。</li> </ul>		
担当教員名	加藤碧玻		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	デモンストレーション	16	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
2	基本の生け方	17	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
3	基本の生け方	18	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
4	基本の生け方	19	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
5	入門テキスト用花器を使って応用に入る	20	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
6	入門テキスト用花器を使って応用に入る	21	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
7	入門テキスト用花器を使って応用に入る	22	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
8	入門テキスト用花器を使って応用に入る	23	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
9	入門テキスト用花器を使って応用に入る	24	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
10	入門テキスト用花器を使って応用に入る	25	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
11	入門テキスト用花器を使って応用に入る	26	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
12	入門テキスト用花器を使って応用に入る	27	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
13	自由に花器を選び鑑賞花を生ける	28	自由に花器を選び鑑賞花を生ける
14	自由に花器を選び鑑賞花を生ける	29	クリスマス花
15	自由に花器を選び鑑賞花を生ける	30	正月花
評価方法	出席日数と授業態度、実習作品を評価		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	26,880円(「自由花」花代@840×30回分 + @840×2回分 正月花、クリスマス花)		

科目目標		
学科	2年次生:全学共通科目 3年次生:歴史・文化環境専攻 日本研究コース(茶道)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	D325	日本の伝統文化に関する科目
学年・期	2年・通年	講義の目的
授業科目名	茶道実習 I	授業のテーマ
単位数	2	「座礼の日本文化である茶道を通して主客の心を学ぶ」
授業形態	実習	授業の概要
必修・選択	2年次生:卒業要件単位算入不可 3年次生:自由選択	点前の規律正しさ、節度ある人との対応の仕方、人間としての本来の姿を養うことを目的とする。 亭主と客の動作の実習を通して茶道の真の相を学び、和敬清寂の茶道精神を体得し、人に対しても物に対しても気配りのできる感性豊かな人間形成を目指す。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目		①和敬清寂 ②薄茶 ③盆略点前 ④床の間
関連資格		到達目標
担当教員名	神谷昇司	茶道の基本である盆略点前とび薄茶平点前を習得する。茶道文化検定を受験して茶道力を養う。

授業計画															
回	主題	回	主題												
1	襖のあけしめ、お辞儀の仕方、お菓子、お茶のいただき方	16	風炉運び点前												
2	ふくさの扱い方、割稽古	17	風炉運び点前												
3	ふくさの扱い方、割稽古	18	風炉運び点前												
4	席入りの仕方、床の拝見	19	風炉運び点前												
5	盆略点前	20	風炉運び点前												
6	盆略点前	21	風炉運び点前												
7	盆略点前	22	風炉運び点前												
8	盆略点前	23	風炉運び点前												
9	柄杓の扱い方	24	炉運び点前												
10	柄杓の扱い方	25	炉運び点前												
11	風炉 薄茶 平点前	26	炉運び点前												
12	風炉 薄茶 平点前	27	炉運び点前												
13	風炉 薄茶 平点前	28	炉運び点前												
14	風炉 薄茶 平点前	29	炉運び点前												
15	柏露軒茶会	30	柏露軒茶会												
評価方法	授業への取り組みを重視。申請によって裏千家初級の資格(入門・小習・茶箱の許状)が取得できます。														
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価基準</th> <th>評語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習目標をほぼ完全に達成している……………</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成している……………</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限は満たしている……………</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限を満たしていない……………</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table>			評価基準	評語	学習目標をほぼ完全に達成している……………	S	学習目標を相応に達成している……………	A	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B	学習目標の最低限は満たしている……………	C	学習目標の最低限を満たしていない……………	D
評価基準	評語														
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S														
学習目標を相応に達成している……………	A														
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B														
学習目標の最低限は満たしている……………	C														
学習目標の最低限を満たしていない……………	D														
教科書	『裏千家茶道』(財団法人今日庵発行/900円)裏千家茶道文化検定3・4級用(1,260円)														
参考文献															
実験・実習・教材費	10,000円(抹茶・菓子代、消耗品費)道具を持っていない場合は別途道具代が必要														

科目目標			
学科	2年次生:全学共通科目 3年次生:歴史・文化環境専攻 日本研究コース(茶道)		
カリキュラムの中での位置づけ	日本の伝統文化に関する科目		
科目コード	D326		
講義の目的			
学年・期	3年・通年		
授業のテーマ			
授業科目名	茶道実習Ⅱ		
「茶道の作法を通して日本文化の心を学ぶ」 棚薄茶点前及び風炉濃茶点前、また茶箱点前を習得致します。			
単位数	2		
授業の概要			
実習Ⅰに引続き実習Ⅱでは、風炉濃茶点前・炉薄茶(はこび・棚)の実習を致します。 履修者には茶通箱・唐物・台天目の裏千家許状取得の資格が得られます。なお、茶通箱・唐物・台天目・盆点・和巾についてはその内容についての説明と点前・盆点・和巾についてはその内容についての説明と点前・盆点・和巾手順を解説いたします。			
授業形態	実習		
必修・選択	2年次生:卒業要件単位算入不可 3年次生:自由選択		
科目のキーワード			
①風炉と炉 ②平点前 ③茶箱			
前提とする科目			
到達目標			
展開科目			
関連資格			
棚薄茶点前及び風炉濃茶点前、また茶箱点前を習得する。また茶道文化検定を受検して茶道力を養う。			
担当教員名	神谷昇司		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	風炉 薄茶 運び平点前	16	炉 薄茶 運び平点前
2	風炉 薄茶 運び平点前	17	炉 薄茶 運び平点前
3	風炉 薄茶 運び平点前	18	炉 薄茶 運び平点前
4	風炉 薄茶 運び平点前 拝見	19	炉 薄茶 運び平点前 拝見
5	風炉 薄茶 運び平点前 拝見	20	炉 薄茶 運び平点前 拝見
6	風炉 薄茶 棚平点前	21	炉 薄茶 棚平点前
7	風炉 薄茶 棚平点前	22	炉 薄茶 棚平点前
8	風炉 薄茶 棚平点前 拝見	23	炉 薄茶 棚平点前 拝見
9	風炉 薄茶 棚平点前 拝見 風炉 濃茶 割けい古	24	炉 薄茶 棚平点前 拝見 炉 濃茶 割けい古
10	風炉 濃茶 割けい古	25	炉 濃茶 割けい古
11	濃茶における客の作法	26	濃茶における客の作法
12	濃茶における客の作法	27	濃茶における客の作法
13	風炉 濃茶 運び点前	28	炉 濃茶 運び点前
14	風炉 濃茶 運び点前	29	炉 濃茶 運び点前
15	柏露軒茶会	30	柏露軒茶会
評価方法	授業への取り組みを重視。 「ことば」「四規七則」「利休道歌」「歴代家元」等暗誦の為の小テスト		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『裏千家茶道』(財団法人今日庵発行/900円)裏千家茶道文化検定3・4級用(1,260円)		
参考文献	『茶道教本 風炉』(淡交社/1,200円+税)『茶道教本 炉』(淡交社/1,200円+税)		
実験・実習・教材費	10,000円(抹茶・菓子代、消耗品費)		



科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 環境コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	I101	地球環境を保全する意義を学ぶ科目
学年・期	1年・前期	講義の目的
授業科目名	地球環境問題概説	授業のテーマ 環境問題は“Think globally, Act locally”(地球規模で考え、身近なところから行動せよ)と言われるように、まずは人類が直面する地球環境問題について基本的知識を修得し、環境マインドを醸成するとともに、より専門的で具体的な学修のための知的土台を形成する。専門コースでない学生も一般常識として必須の知識であり、グローバルな視野から物事を考察する力を培うことができる。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	地球環境問題に対する基本的な見方、考え方を説明したうえで、温暖化、森林破壊、生物多様性の減少など代表的な個別テーマを毎回取り上げて、その現象と構造、影響と要因、国際的取り組みと日本の対策などを概説する。最後に地球環境問題の文明的な位置づけと今後の展望について概説する。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	なし	①ライフサポート機能 ②グローバル・コモンズ ③持続可能な発展(開発) ④温室効果 ⑤京都議定書 ⑥遺伝資源 ⑦オゾンホール ⑧国際海洋法条約 ⑨貧困のワナ ⑩環境革命
展開科目	資源循環型社会概論 資源・エネルギーと文明	到達目標
関連資格	なし	地球環境問題の基本を理解し、それに関する報道記事を正しく読み解く環境リテラシーと、環境に配慮した日常行動を心がける環境マインドを身につける。
担当教員名	吉野敏行	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	森林の減少
2	地球環境問題の見取り図(1)	10	砂漠化
3	地球環境問題の見取り図(2)	11	生物多様性の減少
4	地球の温暖化(1)	12	有害廃棄物の越境移動
5	地球の温暖化(2)	13	開発途上国等の公害
6	オゾン層の破壊	14	南極地域の環境保護 世界遺産の保全 黄砂
7	酸性雨	15	水資源 地球環境問題の歴史的な位置づけ
8	海洋汚染		
評価方法	期末試験により評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『地球環境キーワード事典・5訂版』(地球環境研究会、中央法規、2008年3月発行)		
参考文献	吉野敏行 『地球環境問題概説』(「環境マインド養成講座 第2部」)、環境教育センター、無料配布		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	地球環境を保全する意義を学ぶ科目		
科目コード	I102		
講義の目的			
学年・期	1年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	生命と環境の倫理		
授業の概要	人類文明の持続可能性の確保という最終的な目的の実現のために様々な倫理思想を検証し、環境問題に対する哲学的、倫理的アプローチに関する関心・興味と必要な初歩的知識を習得する。		
単位数	2		
授業の概要	環境、自然、生命という環境問題に関わる基礎的な概念について西洋近代史の文脈から理解すると共に、「持続可能性」を達し得る自然観の創造に必要な社会的・文化的・哲学的・倫理的条件を明確に把握する。また、環境問題を生み出した現代文明の本質に対する批判的な観点を獲得する。		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	環境思想		
到達目標	環境あるいは自然のそもそもの意味を理解し、人間と環境との関わりの現状を批判的に検証しつつ我々の倫理的な使命について自覚する。		
関連資格	なし		
担当教員名	内藤可夫		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	「環境」とは何か	9	自然の権利説批判
2	「自然」とは何か	10	世代間衡平
3	「生命」とはなにか	11	権利思想の限界
4	「倫理学」とはなにか	12	世代間倫理と自己犠牲
5	環境問題へ学問的取り組みの現状	13	西洋的自然理解の限界
6	環境倫理学の使命	14	非西洋的自然理解の可能性
7	環境倫理学の諸説	15	環境倫理学の可能性
8	自然の権利説批判		
評価方法	論述試験		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	適宜配布		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	I103		
基礎的知識・技術を修得する科目			
講義の目的			
学年・期	1年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	基礎数学		
実験、実習等で得る測定値のデータ処理、数値解析を将来行うにあたって必要とされる数学の基礎知識と技術の習得を目的とする。特に数値計算、統計的な処理、物理単位・有効数字の取り扱い、表とグラフの活用を適切に行えるよう、理解を深める。関数電卓を積極的に活用し、数値計算に関する感覚を養う。			
単位数	2		
授業の概要			
数値解析の基礎となる次の3項目について講義と演習を行う。(1)四則演算、関数と指数、対数の計算、関数電卓の取り扱いの習得、(2)統計の基礎である平均値、分散、標準偏差の計算法を習得する。(3)データの整理、表とグラフ作成と活用法を習得する。			
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
① 有効数字 ② 指数表示 ③ 接頭語 ④ 対数 ⑤ $\Sigma$ (シグマ・総和) ⑥ 平均 ⑦ 偏差 ⑧ 分散 ⑨ 標準偏差 ⑩ グラフ表示			
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	統計の考え方		
有理数と無理数の区別を含め、数の概念を理解する。関数電卓を用いて、正しい順番で計算ができる。有効数字の意味を理解し、それを考慮して四則演算ができる。10のべき乗を用いた指数表示と四則演算ができる。10のべき乗と接頭語の対応関係がわかる。百分率(%), 百万分率(ppm), 10億分率(ppb)を理解し、互いに換算することができる。電卓を使わずに同じ底をもつ指数の乗除算、べき乗計算、かんたんな対数計算ができる。電卓を使って任意の指数計算、対数計算ができる。数値データグループが与えられれば、中央値、相加平均、相乗平均、分散と標準偏差を求めることができる。2次元直交座標を用いて測定値をプロットし、軸のタイトル、軸の目盛等を正しく記入することができる。グラフ上のデータ点の関係を直線で近似し、この直線を数式で表すことができる。			
関連資格	なし		
担当教員名	野田信明		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	数量の扱いの基本(1)数の概念と演算 数式と関数	9	数値データの集まり(2)平均値と中央値
2	数量の扱いの基本(2)数の表現 指数表記と分率	10	数値データの集まり(3)分布の広がり分散、標準偏差
3	数量の扱いの基本(3)測定精度と有効数字	11	数量と数量の関係(1)2種類のデータの関係
4	数量の扱いの基本(4)関数電卓の活用	12	数量と数量の関係(2)直線を表す式 一次関数
5	数量の扱いの基本(5)指数関数とネイピア数	13	数量と数量の関係(3)最小二乗法
6	数量の扱いの基本(6)対数関数と逆関数	14	まとめと補足
7	数量の扱いの基本(7)これまでのまとめ	15	総合演習
8	数値データの集まり(1)数直線とグラフ		
評価方法	筆記試験		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S		
学習目標を相応に達成している.....	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B		
学習目標の最低限は満たしている.....	C		
学習目標の最低限を満たしていない.....	D		
教科書	特に既成の教科書は使わない。講義ノートをプリントし配布する。		
参考文献	丹羽勝市著「図解雑学 統計解析」ナツメ社 ¥1,300 (ISBN978-4-8163-3472-6)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	基礎的知識・技術を修得する科目		
科目コード	I104		
講義の目的			
学年・期	1年・後期		
授業科目名	基礎生態学		
授業のテーマ	生物群集および生態系についての体系的な理解。様々な生物群集の集合によって構成される生態系は、生物間および環境との相互作用を介して複雑な系を形成している。また、有機物の生成とその循環を担うシステムでもある。生態系が持つ基本的な特徴とそれらの機構を理解することは、生物多様性を人類が賢明かつ持続的に利用するために必要な知識である。		
単位数	2		
授業の概要	生態学の基本的な概念と理論について解説する。生態学とは、生物間や環境との相互作用を探究する学問である。基本的な概念としての「生物群集」、有機物とその循環システムとしての「生態系機能」、多様性創出メカニズムとしての「適応度、生態的地位」、そして個体群の共存や増殖に関する「競争と共存、数理モデル」などを扱う。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	なし		
①生物群集 ②遷移 ③極相 ④生態機能群集 ④生産性 ⑤物質循環 ⑤適応度 ⑦生態的地位 ⑧数理モデル ⑨共存 ⑩個体群増殖			
到達目標			
展開科目	野菜と穀物の育て方 生物多様性 農地での土と微生物と肥料のはたらき I・II 農業生態系のしくみ		
関連資格	なし		
生物群集の概念の理解、遷移と極相の概念の理解、生態機能群集の理解、物質循環の理解、適応度と生態的地位の理解、数理モデルの考え方の理解、共存条件の理解、個体群増殖様式の理解			
担当教員名	藤井伸二		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	生物群集1: 定義	9	生態系機能4: 生産性と地球環境
2	生物群集2: 極相と遷移	10	進化1: 適応度と生態的地位
3	生物群集3: 植生類型1	11	進化2: 適応放散と収斂
4	生物群集4: 日本の植生1	12	数理モデル1: 競争と共存1
5	生物群集5: 日本の植生2	13	数理モデル2: 競争と共存2
6	生態系機能1: 生物濃縮と生態系	14	数理モデル3: 個体群の増殖1
7	生態系機能2: 食物網と生態ピラミッド	15	数理モデル4: 個体群の増殖2
8	生態系機能3: 物質生産と物質循環		
評価方法	試験(100%)による。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	鈴木孝仁(監修)、「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録改訂版」、数研出版、880円(税別)		
参考文献	日本生態学会、「生態学入門第2版」、東京化学同人、2,800円(税別)。日本生態学会、「エコロジー講座 森の不思議を解き明かす」、文一総合出版、1,890円(税別)。沼田真・岩瀬徹、「図説日本の植生」、講談社学術文庫、1,100円(税別)。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I105
基礎的知識・技術を修得する科目	
講義の目的	
学年・期	1年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	物質と原子(基礎化学Ⅰ)
自然環境や生物に配慮した人間活動を行うためには、環境や生物内での物質のふるまいに関する知識を修得することが必要である。その修得のためには、物質の最小単位である原子に関する知識が前提になる。本講義では将来、自然環境保全に関わることを希望する学生を対象に、原子に関する基礎知識を修得させることを目標にしている。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
本講義では、科学的思考の基礎となる原子に関する知識を(1)元素との関係、(2)大きさ、質量、(3)内部構造、(4)原子間の結合に整理して説明する。また、周辺知識として、(6)宇宙での原子の合成過程、自然環境中の元素存在度についても紹介する。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	なし
原子 元素 周期表 原子の構造 原子核 金属元素と非金属元素 結合 単体 化合物 水への溶解	
到達目標	
展開科目	物質と生物(基礎化学Ⅱ) 物質と化学反応(基礎化学Ⅲ) 基礎生物学 農地での土と微生物と肥料のはたらきⅠ・Ⅱ 植物体内での水と物質のはたらきⅠ・Ⅱ
関連資格	なし
原子、その結合、物質に関する基礎知識を修得する。	
担当教員名	長井正博

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	元素と原子、金属元素と非金属元素、原子の構造	9	イオン結合: 金属元素と非金属元素の化合物中の原子間の結合
2	原子オービタルと電子配置	10	水中での物質の溶解
3	最外殻電子と価電子、原子の電子式	11	共有結合とイオン結合からなる化合物
4	元素の分類、物質の分類	12	環境中の主要元素の存在形態
5	金属結合: 金属元素の単体中の原子間の結合	13	岩石圏の化学像
6	共有結合①: 非金属元素の単体中の原子間の結合	14	風化
7	共有結合②: 非金属元素と水素と酸素からなる化合物中の原子間の結合	15	全体のまとめ
8	共有結合③: 電気陰性度		

評価方法 期末試験(100%)により行う。  
ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	数研出版編集部、『新課程視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』、数研出版、914円
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	基礎的知識・技術を修得する科目		
科目コード	I218		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	物質と生物(基礎化学Ⅱ)		
自然環境および農作物栽培を科学的に理解するために、生物を構成する物質についての基礎的な知識は必須である。本講義では、これらの知識を原子の結合に注目して整理し、解説する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
生物に関わる重要な元素は炭素、水素、酸素、窒素、リンである。これらの元素からなる高分子化合物である糖類、タンパク質、脂質、核酸について、これらの物質が、その基本構成物質であるグルコース、アミノ酸、脂肪酸、アルコール、ヌクレオチドの脱水縮合により形成されることを中心に解説する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	物質と原子(基礎化学Ⅰ)		
糖類 タンパク質 核酸 脂質 グルコース アミノ酸 ヌクレオチド 脂肪酸 アルコール 脱水縮合と加水分解			
到達目標			
展開科目	基礎生物学 農地での土と微生物と肥料のはたらきⅠ・Ⅱ 植物体内での水と物質のはたらきⅠ・Ⅱ		
関連資格	なし		
天然有機物について、その種類と主要元素がわかる。さらに天然有機物を構成する基本構成物質の種類とその構造がわかる。天然有機物とその構成物質が加水分解反応及び脱水縮合反応によって互いに変換すること、そのときエネルギーの出入りがあることがわかる。			
担当教員名	長井正博		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	有機化学の基礎① 天然有機物の構成元素	9	糖類⑤ 光合成
2	有機化学の基礎② 有機物中の元素の結合	10	アミノ酸とタンパク質① アミノ酸
3	生化学の基礎① 生物を構成する有機物	11	アミノ酸とタンパク質② アミノ酸とタンパク質
4	生化学の基礎② 生物体内での化学反応	12	アミノ酸とタンパク質③ 生物とタンパク質
5	糖類① 糖類の構成元素	13	脂質① 脂質の種類
6	糖類② グルコースの構造	14	脂質② 脂肪酸・アルコールと脂質
7	糖類③ グルコースとデンプン・セルロース	15	まとめ
8	糖類④ 生物とデンプン・セルロース		
評価方法	期末試験(100%)により行う。 ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	数研出版編集部、『新課程視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』、数研出版、914円		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	分子模型購入費として1,600円程度		

科目目標															
学科	自然・社会環境専攻 環境コース														
カリキュラムの中での位置づけ															
科目コード	I201														
基礎的知識・技術を修得する科目															
講義の目的															
授業のテーマ															
学年・期	2年・前期														
授業科目名	物質と化学反応(基礎化学Ⅲ)														
自然環境、農地などで進行する現象、特に物質循環を科学的に理解するために、化学反応に関する知識は重要である。この知識を修得することで、農地などの化学性を測定すれば、そこで進行している、あるいは将来進行する現象をおおよそ予測し、予測に応じて適切なはたらきかけを環境に施すことができるようになる。															
単位数	2														
授業の概要															
授業形態	講義														
自然環境では様々な化学反応が進行しているが、化学反応を理解するための基礎となる反応はそれほど多くない。この講義では水環境で進行する重要な3種類の化学反応としてイオン結晶の溶解、中和反応、酸化還元反応を取り上げ、原子の結合に関する知識をもとにして解説する。また、原子や分子、イオンを数える単位であるモルについても紹介する。															
必修・選択	コース必修														
科目のキーワード															
前提とする科目	物質と原子(基礎化学Ⅰ)														
原子の結合 モル モル濃度 化学反応式 エネルギー 化学平衡 溶解と沈殿生成 酸と塩基 酸化剤と還元剤 液性とpH															
到達目標															
展開科目	基礎生物学 農地での土と微生物と肥料のはたらきⅠ・Ⅱ 土作りと肥料 植物体内での水と物質のはたらきⅠ・Ⅱ														
関連資格	なし														
物質量と濃度を理解し、溶解、中和反応、酸化還元反応についての基礎的な知識を修得する。															
担当教員名	長井正博														
授業計画															
回	主題	回	主題												
1	物質量と質量	9	溶解度積と共通イオン効果												
2	モル濃度	10	まとめと問題演習①												
3	濃度商と平衡定数	11	酸化還元反応① 電子の授受を伴う反応												
4	水素イオン濃度とpH	12	酸化還元反応② 酸化数												
5	酸と塩基と塩	13	酸化還元反応③ 半反応式の組み立て												
6	強酸・強塩基の水溶液のpH	14	酸化還元反応④ 酸化還元反応の組み立て												
7	強酸・強塩基の水溶液のpH	15	まとめと演習問題②												
8	塩の溶解と溶解度積														
評価方法	期末試験(100%)により行う。 ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。														
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価基準</th> <th>評語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習目標をほぼ完全に達成している……………</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成している……………</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限は満たしている……………</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限を満たしていない……………</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table>			評価基準	評語	学習目標をほぼ完全に達成している……………	S	学習目標を相応に達成している……………	A	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B	学習目標の最低限は満たしている……………	C	学習目標の最低限を満たしていない……………	D
評価基準	評語														
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S														
学習目標を相応に達成している……………	A														
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B														
学習目標の最低限は満たしている……………	C														
学習目標の最低限を満たしていない……………	D														
教科書	数研出版編集部、『新課程視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』、数研出版、914円														
参考文献	なし														
実験・実習・教材費	なし														

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	基礎的知識・技術を修得する科目
科目コード	I202
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業のテーマ	基本的な生物の構造と生命活動についての体系的な理解。細胞の基本構造、呼吸および光合成などの生化学反応、生殖と世代交代の機構、生命活動における遺伝子の働きを理解することは、生命の本質を理解することでもある。これらの内容は、次年次以降の専門的な生物学関連の学問分野を学習するために必須である。
授業科目名	基礎生物学
授業の概要	
単位数	2
授業形態	講義
細胞レベルの生物学的内容について解説する。細胞の構造と機能、細胞レベルの進化、呼吸・光合成における生化学反応、細胞分裂および生殖と世代交代、生命の設計図を担う遺伝子とその仕組み、植物の組織と器官について、それぞれ解説する。これらの知見をどのように利用して、バイオテクノロジーが発展したかにも触れたい。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	①DNA ②ATP ③減数分裂 ④呼吸 ⑤光合成 ⑥細胞共生 ⑦原核生物 ⑧真核生物 ⑨世代交代 ⑩組織と器官
前提とする科目	物質と原子(基礎化学Ⅰ)
到達目標	
展開科目	農地での土と微生物と肥料のはたらきⅠ・Ⅱ 生物多様性 植物体内での水と物質のはたらきⅠ・Ⅱ 土作りと肥料 遺伝と育種
細胞の構造と機能についての理解、呼吸・光合成における生化学反応の理解、細胞分裂および生殖と世代交代についての理解、遺伝子の構造と複製についての理解、タンパク質合成の理解、植物の組織と器官についての理解	
関連資格	なし
担当教員名	藤井伸二

授業計画

回	主題	回	主題
1	生命体としての生物	9	細胞分裂
2	細胞の構造	10	減数分裂と有性生殖
3	原核生物と真核生物	11	世代交代
4	呼吸1:解糖系	12	遺伝子1:DNA
5	呼吸2:クエン酸回路	13	遺伝子3:DNAの複製
6	光合成1:電子伝達系	14	遺伝子3:タンパク質の合成
7	光合成2:カルビン回路	15	さまざまな生物現象
8	無酸素呼吸と化学合成		

評価方法	試験(100%)による。
------	--------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	鈴木孝仁(監修)、「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録改訂版」、数研出版、880円(税別、各自で購入のこと)
参考文献	石川 統、「生物学入門」、東京化学同人、2,200円(税別) 葛西奈津子、「植物が地球をかえた!」、化学同人、1,200円(税別) 福岡伸一、「講談社現代新書 生物と無生物のあいだ」講談社、740円(税別)
実験・実習・教材費	なし



科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	I107		
基礎的知識・技術を修得する科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
学年・期	1年・後期		
授業科目名	自然地理学		
環境に関する知識の習得、文献講読、実験・実習などを行うにあたって、自然環境を構成する様々な要素の全般的な理解は不可欠である。本講義では、農業や環境関連の事業に携わるために必要な、自然科学的知見に根ざした地理的知識の涵養を目的とする。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
本講義では、私たちを取り巻く自然的要素とその相互作用の現れ、つまりは気候、地形、植生、土壌、水環境、自然災害などについて概括的に学び、さらには自然環境と農業との関係について理解を深める。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
①地球 ②自然 ③気候 ④地形 ⑤植生 ⑥土壌 ⑦農業 ⑧自然災害 ⑨天然資源 ⑩気候変動			
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	野菜と穀物の育て方 生物多様性 地球上での水とエネルギーの流れ		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)		
自然環境の姿や成因を正しく自然科学的に理解でき、簡潔に説明できる。自然災害や環境問題、農業と自然環境との関係性について、自分の意見が述べられるようになる。			
担当教員名	守村敦郎		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	惑星としての地球世界の地域構成(その1)	9	世界と日本の植生分布
2	世界の地域構成(その2)	10	土壌の形成と分布
3	世界の気候区分と日本の気候	11	復習(地形、植生、土壌、世界の地域構成)
4	地域スケールの気候	12	水の循環と水資源
5	気候の変化・変動	13	鉱物・化石資源の分布と利用
6	復習(気候、世界の地域構成)	14	自然災害
7	山地・丘陵地の地形	15	自然環境と農業
8	平野・海岸の地形		
評価方法	試験(100%)により評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	高橋日出男・小泉武栄 編著、『自然地理学概論(地理学基礎シリーズ)』、朝倉書店、3,300円+税		
参考文献	西尾道徳ら、『環境と農業(農学基礎セミナー)』、農山漁村文化協会、1,619円+税		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目		
科目コード	I203		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	熱・光・エネルギー(基礎物理学)		
自然環境を体系的に理解するためには、物質とエネルギーに関する知識が欠かせない。また、野菜や穀物などの栽培は光合成を利用して農作物を作ることであり、光合成の理解のためにも物質とエネルギーに関する知識は重要である。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
自然界で進行する変化が均質化と不均質化に分類され、均質化は自発的变化であり、不均質化は均質化と組み合わせることで進行する他発的变化であることをエネルギーの観点から説明する。また、物質とエネルギーに関する知識と、光に関する基礎的な知識を用いて、光合成をエネルギーの観点から理解することを目指す。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	基礎数学		
エネルギー 仕事 均質化 不均質化 自発的变化 他発的变化 エントロピー 化学ポテンシャル 自由エネルギー 光			
到達目標			
展開科目	地球と農地での物質の動き		
関連資格	なし		
物質間でのエントロピーと物質量の移動をエネルギー、仕事、均質化、不均質化、自発的、他発的の用語と関連づけて理解する。光合成などの化学反応を化学ポテンシャル、自由エネルギー、光のエネルギー、エントロピーと関連づけて理解する。エントロピーの性質を理解する。			
担当教員名	長井正博		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	エネルギーの定義と仕事の種類	9	光の波動性
2	仕事によるエネルギーの出入り	10	光の粒子性と波動性
3	均質化と不均質化①	11	光の種類
4	均質化と不均質化②	12	光合成と光のエネルギー
5	物質の化学ポテンシャルと自由エネルギー	13	エントロピーの性質
6	光合成と呼吸でのエネルギーの出入り	14	均質化とエントロピーの発生
7	生物が関わる反応例とエネルギーの出入り	15	システムの維持の条件
8	光合成と呼吸でのエントロピーの出入り		
評価方法	期末試験(100%)により行う。 ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	I261		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ	授業のテーマ 学術研究論文における文献、特に環境に関連する文献については諸科学の方法論や歴史的な成立過程の違いにより多種多様な文体、論理、用語、概念的思考の傾向が存在する。本授業は学術的な文献を読みこなす基礎的な読解能力を養成し、さらにこれらの多様な文献のうち文系の文献についての知識と読解能力を伸長させることを目的とする。		
授業科目名	環境文献講読 I		
単位数	2		
授業の概要	授業の概要 翻訳文献を含め、古代より現代に至る多種多様な文献のうち、自然環境についての文献について時代を追って文体、用語、概念およびそれらの総合的な解釈と意味の分析を行う。その前段階として、文の構造、論理、概念的思考、解釈法等々、必要な知識とスキルについて講じる。		
授業形態	演習		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	科目のキーワード ①文 ②文章 ③論理 ④概念 ⑤解釈 ⑥自然概念 ⑦コンテキスト ⑧文化 ⑨宗教 ⑩自然学		
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	環境文献講読 II		
関連資格	なし		
文章読解、文献読解の基本を身につけ、論理的な文章の正確な理解を行うのとともに、自然を捉える様々な思考を理解する。			
担当教員名	内藤可夫		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	文献講読について	9	文献講読:論理的な文章の読解(近代哲学 デカルト)1
2	文の構造について	10	文献講読:論理的な文章の読解(近代哲学 デカルト)2
3	「ひとつのこと」の理解	11	文献講読:論理的な文章の読解(近代哲学 デカルト)3
4	初歩的な文章の読解(古代ギリシア 自然哲学)1	12	文の論理関係の確認
5	初歩的な文章の読解(古代ギリシア 自然哲学)2	13	文脈とは
6	初歩的な文章の読解(古代ギリシア 自然哲学)3	14	様々なレベルの文脈からの理解について
7	文章理解の初歩の確認	15	まとめ
8	文の構造と論理関係の把握		
評価方法	論述試験		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	適宜配布		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	日本語リテラシー科目		
科目コード	I261		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業科目名	環境文献講読 I		
授業のテーマ	論説文に対しての基本的な読解力および要約能力を養うことによって、専門科目における専門的な内容の理解および専門書を自力で読解するための技能と能力を習得する。また、文章内容を把握して整理・記述する能力をつけることで、レポート作成や論文作成への準備とする。		
単位数	2		
授業の概要	教科書の文章を材料として、次のような演習を行う: 適切な辞書を用いて用語の意味を調べる、構文の把握とその理解、キーワードの探索、文章の内容把握、キーセンテンスの探索、文章同士の関係の把握。これらを基盤に、文章全体の構成と内容を理解し、それらを統合して要約する技能の鍛錬。		
授業形態	演習		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①演習 ②読解 ③要約 ④キーワード ⑤キーセンテンス ⑥構文把握 ⑦内容把握 ⑧内容整理 ⑨用語(専門用語) ⑩連結文章		
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	環境文献講読 II		
関連資格	なし		
担当教員名	藤井伸二		
用語の意味を調べる能力、構文を理解する能力、キーワードの探索手法、文章内容の把握能力、連結文章の接続を把握する能力の習得。さらに文章全体の構成を理解し、その内容を文章にまとめて記述する能力および技術の習得。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	構文読解1	9	段落読解4
2	構文読解2	10	段落読解5
3	構文読解3	11	内容整理・要約1
4	構文読解4	12	内容整理・要約2
5	構文読解5	13	内容整理・要約3
6	段落読解1	14	内容整理・要約4
7	段落読解2	15	内容整理・要約5
8	段落読解3		
評価方法	レポート(100%)による。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	1) 鷲谷いづみ、中公新書1752「自然再生」、中央公論社、720円(税別、各自で購入のこと)。 2) 授業時に国語辞典を持参すること(出版社は問わない、電子辞書が望ましい)。		
参考文献	大野晋、岩波新書569「日本語練習帳」、岩波書店、660円(税別)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	I262		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境文献講読 II		
文系諸分野における論文の違い、文体の違いを理解し、多面的に環境問題や自然と人間との関わりについて理解し得る為、諸分野に代表的・特徴的な論文を取りあげ、自然概念や環境問題との連関を考慮しながら文献の講読を行うこととする。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
翻訳文献を含め、古代より現代に至る多種多様な文献のうち、自然環境についての文献について時代を追って文体、用語、概念およびそれらの総合的な解釈と意味の分析を行う。その前段階として、文の構造、論理、概念的思考、解釈法等々、必要な知識とスキルについて講じる。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	環境文献講読 I		
文体 思考様式 社会科学 人文科学 思想・哲学 自然概念 貧困 民俗学 仏教思想 存在論			
到達目標			
展開科目	環境コース演習		
関連資格	なし		
様々な分野の文章読解、文献読解の基本を身につけ、論理的な文章の正確な理解を行うのと同時に、自然を捉える様々な思考を理解する。			
担当教員名	内藤可夫		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	「文」について	9	価値の主張にかかわる論文について
2	諸分野の文献の特徴	10	文献講読：人文科学(比較思想)の文章の読解 (鈴木大拙『東洋的な見方』1)
3	文献講読：社会科学(経済学)の文章読解 (アマルティア＝セン『貧困と飢餓』1)	11	文献講読：人文科学(比較思想)の文章の読解 (鈴木大拙『東洋的な見方』2)
4	文献講読：社会科学(経済学)の文章読解 (アマルティア＝セン『貧困と飢餓』2)	12	文献講読：人文科学(比較思想)の文章の読解 (鈴木大拙『東洋的な見方』3)
5	文献講読：社会科学(経済学)の文章読解 (アマルティア＝セン『貧困と飢餓』3)	13	近代以後の論文について
6	文献講読：人文科学(文化人類学／民俗学)の文章の読解 (柳田国男『遠野物語』ほか)1	14	文献講読：人文科学(科学批判)の文章の読解 (マルティン＝ハイデッガーほか)
7	文献講読：人文科学(文化人類学／民俗学)の文章の読解 (柳田国男『遠野物語』ほか)2	15	まとめ
8	文献講読：人文科学(文化人類学／民俗学)の文章の読解 (柳田国男『遠野物語』ほか)3		
評価方法	論述試験		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	適宜配布		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	日本語リテラシー科目		
科目コード	I262		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業科目名	環境文献講読 II		
授業のテーマ	環境文献講読Iで習得した読解および要約の技能と能力をさらに磨くとともに、グローバル化の現代社会で重要視されるプレゼンテーションの技能を習得することで、次年度以降の卒業研究演習(セミナー発表や卒業研究発表)に備える。また、社会における自己アピールの基礎的な素養を養う。		
単位数	2		
授業の概要	各自が、自分の担当の文章についてその内容を整理・要約した資料を作成し、その資料を参加者に配布して30分程度のプレゼンテーションを行う。担当文章については初回時に調整・決定する。発表は、各回につき2～3名を割り当てる。プレゼンテーション後に、質疑応答およびコメントによって発表技能についての検討を行う。		
授業形態	演習		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①整理 ②要約 ③資料作成 ④十分な予習 ⑤プレゼンテーション ⑥発声 ⑦資料の見やすさ		
前提とする科目	環境文献講読 I		
到達目標			
展開科目	環境コース演習		
関連資格	なし		
十分な予習を行う習慣の習得、プレゼンテーション技能の習得、視認性の高い資料作成能力の習得、発声技術の習得、整理・要約能力の向上。			
担当教員名	藤井伸二		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	内容要約とプレゼンテーション1	9	内容要約とプレゼンテーション9
2	内容要約とプレゼンテーション2	10	内容要約とプレゼンテーション10
3	内容要約とプレゼンテーション3	11	内容要約とプレゼンテーション11
4	内容要約とプレゼンテーション4	12	内容要約とプレゼンテーション12
5	内容要約とプレゼンテーション5	13	内容要約とプレゼンテーション13
6	内容要約とプレゼンテーション6	14	内容要約とプレゼンテーション14
7	内容要約とプレゼンテーション7	15	内容要約とプレゼンテーション15
8	内容要約とプレゼンテーション8		
評価方法	レポート(100%)による		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	1) 鷲谷いづみ、中公新書1752「自然再生」、中央公論社、720円(税別、各自で購入のこと)。2) 長谷川真理子、岩波新書623「科学の目 科学のころ」、岩波書店、660円(税別、各自で購入のこと)。3) 授業時に国語辞典を持参すること(出版社は問わない、電子辞書が望ましい)。		
参考文献	大野晋、岩波新書569「日本語練習帳」、岩波書店、660円(税別) ロバート・R・H・アンホルト、ブルーバックス理系のための口頭発表術、講談社、880円(税別)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
科目コード	I251
学年・期	2年・前期
授業科目名	環境英語文献講読Ⅰ
単位数	2
授業形態	演習
必修・選択	コース必修
前提とする科目	英語Ⅰ・英語Ⅱ
展開科目	環境英語文献講読Ⅱ
関連資格	なし
担当教員名	吉野敏行

カリキュラムの中での位置づけ

外国語リテラシー科目

講義の目的

授業のテーマ

国際化が進展している現在、どの分野に就職・進学するにしても英語能力は必要である。しかし、英語上達に特効薬はない。一つの言語であるから、英語環境に身を置く時間が必要である。この授業を一つの英語環境ととらえ、環境用語の英文表記をしっかりと覚えるとともに、英文特有の文章構造に慣れ、一般論文の読解力を身につける。

授業の概要

英文で書かれた環境問題に関するテキスト『Nature and the Environment』(自然と環境)のプログラムに従って進める。授業速度は各章を3回程度で進める。

科目のキーワード

①環境用語 ②英文読解 ③英作文 ⑤段落 ⑥キーセンテンス ⑦大意の把握  
⑧事例の理解

到達目標

環境に関する英語論文について、専門単語の修得、基本文章の和訳、基本文書の作文、段落、キーセンテンス、大意の把握ができるようになる。

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	Chapter 6 Wildlife Trafficking(野生生物の違法売買) ②
2	Chapter 2 Endangered and Extinct Species (絶滅危惧種と絶滅種) ①	10	Chapter 6 Wildlife Trafficking(野生生物の違法売買) ③
3	Chapter 2 Endangered and Extinct Species (絶滅危惧種と絶滅種) ②	11	Chapter 7 Abuse of the Oceans(海の濫用) ①
4	Chapter 2 Endangered and Extinct Species (絶滅危惧種と絶滅種) ③	12	Chapter 7 Abuse of the Oceans(海の濫用) ②
5	Chapter 4 Rain Forests(熱帯雨林) ①	13	Chapter 7 Abuse of the Oceans(海の濫用) ③
6	Chapter 4 Rain Forests(熱帯雨林) ②	14	Chapter 8 Freshwater Pollution(淡水の汚染) ①
7	Chapter 4 Rain Forests(熱帯雨林) ③	15	Chapter 8 Freshwater Pollution(淡水の汚染) ②
8	Chapter 6 Wildlife Trafficking(野生生物の違法売買) ①		

評価方法 期末試験により評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	Greg Goodmacher, 福田一雄編著 “Nature and the Environment” 成美堂 1,700円
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	外国語リテラシー科目		
科目コード	I251		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業科目名	環境英語文献講読 I		
授業のテーマ	地球環境問題は、日本一国で解決できるものではなく、国際的な協力が不可欠である。そのため、世界の公用語として否が応にも英語を学ぶ必要がある。環境問題に関する比較的平易な英文を読み解くことを通じて、環境用語の英語表記を知り、環境問題について理解を深めることが本講義の目的である。特に、理系的観点で問題が取り上げられることの多いテーマについて取り扱う。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
授業の概要	比較的平易な英文で記述された教科書を用い、地球環境問題として取り沙汰されている代表的なテーマについて、理解を深める。多くは別途開講科目である『地球環境問題概説』で取り上げられているので、知識の確認をすると共に、英語表記の方法を学ぶ。各テーマ2回程度で授業を進める。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	英語 I・II		
①Environmental issues ②Abuse of the oceans ③Global warming ④Desertification ⑤Endangered species ⑥Reading methods			
到達目標			
展開科目	環境英語文献講読 II		
関連資格	なし		
辞書を用いて、もしくは難解な英単語の日本語訳リストを用いて、環境問題に関する英文を読み、その内容を理解することができる。基本的な環境用語について、英語和訳、和語英訳ができる。			
担当教員名	藤井芳一		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	環境用語の確認	9	海の濫用 (Abuse of the oceans)に関する用語と、長文の読み方
2	地球温暖化 (Global warming)に関する用語	10	海の濫用 (Abuse of the oceans)に関する用語と、長文の読み方
3	地球温暖化 (Global warming)に関する用語	11	まとめ2
4	砂漠化 (Desertification)に関する用語	12	大意を把握した上での英文講読
5	砂漠化 (Desertification)に関する用語	13	大意を把握した上での英文講読
6	まとめ1	14	海の濫用 (Abuse of the oceans)について考える
7	絶滅危惧種 (Endangered species)に関する用語	15	まとめ3
8	絶滅危惧種 (Endangered species)に関する用語		
評価方法	試験によって評価する。SからCは基本的な環境用語の英語表記が分かることを前提とする。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	Greg Goodmacher著、福田一雄編著『Nature and the Environment』(成美堂/1,700円+税) 各自で辞書(電子辞書、紙媒体どちらでもよい)を用意すること。		
参考文献	講義中にその都度提示する。		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
科目コード	I252
学年・期	2年・後期
授業科目名	環境英語文献講読Ⅱ
単位数	2
授業形態	演習
必修・選択	コース必修
前提とする科目	環境英語文献講読Ⅰ
展開科目	環境英語文献講読Ⅲ
関連資格	なし
担当教員名	吉野敏行

カリキュラムの中での位置づけ

外国語リテラシー科目

講義の目的

授業のテーマ

国際化が進展している現在、どの分野に就職・進学するにしても英語能力は必要である。しかし、英語上達に特効薬はない。一つの言語であるから、英語環境に身を置く時間が必要である。この授業を一つの英語環境ととらえ、環境用語の英文表記をしっかりと覚えるとともに、英文特有の文章構造に慣れ、一般論文の読解力を身につける。

授業の概要

英文で書かれた環境問題に関するテキスト『Nature and the Environment』(自然と環境)のプログラムに従って進める。授業速度は各章を3回程度で進める。

科目のキーワード

①環境用語 ②英文読解 ③英作文 ⑤段落 ⑥キーセンテンス ⑦大意の把握 ⑧事例の理解

到達目標

環境に関する英語論文について、専門単語の修得、基本文章の和訳、基本文書の作文、段落、キーセンテンス、大意の把握ができるようになる。

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	Chapter 11 Global Warming(地球温暖化) ②
2	Chapter 9 Acid Rain(酸性雨) ①	10	Chapter 11 Global Warming(地球温暖化) ③
3	Chapter 9 Acid Rain(酸性雨) ②	11	Chapter 12 Fossil Fuels and Nuclear Energy (化石燃料と原子力エネルギー) ①
4	Chapter 9 Acid Rain(酸性雨) ③	12	Chapter 12 Fossil Fuels and Nuclear Energy (化石燃料と原子力エネルギー) ②
5	Chapter 10 Air Pollution(大気汚染) ①	13	Chapter 12 Fossil Fuels and Nuclear Energy (化石燃料と原子力エネルギー) ③
6	Chapter 10 Air Pollution(大気汚染) ②	14	Chapter 13 Renewable Sources of Energy (再生可能なエネルギー源) ①
7	Chapter 10 Air Pollution(大気汚染) ③	15	Chapter 13 Renewable Sources of Energy (再生可能なエネルギー源) ②
8	Chapter 11 Global Warming(地球温暖化) ①		

評価方法 期末試験により評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	Greg Goodmacher, 福田一雄編著 “Nature and the Environment” 成美堂 1,700円
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	外国語リテラシー科目		
科目コード	I252		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業科目名	環境英語文献購読Ⅱ		
授業のテーマ	地球環境問題は、日本一国で解決できるものではなく、国際的な協力が不可欠である。そのため、世界の公用語として否が応にも英語を学ぶ必要がある。環境問題に関する比較的平易な英文を読み解くことを通じて、環境用語の英語表記を知り、環境問題について理解を深めることが本講義の目的である。特に、汚染問題を中心とした理系的観点で扱われることの多いテーマを取り上げる。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
授業の概要	比較的平易な英文で記述された教科書を用い、地球環境問題として取り沙汰されている代表的なテーマについて、理解を深める。多くは別途開講科目である『地球環境問題概説』で取り上げられているので、知識の確認をすると共に、英語表記の方法を学ぶ。各テーマ2回程度で授業を進める。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	環境英語文献講読Ⅰ		
科目のキーワード	①Environmental issues ②Acid rain ③Air pollution ④Freshwater pollution ⑤Toxic catastrophes ⑥Reading methods		
展開科目	環境英語文献講読Ⅲ		
到達目標			
関連資格	なし		
辞書を用いて、もしくは難解な英単語の日本語訳リストを用いて、環境問題に関する英文を読み、その内容を理解することができる。基本的な環境用語について、英語和訳、和語英訳ができる。			
担当教員名	藤井芳一		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	環境用語の確認	9	有毒物による悲劇(Toxic Catastrophes)に関する用語
2	酸性雨(Acid Rain)に関する用語	10	有毒物による悲劇(Toxic Catastrophes)に関する用語
3	酸性雨(Acid Rain)に関する用語	11	まとめ2
4	大気汚染(Air Pollution)に関する用語	12	大意を把握した上での英文講読
5	大気汚染(Air Pollution)に関する用語	13	大意を把握した上での英文講読
6	まとめ1	14	Environmental Issues - 特にPollutionについて考える
7	淡水の汚染(Freshwater Pollution)に関する用語	15	まとめ3
8	淡水の汚染(Freshwater Pollution)に関する用語		
評価方法	試験によって評価する。SからCは基本的な環境用語の英語表記が分かることを前提とする。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	Greg Goodmacher著、福田一雄編著『Nature and the Environment』(成美堂/1,700円+税) 各自で辞書(電子辞書、紙媒体どちらでもよい)を用意すること。		
参考文献	講義中にその都度提示する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
科目コード	I351		
学年・期	3年・前期		
授業科目名	環境英語文献講読Ⅲ		
単位数	2		
授業形態	演習		
必修・選択	コース選択		
前提とする科目	環境英語文献講読Ⅱ		
展開科目	環境英語文献講読Ⅳ		
関連資格	なし		
担当教員名	片山幸士		
カリキュラムの中での位置づけ			
外国語リテラシー科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
自然科学では他の教育・研究科目と同様に外国語、特に英語の講読力が求められている。また、会話力、表現力についても同様である。自然科学系の大学院進学を考えている学生は、本科目を履修することが望ましい。			
授業の概要			
本授業では森林環境についての英語の著書を用いて、英語の読解力を習得させるとともに、森林についての知見を講述する。			
科目のキーワード			
①光合成 ②生産者 ③分解者 ④土壌 ⑤原生林 ⑥人工林 ⑦ビオトープ ⑧景観			
到達目標			
与えられた課題について、辞書なしで英文を和訳し、内容が理解されていると評価できればSとします。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	Nature composes and decomposes (Ⅰ)	9	Virgin forests (Ⅰ)
2	Nature composes and decomposes (Ⅱ)	10	Virgin forests (Ⅱ)
3	Nature composes and decomposes (Ⅲ)	11	Man made forests (Ⅰ)
4	Soils (Ⅰ)	12	Man made forests (Ⅱ)
5	Soils (Ⅱ)	13	Important forest biotopes (Ⅰ)
6	Soils - forest soils (Ⅲ)	14	Important forest biotopes (Ⅱ)
7	The tree - a habit full of life (Ⅰ)	15	Important biotopes in the man-made landscapes
8	The tree - a habit full of life (Ⅱ)		
評価方法	試験のみで評価する。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	「A Richer Forest (The National Board of Sweden発行)」を使用するが、購入の必要なし。copyを与える。		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
科目コード	I352		
学年・期	3年・後期		
授業科目名	環境英語文献講読Ⅳ		
単位数	2		
授業形態	演習		
必修・選択	コース選択		
前提とする科目	環境英語文献講読Ⅲ		
展開科目	環境英語文献講読Ⅴ		
関連資格	なし		
担当教員名	片山幸士		
カリキュラムの中での位置づけ			
外国語リテラシー科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
自然科学では他の教育・研究科目と同様に外国語、特に英語の講読力が求められている。また、会話力、表現力についても同様である。自然科学系の大学院進学希望者は、履修されることが望ましい。なお、本科目を受講するものは、あらかじめ環境英語文献講読Ⅲを履修のこと。			
授業の概要			
本授業では地球本体、さらにそれを取りまく、空気、水などについて英語の著書を講読する。			
科目のキーワード			
①地球 ②岩石 ③風化 ④土壌 ⑤大気 of 歴史 ⑥海洋 ⑦空気 ⑧汚染 ⑨水循環			
到達目標			
与えられた課題について、辞書なしで英文を和訳し、内容が理解されていると評価できればSとします。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	A closer look at Earth's structure	9	Another look at air
2	Igneous rock	10	Making use of air
3	Weathering	11	Pollution alert
4	From weathering to deposition	12	Water and matter cycle
5	Metamorphic rock	13	Water supply
6	The rock cycle	14	Soft and hard water
7	The atmosphere past and present	15	Making hard water soft
8	The ocean		
評価方法		試験のみで評価する。	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	Oxford「Complete chemistry」を使用するが、購入の必要なし。		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I263
キャリアデザイン科目	
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業科目名	環境保全型農業概論
授業のテーマ	「環境保全型農業」と言うと格好よく聞こえますが、「稲の声が聞こえる農業」と言い換えると、途端に非科学的な印象になります。じつはこの両者は見方の違いなのです。田畑や作物や自然を外側から見る科学と、内からのまなざしでとらえる情感・情愛はどちらも大切です。この両者を重ねていくことによって、自然と農をより深くとらえることができるようになります。この新しい学の方法を提示します。
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
具体的な技術や仕事、生きものや風景をとりあげて、見方によって世界はがらりと替わることを証明します。同時にそれが農業のありかたや、人生のとらえ方にどう影響するかを受講者と一緒に討論しながら考えていきます。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	農業基礎実習I 野菜と穀物の育て方
到達目標	①自然 ②生物多様性 ③生き方 ④多面的機能 ⑤ただの虫
展開科目	農業インターンシップ
関連資格	なし
自然環境にやさしい環境保全型農業の内実を分析していきながら、人間と自然との関係はどうあったらいいのかを自分なりに考える方法を身につける。	
担当教員名	宇根豊

授業計画

回	主題	回	主題
1	生業とは過去の遺物なのか(生業論)	9	情愛と美のふるさと(美論)
2	食料を価値にしなければならなかった理由(食料論)	10	なぜ田植えは手植えに限るか(伝承論)
3	自然の位置づけが後れた理由(自然論)	11	開かれている百姓仕事(公益論)
4	仕事と技術のちがいがい(仕事論)	12	環境支払いという政策(政治論)
5	農業の近代化はなぜ進められたのか(近代化論)	13	経済と非経済の関係(非経済論)
6	生きもの生と死の意味(生命論)	14	そこに、いつも、あたりまえにあるもの(存在論)
7	ただの虫の発見から田んぼの世界全体へ(世界論)	15	ささやかでゆっくりした生き方(生き方論)
8	生物多様性は人間のためのものか(生物多様性論)		

評価方法	いくつかの課題に対するレポート提出を求めます。
------	-------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	宇根豊『環境マインド養成講座 第3部』人間環境大学 無料配布
参考文献	宇根豊『天地有情の農学』コモンズ 1,600 円
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	I371		
キャリアデザイン科目			
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	農業インターンシップ		
在学中に学んでいることや将来のキャリアに関連した企業等において就業体験をすることで、自らの職業適性や将来設計について考える機会となり、主体的な職業選択や高い職業意識の育成が図られることを目的とする。			
単位数	1		
授業の概要			
授業形態	実習		
実際に農業事業体において、農作業を体験する。ただし、一般に募集されているような農業体験とは異なり、商品としての作物生産に関わることを熟慮して参加すること。今年度は、岡崎市内及び豊川市内の農業事業体に御協力いただく予定である。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	農業基礎実習I・II		
①農業 ②作物生産 ③就業体験			
到達目標			
展開科目	なし		
関連資格	なし		
農産物の生産における困難や喜びを通じて、職業としての農業を知る。			
担当教員名	藤井芳一		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	各実習先での実習	9	各実習先での実習
2	各実習先での実習	10	各実習先での実習
3	各実習先での実習	11	各実習先での実習
4	各実習先での実習	12	各実習先での実習
5	各実習先での実習	13	各実習先での実習
6	各実習先での実習	14	各実習先での実習
7	各実習先での実習	15	各実習先での実習
8	各実習先での実習		
評価方法	無欠席を前提とし、実習先での取り組みや報告書の内容により評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	実習中の食費及び交通費は参加者の自己負担。また、実習先により必要に応じて作業着等の準備品が必要となることもある。		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I372
キャリアデザイン科目	
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	流通インターンシップ
地域に密着する農産物・特産品販売所等でのインターンシップ(大学在学中の実際の企業や団体での就業体験実習)を通じ、大学での講義や実習では得られない実践的な知識や技能を学ぶとともに、将来職業人として必要な周辺知識や心構えを身につける。	
単位数	1
授業の概要	
授業形態	実習
受入先から提示される期間(合計60時間)・内容でインターンシップを行い、終了後に事後報告書を提出する。なお、実習については無報酬とし、実習中の食費および往復の交通費については学生の自己負担とする。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①インターンシップ(就業体験実習) ②食品流通 ③農産物販売 ④地産地消 ⑤地域貢献	
前提とする科目	なし
到達目標	
展開科目	なし
関連資格	なし
職場の人と適切なコミュニケーションがとれ、主体的に仕事をこなすことができる。自らの仕事を自己評価し、適切な事後報告を行うことができる。食品や特産品の流通に関する周辺知識が身についている。	
担当教員名	守村敦郎

授業計画

回	主題	回	主題
1	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)	9	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)
2	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)	10	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)
3	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)	11	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)
4	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)	12	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)
5	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)	13	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)
6	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)	14	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)
7	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)	15	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)
8	受入先でのインターンシップ(具体的内容は未定)		

評価方法	インターンシップ先での取り組み状況と事後報告書により評価する。
------	---------------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	なし
実験・実習・教材費	実習中の食費及び交通費は参加者の自己負担。また、実習先により必要に応じて作業着等の準備品が必要となることもある。

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	情報リテラシー科目		
科目コード	I281		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境情報実習 I		
データ処理の目的と意義について学び、その基本的な技法と考え方を身につける。データ処理の技法を単なる知識以上に活用できるものにし、データの発信を行うことで自身の技術向上を狙う。			
単位数	1		
授業の概要			
1年次の情報実習I・IIや基礎数学での学びの内容を発展させ、卒業研究や実社会で活かせるデータ処理技術の基本を身につける。文書や数値データ、グラフィックデータ等を公開し共有するための、Webによるデータ開示技術の基本を身につける。			
授業形態	実習		
科目のキーワード			
①Excel ②データ収集 ③水文水質データ ④農業統計データ ⑤平年値 ⑥グラフ ⑦Webページ ⑧html ⑨基本統計量 ⑩相関と回帰			
必修・選択	コース必修		
到達目標			
前提とする科目	情報実習 I・II 基礎数学		
展開科目	環境情報実習 II		
関連資格	なし		
環境データや農業統計データをExcelを用いて分析し、その結果を表やグラフにより表すことができる。htmlで簡単なWebページを作成でき、環境データなどの分析結果を公開することができる。			
担当教員名	守村敦郎		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	農業統計データの収集と可視化(2)
2	情報実習IIの復習(Excelその1)	10	農業統計データの収集と可視化(3)
3	情報実習IIの復習(Excelその2)	11	農業統計データの分析
4	環境データの収集と可視化(1)	12	Webによるデータ開示の基本(htmlの基本)
5	環境データの収集と可視化(2)	13	Webによるデータ開示の基本(テーブルの活用)
6	環境データの収集と可視化(3)	14	Webによるデータ開示の基本(デジカメ写真の活用)
7	環境データの分析	15	Webによるデータ開示の基本(Excelデータの公開)
8	農業統計データの収集と可視化(1)		
評価方法	レポート(100%)により評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	実教出版編修部、『Windows 7対応30時間でマスターExcel2010』、実教出版株式会社、857円+税		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	情報リテラシー科目		
科目コード	I282		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境情報実習 II		
環境情報実習Iの内容を踏まえ、より実践的なデータ処理の技法と考え方を身につける。3年次以降、個々が卒業研究テーマに応じ自発的に、より高度なデータ処理技法を習得していける素地を身につける。			
単位数	1		
授業の概要			
授業形態	実習		
環境データをその空間的属性とともに分析し可視化するためのGIS(地理情報システム)の操作方法を習得する。卒業研究で成果を公表するためのグラフィック処理技法やプレゼンテーションファイル作成技法を習得する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
①GIS(地理情報システム) ②PowerPoint ③位置情報 ④データ収集 ⑤可視化 ⑥ベクタデータ ⑦ラスターデータ ⑧水文水質データ ⑨国土数値情報 ⑩農業統計データ			
前提とする科目	情報実習 I・II 基礎数学 環境情報実習 I		
到達目標			
展開科目	環境コース演習		
関連資格	なし		
GISを用い、環境データや農業統計データなどの空間データの表示と簡単な分析を行うことができる。地図をはじめとする簡単なグラフィックスを作成することができる。PowerPointを用いてわかりやすいプレゼンテーション用ファイルを作成することができる。			
担当教員名	守村敦郎		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	環境情報実習Iの復習	9	GISを用いた環境データの可視化(3)
2	グラフィック処理(1)	10	GISを用いた環境データの可視化(4)
3	グラフィック処理(2)	11	GISを用いた農業統計データの可視化(1)
4	グラフィック処理(3)	12	GISを用いた農業統計データの可視化(2)
5	GISの基本操作(1)	13	PowerPointファイルの作成(1)
6	GISの基本操作(2)	14	PowerPointファイルの作成(2)
7	GISを用いた環境データの可視化(1)	15	PowerPointファイルの作成と公開
8	GISを用いた環境データの可視化(2)		
評価方法	レポート(100%)により評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S		
学習目標を相応に達成している.....	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B		
学習目標の最低限は満たしている.....	C		
学習目標の最低限を満たしていない.....	D		
教科書	なし		
参考文献	今木洋大、『Quantum GIS入門』、古今書院、3,000円+税		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	基礎的知識・技術を修得する科目		
科目コード	I204		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業科目名	野菜と穀物の育て方		
授業のテーマ	農業は食料の供給という、人間社会を維持する上で最も重要な部分を担っている。これ を学び、土を手に取り植物を育てることで、私たち自身も生態系の一部であることを感 じ、自然との共存について考えることができるであろう。本科目では野菜や穀物の育て 方について、その基礎から学ぶこととし、あわせて日本農業の現状について理解を深め る。		
単位数	2		
授業の概要	はじめに、栽培植物を理解する上で基本となる植物の分類、形態と部位、生理生態、栽 培植物の起源や栽培技術体系について解説する。次に各栽培植物の栽培において共 通する土壌管理技術や有害生物の防除技術などについて解説し、それを踏まえ栽培植 物(春夏野菜、秋冬野菜)の各種類の特性と栽培技術、利用のされ方について紹介す る。		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	農業基礎実習Ⅰ・Ⅱ		
関連資格	なし		
植物の基本的な性質について説明できる。土壌管理技術や有害生物の防除技術の基 本について説明できる。栽培植物の各種類の特性と栽培技術、利用のされ方について 説明できる。			
担当教員名	守村敦郎		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	野菜の生産と利用	9	復習
2	野菜の生育と品質(植物の分類と形態、生理生態)	10	ナス科野菜の栽培
3	野菜の生育と品質(栽培植物の起源、栽培技術体系)	11	ウリ科野菜の栽培
4	復習	12	アブラナ科野菜の栽培
5	野菜の生育と環境	13	マメ科野菜の栽培
6	土壌管理と施肥	14	各種野菜の栽培(1)
7	道具・資材・施設の利用	15	各種野菜の栽培(2)
8	有害生物の管理		
評価方法	試験(100%)によって行う。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	池田英男・川城英夫、『新版 野菜栽培の基礎(農学基礎セミナー)』、農山漁村文化協会、1,857円+税		
参考文献	生井兵治・上松信義・相馬暁、『新版 農業の基礎(農学基礎セミナー)』、農山漁村文化協会、1,761円+税		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I205
農業領域科目	
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	農地での土と微生物と肥料のはたらき I
授業の概要	農地で作物を生育させるためには、土の役割及びその特性を理解することが重要である。さらに、作物が必要とする養分は、農地においては主に肥料として人為的に与えられるものであり、その働きについても理解が必要である。肥料の作物への吸収は、土の性質と共に土壤生物の働きも寄与する。このうち本講義では、土の中の養分や水が土の性質によってどのような動きをするのか、基本的な土の成り立ちとその性質について知識を得ることを目的とする。
単位数	2
授業形態	講義
授業の概要	土壤生態系における物質循環を理解するための礎として、生成過程、物理化学性、機能や役割といった土の基本的な事項を概説する。微生物や養分についても取り上げるが、詳しくは当講義Ⅱにおいて土壤生態系内の物質循環を詳説する際に扱う。
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	基礎化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 自然地理学 基礎生態学 基礎生物学
到達目標	
展開科目	農地での土と微生物と肥料のはたらきⅡ
科目のキーワード	①土壤機能 ②土壤分類 ③風化作用 ④土壤生成作用 ⑤粘土鉱物 ⑥粒径組成 ⑦三相分布 ⑧陽イオン交換 ⑨窒素 ⑩土壤生物
到達目標	土の成り立ちや構造、機能について関連用語を正しく理解し、説明することができる。土の中における養分や水の動きを、土の性質と関連付けて説明することができる。
関連資格	なし
担当教員名	藤井芳一

授業計画			
回	主題	回	主題
1	土壤の機能	9	土壤の酸性化と養分保持能
2	土壤群・土壤型と土層	10	作物養分としての窒素、リン、カリウム
3	まとめ1	11	まとめ3
4	風化作用と土壤生成作用	12	土壤に生息する生物の種類
5	一次鉱物と粘土鉱物	13	土壤における生物の働き
6	粒径組成と団粒構造	14	まとめ4
7	まとめ2	15	まとめ5
8	土壤の水と空気		
評価方法	筆記試験(100%)によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	講義中にその都度提示する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目		
科目コード	I305		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業科目名	農地での土と微生物と肥料のはたらきⅡ		
授業のテーマ	作物が必要とする養分は、農地においては主に肥料として人為的に与えられるものであるが、肥料の作物への吸収は、土の性質と共に土壌生物の働きも寄与する。本講義では、土の中の養分や水が土壌生物によってどのような影響を受けているのか、土壌微生物及び土壌動物に分けてそれぞれの機能について知識を得ることを目的とする。また、肥料として養分を加える際、その必要量についての計算が、比較的容易なものであれば自らできるようになることを目的とする。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
授業の概要	土壌生態系における物質循環を理解する上で土の性質と共に重要である。土壌微生物と土壌動物の機能について基本的な事項を概説する。農地が必要とする養分について、何をどれだけ加えればよいのか、計算することを通じて量的理解も深める。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	基礎化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 自然地理学 基礎生態学 基礎生物学 農地での土と微生物と肥料のはたらきⅠ		
科目のキーワード	①生態系機能 ②有機物 ③土壌微生物 ④土壌動物 ⑤堆肥 ⑥土壌診断 ⑦必要量の計算		
到達目標			
展開科目	土作りと肥料 地球と農地での物質の動き		
到達目標	土壌微生物及び土壌動物の機能について、説明することができる。農地に加えるべき適正な施肥量について簡単なものであれば自ら計算ができる。		
関連資格	なし		
担当教員名	藤井芳一		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	土壌生態系の機能	9	有機物施用と微生物・微生物から見た堆肥の働き
2	機能による土壌生物の分類	10	まとめ3
3	生態系改変者としての土壌動物の役割	11	土壌診断では何を診るのか
4	まとめ1	12	何がどれほど足りないか—必要養分量の計算
5	微生物とはどんな生きものか	13	よい土の条件—物理的な性質(硬さと厚み, 水分状態)
6	有機物を分解する微生物	14	よい土の条件—化学的な性質(酸性度, 養分状態)
7	まとめ2	15	まとめ4
8	土の性質と微生物, 農業生態系と微生物		
評価方法	筆記試験(100%)によって評価する。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	なし		
参考文献	講義中にその都度提示する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目
科目コード	I206
講義の目的	
授業のテーマ	
授業科目名	植物体内での水と物質のはたらき I
植物体内での水と物質のはたらき I	植物体内では水は構造維持、化学反応物、物質移動の媒体など重要なはたらきを果たしている。植物体内での水のうごきとそれを支配する要因を理解することで、作物栽培に適切な水環境の状態を工夫し維持することを目指す。
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
授業の概要	大気-植物-大気連続系での水の移動を支配している水ポテンシャルについて解説する。水ポテンシャルと植物体内での水のうごきの関係を、植物と細胞の構造を意識しながら、詳細に説明する。細胞内外への水の移動には、溶存成分の濃度差が重要な役割を持つため、細胞内外への物質の移動の要因についても細胞膜の構造と関連付けながら説明する。
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	基礎化学 I・II・III 基礎生物学 野菜と穀物の育て方
前提とする科目	器官 組織 細胞 木部 細胞膜 細胞壁 水ポテンシャル 土壌 大気 電気化学ポテンシャル
到達目標	
展開科目	植物体内での水と物質のはたらき II
関連資格	なし
関連資格	土壌から根・茎・葉を通して、大気に至る水の移動の様子を水ポテンシャルと結びつけて説明することができる。細胞内外への水と物質の移動を細胞膜の構造と関連させて理解している。
担当教員名	長井正博

授業計画															
回	主題	回	主題												
1	植物の器官と組織系	9	土壌と大気に含まれる水の水ポテンシャル												
2	細胞膜の構造	10	まとめ① 土壌-植物-大気連続系での水のうごき												
3	水の化学的特性 圧力と張力 毛管現象	11	電気化学ポテンシャル												
4	水の化学ポテンシャルと水ポテンシャル	12	物質移動に関わる膜タンパク質① ポンプ												
5	水ポテンシャルと土壌-植物-大気連続系での水のうごき	13	物質移動に関わる膜タンパク質② キャリアー												
6	溶質による水ポテンシャル	14	物質移動に関わる膜タンパク質③ チャネル												
7	細胞内外への水のうごき	15	まとめ②: 植物体内での水と物質のうごき												
8	土壌から木部への水の移動														
評価方法	期末試験(100%)により行う。 ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。														
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価基準</th> <th>評語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習目標をほぼ完全に達成している.....</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成している.....</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限は満たしている.....</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限を満たしていない.....</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table>			評価基準	評語	学習目標をほぼ完全に達成している.....	S	学習目標を相応に達成している.....	A	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B	学習目標の最低限は満たしている.....	C	学習目標の最低限を満たしていない.....	D
評価基準	評語														
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S														
学習目標を相応に達成している.....	A														
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B														
学習目標の最低限は満たしている.....	C														
学習目標の最低限を満たしていない.....	D														
教科書	鈴木孝仁監修、『改訂版 視覚でとらえる フォトサイエンス生物図鑑』、数研出版、924円														
参考文献	テイツ/ザイガー、『植物生理学第3版』、培風館、9,870円														
実験・実習・教材費	なし														

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	基礎的知識・技術を修得する科目		
科目コード	I207		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	資源循環型社会概論		
21世紀に求められる社会経済のあり方の一つが循環型社会であり、どの会社・業界でもリサイクルの取り組みが進展している。循環型社会の背景や必要性、原則、具体的な制度を学びことにより資源循環の意義と仕組み、今後の展望を理解する。			
単位数	2		
授業の概要			
廃棄物と循環資源の定義や廃棄物処理・再資源化の歴史や実態など基礎的な知識を学んだうえで、循環型社会の概念やその形成のための社会経済的背景、住民・業界の減量・リサイクルの取り組み、行政の政策手法やリサイクル諸制度などについて概説する。			
授業形態	講義		
科目のキーワード			
①産業廃棄物 ②一般廃棄物 ③循環資源 ④最終処分場 ⑤不法投棄 ⑥循環型社会形成推進基本法 ⑦拡大生産者責任 ⑧デポジット ⑨容器包装リサイクル制度 ⑩家電リサイクル制度			
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	地球環境問題概説		
到達目標			
展開科目	資源循環の経済学 資源循環の法律と政策		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)		
循環型社会の背景や用語、定義、原則、諸制度などを理解する。			
担当教員名	吉野敏行		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	最終処分場問題
2	廃棄物の定義と分類	10	ごみ処理費用・不法投棄問題
3	廃棄物の処理責任、循環資源の定義、再生資源への転化の条件	11	ダイオキシン問題・資源問題
4	廃棄物処理と再資源化の実際(収集運搬・中間処理①)	12	循環型社会の概念・原則・政策手法
5	廃棄物処理と再資源化の実際(中間処理②・最終処分)	13	デポジット制度・欧州の容器包装リサイクル制度
6	廃棄物処理と再資源化の統計(一般廃棄物)	14	容器包装リサイクル制度の日欧比較
7	廃棄物処理と再資源化の統計(産業廃棄物)	15	家電リサイクル制度の日欧比較
8	廃棄物処理の歴史		
評価方法	期末試験によって評価する。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	吉野敏行『資源循環型社会の経済理論』東海大学出版会、2,987円(税込)		
参考文献	寄本勝美『リサイクル社会への道』岩波新書 700円、廃棄物学会編『ごみ読本』、中央法規出版		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I208
基礎的知識・技術を修得する科目	
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	資源・エネルギーと文明
この授業は自然科学と社会科学との結合を試みており、学際的な視点とグローバルな視点を養うものである。人類は資源・エネルギー問題、地球環境問題、経済成長問題のトリレンマ(3つの課題)に直面しており、文明の大きな転換期にさしかかっている。持続可能な文明の建設に向けた課題と展望を明らかにする。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
各種の原料資源、エネルギー資源の特性や用途等を概説したうえで、人間社会と自然環境との物質・エネルギー代謝と人口、経済システム、科学技術、エントロピーとの係わりを論じ、最後に、この代謝の歴史の変遷から持続可能な文明の資源・エネルギー代謝のあり方を展望する。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	地球環境問題概説
①原料資源 ②エネルギー資源 ③人口 ④社会システム ⑤科学技術 ⑥環境 ⑦文明 ⑧物質・エネルギー代謝 ⑨エントロピー ⑩持続可能な文明	
到達目標	
展開科目	資源循環の経済学 資源循環の法律と政策
関連資格	なし
環境、資源・エネルギー、文明の関係を修得し、持続可能な文明の資源・エネルギー代謝のあり方を理解する。	
担当教員名	吉野敏行

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	エネルギー資源(再生可能エネルギー②)
2	環境・資源・文明	10	資源と人口(環境への人口圧力)
3	原料資源(鉱物資源)	11	資源と社会システム
4	原料資源(生物資源)	12	資源と科学技術
5	原料資源(水資源)	13	資源とエントロピー
6	エネルギー資源(化石燃料)	14	日本の物質・エネルギー代謝
7	エネルギー資源(核エネルギー)	15	文明と物質・エネルギー代謝
8	エネルギー資源(再生可能エネルギー①)		

評価方法	期末試験により評価する。
------	--------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
-----	----

参考文献	佐々木信行『資源論入門』コロナ社 2,000円 吉野敏行『地球環境問題概説』 荒田鉄二『環境と文明』『環境と倫理』(「環境マインド養成講座 第2部」)環境教育センター 1年次配布
------	--

実験・実習・教材費	なし
-----------	----

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目		
科目コード	I231		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	栄養と体		
各栄養素の体内での役割を正しく理解し、人間が健康に暮らしていくためには、どの栄養素がどれ位必要なのかを自分の食生活と照らし合わせて考えられるようにする。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
健康な生活を送るために栄養学の基礎知識を身につけることを目的とする。糖質・脂質・タンパク質・ビタミン・ミネラルの各栄養素の種類や構造式に加えて、その体内での働きや代謝、消化・吸収、および生理的な機能、生活習慣病、食環境、食行動など栄養や食品に関連する内容を取り上げる。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	物質と原子(基礎化学I) 物質と生物(基礎化学II)		
到達目標	①代謝 ②栄養素 ③生理機能 ④健康 ⑤食生活		
展開科目	なし		
関連資格	なし		
五大栄養素の種類とその働きが理解できるようにする。また、ビタミンの正式名称や脂肪酸の名前なども覚え、食品の選択時に考慮できるようにする。さらに、健康食品や有機栽培農法など様々な食品をメディア情報に左右されず、自分が考えて食品を選択できる知識を獲得し、家庭や周囲の人々へもアドバイスが出来る教養を身につける。			
担当教員名	森山三千江		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	栄養の概念と歴史	9	タンパク質の種類と代謝
2	現代人の食生活と栄養状態の判定	10	タンパク質の栄養評価
3	糖質の種類とその性質	11	アミノ酸の種類と体内での代謝
4	糖質の消化・吸収、体内代謝	12	ビタミンの定義・分類
5	レジスタントスターチの種類と働き	13	ビタミンの機能とその栄養
6	食物繊維の種類とその働き	14	ミネラルの機能と他の栄養素との関わり
7	脂質の栄養と代謝	15	エネルギー代謝、遺伝子発現
8	脂肪酸の種類と働き、他の栄養素との関係		
評価方法	期末試験(100%)により行う。 ただし、学期中に課すレポートを期日厳守で2回以上提出することが受験のための条件である。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『基礎栄養学』南江堂		
参考文献	授業中に紹介する		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I232
基礎的知識・技術を修得する科目	
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	統計の考え方
数学の知識と方法を基礎とし、統計解析の基本的な考え方と応用法を理解する。そのことにより、統計データの意味を読み取る力をつけるとともに、今後自ら収集・測定することによって得たデータの整理、分析法を身につける。	
単位数	2
授業の概要	
具体的なデータ例を取り上げ、統計処理で使われる専門用語や手法を理解するとともに、応用する力をつける。統計と確率の関係を理解し、得られた結果をどのように推測や予測に活かすかを学ぶ。解析のツールとして、Excelの基礎的な使い方について学ぶ。その時々話題も実例として取り上げ、理解の助けとする。	
授業形態	講義
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
相関係数 回帰直線 確率 期待値 二項分布 正規分布 母集団 標本 推測 信頼区間	
前提とする科目	基礎数学
到達目標	
展開科目	なし
関連資格	なし
統計解析の基礎となる概念、意義について理解し、数値的な計算が行えるようにする。とくに、確率分布関数と期待値、標準偏差の関係、母集団と標本の関係を理解し、標本の解析から母集団の推測を行うことの意義と限界を理解する。また、実際のデータを使って応用ができるようにする。	
担当教員名	野田信明

授業計画			
回	主題	回	主題
1	統計解析の概要	9	正規分布
2	ヒストグラム、グラフと平均、分散、標準偏差	10	母集団と標本
3	様々な相関と相関係数	11	標本平均の性質
4	場合の数と確率、期待値	12	標本分散
5	順列と組み合わせ	13	母数の推定と信頼区間
6	これまでのまとめ	14	母比率推定の具体例
7	指数関数とネイピア数	15	総合演習
8	二項分布		

評価方法	筆記試験
------	------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	特に既成の教科書は使わない。講義ノートをプリントし配布する。
参考文献	丹羽勝市著「図解雑学 統計解析」ナツメ社 ¥1,300 (ISBN978-4-8163-3472-6)
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目		
科目コード	I301		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業科目名	土作りと肥料		
授業のテーマ	圃場毎に異なる種類の土壌で、多種類の作物を一定量の収穫があるように栽培するために、土の状態を改善し、状態を保ちながら利用する必要がある。このような作物の生育に合った土壌環境を整えることを土作りという。土作りにおいて資材としてよく用いられる堆肥の知識を得ることを通じて、適切な資材の利用でよりよい土を作るためにはどうすべきかを学ぶことを目的とする。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
授業の概要	よい土とはどのような土なのか、という視点を皮切りに、堆肥を用いた土作りについて概説する。堆肥の効果のみならず、堆肥の多用は問題を引き起こす点についても示す。肥料として堆肥を用いる際は、適正施肥量を把握しておく必要があり、そのような計算についても演習形式で参加者自らに実施してもらう。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	基礎化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 自然地理学 基礎生態学 基礎生物学 農地での土と微生物と肥料のはたらきⅠ・Ⅱ		
到達目標			
展開科目	なし		
科目のキーワード	①土作り ②堆肥(化) ③養分保持 ④団粒形成 ⑤窒素 ⑥化学肥料 ⑦適正施肥量		
到達目標	堆肥の成り立ち、その効果と問題点について説明することができる。特に、土作りの観点から、どのような効果があるかを理解する。		
関連資格	なし		
担当教員名	藤井芳一		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	よい土とはどのような土か	9	堆肥の多用—土壌への養分の蓄積とアンバランス化
2	土と堆肥の関係	10	堆肥の多用—窒素過剰の影響
3	堆肥化過程の科学	11	まとめ3
4	新鮮有機物、未熟堆肥の危険性、完熟堆肥	12	化学肥料を上手に使いこなす
5	まとめ1	13	堆肥、肥料の適正施用量とは
6	堆肥の効果—養分供給・土壌蓄積養分の増加・土壌の酸性矯正と硝酸の保持	14	まとめ4
7	堆肥の効果—土壌微生物の増加・土壌団粒の形成・生物多様性の向上	15	まとめ5
8	まとめ2		
評価方法	筆記試験(100%)によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	講義中にその都度提示する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標															
学科	自然・社会環境専攻 環境コース														
カリキュラムの中での位置づけ															
科目コード	I306														
農業領域科目															
講義の目的															
学年・期	3年・前期														
授業のテーマ															
授業科目名	植物体内での水と物質のはたらきⅡ														
植物体内では物質が合成されており、合成された物質は葉から根へ移動する。また、細胞内で様々な物質合成が進行して、植物の命を支えている。この科目では、質の良い作物の栽培に役立てるため、植物体内での物質の移動と関連付けながら、光合成などの反応とその合成物が植物にとってもつ意義を考える。															
単位数	2														
授業の概要															
授業形態	講義														
植物を構成する元素の存在量と形態、役割について説明した後、光合成を起点とする植物体内での物質の移動について説明する。さらに植物体内で進行する化学反応およびその合成物について、植物の器官、組織、細胞と関連付けながら解説する。															
必修・選択	コース必修														
科目のキーワード															
細胞 細胞膜 細胞壁 篩部 転流 光合成 糖類 アミノ酸 タンパク質															
前提とする科目	基礎化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 基礎生物学 野菜と穀物の育て方 植物体内での水と物質のはたらきⅠ														
クロロフィル															
到達目標															
展開科目	なし														
関連資格	なし														
光合成を起点としておこる植物体内での物質の形態変化および移動の様子を、植物の器官、組織、細胞の構造と関連づけて理解する。植物体内で進行する反応と合成物が、植物体内で果たす役割を理解する。															
担当教員名	長井正博														
授業計画															
回	主題	回	主題												
1	植物を構成する元素の存在量と存在形態	9	植物体内での物質の形態変化③ 光合成③												
2	植物を構成する元素の役割①	10	植物体内での物質の形態変化④ 糖類												
3	植物を構成する元素の役割②	11	植物体内での物質の形態変化⑤ アミノ酸とタンパク質①												
4	葉から根への物質の動き①	12	植物体内での物質の形態変化⑥ タンパク質とタンパク質②												
5	葉から根への物質の動き②	13	植物体内での物質の形態変化⑦ クロロフィル												
6	葉から根への物質の動き③	14	植物体内での物質の形態変化⑧ 形態変化とエネルギー												
7	植物体内での物質の形態変化① 光合成①	15	まとめ												
8	植物体内での物質の形態変化② 光合成②														
評価方法	期末試験(100%)により行う。 ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。														
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価基準</th> <th>評語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習目標をほぼ完全に達成している……………</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成している……………</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限は満たしている……………</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限を満たしていない……………</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table>			評価基準	評語	学習目標をほぼ完全に達成している……………	S	学習目標を相応に達成している……………	A	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B	学習目標の最低限は満たしている……………	C	学習目標の最低限を満たしていない……………	D
評価基準	評語														
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S														
学習目標を相応に達成している……………	A														
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B														
学習目標の最低限は満たしている……………	C														
学習目標の最低限を満たしていない……………	D														
教科書	鈴木孝仁監修、『改訂版 視覚でとらえる フォトサイエンス生物図鑑』、数研出版、924円														
参考文献	テイツ/ザイガー、『植物生理学第3版』、培風館、9,870円														
実験・実習・教材費	なし														

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目		
科目コード	I214		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業科目名	生物多様性		
授業のテーマ	生物多様性から受ける生態系サービスについて理解し、そして生物多様性の現状とその危機について学ぶことにより、これまでの人類の生き方を見直した共生的・持続的な社会構築を考える機会とする。生物多様性を起点とする価値基準の再構築を行うだけでなく、科学的な観点からの正確な知識に基づいた判断・行動規範の重要性を身につける。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
共生的・持続的な人類活動を行っていく上でのグローバルスタンダードとしての生物多様性に関する基礎知識について解説する。生態系サービスとしての生物多様性の概念とその価値観、生物多様性の現状、人類活動の活発化と生物多様性の劣化、指標種の種類と特徴、保全における課題について、具体例を挙げながら解説する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①生物多様性 ②生態系サービス ③遺伝子資源 ④レッドリストインデックス ⑤リビングプラネットインデックス ⑥平均栄養段階 ⑦指標種 ⑧絶滅危惧種 ⑨ホットスポット ⑩ビオトープ		
前提とする科目	基礎生物学 基礎生態学 自然地理学		
到達目標			
展開科目	なし		
関連資格	なし		
生態系サービスの理解、遺伝子資源の理解、生物多様性の現状の理解、生物多様性の劣化要因についての理解、各指標種の特徴と問題点、生物多様性保全の課題の認識。			
担当教員名	藤井伸二		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	生物多様性	9	生物多様性の劣化要因3: 里山の自然
2	生態系サービス1: 直接的価値	10	保全のイデオロギー
3	生態系サービス2: 遺伝子資源	11	指標種1: 生態的指標種, キーストーン種
4	生態系サービス3: 間接的価値	12	指標種2: アンブレラ種, 絶滅危惧種
5	生物多様性の現状1: レッドリストインデックスとリビングプラネットインデックス	13	ホットスポット
6	生物多様性の現状2: 平均栄養段階	14	ビオトープ
7	生物多様性の劣化要因1: 4つの危機	15	保護区
8	生物多様性の劣化要因2: 分類群		
評価方法	試験(100%)による。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	横浜国立大学21世紀COE国際委員会(訳)、「生態系サービスと人類の将来」、オーム社、2800円(税別)。日本生態学会、「エコロジー講座3 なぜ地球の生き物を守るのか」、文一総合出版、1,600円(税別)。松田裕之、「なぜ生態系を守るのか?」、NTT出版、1,900円(税別)。環境省自然環境局生物多様性センター、「日本の生物多様性」、平凡社、3,500円(税別)。リチャード B. プリマック・小堀洋美、「保全生物学のすすめ 改訂版」、文一総合出版、3,800円(税別)。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 環境コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	I307	自然環境領域科目
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	地球と農地での物質の動き	授業のテーマ
単位数	2	元素は形態を変えながら地球環境中を循環している。これまでに修得した物質循環に関する知識を、地球上の水の流れに沿って整理して理解する。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	降水、森林と農地、渓流水と河川水、湖沼と海水、湖底と海底の順に、物質の分布と動きの実際を紹介するとともに、それを支配する要因を化学法則、生物の役割、水のごきを中心に解説する。
前提とする科目	基礎化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 自然地理学 基礎生態学 基礎生物学 農地での土と微生物と肥料のはたらきⅠ・Ⅱ 植物体内での水と物質のはたらきⅠ・Ⅱ 熱・光・エネルギー(基礎物理学)	科目のキーワード
展開科目	なし	水文学 生物地球化学 降水 森林生態系 農業生態系 酸化還元電位 風化鉛直分布
関連資格	なし	到達目標
担当教員名	長井正博	地球環境での物質の分布とうごきを理解し、その要因を説明できる。

授業計画

回	主題	回	主題
1	降水の溶存成分① 成分の濃度と起源	9	渓流水の水質① 地質の影響
2	降水の溶存成分② 濃度の決定要因	10	渓流水の水質② 水量と温度の影響
3	降水の溶存成分③ 林内雨	11	湖沼・海洋の物質分布① 海水循環
4	陸上植物-土壌系での物質の動き① 炭素・有機物の動き	12	湖沼・海洋の物質分布② 溶存成分の鉛直分布①
5	陸上植物-土壌系での物質の動き② 水の動き	13	湖沼・海洋の物質分布③ 溶存成分の鉛直分布②
6	陸上植物-土壌系での物質の動き③ 風化反応	14	還元的環境での物質の動き
7	陸上植物-土壌系での物質の動き④ 酸化還元反応 窒素の動き	15	まとめ CNPの物質循環
8	陸上植物-土壌系での物質の動き⑤ 土壌の役割と成分の挙動の分類		

評価方法 期末試験(100%)により行う。  
ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	なし
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	資源循環型社会領域科目		
科目コード	I216		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ	環境経済学を基礎に、20世紀の物質文明を支えてきた大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会システムの仕組みと経済原則を概説するとともに、資源循環型社会を実現するための経済システムのあり方とそれを支える新たな経済原則について、現実に形成されつつある循環市場の動向を踏まえながら明らかにする。		
授業科目名	資源循環の経済学		
授業の概要			
単位数	2		
授業形態	講義		
市場メカニズムの基本を理解したうえで、廃棄物の市場価格や資源循環を阻害してきた外部費用の発生要因等を分析する。次に、限界理論や経済的厚生分析を理解したうえで、循環型社会の政策体系や環境税・デポジット制度などの具体的政策の経済分析を行う。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	資源循環型社会概論 資源・エネルギーと文明		
①廃棄物(負の財) ②市場メカニズム ③外部費用 ④社会的費用 ⑤公共財 ⑥限界効用 ⑦余剰 ⑧経済的厚生 ⑨環境税 ⑩デポジット			
到達目標			
展開科目	資源循環の法律と政策		
関連資格	なし		
経済学的方法により環境問題の解明と解決策を習得する。			
担当教員名	吉野敏行		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	企業の行動理論と供給曲線
2	市場経済と市場メカニズム	10	余剰と経済的厚生
3	廃棄物の市場価格	11	循環型経済構築の政策的着眼点
4	ワンウェイ型経済の市場価格と外部費用	12	循環型経済を構築するための政策体系
5	外部費用の発生要因(1)	13	環境税の経済分析
6	外部費用の発生要因(2)	14	デポジット制度の経済分析
7	外部費用の発生要因(3)	15	拡大生産者責任の経済分析
8	限界理論(限界効用逓減と均等の法則)		
評価方法	期末試験により評価する。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	吉野敏行 『資源循環型社会の経済理論』 東海大学出版会、2,987円(税込)		
参考文献	細田衛士 『グッズとバズズの経済学』、東洋経済新報社、 植田和弘『環境経済学』岩波書店		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 環境コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	I345	農業領域科目
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	防除と共存	授業のテーマ 農業生産を行う上で、必ず問題となるのが、病害虫の発生です。特に、高温多湿な環境で農業生産を行っている日本では、病害虫の発生は大変に深刻な問題で、この対策抜きに、品質の高い農作物を作ることは不可能です。一方で、日本は多種多様な生物が生息しています。病害虫の発生を防ぎながら、豊かな自然・環境を維持するための手段について考えます。
単位数	2	授業の概要 植物も人間同様に種々の病気にかかります。植物の病気の中で、微生物(病原体)によって生じるものについて研究する分野が「植物病理学」です。この授業では「植物病理学」について概説するとともに、この研究分野に関連する各種の法律や制度について学びます。また農業生産現場を取り巻く生物と共存するための生物多様性(条約)についても触れます。
授業形態	講義	
必修・選択	コース選択	
前提とする科目	基礎生態学 基礎生物学 生物多様性	①植物病理学②微生物 ③農薬 ④天敵 ⑤病害虫発生予察 ⑥IPM ⑦樹木医制度 ⑧生物多様性(COP10、愛知目標)
展開科目	なし	到達目標 * 生物・微生物を大きく分類した場合に、各々の生物について、概略が説明出来る。 * 化学的防除法(農薬)、物理的防除法、生物的防除法について、各々、具体例を挙げて説明出来る。 * IPM、樹木医制度、生物多様性について、各々、その概念を大まかに説明出来る。 * レポートについては、自分で大学や自宅付近にある植物の病気を見つけ、観察・スケッチ・写真撮影するとともに、関係書籍で病名を診断した結果についてまとめる。
関連資格	なし	
担当教員名	外側(とがわ)正之	

#### 授業計画

回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	生物的防除法(天敵利用など)について
2	病気とは何か? 微生物とは何か?	10	物理的防除法(耕種的防除法)について
3	微生物とは何か?(2)	11	IPM(総合的病害虫管理)とは?
4	植物の病気の実際(1)	12	植物の病気の実際(3)
5	化学的防除法(主に農薬)について	13	病害虫発生予察事業と病害虫防除所
6	農薬に係る法令および安全使用のための制度	14	樹木医制度について
7	有機栽培や無農薬は本当に安全か?	15	生物多様性(特にCOP10、愛知目標)について
8	植物の病気の実際(2)		

評価方法 試験(70点)+レポート(30点)

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	・「病害虫・雑草防除の基礎」大串龍一著、農文協、1,429円(税別) ISBN:978-4-540-99352-7 ・受講にあたって、第4コマまでに、植物病害観察のための「ルーペ」(5倍から10倍程度、2~3千円程度)のものを各自購入のこと。なお、第1コマ時に実物を紹介します。
参考文献	「植物医科学」難波成任著、養賢堂、2,800円(税別)ほか多数あるので授業中に紹介します。
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目		
科目コード	I344		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	機器化学分析の基礎と原理		
卒業研究や卒業後の進路で環境試料の化学分析を行うものにとって必要不可欠な、機器分析の原理と概要に関する知識を修得する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
光と物質の相互作用を利用した機器分析として吸光度法を取り上げ、その原理を基礎から解説した後、機器の構成を紹介する。また、分離分析法の例として、イオンクロマトグラフィーを取り上げ、その原理とデータの読み取り方を説明する。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	熱・光・エネルギー(基礎物理学)		
吸光度法 オービタル 分光光度計 検量線 ランベルト・ベールの法則 クロマトグラフィー イオン交換樹脂 移動層 クロマトグラム 保持時間			
到達目標			
展開科目	なし		
関連資格	なし		
吸光度法とイオンクロマトグラフィーの原理、機器の構成、測定データの扱いがわかる。			
担当教員名	長井正博		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	原子オービタル・分子オービタルと電子配置	9	クロマトグラフィー
2	光子の波動性と粒子性	10	保持時間
3	光子と物質の相互作用	11	イオン交換樹脂
4	吸光度法	12	移動層
5	検量線を利用した濃度の算出	13	クロマトグラムの読み取り
6	ランベルト・ベールの法則	14	イオンクロマトグラフィーによる定量
7	分光光度計①	15	まとめ
8	分光光度計②		
評価方法	期末試験(100%)により行う。 ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	田中誠之ほか、『機器分析(基礎化学選書)』、裳華房、3,465円		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 環境コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	I335	自然環境領域科目
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	地球上での水とエネルギーの流れ	授業のテーマ
単位数	2	地球上での水とエネルギーの流れを学び、日常生活やビジネスに直接的にあるいは間接的に関係している大気現象について考察する。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース選択	地球上での水とエネルギーの流れと、気象現象及び大気環境を関連付けて考察を行う。
前提とする科目	自然地理学	科目のキーワード
展開科目	なし	①地球 ②水 ③エネルギー ④流れ ⑤循環 ⑥気象現象 ⑦大気環境 ⑧収支 ⑨拡散 ⑩汚染
関連資格	なし	到達目標
担当教員名	岡村聖	受講者は授業内容について、不案内な相手が望む平易な水準で説明できること、を目標とする。社会では内容の詳細を求められることは少なく、むしろ大枠を踏まえた要点を求められる場合が多い。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	気候の変動と地球環境の変化
2	大気圏の構造	10	大気拡散と気象条件の関係
3	太陽放射のエネルギーと地球全体の熱収支	11	大気境界層
4	水の循環と状態変化	12	大気汚染の現状と対策
5	空気塊の断熱変化	13	大気環境とライフスタイル
6	大気の安定・不安定	14	予見性をもった大気環境対策の現状と展望
7	水蒸気の凝結と雲の発生	15	まとめ
8	大気循環と熱輸送		

評価方法	期末試験(100%)で評価する。
------	------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし。教材を作成し配布する。
参考文献	授業中にその都度提示する。
実験・実習・教材費	なし。

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目		
科目コード	I302		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	農業生態系のしくみ		
人里の自然を構成する農業生態系の生物多様性の重要性を理解し、農業がどのような生態系サービスを提供しているか、生物からどのような脅威を受けているかを学ぶことにより、人類が持続的な農業をおこなってゆくには何が必要かを考える機会とする。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
農業生態系について、その環境の特徴、生物群の特徴、適応的形質、共生系による生態系サービスを中心に解説する。また、近年大きな問題を起している侵略的外来生物の実態について紹介する。さらに、農業依存生物について、営農活動の変化にともなう減少・絶滅の現状を解説する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	基礎生態学 生物多様性 自然地理学		
①生活史戦略 ②送粉共生系 ③農業依存種 ④侵略的外来生物 ⑤ロトカボルテラの方程式 ⑥菌根 ⑦休眠 ⑧雑草 ⑨予防原則 ⑩里山の自然 ⑪人為的攪乱			
到達目標			
展開科目	農地の保全と管理		
農業生態系の理解、人為的な変動環境の理解、人為的攪乱と生物の関係についての理解、里山の自然を構成する生物群の特質の理解、農業生態系における各種の共生系の理解、侵略的外来生物が引き起こす問題についての正しい知識と理解			
関連資格	なし		
担当教員名	藤井伸二		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	生活史環	9	捕食者・被食者の個体群変動2
2	土壌生態系	10	生態的地位と環境収容力
3	送粉共生系	11	個体群の増殖と生活史戦略
4	季節適応1	12	侵略的外来生物1
5	季節適応2	13	侵略的外来生物2
6	雑草1	14	農業依存種1
7	雑草2	15	農業依存種2
8	捕食者・被食者の個体群変動1		
評価方法	試験(100%)による。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	芹沢俊介、「人里の自然」、保育社、2,300円(税別)。角野康郎・遊藤正秀、「ウェットランドの自然」、保育社、2,300円(税別)。山口裕文、「雑草の自然史」北海道大学図書刊行会、3,000円。種生物学会、「農業と雑草の生態学、文一総合出版、3,600円(税別)。日本生態学会、「外来種ハンドブック」、地人書館、4,000円(税別)種生物学会、「外来生物の生態学」、一総合出版、3,800円(税別)。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目
科目コード	I236
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業のテーマ	玉石混淆する環境思想の中から有効性のあるものと全く価値のないものを弁別する能力を身につけるため、思想や論理概念という基本から理解し、具体的な諸思想を批判的に検証しながら、最終的には価値がなく妨げになる諸思想を具体的にあげて批判を行う。
授業科目名	環境思想
授業の概要	
単位数	2
授業形態	講義
科目のキーワード	
必修・選択	コース選択
前提とする科目	生命と環境の倫理
到達目標	
展開科目	なし
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)
確かな環境思想の条件を理解し、自ら正しく思考し思想について正しく判断する能力を身につける。	
担当教員名	内藤可夫

授業計画

回	主題	回	主題
1	「思想」とは	9	ハンス＝ヨナス「責任という原理」2
2	論理および論理学	10	ユルゲン＝ハーバマス「イデオロギーとしての技術と科学」
3	論理的思考の規定	11	ユルゲン＝ハーバマス「イデオロギーとしての技術と科学」
4	概念と概念的思考	12	ジェームス＝ラブロック「ガイア仮説」および「ガイアの復讐」
5	理性の有限性と宗教思想における「信仰」	13	ジェームス＝ラブロック「ガイア仮説」および「ガイアの復讐」
6	諸思想の思惟の違い	14	その他、宗教および科学における諸思想
7	「自然」に関する諸思想の概要	15	まとめ
8	ハンス＝ヨナス「責任という原理」1		

評価方法	論述試験
------	------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	適宜配布
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目		
科目コード	I331		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	遺伝と育種		
主に植物を例として様々な育種法を学ぶとともにその基礎となる遺伝学の理解を目指す			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
育種学とは我々の歴史、生活環境と深く関連した分野である。本講義では基本的な育種法を概説するとともに、その原理および理論的な背景を解説する。また、近年急速に発展した分子生物学的手法による品種の作出など、最新の育種技術についても紹介する。これらの知見の理解を深めるために、講義の前半では遺伝学の基礎を学ぶ。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	基礎生物学		
①DNA ②染色体 ③メンデル遺伝 ④突然変異 ⑤選抜育種 ⑥品種作成 ⑦種間交雑 ⑧遺伝子組み換え ⑨分子マーカー			
到達目標			
展開科目	なし		
育種学は、遺伝学、植物学、生理学や分子生物学などの分野を基礎とし、園芸学や栽培学など幅広い分野と関連した総合的な学問分野である。基本的な育種技術を理解するとともに、これらの基礎となる遺伝学などの学問分野の知識を身につけることを目標とする。また最先端の育種技術についても概説し、その社会的な影響について考察を深めることを目標とする。			
関連資格	なし		
担当教員名	鶴田燃海		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス: 遺伝と育種とは	9	倍数化と品種育成
2	遺伝子と遺伝	10	育種への分子マーカーの利用
3	メンデル遺伝学の検証	11	遺伝変異の作出
4	連鎖と組み換え	12	遺伝子組み換えと環境
5	突然変異	13	最新の育種トピックス(1)
6	育種の歴史	14	最新の育種トピックス(2)
7	集団構造と選抜育種	15	講義総括
8	交雑育種と遺伝子導入		
評価方法	期末試験を行い、遺伝学の基礎および育種の知識の習得状況により判定する		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし(適宜資料を配布)		
参考文献	福井希一・向井康比己・佐藤和広 著『植物の遺伝と育種(第二版)』朝倉書店 4,515円、 鈴木正彦 編『植物の分子育種学』講談社 3,800円、仁川純一 著『ネコと分子遺伝学』コロナ社 1,200円		
実験・実習・教材費			

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	資源循環型社会領域科目
科目コード	I332
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業のテーマ	20世紀の大量生産・大量廃棄社会を支えてきた従来の市場メカニズムの下では有効な資源循環の実現が困難であることから、わが国では公共政策として循環型社会形成推進基本法をはじめさまざまな資源循環法が整備されてきました。本講義では、資源循環の諸制度を分析しながら、その背景と制度内容、課題と今後の展望を学びます。
授業科目名	資源循環の法律と政策
単位数	2
授業の概要	最初に、環境政策の手段や環境法の体系、資源循環法の理念や原則などを学んだうえで、循環型社会形成推進基本法をはじめ、各分野のリサイクル制度を学びます。授業では実際の法律条文も紹介し、法律文書の読解力も身につけます。
授業形態	講義
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	①汚染者負担 ②排出者責任 ③拡大生産者責任 ④容器包装リサイクル ⑤家電リサイクル ⑥小型家電リサイクル ⑦建設資材リサイクル ⑧食品リサイクル ⑨自動車リサイクル ⑩グリーン購入
前提とする科目	資源循環型社会概論／資源・エネルギーと文明／資源循環の経済学
到達目標	
展開科目	環境に配慮した企業経営
関連資格	なし
到達目標	資源循環の諸制度についてその背景、制度内容、課題と今後の展望を理解し、併せて法律条文の読解力を身につける。
担当教員名	吉野敏行

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	容器包装リサイクル法
2	環境政策の手段と体系	10	家電リサイクル法
3	環境法の特質と体系	11	小型家電リサイクル法
4	汚染者負担原則と排出者責任原則	12	建設資材リサイクル法
5	拡大生産者責任原則	13	食品リサイクル法
6	環境基本法 循環型社会形成推進基本法	14	自動車リサイクル法
7	廃棄物処理法	15	グリーン購入法・まとめ
8	資源有効利用促進法		

評価方法	期末試験により評価する。
------	--------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	大塚 直『環境法』、有斐閣 3,900円(ISBN4-641-12878-2)、 坂口洋一『循環共存型社会の環境法』、青木書店、2,600円((ISBN4-250-20201-1)
実験・実習・教材費	なし

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目
科目コード	I333
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業科目名	食料・農業の法律と政策
授業のテーマ	農業政策は転換期を迎えており、農業はグローバル化への対応が求められるとともに、地域の経済基盤・資源として活用する取組みが必要である。また、農業は地域環境にかかわる産業であり、土地利用政策にも関連する。本講義では、農業の課題とともに関連する地域の課題や地域政策について学び、これらからの内発的な産業振興や生活空間を豊かにするための農業振興について考える。
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
農業政策の歴史とこれからの課題について学ぶ、次いで、新たな農業展開のための政策動向について学び、農業の多面的な価値・役割について考える。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
前提とする科目	なし
到達目標	
展開科目	農業の経営と農作物の流通
関連資格	なし
農業を取り巻くグローバル化の進展、社会経済の変化とともに、農業は生活に欠かすことができない「食」や、身近な地域空間を良好にするために重要な産業であることを学び、これからの農業の可能性を拓くための方向や若者の役割について問題意識を持つ。	
担当教員名	田辺 則人

授業計画			
回	主題	回	主題
1	農業と食、地域【ディスカッション(1)】農業への疑問など	9	農業振興のビジョン、プラン
2	人口・産業・社会動向と愛知県、岡崎市の農業	10	六次産業化支援、農工商等連携による成長戦略
3	我が国の農業政策の経過と方向	11	食育基本法と農業振興
4	農業生産維持のための政策	12	地域ブランド戦略
5	自由貿易の動向と農業への影響	13	農村地域の活性化、農村計画
6	安全な食のニーズと課題	14	【ディスカッション(2)】農業が地域にとってなぜ大切か？
7	環境・エネルギー政策と農業	15	その後(平成26年度前半)の農政・自由貿易の動向
8	地域における農政のしくみ		
評価方法	期末レポート(100%)。ただし、受験条件は、講義後の意見シートを7回以上提出して自分の意見を記述、及び、2回目のディスカッションでの予習シート提出、発言		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	なし。PPTを打ち出した資料等を配布する。		
参考文献	生源寺眞「農業がわかると社会のしくみが分かる」家の光協会、2010年など(講義で紹介)		
実験・実習・教材費	—		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目
科目コード	I237
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業のテーマ	卒業研究や卒業後の進路で環境試料の化学分析を行うものにとって必要不可欠な、成分濃度の表現と計算への習熟と、水溶液中の反応と化学平衡の関係の正確な理解が本科目のテーマである。
授業科目名	水溶液の化学
授業の概要	
単位数	2
授業形態	講義
科目のキーワード	物質と質量の関係を確認した後、水溶液中の溶存成分の代表的な濃度表記であるモル濃度と質量分率について、解説と問題演習を並行して進める。酸塩基反応の平衡計算の例として、酸解離定数を用いて酸水溶液のpHを算出する方法と、pHが既知の水溶液中の酸および塩基の主要化学種の予想の仕方を解説する。
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	原子量 物質と質量の関係を確認した後、水溶液中の溶存成分の代表的な濃度表記であるモル濃度と質量分率について、解説と問題演習を並行して進める。酸塩基反応の平衡計算の例として、酸解離定数を用いて酸水溶液のpHを算出する方法と、pHが既知の水溶液中の酸および塩基の主要化学種の予想の仕方を解説する。
前提とする科目	基礎化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 熱・光・エネルギー(基礎物理学)
到達目標	
展開科目	なし
到達目標	目的濃度の水溶液を調製するために必要な物質の質量もしくは物質量を算出することができる。酸解離定数が与えられれば、濃度が既知の酸水溶液のpHを計算により求めることができる。酸解離定数が与えられれば、pHが既知の水溶液中の酸および塩基の主要化学種を予想することができる。
関連資格	なし
担当教員名	長井正博

授業計画

回	主題	回	主題
1	原子量、式量、分子量の計算 質量と物質量の換算	9	酸水溶液中の成分濃度①
2	化合物の質量と成分元素の質量の関係	10	酸水溶液中の成分濃度②
3	モル濃度の計算	11	酸水溶液中の成分濃度③
4	質量分率	12	酸水溶液中の成分濃度④
5	モル濃度とppm(w/v)	13	pHがわかった水溶液中の酸と塩基の化学種①
6	物質量の計算と濃度の計算のまとめ	14	pHがわかった水溶液中の酸と塩基の化学種②
7	化学反応と平衡定数	15	pHがわかった水溶液中の酸と塩基の化学種③
8	酸水溶液中の水と酸の電離の反応式と濃度変化の概要		

評価方法 期末試験(100%)により行う。  
ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなかった場合は欠席と見なすので注意すること。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	なし
参考文献	クリスチャン、『分析化学(1)基礎編』、丸善、4,095円
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目		
科目コード	I238		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業科目名	環境リスク概論		
授業のテーマ	地球環境問題は、性急で一面的な対症療法では解決できず、多様な知識の統合と国際的な協力による総合的な対策が必要である。私たちは、地球環境に関する科学的知見を学ぶ一方で、それらを用いて具体的問題に柔軟な解釈と解決策を見出す能力が求められる。そのため、科学的判断ツールとしてリスクの概念を理解し、多角的で合理的な思考法を身に付けることが本講義の目的である。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
授業の概要	地球環境問題の個別テーマは、別途開講科目である『地球環境問題概説』で取り上げる。本講義では、それらの個別の知識を統合化することによって初めて“現場での”環境問題に対処できることを、実例及び考え方から紹介するとともに、参加学生との議論を踏まえてその理解をより深める。		
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	地球環境問題概説		
到達目標	①地球環境 ②科学 ③環境リスク ④多角的視点 ⑤熟慮 ⑥土壌 ⑦複雑さ		
展開科目	なし		
到達目標			
関連資格	なし		
到達目標	提示されたデータについて、その検証能力を養う。環境問題の現場のみならず、日常生活における多角的で合理的な物の見方を基に、自身の意見を形成する能力を養う。		
担当教員名	藤井芳一		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	概論(本講義の進め方)	9	環境リスク～重金属のリスク
2	あなたの考える地球環境問題とは？	10	まとめ2
3	なぜ環境問題を学ぶのか？	11	環境の基盤である土壌の機能
4	科学的なものの捉え方、考え方	12	土壌に異変が起きること
5	リスクという考え方	13	環境リスク～食のリスク
6	まとめ1	14	環境問題の複雑さ
7	身のまわりのリスク	15	まとめ3
8	環境リスク～農業のリスク		
評価方法	期末試験(100%)による。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	4大学連携共通テキスト『環境マインド養成講座』(必要に応じて講義時に無料配布)		
参考文献	講義中にその都度提示する。		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目
科目コード	I340
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	農地の保全と管理
授業の概要	わが国において持続可能な農業を行いこれを発展させるためには、現在ある農地を質量ともに良好な状態に保ち、農地の利用率を向上させることが必要である。本講義では農地を造成し、改良し、維持管理するための理論と方法について学び、さらにはその延長としての農村地域の発展に資するための考え方について学ぶ。
単位数	2
授業形態	講義
授業の概要	はじめにわが国の農地の特性について紹介し、その後水田や畑の灌漑と排水、圃場整備、造成について解説する。さらに農地に必要な施設や防災のあり方、水資源涵養や自然環境、景観といった多面的機能について解説しつつ、農地や農村地域を維持管理するための総合的な視点を提供する。
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
前提とする科目	野菜と穀物の育て方 農業基礎実習Ⅰ・Ⅱ 農業生態系のしくみ
科目のキーワード	①農地 ②水田 ③畑地 ④灌漑 ⑤排水 ⑥造成 ⑦農業施設 ⑧防災 ⑨多面的機能 ⑩持続可能な農業
到達目標	
展開科目	なし
関連資格	なし
到達目標	水田や畑の土壌特性や水理特性、灌漑、造成、土壌侵食(おもに水食)防止などの維持管理の方法について説明できる。農地の多面的機能について理解し、限られた資源の中から創意工夫により持続可能な農業を展開するための発想を得ることができる。
担当教員名	守村敦郎

授業計画

回	主題	回	主題
1	わが国の農地の現状と役割	9	畑地の圃場整備と造成(2)
2	水田の灌漑と排水(1)	10	復習
3	水田の灌漑と排水(2)	11	農業施設の整備
4	水田の圃場整備	12	農地の保全と防災
5	復習	13	農地の多面的機能
6	畑地の灌漑と排水(1)	14	農村空間の整備
7	畑地の灌漑と排水(2)	15	持続可能な農業と農地管理
8	畑地の圃場整備と造成(1)		

評価方法	試験(100%)により評価する。
------	------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	山路永司・塩沢昌、『農地環境工学』、文永堂出版、4,000円+税
参考文献	西尾道徳ら、『環境と農業(農業基礎セミナー)』、農山漁村文化協会、1,619円+税
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目		
科目コード	I341		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ	農業においてもグローバル化の進展が著しく、また、第二次世界大戦後の経済や地域環境の変化の中で農業の課題が噴出している。一方で、持続性が高い農業経営や流通戦略も見られ、農業の成長分野としての可能性を探る。		
授業科目名	農業の経営と農産物の流通		
授業の概要			
単位数	2		
授業形態	講義		
自由貿易の動きなど農業の外部環境の変化や、農家の高齢化、遊休農地の増加など農業経営を取り巻く変化を学ぶとともに、新たな農業経営や流通の事例を学び、これからの農業・関連産業の成長の可能性を考える。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	なし		
①自由貿易 ②農政の転換 ③農家所得 ④担い手の確保 ⑤販路開拓 ⑥六次産業化 ⑦資源循環 ⑧輸出型農業 ⑨地域ブランド戦略 ⑩地産地消			
到達目標			
展開科目	なし		
農業を取り巻くグローバルな環境、地域の環境が厳しい中で、その持続性を高めるための経営、人材育成の動きを学び、農業と関連産業が成長産業となるような方向について問題意識を持ち、考えるようになる。			
関連資格	なし		
担当教員名	田辺 則人		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	シラバスの説明／農業、流通を取り巻く動向	9	新たな農業経営の取組み(その2)
2	我が国の農家の経営の特色(その1)	10	新たな農業経営の取組み(その3)
3	我が国の農家の経営の特色(その2)	11	新たな農業経営の取組み(その4)
4	我が国の農産物流通の特色と課題／予習シートについて	12	【グループワーク(2)】農業経営の課題について
5	【グループワーク(1)】農家や農業経営について課題と感ずること	13	【グループワーク(3)】課題に対して学生や若者ができること
6	農家・法人などの経営のパターン	14	まとめ(グループの発表と意見交換会)
7	新規就農の動向	15	農業等の調査の手法とレポートのまとめ方について
8	新たな農業経営の取組み(その1)		
評価方法	期末レポート(100%)。受験条件は、講義後の意見シートを7回以上提出して自分の意見を記述、及び、2・3回目のグループワークでの予習シート提出、発言		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし。PPTを打ち出した資料等を配布する。		
参考文献	週刊ダイヤモンド編「農業入門」ダイヤモンド社、2009年など(講義で紹介)		
実験・実習・教材費	—		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I342
資源循環型社会領域科目	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	環境に配慮した企業経営
かつて深刻な公害を引き起こし、地域住民に多大な健康被害を与えてきた企業は、現在進行している環境革命のもとで、戦略的にも企業存続のためにも環境に配慮した企業経営へと大きく変貌しつつある。その歴史的背景と環境市場の動向、開発された環境経営の諸ツールを分析して環境経営のあり方を展望する。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
わが国企業の環境経営へ至る歴史的発展を外観したうえで、環境経営を促進する環境市場の形成、環境経営を支える環境管理システム、LCA、グリーン調達、環境会計、ゼロエミッションなどの主要なツールを取り上げて、環境に配慮した企業経営のあり方を考える。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
前提とする科目	資源循環の法律と政策
①環境経営 ②足尾銅山鉱毒事件 ③熊本水俣病 ④企業の社会的責任 ⑤企業の環境倫理 ⑥環境管理システム ⑦LCA ⑧環境会計 ⑨ゼロエミッション ⑩グリーン調達	
到達目標	
展開科目	なし
関連資格	なし
日本企業の環境経営に至る経緯と背景、原則と戦略、諸ツールを理解する。	
担当教員名	吉野敏行

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	ISO14000シリーズと環境管理システム
2	環境経営とは	10	LCA・環境ラベル
3	戦前から高度経済成長までの環境敵視型形成	11	グリーン調達、グリーン電力証、CO2排出権
4	石油危機以後の環境回避・便乗型経営	12	化学物質管理とPRTR、リスク管理
5	バブル経済以後の環境遵守型経営	13	ゼロエミッション
6	21世紀の環境創造・自発型経営	14	環境報告書、環境会計
7	グリーン・コンシューマと環境市場の形成	15	諸産業の環境経営
8	グリーン税制・グリーン金融		
評価方法	期末試験にもとづき評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	山口民雄『環境経営への軌跡』(日刊工業新聞社) 三橋規宏『日本経済・グリーン国富論』(東洋経済)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目		
科目コード	I337		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業科目名	植物形態実習		
授業のテーマ	植物の形態観察の基礎知識と技能を習得することで、図鑑を使いこなせる能力を養成する。図鑑の記載文の読解力および図鑑の検索表の読解力を養うことで、同定能力を身につける。さらに、毎木調査の技能を養成することで、野外調査の基本的な方法を身につける。これらの技能を卒業研究において活用する。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	実習		
科目のキーワード	被子植物の花器官を材料にした双眼実体顕微鏡による形態観察(両性花, 単性花, 単花被花, 無花被花, キク科, イネ科, スゲ属, 果実など)、植物の採集, 植物標本の作製実習、植物図鑑を用いた同定実習、野外における毎木調査実習。		
必修・選択	コース選択		
前提とする科目	基礎生物学		
到達目標			
展開科目	なし		
関連資格	なし		
担当教員名	藤井伸二		
双眼実体顕微鏡の操作技術の習得, 形態についての基礎知識の習得, 形態用語と実物との対応の理解, 植物の形態観察技能の習得, 植物図鑑を使った植物種の同定技能の習得, 毎木調査の方法および技能の習得			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	顕微鏡の使い方	9	スゲ属の構造
2	両性花の構造	10	標本採集
3	単性花の構造	11	標本作製
4	キク科の花構造	12	同定
5	タデ科の花構造	13	毎木調査1:常緑性二次林
6	イネ科の花構造	14	毎木調査2:落葉性二次林
7	無花被花の構造	15	毎木調査3:データ解析
8	果実の構造		
評価方法	レポート(100%)による。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	岩瀬徹・大野啓一、「写真で見る植物用語」、全国農村教育協会。2,200円(税別、各自で購入のこと)。		
参考文献	1)佐竹義輔他、「フィールド版日本の野生植物-草本」、平凡社、7,800円(税別)。 2)佐竹義輔他、「フィールド版日本の野生植物-木本」、平凡社、6,602円(税別)。		
実験・実習・教材費	7000円		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目
科目コード	I235
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業科目名	基礎分析化学実験
授業のテーマ	化学分析の基本である容量分析の技術と知識を習得する。ホールピペット、ビュレット、メスフラスコなどの測容器の使用法、洗浄法を修得するとともに、これらの器具の検定を電子天秤と秤量瓶を用いて行なう。さらに、環境試料を採取し、水質測定を行なう。また、これらのデータの統計処理方法を修得する。レポート指導を通じて科学論文の書き方を学ぶ。
単位数	2
授業の概要	
授業形態	実習
ガラス器具の検定や試薬の調製法を学ぶ。大学近隣のため池で水を採取し、水質測定を行なう。実験は各回の積み重ねであるので、欠席すると次回の実験の際に危険が伴う可能性がある。休まず出席すること。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
前提とする科目	大気・土・水の測定的基础実習 基礎化学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
到達目標	①化学実験 ②データ処理 ③レポート作成
展開科目	環境分析化学実験Ⅰ
関連資格	なし
担当教員名	藤井芳一
化学実験の基本的な手法とレポート作成法を習得する。	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス、実験を行なうにあたっての諸注意	9	レポート指導
2	pHとECの測定(原理と方法)、及び採水準備。	10	猿田池のアルカリ度の測定
3	採水、及び現地水質測定(猿田池)	11	レポート指導、アルカリ度の解説
4	電子天秤の使用法	12	COD測定:過マンガン酸カリウムの標定
5	データの統計処理	13	COD測定:CODの測定意義と原理について解説
6	レポート指導	14	COD測定:猿田池のCOD測定
7	ビュレットの使用法と1滴の体積	15	COD測定:レポート指導
8	メスフラスコの使用法、シュウ酸標準溶液の調製		
評価方法	課題実験と最終レポートによって評価する。実験の都度に科す各レポート課題を各回提出していることが、最終レポートを提出するための条件である。		
評価基準	学習目標をほぼ完全に達成している……………	評語	S
	学習目標を相応に達成している……………		A
	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B
	学習目標の最低限は満たしている……………		C
	学習目標の最低限を満たしていない……………		D
教科書			
参考文献	実験の際にその都度紹介する。		
実験・実習・教材費	実験・実習・教材費:実験試薬及び消耗品代として30,000円。白衣(3,000円程度)は別途購入が必要。		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	自然環境領域科目
科目コード	I346
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業科目名	環境分析化学実験 I
授業のテーマ	実験計画を立て、これに基づき、器具の準備、試薬調製、試料水の採取、そして成分分析の一連の操作が行なえる力を養成する。 本演習では水質汚濁指標の生物化学的酸素要求量の測定を行なう。この成分の測定は基礎化学実験で修得した技術を応用して行なうことができる。
単位数	2
授業の概要	
授業形態	実習
大学の河川で水を採取し、BODの測定を行なう。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①化学実験 ②水質測定 ③野外観測 ④レポート作成	
前提とする科目	基礎分析化学実験
到達目標	
展開科目	環境分析化学実験 II
関連資格	なし
実験書さえ与えられればそれを参考にして、各自で実験を行なうことができる。	
担当教員名	藤井芳一

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	BOD標準物質を用いた試験操作の確認(D00)
2	BODについて	10	BOD標準物質を用いた試験操作の確認(D07)
3	試薬の濃度確認	11	データの検討
4	フローチャートの書き方、試薬の調製	12	乙川におけるBODの測定(D00):終日実験
5	試薬の調製:A液、B液、C液、グルコース-グルタミン酸混合標準液	13	レポートの書き方
6	試薬の調製:硫酸マンガン(II)溶液、アルカリ性ヨウ化カリウム溶液、1/120 M ヨウ素酸カリウム溶液	14	乙川におけるBODの測定(D08):データの検討
7	試薬の調製:デンプン溶液、0.025 M チオ硫酸ナトリウム溶液、硫酸(1+2)	15	レポート指導
8	チオ硫酸ナトリウム溶液の標定		

評価方法 実施してきた操作の総集として最後に提出する最終レポートを元に評価する。実験の都度に科す各レポート課題を各回提出していることが、最終レポートを提出するための条件である。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	片山幸士・木曾祥秋編著『ベーシック分析化学実験』化学同人2,000円(初回のガイダンスの際に購入について指示をする。)
参考文献	必要に応じて、その都度示す。
実験・実習・教材費	30,000円(実験試薬及び消耗品)

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I347
自然環境領域科目	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	環境分析化学実験Ⅱ
機器分析に必要な基礎的な知識と技術を修得する。 測定の対象物質であるリン酸は、環境化学実験Ⅰで扱った生物化学酸素要求量と同様、水質汚濁の指標の一つである。この物質を、分光光度計を用いて、モリブデン青法により分析する。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	実習
分光光度計を使用して、環境水中のリン酸濃度を測定する。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①機器分析 ②水質測定 ③データ処理 ④レポート作成	
前提とする科目	環境分析化学実験Ⅰ
到達目標	
展開科目	なし
関連資格	なし
分析機器の基本的な扱いについて習得する。	
担当教員名	藤井芳一

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス, モリブデン青法のデモンストレーション	9	リン濃度とモリブデン青の吸光度の関係
2	リンについて①(富栄養化とリン, 水中のリンの形態)	10	データ整理
3	リンについて②(生体内でのリンの形態と役割)	11	環境水中のリン酸態リンの定量
4	試薬調製	12	レポートの書き方について事前指導
5	試薬調製	13	レポート指導
6	モリブデン青の吸収スペクトルの測定	14	データ整理
7	データ整理	15	レポート指導
8	モリブデン青の吸光度の時間変化		

評価方法 実施してきた操作の総集として最後に提出するレポートを元に評価する実験の都度に課す各レポート課題を各回提出していることが、最終レポートを提出するための条件である。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書 片山幸士・木曾祥秋編著『ベーシック分析化学実験』化学同人2,000円(初回のガイダンスの際に購入について指示をする。)

参考文献 必要に応じて、その都度示す。

実験・実習・教材費 30,000円(実験試薬及び消耗品)

科目目標															
学科	自然・社会環境専攻 環境コース														
カリキュラムの中での位置づけ	基礎的知識・技術を修得する科目														
科目コード	I209														
講義の目的															
学年・期	2年・前期														
授業のテーマ	農地を理解する上で環境要素を数値データとして知ることは重要である。そのため、土壌の物理化学性、水の挙動、及び気象について基本的な測定手法を修得し、そのデータから環境の状態を判断できるようになることを目的とする。また、得られたデータを人に伝えるために必要なレポート作成技術を学ぶ。														
授業科目名	大気・土・水の測定の基礎実習 (Aグループ)														
単位数	2														
授業の概要	大気・土・水の物理性及び化学性の測定を3回ずつ行う。物理性として土壌、気象、蒸散量を扱い、化学性としてpH、電気伝導度(EC)、有機物について実習を行なう。人数の都合上、授業の計画の物理性の測定を先に実施するグループ(Aグループ)と、化学性の測定を先に実施するグループ(Bグループ)の2グループに分かれる。本シラバスはAグループ用である。実習は各回の積み重ねであるので、欠席すると次回の実習の際に危険が伴う可能性がある。休まず出席すること。														
授業形態	実習														
必修・選択	コース必修														
科目のキーワード	①報告書の構成 ②目的と結論 ③方法と結果 ④土壌化学性の測定 ⑤土壌物理性の測定 ⑥気象計測 ⑦植物の蒸散量の測定 ⑧純水 ⑨モデル物質 ⑩土壌抽出水														
前提とする科目	基礎化学 I 基礎数学														
到達目標															
展開科目	基礎分析化学実験														
関連資格	なし														
それぞれの環境測定によって、得られたデータから環境状態を判断できる。得たデータについて、どのような目的でどのようにしてどんな結果を得たのかをレポートにまとめて報告ができる。															
担当教員名	守村敦郎 藤井芳一														
授業計画															
回	主題	回	主題												
1	ガイダンス、グループ分け、レポートの全体構成について	9	レポート指導④: 全体構成、目的と結論、タイトル、結果の書き方の確認。測定原理の解説												
2	物理性の測定①: 土壌の物理性の測定	10	化学性の測定②: ECの測定												
3	レポート指導①: 結論と目的の書き方、タイトルの決め方。測定原理の解説	11	レポート指導⑤: 方法の書き方について。測定原理の解説												
4	物理性の測定②: 農場・地域の気象計測	12	化学性の測定③: 有機物の測定												
5	レポート指導②: 結果の書き方。測定原理の解説	13	レポート指導⑥: 目的と結論、タイトル、結果、方法の書き方の確認。測定原理の解説												
6	物理性の測定③: 植物の蒸散量の測定	14	物理性の測定④: まとめの実験												
7	レポート指導③: 全体構成、目的と結論、タイトル、結果の書き方の確認。測定原理の解説	15	化学性の測定④: まとめの実験												
8	化学性の測定①: pHの測定														
評価方法	筆記試験とまとめの実習のレポートによって評価する。計6回の実習の都度課されるレポート課題を4回以上提出していることが、最終レポートを提出するための条件である。														
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価基準</th> <th>評語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習目標をほぼ完全に達成している……………</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成している……………</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限は満たしている……………</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限を満たしていない……………</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table>			評価基準	評語	学習目標をほぼ完全に達成している……………	S	学習目標を相応に達成している……………	A	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B	学習目標の最低限は満たしている……………	C	学習目標の最低限を満たしていない……………	D
評価基準	評語														
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S														
学習目標を相応に達成している……………	A														
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B														
学習目標の最低限は満たしている……………	C														
学習目標の最低限を満たしていない……………	D														
教科書	なし														
参考文献	実習中にその都度提示する。														
実験・実習・教材費	3,000円(実験消耗品代として)														



科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	基礎的知識・技術を修得する科目
科目コード	I209
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業のテーマ	農地を理解する上で環境要素を数値データとして知ることは重要である。そのため、土壌の物理化学性、水の挙動、及び気象について基本的な測定手法を修得し、そのデータから環境の状態を判断できるようになることを目的とする。また、得られたデータを人に伝えるために必要なレポート作成技術を学ぶ。
授業科目名	大気・土・水の測定の基礎実習 (Bグループ)
授業の概要	大気・土・水の物理性及び化学性の測定を3回ずつ行う。物理性として土壌、気象、蒸散量を扱い、化学性としてpH、電気伝導度(EC)、有機物について実習を行なう。人数の都合上、授業の計画の物理性の測定を先に実施するグループ(Aグループ)と、化学性の測定を先に実施するグループ(Bグループ)の2グループに分かれる。本シラバスはBグループ用である。実習は各回の積み重ねであるので、欠席すると次回の実習の際に危険が伴う可能性がある。休まず出席すること。
単位数	2
授業形態	実習
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	①報告書の構成 ②目的と結論 ③方法と結果 ④土壌化学性の測定 ⑤土壌物理性の測定 ⑥気象計測 ⑦植物の蒸散量の測定 ⑧純水 ⑨モデル物質 ⑩土壌抽出水
前提とする科目	基礎化学 I 基礎数学
到達目標	
展開科目	基礎分析化学実験
関連資格	なし
それぞれの環境測定によって、得られたデータから環境状態を判断できる。得たデータについて、どのような目的でどのようにしてどんな結果を得たのかをレポートにまとめて報告ができる。	
担当教員名	守村敦郎 藤井芳一

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス、グループ分け、レポートの全体構成について	9	レポート指導④: 全体構成、目的と結論、タイトル、結果の書き方の確認。測定原理の解説
2	化学性の測定①: pHの測定	10	物理性の測定②: 農場・地域の気象計測
3	レポート指導①: 結論と目的の書き方、タイトルの決め方。測定原理の解説	11	レポート指導⑤: 方法の書き方について。測定原理の解説
4	化学性の測定②: ECの測定	12	物理性の測定③: 植物の蒸散量の測定
5	レポート指導②: 結果の書き方。測定原理の解説	13	レポート指導⑥: 目的と結論、タイトル、結果、方法の書き方の確認。測定原理の解説
6	化学性の測定③: 有機物の測定	14	化学性の測定④: まとめの実験
7	レポート指導③: 全体構成、目的と結論、タイトル、結果の書き方の確認。測定原理の解説	15	物理性の測定④: まとめの実験
8	物理性の測定①: 土壌の物理性の測定		

**評価方法** 筆記試験とまとめの実験のレポートによって評価する。計6回の実習の都度課されるレポート課題を4回以上提出していることが、最終レポートを提出するための条件である。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	実習中にその都度提示する。
実験・実習・教材費	3,000円(実験消耗品代として)

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	基礎的知識・技術を修得する科目		
科目コード	I210		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	農業基礎実習 I		
授業の概要	野菜栽培に必要な土壌管理法、施肥法、農薬の使用法、及び野菜の特性に基づく栽培管理法を春から夏に栽培する野菜で習得する。		
単位数	2		
授業の概要	野菜ほ場を整備し、春夏野菜を育苗して順次植え付け、栽培を行う。直接畑には種する野菜は栽培適期に順次は種を行っていく。多くの野菜の栽培を経験し、作業内容を農業日誌に記録することで、野菜栽培の手法を理解する。小グループ毎に与えられた小区画のほ場で、協力して野菜を栽培する。		
授業形態	実習		
科目のキーワード			
必修・選択	コース必修		
①野菜栽培 ②農具 ③農業機械 ④肥料 ⑤土壌改良材 ⑥農薬 ⑦除草 ⑧整枝・剪定 ⑨収穫 ⑩農業日誌			
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	環境保全型農業実習 I・II		
関連資格	なし		
春夏野菜の栽培方法を理解し、自らの手で育て、収穫することができる。ほ場の整備方法、土壌改良材の施用と施肥の方法、農薬・殺虫剤の散布の方法、農業資材の利用方法、間引き、中耕、除草の方法がわかる。			
担当教員名	菅原真治		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	農具・農業機械の使用法 スイートコーンのプラグは種	9	農薬散布の方法 殺虫剤・殺菌剤・除草剤の使用法
2	土壌改良材・有機物・元肥の施用 耕耘 畦作り	10	スイートコーンの収穫・試食
3	果菜類(トマト、ナス、ピーマン)の植え付け	11	エンドウ、ソラマメの片付け、残さ処理
4	スイカ、カボチャ、スイートコーンの植え付け	12	ダイズの畦作り、は種
5	サツマイモの畦作り、サツマイモの植え付け	13	果菜類(トマト、ナス、トウガラシ)の収穫・試食
6	中耕・除草・追肥 ほ場の排水対策 果菜類の支柱作り	14	果菜類の収穫・試食 キャベツなどのプラグは種
7	エンドウ、ソラマメの収穫 果菜類の交配・ホルモン処理	15	スイートコーン、果菜類の畑の片付け
8	スイカ・カボチャの整枝・誘引・敷きわら		
評価方法	レポート(100%)により評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	実習費 10,000円。その他、屋外で作業できる服装、軍手、タオル、飲料水を各自準備すること。		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目
科目コード	I217
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業のテーマ	野菜栽培に必要な土壌管理法、施肥法、農薬の使用法、及び野菜の特性に基づく栽培管理法を秋から冬に栽培する野菜で習得する。
授業科目名	農業基礎実習Ⅱ
単位数	2
授業の概要	秋野菜を育苗して順次植え付け、栽培を行う。直接畑には種する野菜は栽培適期に順次は種を行っていく。多くの野菜の栽培を経験し、作業内容を農業日誌に記録することで、夏から秋にかけての季節変化に伴う野菜栽培の手法を理解する。小グループ毎に与えられた小区画のほ場で、協力して野菜を栽培する。
授業形態	実習
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	①野菜栽培 ②農業日誌 ③栽培計画 ④施肥 ⑤防寒対策 ⑥定植 ⑦収穫 ⑧貯蔵 ⑨農薬散布 ⑩栽培資材
前提とする科目	農業基礎実習Ⅰ
到達目標	
展開科目	環境保全型農業実習Ⅰ・Ⅱ
関連資格	なし
秋野菜の栽培方法を理解し、自らの手で育て、収穫することができる。土壌改良材の施用と施肥の方法、農薬・殺虫剤の散布の方法、農業資材の利用方法、食材としての野菜の使用法、栽培計画の立て方がわかる。	
担当教員名	菅原真治

授業計画															
回	主題	回	主題												
1	野菜畑の整備と堆肥施用・施肥 キャベツなどの定植	9	タマネギの施肥・畦たて・マルチ・定植												
2	ダイコン・カブの施肥・は種 春キャベツのプラグは種	10	トンネルの中への種まき(ハウレンソウ・コマツナなど)												
3	レタスの畦作り・マルチ・定植	11	キャベツ・ブロッコリー・カリフラワーの収穫												
4	ダイコンの間引き ハクサイの間引き 追肥・農薬散布	12	ダイコンの収穫と切り干しダイコンの作り方												
5	サツマイモ収穫・試食 春キャベツの施肥・畦作り・定植	13	ハクサイの収穫と玉の結束												
6	ハウレンソウなどの施肥・畦作り・マルチ・は種	14	野菜の防寒対策 春ダイコンのは種												
7	ダイコンの中耕除草・追肥 ダイズの収穫乾燥	15	エンドウの支柱作り 野菜の栽培計画と品種の選定												
8	エンドウ・ソラマメの施肥・畦作り・は種														
評価方法	レポート(100%)により評価する。														
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価基準</th> <th>評語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習目標をほぼ完全に達成している……………</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成している……………</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限は満たしている……………</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限を満たしていない……………</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table>			評価基準	評語	学習目標をほぼ完全に達成している……………	S	学習目標を相応に達成している……………	A	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B	学習目標の最低限は満たしている……………	C	学習目標の最低限を満たしていない……………	D
評価基準	評語														
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S														
学習目標を相応に達成している……………	A														
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B														
学習目標の最低限は満たしている……………	C														
学習目標の最低限を満たしていない……………	D														
教科書	なし														
参考文献	なし														
実験・実習・教材費	実習費 10,000円。その他、屋外で作業できる服装、軍手、タオル、飲料水を各自準備すること。														

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目		
科目コード	I339		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境保全型農業実習 I		
農業基礎実習I・IIでの学びの内容をふまえ、環境とのつながりをより意識した農業のあり方について考えるとともに、自営の足がかりとなる必要な知識と技能を習得する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	実習		
本実習では環境保全型農業と称される枠組みのなかで、とくに農薬や化学肥料を用いない栽培管理手法を取り入れ、水稻栽培を主体とした栽培実習を行う(野菜栽培も行う)。農業基礎実習で修得した栽培技術を向上させ、低環境負荷であることを指向した農業の利点と課題とを身をもって学ぶとともに、農作物の利用や加工についても理解を深める。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	農業基礎実習 I・II 環境保全型農業概論 野菜と穀物の育て方		
到達目標			
展開科目	環境保全型農業実習 II		
関連資格	なし		
基本的な栽培技術を身につけ、立地条件や時候等に応じ自らその方法を工夫することができる。必要な栽培知識や加工知識を自ら調べ、実践することができる。農業を営むことによる環境負荷について物質循環や生態系の観点から理解し、それを軽減する方法を既存の栽培体系の中に取り入れることができる。			
担当教員名	守村敦郎		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス, 圃場整備	9	水田の管理
2	圃場整備, 水稻の育苗	10	外部施設見学
3	果菜類の植付け	11	水稻の中干し
4	果菜類の管理	12	ダイズの畝作り, 播種
5	代かき	13	果菜類の収穫
6	田植え	14	秋冬野菜の播種
7	中耕, 除草, 追肥	15	穂肥施用, 片付け
8	果菜類の管理		
評価方法	レポート(100%)で評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	池田英男・川城英夫, 『新版 野菜栽培の基礎(農学基礎セミナー)』, 農山漁村文化協会, 1,857円+税		
実験・実習・教材費	実習費 10,000円。その他、屋外で作業できる服装、軍手、タオル、飲料水を各自準備すること。		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	農業領域科目		
科目コード	I343		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境保全型農業実習 II		
農業基礎実習I・IIでの学びの内容をふまえ、環境とのつながりをより意識した農業のあり方について考えるとともに、自営の足がかりとなる必要な知識と技能を習得する。			
単位数	2		
授業の概要	本実習では環境保全型農業と称される枠組みのなかで、とくに農薬や化学肥料を用いない栽培管理手法を取り入れ、水稲栽培を主体とした栽培実習を行う(野菜栽培も行う)。農業基礎実習で修得した栽培技術を向上させ、低環境負荷であることを指向した農業の利点と課題とを身をもって学ぶとともに、農作物の利用や加工についても理解を深める。		
授業形態	実習		
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
①環境保全型農業 ②水稲栽培 ③灌漑 ④排水 ⑤れんげ米 ⑥圃場整備 ⑦野菜栽培 ⑧施肥 ⑨農産物加工 ⑩貯蔵			
前提とする科目	農業基礎実習 I・II 環境保全型農業実習 I 環境保全型農業概論 野菜と穀物の育て方		
到達目標			
展開科目	環境コース演習 III		
関連資格	なし		
基本的な栽培技術を身につけ、立地条件や時候等に応じ自らその方法を工夫することができる。必要な栽培知識や加工知識を自ら調べ、実践することができる。農業を営むことによる環境負荷について物質循環や生態系の観点から理解し、それを軽減する方法を既存の栽培体系の中に取り入れることができる。			
担当教員名	守村敦郎		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	圃場整備	9	秋冬野菜の管理
2	秋冬野菜の播種	10	外部施設見学
3	れんげの播種	11	ジャム作り
4	稲刈り	12	みそ作り
5	秋冬野菜の管理	13	秋冬野菜の収穫、貯蔵
6	脱穀、粃すり	14	秋冬野菜の収穫
7	ダイズの収穫、乾燥	15	片付け
8	ブルーベリーの植付け		
評価方法	レポート(100%)で評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	池田英男・川城英夫、『新版 野菜栽培の基礎(農学基礎セミナー)』, 農山漁村文化協会, 1,857円+税		
実験・実習・教材費	実習費 10,000円。その他、屋外で作業できる服装、軍手、タオル、飲料水を各自準備すること。		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	I303		
卒業研究関連科目			
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境コース演習(卒業研究) I		
今期から2年間にわたって卒業研究を進める。卒業研究は、事実(情報・データなど)を集めて、事実に基づいて考える、そして、事実と考えを他者に伝えるという、重要な能力を修得することを目的にしている。今期はまず、卒業研究の進め方を知ることと、どのような研究テーマに取り組みたいかを考えることを中心に進める。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
4年生の研究を聞くことで、卒業研究の進め方を知る。また、興味ある文献を読み、紹介する。必要に応じて、卒業研究に必要な観測・測定技術を習得する。最終的には、仮テーマを決め、目的と方法と予想される成果をレポートにまとめる。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	環境文献講読 環境情報実習		
研究の進め方 設備 文献 仮テーマ 論文の構成 プレゼンテーション			
展開科目	環境コース演習(卒業研究) II		
到達目標			
関連資格	なし		
仮テーマを決め、目的と方法と予想される成果をまとめることができる。			
担当教員名	長井・守村・藤井芳		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	2年間の研究の進め方	9	興味ある研究論文の内容紹介
2	過去の卒業研究/教員の研究テーマの紹介—どのような研究が可能なのか。	10	興味ある研究論文の内容紹介
3	過去の卒業研究/教員の研究テーマの紹介—どのような研究が可能なのか。	11	興味ある研究論文の内容紹介
4	文献の探し方	12	仮テーマの紹介
5	研究室の設備の紹介	13	仮テーマの紹介
6	研究室の設備の紹介	14	仮テーマの紹介
7	興味ある研究論文の内容紹介	15	仮テーマの紹介
8	興味ある研究論文の内容紹介		
評価方法	期末レポート(100%)により行う。ただし、学期中に課すレポート提出と発表を行うことが受験の条件である。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	3,000円		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I303
卒業研究関連科目	
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	環境コース演習(卒業研究) I
環境分野における問題意識の深化と政策形成能力、プレゼンテーション能力の向上を図りながら4年次の卒業論文のテーマ設定の準備を行う。活発な討議を通じて参加者の問題意識の共有化と知識の深化を図る。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	演習
問題意識の形成、調査研究のテーマ設定、研究計画書の作成、データ・資料の収集、分析手法の発見、フィールドワークの実施、中間報告と段階的な作業を通じて、調査研究の作法を身につける。発表に当たっては、パワーポイントで作成したスライド発表を行う。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	環境文献講読 環境情報実習
①問題意識 ②課題抽出 ③調査研究テーマ ④研究計画書 ⑤データ・資料 ⑥分析手法 ⑦中間発表 ⑧フィールドワーク ⑨パワーポイント ⑩プレゼンテーション	
到達目標	
展開科目	環境コース演習(卒業研究) II
関連資格	なし
問題意識の深化と有益な調査研究テーマの設定、必要なデータ・資料の収集と有効な分析手法を見つけ出す。	
担当教員名	吉野敏行

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	研究計画書の作成 (仮説の提案)
2	問題意識の形成 (討議)	10	中間報告(1) (資料収集と分析手法)
3	調査研究テーマの設定 (課題抽出)	11	中間報告(2) (資料収集と分析手法)
4	調査研究テーマの設定 (課題抽出)	12	中間報告(3) (資料収集と分析手法)
5	調査研究テーマの設定 (課題抽出)	13	中間報告(4) (資料収集と分析手法)
6	研究計画書の作成 (仮説の提案)	14	中間報告(5) (資料収集と分析手法)
7	研究計画書の作成 (仮説の提案)	15	フィールドワークの準備
8	研究計画書の作成 (仮説の提案)		

評価方法	期末試験(100%)：期末試験はレポート試験とする。
------	----------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	卒業研究関連科目		
科目コード	I303		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境コース演習(卒業研究) I		
卒業研究の基礎・準備			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
2カ年にわたる卒業研究の準備の為の各種の知識や能力、方法を身につける			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
①卒業研究 ②ゼミ ③レジュメ ④文献調査 ⑤学問的方法論 ⑥分析 ⑦解釈 ⑧表現 ⑨批判 ⑩プレゼンテーション			
前提とする科目	環境文献講読 環境情報実習		
到達目標			
展開科目	環境コース演習(卒業研究) II		
卒業研究の準備段階として、必要な能力、方法、知識を獲得する。			
関連資格	なし		
担当教員名	内藤可夫		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	演習授業について	9	ゼミナール1
2	演習授業について2	10	ゼミナール2
3	演習授業について3	11	ゼミナール3
4	演習授業について4	12	ゼミナール4
5	演習授業について5	13	ゼミナール5
6	文献調査について	14	ゼミナール6
7	学問的な厳密さと臆見	15	まとめ
8	非科学的な文献への注意		
評価方法	プレゼンテーション、レポートおよびプロトコル		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	適宜指示		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 環境コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	I303	卒業研究関連科目
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	環境コース演習(卒業研究) I	授業のテーマ
単位数	2	4年間の学究の集大成としての卒業研究をおこなう。テーマは生物多様性およびそれに関連した課題が中心。
授業形態	演習	授業の概要
必修・選択	コース必修	教科書に関して各自が自身で選んだテーマについて調査・研究を行い、ゼミ形式での発表を行う。その内容について議論する。
前提とする科目	環境文献講読 環境情報実習	科目のキーワード
展開科目	環境コース演習(卒業研究) II	①自発性 ②積極性 ③計画力 ④実行力 ⑤論理性 ⑥思考力 ⑦記述力 ⑧表現力 ⑨演習 ⑩卒業研究
関連資格	なし	到達目標
担当教員名	藤井伸二	卒業研究を通じて、自発性、積極性、計画力、実行力、論理性、思考力、記述力、表現力を培う。

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス1	9	プレゼンテーションと議論7
2	ガイダンス2	10	プレゼンテーションと議論8
3	プレゼンテーションと議論1	11	プレゼンテーションと議論9
4	プレゼンテーションと議論2	12	プレゼンテーションと議論10
5	プレゼンテーションと議論3	13	プレゼンテーションと議論11
6	プレゼンテーションと議論4	14	プレゼンテーションと議論12
7	プレゼンテーションと議論5	15	プレゼンテーションと議論13
8	プレゼンテーションと議論6		

評価方法	レポート(100%)による。
------	----------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	鷲谷いづみ・矢原徹一、「保全生態学入門—遺伝子から景観まで」、文一総合出版、3,000円(税別)
参考文献	リチャード B. プリマック・小堀洋美、「保全生物学のすすめ 改訂版」、文一総合出版、3,800円(税別)
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	卒業研究関連科目		
科目コード	I304		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境コース演習(卒業研究)Ⅱ		
今期は卒業研究テーマを決め、そのテーマに取り組む必要性を他人に伝えることを最終目標に演習を進める。このことは、就職活動や院進学の場合でも大いに役立つ。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
関連文献を探して読み、紹介する中で、興味をしばっていく。本テーマを決めた後は、背景と目的、研究手法、そして、予想される成果をまとめて発表し、レポートにまとめる。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	環境コース演習(卒業研究)Ⅰ		
研究テーマ 研究目的 研究の必要性 研究手法 成果の予想 文献調査 プレゼンテーション			
到達目標			
展開科目	環境コース演習(卒業研究)Ⅲ		
関連資格	なし		
本テーマを決め、背景と目的と方法と予想される成果をまとめることができる。			
担当教員名	長井・守村・藤井芳		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	文献紹介	9	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想
2	文献紹介	10	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想
3	文献紹介	11	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想
4	文献紹介	12	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想
5	文献紹介	13	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想
6	文献紹介	14	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想
7	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想	15	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想
8	本テーマの決定－研究の必要性、目的、手法、成果予想		
評価方法	期末レポート(100%)により行う。ただし、学期中に課すレポート提出と発表を行うことが受験の条件である。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	3,000円		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I304
卒業研究関連科目	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	環境コース演習(卒業研究)Ⅱ
環境分野における問題意識の深化と政策形成能力、プレゼンテーション能力の向上を図りながら4年次の卒業論文のテーマ設定の準備を行う。活発な討議を通じて参加者の問題意識の共有化と知識の深化を図る。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	演習
前期に設定した調査研究のテーマに基づき、収集したデータ・資料の分析と推論、中間報告、仮説検証と結論、最終報告と段階的な作業を通じて、調査研究の作法や政策形成能力、プレゼンテーション能力を身につける。発表に当たっては、パワーポイントで作成したスライド発表を行う。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
①データ・資料 ②分析 ③推論 ④中間報告 ⑤仮説 ⑥検証 ⑦結論 ⑧最終報告 ⑨政策形成 ⑩プレゼンテーション	
前提とする科目	環境コース演習(卒業研究)Ⅰ
到達目標	
展開科目	環境コース演習(卒業研究)Ⅲ
関連資格	なし
データ・資料の分析、仮説の検証、有効な結論を得て、政策形成能力やプレゼンテーション能力が向上する。	
担当教員名	吉野敏行

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	最終報告 (仮説の検証とまとめ)
2	中間報告(2) (資料分析と推論)	10	最終報告 (仮説の検証とまとめ)
3	中間報告(3) (資料分析と推論)	11	最終報告 (仮説の検証とまとめ)
4	中間報告(4) (資料分析と推論)	12	最終報告 (仮説の検証とまとめ)
5	中間報告(5) (資料分析と推論)	13	最終報告 (仮説の検証とまとめ)
6	中間報告(6) (資料分析と推論)	14	最終報告 (仮説の検証とまとめ)
7	中間報告(7) (資料分析と推論)	15	まとめと反省
8	最終報告 (仮説の検証とまとめ)		

評価方法	期末試験(100%)：期末試験はレポート試験とする。
------	----------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 環境コース		
カリキュラムの中での位置づけ	卒業研究関連科目		
科目コード	I304		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	環境コース演習(卒業研究)Ⅱ		
卒業研究の基礎			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
2カ年にわたる卒業研究の各種の知識や能力、方法を身につける			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	環境コース演習(卒業研究)Ⅰ		
①卒業研究 ②ゼミ ③レジュメ ④文献調査 ⑤学問的方法論 ⑥分析 ⑦解釈 ⑧表現 ⑨批判 ⑩プレゼンテーション			
到達目標			
展開科目	環境コース演習(卒業研究)Ⅲ		
卒業研究に必要な能力、方法、知識を獲得する。			
関連資格	なし		
担当教員名	内藤可夫		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ゼミナール1	9	ゼミナール9
2	ゼミナール2	10	ゼミナール10
3	ゼミナール3	11	ゼミナール11
4	ゼミナール4	12	ゼミナール12
5	ゼミナール5	13	ゼミナール13
6	ゼミナール6	14	ゼミナール14
7	ゼミナール7	15	ゼミナール15
8	ゼミナール8		
評価方法	プレゼンテーション、レポートおよびプロトコル		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	適宜指示		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 環境コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	I304
卒業研究関連科目	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	環境コース演習(卒業研究)Ⅱ
4年間の学究の集大成としての卒業研究をおこなう。テーマは生物多様性およびそれに関連した課題が中心。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	演習
教科書の中から各自が自身で選んだテーマについて調査・研究を行い、ゼミ形式での発表を行う。その内容について議論する。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
①自発性 ②積極性 ③計画力 ④実行力 ⑤論理性 ⑥思考力 ⑦記述力 ⑧表現力 ⑨演習 ⑩卒業研究	
前提とする科目	環境コース演習(卒業研究)Ⅰ
到達目標	
展開科目	環境コース演習(卒業研究)Ⅲ
関連資格	なし
卒業研究を通じて、自発性、積極性、計画力、実行力、論理性、思考力、記述力、表現力を培う。	
担当教員名	藤井伸二

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス1	9	プレゼンテーションと議論7
2	ガイダンス2	10	プレゼンテーションと議論8
3	プレゼンテーションと議論1	11	プレゼンテーションと議論9
4	プレゼンテーションと議論2	12	プレゼンテーションと議論10
5	プレゼンテーションと議論3	13	プレゼンテーションと議論11
6	プレゼンテーションと議論4	14	プレゼンテーションと議論12
7	プレゼンテーションと議論5	15	プレゼンテーションと議論13
8	プレゼンテーションと議論6		

評価方法	レポート(100%)による。
------	----------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	次の2冊を併用する: 種生物学会, 「種間関係の生物学」, 文一総合出版, 4,000円(税別), 種生物学会, 「外来生物の生態学」, 文一総合出版, 3,800円(税別),
-----	--

参考文献	濱尾章二. フィールドの観察から論文を書く方法. 文一総合出版(1,200円, 税別)
------	---

実験・実習・教材費	なし
-----------	----

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	社会・経済・企業におけるお金の流れを理解する基礎科目		
科目コード	J101		
講義の目的			
学年・期	1年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	経営学概論		
経営学に関心がある学生向けとしてだけでなく、大学生のキャリア教育の基礎—社会人としての必須教養—として、経営学の基本的用語と入門的知識を修得する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
専門用語や概念について、それぞれの名称と内容を知る。次にそれを自分の言葉で説明、論述できる水準に達するために、要点をまとめ記憶を促す。実際の企業を事例にして解説する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	なし		
①日本の経営 ②グローバル経営 ③モチベーション ④情報発信力 ⑥経営戦略 ⑦トヨタ生産方式 ⑧SCM ⑨イノベーション ⑩IT化			
到達目標			
展開科目	経営学文献講読Ⅰ・Ⅱ、経営学英語文献講読Ⅰ・Ⅱ		
関連資格	なし		
日本や地域の経済や企業に関する報道を身近なものとして興味・関心がもてるようになる。企業や経営を見る(評価する)目を養う。			
担当教員名	藪谷あや子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス・経営学とは何か	9	意志決定とは
2	組織とは	10	サプライチェーンマネジメントとは
3	人的資源管理とは	11	経営情報とは
4	経営戦略とは	12	中間点検
5	生産管理とは	13	リーダーシップとは
6	マーケティングとは	14	日本企業の課題
7	中間点検	15	まとめ
8	営業管理とは		
評価方法	期末試験100%で評価する		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	北中英明「プレステップ 経営学」弘文堂、平成21年、1,800円(税別)		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	社会・経済・企業におけるお金の流れを理解する基礎科目
科目コード	J102
講義の目的	
学年・期	1年・前期
授業のテーマ	すでに亡くなった経済学者の思想が現代社会にどのような影響をあたえているかを見ながら、現代社会がこれからどうなるのか、その中で人はどんな風に生きることになるのか、それを改善するにはどうしたらいいか、そのようなことを自らの問題として考えてみたい。
授業科目名	現代社会と経済
単位数	2
授業の概要	資本主義の性質についてのアダム・スミスの発見から始まり、マルクスの分析を経てケインズ、フリードマンにいたるまでを概観する。
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	①交換 ②(神の)見えざる手 ③需要と供給 ④三つの市場 ⑤失業 ⑥ケインズ政策 ⑦ケインズ政策の限界 ⑧合成の誤謬 ⑨所得格差 ⑩市場の失敗
前提とする科目	なし
到達目標	
展開科目	現代企業論、地域経済
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)
現代社会を理解するために欠かせない経済学の基本的な考え方を身につけ、現代文明の大きな特徴である資本主義について正しく理解するとともに、その内包する課題について身近な問題として捉えられるようになる。	
担当教員名	奥田 栄

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	金は天下の回り物～経済とは何だろう？	9	資本主義と格差
2	需要曲線と供給曲線	10	ケインズと失業
3	国内総生産(GDP)	11	乗数効果
4	貨幣の誕生	12	ケインズの誤算
5	銀行と中央銀行	13	こんなものいらない～新自由主義
6	アダム・スミスと分業	14	貿易が富を増やす
7	政府の役割	15	まとめ
8	使用価値と交換価値		

評価方法	期末試験の成績による
------	------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	池上 彰『池上彰のやさしい経済学(1)しくみがわかる』(日経ビジネス人文庫)
参考文献	講義中に指示
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	社会・経済・企業におけるお金の流れを理解する基礎科目		
科目コード	J103		
講義の目的			
学年・期	1年・後期		
授業のテーマ	企業が営利目的の組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は会計学を学習するうえでの基本となるものである。本講義では、簿記を始めて学ぶ学生が日商簿記検定3級の合格水準に達することを目的としている。		
授業科目名	基礎簿記		
単位数	4		
授業の概要	日商簿記検定3級合格を目指した講義を行う。簿記をはじめて学ぶ学生にもわかりやすいよう、初歩的な内容から解説を始めていく。日商簿記検定3級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、ワークブックの問題の解法について解説する。		
授業形態	講義		
科目のキーワード	①決算整理 ②精算表 ③貸借対照表 ④損益計算書 ⑤収益・費用の見越し・繰延べ ⑥有価証券 ⑦手形取引 ⑧商品売買取引 ⑨簿記一巡の流れ ⑩仕訳		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	商業簿記Ⅰ・Ⅱ、工業簿記Ⅰ・Ⅱ、経営分析演習Ⅰ・Ⅱ		
関連資格	日商簿記検定3級		
到達目標	日商簿記検定3級レベルの取引を仕訳することができ、個人企業の決算整理を行い、貸借対照表・損益計算書が作成できる。		
担当教員名	磯貝明		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	会計とは何か・簿記の目的	9	精算表
2	簿記の基礎概念(1)	10	元帳の締切り・財務諸表の作成
3	簿記の基礎概念(2)	11	現金預金取引(1)
4	取引	12	現金預金取引(2)
5	仕訳	13	商品売買(1)
6	中間まとめ(取引～仕訳)・仕訳の演習問題	14	商品売買(2)
7	転記・総勘定元帳	15	中間まとめ(簿記一巡の流れ)・中間テスト(精算表)
8	試算表		
評価方法	中間テスト(30%)定期試験(70%)		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	『新検定簿記講義3級商業簿記』、『新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記』 中央経済社 各735円		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	社会・経済・企業におけるお金の流れを理解する基礎科目
科目コード	J103
講義の目的	
学年・期	1年・後期
授業のテーマ	企業が営利目的の組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は会計学を学習するうえでの基本となるものである。本講義では、簿記を始めて学ぶ学生が日商簿記検定3級の合格水準に達することを目的としている。
授業科目名	基礎簿記
単位数	4
授業の概要	日商簿記検定3級合格を目指した講義を行う。簿記をはじめて学ぶ学生にもわかりやすいよう、初歩的な内容から解説を始めていく。日商簿記検定3級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、ワークブックの問題の解法について解説する。
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	①決算整理 ②精算表 ③貸借対照表 ④損益計算書 ⑤収益・費用の見越し・繰延べ ⑥有価証券 ⑦手形取引 ⑧商品売買取引 ⑨簿記一巡の流れ ⑩仕訳
前提とする科目	なし
到達目標	
展開科目	商業簿記Ⅰ・Ⅱ、工業簿記Ⅰ・Ⅱ、経営分析演習Ⅰ・Ⅱ
関連資格	日商簿記検定3級
到達目標	日商簿記検定3級レベルの取引を仕訳することができ、個人企業の決算整理を行い、貸借対照表・損益計算書が作成できる。
担当教員名	磯貝明

授業計画			
回	主題	回	主題
16	売掛金と買掛金・貸倒れの処理	24	貸倒損失と貸倒引当金
17	その他の債権債務(1)	25	資本金と引出金・税金
18	その他の債権債務(2)	26	収益と費用(1)収益および費用の見越し
19	手形(1)約束手形・為替手形	27	収益と費用(2)収益および費用の繰延べ
20	手形(2)手形の裏書譲渡と割引	28	帳簿と伝票
21	手形(3)手形記入帳・手形借入金・手形貸付金	29	決算と財務諸表(1)
22	有価証券(取得・売却・評価)	30	決算と財務諸表(2)
23	有形固定資産の取得・売却・減価償却		
評価方法	中間テスト(30%) 定期試験(70%)		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	『新検定簿記講義3級商業簿記』、『新検定 簿記ワークブック 3級商業簿記』 中央経済社 各735円		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	社会・経済・企業におけるお金の流れを理解する基礎科目		
科目コード	J104		
講義の目的			
学年・期	1年・前期		
授業のテーマ	現代において生産を担っているのは企業である。企業というのは、いわゆるカイシャのことで、大部分の大学生は卒業後にはカイシャに就職することになる。そこで、カイシャの役割や仕組みを理解し、そこに就職したり働いたりすることの意味をはっきり理解することを目標にする。		
授業科目名	現代企業論		
授業の概要			
単位数	2		
授業の概要	企業とはどのような存在なのか、教科書で言及している6つの側面のうちから4つを取り上げて企業について説明する。それは、「財・サービスの提供機関としての企業」「株式会社」「大企業」「家としての日本企業」である。ただし、講義で取り上げる順番は、この通りではない。		
授業形態	講義		
科目のキーワード			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①株式会社 ②有限責任 ③取締役会 ④所有と支配 ⑤株式公開 ⑥株主主権 ⑦経営者支配 ⑧コンプライアンス ⑨日本の人事システム ⑩ステークホルダー		
前提とする科目	現代社会と経済		
到達目標			
展開科目	生産システム論		
到達目標	株式会社の資本構造、経済構造、組織構造を理解し、それらが現代社会にあってどのように機能しているかを理解する。		
関連資格	なし		
担当教員名	奥田 栄		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	カイシャとはどんなところだろう	9	ここまでのまとめ
2	日本企業と従業員	10	大企業とは何か大企業の支配構造(1)
3	日本の大企業の経営者	11	大企業の支配構造(2)
4	企業の長期戦略	12	大企業の性格と機能
5	資本集中機構としての株式会社制度(1)	13	大企業のコーポレート・ガバナンス(1)
6	資本集中機構としての株式会社制度(2)	14	大企業のコーポレート・ガバナンス(2)
7	株式会社の現実(1)	15	まとめ(2)
8	株式会社の現実(2)		
評価方法	定期試験の成績による		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	三戸・池内・勝部『企業論』(有斐閣)		
参考文献	池上彰『会社のこと よくわからないまま 社会人になった人へ』(海竜社)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	社会・経済・企業におけるお金の流れを理解する基礎科目
科目コード	J105
講義の目的	
学年・期	1年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	日本経済と金融
授業の概要	経済全体のお金の流れについて理解する。また、金融の果たす役割を知ると同時に、金融が経済全体の状態を(プラス面でもマイナス面でも)決定的に左右する可能性があることも理解する。
単位数	2
授業の概要	経済が家計、企業、金融機関、政府、日本銀行というプレイヤー(経済主体)から成り立っていること、そしてそれらの間で商品や金融、税のやりとりが行われていることを理解する。また、金融危機や財政赤字問題などが発生するメカニズムなどについても学ぶ。
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	なし
到達目標	
展開科目	金融I・II、証券市場I・II
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)
担当教員名	山根卓二
①お金(貨幣、通貨) ②価格、物価 ③直接金融・間接金融 ④株式・債券 ⑤国債 ⑥日本銀行 ⑦GDP ⑧バブル ⑨金融危機 ⑩財政赤字	
家計、企業、金融機関、政府、日本銀行などの役割が説明できるようになる。価格や利率の役割やそれらの決まり方について説明できるようになる。金融危機や財政赤字問題などが発生するメカニズムについて説明できるようになる。	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	お金の役割と経済の動き(1)	9	政府の役割
2	お金の役割と経済の動き(2)	10	日本銀行の役割
3	価格と物価(1)	11	GDP:景気のパロメーター
4	価格と物価(2)	12	バブル崩壊と金融危機
5	家計という経済主体	13	サブプライムローン問題
6	家計と金融	14	財政赤字問題
7	企業という経済主体	15	まとめ
8	企業と金融		

評価方法	期末試験100%で評価する。
------	----------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	平野和之『図解経済入門 基本と常識』西東社、2012年。(950円+税)
参考文献	授業時に指示する
実験・実習・教材費	なし

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	J261
日本語リテラシ科目	
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	経営学文献講読I
金融に関して本質的と思われる事項(これらの事項は時代が変化したとしても陳腐化することはない)について、論理的に筋の通った形で理解する。しかし、同時に最近のトピックスについても踏み込んだ形で学習する。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	演習
金融取引の意味と個々の金融機関の役割、金融システム全体の役割について説明した後、日本銀行の役割とそれが行う金融政策について順次解説していく。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
①金融取引 ②審査 ③間接金融 ④直接金融 ⑤貨幣 ⑥決済機構 ⑦信用創造 ⑧マネーストック ⑨中央銀行 ⑩金融政策	
前提とする科目	金融I、証券市場I
到達目標	
展開科目	金融II、証券市場II
金融取引の意味と個々の金融機関の役割、金融システム全体の役割、日本銀行の役割とそれが行う金融政策などについて論理的に説明できるようになる。	
関連資格	なし
担当教員名	山根卓二

授業計画			
回	主題	回	主題
1	金融取引の意義(1)	9	信用創造のメカニズム(2)、銀行危機の可能性(1)
2	金融取引の意義(2)	10	銀行危機の可能性(2)
3	審査と履行確保(1)	11	金融政策の目標(1)
4	審査と履行確保(2)、金融取引の様式(1)	12	金融政策の目標(2)、金融政策の実際(1)
5	金融取引の様式(2)	13	金融政策の実際(2)
6	決済機構と貨幣(1)	14	金融政策の効果(1)
7	決済機構と貨幣(2)	15	金融政策の効果(2)、まとめ
8	信用創造のメカニズム(1)		
評価方法	期末試験100%で評価する。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	池尾和人『現代の金融入門【新版】』ちくま新書、2010年。(840円＋税)		
参考文献	授業時に指示する		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J262
学年・期	2年・後期
授業科目名	経営学文献講読II
単位数	2
授業形態	演習
必修・選択	コース選択
前提とする科目	金融I、証券市場I
展開科目	金融II、証券市場II
関連資格	なし
担当教員名	山根卓二

カリキュラムの中での位置づけ

日本語リテラン科目

講義の目的

授業のテーマ

金融に関して本質的と思われる事項(これらの事項は時代が変化したとしても陳腐化することはない)について、論理的に筋の通った形で理解する。しかし、同時に最近のトピックスについても踏み込んだ形で学習する。

授業の概要

金融資産の価格がどのようにして決まるか、金融面から見た企業統治(コーポレートガバナンス)、デリバティブや証券化といった新しい金融の動き、などについて順次解説していく。

科目のキーワード

①資産価格 ②バブル ③企業統治(コーポレートガバナンス)  
④株式の持ち合い ⑤メインバンク ⑥デリバティブ ⑦証券化  
⑧サブプライムローン問題

到達目標

金融資産の価格がどのようにして決まるか、金融面から見た企業統治(コーポレートガバナンス)、デリバティブや証券化といった新しい金融の動き、などについて論理的に説明できるようになる。

授業計画

回	主題	回	主題
1	資産価格の決定(1)	9	企業統治の変質と再生(1)
2	資産価格の決定(2)、バブルの生成と崩壊(1)	10	企業統治の変質と再生(2)、金融革新の進展(1)
3	バブルの生成と崩壊(2)	11	金融革新の進展(2)
4	バブルの生成と崩壊(3)、ミス・プライスの持続(1)	12	デリバティブ(1)
5	ミス・プライスの持続(2)	13	デリバティブ(2)、証券化の光と影(1)
6	企業統治と株主の権利(1)	14	証券化の光と影(2)
7	企業統治と株主の権利(2)、持ち合いとメインバンク(1)	15	証券化の光と影(3)まとめ
8	持ち合いとメインバンク(2)		

評価方法 期末試験100%で評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	池尾和人『現代の金融入門【新版】』ちくま新書、2010年。(840円+税)
参考文献	授業時に指示する
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	外国語リテラシ科目		
科目コード	J251		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業科目名	経営学英語文献講読Ⅰ		
授業のテーマ	企業がウェブサイトで発信するニュースリリース、事業案内、製品紹介、投資家関連情報など、実際の企業活動が反映された文書を題材に、企業の情報発信に欠かせない語彙・語法、文書スタイルに込められた多様な経営戦略、世界規模での事業展開、最新の業界動向を学ぶ		
単位数	2		
授業の概要	①受講生が順にテキストを和訳する。 ②当該企業・業界に関する現状と課題、経営的背景について検討する。 ③英文法上の理解度を確認し、復習する。さらに関連文法を学びステップアップを図る。		
授業形態	演習		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①グローバル人材 ②異文化理解 ③コミュニケーション力 ④情報発信 ⑤反復学習 ⑥ヒアリング ⑦自学自習		
前提とする科目	経営学概論、現代社会と経済、現代企業論		
到達目標			
展開科目	経営学英語文献講読Ⅱ		
関連資格	なし		
担当教員名	藪谷あや子		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やや長文で簡潔、論理的な構文を通じて、ビジネス文章のスタイル学ぶ。</li> <li>・グローバル社会で奮闘する日本の企業・ビジネスの姿を知る。</li> <li>・基本構文を100文程度、習熟する。</li> </ul>		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	「東京海上グループ～地球温暖化への挑戦」の和訳
2	「ローソン～店舗の多様化による顧客拡大」の和訳	10	企業の社会的責任についての解説
3	小売商業・コンビニ業界についての解説	11	関連文法の確認
4	関連文法の確認	12	「三菱重工業・三菱航空機～日本の空から世界の空へ」の和訳
5	「ソニー銀行～フェアで便利なネット銀行」の和訳	13	国産飛行機への期待と課題についての解説
6	信販・銀行業界におけるIT活用についての解説	14	関連文法の確認
7	関連文法の確認	15	全体的な復習
8	中間の復習		
評価方法	期末試験100%で評価する		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	棕平淳他「Styling Corporate Messages 世界で活躍する日本の企業」成美堂、2011年、1,900円(税別)		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 経営コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	J252	外国語リテラン科目
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	経営学英語文献講読II	授業のテーマ
単位数	2	市場、株式会社、銀行、外国為替などの基礎知識を英文を読みながら習得する。重要な経済用語の英単語も身につける。
授業形態	演習	授業の概要
必修・選択	コース選択	現代では様々なものが商品として市場で取引されている。企業の所有権(株式)も各国の通貨も例外ではない。それぞれの市場では株価や為替レートなどの「価格」が需要と供給の原理に基づいて決定されている。
前提とする科目	金融I、証券市場I	科目のキーワード
展開科目	なし	①貨幣(お金) ②市場 ③価格 ④利子 ⑤銀行 ⑥株式会社 ⑦株価 ⑧外国為替 ⑨為替レート
関連資格	なし	到達目標
担当教員名	山根卓二	重要な経済用語を身につける。市場、株式会社、銀行、外国為替などについて解説した英文を適切に翻訳できるようになる。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	お金には3つの機能がある	9	株式会社:その起源
2	お金を借りるときには利子を支払わなければならない	10	会社は株主に利益を分配する
3	銀行に預金するとお金はどうなるか	11	株の取引は今や成熟した市場となっている
4	銀行が唯一の金融機関であるわけではない	12	電子取引は株取引の性質を劇的に変えた
5	価格は供給と需要の原理にしたがって決まる	13	会社は株主だけのものではない
6	貿易は互恵的関係である	14	経済は循環的に変動する
7	為替レートも供給と需要の原理にしたがって変化する	15	国が経済を刺激する方法には二つの基本的な方法がある
8	通貨の価値は他の通貨に対して高くなったり安くなったりを繰り返す		

評価方法	期末試験100%で評価する。
------	----------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	Robert Mintzer 『やさしく読めるお金と経済の話』朝日出版社、(1,700円＋税)
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	全学共通科目 キャリアデザイン		
科目コード	J371		
学年・期	3年・前期		
授業科目名	キャリアデザインⅡ		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	キャリアデザインⅠ		
展開科目	インターンシップ		
関連資格	なし		
担当教員名	樋口・三井		
カリキュラムの中での位置づけ			
キャリアデザイン科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
間近に迫る「卒業・就職」という節目を前に、将来の自分の活躍する姿を見据えながら、自分にとって働く意義・働く意味とは何かを考え、社会人・職業人としての意識を醸成する。また、ビジネスパーソンとして仕事を円滑に進めるために必要な常識や仕事の基本について理解を深める。さらに、さまざまな演習を通じて、ビジネスマナーを習得する。			
授業の概要			
社会人・職業人として求められる基本姿勢や、仕事の進め方についてケーススタディを交えて学ぶ。また、ビジネスパーソンとしての予備知識や実践的なマナーを身に付ける。			
科目のキーワード			
①キャリア開発 ②職業人意識 ③社会人常識 ④ビジネスマナー ⑤仕事の基本姿勢 ⑥判断力 ⑦意思決定力 ⑧効果的な社会参加			
到達目標			
ビジネスパーソンとしての基本スキルを身に付け、ビジネスマナーが実践できることを目標とします。受講後はぜひインターンシップにも挑戦してください。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	職業観・勤労観	9	訪問のマナー
2	職業人(プロフェッショナル)意識	10	指示の受け方、報告・連絡・相談
3	組織で必要とされる基本姿勢	11	仕事の進め方(PDCAサイクル)
4	身だしなみ、勤怠のマナー	12	キャリア展望を考える①
5	立居振舞い、挨拶	13	キャリア展望を考える②
6	言葉遣い(敬語)、話し方	14	適職探索と職業研究
7	電話応対	15	ライフイベントを考える
8	ビジネスメール、手紙の書き方		
評価方法	授業の取り組み 50% 課題・演習 50%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	樋口貴子著『就職スキル・ビジネスマナー』(有)キャリアサポーター *最初の授業時に販売		
参考文献	授業時に指示		
実験・実習・教材費	なし *教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布		



科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J272
学年・期	3年・前期
授業科目名	インターンシップ
単位数	2
授業形態	実習
必修・選択	コース必修
前提とする科目	キャリアデザインⅡ
展開科目	なし
関連資格	なし
担当教員名	磯貝、奥田、山根、藪谷
カリキュラムの中での位置づけ	
キャリアデザイン科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
実際の企業等での就業体験を通して、社会、仕事、ビジネスに対する知識と理解を深め、自己の適性を考慮した上で主体的に進路選択できる能力と心構えを養う。大学で学ぶ経営・金融・経済科目が職場や業務でどのように活かされるかを実感し、その後の学びに目標と問題意識をもつ。	
授業の概要	
主として夏季休業期間中、受け入れ企業等の指定した期日、場所において就業体験、実地研修をする。大学内での事前ガイダンス、関連書類作成、事後報告会を伴う。	
科目のキーワード	
①適応力・協調性 ②常識・マナー ③責任感 ④自己分析力 ⑤プレゼンテーション力 ⑥コミュニケーション力 ⑦積極性(意欲) ⑧変化対応力 ⑨自己管理能力 ⑩自己実現力	
到達目標	
①企業等、「組織」の構成、機能、役割、それらの連携の実際にふれる。 ②社会人としての求められる常識・態度について学ぶ。 ③組織の一員として求められる行動規範、職務、役割を自覚する。	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	コース内ガイダンス(4月)	9	インターンシップ実習(第四日)
2	全学インターンシップ説明会(5月)	10	インターンシップ実習(第五日)
3	受講申請書の作成と提出(5月下旬)	11	インターンシップ実習(第六日)
4	履歴書・誓約書の作成と提出(6月下旬)	12	インターンシップ実習(第七日)
5	全学の派遣前マナー研修会(7月下旬)	13	報告会発表用資料の作成と提出(9月)
6	インターンシップ実習(第一日)(注)	14	コース内報告会
7	インターンシップ実習(第二日)	15	全学報告会
8	インターンシップ実習(第三日)	(注)	実習は基本形であり、日程・内容が一部変更されることがあります。
評価方法	事前趣意書の内容15%、実習中の態度50%、事後報告書の内容15%、発表の仕方20%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	実習先の指示に従う(例:交通費、昼食代の自己負担や通勤服としてスーツを指示される場合がある。)		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	情報リテラシ科目		
科目コード	J281		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ	マーケティング、ファイナンスに必要なビジネス統計の手法をExcelを操作しながら身につけていく。同じ量をExcelで求めるにしても、やり方は、一通りではない。様々なやり方があり、どれを採用するかで学生の個性が出てくる。		
授業科目名	経営分析のための情報実習 I		
授業の概要			
単位数	1		
授業形態	実習		
科目のキーワード			
必修・選択	コース必修		
①平均値 ②中央値 ③最頻値 ④分散 ⑤標準偏差 ⑥ヒストグラム ⑦正規分布 ⑧母集団 ⑨標本 ⑩検定			
前提とする科目	なし		
到達目標			
展開科目	経営分析のための情報実習 II		
Excelを用いて、基本的な統計量を計算でき、確率的にデータを捉えられるようになる。			
関連資格	なし		
担当教員名	奥田 栄		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	正規分布
2	エクセルの基本操作復習	10	基本統計量のまとめ
3	データの取り込み	11	標本抽出
4	データ分析の基礎:グラフ作成	12	帰無仮説と対立仮説
5	データ分析の基礎:ヒストグラム	13	検定法(1)
6	エクセル操作のまとめ	14	検定法(2)
7	データの中心を求める	15	全体まとめ
8	データのバラツキを求める		
評価方法	定期試験の成績による		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	関 正行『Excelで経営情報を分析するビジネス統計入門』(プレジデント社)		
参考文献	その都度指示する		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J282
学年・期	2年・後期
授業科目名	経営分析のための情報実習Ⅱ
単位数	1
授業形態	実習
必修・選択	コース必修
前提とする科目	経営分析のための情報実習Ⅰ
展開科目	なし
関連資格	なし
担当教員名	奥田 栄
カリキュラムの中での位置づけ	
情報リテラシ科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
マーケティング、ファイナンスに必要なビジネス統計の手法をExcelを操作しながら身につけていく。同じ量をExcelで求めるにしても、やり方は、一通りではない。様々なやり方があり、どれを採用するかで学生の個性が出てくる。	
授業の概要	
Ⅱでは、Excelのより高度な使用方法を活用して、教科書の第3章から第5章のはじめまでを学習する。	
科目のキーワード	
①相関関係 ②因果関係 ③散布図 ④正相関 ⑤負相関 ⑥時系列 ⑦トレンド ⑧移動平均 ⑨自己回帰 ⑩主成分分析	
到達目標	
Excelの機能の一つであるソルバーを用いてさまざまな条件を付加したシミュレーションを実施し、最適解を求めることができるようになる。	

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	サイクル、季節変動、ノイズ
2	散布図と相関関係	10	過去から将来を予測する(1)
3	相関分析	11	過去から将来を予測する(2)
4	回帰分析	12	まとめ(2)
5	回帰分析ツール	13	主成分分析の基礎(1)
6	重回帰分析	14	主成分分析の基礎(2)
7	まとめ(1)	15	全体まとめ
8	時系列分析の基礎		

評価方法	定期試験の成績による
------	------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	関 正行『Excelで経営情報を分析するビジネス統計入門』(プレジデント社)
参考文献	その都度指示する
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
科目コード	J201		
学年・期	2年・前期		
授業科目名	金融Ⅰ(金融市場)		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	日本経済と金融		
展開科目	金融Ⅱ		
関連資格	なし		
担当教員名	近藤隆則		
カリキュラムの中での位置づけ			
金融科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
銀行など間接金融の担い手が経済社会の中でいかなる機能を果たしているのか、それはどのような制度に支えられているのかがテーマです。金融機関への就職に関心を持っている人はもちろん、広くビジネスや公共業務を志す人にとっても必須の知識を提供します。			
授業の概要			
様々な種類の金融仲介を念頭に、特に銀行の預金や貸出の経済的機能やそれを支える金融制度について学び、銀行と地域社会とのつながりや近年の銀行危機についても理解を深めます。特に銀行の情報生産や流動性供給が「よく機能する」ことが企業や家計の発展に結びつくことに焦点を当てます。			
科目のキーワード			
①金融仲介 ②情報生産 ③流動性供給 ④情報の非対称性 ⑤逆選択 ⑥モラル・ハザード ⑦規模の経済 ⑧範囲の経済 ⑨預金保険 ⑩自己資本比率規制			
到達目標			
銀行などの間接金融が経済社会の中で果たす役割について、ミクロ経済学の概念を用いて理論的に説明できること。また、金融機関と地域経済とのかかわりや銀行危機の原因について正しく理解すること			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	金融仲介とは何か	9	金融制度(1)規制の必要性
2	金融仲介機関の種類(1)銀行と保険会社	10	金融制度(2)預金保険制度
3	金融仲介機関の種類(2)金融商品取引業者とノンバンク	11	金融制度(3)自己資本比率規制
4	金融仲介機関の種類(3)金融グループ	12	銀行危機はなぜ起きるか
5	銀行の二つの重要な機能	13	東海地方の金融の特徴
6	貸出審査と担保の機能	14	銀行から見た優良中小企業
7	信用リスクと金利リスク	15	全体の復習とまとめ
8	前半の復習とまとめ		
評価方法	期末試験100%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	花輪俊哉・小川英治・三隅隆司『はじめての金融経済』東洋経済新報社(3,300円)の第5章、第6章		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J202
学年・期	2年・前期
授業科目名	商業簿記Ⅰ
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	基礎簿記
展開科目	商業簿記Ⅱ、工業簿記Ⅰ・Ⅱ
関連資格	日商簿記検定2級
担当教員名	磯貝明
カリキュラムの中での位置づけ	
会計科目	
講義の目的	
授業のテーマ 企業が営利を追及していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「基礎簿記」を履修した学生を対象として、高度な簿記技術を習得することを目的としており、日商簿記検定2級合格を目指していく。	
授業の概要	
日商簿記検定2級合格を目指した講義を行う。商業簿記について解説し、日商簿記検定2級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。	
科目のキーワード	
①銀行勘定調整表 ②有価証券取引 ③保証債務 ④手形取引 ⑤荷為替手形 ⑥引当金取引 ⑦商品売買取引 ⑧特殊商品売買取引 ⑨固定資産取引 ⑩損益取引	
到達目標	
日商簿記検定2級(商業簿記)の合格レベル	

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	オリエンテーション日商簿記検定試験の概要2級商業簿記の特徴	9	商品売買取引(2)
2	簿記一巡の手続きと財務諸表	10	特殊商品売買取引(1)
3	現金預金取引	11	特殊商品売買取引(2)
4	有価証券取引	12	固定資産取引(1)
5	手形取引(1)	13	固定資産取引(2)
6	手形取引(2)	14	引当金取引
7	債権・債務取引	15	損益取引
8	商品売買取引(1)		

評価方法	定期試験
------	------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	渡部裕亘ほか編著『新検定簿記講義2級商業簿記』中央経済社 ¥735、 渡部裕亘ほか編著『新検定簿記ワークブック 2級商業簿記』中央経済社 ¥735
-----	--

参考文献	なし
------	----

実験・実習・教材費	なし
-----------	----

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
科目コード	J203		
学年・期	2年・前期		
授業科目名	工業簿記Ⅰ		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	なし		
展開科目	商業簿記Ⅰ・Ⅱ、工業簿記Ⅱ		
関連資格	日商簿記検定2級		
担当教員名	磯貝明		
カリキュラムの中での位置づけ			
会計科目			
講義の目的			
<b>授業のテーマ</b> 企業が営利を追及していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「基礎簿記」を履修した学生を対象として、高度な簿記技術を習得することを目的としており、日商簿記検定2級合格を目指していく。			
<b>授業の概要</b> 日商簿記検定2級合格を目指した講義を行う。工業簿記について解説し、日商簿記検定2級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。			
<b>科目のキーワード</b> ①製造原価 ②材料費・労務費・経費 ③勘定連絡 ④費目別計算 ⑤製造原価報告書 ⑥単純個別原価計算 ⑦製造間接費の配賦 ⑧予定配賦 ⑨製造間接費配賦差異 ⑩部門別個別原価計算			
<b>到達目標</b> 日商簿記検定2級(工業簿記)の合格レベル			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	日商簿記検定試験の概要・工業簿記の役割	9	財務諸表と製造原価報告書(1)
2	工業簿記の基本	10	財務諸表と製造原価報告書(2)
3	工業簿記上の費用	11	単純個別原価計算(1. 実際配賦)
4	原価計算	12	単純個別原価計算(2. 予定配賦)
5	工業簿記の構造	13	単純個別原価計算(3. その他)
6	費目別計算(材料費)	14	部門別個別原価計算(1)
7	費目別計算(労務費)	15	部門別個別原価計算(2)
8	費目別計算(経費)		
評価方法		定期試験	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	榑原正幸・瀧博『工業簿記入門』税務経理協会 ¥2,940		
参考文献	岡本清・廣本敏郎編著『新検定簿記ワークブック 2級工業簿記』中央経済社 ¥735		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J204
学年・期	2年・前期
授業科目名	証券市場Ⅰ
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	日本経済と金融
展開科目	証券市場Ⅱ
関連資格	なし
担当教員名	近藤隆則
カリキュラムの中での位置づけ	
金融科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
直接金融の担い手である証券市場の機能とともに、分散投資や証券価格の決定の理論などを学び、社会に出て貯蓄や投資の主体となった場合の基礎知識を提供します。	
授業の概要	
株式市場をはじめ様々な証券市場の機能を学ぶとともに、証券投資に必要なリスク・リターンの関係や価格決定の理論、分散投資の考え方を身に付け、証券バブルが発生する理由についても触れます。	
科目のキーワード	
①リスク・リターン ②発行市場と流通市場 ③株式 ④債券 ⑤投資信託 ⑥分散投資 ⑦市場ポートフォリオ ⑧資本資産評価モデル(CAPM) ⑨ベータ ⑩効率的市場仮説	
到達目標	
リスクとリターンの関係や分散投資の意味を、ファイナンスの理論に依拠しながら説明できること	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	直接金融と証券市場の役割	9	投資におけるリスクの意味
2	投資についての人間の選択	10	分散投資の意味
3	株式市場とはどんなところか	11	株式の評価 (1) 割引配当モデル
4	債券市場とはどんなところか	12	株式の評価 (2) CAPM
5	投資信託の役割	13	証券市場の効率性
6	証券市場の多様化 (1) 外国証券、デリバティブ	14	証券バブルはなぜ起きるか
7	証券市場の多様化 (2) オルタナティブ投資	15	全体の復習とまとめ
8	前半の復習とまとめ		
評価方法		期末試験100%	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	なし		
参考文献	①釜江廣志『入門証券市場論(第3版)』有斐閣(2,415円)、 ②花輪俊哉・小川英治・三隅隆司『はじめての金融経済』東洋経済新報社(3,300円)の第3章		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	経営コース関連科目		
科目コード	J231		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	財政Ⅰ		
授業の概要	初めて財政学を学ぶ人を対象に、財政・税制の基礎(専門用語、基本的な仕組み・制度、基礎理論)を学び、難解にみえる財政学が暮らしと企業の行方を左右するほどの重要な役割をもっていることを理解する。		
単位数	2		
授業形態	講義		
科目のキーワード	財政と税制(政策)の機能・役割を、日本の経済・社会の状況・動向や政治的情勢、さらに私たちの暮らしの要求と関連付けて解説する。		
必修・選択	コース選択		
前提とする科目	日本経済と金融、基礎簿記		
到達目標	①持続可能な財政 ②少子高齢化社会 ③社会保障と税の一体改革 ④近代租税国家 ⑤量入制出 ⑥成熟経済 ⑦財政危機 ⑧プライマリー・バランス ⑨公共財 ⑩アベノミクス		
展開科目	財政Ⅱ、金融Ⅱ、証券市場Ⅱ、金融機関の機能と業務、税金の仕組みⅠ・Ⅱ、年金の仕組み		
関連資格	公務員試験・国税専門官 教員免許状(中「社会」、高「公民」)		
到達目標	新聞やビジネス雑誌等の関連記事に関心を持ち、自分なりに読み込む態度を養う。 財政学が出題される各種試験の初級レベルに対応できる基礎力を修得する。		
担当教員名	藪谷あや子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション～財政と財政学	9	消費課税①～基礎理論
2	財政とは①～実態的・構造的定義	10	消費課税②～実際・問題点
3	財政とは②～基礎理論	11	所得課税①～基礎理論
4	日本の財政制度①～仕組み	12	所得課税②～実際・問題点
5	日本の財政制度②～予算の概要	13	法人課税①～基礎理論
6	中間まとめと補足	14	法人課税②～実際・問題点
7	租税とは①～原則と基礎理論	15	総まとめと補足
8	租税とは②～制度の概要		
評価方法	期末試験100%で評価する		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	上村敏之「コンパクト財政学 第2版」新世社、2013年、1,750円(税別)		
参考文献	神野直彦「税金 常識のウソ」文芸春秋(文春新書897)、2013年、800円(税別)		
実験・実習・教材費	特になし		



科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 経営コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	J232	経営コース関連科目
学年・期	2年・前期	講義の目的
授業科目名	マクロ経済学I	授業のテーマ 金融機関に就職を希望する者は、個々の企業や金融機関の役割はもちろんのこと、経済全体のしくみも学んでおく必要がある。この授業では、マクロ経済学の入門レベルをマスターすることを通じて、われわれが現在どのような経済の中で生活しているかを理解する。
単位数	2	授業の概要 経済がどのような部分から成り立ち、それらがどのように関係し合っているかを理解する。前期では前段階として、まず金融部門を除いた財市場について学び、GDP(国内総生産)がどのようなメカニズムを通じて決定されるかについて理解する。
授業形態	講義	科目のキーワード ①GDP(国内総生産) ②三面等価 ③物価 ④45度分析 ⑤乗数
必修・選択	コース選択	到達目標
前提とする科目	日本経済と金融	
展開科目	マクロ経済学II	
関連資格	公務員試験 教員免許状(中「社会」、高「公民」)	GDPの決定メカニズムを理解し、経済現象や経済政策の意味を把握できるようになる。教科書に載っている初歩レベルの演習問題が解けるようになる。
担当教員名	山根卓二	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	45度線分析への準備(2)
2	国民所得の諸概念(1)	10	国民所得の決定——45度線分析(1)財市場の均衡
3	国民所得の諸概念(2)	11	国民所得の決定——45度線分析(2)財市場の均衡の安定性
4	国民所得の諸概念(3)	12	国民所得の決定——45度線分析(3)投資乗数
5	三面等価の原則	13	国民所得の決定——45度線分析(4)政府支出乗数
6	物価の計算(1)	14	国民所得の決定——45度線分析(5)租税乗数
7	物価の計算(2)	15	まとめ
8	45度線分析への準備(1)		
評価方法		期末試験100%で評価する。	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	石川秀樹『経済学入門塾 Iマクロ編』中央経済社、2007年。(2,200円＋税)		
参考文献	授業時に指示する		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
科目コード	J206		
学年・期	2年・後期		
授業科目名	金融Ⅱ(金融理論と政策)		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	金融Ⅰ		
展開科目	金融機関の機能と業務		
関連資格	なし		
担当教員名	近藤隆則		
カリキュラムの中での位置づけ			
金融科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
前期の「金融Ⅰ」で個別の経済主体の金融行動を学んだ後、後期では一国経済やグローバル経済の中でのおカネの流れについて学びます。こうしたマクロ的な資金循環の基礎知識は、ビジネスや公共業務に携わる人にとって不可欠です。			
授業の概要			
まず、一国経済の資金循環の流れを理解し、インフレ・デフレの意味や中央銀行の金融政策の役割について学びます。その後はグローバルな視野に転じ、国際的な金融取引がどのように行われているかを学び、為替相場の決定要因や近年のグローバル化の問題点についても触れます。			
科目のキーワード			
①マネーストック ②マネタリー・ベース ③流動性選好 ④準備預金 ⑤貨幣乗数 ⑥インフレ・デフレ ⑦貨幣数量説 ⑧公開市場操作 ⑨購買力平価 ⑩金利平価			
到達目標			
中央銀行の金融政策の目的と手段について正しく説明でき、今日的な問題であるデフレ対応についてもコメントできること。また、為替相場の決定要因等の国際金融の基礎知識が正しく身につけていること。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	貨幣の役割	9	資金循環
2	貨幣の需要と供給	10	国際金融の基本
3	中央銀行の役割と信用創造	11	為替相場の重要性
4	物価と貨幣価値	12	為替相場の決定要因
5	金融政策(1)物価の安定と生産・雇用への働きかけ	13	グローバル化と政府の役割
6	金融政策(2)デフレ経済への対応	14	金融危機の世界史
7	金融政策(3)中央銀行の独立性	15	全体の復習とまとめ
8	前半のまとめ		
評価方法	期末試験100%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	花輪俊哉・小川英治・三隅隆司『はじめての金融経済』東洋経済新報社(3,300円)の1, 2, 7, 8章		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J207
学年・期	2年・後期
授業科目名	商業簿記Ⅱ
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	基礎簿記
展開科目	財務会計
関連資格	日商簿記検定2級
担当教員名	磯貝明
カリキュラムの中での位置づけ	
会計科目	
講義の目的	
授業のテーマ 企業には必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「基礎簿記」「商業簿記Ⅰ」を履修した学生を対象として、高度な簿記技術を習得することを目的としており、日商簿記検定2級合格を目指していく。	
授業の概要	
日商簿記検定2級合格を目指した講義を行う。商業簿記2級の範囲のうち、株式会社会計・本支店会計・帳簿組織を中心に解説し、日商簿記検定2級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。	
科目のキーワード	
①株式会社の純資産 ②繰越利益剰余金 ③会社の合併 ④社債 ⑤法人税等 ⑥決算整理 ⑦区分損益計算書 ⑧本支店会計 ⑨特殊仕訳帳制 ⑩伝票式会計	
到達目標	
日商簿記検定2級(商業簿記)の合格レベル	

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	商業簿記Ⅰの成績について 株式会社の純資産(1)	9	本支店会計(1)
2	株式会社の純資産(2)	10	本支店会計(2)
3	社債(1)	11	本支店会計(3)
4	社債(2)	12	帳簿組織(1)
5	税金	13	帳簿組織(2)
6	決算(1)	14	帳簿組織(3)
7	決算(2)	15	伝票と仕訳集計表
8	決算(3)		

評価方法	定期試験
------	------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	渡部裕亘ほか編著『新検定簿記講義2級 商業簿記』中央経済社 ¥735、 渡部裕亘ほか編著『新検定簿記ワークブック 2級商業簿記』中央経済社 ¥735
-----	---

参考文献	なし
------	----

実験・実習・教材費	なし
-----------	----

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
科目コード	J208		
学年・期	2年・後期		
授業科目名	工業簿記Ⅱ		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	工業簿記Ⅰ		
展開科目	なし		
関連資格	日商簿記検定2級		
担当教員名	磯貝明		
カリキュラムの中での位置づけ			
会計科目			
講義の目的			
<b>授業のテーマ</b> 企業には必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「工業簿記Ⅰ」を履修した学生を対象として、高度な簿記技術を習得することを目的としており、日商簿記検定2級合格を目指していく。			
<b>授業の概要</b> 日商簿記検定2級合格を目指した講義を行う。工業簿記とりわけ総合原価計算について解説し、日商簿記検定2級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。			
<b>科目のキーワード</b> ①総合原価計算 ②等級別総合原価計算 ③組別総合原価計算 ④仕損 ⑤工程別総合原価計算 ⑥標準原価計算 ⑦直接原価計算 ⑧CVP分析 ⑨原価予測 ⑩工場会計の独立			
<b>到達目標</b> 日商簿記検定2級(工業簿記)の合格レベル			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	総合原価計算・単純総合原価計算(1)	9	工程別総合原価計算(2)
2	単純総合原価計算(2)	10	標準原価計算(1)
3	単純総合原価計算(3)	11	標準原価計算(2)
4	等級別総合原価計算	12	標準原価計算(3)
5	組別総合原価計算	13	直接原価計算
6	仕損・減損の処理(1)	14	CVP分析
7	仕損・減損の処理(2)	15	原価予測・工場会計の独立
8	工程別総合原価計算(1)		
評価方法		定期試験	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	榑原正幸・瀧博『工業簿記入門』税務経理協会 ¥2,940		
参考文献	岡本清・廣本敏郎編著『新検定簿記ワークブック 2級工業簿記』中央経済社 ¥735		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J209
学年・期	2年・後期
授業科目名	証券市場Ⅱ
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	証券市場Ⅰ
展開科目	株式投資理論
関連資格	なし
担当教員名	近藤隆則
カリキュラムの中での位置づけ	
金融科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
前期の「証券市場Ⅰ」では主に証券市場におカネを投資する投資家の立場に立って証券市場の活用方法を考えました。後期のこの授業では、証券市場で資金を調達する企業の立場に立って、企業の金融行動について学びます。企業や公共業務で財務や経営戦略に携わる人にとって不可欠な知識を提供します。	
授業の概要	
企業がどのように資金調達方法を選択し、投資規模や内容を意思決定するかといった金融行動の基本を学んだ後、企業の統治に関する諸問題や企業の各発展段階における金融行動についても触れます。	
科目のキーワード	
①資本の最適構成 ②資本コスト ③エージェンシー・コスト ④純現在価値(NPV) ⑤コーポレート・ガバナンス ⑥株主主権 ⑦ベンチャー企業 ⑧新規株式公開(IPO) ⑨合併・買収(M&A) ⑩企業再生	
到達目標	
企業の投資や資金調達の意思決定、発展段階に応じた金融行動について、具体的に説明できること	

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	企業はどう資金調達するのか(1)資金調達の概要	9	企業は誰のものか
2	企業はどう資金調達するのか(2)最適資本構成	10	企業は誰のためにあるか
3	企業はどう資金調達するのか(3)金融技術の発達と資金調達	11	企業は誰に統治されているか
4	企業はどう投資を意思決定するか(1)投資とは何か	12	企業の発展段階と金融行動(1)ベンチャー企業と株式公開
5	企業はどう投資を意思決定するか(2)投資の金融的判断基準	13	企業の発展段階と金融行動(2)M&Aと企業再編
6	企業はどう投資を意思決定するか(3)求められる投資収益率	14	企業の発展段階と金融行動(3)倒産処理と企業再生
7	企業はどう利益を配分するか	15	全体の復習とまとめ
8	前半の復習とまとめ		

評価方法	期末試験100%
------	----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	①米澤康博・小西大・芹田敏夫『新しい企業金融』有斐閣(1,995円)、 ②花輪俊哉・小川英治・三隅隆司『はじめての金融経済』東洋経済新報社(3,300円)の第4章
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	J233		
経営コース関連科目			
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	財政Ⅱ		
財政と税制の基礎を学習した人を対象に、公債、社会保障、国と地方の財政関係の基礎(専門用語、基本的な仕組み・制度、基礎理論)について学ぶ。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
日本の地方自治体のサイフ事情(大きさ、形、中身、出し入れ、やりくり)を、政府との関係と自立をふまえて分析するスキルを学ぶ。～地方財政の仕組みと役割を様々な統計と指標を使って読み解く意義と手法を実践的に学ぶ。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	財政Ⅰ		
①持続可能な地域 ②都市化と過疎 ③人口減少時代 ③社会保障 ④基礎自治体 ⑤地方交付税改革 ⑥地域経済 ⑦財政危機 ⑧財政力指数 ⑨地方公共財 ⑩公共業務の委託化(指定管理者制度)			
到達目標			
展開科目	金融機関の機能と業務、税金の仕組みⅠ・Ⅱ、年金の仕組み		
関連資格	公務員試験・国税専門官 教員免許状(中「社会」、高「公民」)		
新聞やビジネス雑誌等の関連記事に関心をもち、自分なりに読み込む態度を養う。 財政学が出題される各種試験の入門レベル問題に対応できる基礎力を修得する。			
担当教員名	藪谷あや子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	①国と地方自治体の財政関係～国庫支出金
2	地方財政の役割	10	②国と地方自治体の財政関係～地方交付税
3	①地方財政の資金の流れ～地方自治体の会計	11	③地方交付税の仕組み～国レベル
4	②地方財政の歳入	12	④地方交付税の仕組み～地方自治体レベル
5	③地方税収	13	地方財政の指標
6	中間まとめと補足	14	社会保障財政
7	①地方財政の目的的歳出	15	総まとめと補足
8	②地方財政の性質的歳出		
評価方法	期末試験100%で評価する		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	上村敏之「コンパクト財政学 第2版」新世社、2013年、1,750円(税別)		
参考文献	神野直彦「税金 常識のウソ」文芸春秋(文春文庫)、2013年、800円(税別)		
実験・実習・教材費	特になし		

科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 経営コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	J234	経営コース関連科目
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	マクロ経済学II	授業のテーマ 金融機関に就職を希望する者は、個々の企業や金融機関の役割はもちろんのこと、経済全体のしくみも学んでおく必要がある。この授業では、マクロ経済学の入門レベルをマスターすることを通じて、われわれが現在どのような経済の中で生活しているかを理解する。
単位数	2	授業の概要 経済がどのような部分から成り立ち、それらがどのように関係し合っているかを理解する。後期では金融市場について学び、それを前期で学んでいた財市場と合わせることにより、GDP(国内総生産)と利子率がどのようなメカニズムを通じて決定されるかについて理解する。
授業形態	講義	科目のキーワード ①利子率 ②流動性選好 ③投資の限界効率 ④金融政策 ⑤IS曲線 ⑥LM曲線
必修・選択	コース選択	到達目標
前提とする科目	日本経済と金融、マクロ経済学I	GDPと利子率の決定メカニズムを理解し、経済現象や経済政策の意味を把握できるようになる。教科書に載っている初歩レベルの演習問題が解けるようになる。
展開科目	金融II	
関連資格	公務員試験 教員免許状(中「社会」、高「公民」)	
担当教員名	山根卓二	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	金融政策(3)
2	利子理論への準備	10	財市場の分析——IS曲線(1)
3	利子理論——流動性選好理論(1)	11	財市場の分析——IS曲線(2)
4	利子理論——流動性選好理論(2)	12	貨幣市場の分析——LM曲線(1)
5	投資理論——投資の限界効率(1)	13	貨幣市場の分析——LM曲線(2)
6	投資理論——投資の限界効率(2)	14	財市場と貨幣市場の同時分析
7	金融政策(1)	15	まとめ
8	金融政策(2)		

評価方法	期末試験100%で評価する。
------	----------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	石川秀樹『経済学入門塾 Iマクロ編』中央経済社、2007年。(2,200円＋税)
参考文献	授業時に指示する
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
科目コード	J301		
学年・期	3年・前期		
授業科目名	金融機関の機能と業務		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	金融Ⅰ・金融Ⅱ		
展開科目	生活金融(金融資産運用)		
関連資格	FP2級・3級		
担当教員名	近藤隆則		
カリキュラムの中での位置づけ			
金融科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
金融仲介を担う様々な金融機関が、どのような役割を経済社会の中で果たしているかを知ることは、金融業界へ就職するか否かを問わず、社会人にとって不可欠の知識です。			
授業の概要			
銀行、信用金庫、生命保険会社、損害保険会社、金融商品取引業者(証券会社など)、ノンバンクといった様々な種類の金融機関について、経済社会の中で果たしている役割や業務内容について学びます。			
科目のキーワード			
①金融仲介 ②直接金融・間接金融 ③預金取り扱い金融機関 ④リスク管理 ⑤大数の法則 ⑥第三分野保険 ⑦予定死亡率 ⑧金融商品取引法 ⑨発行市場・流通市場 ⑩ファンド・マネージャー			
到達目標			
金融仲介の意義を正しく理解し、それぞれの金融機関の業務内容の共通性や違いについて具体的に説明できること			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	金融機関の種類と機能	9	前半の復習とまとめ
2	銀行(1)業界の概要	10	証券(1)業界の概要
3	銀行(2)業務内容	11	証券(2)業務内容—証券の引受・販売
4	銀行(3)人材政策、キャリアパス	12	証券(3)業務内容—投資顧問、投資信託
5	銀行(4)地域経済と銀行	13	ノンバンク(1)リース会社、信販会社、クレジットカード会社
6	保険(1)業界の概要	14	ノンバンク(2)ベンチャー・キャピタル、サービサー会社
7	保険(2)生命保険会社の業務内容	15	全体の復習とまとめ
8	保険(3)損害保険会社の業務内容		
評価方法	期末試験100%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	①戸谷圭子『イラスト図解 銀行のしくみ』日本実業出版社、 ②滝澤ななみ『2013-2014年版 みんながほしかった!FPの教科書 2級・AFP』TAC株式会社		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J302
学年・期	3年・後期
授業科目名	生活金融(金融資産運用)
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	金融機関の機能と業務
展開科目	なし
関連資格	FP2級・3級
担当教員名	近藤隆則
カリキュラムの中での位置づけ	
金融科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
私たちの人生においておカネとのつきあいを無視することはできません。おカネと上手につきあうための実践的な基礎知識を学生時代に身につけておきたいものです。	
授業の概要	
私たちの生活の中で必要と考えられる実践的な金融の知識(=金融リテラシー)を身に付けます。具体的には、預貯金、国債、株式、投資信託といった資産運用方法のほか、起業した時の資金調達、住宅ローンといった借入のノウハウなどを習得します。	
科目のキーワード	
①フローとストック ②時価と評価損益 ③リスク分散 ④日経225 ⑤TOPIX ⑥確定申告 ⑦確定給付型企業年金と確定拠出型企業年金 ⑧登記 ⑨利回り ⑩基準価格	
到達目標	
各種金融資産の運用についての基礎知識を正しく身に付けること、また、銀行借入、社会保険、不動産、税金といった生活金融の周辺知識の概要を説明できるようになること	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	私たちの生活と金融(1)資金計画の必要性	9	金融資産運用(5)投資信託
2	私たちの生活と金融(2)社会保険の仕組み	10	金融資産運用(6)外貨建て金融商品ほか
3	私たちの生活と金融(3)住宅ローンと個人ローン	11	税金の知識(1)所得税の計算
4	私たちの生活と金融(4)起業と金融	12	税金の知識(2)所得税の申告手続き、その他の税金
5	金融資産運用(1)基本事項	13	不動産の基礎知識
6	金融資産運用(2)預金	14	相続と事業承継
7	金融資産運用(3)債券	15	全体のまとめ
8	金融資産運用(4)株式		
評価方法	期末試験100%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	滝澤ななみ 『2013-2014年版 みんながほしかった! FPの教科書 2級・AFP』 TAC株式会社		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	会計科目		
科目コード	J303		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	財務会計		
財務会計の基本を深く理解するために、財務諸表の主要な項目について、その会計理論・会計処理を学ぶ。また、会計制度の変革とともに新設・改訂された会計基準についても学び、最新の財務会計の新展開について理解することを目的とする。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
会計の意義から考察を始めて、貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理について仕訳をまじえて詳細に解説する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
①財務諸表 ②貸借対照表 ③損益計算書 ④株主資本等変動計算書 ⑤キャッシュ・フロー計算書 ⑥会計情報 ⑦制度会計 ⑧利益計算 ⑨会計公準 ⑩一般原則			
前提とする科目	商業簿記Ⅰ・Ⅱ		
到達目標			
展開科目	なし		
関連資格	ビジネス会計検定2級・3級		
貸借対照表および損益計算書の各項目の会計処理が理解でき、会計手続きの最終段階である財務諸表を正式に作成できる。			
担当教員名	磯貝明		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	会計の意義と領域	9	無形固定資産と投資その他の資産の会計
2	会計の法的制度	10	繰延資産の会計
3	会計の基本構造	11	負債の会計
4	利益計算の基本原則	12	純資産の会計
5	現金・預金と金銭債権の会計	13	収益と費用の会計
6	有価証券の会計	14	財務諸表の作成
7	棚卸資産の会計	15	キャッシュ・フロー計算書
8	有形固定資産の会計		
評価方法	定期試験(100%)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	上野清貴 『財務会計の基礎 第3版』 中央経済社 2013年 ¥2,940		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J304
学年・期	3年・前期
授業科目名	税金の仕組みⅠ(税制と所得税)
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	なし
展開科目	税金の仕組みⅡ(相続・贈与)
関連資格	FP2級・3級
担当教員名	壁谷順之
カリキュラムの中での位置づけ	
金融関連科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
最近のトピックとして、消費税が5%から8%に上がることは周知の通りである。この他に私たちは、日常生活の中で、どのように税金と関わっているのだろうか。税金の仕組みを学び、考えていくことで、複雑な税制を理解していく。	
授業の概要	
最初に、税金の仕組みの全体像を知ることから始める。次に、具体的な税金を見ていくために、所得税を取り上げて内容や計算方法に取り組む。この他に、消費税や法人税といった税金も取り上げていく。なお、相続税・贈与税については、後期開講科目「税金の仕組みⅡ(相続・贈与)」で学習する予定。	
科目のキーワード	
①財政 ②税制 ③所得税 ④法人税 ⑤消費税 ⑥所得の分類 ⑦課税標準 ⑧所得控除 ⑨税額控除 ⑩申告・納付	
到達目標	
私たちは、どのような場合に税金を支払い、どう計算するのかといった一連の流れを理解していく。最終目標として、FP技能検定3級の受験・合格に可能な水準まで本講義で目指していく。基本的な学習スタイルとして、テキストで知識を学習し、問題集で実践を行う。この繰り返しによって、少しずつ着実に習得することが大事である。	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	税制の全体像(税の種類、区分等)	9	個人住民税、個人事業税、消費税
2	所得税①(基本事項、計算の流れ)	10	法人税①(概要)
3	所得税②(10種類の所得の内容・その1)	11	法人税②(計算)
4	所得税③(10種類の所得の内容・その2)	12	問題演習(学科対策・その1)
5	所得税④(損益通算)、問題演習	13	問題演習(学科対策・その2)
6	所得税⑤(所得控除・その1)	14	問題演習(実技対策・その1)
7	所得税⑥(所得控除・その2)	15	問題演習(実技対策・その2)
8	所得税⑦(税額控除、申告・納付)、問題演習		
評価方法		期末試験(100%)	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	LEC東京リーガルマインド(2013)『3級FP技能士 スピードマスター テキスト』、同『3級FP技能士 スピードマスター 問題集』		
参考文献	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著(2013)『FP技能検定教本 3級 上巻』、同『FP技能検定教本 3級 下巻』他(講義中に指示予定)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	金融関連科目		
科目コード	J305		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	株式投資理論		
人びとの生活や生き方が多様化する中で、お金の果たす役割がどのようになっているのかを理解する。政府や企業などの経済活動を中心に見ていくことで、預金や株式などの金融商品の取引を理解し、私たちの日常生活との関わりを整理していく。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
本講義では、経済学や金融論の知識が登場する。金融商品は、預金、株式、債券、投資信託などを取り上げる。その際、資産運用の考え方として、ファイナンスやポートフォリオ理論の初歩的な計算も必要になる。また、金融商品の取引と税金の関わりを整理しながら、実際の計算方法について分かりやすく解説する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	証券市場Ⅰ・Ⅱ		
①経済活動 ②預金 ③株式 ④債券 ⑤投資信託 ⑥ファイナンス ⑦ポートフォリオ理論 ⑧外貨建て商品 ⑨デリバティブ ⑩税金			
到達目標			
展開科目	なし		
関連資格	FP2級・3級		
経済学の具体的な事例として、お金と経済活動の関わりをイメージしながら理解することが重要である。最終目標として、FP技能検定3級の受験・合格に可能な水準まで本講義で目指していく。基本的な学習スタイルとして、テキストで知識を学習し、問題集で実践を行う。この繰り返しによって、少しずつ着実に習得することが大事である。			
担当教員名	壁谷順之		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	金融経済の基礎①(市場、経済指標)	9	外貨建て商品
2	金融経済の基礎②(セーフティーネット、関連法規)	10	デリバティブ取引、ポートフォリオ理論
3	貯蓄型金融商品(預金、貯金など)	11	金融商品と税金
4	債券投資①(仕組み、種類)	12	問題演習(学科対策・その1)
5	債券投資②(利回りの計算)、問題演習	13	問題演習(学科対策・その2)
6	株式投資①(仕組み、種類)	14	問題演習(実技対策・その1)
7	株式投資②(利回りの計算)、問題演習	15	問題演習(実技対策・その2)
8	投資信託		
評価方法	期末試験(100%)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	LEC東京リーガルマインド(2013)『3級FP技能士 スピードマスター テキスト』、同『3級FP技能士 スピードマスター 問題集』		
参考文献	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著(2013)『FP技能検定教本 3級 上巻』、同『FP技能検定教本 3級 下巻』他(講義中に指示予定)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	J331
経営コース関連科目	
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	ミクロ経済学I
株価はどう決まり、利回りや値上がり益はどのように実現されるのか。資産価値の変動を法則的にとらえる術を基礎から学ぶ。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
資産価値を考えるとときの根本原理である資本還元の公式を理解した後、(オフバランスも含めた)貸借対照表と株価との関連について学ぶ。基本をひとつお押しさえた上で、創業者利益が発生する理由などについて解説していく。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①資本還元の公式 ②企業価値 ③貸借対照表 ④ダウ式修正平均株価 ⑤投資の限界効率 ⑥正味現在価値 ⑦増資プレミアム ⑧創業者利得 ⑨キャピタルゲイン	
前提とする科目	なし
到達目標	
展開科目	株式投資理論
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)
株価の決め方、(オフバランスも含めた)貸借対照表と株価との関連、創業者利得の発生仕方などについて論理整合的な説明ができる。	
担当教員名	山根卓二

授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション:年金問題の病理	9	創業者利得とは何か①:成長する木のたとえ
2	収益の割引現在価値の公式	10	創業者利得とは何か②:株式公開時に生じる大きな利益
3	企業価値とは何か①:貸借対照表と株式の市場評価	11	キャピタルゲインとは何か①:不確実性とリスク
4	企業価値とは何か②:貸借対照表では説明できない部分	12	キャピタルゲインとは何か②:企業の成長とキャピタルゲイン
5	株式会社の資金調達	13	株とギャンブルはどう違うのか
6	ダウ式修正平均株価	14	低成長時代に利殖は可能か
7	投資プロジェクトの選択	15	まとめ
8	ネットキャッシュフローの最大化		
評価方法	期末試験100%で評価する。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	三土修平『株とギャンブルはどう違うのか』ちくま新書、2008年。(720円+税)		
参考文献	授業時に指示する		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	J332		
経営コース関連科目			
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	生産システム論		
いまや、あらゆるビジネスの「川上工程」として、生産現場を知らなければ多くの仕事はスムーズに事が運ばなくなってきている。本講義では、脱工業化が進みブラックボックス化している「工場」のしくみを、学生にも理解しやすいように解説する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
工場の基本的なしくみから、開発・設計、フローショップとジョブショップなどの生産のしくみ、MRPやカンバン方式など生産管理について、原価管理のしくみ、ISO、HACCPといった品質管理、そして工場内の情報システムなど最新IT化事情(ERP、PDM、SCM、CRM、EDIなど)までをわかりやすく説明する。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	現代企業論、自動車産業論		
①工場 ②物作り工程 ③生産形態 ④物の流れと情報の流れ ⑤生産管理 ⑥開発と設計 ⑦在庫のメリットとリスク ⑧ライン生産とセル生産 ⑨かんばん方式と自動化 ⑩カイゼン			
到達目標			
展開科目	なし		
製造業の直面する課題を理解し、そうした課題を乗り越えるためにどのような試みが行われているのかを事例に即して考えることができるようになる。			
関連資格	なし		
担当教員名	奥田 栄		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	工場とは何か	9	生産現場の今
2	ものづくりの工程を見る	10	中間まとめ
3	さまざまな生産のしくみ・タイプ	11	原価管理のしくみ
4	工場全体のしくみ	12	品質管理のしくみ
5	中間まとめ	13	自動化とIT活用
6	工場の各部門担当者的一天	14	工場が拓く未来
7	開発・設計のしくみ	15	まとめ
8	生産管理のしくみ		
評価方法	定期試験の成績による		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	松林光男・渡部弘『イラスト図解 工場のしくみ』日本実業出版(1,400円)		
参考文献	その都度指示する		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	J333
経営コース関連科目	
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	地域経済
日本の経済・社会を地域という切り口から考察する。～日本経済と日本的経営の重要課題と関連付けつつ、グローバル経済下における愛知県・西三河地域の企業の実力と当面する問題点、名古屋大都市圏の構造変化について学ぶ。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
行政統計をベースに、愛知県—西三河地域の地域経済の特徴・構造・問題点等についてSWOT分析を取り入れつつ考察する。関連する経済・経営学の基礎理論を紹介する。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①持続可能な地域社会 ②グローバル ③ナショナル ④リージョナル ⑤ローカル ⑥産業集積地論 ⑦産業空洞化 ⑧自動車産業集積地 ⑨地場産業 ⑩伝統／文化／歴史 ⑪地域資源	
前提とする科目	現代社会と経済、現代企業論
到達目標	
展開科目	自動車産業論
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)
・進路選択、さらには就職後の仕事やビジネスにつなげることを意識して、地域社会の産業・経済・企業に現状と課題を理解し、地域経済の概要を把握する。 ・統計の目的と種類を知り、簡単な加工ができるようになる。	
担当教員名	藪谷あや子

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	愛知県の産業発展史
2	名古屋大都市圏の日本経済に占める比重	10	愛知県の空間編成
3	名古屋大都市圏の全般的な構造分析	11	愛知県県下自治体の財政状況
4	愛知県の人口データ	12	テキスト②による補足
5	愛知県の人口構造分析	13	テキスト②による補足
6	愛知県の産業データ	14	テキスト②による補足
7	愛知県の産業構造分析	15	まとめ
8	中間まとめ		

評価方法	期末試験100%で評価する
------	---------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	①岡崎信用金庫月報NO.516～NO.521 藪谷論文(授業開始後に配布)、 ②東海自治体問題研究所編「大都市圏の構造変化～東海からの発信」自治体研社、2013年、1,619円(税別)
-----	---

参考文献	
------	--

実験・実習・教材費	①岡崎信用金庫月報コピー代(1冊につき100円程度)
-----------	----------------------------

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	金融関連科目		
科目コード	J307		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	税金の仕組みⅡ(相続・贈与)		
人の財産を引き継ぐ際に、相続や贈与といった方法がある。複数の人たちが分割争いを行うことなく、合法的かつ円滑に進めていくにはどうしたら良いのか。本講義では、法律知識と税制度を基に、相続・事業承継について学習していく。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
前期に履修する「税金の仕組みⅠ(税制と所得税)」の続編である。相続・贈与や事業承継を理解するには、民法を幅広く学び、不動産や税金の知識も必要不可欠となる。特に、法律用語や専門用語が多く登場するので、分かりやすく解説していく。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	税金の仕組みⅠ(税制と所得税)		
①相続税 ②贈与税 ③民法 ④遺言 ⑤遺産分割 ⑥相続の放棄 ⑦死亡保険金 ⑧自社株式 ⑨財産評価 ⑩事業承継			
到達目標			
展開科目	なし		
関連資格	FP2級・3級		
自分たちの興味を感じるテーマや用語などを足掛かりに学習することが大切である。最終目標として、FP技能検定3級の受験・合格に可能な水準まで本講義で目指していく。基本的な学習スタイルとして、テキストで知識を学習し、問題集で実践を行う。この繰り返しによって、少しずつ着実に習得することが大事である。			
担当教員名	壁谷順之		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	相続と法律①(概要、相続の考え方)	9	相続財産の評価②(不動産・その2)
2	相続と法律②(法定相続分)	10	相続財産の評価③(株式、その他)
3	相続と法律③(承認と放棄、遺産分割)	11	事業承継対策
4	相続と税金①(概要、計算・その1)	12	問題演習(学科対策・その1)
5	相続と税金②(計算・その2)、問題演習	13	問題演習(学科対策・その2)
6	贈与と税金①(概要、計算・その1)	14	問題演習(実技対策・その1)
7	贈与と税金②(計算・その2)、問題演習	15	問題演習(実技対策・その2)
8	相続財産の評価①(不動産・その1)		
評価方法	期末試験(100%)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	LEC東京リーガルマインド(2013)『3級FP技能士 スピードマスター テキスト』、同『3級FP技能士 スピードマスター 問題集』		
参考文献	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著(2013)『FP技能検定教本 3級 上巻』、同『FP技能検定教本 3級 下巻』他(講義中に指示予定)		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J308
学年・期	3年・後期
授業科目名	保険制度
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	なし
展開科目	なし
関連資格	FP2級・3級
担当教員名	壁谷順之
カリキュラムの中での位置づけ	
金融関連科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
私たちの身の周りには、様々な危険(リスク)が存在している。リスクを回避するための手段の1つとして、生命保険や損害保険を利用することができる。これらの保険制度は、リスクに対してだけでなく、将来の貯蓄や資産運用にも役立つことから、自分自身のライフプランをイメージしながら理解していく。	
授業の概要	
最初に、日常生活の中とリスクについて理解することから始める。次に、具体的な内容として生命保険と損害保険を取り上げていく。また、保険と税金との関わりを整理しながら、実際の計算方法について分かりやすく解説する。	
科目のキーワード	
①リスク ②社会保険 ③生命保険 ④損害保険 ⑤自動車保険 ⑥火災保険 ⑦第三分野の保険 ⑧傷害保険 ⑨医療保険 ⑩税金	
到達目標	
私たちの日常生活の中で、保険との関わりをイメージしながら理解することが重要である。最終目標として、FP技能検定3級の受験・合格に可能な水準まで本講義で目指していく。基本的な学習スタイルとして、テキストで知識を学習し、問題集で実践を行う。この繰り返しによって、少しずつ着実に習得することが大事である。	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	保険の基礎(リスク、保険制度の概要)	9	第三分野の保険
2	生命保険①(仕組み、保険料)	10	生命保険と税金
3	生命保険②(保障内容、保険商品の種類)	11	損害保険と税金
4	生命保険③(保険証券の見方)、問題演習	12	問題演習(学科対策・その1)
5	損害保険①(火災保険)	13	問題演習(学科対策・その2)
6	損害保険②(自動車保険)	14	問題演習(実技対策・その1)
7	損害保険③(傷害保険、その他)	15	問題演習(実技対策・その2)
8	問題演習(生命保険、損害保険)		
評価方法		期末試験(100%)	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	LEC東京リーガルマインド(2013)『3級FP技能士 スピードマスター テキスト』、同『3級FP技能士 スピードマスター 問題集』		
参考文献	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著(2013)『FP技能検定教本 3級 上巻』、同『FP技能検定教本 3級 下巻』他(講義中に指示予定)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	金融関連科目
科目コード	J309
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	リスクマネジメント
授業の概要	我々の生活にとってリスクを理解し、低減することは不可欠である。本講義では、リスクの客観的な様相、リスクの認識、リスクへの対処といった面から我々の生活にかかわるリスクについて講義する。
単位数	2
授業の概要	リスクとは何かから始まり、その根底にある不確実性、そして人間の認知能力の限界、リスクを受容する際のリスクイメージなどを理解したのちに、リスクを低減するための手法であるリスクマネジメントについて解説する。生活する上での様々なリスクを取り上げるが、とくに金融リスクについて時間を取って解説する。
授業形態	講義
科目のキーワード	
必修・選択	コース必修
①リスク ②不確実性 ③確率 ④平均寿命 ⑤主観リスク ⑥認知バイアス ⑦市場リスク ⑧信用リスク ⑨デフォルト確率 ⑩リスクの測定	
前提とする科目	なし
到達目標	
展開科目	なし
関連資格	FP2級・3級
到達目標	リスクとは何かという基礎的なことから、実際のリスクがわれわれの生活にどの程度の大きさで存在しているのか、そしてそのリスクを低減するためのリスクマネジメントの意義と手法を理解する。
担当教員名	奥田 栄

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	犯罪
2	リスク概念	10	製品安全
3	リスクの実際	11	食品安全
4	リスク認知とバイアス	12	金融リスク
5	リスクイメージとリスクの受容	13	金融リスクの定量化
6	リスクマネジメントの基本	14	金融理リスクマネジメント
7	リスクコミュニケーション	15	まとめ
8	自然災害		

評価方法	期末試験の成績による
------	------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	奈良由美子『生活リスクマネジメント』(放送大学)
参考文献	森平爽一郎『金融リスクマネジメント入門』(日経文庫)
実験・実習・教材費	なし

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J310
学年・期	3年・後期
授業科目名	不動産論
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	なし
展開科目	なし
関連資格	FP2級・3級
担当教員名	壁谷順之
カリキュラムの中での位置づけ	
金融関連科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
「不動産」と聞くと、なかなか身近に感じる事が少ないかも知れない。しかし、私たちが住んでいる家やアパートなどをはじめ、生活に欠かせない不動産の仕組みを理解することは大切である。本講義では、不動産に関わる法律や、様々な場面で課せられる税金を中心に理解していく。	
授業の概要	
最初に、不動産の基礎知識として、種類や調査方法を知ることから始める。不動産を学習する上で重要な民法や建築基準法などの法律論、所得税や固定資産税などの税金論を分かりやすく解説していく。さらに、不動産の有効活用や証券化といった取引業務についても取り上げていく。	
科目のキーワード	
①不動産 ②民法 ③建築基準法 ④都市計画法 ⑤売買契約 ⑥賃貸借契約 ⑦有効活用 ⑧証券化 ⑨取得・保有・譲渡 ⑩税金	
到達目標	
私たちの日常生活の中で、不動産との関わりをイメージしながら理解することが重要である。最終目標として、FP技能検定3級の受験・合格に可能な水準まで本講義で目指していく。基本的な学習スタイルとして、テキストで知識を学習し、問題集で実践を行う。この繰り返しによって、少しずつ着実に習得することが大事である。	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	不動産の基礎知識(種類、見方、調査方法)	9	不動産と税金③(譲渡に係る税金)
2	不動産の取引(売買契約、賃貸借契約)	10	不動産と税金④(賃貸に係る税金)、問題演習
3	不動産と法律①(民法)	11	不動産の有効活用、証券化
4	不動産と法律②(都市計画法)	12	問題演習(学科対策・その1)
5	不動産と法律③(建築基準法)	13	問題演習(学科対策・その2)
6	不動産と法律④(区分所有法、その他)、問題演習	14	問題演習(実技対策・その1)
7	不動産と税金①(取得に係る税金)	15	問題演習(実技対策・その2)
8	不動産と税金②(保有に係る税金)		
評価方法		期末試験(100%)	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	LEC東京リーガルマインド(2013)『3級FP技能士 スピードマスター テキスト』、同『3級FP技能士 スピードマスター 問題集』		
参考文献	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著(2013)『FP技能検定教本 3級 上巻』、同『FP技能検定教本 3級 下巻』他(講義中に指示予定)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	金融関連科目		
科目コード	J311		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	年金の仕組み		
人生設計において、個人のライフデザインやライフスタイルを実現するためには、どのように考えていくものなのか。本講義では、ライフプランに応じた最適な選択を行うために必要な知識の修得を目指していく。			
単位数	2		
授業の概要			
最初に、個人の生活目標を達成するためのプロセスについて、一般的なライフプランニングを紹介する。プラン実現にあたっては、住宅取得、教育資金、老後生活などの様々な場面に対するお金の計画が必要となる。その際に、国の役割として年金や介護といった社会保障が大きな役割を果たす。			
授業形態	講義		
科目のキーワード			
①ライフプランニング ②キャッシュフロー表 ③社会保険 ④公的年金 ⑤介護 ⑥国民年金 ⑦企業年金 ⑧健康保険 ⑨住宅ローン ⑩税金			
必修・選択	コース必修		
到達目標			
前提とする科目	なし		
展開科目	なし		
関連資格	FP2級・3級		
自分たちの人生設計をイメージしながら理解することが重要である。最終目標として、FP技能検定3級の受験・合格に可能な水準まで本講義で目指していく。基本的な学習スタイルとして、テキストで知識を学習し、問題集で実践を行う。この繰り返しによって、少しずつ着実に習得することが大事である。			
担当教員名	壁谷順之		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ライフプランニングの全体像①(考え方、手法)	9	企業年金と個人年金、問題演習
2	ライフプランニングの全体像②(キャッシュフロー表の作成)	10	年金と税金
3	ライフプランニングの全体像③(住宅、教育、老後)	11	ローンとカード
4	社会保険①(健康保険)	12	問題演習(学科対策・その1)
5	社会保険②(労災保険、雇用保険)、問題演習	13	問題演習(学科対策・その2)
6	公的年金①(概要、国民年金)	14	問題演習(実技対策・その1)
7	公的年金②(厚生年金)	15	問題演習(実技対策・その2)
8	公的年金③(老齢給付、障害給付、遺族給付)		
評価方法	期末試験(100%)		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	LEC東京リーガルマインド(2013)『3級FP技能士 スピードマスター テキスト』、同『3級FP技能士 スピードマスター 問題集』		
参考文献	きんざいファイナンシャル・プランナーズ・センター編著(2013)『FP技能検定教本 3級 上巻』、同『FP技能検定教本 3級 下巻』他(講義中に指示予定)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	J334
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	自動車産業論
授業の概要	日本の経済・社会を自動車産業という切り口から考察する。～戦後の日本経済と生産方式を牽引してきた自動車産業は生き残りをかけた文明的転機にある。このことが世界的な自動車産業集積地、愛知県・西三河地域に及ぼす諸インパクトを学ぶ。
単位数	2
授業形態	講義
愛知県・西三河地域経済のリーディング産業である自動車産業の発展史、現状と当面する諸課題を整理し、競争基盤の変化を理解し、日本の製造業の進路を考える。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
前提とする科目	地域経済、経営分析演習Ⅰ・Ⅱ
到達目標	
展開科目	生産システム論
関連資格	なし
・自動車産業を通して愛知県・西三河地域が産業と空間の構造転換を迫られている。このことが個別の企業・自治体・地域社会・世帯等に与える諸インパクトを理解する。 ・統計の目的と種類を知り、簡単な加工ができるようになる。	
担当教員名	藪谷あや子

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	トヨタ論①～企業間関係(トヨタピラミッド)
2	データで確認する西三河自動車産業集積地	10	トヨタ論②～トヨタ生産方式
3	空間構造で確認する西三河自動車産業集積地	11	トヨタ論③～自動車部品企業論
4	産業集積地論①～経済学の基礎理論	12	トヨタ論④～グローバル立地調整
5	産業集積地論②～海外事例	13	自動車産業進化論①～電気自動車とスマートタウン
6	産業空洞化論①～経済学の基礎理論	14	自動車産業進化論②～ITSと無人・自動運転、国産飛行機
7	産業空洞化論②～海外事例	15	まとめ～クルマはどこへ行く
8	中間まとめ		

評価方法	期末試験100%で評価する
------	---------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	①岡崎信用金庫月報NO.516～NO.521 藪谷論文(授業開始後に配布)
参考文献	②東海自治体問題研究所編「大都市圏の構造変化～東海からの発信」自治体研究社、2013年、1,619円(税別)、他にWeb上の調査報告書を適宜指示する。
実験・実習・教材費	①岡崎信用金庫月報コピー代(1冊につき100円程度)

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	経営コース関連科目
科目コード	J335
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	ミクロ経済学II
経済的に効率的な(ムダのない)行動(買い物、経営)、経済的に効率的な(ムダのない)社会とは何かについて知ることを通じて、経済経営における基本原理を理解する。	
単位数	2
授業の概要	
効率的な市場ではどのように価格が決まる(傾向がある)のか、そこではどういうメカニズムが働いてムダが省かれるのかについて学ぶ。そのあとで、効率的でない市場が効率的な市場と比べてどんなムダを抱えているか、そのムダをどうやって取り除くのかなどについて知る。	
授業形態	講義
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	①消費者の効用最大化 ②企業の利潤最大化 ③価格 ④費用 ⑤完全競争市場 ⑥市場の効率性 ⑦独占市場 ⑧寡占市場 ⑨不確実性
前提とする科目	なし
到達目標	
展開科目	なし
関連資格	公務員試験 教員免許状(中「社会」、高「公民」)
消費者や企業の行動様式、価格の変動が消費者や企業の行動に与える影響、市場全体の効率性(ムダのなさ)、寡占企業の戦略的行動などについて論理整合的に説明できる。	
担当教員名	山根卓二

授業計画			
回	主題	回	主題
1	経済の基礎知識①: お金・経済取引・金融	9	市場を知る①: 自由競争の役割とは
2	経済の基礎知識②: いい買い物をするには・多くの利益を出すためには	10	市場を知る②: 自由競争の弊害(公害など)
3	消費者の行動①: 買い物でより多くの満足	11	市場を知る③: 市場は基本的にムダをとるしくみである
4	消費者の行動②: 予算の制約内で買い物	12	競争のない市場①: 独占企業の行動と差別価格
5	消費者の行動③: 価格が変わると買い物の仕方はどう変わるか	13	競争のない市場②: 寡占企業の行動とゲーム理論
6	企業の行動①: なるべく小さな費用で多くの生産	14	社会全体から見てムダのない交換とは
7	企業の行動②: 固定費用と変動費用	15	リスクと経済行動
8	企業の行動③: 損益分岐点と操業停止点		

評価方法	期末試験100%で評価する。
------	----------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	木暮太一『世界一わかりやすいミクロの経済学』静山社文庫、2009年。(705円+税)
参考文献	授業時に指示する
実験・実習・教材費	なし

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
科目コード	J205
学年・期	2年・前期
授業科目名	経営分析演習Ⅰ
単位数	2
授業形態	演習
必修・選択	コース必修
前提とする科目	基礎簿記
展開科目	商業簿記Ⅰ・工業簿記Ⅰ
関連資格	ビジネス会計検定2級・3級
担当教員名	磯貝明
カリキュラムの中での位置づけ	
会計科目	
講義の目的	
授業のテーマ	
将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ「企業を見る目」は、就職活動においても大変強力なツールとなることであろう。この演習では、現実の企業のデータによって財務内容を中心にした分析・報告を行い、企業情報を分析する能力を習得し、「企業を見る目」を養うことを目的とする。	
授業の概要	
企業の経営分析の方法を解説し、実際に各自が分析を行う。分析対象とする企業を選択する際には、就職を希望する業種などを選択し、選択した企業や業種についての詳細な知識を習得する。また、受講生の経済への興味・関心を喚起するため、必要に応じて最近の話題や実例を提供していく。	
科目のキーワード	
①EDINET ②有価証券報告書 ③連結子会社 ④企業の概況 ⑤会社法 ⑥金融商品取引法 ⑦財務諸表 ⑧損益計算書 ⑨貸借対照表 ⑩キャッシュ・フロー計算書	
到達目標	
企業の情報開示制度の概要や有価証券報告書の内容について述べることができ、財務諸表の構造について、財務諸表分析を行う視点で理解できている。	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション・経営分析の役割	9	連結財務諸表と個別財務諸表
2	「日本の会社」概要	10	株価の状況
3	分析対象企業の選択・比較対象企業	11	会計制度と情報開示
4	企業情報の収集	12	財務諸表の構造(1)損益計算書
5	有価証券報告書の概要	13	財務諸表の構造(2)貸借対照表
6	分析対象企業の概要	14	会社数字の読み方・使い方
7	企業の概況・沿革の分析	15	財務諸表分析
8	従業員・大株主・役員・子会社の状況		
評価方法		定期試験(100%)	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	政岡光宏編著『初めて学ぶ財務諸表分析(改訂版)』同文館出版 2010年 ¥1,890 有価証券報告書(購入またはEDINETより印刷)		
参考文献	配布プリント		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	会計科目		
科目コード	J210		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業科目名	経営分析演習Ⅱ		
授業のテーマ	企業には必ず会計が存在しており、将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ「企業を見る目」は、就職活動においても大変強力なツールとなることであろう。この演習では、現実の企業のデータによって財務内容を中心にした分析・報告を行い、企業情報を分析する能力を習得し、「企業を見る目」を養うことを目的とする。		
単位数	2		
授業の概要	企業の経営分析の方法を解説し、実際に各自が分析を行う。分析対象とする企業を選択する際には、就職を希望する業種などを選択し、選択した企業や業種についての詳細な知識を習得する。また、受講生の経済への興味・関心を喚起するため、必要に応じて最近の話題や実例を提供していく。		
授業形態	演習		
科目のキーワード			
必修・選択	コース必修		
①資本利益率 ②売上高利益率 ③資本回転率 ④安全性分析 ⑤自己資本比率 ⑥流動比率 ⑦当座比率 ⑧固定比率 ⑨固定長期適合率 ⑩PER/PBR/ROE			
前提とする科目	経営分析演習Ⅰ		
到達目標			
展開科目	演習Ⅰ・Ⅱ		
関連資格	ビジネス会計検定2級・3級		
対象企業の財務諸表分析結果について、安全性および収益性の観点から所見および原因・改善点を明確に述べることができ、それをレポートとしてまとめプレゼンテーションすることができる。			
担当教員名	磯貝明		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	収益性分析・安全性分析の分析視点とその目的	9	安全性分析のケーススタディ
2	収益性分析(1)	10	分析結果の発表(1)
3	収益性分析(2)	11	分析結果の発表(2)
4	収益性分析(3)	12	分析結果の発表(3)
5	収益性分析のケーススタディ	13	分析結果の発表(4)
6	安全性分析(1)	14	分析結果の発表(5)
7	安全性分析(2)	15	分析結果の発表(6)
8	安全性分析(3)		
評価方法	レポート(50%) 定期試験(50%)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	政岡光宏編著 『初めて学ぶ財務諸表分析(改訂版)』 同文館出版 2010年 ¥1,890 有価証券報告書(購入またはEDINETより印刷)		
参考文献	配布プリント		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	自然・社会環境専攻 経営コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	J306	卒業研究・卒業論文作成
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	経営コース演習(卒業研究) I	授業のテーマ 将来、企業に就職しようと考えている学生にとって企業での「お金の流れ」=金融や、そのお金の管理や処理について、それらを業績として報告する会計の知識は必要不可欠である。本演習では、企業における金融や会計に関するテーマを受講生自らが設定し、設定された課題に体系的にアプローチする手順を習得し、調査・考察を行い発表する能力を養う。
単位数	2	授業の概要
授業形態	演習	配布プリントや受講生が各自で選択したテーマについて発表を行い、その後活発な討議を行いながら理解を深めていく。また、それらを通じて卒論作成の基礎となる資料収集・文献検索やアカデミックライティングのスキルを習得する。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	経営分析演習 I・II	①卒論作成 ②課題設定 ③論点整理 ④資料収集 ⑤文献検索 ⑥卒論概要 ⑦論文構成 ⑧アカデミックライティング ⑨プレゼンテーション ⑩ディスカッション
展開科目	経営コース演習(卒業研究) II	到達目標
関連資格	なし	課題設定と論点整理を行うことができ、卒業論文の基礎となるスキルを身につけている。正確なレジюме・資料作成およびプレゼンテーション。
担当教員名	磯貝明	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	3年生発表①(テーマ設定と概要)
2	4年生発表①(卒論構成と目次)	10	資料収集・文献検索
3	4年生発表①(卒論構成と目次)	11	3年生発表②
4	卒論作成の手順	12	3年生発表②
5	課題設定	13	4年生発表③
6	4年生発表②(はじめに)	14	4年生発表③
7	4年生発表②(はじめに)	15	合同演習(3年生テーマ発表)
8	3年生発表①(テーマ設定と概要)		
評価方法	発表レジюме・卒論作成に向けてのレポート作成(100%)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	栩木伸明 『卒論を書こう テーマ探しからスタイルまで 第二版』 三修社 2006年 ¥2,310		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	卒業研究・卒業論文作成		
科目コード	J306		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業科目名	経営コース演習(卒業研究) I		
授業のテーマ	将来、企業に就職しようと考えている学生にとって企業での「お金の流れ」=金融や、そのお金の管理や処理について、それらを業績として報告する会計の知識は必要不可欠である。本演習では、企業における金融や会計に関するテーマを受講生自らが設定し、設定された課題に体系的にアプローチする手順を習得し、調査・考察を行い発表する能力を養う。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
配布プリントや受講生が各自で選択したテーマについて発表を行い、その後活発な討議を行いながら理解を深めていく。また、それらを通じて卒論作成の基礎となる資料収集・文献検索やアカデミックライティングのスキルを習得する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	経営分析演習 I・II		
①卒論作成 ②課題設定 ③論点整理 ④資料収集 ⑤文献検索 ⑥卒論概要 ⑦論文構成 ⑧アカデミックライティング ⑨プレゼンテーション ⑩ディスカッション			
到達目標			
展開科目	経営コース演習(卒業研究) II		
課題設定と論点整理を行うことができ、卒業論文の基礎となるスキルを身につけている。正確なレジюме・資料作成およびプレゼンテーション。			
関連資格	なし		
担当教員名	奥田 栄		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	3年生発表③
2	卒論作成の手順	10	4年生卒論概要①
3	資料収集・文献検索	11	4年生卒論概要②
4	課題と参考文献選択	12	3年生発表①
5	4年生発表①	13	3年生発表②
6	4年生発表②	14	3年生発表③
7	3年生発表①	15	まとめ
8	3年生発表②		
評価方法	発表レジюме・卒論作成に向けてのレポート作成(100%)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(2012)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	
卒業研究・卒業論文作成	
科目コード	J306
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	経営コース演習(卒業研究) I
経済の「金融依存」が進み、投機的性格が肥大化した反省から、金融機関が本来の使命に立ち戻り、能力と熱意ある企業や個人、有望で価値ある事業を正当に評価できる「目利き」として、そこに「実際のお金」を投入し、育て、循環させることで産業、企業、地域の再起を促す機運が高まっている。営利金融や地域社会と協働しつつ、「意志あるお金」を社会に活かす金融NPOの取り組みを通じて、銀行および金融の原点をたどってみる。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	演習
専門書の輪読(通読・精読)。毎回の報告担当者と司会を決め、担当者はレジュメを用意して発表、質疑に应答する。その後、全員でその内容について討論・補足する。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
①営利金融 ②非営利金融 ③バブル経済 ④市民信用組合 ⑤コミュニティ・バンク ⑥市民バンク ⑦コミュニティ・ファンド ⑧市民ファンド ⑨マイクロ・クレジット ⑩地域内再投資	
前提とする科目	経営分析演習 I・II
到達目標	
展開科目	経営コース演習(卒業研究) II
関連資格	なし
・課題を体系的にアプローチする手順やノウハウ、集团的議論の作法等を修得する。 ・何事にも問題意識をもち、問題解決のために自学自習の習慣とノウハウを修得する。	
担当教員名	藪谷あや子

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	寄付を利用した資金の還流
2	日本の金融をどうみるか	10	海外の担い手①～新興国
3	営利金融と非営利金融	11	海外の担い手②～アメリカ
4	NPOバンク①	12	海外の担い手③～イギリス
5	NPOバンク②～	13	海外の担い手～ドイツ・オランダ・アメリカの「元NPO」銀行
6	市民ファンド①	14	地元の金融機関①
7	市民ファンド②	15	地元の金融機関②
8	市民ファンド③		

評価方法 積極的な討論への参加15%、演習運営への協力度15%、新聞・ビジネス雑誌への目通し20%、発言の内容と態度50%

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書 藤井良広「金融NPO—新しいお金の流れをつくる」岩波新書、2007年、780円(税別)

参考文献 適宜、紹介する

実験・実習・教材費 特になし

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	卒業研究・卒業論文作成		
科目コード	J306		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業科目名	経営コース演習(卒業研究) I		
授業のテーマ	将来、企業に就職しようと考えている学生にとって企業での「お金の流れ」=金融や、そのお金の管理や処理について、それらを業績として報告する会計の知識は必要不可欠である。本演習では、企業における金融や会計に関するテーマを受講生自らが設定し、設定された課題に体系的にアプローチする手順を習得し、調査・考察を行い発表する能力を養う。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
配布プリントや受講生が各自で選択したテーマについて発表を行い、その後活発な討議を行いながら理解を深めていく。また、それらを通じて卒業論文作成の基礎となる資料収集・文献検索やアカデミックライティングのスキルを習得する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	経営分析演習 I・II		
①卒業論文作成 ②課題設定 ③論点整理 ④資料収集 ⑤文献検索 ⑥卒業論文概要 ⑦論文構成 ⑧アカデミックライティング ⑨プレゼンテーション ⑩ディスカッション			
到達目標			
展開科目	経営コース演習(卒業研究) II		
課題設定と論点整理を行うことができ、卒業論文の基礎となるスキルを身につけている。正確なレジюме・資料作成およびプレゼンテーション。			
関連資格	なし		
担当教員名	山根卓二		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス、資金循環について	9	発表①(テーマ設定と概要)
2	卒業論文構成と目次、論文講読(家計部門のお金の流れ①)	10	資料収集・文献検索
3	論文講読(家計部門のお金の流れ②)	11	論文講読(銀行部門のお金の流れ①)
4	卒業論文作成の手順	12	論文講読(銀行部門のお金の流れ②)
5	課題設定	13	発表②
6	論文講読(企業部門のお金の流れ①)	14	発表②
7	論文講読(企業部門のお金の流れ②)	15	合同演習(3年生テーマ発表)
8	論文講読(企業部門のお金の流れ③)		
評価方法	発表レジюме・卒業論文作成に向けてのレポート作成(100%)		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	授業時に随時論文を配布する。		
参考文献	羽木伸明『卒業論文を書こう テーマ探しからスタイルまで 第二版』三修社 2006年 ¥2,310		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	J312
卒業研究・卒業論文作成	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	将来、企業に就職しようと考えている学生にとって企業での「お金の流れ」=金融や、そのお金の管理や処理について、それらを業績として報告する会計の知識は必要不可欠である。本演習では、企業における金融や会計に関するテーマを受講生自らが設定し、設定された課題に体系的にアプローチする手順を習得し、調査・考察を行い発表する能力を養う。
授業科目名	経営コース演習(卒業研究)Ⅱ
授業の概要	
単位数	2
授業形態	演習
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	経営コース演習(卒業研究)Ⅰ
到達目標	
展開科目	経営コース演習(卒業研究)Ⅲ
関連資格	なし
担当教員名	磯貝明
課題設定と論点整理を行うことができ、卒業論文の基礎となるスキルを身につけている。正確なレジュメ・資料作成およびプレゼンテーション。	

授業計画

回	主題	回	主題
1	4年生発表④	9	4年生発表⑤
2	4年生発表④	10	4年生発表⑥
3	4年生発表④	11	4年生発表⑥
4	3年生発表③	12	4年生発表⑥
5	3年生発表③	13	3年生卒論中間発表・プレゼンテーション
6	3年生発表③	14	3年生卒論中間発表・プレゼンテーション
7	4年生発表⑤	15	3年生卒論中間発表・プレゼンテーション
8	4年生発表⑤		

評価方法	発表レジュメ・卒論作成に向けてのレポート作成(100%)
------	------------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
-----	----

参考文献	栩木伸明 『卒論を書こう テーマ探しからスタイルまで 第二版』 三修社 2006年 ¥2,310
------	--

実験・実習・教材費	なし
-----------	----

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	卒業研究・卒業論文作成		
科目コード	J312		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業科目名	経営コース演習(卒業研究)Ⅱ		
授業のテーマ	将来、企業に就職しようと考えている学生にとって企業での「お金の流れ」=金融や、そのお金の管理や処理について、それらを業績として報告する会計の知識は必要不可欠である。本演習では、企業における金融や会計に関するテーマを受講生自らが設定し、設定された課題に体系的にアプローチする手順を習得し、調査・考察を行い発表する能力を養う。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
配布プリントや受講生が各自で選択したテーマについて発表を行い、その後活発な討議を行いながら理解を深めていく。また、それらを通じて卒論作成の基礎となる資料収集・文献検索やアカデミックライティングのスキルを習得する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	経営コース演習(卒業研究)Ⅰ		
①卒論作成 ②課題設定 ③論点整理 ④資料収集 ⑤文献検索 ⑥卒論概要 ⑦論文構成 ⑧アカデミックライティング ⑨プレゼンテーション ⑩ディスカッション			
到達目標			
展開科目	経営コース演習(卒業研究)Ⅲ		
課題設定と論点整理を行うことができ、卒業論文の基礎となるスキルを身につけている。正確なレジюме・資料作成およびプレゼンテーション。			
関連資格	なし		
担当教員名	奥田 栄		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	3年生発表①
2	4年生卒論中間発表①	10	3年生発表②
3	4年生卒論中間発表②	11	3年生発表③
4	3年生発表①	12	4年生卒論発表①
5	3年生発表②	13	4年生卒論発表②
6	3年生発表③	14	3年生プレゼンテーション準備
7	4年生卒論中間発表③	15	卒論中間発表・プレゼンテーション
8	4年生卒論中間発表④		
評価方法	発表レジюме・卒論作成に向けてのレポート作成(100%)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで』NHKブックス(2012)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	自然・社会環境専攻 経営コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	J312
卒業研究・卒業論文作成	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	経営コース演習(卒業研究)Ⅱ
金融の現代社会における重要性はますます高まりつつある。おカネや株式、債券の「本質」から、銀行、保険会社、証券会社…金融機関の「役割」、「共通点」や「違い」などわかりやすく解説された入門書をテキストにして、「金融の仕事」の全体像に向き合う。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	演習
専門書の輪読(通読・精読)。毎回の報告担当者と司会を決め、担当者はレジュメを用意して発表、質疑に应答する。その後、全員でその内容について討論・補足する。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
①金融商品 ②金融派生商品 ③証券化 ④収益機会枯渇 ⑤ハイリスク・ハイリターン ⑥リーマンショック ⑦ソブリン・リスク	
前提とする科目	経営コース演習(卒業研究)Ⅰ
到達目標	
展開科目	経営コース演習(卒業研究)Ⅲ
関連資格	なし
課題を体系的にアプローチする手順やノウハウ、集团的議論の作法等を修得する。 ・何事にも問題意識をもち、問題解決のために自学自習の習慣とノウハウを修得する。	
担当教員名	藪谷あや子

授業計画															
回	主題	回	主題												
1	ガイダンス	9	第6章 金融の現在とこれから												
2	第1章 「金融」の役割	10	補足と復習												
3	第2章 決済—おカネの支払いと受け取り	11	第7章 いい金融の担い手となるために												
4	補足と復習	12	終章 理想を持たなければ現実是不変												
5	第3章 おカネの貸し借り	13	補足と復習												
6	第4章 「おカネを増やす」ビジネス	14	金融政策の現段階～日本												
7	補足と復習	15	金融政策の現段階～中国												
8	第5章 株や債権の売り方、買い方														
評価方法	積極的な討論への参加15%、演習運営への協力度15%、新聞・ビジネス雑誌への目通し20%、発言の内容と態度50%														
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価基準</th> <th>評語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習目標をほぼ完全に達成している……………</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成している……………</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限は満たしている……………</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限を満たしていない……………</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table>			評価基準	評語	学習目標をほぼ完全に達成している……………	S	学習目標を相応に達成している……………	A	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B	学習目標の最低限は満たしている……………	C	学習目標の最低限を満たしていない……………	D
評価基準	評語														
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S														
学習目標を相応に達成している……………	A														
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B														
学習目標の最低限は満たしている……………	C														
学習目標の最低限を満たしていない……………	D														
教科書	永野良佑「(ちくまプリマー新書) 金融がやっていること」筑摩書房、2012年、819円														
参考文献	授業中、適宜、指示する														
実験・実習・教材費	なし														

科目目標			
学科	自然・社会環境専攻 経営コース		
カリキュラムの中での位置づけ	卒業研究・卒業論文作成		
科目コード	J312		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業科目名	経営コース演習(卒業研究)Ⅱ		
授業のテーマ	将来、企業に就職しようと考えている学生にとって企業での「お金の流れ」=金融や、そのお金の管理や処理について、それらを業績として報告する会計の知識は必要不可欠である。本演習では、企業における金融や会計に関するテーマを受講生自らが設定し、設定された課題に体系的にアプローチする手順を習得し、調査・考察を行い発表する能力を養う。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
配布プリントや受講生が各自で選択したテーマについて発表を行い、その後活発な討議を行いながら理解を深めていく。また、それらを通じて卒論作成の基礎となる資料収集・文献検索やアカデミックライティングのスキルを習得する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	経営コース演習(卒業研究)Ⅰ		
①卒論作成 ②課題設定 ③論点整理 ④資料収集 ⑤文献検索 ⑥卒論概要 ⑦論文構成 ⑧アカデミックライティング ⑨プレゼンテーション ⑩ディスカッション			
到達目標			
展開科目	経営コース演習(卒業研究)Ⅲ		
課題設定と論点整理を行うことができ、卒業論文の基礎となるスキルを身につけている。正確なレジюме・資料作成およびプレゼンテーション。			
関連資格	なし		
担当教員名	山根卓二		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	論文講読(保険会社のお金の流れ)	9	論文講読(日本経済の復活の条件①)
2	論文講読(中央銀行と金融政策①)	10	論文講読(日本経済の復活の条件②)
3	論文講読(中央銀行と金融政策②)	11	論文講読(日本経済の復活の条件③)
4	論文講読(国債偏重の問題①)	12	論文講読(日本経済の復活の条件④)
5	論文講読(国債偏重の問題②)	13	3年生卒論中間発表・プレゼンテーション
6	論文講読(国債偏重の問題③)	14	3年生卒論中間発表・プレゼンテーション
7	発表③	15	3年生卒論中間発表・プレゼンテーション
8	発表③		
評価方法	発表レジюме・卒論作成に向けてのレポート作成(100%)		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	授業時に随時論文を配布する。		
参考文献	羽木伸明『卒論を書こう テーマ探しからスタイルまで 第二版』三修社 2006年 ¥2,310		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	心身環境専攻 心理コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	K101	心理学の全体像を学ぶ
学年・期	1年・前期	講義の目的
授業科目名	心理学概論 I	授業のテーマ
単位数	2	「心理学は心と行動を研究する科学である」という立場から心理現象を理解するとともに、心理学の基礎的な知識を身につける。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	心理学の歴史と研究方法について概観し、実験心理学の立場から人間の基本的な心的機能である、感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、情動について解説する。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目	心理学概論 II	①感覚・知覚 ②学習・記憶 ③動機づけ ④情動
関連資格	認定心理士	到達目標
担当教員名		心理学の基礎知識を身につけ、科学的視点から日常的な心理現象を考察できる力を身につける。

授業計画

回	主題	回	主題
1	心理学の研究対象	9	学習・記憶①(行動の分類)
2	心理学の歴史と研究方法①	10	学習・記憶②(条件づけ)
3	心理学の歴史と研究方法②	11	学習・記憶③(社会的学習)
4	心的過程の生理学的基礎	12	学習・記憶④(記憶の分類)
5	感覚・知覚①(感覚の種類)	13	学習・記憶⑤(記憶の忘却)
6	感覚・知覚②(知覚の体制化)	14	動機づけと情動①(動機の分類)
7	感覚・知覚③(空間と運動の知覚)	15	動機づけと情動②(情動の機能)
8	感覚・知覚④(知覚の恒常性)		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	梅本・大山・岡本 共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 1 心理学』 サイエンス社 1,418 円
参考文献	授業中に適宜紹介する。
実験・実習・教材費	なし

科目目標		
学科	心身環境専攻 心理コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	K102	心理学の全体像を学ぶ
学年・期	1年・前期	講義の目的
授業科目名	心理学概論Ⅱ	授業のテーマ
単位数	2	心理学の基礎知識を身につけ、さらに、日常生活におけるさまざまな事象を心理学的な視点で捉えようとする思考力を獲得することを目的とする。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	パーソナリティ心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学などの応用心理学分野における心理学の基礎知識を習得し、代表的な研究成果を概観する。
前提とする科目	心理学概論Ⅰ	科目のキーワード
展開科目	心理学研究法Ⅰ・Ⅱ	①心理学 ②パーソナリティ ③発達 ④社会 ⑤臨床 ⑥ライフサイクル ⑦防衛機制 ⑧集団 ⑨ストレス ⑩対人関係
関連資格	認定心理士 教員免許状(高「公民」)	到達目標
担当教員名	三後美紀	われわれの身近にある事象を心理学的に捉えた知見を学ぶことで、分析・総合の思考力と判断力の基礎を学生自身が身につける。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス人とのかかわりと心の変容	9	社会と対人関係(自己の形成・自己開示)
2	パーソナリティ(心のなりたち)	10	社会と対人関係(対人認知と態度変容)
3	パーソナリティ(類型論と特性論)	11	社会と対人関係(集団のダイナミクス)
4	パーソナリティ(無意識・防衛機制)	12	社会と対人関係(リーダーシップ)
5	発達と成長(発達の原理)	13	適応と臨床(ストレスと対処)
6	発達と成長(思考の発達)	14	適応と臨床(さまざまな心理療法)
7	発達と成長(ライフサイクル)	15	授業全体の復習とまとめ
8	ここまでの復習		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	齊藤 勇『イラストレート心理学入門』誠信書房 1,500円＋税 大坊郁夫・安藤清志『社会の中の人間理解』ナカニシヤ出版 1,900円＋税 その他授業中に紹介します
実験・実習・教材費	なし

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K103
講義の目的	臨床心理学と教育心理学の基礎を学ぶ
学年・期	1年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	臨床心理学 I
臨床心理学的な観点からの心理発達の問題を取り上げ、具体的にはエリクソンの発達論に沿って、学習を進める。さらに心理検査と心理療法について学ぶ。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
エリクソンの精神性発達を縦軸に、その八つの発達段階に応じた精神的な問題や病いを取り上げて概説する。次に、心理検査においてパーソナリティーの検査、知能検査を理解し、心理査定によるクライアントへの接近方法を考え、心理療法的かかわりに繋げていく。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	心理学概論 I・II
①精神発達 ②心理的危機 ③漸成的 ④ライフサイクル ⑤精神的課題 ⑥生き方 ⑦自我同一性 ⑧神経症 ⑨心理アセスメント ⑩心理療法	
到達目標	
展開科目	臨床心理学 II
関連資格	認定心理士 教員免許状(高「公民」)
エリクソンのライフサイクルと精神性発達の内容を理解し、八つの発達段階に応じた精神的な課題、心理的危機、精神的な問題や病いを知る。心理検査においてパーソナリティーの検査、知能検査を理解し、心理査定によるクライアントへの接近方法について、その必要性和使用法の注意点などについて理解する。	
担当教員名	高橋昇

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス(障害と心)	9	中年・熟年期の発達と問題
2	発達段階と乳児の成長	10	老年期の発達と問題
3	乳児の課題と達成不全の問題	11	心理査定について(アセスメントと検査)
4	幼児初期の発達と問題	12	心理検査の種類と内容
5	幼児期後期と学童期の発達と問題	13	心理検査の体験と意義
6	青年期の発達と問題	14	知能検査と心理療法
7	成人期の発達と問題	15	授業全体のまとめ
8	復習		

評価方法	テストによって判定
------	-----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	「はじめての臨床心理学」 森谷寛之・竹松志乃 北樹出版 2,625円
参考文献	
実験・実習・教材費	

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	臨床心理学と教育心理学の基礎を学ぶ		
科目コード	K104		
講義の目的			
学年・期	1年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	教育心理学 I		
教育心理学における学校適応や発達障害などの基礎的な事柄について学ぶ。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
教育の営みに含まれる要因は、対象としての幼児・児童・生徒、働きかけるものとしての教師、両者の関係を通して起こってくる成長、学習、教授等の事象である。これらを理解するための教育心理学の基礎的な事柄について学ぶ。特に学校での適応や発達障害についての理解を深める。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	心理学概論 I・II		
①学校適応 ②不登校 ③非行 ④いじめ ⑤発達障害 ⑥広汎性発達障害 ⑦AD/DH ⑧学習障害 ⑨障害児への支援 ⑩教育評価			
到達目標			
展開科目	教育心理学 II		
関連資格	認定心理士 教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
教育現場で起こるさまざまな問題を検討することによって、教育についての考えを深め、基本的な知識を習得することを目標とする。			
担当教員名	坪井 裕子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション・教育心理学の概要	9	発達障害(3)
2	教師と児童・生徒	10	発達障害(4)
3	学校適応(1)	11	発達障害(5)
4	学校適応(2)	12	発達障害の復習とまとめ
5	学校適応(3)	13	教育評価(1)
6	学校適応についての復習とまとめ	14	教育評価(2)
7	発達障害(1)	15	授業全体の復習とまとめ
8	発達障害(2)		
評価方法	期末試験によって評価します		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	西村純一・井森澄江編『教育心理学エッセンシャルズ』第2版(ナカニシヤ出版/2,200円+税)		
参考文献	授業中に紹介します		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K105
研究法とデータ解析法を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	1年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	心理学研究法Ⅰ
われわれは日常生活において心に関係するさまざまな現象や問題に遭遇している。この授業では、それらの現象や問題を扱った心理学の代表的な研究を紹介し、心理学という学問がいかなる方法を用いて心にアプローチしていくのかについて考えていく。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
前半は、主に実験心理学の立場から、知覚、認知、生理、心の進化といった問題を扱った研究を紹介し、心に対する科学的アプローチの実際を理解する。後半は、発達、社会、動機づけ、臨床、キャリア発達などの分野におけるさまざまな研究を概観し、代表的な心理学研究法について理解を深める。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
①心理学研究法 ②基礎心理学 ③応用心理学 ④研究計画の立案 ⑤データ収集とデータ分析 ⑥実験 ⑦行動観察 ⑧質問紙法 ⑨面接法 ⑩検査法	
前提とする科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ
到達目標	
展開科目	心理学研究法Ⅱ
関連資格	教員免許状(高「公民」)
大学で心理学を専門的に学ぶために必要な問題意識と基礎知識、専門的な立場から心の問題に取り組むための実践力の基礎を身につける。	
担当教員名	三後美紀

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	その他の心理学研究法
2	心理実験Ⅰ(実験計画の立案)	10	質問紙調査法Ⅰ
3	心理実験Ⅱ(感覚・知覚実験①)	11	質問紙調査法Ⅱ
4	心理実験Ⅲ(感覚・知覚実験②)	12	面接法
5	心理実験Ⅳ(認知実験①)	13	検査法
6	心理実験Ⅴ(認知実験②)	14	さまざまな問題
7	心理実験Ⅵ(生理実験)	15	まとめ
8	行動観察		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	海保博之 著『心理学ってどんなもの』岩波ジュニア新書427 820円＋税 藤本忠明・東正訓 編著『ワークショップ大学生活の心理学』ナカニシヤ出版 2,000円＋税		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	K106		
研究法とデータ解析法を学ぶ			
講義の目的			
学年・期	1年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	心理統計法 I		
実験, 調査, 検査といった研究手法を駆使する際には, 計測するデータの特性を理解し, 得られたデータを処理・分析する能力が不可欠となる。この授業ではそうした心理統計の基本的技能を身につけ, 心理現象を科学的な視点から捉える姿勢を身につけることを目的とする。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
2年次以降の心理基礎実習やデータ解析に臨むにあたって必要となるデータ処理技能を身につけるために, 計算を中心とした練習課題を毎時間行う。また受講者各自が習得度を確認するための小テストを実施する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目			
①心理統計法 ②数量化 ③基礎統計量			
到達目標			
展開科目	心理統計法 II・III		
関連資格	教員免許状(高「公民」)		
関数電卓を使用して正確に計算ができるようになる。提示された数値データや図表データの特徴を読み取ることができるようになる。心理統計の基礎用語について理解できるようになる。			
担当教員名	坂本真也		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	計算技能の基礎⑦(関数とグラフ)
2	計算技能の基礎①(計算の基礎)	10	計算技能の基礎⑧(確率の計算)
3	計算技能の基礎②(計算の基礎)	11	まとめと小テスト II
4	計算技能の基礎③(比率と割合)	12	データ解析の基礎①(度数分布)
5	計算技能の基礎④(関数の基礎)	13	データ解析の基礎②(代表値)
6	まとめと小テスト I	14	データ解析の基礎③(データ散布度)
7	計算技能の基礎⑤(平方根の計算)	15	データ解析の基礎④(相関関係)
8	計算技能の基礎⑥(指数と対数)		
評価方法	出席回数の基準をクリアしていることを前提とし, 定期試験の結果によって評価する。遅刻や私語などの授業態度も評価の対象とする。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	田中・山際 共著『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』教育出版 3,045円 鶴沼・長谷川 共著『はじめての心理統計法』東京図書 2,625円		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K201
心理学の専門的知識を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	臨床心理学Ⅱ
臨床心理学の基礎とその世界について学んでいきます。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
臨床心理学を創始した人となりから学問の特徴を考え、臨床心理学全般にわたる自我構造や、パーソナリティーの問題、そして精神的な問題や病気について幅広く学び、臨床心理学の世界を概観していくことを目標にしています。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	臨床心理学Ⅰ
①人の心 ②意識 ③無意識 ④自我構造 ⑤ユング ⑥フロイト ⑦普遍的無意識 ⑧パーソナリティー ⑨類型論 ⑩自我防衛	
到達目標	
展開科目	心のケアの心理学
臨床心理学の基礎として、自我構造や意識と無意識との関連、パーソナリティーの基礎知識などが身につくこと。さらにユングやロジャーズ流の心理療法のあり方を知り、臨床心理学の臨床実践的な技法を理解すること。さらにかかわる対象としてのクライアント理解の方法として、病んだ心や精神病理の理解を深めることを目標とします。	
関連資格	認定心理士
担当教員名	高橋昇

授業計画

回	主題	回	主題
1	臨床の基礎	9	ユングの心の構造
2	臨床心理学の基礎	10	復習
3	臨床心理学を作った人々(1)	11	パーソナリティー(性格類型)
4	臨床心理学を作った人々(2)	12	パーソナリティー(タイプ論)
5	人の心を感じること	13	精神的な「病い」(1)
6	共感性の概説と心の構造へ	14	精神的な「病い」(2)
7	心の構造ーフロイト	15	全体的なまとめ
8	フロイトの自我防衛		

評価方法	テストによって判定
------	-----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	「はじめての臨床心理学」森谷寛之・竹松志乃著 北樹出版 2,625円
参考文献	
実験・実習・教材費	

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ		
科目コード	K202		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ	教育心理学における学習や動機づけなどの基礎的な事柄について学ぶ。		
授業科目名	教育心理学Ⅱ		
単位数	2		
授業の概要	教育の営みに含まれる要因は、対象としての幼児・児童・生徒、働きかけるものとしての教師、両者の関係を通して起こってくる成長、学習、教授等の事象である。これらを理解するための教育心理学の基礎的な事柄について学ぶ。特に学習や発達の基本についての理解を深める。		
授業形態	講義		
科目のキーワード	①教育心理学 ②行動論 ③認知論 ④記憶 ⑤知能 ⑥学力 ⑦動機づけ ⑧発達		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	教育心理学Ⅰ		
到達目標			
展開科目	心の発達の心理学		
関連資格	認定心理士 教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
教育現場で起こるさまざまな問題を検討することによって、教育についての考えを深め、基本的な知識を習得することを目標とする。			
担当教員名	坪井 裕子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション・教育心理学の概要	9	学習過程
2	学習(1)	10	発達と教育
3	学習(2)	11	発達(1)
4	学習(3)	12	発達(2)
5	個人差(1)	13	発達(3)
6	個人差(2)	14	発達(4)
7	動機づけ(1)	15	授業全体の復習とまとめ
8	動機づけ(2)		
評価方法	期末試験によって評価します		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	西村純一・井森澄江編『教育心理学エッセンシャルズ』第2版(ナカニシヤ出版/2,200円+税)		
参考文献	授業中に紹介します		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K203
研究法とデータ解析法を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	心理学研究法Ⅱ
心理学について全般的に幅広く学習をはじめ、一般心理学から各論に入る中で、広く研究法について学んでいく。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
大学で心理学を専門的に学び卒業研究を仕上げるまでのプロセスについて説明し、一般的な心理学研究の流れを理解する。特に、臨床心理学、教育心理学、発達心理学、人間関係論といった我々の日常生活に密接した分野における研究の概要について詳しく解説する。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	心理学研究法Ⅰ
①卒業研究 ②卒業後の進路 ③心理学研究 ④批判的思考 ⑤心理測定 ⑥分析結果 ⑦因子分析 ⑧精神分析 ⑨発達課題 ⑩内的対象関係	
到達目標	
展開科目	心理学基礎実習・心理学応用実習
関連資格	
心理コースで開講されている授業科目間の連関性、卒業研究までのプロセスについて理解する。そして教育心理学、発達心理学、社会心理学などの研究を知り、それらについて批判的に思考する力を身につける。臨床心理学研究の初歩から事例研究の読み方までを考え、臨床心理学的な人の心へのアプローチについて理解する。	
担当教員名	高橋昇

授業計画			
回	主題	回	主題
1	大学で学ぶ心理学①	9	臨床心理学的見方への架橋
2	大学で学ぶ心理学②	10	精神分析的な考え方
3	心理学研究の実際①	11	臨床心理学的なものの見方
4	心理学研究の実際②	12	研究の方法と事例
5	論文の読み方①	13	事例研究(1)
6	論文の読み方②	14	事例研究(2)
7	論文の読み方③	15	事例研究のまとめ
8	論文の読み方④		
評価方法	テストによる判定		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献			
実験・実習・教材費			

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	カリキュラムの中での位置づけ		
科目コード	K204		
研究法とデータ解析法を学ぶ	研究法とデータ解析法を学ぶ		
講義の目的	講義の目的		
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ	授業のテーマ		
授業科目名	心理統計法Ⅱ		
心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱおよび心理学データ解析Ⅰ・Ⅱと併せて受講すること。	心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱおよび心理学データ解析Ⅰ・Ⅱと併せて受講すること。		
単位数	2		
授業の概要	授業の概要		
調査研究を行うために必要な基礎的統計技能について説明する。前半は相関係数の算出および有意性検定、集計表の分析および度数検定について解説し、後半はより実践的な質問紙調査の作成方法と分析方法について因子分析の概要とあわせて解説する。授業時間内の学習のみでなく、復習を中心とした自主的な学習が要求される。	調査研究を行うために必要な基礎的統計技能について説明する。前半は相関係数の算出および有意性検定、集計表の分析および度数検定について解説し、後半はより実践的な質問紙調査の作成方法と分析方法について因子分析の概要とあわせて解説する。授業時間内の学習のみでなく、復習を中心とした自主的な学習が要求される。		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	科目のキーワード		
①相関係数 ②ノンパラメトリック検定 ③質問紙調査 ④因子分析 ⑤行動観察	①相関係数 ②ノンパラメトリック検定 ③質問紙調査 ④因子分析 ⑤行動観察		
前提とする科目	心理統計法Ⅰ		
到達目標	到達目標		
展開科目	心理統計法Ⅲ		
関連資格	認定心理士		
心理学基礎実習や卒業研究におけるデータ解析や論文作成に必要な心理統計の基礎知識と計算技能を身につける。統計ソフトを使ったデータ処理法を習得する。	心理学基礎実習や卒業研究におけるデータ解析や論文作成に必要な心理統計の基礎知識と計算技能を身につける。統計ソフトを使ったデータ処理法を習得する。		
担当教員名			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	2変数の相関①	9	順位についての検定
2	2変数の相関②	10	質問紙調査の実施と分析①
3	2変数の相関③	11	質問紙調査の実施と分析②
4	相関係数の有意性検定①	12	質問紙調査の実施と分析③
5	相関係数の有意性検定②	13	因子分析①
6	度数についての検定①	14	因子分析②
7	度数についての検定②	15	行動観察法の基礎
8	度数についての検定③		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	田中・山際 共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045 円		
参考文献	鵜沼・長谷川 共著 『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625 円 大山ら 共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310 円		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K233
研究法とデータ解析法を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	心理統計法Ⅲ
心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。心理学基礎実習Ⅰ・Ⅱおよび心理学データ解析Ⅰ・Ⅱと併せて受講すること。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
前半では、実験によって測定されたデータの特徴を記述・表現するための手法(図表化と代表値の計算)について解説する。後半は、平均値の差の検定(t検定と分散分析)の方法について解説する。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①記述統計と推測統計 ②データの尺度 ③代表値と散布度 ④有意差検定 ⑤実験計画法	
前提とする科目	心理統計法Ⅱ
到達目標	
展開科目	心理調査作成法・心理調査集計法
関連資格	認定心理士
心理学基礎実習や卒業研究におけるデータ解析や論文作成に必要な心理統計の基礎知識と計算技能を身につける。統計ソフトを使ったデータ処理法を習得する。	
担当教員名	

授業計画

回	主題	回	主題
1	実験研究の目的	9	有意差検定とは？
2	記述統計と推測統計	10	2つの平均値の差の検定①
3	データの尺度	11	2つの平均値の差の検定②
4	データの図表化	12	2つの平均値の差の検定③
5	母集団と標本	13	実験計画法と分散分析①
6	代表値と散布度①	14	実験計画法と分散分析②
7	代表値と散布度②	15	実験計画法と分散分析③
8	代表値と散布度③		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	田中・山際 共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045 円
参考文献	鶴沼・長谷川 共著 『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625 円 大山ら 共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310 円
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	K261		
日本語リテラシ科目			
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	心理学文献講読Ⅰ		
心理学の文献を通して、心理学の専門用語や心理学の領域について理解し、基礎的な心理学の知識を身に付けていく。また、心理学のテーマに応じたディスカッションを行い、自身の心理学の興味・関心領域について知見を深めていきたい。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
心理学の様々な領域について理解できるよう、幅広く心理学に関係する文献を講読し、要約し解説・ディスカッションを行っていく。基礎領域や応用領域にどのような心理学のテーマやキーコンセプトをおさえていきたい。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	心理学研究法Ⅰ・Ⅱ		
①心理学専門用語(英語) ②心理学の分野・領域 ③ディスカッション ④基礎と応用			
展開科目	心理学文献講読Ⅱ		
到達目標			
関連資格			
心理学の専門用語や領域の特徴を理解し、要約して発表できる力を習得する。			
担当教員名	坂本真也		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	心理学の領域	9	心理的障害
2	心理学の観点	10	心理療法
3	現代の問題点と心理学	11	人格(パーソナリティ)
4	心理学の研究手法	12	ストレスと健康
5	心理学の理論と方向性	13	社会的認知とソーシャルサポート
6	心理学における発達	14	ディスカッションⅡ
7	ディスカッションⅠ	15	まとめ
8	知能と感情		
評価方法	出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	配布資料		
参考文献	栄陽子留学研究所 編『留学生必修講義<2>心理学入門』三修社 2,940円 内田一成 監訳『ヒルガードの心理学 第15版』金剛出版 23,100円		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K262
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	心理学文献講読Ⅱ
心理学の文献を通して、最新の心理学の知見を学ぶと共に、卒業論文のテーマや大学院受験を視野に入れた学習を行う。また、テーマに応じて心理学の研究論文を取り上げ、ディスカッションを行い、心理学研究の方法などの知見を深めていく。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	演習
心理学のトピックに関して、文献を講読していく中で専門用語とその英語を理解できるようにしたい。また、前半・後半テーマからディスカッションでは、研究論文を取り上げ専門分野の理解を深めていきたい。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	心理学文献講読Ⅰ
①研究論文 ②専門用語(英語) ③心理学文献 ④論文構成 ⑤心理学の分野・領域	
展開科目	心理学英語文献講読Ⅰ
到達目標	
関連資格	
心理学の様々な領域の専門用語とその英語を理解し、心理学の専門分野の研究の特徴を把握できることを目指す。	
担当教員名	坂本真也

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	心理学研究の特徴(研究論文の構造)	9	発達・人格心理学に関する文献Ⅱ
2	教育心理学に関する文献Ⅰ	10	発達・人格心理学の研究分野のまとめとディスカッション
3	教育心理学に関する文献Ⅱ	11	臨床心理学に関する文献Ⅰ
4	教育心理学の研究分野のまとめとディスカッション	12	臨床心理学に関する文献Ⅱ
5	社会心理学に関する文献Ⅰ	13	臨床心理学に関する文献Ⅲ
6	社会心理学に関する文献Ⅱ	14	臨床心理学の研究分野のまとめとディスカッション
7	社会心理学の研究分野のまとめとディスカッション	15	これまでの授業のまとめ
8	発達・人格心理学に関する文献Ⅰ		

評価方法 出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	配布資料
参考文献	APA(アメリカ心理学会)著 江藤・前田・田中訳 『APA論文作成マニュアル』 医学書院 3990円
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	K351		
外国語リテラシ科目			
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	心理学英語文献講読Ⅰ		
心理学英語文献を読む中で、英語読解力など英語に関する基礎力を高め、心理学を英語文で読むことに慣れることができる。また、今後の卒業研究や大学院受験希望者の試験対策においても役立てることができる。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
教科書の英語文献から重要な心理学のテーマに関する英語文章を抜粋し、それを各自一読してもらった上で、授業で説明していく。その際、必要に応じて、市販の英語教材などを併用しながら、文法、和訳、長文読解などの解説や、取り上げた心理学のテーマについての用語解説も行っていく。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
①心理学英語 ②英語長文読解 ③英文解釈 ④英文和訳 ⑤英単語理解 ⑥心理学			
前提とする科目	心理学文献講読Ⅱ		
到達目標			
展開科目	心理学英語文献講読Ⅱ		
関連資格			
重要な心理学用語の英単語や概念、基本的な英単語を理解した上で、心理学に関する少量の英語長文の内容の概略をつかむことができる。また、比較的平易な文法的に重要な英文について、その構造を理解した上で分かりやすく和訳することができる。			
担当教員名	小野田加奈子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	ストレスとコーピング②
2	子どもの発達①	10	精神疾患①
3	子どもの発達②	11	精神疾患②
4	性格検査①	12	心理療法①
5	性格検査②	13	心理療法②
6	社会心理学①	14	学習心理学
7	社会心理学②	15	期末試験
8	ストレスとコーピング①		
評価方法	期末試験		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	無		
参考文献	Smith,E.E.,Nolen-Hoeksema,S.,Fredrickson,B.L.,& Loftus,G.R. 『Atkinson & Hilgard's INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY 14TH EDITION』 THOMSON WADSWORTH		
実験・実習・教材費	無		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K352
外国語リテラン科目	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	心理学英語文献講読Ⅱ
心理学英語文献を読む中で、英語読解力など英語に関する基礎力を高め、心理学を一定量の英語長文で読むことに慣れることができる。また、今後の卒業研究や大学院受験希望者の試験対策においても役立てることができる。	
単位数	2
授業の概要	
教科書の英語文献から重要な心理学のテーマに関する英語文章を抜粋し、それを各自一読してもらった上で、授業で説明していく。その際、必要に応じて、市販の英語教材などを併用しながら、文法、和訳、長文読解などの解説や、取り上げた心理学のテーマについての用語解説も行っていく。心理学英語文献講読Ⅰで扱った文章よりも少し長い文章を扱い、心理学の英語長文を読みこむことに重点を置く。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①心理学英語 ②英語長文読解 ③英文解釈 ④英文和訳 ⑤英単語 ⑥心理学	
前提とする科目	心理学英語文献講読Ⅰ
到達目標	
展開科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅰ・Ⅱ
関連資格	
重要な心理学用語の英単語や概念、基本的な英単語を理解した上で、心理学に関する一定量の英語長文の内容の概略をつかむことができる。また、比較的平易な文法的に重要な英文について、その構造を理解した上で分かりやすく和訳することができる。なお、英語長文の量、和訳する英文の難易度については、心理学英語文献講読Ⅰで扱ったものよりも少し高いものとする。	
担当教員名	小野田加奈子

授業計画

回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	精神疾患②
2	子どもの発達①	10	知能
3	子どもの発達②	11	発達心理学①
4	学習心理学	12	発達心理学②
5	性格心理学①	13	心理療法①
6	性格心理学②	14	心理療法②
7	記憶	15	期末試験
8	精神疾患①		

評価方法	期末試験
------	------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	無
参考文献	Smith,E.E.,Nolen-Hoeksema,S.,Fredrickson,B.L.,& Loftus,G.R. 『Atkinson & Hilgard's INTRODUCTION TO PSYCHOLOGY 14TH EDITION』 THOMSON WADSWORTH
実験・実習・教材費	無

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	情報リテラシ 科目		
科目コード	K281		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業科目名	心理学データ解析 I		
授業のテーマ	心理現象について調査や実験で得られるデータは、数量化され、統計的に検討を行っていく。その際、そのデータはどのような意味であるのか、統計処理を行い何が表現されているのかなど理解する必要がある。本講義では調査や実験によって得られたデータの意味を理解し、データが示す適切な統計的検討を行い、表やグラフへまとめ、発表できることを目指すことを目的とする。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
授業の概要	まずは、基本的な統計データの読み取りと表計算へのデータ入力と適切な表現ができるよう、調査や実験で得られたデータの種類や意味を理解し、データに応じた統計的検討の方法(前半では記述統計を中心に、後半では相関や $\chi^2$ 検定)を学習し、分析結果の発表する技能の習得を目指していく。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	心理学統計法 I		
科目のキーワード	①記述統計 ②表計算 ③相関 ④有意差 ⑤ $\chi^2$ 検定		
展開科目	心理学データ解析 II		
到達目標			
関連資格			
到達目標	心理学におけるデータの意味や統計方法を理解し、適切な図表等を用いて説明・発表できる技能を習得する。		
担当教員名	坂本真也		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	心理学におけるデータとは	9	共分散と散布図
2	データの種類と意味	10	相関係数と相関の検定
3	データの図表化による表現方法	11	ノンパラメトリック検定とは
4	記述統計(代表値と散布度①)	12	$\chi^2$ 検定①
5	記述統計(代表値と散布度②)	13	$\chi^2$ 検定②
6	記述統計(代表値と散布度③)	14	$\chi^2$ 検定③
7	まとめと発表 I	15	まとめと発表 II
8	相関とは		
評価方法	出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	配布資料		
参考文献	田中・山際 著『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』教育出版 3,045円 鶴沼・長谷川著『はじめての心理統計法』東京図書 2,625円		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	情報リテラシ 科目
科目コード	K282
講義の目的	
学年・期	2年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	心理学データ解析Ⅱ
心理学と関連する領域において、その関係を客観的データとして数量的に把握し統計・分析することが重要である。前期の「心理学データ解析Ⅰ」に引き続き、心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を習得することを目的とする。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
まず、調査によって得られるデータにはどのようなものがあり、何を測定しているのか検討・解説する。また、平均値の差の検定(t検定、分散分析)や尺度作成の方法として因子分析についても実践的に学んでいく。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	心理学データ解析Ⅰ
①データの種類 ②信頼性と妥当性 ③t検定 ④分散分析 ⑤因子分析	
到達目標	
展開科目	心理学応用実習Ⅰ
心理学におけるデータの意味や統計方法を理解し、適切な図表等を用いて説明・発表できる技能を習得する。	
関連資格	
担当教員名	坂本真也

授業計画

回	主題	回	主題
1	データと尺度(データ解析Ⅰとの関連性について)	9	分散分析①
2	信頼性と妥当性	10	分散分析②
3	有意性検定について	11	分散分析③
4	2つの平均値の差の検定①	12	結果の記述・発表方法Ⅱ
5	2つの平均値の差の検定②	13	因子分析①
6	2つの平均値の差の検定③	14	因子分析②
7	結果の記述・発表方法Ⅰ	15	まとめ
8	実験計画法(デザイン)について		

評価方法	出席回数基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。
------	--

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	配布資料
参考文献	田中・山際 著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円 小塩 著 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析』 東京図書 2,940円
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	K381		
研究法とデータ解析法を学ぶ			
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業科目名	心理調査作成法 I		
授業のテーマ	心理学の主要な研究方法として、実験・観察・調査・検査などの方法があるが、本講義では「調査」に焦点を当てていく。人の態度、意識、行動の特徴を把握することを長所とする調査研究の中でも「質問紙法」の作成方法を中心に進めていく。また、調査の実施方法についても理解し、調査の結果をどのようにまとめていくかについて「心理調査集計法 I」で行うため、併せて履修すること。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
調査研究とはどのようなものか(知識的な理解)、実際に調査研究をどのように行うか(実践的な理解)、調査研究について知識と共に実践的に学習する。調査に関する基礎知識を理解したうえで、実際に「質問紙調査」のために質問紙作成の具体的な作業を行っていく。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	心理学データ解析 I・II		
①調査 ②面接 ③質問紙 ④項目分析 ⑤尺度			
到達目標			
展開科目	心理調査作成法 II		
心理学研究の方法として、調査研究について理解し、面接調査や質問紙調査の手順を習得する。			
関連資格			
担当教員名	坂本真也		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	質問紙法の実施方法
2	調査研究の基礎 I (調査研究の方法など)	10	質問紙項目の作成
3	調査研究の基礎 II (調査的面接法)	11	質問紙項目の分析
4	調査研究の基礎 III (質問紙法)	12	質問紙調査の実習
5	調査的面接法の実施方法	13	質問紙調査のまとめ I
6	調査的面接法の実習	14	質問紙調査のまとめ II
7	調査的面接法のまとめ	15	プレゼンテーション II
8	プレゼンテーション I		
評価方法	出席回数の基準を満たしており、定期試験の結果によって評価する		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	小塩・西口著 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版 2,310円		
参考文献	鎌原・宮下・大野木・中澤編著 『心理学マニュアル 質問紙法』 北大路書房 1,575円 保坂・中澤・大野木編著 『心理学マニュアル 面接法』 北大路書房 1,575円		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K382
研究法とデータ解析法を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業のテーマ	
授業科目名	心理調査集計法Ⅰ
心理学の主要な研究方法である調査研究について焦点を当てていく。「心理調査作成法Ⅰ」で行った面接調査や質問紙調査によって得られたデータをどのようにまとめ、集計していくかを中心に講義を展開していく。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
心理学調査作成法Ⅰを踏まえ、調査研究の実施の結果の整理・分析を中心に講義を行っていく。面接調査や質問紙調査のまとめ方の違いなどにも着目し、どのようなことを明らかにすることができるのか、先行研究を参考にし、解説しながら、調査結果をまとめ上げていく。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	心理学データ解析Ⅰ・Ⅱ
①調査研究 ②データの入力と整理 ③集計・結果の記述 ④先行研究	
到達目標	
展開科目	心理調査集計法Ⅱ
関連資格	
心理学研究の方法として、調査研究の面接調査や質問紙調査の実施方法からデータ整理、分析方法まで習得すること。	
担当教員名	坂本真也

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	質問紙法Ⅰ(計画とデザイン)
2	調査研究の進め方(研究テーマや仮説の立て方)	10	質問紙法Ⅱ(項目の作成方法)
3	先行研究Ⅰ(調査的面接法)	11	質問紙法Ⅲ(項目分析のデータ処理)
4	先行研究Ⅱ(質問紙法)	12	質問紙調査における結果の整理
5	調査的面接法Ⅰ(手続きや方法)	13	データ分析Ⅰ
6	調査的面接法Ⅱ(結果の記述)	14	データ分析Ⅱ
7	調査的面接法Ⅲ(分析過程と考察の記述)	15	プレゼンテーションⅡ
8	プレゼンテーションⅠ		

評価方法	出席回数等の基準を満たしており、定期試験の結果によって評価する。
------	----------------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	小塩・西口著『質問紙調査の手順』ナカニシヤ出版 2,310円
参考文献	鎌原・宮下・大野木・中澤編著『心理学マニュアル 質問紙法』北大路書房 1,575円 保坂・中澤・大野木編著『心理学マニュアル 面接法』北大路書房 1,575円
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	K383		
研究法とデータ解析法を学ぶ			
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	心理調査作成法Ⅱ		
心理調査研究を立案し、質問紙調査の作成及び実施を行う力を習得する。			
単位数	2		
授業の概要			
心理調査法は、実験法・観察法・面接法と並ぶ主要な心理学的研究方法の一つである。この授業は心理調査集計法Ⅱと併せて2科目を連続で履修し、調査テーマ設定、質問紙の項目作成、予備調査の実施、質問項目分析、本調査の実施、調査結果の分析、レポート作成、調査報告までといった一連の研究の流れを体験する。代表的なデータ解析ソフトウェアであるSPSSを使えるようになり、尺度の内的整合性の検討の方法を身につける。卒業研究を実施するために必要な基本的知識・技能の習得を目指す。			
授業形態	講義		
科目のキーワード			
①心理学研究 ②調査法 ③質問紙 ④尺度 ⑤項目 ⑥信頼性 ⑦妥当性 ⑧心理統計 ⑨データ集計 ⑩データ分析			
必修・選択	コース選択		
到達目標			
前提とする科目	心理調査作成法Ⅰ		
展開科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅰ・Ⅱ		
調査法の概要を理解すること。 質問紙調査を作成すること。 質問紙調査を実施すること。			
関連資格			
担当教員名	胡琴菊		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	質問紙構成
2	調査法の基礎知識(1)	10	予備調査実施(プリテストデータ収集)
3	調査法の基礎知識(2)	11	尺度項目選定(1)
4	調査法の基礎知識(3)	12	尺度項目選定(2)
5	調査研究対象明確(テーマ設定)	13	尺度の内的整合性の検討
6	先行研究(文献)検索	14	尺度項目最終決定・本調査質問紙完成及び印刷製本
7	尺度項目作成(1)	15	本調査依頼及び実施
8	尺度項目作成(2)		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 編著『心理学マニュアル 質問紙法』北大路書房 定価1,575(本体1,500円+税)		
参考文献	小塩真司・西口利文 編 心理学基礎演習Vol.2『質問紙調査の手順』ナカニシヤ出版 定価2,310(本体2,200円+税)		
実験・実習・教材費			

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K384
研究法とデータ解析法を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	心理調査集計法Ⅱ
質問紙を使った調査データの集計、結果の分析、レポートの作成までできるような力を身につける。	
単位数	2
授業の概要	
心理調査法は、実験法・観察法・面接法と並ぶ主要な心理学的研究方法の一つである。この授業は心理調査作成法Ⅱと併せて2科目を連続で履修し、調査テーマ設定、質問紙の項目作成、予備調査の実施、質問項目分析、本調査の実施、調査結果の分析、レポート作成、調査報告までといった一連の研究の流れを体験する。代表的なデータ解析ソフトウェアであるSPSSを使えるようになり、特に調査結果の分析では、因子分析の方法を身につける。卒業研究を実施するために必要な基本的知識・技能の習得を目指す。	
授業形態	講義
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①心理学研究 ②調査法 ③質問紙 ④尺度 ⑤項目 ⑥信頼性 ⑦妥当性 ⑧心理統計 ⑨データ集計 ⑩データ分析	
前提とする科目	心理調査集計法Ⅰ
到達目標	
展開科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅰ・Ⅱ
関連資格	
データ入力および集計ができるようになること。 基本的な統計的データ分析を習得すること。 結果の解釈ができること。 レポートの作成ができること。	
担当教員名	胡琴菊

授業計画

回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	方法及び結果の書き方および結果の解釈
2	データ解析の基礎知識	10	考察のしかたおよびまとめ
3	データ入力・整理	11	レポート・論文の書き方および作成
4	データ集計・加工	12	質問紙調査報告へのプレゼンテーション作成 (1)
5	データ処理・分析 (1)	13	質問紙調査報告へのプレゼンテーション作成 (2)
6	データ処理・分析 (2)	14	調査報告の発表会
7	データ処理・分析 (3)	15	全体の振り返り
8	データ処理・分析 (4)		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	小塩真司著 『SPSSとAmosによる心理・調査データ解析—因子分析・共分散構造分析まで』 東京図書 定価2,940(本体2,800円+税)
参考文献	宮谷真人・坂田省吾 代表編集 『心理学基礎実習マニュアル』 北大路書 定価2,940(本体2,800円+税)
実験・実習・教材費	

科目目標		
学科	心身環境専攻 心理コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	K205	心理学の専門的知識を学ぶ
学年・期	2年・前期	講義の目的
授業科目名	人間関係の心理学 I	授業のテーマ われわれ人間は、人や社会との関係を持ちながら生きている社会的存在であり、他者や社会から影響を受けながら、また一方では他者や社会に影響を与えながら行動している。このような人間関係について心理学的な視点から捉えなおす思考力を身につけることを目的とする。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	はじめに社会の中で自己がどのように形成されてきたのかについて概観する。次に、対人関係における人間の行動や心の動きについて、心理学の基礎知識を身につけながら理解していく。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	心理学概論 I・II	①人間関係 ②自己概念 ③社会的欲求 ④対人認知 ⑤態度変容 ⑥集団規範 ⑦同調行動 ⑧リーダーシップ ⑨ストレスと適応 ⑩ソーシャルスキル
展開科目	人間関係の心理学 II	到達目標
関連資格	認定心理士	対人関係を含む、われわれの身近にある事象を心理学的に捉えた知見を学ぶことで、分析・総合の思考力と判断力の基礎を学生自身が身につけます。
担当教員名	三後美紀	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	心と社会のかかわり	9	集団の影響力(1)
2	心のなりたち	10	集団の影響力(2)
3	社会の中の自己	11	まとめ3
4	まとめ1	12	組織のなかの人間関係(1)
5	社会的欲求と動機づけ	13	組織のなかの人間関係(2)
6	対人認知	14	組織の中の人間関係(3)
7	態度変容	15	まとめ4
8	まとめ2		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	大坊郁夫・安藤清志 『社会の中の人間理解』 ナカニシヤ出版 1,900円＋税 池上知子・遠藤由美 著 『グラフィック社会心理学 第2版』 サイエンス社 2,600円＋税
実験・実習・教材費	なし

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K206
心理学の専門的知識を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	2年後期
授業のテーマ	
授業科目名	心のケアの心理学
心理療法についての重要点を概観し、さまざまな種類と立場や人間観があることを理解して、その上での技法を考えて臨床実践があることを理解する。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
心のケアを図る心理療法について体系的に学ぶ。まず心理療法とは何かに始まり、様々な学派の多種の心理療法の技法について理解し、その背景にある人間観について概観する。そしてそれぞれの心理療法の適用と有用性について考えていく。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
①心のケア ②心理療法 ③人間観 ④心理アセスメント ⑤人格レベル ⑥社会とのかかわり ⑦メンタルヘルス ⑧行動の変容 ⑨自己理解 ⑩意識と無意識	
前提とする科目	臨床心理学Ⅰ・Ⅱ
到達目標	
展開科目	心理療法
関連資格	認定心理士 教員免許状(高「公民」)
さまざまな心理療法の成り立ちと、人間の心に対する考え方から技法が成立していることを理解し、実際に行われている技法を知る。その上での適用や限界、何がどのように効果があるのか、その禁忌は何かなど、適用上の問題似も注意を向けることができるようにする。	
担当教員名	高橋昇

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス (心理療法とは)	9	クライアント中心療法(2)
2	心へのかかわり方	10	フォーカシング
3	精神分析の基礎理論	11	自律訓練法
4	心理療法としての精神分析	12	認知行動療法
5	フロイト以後の理論	13	芸術療法(1)
6	交流分析の技法	14	芸術療法(2)
7	復習	15	授業全体のまとめ
8	クライアント中心療法(1)		

評価方法	テストによる判定
------	----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	「やさしく学べる心理療法の基礎」窪内節子・吉武光世著 培風館 2,625円
-----	---------------------------------------

参考文献	
------	--

実験・実習・教材費	
-----------	--

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ
科目コード	K231
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業科目名	学習心理学
授業のテーマ	成育後のヒトが示すほとんどの行動は生後の経験を通じて学習されたものである。したがって、学習過程の研究は人間行動の理解にとって不可欠であるといえる。この授業ではヒトや霊長類動物の発達や環境適応において重要な役割を果たしている学習行動に関する代表的な理論や研究結果を紹介し、学習という心的過程のメカニズムについて考えていく。
単位数	2
授業の概要	馴化、鋭敏化、条件づけといった基本的な学習現象から、概念形成、模倣といった複雑な情報処理システムに基づいた学習現象までを解説する。さらにこうした学習現象と関連する心理過程(記憶や動機づけ)のはたらきや、比較心理学や発達心理学的観点からみた学習の意義についても考えていく。
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	①学習と適応 ②条件づけ ③認知的学習 ④社会的学習
前提とする科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ
到達目標	
展開科目	動機づけの心理学
関連資格	認定心理士
学習における普遍的特徴と種特异性、学習と適応の関連性について、広い視野から俯瞰できるようになることを目指す。	
担当教員名	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	学習の定義・学習の様式	9	強化スケジュール
2	行動の分類	10	条件づけの応用
3	馴化と鋭敏化	11	洞察学習と概念形成
4	古典的条件づけの形成	12	社会的学習
5	古典的条件づけの消去と般化	13	技能の習得
6	古典的条件づけの隠蔽と阻止	14	動物の学習行動
7	オペラント条件づけの形成	15	学習と記憶の生理学的基礎
8	オペラント条件づけにおける強化		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	なし		
参考文献	実森・中島共著『コンパクト新心理学ライブラリ2 学習の心理』サイエンス社 1,575 円 岡田・廣中・宮森共著『コンパクト新心理学ライブラリ 14 生理心理学』サイエンス社 2,310 円		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ
科目コード	K232
講義の目的	
学年・期	2年・前期
授業科目名	パーソナリティの心理学
授業のテーマ	人は、それぞれ主体的に自身の考えや感情の中で行動を取り、一人ひとり異なっている。パーソナリティ(Personality:人格)とは、このような個人の特徴的な思考、感情、行動の様式などを説明する概念である。本講義では、このパーソナリティについて多角的視点から理解し、その特徴を把握するためアセスメントの方法についても学ぶことを目的とする。
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
授業の概要	パーソナリティについて、様々なアプローチから学習していくことで、パーソナリティの捉え方や構造を理解していく。また、発達や障害等についても学び、人格の基本的な測定方法の習得を目指す。
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
前提とする科目	臨床心理学Ⅰ・教育心理学Ⅰ
到達目標	①パーソナリティ ②特性論と類型(タイプ)論 ③人格(パーソナリティ)障害 ④アセスメント ⑤人格発達
展開科目	心理コース演習(卒業研究)
到達目標	パーソナリティの諸理論を理解し、人格検査の基本的な手続きや方法を習得する。
関連資格	認定心理士
担当教員名	坂本真也

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	パーソナリティの発達
2	パーソナリティとは	10	パーソナリティ障害
3	特性論と類型論	11	人格のアセスメント
4	人格と知能	12	投影法
5	人格理論Ⅰ(精神分析的アプローチ)	13	質問紙法
6	人格理論Ⅱ(行動主義的アプローチ)	14	作業検査法
7	人格理論Ⅲ(認知的アプローチ)	15	まとめ
8	人格理論Ⅳ(人間性アプローチ)		

評価方法	出席日数の基準をクリアし、定期試験の結果によって評価する
------	------------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	配布資料
参考文献	西川・大石編『人格発達心理学』ナカニシヤ出版 2,520円
実験・実習・教材費	なし

科目目標		
学科	心身環境専攻 心理コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	K208	心理学の専門的知識を学ぶ
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	人間関係の心理学Ⅱ	授業のテーマ 個人の働き方が多様化している現代において、職業ということについて問いなおす必要が生じてきている。私たちはどのように職業観を醸成させてきたのか、組織参入時にはどのような課題があるのか、そして他者とのかわりが働き方にどのように影響するのか、などを題材とし、職業を通じた個人の発達を心理学的な視点から再考する。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	心理学の基礎知識を身につけながら社会の中での個人の発達についての理論を学び、同時にその課題や問題点を論じていく。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	心理学概論Ⅱ・人間関係の心理学Ⅰ	①キャリア発達 ②職業選択 ③組織社会化 ④キャリア・ストレス ⑤キャリア発達支援
展開科目	産業・組織心理学	到達目標
関連資格	認定心理士	組織の中での個人の成長という問題について心理学的に捉えることで、分析・総合の思考力と判断力、問題解決力を学生自身が身につける。
担当教員名	三後美紀	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	組織社会化(1)
2	人はなぜ働くのか	10	組織社会化(2)
3	ライフサイクルとキャリア	11	キャリア・ストレス
4	年齢層別のキャリア(1)	12	ワークライフ・バランス
5	年齢層別のキャリア(2)	13	キャリア発達支援
6	パーソナリティと職業選択(1)	14	キャリア・カウンセリング
7	パーソナリティと職業選択(2)	15	まとめ2
8	まとめ1		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	二村英幸 『個と組織を生かすキャリア発達の心理学』 金子書房 2,400円＋税
参考文献	授業中に紹介する
実験・実習・教材費	なし

科目目標		
学科	心身環境専攻 心理コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	K209	心理学の専門的知識を学ぶ
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	心の発達の心理学	授業のテーマ
単位数	2	乳幼児期から成人にいたる発達の基礎的な事柄を学ぶ
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	発達心理学では、人間の一生を通じて、さまざまに変化する各年代の心のはたらきや内容の基本的な特徴を学ぶ。さらに、心理臨床的視点から、発達に必要な援助についても学習していく。
前提とする科目	教育心理学Ⅰ・Ⅱ	科目のキーワード
展開科目	カウンセリングの心理学	①発達 ②乳児期 ③幼児期 ④児童期 ⑤青年期 ⑥老年期 ⑦教育 ⑧文化 ⑨社会化
関連資格	認定心理士 教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)	到達目標
担当教員名	坪井 裕子	発達上の変化の大きい乳幼児・児童期から青年期・成人期・老年期に至る各年齢段階について、様々な角度から発達についての基本的な知識を習得し、その内容と年代による変化を学び、人間の発達についての理解を深めることを目標とする。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	発達心理学とは	9	青年期①
2	乳児期①	10	青年期②
3	乳児期②	11	成人期
4	幼児期①	12	老年期
5	幼児期②	13	文化と発達
6	児童期①	14	教育と発達
7	児童期②	15	授業全体のまとめ
8	乳幼児期から児童期のまとめ		

評価方法	期末試験で評価します
------	------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	藤村宣之編著『発達心理学』 ミネルヴァ書房 2,500円＋税
参考文献	授業中に紹介します
実験・実習・教材費	なし

**科目目標**

<b>学科</b>	心身環境専攻 心理コース	<b>カリキュラムの中での位置づけ</b>
<b>科目コード</b>	K310	心理学の専門領域として、現代社会における消費者行動を心理学的アプローチも踏まえ養成する。
<b>学年・期</b>	3年・後期	<b>講義の目的</b>
<b>授業科目名</b>	消費者行動論	<b>授業のテーマ</b> 現代社会において、消費者を取巻いている環境は大きく変化している。特に、ソーシャルメディアをはじめとする双方向社会が出現し、これまでの消費者行動やその論理を変させるようになってきている。本講義では、消費者行動に関する基礎理論を理解することは勿論であるが新たな双方向社会における消費者行動を個人と外部環境要因を通して理解する。
<b>単位数</b>	2	<b>授業の概要</b> 消費者が如何に感じて、モノやサービスを選択しているのかという消費者行動要因を解き明かしていく。消費者行動論は心理学を中核として、社会学や文化人類学など多様な学問分野が交わる領域である。本講義では、心理学的なアプローチをもとに、多様な視点から消費者行動論における基礎的な概念、理論について学習する。
<b>授業形態</b>	講義	<b>科目のキーワード</b>
<b>必修・選択</b>	コース必修	①心理学的接近 ②意思決定過程 ③消費者行動におけるモチベーション ④消費者の態度形成と変容 ⑤消費者の個人的特性⑥情報の伝播 ⑦消費者心理
<b>前提とする科目</b>	社会心理学	<b>到達目標</b>
<b>展開科目</b>	心理コース演習(卒業研究)	
<b>関連資格</b>		消費者行動論における理論や概念を理解した上で、現代社会の変化を理論的に説明できるようになることを目標とする。
<b>担当教員名</b>	岡本純	

**授業計画**

回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	消費者行動における動機づけと感情
2	マーケティングと消費者行動	10	消費者の態度形成と変容1
3	消費者理解とマーケティング戦略1	11	消費者の態度形成と変容2
4	消費者理解とマーケティング戦略2	12	消費者の関与
5	消費者行動の心理学的アプローチ	13	消費者行動における個人的要因と外部環境要因
6	消費者の意思決定過程	14	情報の伝播と消費者行動
7	消費者の意思決定過程に及ぼす現象	15	社会文化的要因と消費者行動
8	消費者行動と記憶		

<b>評価方法</b>	授業への参加度 50% 課題・演習 50%
-------------	-----------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

<b>教科書</b>	杉本徹雄編『新・消費者理解のための心理学』 福村出版 2012年
<b>参考文献</b>	中西正雄編『消費者行動分析のニュー・フロンティア』 誠文堂新光社1984年
<b>実験・実習・教材費</b>	なし *教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	K211		
心理学の専門的知識を学ぶ			
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	社会心理学		
人の幸福を最も強く規定するのは人間関係だといわれている。心理学と聞いて多くの人がイメージする臨床心理学も、信頼できる人間関係を基礎にするものである。講義では社会的影響過程や集団の心理について学習する。それによって、他者との接し方や他者との葛藤について理解を深めることを目指す。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
講義では科学的な視点から、社会的動物としての人間の心理について、対人関係、集団を中心とした応用的な知識を概説する。ただし、講義は理論の紹介にとどまらず、ディスカッション等の実習が行われる。他者との葛藤体験を通じ、社会的状況と認知、行動の相互作用関係を、より具体的で身近な現象から理解していく。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ		
①社会的影響 ②社会的アイデンティティ ③ステレオタイプ ④社会的認知 ⑤集団 ⑥コミュニケーション ⑦同調 ⑧リーダーシップ ⑨対人葛藤 ⑩アサーション			
到達目標			
展開科目	産業・組織心理学		
目標1: 対人認知や社会的影響、対人葛藤の理論、専門用語について説明できる。 目標2: 専門知識を用いて自らの相互作用の体験を省察し、自他の行動様式の改善方法を提案できる。			
関連資格	認定心理士		
担当教員名	中島誠		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	導入1心理学における実証	9	コミュニケーション4説得的コミュニケーション
2	導入2社会心理学の概要	10	コミュニケーション5ゲーム体験
3	導入3集団実験に関する映像視聴	11	組織運営1
4	集団1集団の影響力	12	組織運営2
5	集団2集団と社会的認知	13	組織運営3ゲーム体験
6	コミュニケーション1ゲーム体験	14	組織運営4リーダーシップの理論
7	コミュニケーション2コミュニケーションの理論	15	まとめとふり返り
8	コミュニケーション3集団討議		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	特になし		
参考文献	特になし		
実験・実習・教材費	特になし		

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ		
科目コード	K301		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業科目名	産業・組織心理学		
授業のテーマ	われわれは人生の多くの時間を学校や企業などの組織で過ごす。この授業では、個と組織の関係について産業・組織心理学の見地から再考し、組織における人間の成長について客観的に捉え直す思考力と、生き生きとした組織での生活を創造していく判断力を身につけることを目的とする。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
企業や学校、家庭などの集団における人間の行動や心の動きについて学ぶ。集団における個人の行動を「個人の集団内での発達」という視点を加えながら理解していく。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	人間関係の心理学Ⅰ・Ⅱ		
①ワーク・モチベーション ②職務満足 ③リーダーシップ ④職務ストレス ⑤ストレス・マネジメント ⑥キャリア発達 ⑦ソーシャル・スキル			
到達目標			
展開科目	心理コース演習(卒業研究)		
組織における人間行動を心理学的に捉えた知見を学ぶことで、分析・総合の思考力と判断力の基礎を学生自身が身につける。			
関連資格	認定心理士		
担当教員名	三後美紀		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	職場のストレス(1)
2	組織における人間観	10	職場のストレス(2)
3	ワーク・モチベーション(1)	11	ストレス・マネジメント
4	ワーク・モチベーション(2)	12	キャリア発達
5	職務満足	13	人とのかかわり方(1)
6	リーダーシップ(1)	14	人とのかかわり方(2)
7	リーダーシップ(2)	15	まとめ2
8	まとめ1		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	山口裕幸・金井篤子 編 『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2,400円＋税 他、授業中に紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
科目コード	K302
学年・期	3年・前期
授業科目名	商品開発の心理学
単位数	2
授業形態	講義
必修・選択	コース必修
前提とする科目	社会心理学
展開科目	心理コース演習(卒業研究)
関連資格	
担当教員名	高橋和良
カリキュラムの中での位置づけ	
心理学の専門的知識を学ぶ	
講義の目的	
授業のテーマ	
商品開発と心理学の関わりを考えながら、実際に企業で行われている商品開発について、社会に出て役に立つ実学として学ぶ。	
授業の概要	
商品開発の成功例、失敗例などを具体的に(「カレーの王子さま誕生秘話」等)数多くあげ、その原因を心理学的な見地から分析しつつ、実際の商品開発の在り方について学ぶ。	
科目のキーワード	
①新製品開発 ②マーケティング ③消費者ニーズ ④プロダクトイン ⑤プロダクトアウト ⑥品質保証 ⑦知的財産権 ⑧CS ⑨オズボーンのチェックリスト ⑩コンプライアンス	
到達目標	
商品開発における心理学の役割に対する十分な理解と、その応用によりヒット商品を開発できる下地を作る事を目標とする。また、学習を通して人の心を考えることの大切さと、柔軟なものの考え方を学び社会人としての応用力を身に着ける。	

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	ヒット商品発想法Ⅱ(アイデアの整理)
2	企業経営と商品開発	10	ヒット商品発想法Ⅲ(概念移動)
3	消費者ニーズをつかむⅠ(トレンドを捉える)	11	商品開発の基本Ⅰ(具象化)
4	消費者ニーズをつかむⅡ(マーケティング調査)	12	商品開発の基本Ⅱ(心構えと考え方)
5	消費者ニーズをつかむⅢ(CS:お客様満足)	13	企画書とスケジューリング
6	ヒット商品の条件(ヒット商品の秘密を探る)	14	商品開発の重要ポイント
7	ヒット商品発想法Ⅰ(ブレインストーミング)	15	講義全体のまとめ
8	前半講義の復習と質疑応答		

評価方法	期末試験による
------	---------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	
参考文献	
実験・実習・教材費	

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ		
科目コード	K303		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	カウンセリングの心理学		
到達目標	カウンセリングについての基本的な知識を習得する。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
教育現場では、不登校やいじめなど心に関する問題が噴出してきており、それに対応するため、カウンセリングへの要望は高まっている。本講義では、カウンセリングの諸理論の基本的な考え方や特徴について理解することを目的とする。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	心の発達の心理学		
到達目標	①カウンセリング ②教育 ③学校 ④守秘義務 ⑤コンサルテーション		
展開科目	心理コース演習		
到達目標			
関連資格	認定心理士 教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
到達目標	カウンセリングについての基本的な知識を習得し、特に学校現場などでの応用についても理解を深めることを目標とする。		
担当教員名	坪井 裕子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	カウンセリングとは	9	カウンセリングの技法②
2	カウンセリングの意義①	10	カウンセリングの技法③
3	カウンセリングの意義②	11	カウンセリングの実際①
4	守秘義務について	12	カウンセリングの実際②
5	カウンセリングの基本①	13	カウンセリングの実際③
6	カウンセリングの基本②	14	カウンセリングの諸問題
7	カウンセリングの基本③	15	授業全体のまとめ
8	カウンセリングの技法①		
評価方法	期末試験で評価します		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	授業中に紹介します		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	K331		
心理学の専門的知識を学ぶ			
講義の目的			
学年・期	3年・期		
授業のテーマ			
授業科目名	感情と行動		
他者とのコミュニケーションと環境適応の手段として機能する「行動」と、その発現の基礎となる「感情(情動)」のメカニズムについて理解する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
ヒトを含む動物の適応行動の分類とそれぞれの行動の特徴について概説するとともに、その背後にある感情や情動のはたらきについても触れる。さらにわれわれの日常生活における適応障害と感情との関係についても考えていく。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目	動機づけの心理学		
①適応行動 ②ジェスチャー ③ノンバーバル・コミュニケーション ④感情の生理学的メカニズム ⑤感情と気分の障害			
到達目標			
展開科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ		
①他者とのコミュニケーションと環境適応に不可欠な「行動」について心理学的観点から分類・説明することができる。 ②感情が顕在的行動(ジェスチャー、表情、発話など)に及ぼす影響について、生理学的メカニズムのはたらきをふまえて説明することができる。 ③感情や気分が日常生活に及ぼす影響について、臨床心理学や発達心理学の視点から説明することができる。			
関連資格	なし		
担当教員名			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	感情(情動)の基礎理論②
2	コミュニケーションと環境適応①	10	感情(情動)の基礎理論③
3	コミュニケーションと環境適応②	11	感情の生理学的基礎①
4	環境適応のための行動①	12	感情の生理学的基礎②
5	環境適応のための行動②	13	感情や気分の障害①
6	環境適応のための行動③	14	感情や気分の障害②
7	ここまでのまとめ	15	講義全体のまとめ
8	感情(情動)の基礎理論①		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	授業中に紹介する		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ		
科目コード	K332		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ	現代社会はストレス社会とも呼ばれるほどストレスの問題は身近な問題として知られている。この授業ではストレスのメカニズムについて理解し、ストレスへの適切な対処を実践的に学ぶことで、社会におけるストレスの問題に対応するための基礎的な力を身につける。		
授業科目名	ストレス・マネジメント		
授業の概要			
単位数	2		
授業形態	講義		
講義を中心とするが、知識を身につけるだけではなく、エクササイズやワークを通して体験的にストレスへの対処を学ぶ。積極的に参加できる学生の受講を期待する。			
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード	①ストレス ②ストレス関連疾患 ③ストレスコーピング ④ソーシャルスキルトレーニング ⑤メンタルヘルス		
前提とする科目	人間関係の心理学Ⅰ・Ⅱ		
到達目標			
展開科目	心理コース演習(卒業研究)		
関連資格	ストレス対処やメンタルヘルスの維持についての基礎知識を身につけ、さらに、ストレス状況を客観的に理解する視点を持ち、企業や学校などの組織においてどのような介入が有効であるか検討することができる。		
担当教員名	三後美紀		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	ストレスコーピング(3)
2	ストレスとは	10	ストレスコーピング(4)
3	ストレスの心身への影響	11	まとめ2
4	ストレスとパーソナリティ	12	ソーシャルスキルトレーニング(1)
5	ストレスと疾患	13	ソーシャルスキルトレーニング(2)
6	まとめ1	14	学校や企業での取り組み
7	ストレスコーピング(1)	15	まとめ3
8	ストレスコーピング(2)		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	授業中に紹介する		
実験・実習・教材費	なし		

**科目目標**

<b>学科</b>	心身環境専攻 心理コース	<b>カリキュラムの中での位置づけ</b> 心理コースの専門的分野の補完的な役割 <b>講義の目的</b> <b>授業のテーマ</b> 広告の送り手と受け手の期待を心理学的に分析し理解を深めるとともに、広告を通して、マスコミュニケーションについて学ぶ。 <b>授業の概要</b> 広告は現代の企業活動に不可欠であり、消費者に対してさまざまな影響を及ぼしている。従来の広告は、マスコミ広告が中心的役割を果たしてきたが、近年ではソーシャルメディアの出現が、広告のあり方を変えるとともに、その考え方も複雑になってきている。本講義では、広告における心理的考察を通して広告について理解を深める。 <b>科目のキーワード</b> ①マーケティング②4P③広告メッセージの処理④ブランド⑤コンシューマーインサイト⑥AIDMA/AISAS/SIPS⑦クチコミ⑧インスタプロモーション⑨マーケティングリサーチ⑩ニューロマーケティング <b>到達目標</b> 広告コミュニケーションに関する理論や概念を理解した上で、企業と消費者の両側面から広告の考え方に精通する。
<b>科目コード</b>	K305	
<b>学年・期</b>	3年・後期	
<b>授業科目名</b>	広告の心理学	
<b>単位数</b>	2	
<b>授業形態</b>	講義	
<b>必修・選択</b>	コース必修	
<b>前提とする科目</b>	社会心理学	
<b>展開科目</b>	心理コース演習(卒業研究)	
<b>関連資格</b>		
<b>担当教員名</b>	岡本純	

**授業計画**

回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	広告戦略における消費者心理1
2	消費者理解	10	広告戦略における消費者心理2
3	マーケティング活動における広告と消費者の捉え方	11	企業における広告計画と効果測定
4	マーケティング戦略と消費者心理	12	コンシューマーインサイト
5	ブランド構築と消費者心理	13	ネットロコミのマーケティング
6	ブランドエクステンション	14	ニューロマーケティング
7	新製品開発と消費者心理	15	インターネット時代の広告コミュニケーション
8	インスタプロモーション		

<b>評価方法</b>	授業への参加度 50% 課題・演習 50%
-------------	-----------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

<b>教科書</b>	杉本徹雄編『マーケティングと広告の心理学(朝倉実践心理学講座)朝倉書店2013年
<b>参考文献</b>	講義中に指示する
<b>実験・実習・教材費</b>	なし *教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ		
科目コード	K213		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業科目名	動機づけの心理学		
授業のテーマ	動機づけとは、行動を発現させ、方向づけ、持続させる心的過程である。この授業では動機づけの適応的意義についてヒトとそれ以外の動物を比較しながら解説していく。またヒトの生活場面(特に学習と教育)における動機づけの問題についても、研究例をあげながら考えていく。		
単位数	2		
授業の概要	心理学における動機づけ研究の枠組みを紹介し、4種類の動機づけ過程(生理的欲求、内発的動機づけ、社会的動機づけ、学習性の動機づけ)について、種間比較の観点から説明していく。併せて、それらの過程の背後にある生理学的メカニズムについても解説する。さらに、「やる気」や「意欲」のコントロールといった日常生活における動機づけの問題について、教育心理学の研究例をもとにして考えていく。		
授業形態	講義		
科目のキーワード			
必修・選択	コース必修		
①動機づけ ②適応 ③生理的欲求 ④内発的動機づけ ⑤社会的動機づけ			
前提とする科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ		
到達目標			
展開科目	感情と行動		
関連資格	認定心理士		
ヒトの動機づけの特徴について種間比較の観点から相対的に理解するとともに、動機づけとそれ以外の心的過程との関連性について俯瞰的に捉えることができるようになることを目指す。			
担当教員名			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	動機づけのはたらき	9	学習性の動機づけ①
2	動機づけの分類	10	学習性の動機づけ②
3	生理的欲求①	11	動機づけの生理学的メカニズム①
4	生理的欲求②	12	動機づけの生理学的メカニズム②
5	内発的動機づけ①	13	動機づけと情動
6	内発的動機づけ②	14	生活場面における動機づけの問題①
7	社会的動機づけ①	15	生活場面における動機づけの問題②
8	社会的動機づけ②		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	岡田・廣中・宮森 共著『コンパクト新心理学ライブラリ 14 生理心理学』サイエンス社 2,310 円 大山正 編著『コンパクト新心理学ライブラリ 16 実験心理学』サイエンス社 1,942 円 上淵寿 編著『動機づけ研究の最前線』北大路書房 3,150 円		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K307
心理学の専門的知識を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	認知心理学
人間の認知能力(見る、聞く、覚える、話す、考える、意識する、コミュニケーションするなど)について情報処理の観点から考え、私たちがいかに世界を認識し適応しているかの理解を深める。とくに意識と無意識(潜在的認知)の問題は最近の重要なテーマであり、「認知行動の大半がじつは無意識で行われる」ことや、「私たちはリアルタイムに世界を認識しているわけではない」といった常識に反するような研究成果の意味について考察していく。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	講義
簡単な実験や映像資料を用いて、認知心理学の重要トピックスから最新の脳科学研究の成果まで、認知行動を理解する主要ポイントを体験的に学びながら、人間の情報処理モデルがいかに構成され発展してきたかの過程を通して、科学的な人間観を深める機会とする。	
必修・選択	コース必修
科目のキーワード	
前提とする科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ
①人間の情報処理 ②意識と無意識 ③潜在的認知 ④注意のダイナミクス ⑤色彩の心理 ⑥記憶の構造 ⑦思考のプロセス ⑧アフォーダンス	
到達目標	
展開科目	心理コース演習(卒業研究)
関連資格	認定心理士
何気なく体験している日常生活の行動がじつは複雑な認知過程にもとづく仕組みであることや、認知過程の大部分がじつは無意識で行われているという事実を通じて、人間の認知過程を理解し、またそれを解明する方法論を学び、日常生活の具体的な心理現象を理的に説明できることをめざす。	
担当教員名	増井透

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス:認知心理学とは何か	9	記憶のプロセス1
2	私たちは世界をどのように認識しているか1:錯視の意味	10	記憶のプロセス2
3	世界をどのように認識しているか2:恒常性の意味	11	色彩の心理1
4	注意と意識1:注意のメカニズム	12	色彩の心理2
5	注意と意識2:変化盲	13	思考の歪み:行動経済学
6	注意と意識3:メンタルスリップ	14	アフォーダンス:よいデザインとは
7	注意と意識4:意識は遅れて発生する	15	認知心理学を通してみた「人間とは何か」
8	イメージは絵か命題か		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S		
学習目標を相応に達成している.....	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B		
学習目標の最低限は満たしている.....	C		
学習目標の最低限を満たしていない.....	D		
教科書	なし		
参考文献	授業内で指示		
実験・実習・教材費			

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ		
科目コード	K308		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	心理療法		
心理療法の基礎についてさまざまな技法における特徴と具体的な内容を学習していく。理論と実践が車の両輪であることを理解して、具体的な適用について例を挙げながら比較検討して進めていく。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
この授業では、まず心理療法の意義について学び、さまざまな心理療法が存在することを治療構造の側面、臨床場面での適用の相違や特徴など、具体的で実践的な理解と学習を進めていく。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	心のケアの心理学		
①人とかかわり ②クライアントの理解 ③言語療法 ④行動療法 ⑤家族療法 ⑥森田療法 ⑦内観療法 ⑧集団心理療法 ⑨神経症 ⑩精神病			
到達目標			
展開科目	心理コース演習(卒業研究)		
関連資格	認定心理士		
人とかかわることの基本的な意義について理解し、さまざまな心理療法の人間観からそれぞれの技法の意味と方法論について習得する。それを適用する際にはクライアントの病態やパーソナリティに対する理解も必要であり、それらを理解することも目標となる。			
担当教員名	高橋昇		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	人とかかわることの意味	9	復習
2	心に沿うこと	10	集団心理療法の理論
3	言語療法	11	集団心理療法の実際
4	行動療法	12	神経症への心理療法
5	家族療法	13	精神病への心理療法
6	森田療法	14	クライアントの理解
7	内観療法の理論	15	まとめ
8	内観療法の実際		
評価方法	テストによる判定		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	「やさしく学べる心理療法の基礎」窪内節子・吉武光世著 2,625円		
参考文献			
実験・実習・教材費			

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K334
講義の目的	心理学の専門的知識を学ぶ
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	学校心理学
授業の概要	現在、学校現場では、子どもたちの抱える問題が深刻化し、どのように対応していくか求められている。よって、子どもたちの抱えるさまざまな問題を理解し、心理学の視点から学校現場について考えていくことを目指していく。
単位数	2
授業の概要	学校では、学習面の教育だけではなく、人間関係を学んでいる。そのため、人間関係の中で相互理解や他者を受け入れ理解するためには、まず自分自身を理解することが必要である。よって、本講義では、学校の中で人間関係を形成していく教育相談のあり方について学び、自己理解・他者理解から相互理解につながるような体験学習、グループワークなどの作業を中心に行っていく。
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
前提とする科目	心理学概論Ⅰ・Ⅱ
到達目標	①スクールカウンセリング ②自己理解 ③他者理解 ④相互理解 ⑤学校臨床心理学
展開科目	心理コース演習(卒業研究)
関連資格	認定心理士 教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)
子どものこころにかかわる教育相談に関する知識の習得を目指しつつ、現場で実践的に役に立つような自己理解・他者理解・相互理解につながるグループアプローチ等の方法についても知見を広げることを目指していく。	
担当教員名	坂本真也

授業計画			
回	主題	回	主題
1	学校心理学の概要	9	グループワークのまとめとディスカッション
2	エンカウンターグループの理論	10	子どものこころの理解と発達課題
3	エンカウンターグループのグループワークⅠ(自己理解)	11	学校現場における取り組みの事例(効果的な連携による援助について)
4	エンカウンターグループのグループワークⅡ(他者理解)	12	カウンセリングの基礎知識
5	交流分析の理論	13	カウンセリング実習Ⅰ(技法と応答訓練)
6	エゴグラムを利用した自己理解	14	カウンセリング実習Ⅱ(カウンセリング体験実習とシェアリング)
7	コラージュ・ワークⅠ(概要と体験実習)	15	まとめ
8	コラージュ・ワークⅡ(体験実習と分析)		
評価方法	学校現場における子どもの発達課題や問題の理解度および体験実習によるグループアプローチの方法の習得度について定期試験により評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	配布資料		
参考文献	川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子著『これからの心の援助』ミネルヴァ書房 2,310円 Cecil R. Reynolds, Terry B. Gutkin. (2009) The handbook of school psychology 4th ed. ¥23,299		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の専門的知識を学ぶ
科目コード	K336
講義の目的	
学年・期	3年・前期
授業科目名	精神病理学
授業のテーマ	精神病理学の基本のひとつである精神分析学において、心の失調や不具合といったものが、どのようにとらえられ、理解され、さらに援助の方法が確立されていったかを学ぶ。
単位数	2
授業の概要	フロイトは、神経症の治療として始めた自らの治療法を発展させ、精神分析学を確立した。それは神経症患者だけでなく、すべての人間の心に対する理解を深めるものであり、精神病理学の基礎のひとつとなった。本授業では、フロイトが考えを進めていった道筋に沿って精神分析学を学ぶ。
授業形態	講義
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	①精神病理学 ②フロイト ③精神分析学 ④神経症 ⑤心理療法 ⑥トラウマ ⑦除反応 ⑧エディプスコンプレックス ⑨心の構造 ⑩転移
前提とする科目	臨床心理学Ⅰ・Ⅱ
到達目標	
展開科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅲ・Ⅳ
関連資格	精神分析学は人間の心や行動をより深く理解する方法で、それが精神的に病んでしまった人の助けになります。本授業では、精神分析の基本的な考えを理解するとともに、人を心理的に援助するときに役立つ人間理解や基本姿勢を身につけることを目指します。
担当教員名	高橋蔵人

授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	隠蔽記憶、錯誤行為、機知
2	フロイトの歩み	10	心の構造
3	ヒステリーの治療(症例エリザベート)	11	性欲論、発達論
4	心の力動的な理解(トラウマと除反応)	12	(フロイト以降の)発達論・青年期論
5	フリース体験と精神分析学の確立	13	精神分析による治療(症例ドラ)
6	エディプスコンプレックスの発見	14	精神分析による治療(転移、エナクトメントと真実性)
7	神経症論	15	まとめ
8	夢		
評価方法	出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	なし		
参考文献	フロイト『ヒステリー研究』ちくま学芸文庫／人文書院・フロイト著作集7 フロイト『夢判断』新潮文庫 その他(適宜授業の中で紹介します)		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	K337
心理学の専門的知識を学ぶ	
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	精神分析学
精神分析の本質に触れることで、より深い人間のこころの世界を理解する。	
単位数	2
授業の概要	
現代の精神分析学の根幹を築いた代表的な分析家たちとその理論(特に対象関係論を中心に)を取り上げ、その基礎的な理論や概念の理解を目指す。できるだけ平易な日常的な事象、文学作品、アニメなどを通して解説を進める。さらに、文化、芸術や臨床実践の紹介を通してその理解を深める。	
授業形態	講義
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
①精神分析 ②臨床実践 ③無意識 ④対象関係 ⑤内的対象 ⑥物語 ⑦エディプス ⑧分析過程	
前提とする科目	臨床心理学Ⅰ・Ⅱ
到達目標	
展開科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅲ・Ⅳ
関連資格	
精神分析への基礎的な理解がなされ、人間理解に役立つ思考能力を育む。	
担当教員名	三宅朝子

授業計画

回	主題	回	主題
1	精神分析とは何か	9	現代精神分析学の展開:ポストクライニアン理論
2	フロイトから始まる精神分析 ①無意識の探求	10	小テスト
3	フロイトから始まる精神分析 ②フロイトの仕事	11	「つみきのいえ」と精神分析的過程
4	エディプスで源氏物語を読み解く	12	精神分析と物語
5	クラインからの対象関係論 ①フロイトからの流れ	13	臨床実践 ①
6	クラインからの対象関係論 ②妄想分裂ポジションへ	14	臨床実践 ②
7	「千と千尋の神隠し」を通して:内的対象関係の理解	15	総まとめ
8	ウィニコットとマザーグース:環境としての母親の機能		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	三宅朝子著『物語がつむぐ心理臨床』遠見書房 2,000円(税別)
参考文献	適宜授業の中で提示する
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の 研究技能を学ぶ		
科目コード	K207		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	心理学基礎実習 I		
心理学の専門的研究を行うために必要な実験と検査の実施方法, データ分析方法, 報告書作成方法を習得すること目的とする。この授業の受講においては, 心理学概論 I・II, 教育心理学 I・II, 臨床心理学 I・II などの科目を履修していることが前提となる。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	実習		
実験心理学, 教育心理学, 臨床心理学の分野で代表的な6テーマを取り上げる。実験や検査の方法について実験者(検査者)および研究対象者(実験参加者・被検査者)として参加体験することで学ぶ。また, 実習で得られたデータを処理して報告書を提出することで, データ処理と研究報告書の作成方法についても学ぶ。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	心理学研究法 I・II, 心理統計法 I		
①心理実験 ②心理検査 ③報告書作成			
到達目標			
展開科目	心理学基礎実習 II		
関連資格	認定心理士		
3年次以降の専門的な心理学研究に必要な基礎知識と実験と検査の実施技能, データ処理方法, 科学論文の作成方法を身につける。			
担当教員名	廣藤・高橋・渡邊・塚本		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	知能検査 I (京大NX)①
2	各実習課題の概要説明	10	知能検査 I (京大NX)②
3	投映法 I (TAT)①	11	一対比較法による尺度構成①
4	投映法 I (TAT)②	12	一対比較法による尺度構成②
5	幾何学的錯視①	13	性格検査(YG性格検査)①
6	幾何学的錯視②	14	性格検査(YG性格検査)②
7	報告書の作成方法①	15	プライミング効果
8	報告書の作成方法②		
評価方法	出席と報告書提出の基準をクリアしていることを前提とし, 試験(詳細は授業で説明)の評点によって評価する。報告書は科学論文の要件を満たしていることが求められる。遅刻, 無断欠席, 報告書提出の遅れは一切認めない。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『人間環境大学 心理学基礎実習テキスト』 初回授業時に配布		
参考文献	授業中に適宜指示する		
実験・実習・教材費	実習費として 15,000 円徴収する(テキスト, テスト用紙, 実験用具, 消耗品費として)		

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
科目コード	K212		
学年・期	2年・後期		
授業科目名	心理学基礎実習Ⅱ		
単位数	2		
授業形態	実習		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	心理学基礎実習Ⅰ		
展開科目	心理学応用実習Ⅰ・Ⅱ		
関連資格	認定心理士		
担当教員名	廣藤・高橋・渡邊・塚本		
カリキュラムの中での位置づけ			
心理学の 研究技能を学ぶ			
講義の目的			
授業のテーマ			
心理学の専門的研究を行うために必要な実験と検査の実施方法, データ分析方法, 報告書作成方法を習得すること目的とする。この授業の受講においては, 心理学概論Ⅰ・Ⅱ, 教育心理学Ⅰ・Ⅱ, 臨床心理学Ⅰ・Ⅱなどの科目を履修していることが前提となる。			
授業の概要			
実験心理学, 教育心理学, 臨床心理学の分野で代表的な6テーマを取り上げる。実験や検査の方法について実験者(検査者)および研究対象者(実験参加者・被検査者)として参加体験することで学ぶ。また, 実習で得られたデータを処理して報告書を提出することで, データ処理方法と研究報告書の作成方法についても学ぶ。			
科目のキーワード			
①心理実験 ②心理検査 ③報告書作成			
到達目標			
3年次以降の専門的な心理学研究に必要な基礎知識と実験と検査の実施技能, データ処理方法, 科学論文の作成方法を身につける。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	知能検査Ⅱ(WAIS)②
2	投映法Ⅱ(ロールシャッハ)①	10	パーソナル・スペース①
3	投映法Ⅱ(ロールシャッハ)②	11	パーソナル・スペース②
4	知覚-運動協応学習①	12	描画法(バウム・テスト)①
5	知覚-運動協応学習②	13	描画法(バウム・テスト)②
6	第2回・第3回の追加実習	14	メンタル・ローテーション①
7	第4回・第5回の追加実習	15	メンタル・ローテーション②
8	知能検査Ⅱ(WAIS)①		
評価方法	出席と報告書提出の基準をクリアしていることを前提とし, 試験(詳細は授業で説明)の評点によって評価する。報告書は科学論文の要件を満たしていることが求められる。遅刻, 無断欠席, 報告書提出の遅れは一切認めない。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『人間環境大学 心理学基礎実習テキスト』初回授業時に配布		
参考文献	授業中に適宜指示する		
実験・実習・教材費	実習費として 15,000 円徴収する(テキスト, テスト用紙, 実験用具, 消耗品費として)		

科目目標			
学科	心身環境専攻 心理コース		
カリキュラムの中での位置づけ	卒業研究に取り組む		
科目コード	K304		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業科目名	心理コース演習(卒業研究) I		
授業のテーマ	4年間の学びの仕上げに向けて、①自らの関心の所在を明確化し、②それを学術研究のレベルまで昇華させ、③先行研究に関する諸情報を検索・収集した上で自らの研究テーマを確定し、④研究をスタートさせるための準備を開始する。		
単位数	2		
授業の概要	後期の「心理コース演習(卒業研究) II」での作業を念頭に置いて、①関心のある心理学的問題や研究テーマを選定・発表し、②関連する先行研究の収集・読解・発表などを行っていく。「心理学応用実習 I」、「心理調査作成法 I」、「心理調査集計法 I」などの実習科目を併せて受講することが望ましい。		
授業形態	演習		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①研究関心の明確化 ②先行研究の検索・収集・読解 ③研究テーマの確定		
前提とする科目	心理学基礎実習 I・II 心理学文献講読 I・II		
到達目標			
展開科目	心理コース演習(卒業研究) II		
関連資格	なし		
到達目標	自らの心理学的関心を深めることによって研究テーマを確定し、研究を進めるために必要な手順や作業を理解した上で、独力で研究を進めるための技能と能力を身につける。		
担当教員名	高橋・坪井・三後・坂本		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	研究関心の発表③
2	演習での研究の進め方①	10	ここまでのまとめ
3	演習での研究の進め方②	11	研究テーマ案の発表と検討①
4	研究資料の検索と収集①	12	研究テーマ案の発表と検討②
5	研究資料の検索と収集②	13	研究テーマ案の発表と検討③
6	研究資料の検索と収集③	14	研究テーマの発表①
7	研究関心の発表①	15	研究テーマの発表②
8	研究関心の発表②		
評価方法	「到達目標」が十分に達成されているかどうかを、試験(プレゼンテーション、質疑応答、レジュメ作成、レポートなどを含む)によって評価する。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	授業中に紹介する		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
科目コード	K333
学年・期	3年・前期
授業科目名	心理学応用実習Ⅰ
単位数	2
授業形態	実習
必修・選択	コース選択
前提とする科目	心理学データ解析Ⅰ・Ⅱ
展開科目	心理学応用実習Ⅱ
関連資格	
担当教員名	塚本恵信
カリキュラムの中での位置づけ	
心理学の研究技能を学ぶ	
講義の目的	
授業のテーマ	
卒業研究へ取り組むために必要な研究リテラシー(先行研究の収集, 研究計画の立案, 研究の実施, データ解析, 論文作成, 研究発表など)を身に着けることを目標とする。心理コース演習Ⅰ・Ⅱ(卒業研究)での学習を補完する実習としての位置づけにある授業である。	
授業の概要	
後期の「心理学応用実習Ⅱ」の受講を前提として, ①関心のあるテーマの選定と発表, ②関連する先行研究の収集・読解・発表, ③基本的な研究計画の立案と発表, などを行っていく。	
科目のキーワード	
①卒業研究 ②問題意識の明確化 ③先行研究の収集と読解 ④研究動向の理解 ⑤研究テーマの設定 ⑥研究計画の立案 ⑦研究スケジュールの設定	
到達目標	
①自分自身の問題意識を明確化し, 研究テーマに昇華させ, それを他者に説明することができる。 ②自分自身の研究テーマに関連した情報を収集・要約し, 最新の研究動向を理解した上で他者に説明することができる。 ③具体的な研究計画を立案し, それを実施するために必要な技術やデータ解析法を習得する。 ④研究スケジュールを設定し, その実施に向けた準備を行うことができる。	

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス/研究の進め方	9	問題意識の明確化(4)発表
2	研究テーマの検討(1)研究領域の探索	10	中間ガイダンス/研究の準備
3	研究テーマの検討(2)研究領域の検討	11	研究計画の立案(1)実施方法の探索
4	研究テーマの検討(3)テーマの決定	12	研究計画の立案(2)実施方法の検討
5	研究テーマの検討(4)発表	13	研究計画の立案(3)実施計画の決定
6	問題意識の明確化(1)問題の探索	14	研究計画の立案(4)発表
7	問題意識の明確化(2)問題の検討	15	総括/研究の実施に向けて
8	問題意識の明確化(3)目的の決定		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし, 定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	
参考文献	
実験・実習・教材費	

科目目標		
学科	心身環境専攻 心理コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	K309	卒業研究に取り組む
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	心理コース演習(卒業研究)Ⅱ	授業のテーマ
単位数	2	4年間の学びの仕上げに向けて、①研究テーマを確定し、②具体的かつ実施可能な研究計画を立案し、③予備的な研究(予備実験や予備調査、およびデータ解析方法の確定)を開始する。
授業形態	演習	授業の概要
必修・選択	コース必修	次年度の「心理コース演習(卒業研究)Ⅲ・Ⅳ」での作業を念頭に置いて、①研究計画を立案・発表し、②討議内容をもとにして計画に修正を加え、③各自で予備的研究を進め、その進捗状況を随時発表する。「心理学応用実習Ⅱ」、「心理調査作成法Ⅱ」、「心理調査集計法Ⅱ」などの実習科目を併せて受講することが望ましい。
前提とする科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅰ	科目のキーワード
展開科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅲ	①研究計画の立案 ②予備的研究 ③研究の進捗状況の発表
関連資格	なし	到達目標
担当教員名	高橋・坪井・三後・坂本	研究の方向性を確定し、自分の力で予備的研究を進め、4年次での研究の仕上げに必要な資料を収集する。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション	9	研究経過の報告①
2	研究テーマの確認・修正①	10	研究経過の報告②
3	研究テーマの確認・修正②	11	研究経過の報告③
4	研究計画等の検討①	12	研究経過の報告④
5	研究計画等の検討②	13	研究経過の報告⑤
6	研究計画等の検討③	14	研究経過の報告⑥
7	研究計画等の検討④	15	次年度演習Ⅲに臨むまでの課題の検討
8	ここまでのまとめ		

評価方法 「到達目標」が十分に達成されているかどうかを、試験(プレゼンテーション、質疑応答、レジュメ作成、報告書などを含む)によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	授業中に紹介する
実験・実習・教材費	なし

科目目標	
学科	心身環境専攻 心理コース
カリキュラムの中での位置づけ	心理学の研究技能を学ぶ
科目コード	K335
講義の目的	
学年・期	3年・後期
授業のテーマ	
授業科目名	心理学応用実習Ⅱ
「心理学応用実習Ⅰ」で習得した内容を深化させ、4年次に取り組む卒業研究の予備的研究を実施する。「心理学応用実習Ⅰ」の受講を前提とする。	
単位数	2
授業の概要	
授業形態	実習
前期の「心理学応用実習Ⅰ」で立案した研究計画に基づき、①研究の実施とデータ収集、②適切なデータ解析法を用いた分析、③データ解析結果に基づいた報告書作成と結果報告(プレゼンテーション)、などを行っていく。	
必修・選択	コース選択
科目のキーワード	
前提とする科目	心理学応用実習Ⅰ
①卒業研究 ②予備的研究 ③研究の実施 ④データ収集 ⑤データ解析 ⑥報告書の作成 ⑦結果報告(プレゼンテーション)	
到達目標	
展開科目	心理コース演習(卒業研究)Ⅲ
①研究計画に基づき、実験、調査、検査などを遂行することができる。 ②得られた資料(データ)を適切な方法を用いて分析することができる。 ③心理学研究の基本的様式に沿った報告書を作成することができる。 ④研究結果の要点をわかりやすく説明することができる。	
関連資格	
担当教員名	塚本恵信

授業計画

回	主題	回	主題
1	ガイダンス/研究の進め方	9	データの解析(4)結果の検討
2	研究の実施(1)実施の準備	10	中間ガイダンス/研究の整理と報告
3	研究の実施(2)実施とデータ収集	11	研究の報告(1)結果の考察
4	研究の実施(3)データの集計	12	研究の報告(2)要点の整理
5	研究の実施(4)データの整理	13	研究の報告(3)報告書の作成
6	データの解析(1)解析の準備	14	研究の報告(4)発表
7	データの解析(2)データの解析	15	総括/卒業研究に向けて
8	データの解析(3)結果の整理		

評価方法 出席回数の基準(全授業回数の3分の2以上の出席)をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	
参考文献	
実験・実習・教材費	

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L361		
国語分野			
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	日本語表現法Ⅰ(音声言語表現)		
授業の概要	プレゼンテーション・スキルの養成。講演・講義を聞き取り、ノートをとる。レジュメ(パワーポイント)を作成する。レジュメを使ってわかりやすい発表をする。		
単位数	2		
授業の概要	講義を聞き、メモを取る練習をする。決められたテーマについて得た情報をもとに、発表のためのレジュメをパワーポイントで作成する。レジュメを使って発表する。発表を批判的に聞く練習をする。発表にたいして質問する。質問に答える。		
授業形態	演習		
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
前提とする科目			
到達目標			
展開科目	日本語表現法Ⅱ(文章表現)		
科目のキーワード	①レジュメ ②発表 ③プレゼンテーション・スキル ④パワーポイント ⑤ 批判的に聞く		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)		
到達目標	説明や講義を聞いて、適切なメモがとれる。批判的に聞き、質問ができる。メモを元に説明や講義をわかりやすく伝えることができる。構成を考え、レジュメ(パワーポイント)を使って、わかりやすい発表ができる		
担当教員名	文野峯子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	メモの取り方を学ぶ	9	構成及び資料の使い方を考える。
2	説明や講義の構成を確認する	10	レジュメを作成する
3	メモを参考に説明をする	11	レジュメを検討する
4	モデル説明の構成を使って、自分の内容でレジュメを作る	12	批判的に聞く
5	レジュメをパワーポイントで作成する	13	発表する、質問する、答える
6	発表に必要な表現を学ぶ	14	発表する。質問する、答える
7	審査の評価項目を決める	15	まとめ
8	テーマを決め、資料を集める		
評価方法	産物(メモ、レジュメ等)30%、発表30%、レポート40%		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	指定しない。		
参考文献	『聴解・発表ワークブック アカデミックスキルを身につける』スリーエーネットワーク		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L362	国語分野
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	日本語表現法Ⅱ(文章表現)	授業のテーマ
単位数	2	正しく、明確に趣旨を読み取る力の養成。趣旨が正確に伝わる文を書く力の養成。
授業形態	演習	授業の概要
必修・選択	コース選択	前半は、論説文を読みとり、要旨を書く練習を行う。後半は、構成を考えて、論理的かつ分かりやすい意見文を書く練習を行う。
前提とする科目	日本語表現法Ⅰ(音声言語表現)	科目のキーワード
展開科目		①要旨 ②論理的な文 ③読解力 ④論説文 ⑤書く力
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	到達目標
担当教員名	文野峯子	正しく、明確に文章の趣旨を読み取れるようになる。要約文が書けるようになる。趣旨が正確に伝わる文が書けるようになる。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	印象に残る自己紹介	9	意見文を書く1(60字)
2	印象に残る自己PR	10	意見文を書く2(60字)
3	わかりやすい説明	11	論説文の要約をもとにした意見文を書く(1)
4	要約	12	意見文の検討
5	要旨を書く、文を短くする練習	13	論説文の要約を元にした意見文を書く(2)
6	要約2	14	修正版発表・検討
7	要旨を書く2	15	まとめ
8	事実と意見を区別する		
評価方法		試験	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	特になし		
参考文献	『日本語文章能力検定』準2級、『文章表現』		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)		
カリキュラムの中での位置づけ	教職に関する科目		
科目コード	L271		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ	授業見学や生徒とのふれあいを通して教育職を理解しその適性を考える。		
授業科目名	学校体験Ⅰ		
授業の概要			
単位数	1		
授業形態	実習		
科目のキーワード			
必修・選択	コース必修		
①教職に対する動機付け ②教職の適性			
前提とする科目	教職概論・教育原論		
到達目標			
展開科目	学校体験Ⅱ		
「キャリアデザインⅠ」、「教職概論」、「教育原論」科目で得た知識を踏まえ、学校現場における生徒の現状と教員の責務を理解する。生徒や教員とのコミュニケーションができるようになる。観察した事と体験を踏まえた自らが理想とする学校や教師像を文章にまとめることができる。			
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
担当教員名	岡良和		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	事前指導 1	9	授業について知る 1
2	事前指導 2	10	授業について知る 2
3	学校について知る 1	11	授業について知る 3
4	学校について知る 2	12	教員について知る 1
5	学校について知る 3	13	教員について知る 2
6	生徒について知る 1	14	教員について知る 3
7	生徒について知る 2	15	事後指導
8	生徒について知る 3		
評価方法	レポート試験による		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	実習校までの交通費などは各自負担		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L272	教職に関する科目
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	学校体験Ⅱ	授業のテーマ
単位数	1	授業観察、生徒とのふれあい、教員の補助
授業形態	実習	授業の概要
必修・選択	コース必修	実習校の特性を理解したうえで、教員の立場で授業や部活動の見学、また、清掃などの活動を生徒と共にするなどして、学校現場の観察を通じて、教諭となる意欲と心構えを培う。
前提とする科目	学校体験Ⅰ	科目のキーワード
展開科目	教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ	①教職に対する動機付け ②教職の適性
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)	到達目標
担当教員名	岡良和	学校体験Ⅰでの成果を踏まえて、学校現場における生徒の現状と教員の責務を十分に理解する。生徒や教員とのコミュニケーションを自分からすすんでできるようになる。観察・体験した事を踏まえて、教育職に向けて自らが取り組むべき課題を文章にまとめることができる。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	事前指導 1	9	授業について知る 1
2	事前指導 2	10	授業について知る 2
3	学校について知る 1	11	授業について知る 3
4	学校について知る 2	12	教員について知る 1
5	学校について知る 3	13	教員について知る 2
6	生徒について知る 1	14	教員について知る 3
7	生徒について知る 2	15	事後指導
8	生徒について知る 3		

評価方法	レポート試験による
------	-----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	なし
実験・実習・教材費	実習校までの交通費などは各自負担

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース	カリキュラムの中での位置づけ	
科目コード	L291	66条の6に定める科目	
学年・期	2年・前期	講義の目的	
授業科目名	日本国憲法	授業のテーマ 憲法は、すべての法律の基礎となり、わが国の社会の基盤を支える重要な法律ですが、堅苦しいイメージがあるため、自分には関係がないと思っている方も少なくないかもしれませんが、実際には、我々の生活は憲法と密接に関わっています。そこで、この講義を通じて、少しでも憲法や人権を身近なものとして感じてもらいたいと考えています。	
単位数	2	授業の概要	
授業形態	講義	憲法について、具体的な事例を用いながら平易に説明します。	
必修・選択	コース必修	科目のキーワード	
前提とする科目		①個人の尊厳 ②人権 ③自由	
展開科目	法律と生活	到達目標	
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)	憲法の基礎的な知識の習得を目指します。	
担当教員名	松村修平		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	人権各論
2	憲法の基本原理	10	人権各論
3	人権各論	11	人権各論
4	人権各論	12	統治機構概論
5	人権各論	13	国会、内閣
6	人権各論	14	司法(裁判所)
7	人権各論	15	総復習
8	人権各論		
評価方法	期末のレポート		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	「憲法」(第5版) 芦部信喜(著)・高橋 和之(補訂) 岩波書店		
参考文献	六法(出版社は問わない)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L292	66条の6に定める科目
学年・期	2年・前期	講義の目的
授業科目名	スポーツ実習 I	授業のテーマ
単位数	1	卓球を行うことで、運動不足解消や体力向上を目指す。さらに、様々な仲間とコミュニケーションをとりつつ、基礎練習やゲームに取り組み、体を動かす爽快感やスポーツをする楽しさを実感し、今後の学生生活においてスポーツに取り組む基礎となると良い。
授業形態	実習	授業の概要
必修・選択	コース必修	卓球は誰もが気軽に行えるスポーツであるので、技術を身に付けることで体力差や男女差に関係なくゲームを楽しめると良い。また基礎練習やゲームを行う中で、他の受講生とコミュニケーションをとり親交を深め、更には、対戦方法やゲームの運営を企画し実行する事で、社会に出てから積極的に行動するためのトレーニングになると良い。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目	スポーツ実習 II	①スポーツを楽しむ ②体力づくり ③基礎技術の習得 ④仲間づくり ⑤ゲームの企画運営 ⑥積極性 ⑦社会性 ⑧コミュニケーション力 ⑨グループをまとめる練習
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)	到達目標
担当教員名	永田恵理	卓球の技術を高める事や、ゲームに勝つ事も大切であるが、最も重要なのは、積極的に参加し、真面目に取り組むかという事である。つまり、運動能力云々より、技術向上の為に努力できるかが大事であり、また周囲と協力し、皆が楽しく円滑に活動できるよう率先して行動できるようになる事が目標となる。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	
2	基礎練習・1(シングルス)	10	企画・運営・1(ダブルス)
3		11	
4	基礎練習・2(シングルス・ランキング戦)	12	
5		13	
6		14	企画・運営・2(チーム戦)
7	応用練習・1	15	
8			

評価方法	通常授業内での評価
------	-----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース		
カリキュラムの中での位置づけ	66条の6に定める科目		
科目コード	L293		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業科目名	スポーツ実習Ⅱ		
授業のテーマ	バドミントンを行うことで、運動不足解消や体力向上を目指す。またゲームやその運営をすることにより、仲間づくりや、互いに協力して活動をする能力を身に付ける事をテーマとする。さらに、スポーツの楽しさを実感し、生涯を通じてスポーツをする大切さや、その意義について学習する。		
単位数	1		
授業の概要	バドミントンは運動量が多く、様々な動きを必要とするため、授業を通じて運動不足を実感したり、運動習慣の必要性を感じる場になると良い。また、リーグ戦などを円滑に進める為に周囲と協力して活動し、他の受講生とコミュニケーションをとることで、親交を深めたり、そのトレーニングの場になると良い。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①スポーツを楽しむ ②体力づくり ③基礎技術の習得 ④仲間づくり ⑤ゲームの企画運営 ⑥積極性 ⑦社会性 ⑧コミュニケーション力 ⑨グループをまとめる練習		
前提とする科目	スポーツ実習Ⅰ		
到達目標			
展開科目			
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
担当教員名	永田恵理		
バドミントンの技術を高める事や、ゲームに勝つ事も大切であるが、最も重要なのは、積極的に参加し、真面目に取り組むかという事である。つまり、運動能力云々より、技術向上の為に努力できるかが大事であり、また周囲と協力し、皆が楽しく円滑に活動できるよう率先して行動できるようになる事が目標となる。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	ガイダンス	9	企画・運営・1(ダブルス)
2	基礎練習・1(シングルス)	10	
3		11	
4	基礎練習・2(シングルス・ランキング戦)	12	
5		13	
6		14	企画・運営・2(チーム戦)
7		15	
8			
評価方法	通常授業内での評価		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース (教科に関する科目(国語))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L101	日本の文学やことば・歴史の基礎
学年・期	1年・前期	講義の目的
授業科目名	日本文学の基礎 I	授業のテーマ
単位数	2	中学校国語・高等学校「国語総合」に取り上げられる、種々の作品を読み取ることができる。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	日本語リテラシ I・II	①『坊っちゃん』 ②万葉集 ③古今和歌集 ④源氏物語 ⑤枕草子 ⑥平家物語 ⑦奥の細道 ⑧基礎的な語彙力 ⑨主語と述語 ⑩明快な表現
展開科目	日本文学の基礎 II	到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	中学校・高等学校「国語」の教科書に取り上げられる、奈良時代から明治・大正時代にいたるまでの日本の代表的な文学作品について、高等学校「高等学校 国語総合」程度で説明することができる。
担当教員名	花井しおり	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	はじめに	9	第7章 事実と意見の組み立て
2	夏目漱石『坊っちゃん』	10	1から9のまとめ
3	論理的文章	11	万葉集・古今和歌集
4	論理的文章	12	源氏物語・枕草子
5	論理的文章	13	平家物語・奥の細道
6	論理的文章	14	『坊っちゃん』
7	論理的文章	15	まとめ
8	第6章 全体の構成と要旨の整理		

評価方法	期末試験による。
------	----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	夏目漱石『坊っちゃん』角川文庫(286円+税)、 ワオ・コーポレーション『日本語表現法』『日本語表現法ワークブック』
参考文献	適宜指示する。
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))		
科目コード	L102		
学年・期	1年・後期		
授業科目名	日本文学の基礎 II		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	日本文学の基礎 I		
展開科目	日本の文学(近現代の文学)		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)		
担当教員名	花井しおり		
カリキュラムの中での位置づけ			
国語分野			
講義の目的			
授業のテーマ			
宮沢賢治のさまざまなジャンルの文学作品に触れ、日本語による表現を正確に読解する力を養うとともに、読み手にわかりやすい文章を記述することを目指す。			
授業の概要			
宮沢賢治の童話・短歌・詩・芸術論などの作品を読む。			
科目のキーワード			
①近代文学 ②宮沢賢治 ③童話 ④詩 ⑤詩の種類 ⑥詩の技法 ⑦短歌 ⑧短歌の技法 ⑨論理的文章 ⑩原稿用紙の使い方			
到達目標			
日本語による表現を正確に理解する。読み手にわかりやすい文章を記述する。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	概説	9	なめとこ山の熊
2	宮沢賢治	10	宮沢賢治
3	洞熊学校を卒業した三人	11	短歌
4	洞熊学校を卒業した三人	12	詩
5	洞熊学校を卒業した三人	13	詩
6	1から5のまとめ	14	芸術論
7	なめとこ山の熊	15	まとめ
8	なめとこ山の熊		
評価方法	期末試験による。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『宮沢賢治全集7』ちくま文庫(1,050円+税)、『新総合図説国語』東京書籍(880円)。		
参考文献	適宜指示する。		
実験・実習・教材費	なし。		



科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース (教科に関する科目(国語))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L201	国語分野
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	日本の文学(近現代の文学)	授業のテーマ
単位数	2	日本の近現代の文学作品を的確に読み取るための基礎的な力を会得する。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	新聞のコラム・社説および中学校・高等学校の国語の教科書に載るレベルの近現代の文章を読み解く。
前提とする科目	日本文学の基礎Ⅱ	科目のキーワード
展開科目	日本の文学演習Ⅰ(現代文)	①語彙力 ②読解力 ③文学的文章 ④論理的文章 ⑤要約 ⑥意見文 ⑦登場人物の整理 ⑧心情表現
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	到達目標
担当教員名	花井しおり	高等学校国語レベルまでの日本語で書かれた様々な種類の文章を的確に読み取ることができる。

授業計画

回	主題	回	主題
1	はじめに	9	文学的文章をよむ 2
2	日本語表現の基礎 1	10	文学的文章をよむ 3
3	日本語表現の基礎 2	11	文学的文章をよむ 4
4	新聞 読者投稿欄をよむ	12	8から11までのまとめ
5	コラムをよむ	13	論理的文章をよむ 1
6	社説をよむ	14	論理的文章をよむ 2
7	1から6までのまとめ	15	全体のまとめ
8	文学的文章をよむ 1		

評価方法	期末試験による。
------	----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	中村明(著)『たのしい日本語学入門』ちくま学芸文庫(950円＋税)、『新総合図説国語』東京書籍(880円)。 ※授業時には必ず『国語辞典』(書籍・電子辞書)を持参すること。
参考文献	齋藤孝(著)『日本語の技法 読む・書く・話す・聞く—4つの力』東洋経済新報社(1,400円＋税)、 石原千秋(著)『大学生の論文執筆法』ちくま新書(740円＋税)、その他適宜紹介する。
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L202		
国語分野			
講義の目的			
学年・期	2年 ・ 前期		
授業のテーマ			
授業科目名	日本のことば I		
日本語文法(口語・文語)の基礎的な知識を習得する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
日本語文法(口語・文語)に関わる、一般的な書物を読解することができるレベル知識を習得する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
①品詞 ②自立語・付属語 ③主語 ④述語 ⑤修飾語 ⑥活用 ⑦日本語の音声 ⑧日本語の表記 ⑨日本語の語彙 ⑩日本語の文法			
前提とする科目			
到達目標			
展開科目	日本のことば II		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)		
日本語文法(口語・文語)の基礎的な知識を修得し、一般的な文法書の理解ができる。			
担当教員名	花井しおり		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	概説	9	係り結び
2	国語学(日本語学)の基礎 1	10	日本語とは
3	国語学(日本語学)の基礎 2	11	日本語の音声
4	文の構造	12	日本語の文字
5	口語動詞の活用	13	日本語の語彙
6	文語動詞の活用	14	日本語の文法
7	口語・文語の形容詞・形容動詞の活用	15	全体のまとめ
8	1から8のまとめ		
評価方法	期末試験による。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『新総合 図説国語』東京書籍(880円)、中村明(著)『たのしい日本語学入門』ちくま学芸文庫(950円+税)		
参考文献	阪倉篤義(著)『改稿 日本文法の話 第三版』教育出版(2,500円+税)、朝比奈英夫他(編)『古典入門』(1,700円+税)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース (教科に関する科目(国語))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L203	国語分野
学年・期	2年・前期	講義の目的
授業科目名	中国の文学 I	授業のテーマ
単位数	2	漢文訓読を通して中国の古典を学ぶ。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	漢文訓読の方法を学びつつ、中国古典の代表的な作品を概観していく。
前提とする科目		科目のキーワード ①漢字の基礎 ②訓点 ③返点 ④返読文字 ⑤再読文字 ⑥受身形・使役形 ⑦否定形 ⑧疑問形・反語形 ⑨限定形・累加形 ⑩故事成語
展開科目	中国の文学 II	到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	①漢文訓読の方法を理解できる。②教科書収録の作品を自力で訓読できる。
担当教員名	渡 昌弘	

授業計画

回	主題	回	主題
1	概要紹介	9	疑問形・反語形
2	漢字の基礎	10	限定形・累加形
3	訓点について	11	故事成語(守株、矛盾)
4	漢文の構造	12	故事成語(刻舟求劍)
5	返読文字	13	故事成語(楚共王遺弓、狐假虎威)
6	再読文字	14	故事成語(蛇足)
7	受身形・使役形	15	まとめ
8	否定形		

評価方法	期末試験。
------	-------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	榑原邦彦他編『漢文入門』和泉書院、1, 260円(税込)。ただし授業期間内に教科書を終了しない。
参考文献	高校等で使用した漢和辞典。
実験・実習・教材費	なし。

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))		
科目コード	L204		
学年・期	2年・前期		
授業科目名	書道		
単位数	2		
授業形態	演習		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目			
展開科目			
関連資格	教員免許状(中「国語」)		
担当教員名	衣川 彰人		
カリキュラムの中での位置づけ			
国語分野			
講義の目的			
授業のテーマ この授業では、①書写書道教育における現状の諸問題と今後の展開について②小・中学校にて行われる国語科の書写教育における楷書と行書の学習についての知識を深める③書字活動を通して行われる他者とのコミュニケーションに必要なとされるさまざまな知識を学ぶとともに実技能力の向上を図るという3つのテーマをもとにして講義と実技指導をしていきたい。			
授業の概要			
文字を正しく整えて書くための字形のとり方や配字法などのポイントについて講義を交えながら実技指導していく。また、細字(小字)や硬筆の指導も行い、実用の書にも対応できるようにしていきたい。			
科目のキーワード			
①書写 ②書道 ③文字 ④毛筆 ⑤硬筆 ⑥楷書 ⑦行書 ⑧字体 ⑨字形 ⑩配置・配列			
到達目標			
文字を正しく整えて書くために必要な基礎的な知識を理解し、それらを活かしながら自らの書字能力の向上を図ることを目標とする。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	用具・用材について	9	楷書の字形…組み合わせ方(上下)
2	書の美を求めて…書体について	10	楷書の字形…組み合わせ方(内外)
3	楷書の基本点画	11	行書の運筆・用筆について
4	楷書の字形…文字の概形	12	行書の字形…点画の変化
5	楷書の字形…画の長短と間隔	13	行書の字形…点画の省略
6	楷書の字形…画の方向・接し方	14	行書の字形…点画の連続
7	楷書の字形…筆順	15	行書の字形…筆順の変化
8	楷書の字形…組み合わせ方(左右)		
評価方法	書写書道の実技を含めた書字に関するレポートによる(100%)。/文字を書くための知識を十分に理解し、書字能力の向上を図ることができた…S/文字を書くための知識への理解を深めながら、書字能力の向上を図ることができた…A/文字を書くための知識を学ぶとともに、書字能力の向上を図ることができた…B/文字を書くための知識を学びながら、書字能力の向上のために努力することができた…C/Cのレベルに達することができなかった…D		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	全国大学書写書道教育学会編『明解書写教育』(菅原書房/1,500円) 書道用具一式(大筆・小筆・紙・墨・硯・下敷き・文鎮等)/硬筆用の鉛筆(Bまたは2B程度の硬さの鉛筆が望ましい)		
参考文献	春名好重・三浦康広・杉村邦彦編集『書の基本資料』(中教出版)		
実験・実習・教材費	各自で書道半紙・墨汁など、実技練習に必要なものを用意すること。		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース (教科に関する科目(国語))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L206	国語分野
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	日本のことば II	授業のテーマ
単位数	2	上代から近代にいたるまでの日本語の歴史について考える。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	我が国の上代、7、8世紀は、人々が口伝による言語生活から脱却し、文字によって言葉を定着させる習慣を持ち始めた時代である。日本語は、漢字によって日本語を表記する営みから出発し、漢字からひらがな・カタカナを生み出すといった展開をたどってゆく。そのような日本語の歴史を、日本語の文字資料を中心としてたどる。
前提とする科目	日本のことば I	科目のキーワード
展開科目	日本語学演習	①国文学の時代区分 ②万葉仮名 ③上代特殊仮名遣い ④漢式和文(変体漢文) ⑤ヲコト点 ⑥カタカナ ⑦ひらかな ⑧係り結びの衰退 ⑨言文一致
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	到達目標
担当教員名	花井しおり	日本語の歴史に関わる一般向けの書籍(野村剛史(著)『話し言葉の日本史』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー など)を、独力で読解できる知識を会得する。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	概説 はじめに	9	平安時代の日本語
2	日本語学の基礎 1	10	7から9のまとめ
3	日本語学の基礎 2	11	中世の日本語
4	日本語学の基礎 3	12	近世の日本語
5	言語学的な準備	13	近代の日本語
6	1から5のまとめ	14	11から13のまとめ
7	奈良時代の日本語 1	15	全体のまとめ
8	奈良時代の日本語 2		

評価方法	期末試験による。
------	----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	山口仲美(著)『日本語の歴史』岩波新書(740円+税)
参考文献	『新総合図説国語』東京書籍(880円)、野村剛史(著)『話し言葉の日本史』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー(1,700円+税)、高山善行他(編)『ガイドブック 日本語文法史』ひつじ書房(1,900円+税)
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))		
科目コード	L207		
学年・期	2年・前期		
授業科目名	日本の文学(古典文学)		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	日本文学の歴史		
展開科目	日本の文学演習(古典)		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)		
担当教員名	花井しおり		
カリキュラムの中での位置づけ			
国語分野			
講義の目的			
授業のテーマ			
中学校・高等学校の国語の教科書に取り上げられている、日本の代表的な古典文学作品について、高等学校『国語総合』レベルで文学史的事項の説明ができることを目指す。			
授業の概要			
中学校・高等学校の国語の教科書に取り上げられている、日本の代表的な古典文学作品を教材とし、文学史的事項の確認と作品の読解を行う。			
科目のキーワード			
①国文学史 ②万葉集 ③古今和歌集 ④勅撰和歌集 ⑤伊勢物語 ⑥源氏物語 ⑦土佐日記 ⑧枕草子 ⑨和歌の修辞 ⑩古典文法			
到達目標			
中学校・高等学校の国語の教科書に取り上げられている、日本の代表的な古典文学作品について、高等学校『国語総合』レベルで文学史的事項の説明ができる。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	はじめに 歴史的事項の確認	9	『源氏物語』 1
2	概説 国文学史の基礎	10	『源氏物語』 2
3	『万葉集』	11	『土佐日記』 1
4	和歌の修辞	12	『土佐日記』 2
5	『古今和歌集』	13	『枕草子』 1
6	1から5のまとめ	14	『枕草子』 2
7	『伊勢物語』 1	15	全体のまとめ
8	『伊勢物語』 2		
評価方法	定期試験＋発表・質疑応答など授業への取り組み姿勢		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『新総合図説国語』東京書籍(880円), 鈴木日出男他(著)『原色 小倉百人一首』文英堂(533円＋税)。		
参考文献	適宜紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース (教科に関する科目(国語))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L208	国語分野
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	日本文学の歴史	授業のテーマ
単位数	2	最初の勅撰和歌集『古今和歌集』以来、季節の風物は和歌の中心的主題とされた。この講義では、『古今和歌集』を丁寧に読むことを通して、日本文学の基底にある季節観を知るとともに、和歌を理解するための修辞・文法的知識を習得する。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース選択	『古今和歌集』を中心とした和歌の修辞技法・古典文法を学ぶ。
前提とする科目	日本文学の基礎Ⅰ・Ⅱ	科目のキーワード
展開科目	日本文学演習(古典)、日本語学演習	①『万葉集] ②『古今和歌集] ③勅撰和歌集 ④枕詞 ⑤序詞 ⑥掛詞 ⑦勅撰三詩集 ⑧『和漢朗詠集] ⑨『句題和歌] ⑩古典文法
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	到達目標
担当教員名	花井しおり	『古今和歌集』の文学的史知識を習得するとともに、『古今和歌集』を文法的知識に基づいて読解することができる。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	はじめに	9	『古今和歌集』 4
2	『古今和歌集』について	10	『古今和歌集』 5
3	『万葉集』から『古今和歌集』へ	11	『古今和歌集』 6
4	和歌の修辞技法	12	『古今和歌集』 7
5	1から4のまとめ	13	『古今和歌集』 8
6	以下、学生の発表 『古今和歌集』 1	14	『古今和歌集』 9
7	『古今和歌集』 2	15	全体のまとめ
8	『古今和歌集』 3		

評価方法	期末試験＋ 発表・質疑応答など授業への取り組み姿勢
------	---------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	小町屋照彦(訳注)『古今和歌集』ちくま学芸文庫(1,500円＋税)、鈴木日出男他(著)『原色 小倉百人一首』文英堂(533円＋税)、『新総合図説国語』東京書籍(880円)、授業時には必ず古語辞典を持参すること(電子辞書は不可)
参考文献	授業で適宜紹介する。
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L209		
国語分野			
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	中国の文学Ⅱ		
漢文訓読を通して中国の古典を学ぶ			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
漢文訓読の方法を学びつつ、中国古典の代表的な作品を概観していく。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
①以 ②置き字 ③「すなわち」 ④「すでに」 ⑤是、之 ⑥者、所 ⑦所謂 ⑧也、欲 ⑨為、自 ⑩漢詩			
前提とする科目	中国の文学Ⅰ		
到達目標			
展開科目	中国の文学演習		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)		
①漢文訓読の方法を理解できる。 ②教科書収録の作品を自力で訓読できる。			
担当教員名	渡 昌弘		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	詩の形式	9	唐代の詩(送元二使安西、早発白帝城)
2	古体の詩(桃夭、古詩十九首)	10	唐代の詩(静夜思)
3	古体の詩(飲酒)	11	唐代の詩(黄鶴楼送孟浩然之広陵、子夜呉歌)
4	古体の詩(婦園田居)	12	唐代の詩(月下独酌)
5	唐代の詩(代悲白頭翁)	13	唐代の詩(山中問答、山中與幽人対酌)
6	唐代の詩(春暁、涼州詞)	14	唐代の詩(送友人)
7	唐代の詩(登鶴鶴楼)	15	まとめ
8	唐代の詩(鹿柴、竹里館)		
評価方法	期末試験。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	「中国の文学Ⅰ」の残りの部分を用いる。		
参考文献	漢和辞典。		
実験・実習・教材費	なし。		



科目目標		
学科	歴史・文化専攻 日本研究コース (教科に関する科目(国語))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L301	国語分野
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	日本語学演習	授業のテーマ
単位数	2	日本の近代以前の文学作品の文法的な読解を通して、日本の言語と文学についての基本的な諸問題に広く触れる。そのうえで、自ら問題点を見つけ、その問題について調査・考察したことを他者にわかりやすく発表する力を養う。
授業形態	演習	授業の概要
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	日本のことばⅠ・Ⅱ、日本文学の歴史	①古典文学 ②古典文法 ③読解力 ④資料調査 ⑤資料作成 ⑥プレゼンテーション力 ⑦ディスカッション
展開科目	卒業演習Ⅰ	到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	古典文学作品を、文法に則して理解することができる。そのうえで、問題点を見つけ、その点を調査・考察によって問題を解決し、その結果を他者にわかりやすく説明することができる。
担当教員名	花井しおり	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	はじめに	9	担当学生の発表と質疑応答 3
2	発表方法	10	担当学生の発表と質疑応答 4
3	発表資料の作成	11	担当学生の発表と質疑応答 5
4	先行論文を読む 1	12	担当学生の発表と質疑応答 6
5	先行論文を読む 2	13	担当学生の発表と質疑応答 7
6	1から5のまとめ	14	担当学生の発表と質疑応答 8
7	担当学生の発表と質疑応答 1	15	まとめ
8	担当学生の発表と質疑応答 2		

評価方法	発表(プレゼンテーション力+発表資料)+質疑応答
------	--------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	『新総合図説国語』東京書籍(880円)、高田祐彦(訳注)『新版 古今和歌集』角川文庫ソフィア(1,124円+税)。 ※古語辞典(電子辞書不可)を必ず持参すること。
参考文献	適宜指示する。
実験・実習・教材費	なし。

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L302		
卒業論文作成			
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業科目名	日本の文学演習I(現代文)		
授業のテーマ	国語教員として生徒に身につけさせるべきは、国語で表現された文章の読解力であり、それは、教員自身が高い読解力を有しているこそ可能となる。この授業は、国語の現代文に関する読解力を向上させることを目的としている。国語による文章表現を味わいつつ、内容について徹底的に考える姿勢が身につくような授業方法によって、読解力を高めていく。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
授業の概要	味わうに足る国語表現の文章で、なおかつその表現を通して徹底的に考えさせる内容をもった文章として、主に小林秀雄の文章をテキストとして用いる。前期の半ば頃までは、担当教員が懇切な説明を加えつつ文章を読解していく。前期の後半においては、履修者自身が、担当箇所に関して、教員の助けを借りつつ読解作業を試みる。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	日本の文学(近現代の文学)		
①国語表現を味わう ②徹底的に考える ③読解 ④言語表現			
到達目標			
展開科目	日本の文学演習II(現代文)		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)		
やむをえない事情がない限り必ず出席して、授業を真剣に受ける。前期のこのIの授業で先ず要求されるのは、読解を進めて行く教員の懇切な説明をよく理解することである。その理解が履修者自身の読解力につながっていくように、教員は様々な助言や質問をする。それを手掛かりに、履修者は実際に自分で読解したところを言葉で説明することを試みる。			
担当教員名	吉田・花井		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	導入講義。現代文の表記に関する短いテキスト、及び次回からのテキスト配布。	9	「私の人生観」読解2。
2	著者について説明。中学生向けに易しく書かれた文章「美を求め心」読解1。	10	「私の人生観」読解3。
3	「美を求め心」読解2。次回テキスト配布。	11	「私の人生観」読解4。
4	「伝統」読解1。	12	「私の人生観」読解5。
5	「伝統」読解2。	13	「私の人生観」読解6。
6	「伝統」読解3。	14	「私の人生観」読解7。
7	「伝統」読解4。付加テキスト「伝統について」読解。次回テキスト配布。	15	「私の人生観」読解8。前期のまとめ。
8	「私の人生観」読解1。		
評価方法	前期に使用したテキストの内容に関わる問題をいくつか挙げるので、それについてテキストの文章ではどのように考えられていたか、自分の言葉で文章化することを、レポートの課題とする。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	演習に使用するテキストはコピーで配布する。演習IIIに備えて夏休み中に読む文章は、各自異なるので、各自が図書館の本からコピーする。		
参考文献	担当教員による論文その他、授業時に紹介する。		
実験・実習・教材費	夏休み中に各自読む文章についてのみコピー代。もしくは、その文章の載った本を購入したければ、その本代。		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L303	国語分野
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	中国の文学演習	授業のテーマ
単位数	2	中国の古典を学ぶ
授業形態	演習	授業の概要
必修・選択	コース必修	著名な文章、歴史書及び「論語」から選読する。
前提とする科目	中国の文学Ⅱ	科目のキーワード
展開科目	卒業演習Ⅰ(国語)	①訓読 ②駢文 ③古文 ④十八史略 ⑤史記 ⑥論語
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	到達目標
担当教員名	渡昌弘	漢文の訓読方法を駆使して中国古典の代表的な作品を読み、その作品が描く社会背景等も分析できる。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	魚父辭	9	鴻門之會(2)
2	桃花源記	10	「論語」(1)
3	春夜宴桃李園序	11	「論語」(2)
4	帝堯陶唐氏	12	「論語」(3)
5	臥薪嘗胆	13	「論語」(4)
6	鶏鳴狗盜	14	「論語」(5)
7	合従連衡	15	まとめ
8	鴻門之會(1)		

評価方法	期末試験。
------	-------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	「中国の文学Ⅰ・Ⅱ」の授業で使用した『漢文入門』。
参考文献	漢和辞典
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))		
カリキュラムの中での位置づけ			
卒業論文作成			
科目コード	L304		
講義の目的			
学年・期	3年・後期		
授業科目名	日本の文学演習II(現代文)		
授業のテーマ	中・高の国語教員として何よりも必要な能力は、国語で表現された文章の高い読解力であり、この授業は、国語の現代文に関する履修者の読解力を向上させることを目的としている。国語による文章表現を味わいつつ、内容について徹底的に考える姿勢が身につくような授業方法によって、読解力を高め、それを自分の言葉で説明できるようにする。		
単位数	2		
授業の概要	前期の演習Iの授業を基礎として、夏休み前に各自に指定された文章を夏休み中に読んでおき、後期では、その内容について発表を行う。口頭発表と質疑応答ののち、或る程度の枚数のレポートとしてまとめる作業も行なう。ウォーミングアップと発表準備の時間確保の意味で、最初の数回は演習Iのテキストと授業方法を引き継ぐ。		
授業形態	演習		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	日本の文学演習I(現代文)		
到達目標	①国語表現を味わう ②徹底的に考える ③読解 ④言語化		
展開科目	卒業演習I(国語)		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)		
担当教員名	吉田・花井		
到達目標	前期の演習Iの授業においては担当教員の助けによって行なった読解作業が、できるだけ助けを借りず、自分自身の力で行なえるようになることを目指す。通念や世に流通する安易な解釈を参照せず、テキストに即して、テキストの文章を味わいつつ、テキストの内容を理解するようになること。その理解が、自分の言葉で言語化できること。		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	導入講義。	9	履修者による発表と全員による議論4。
2	「私の人生観」読解9。	10	履修者による発表と全員による議論5。
3	「私の人生観」読解10。テキスト「偶像崇拜」配布。	11	履修者による発表と全員による議論6。
4	「偶像崇拜」読解1。	12	履修者による発表と全員による議論7。
5	「偶像崇拜」読解2。	13	履修者による発表と全員による議論8。
6	履修者による発表と全員による議論1。	14	履修者による発表と全員による議論9。
7	履修者による発表と全員による議論2。	15	後期のまとめ。
8	履修者による発表と全員による議論3。		
評価方法	各自に指定された文章に関して口頭発表し、それをさらに詳しくレポートとしてまとめる。また、後期に新たに読んだテキストの内容に関わる問題をいくつか挙げるので、それについてテキストの文章ではどのように考えられていたか、自分の言葉で文章化することも、レポートの課題とする。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	演習に使用するテキストはコピーで配布する。		
参考文献	担当教員による論文その他、授業時に紹介する。		
実験・実習・教材費	不要		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(国語))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L305	卒業論文作成
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	日本の文学演習(古典)	授業のテーマ
単位数	2	日本の古典文学作品の読解を通して、日本の言語と文学についての基本的な諸問題に広く触れる。そのうえで、自ら問題点を発見し、その問題について調査・考察したことを、他者にわかりやすく説明する力を養う。
授業形態	演習	授業の概要
必修・選択	コース必修	はじめに講義形式で発表方法・発表資料の作成方法・参考文献の紹介などを学ぶ。以後は、各自の選んだテーマについて、発表と質疑応答を行う。
前提とする科目	日本の文学(古典文学)、日本文学の歴史	科目のキーワード
展開科目	卒論演習 I (国語)	①古典文学 ②古典文法 ③日本文学史 ④読解力 ⑤資料調査 ⑥発表資料の作成 ⑦プレゼンテーション力 ⑧ディスカッション
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	到達目標
担当教員名	花井しおり	日本の古典文学作品の読解を通して、日本の言語と文学についての基本的な諸問題に広く触れる。そのうえで、自ら問題点を発見し、その問題について調査・考察したことを、他者にわかりやすく説明する力を養う力を身につける。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	はじめに	9	担当学生の発表と質疑応答
2	発表方法	10	担当学生の発表と質疑応答
3	発表資料の作成	11	担当学生の発表と質疑応答
4	先行論文を読む 1	12	担当学生の発表と質疑応答
5	先行論文を読む 2	13	担当学生の発表と質疑応答
6	1から5のまとめ	14	担当学生の発表と質疑応答
7	担当学生の発表と質疑応答	15	まとめ
8	担当学生の発表と質疑応答		
評価方法	発表(発表内容+発表資料)+質疑応答による授業への参加姿勢		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	『新総合図説国語』東京書籍(880円)、※古語辞典(電子辞書は不可)を必ず持参すること。		
参考文献	適宜指示する。		
実験・実習・教材費	なし。		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L121	日本の文学やことば・歴史の基礎
学年・期	1年・前期	講義の目的
授業科目名	日本史概説	授業のテーマ 我が国の歴史知識の確認を目標として、先史時代から現在までの我が国の歴史の流れを、広い視点から学ぶ。その際、我が国の周辺諸国や世界の動向との関係も意識し、その中で、我が国がいかなる歩みをしたのかを考え、現在の我が国をとりまく諸問題を歴史的に理解する。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	日本史の基礎的知識の修得を中心に、やや専門的事項にもふれ、時代の流れを理解するようにする。また、時代毎にその時代を代表すると思われる事件、事項などを取り上げ、理解の一助とする。そして、全体的に我が国の歩みを理解できるようにする。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	なし	①日本のあゆみ ②歴史 ③通史 ④歴史的基本用語 ⑤各時代
展開科目	日本近世史	到達目標
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)	日本史に関する基本的及び主要事件、事項などを獲得し、我が国の歩みを理解する。
担当教員名	川口雅昭	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	日本のあけぼの	9	幕政の安定と町人の活動
2	大和政権の成立	10	幕藩体制の動揺
3	東アジア情勢と古代国家の成立	11	幕末の動乱と明治維新
4	律令国家の変質と撰閣政治	12	近代国家の成立と明治立憲制の形成
5	武家社会の形成	13	日清・日露戦争と帝国主義的発展
6	蒙古襲来と武家社会の転換	14	日本をめぐる内外情勢
7	下克上と戦国大名	15	「大東亜戦争」と戦後日本
8	幕藩体制の確立		
評価方法		期末試験(100%)により行う。	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009年。		
参考文献	適時紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L221	社会分野
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	日本古代・中世史	授業のテーマ
単位数	2	古代から中世にかけての、東アジア地域との交流によって作り出された「日本」を、その時代の建築物と時代に生きた人々の変容と発展過程の中で、建築、文化史の観点から考察する。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース選択	基本的に時代の流れをたどりつつ、時代性のあるテーマをとりあげ、全体として通史的な枠組を修得できるようにしていく。
前提とする科目	日本史概説	科目のキーワード
展開科目		①風土と自然 ②出雲と伊勢 ③寝殿造 ④禅宗
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)	到達目標
担当教員名		日本の古代・中世史の背景の中で、日本文化の成立過程を学ぶ。

授業計画

回	主題	回	主題
1	日本の風土と自然	9	源実朝と藤原定家
2	狩猟と稲作の文化	10	大仏様と禅宗様の建築
3	出雲と伊勢	11	禅宗の盛行と渡来僧
4	耶馬大国と大和朝廷	12	元寇の混乱と金沢貞顕
5	法隆寺と東大寺	13	鎌倉幕府の滅亡と南北朝の内乱
6	遣唐使と中国文化の摂取	14	社会風潮と下克上
7	寝殿造の住まい方	15	まとめ
8	平氏政権と日宋貿易		

評価方法	試験 100%(レポートも含む)
------	------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	「日本史のなかの茶道」(淡交社 2,000 円＋税)
-----	----------------------------

参考文献	図書館にある通史のシリーズものなどで、日本の古代・中世史に関する本を読んで時代へのイメージを培う
------	--

実験・実習・教材費	
-----------	--

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L122		
社会分野			
講義の目的			
学年・期	1年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	日本近世史		
近世という時代を考察する。とりわけ、「鎖国」を取り上げ、当時の我が国を取り巻いたアジア、西欧という国際環境、その時代的変遷、「鎖国」の我が国の諸分野へ与えた影響、「鎖国」下の我が国の実態などを論じ、近世を考える。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
「鎖国」以前、織豊政権下での外国との接触状況、徳川政権初期の海外認識、「鎖国」実施の背景、「鎖国」下の実態などを具体的に論考し、「鎖国」が我が国に与えたプラス・マイナスの影響について論じる。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	日本史概説		
①近世 ②「鎖国」 ③送信・受信システム ④蘭学 ⑤異文化とのインターフェイス ⑥海外情報収集 ⑦仮想体験 ⑧海外体験			
到達目標			
展開科目	日本近・現代史		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)		
具体的事実を学ぶことにより、「鎖国」という言葉を通じて、近世という時代に抱いていた先入観を払拭する。歴史には色々な見方があることを理解し、それぞれの学生の歴史認識能力を高める。			
担当教員名	川口雅昭		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション、授業の進め方	9	仮想体験①
2	織豊政権下の異文化接触	10	仮想体験②
3	未知の世界へのアプローチと諸外国の撤退	11	「鎖国」下の我が国の実態
4	「鎖国」成立の背景	12	情報ネットワーク
5	海外情報収集①	13	各藩の情報収集
6	海外情報収集②	14	海外体験
7	異文化とのインターフェイス①	15	近世における「鎖国」の意味
8	異文化とのインターフェイス②		
評価方法	期末試験(100%)により行う。試験には期末試験、小テストを含む。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	適時紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L222	社会分野
学年・期	2年・前期	講義の目的
授業科目名	日本近・現代史	授業のテーマ
単位数	2	本講義は、近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。幕末から太平洋戦争に至るまでの歴史なかで、特にペリー来航以来の幕末から明治十四年の政変までの政治過程を講義する。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース選択	明治立憲制が成立していく過程を丹念に追っていく。
前提とする科目	日本近世史	科目のキーワード
展開科目		①日本近代史 ②国民国家 ③立憲政治への胎動
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)	到達目標
担当教員名	田浦雅徳	近代国民国家としての日本が如何にして形成されたかを知ること。そのために必要な知識や歴史観を習得する。

授業計画

回	主題	回	主題
1	立憲政治実現過程の日欧比較	9	征韓論と明治六年の政変
2	幕閣専断から公議輿論の尊重へ	10	大久保利通と明治政府
3	加藤弘之の「鄰艸」	11	民撰議院設立建白書
4	王政復古の政変	12	自由民権運動
5	五箇条の御誓文	13	士族反乱と西南戦争
6	「公議」の制度化への試み—公議所の開設	14	さまざまな憲法構想 私擬憲法と岩倉の憲法意見書
7	版籍奉還と廃藩置県	15	明治十四年の政変と国会開設の勅諭
8	岩倉使節団		

評価方法	試験(100%)によって評価する。
------	-------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	鳥海靖『日本の近代—国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会、2,100 円
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))		
カリキュラムの中での位置づけ	社会分野		
科目コード	L223		
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業科目名	地誌学		
授業のテーマ	地誌学は地理学において、系統地理学とともに二大分野をなす。それは地域を対象に、地域の仕組み・構造を明らかにするものである。社会科では小学校中学年から5年生にかけて、地域教材や日本の産業などさまざまなことを学ぶ。また、中学校地理的分野では学指導要領の改訂によって、日本の各地方や世界に関する地誌的内容を学ぶ場面が増えることとなった。では、地誌的に地域を把握するとはどのようなことであろうか。本講義では、日本を題材に現代日本の地域構造からこの点に迫り、地域を地誌的に考えることができるようになることを目的とする。		
単位数	2		
授業の概要	まずは地誌学とはどのようなことを究明しようとするのかをみてみよう。その後、社会科における地誌の取扱いをみた後、具体的題材としての現代日本の地域構造を人口・都市・産業の側面から明らかにしていく。		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①地域と地域性 ②日本の地域構造 ③人口移動 ④都市システム ⑤中枢管理機能 ⑥産業と地域		
前提とする科目	到達目標		
展開科目			
関連資格	現代日本の地域構造はそれを形成する主要素、すなわち人口・都市・産業が相互に関係しあいながら大都市圏を中心とした一つのシステムをなしていることを理解することによって、日本という地域スケール以外のミクロからマクロまでのスケールの単位地域を対象にして、自ら地域要素の相互関係からなるシステムを考察するための基礎的視点と論理思考を獲得することを到達目標とする		
担当教員名	伊藤貴啓		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	地誌学とは	9	都市からみた日本の地域構造(3):都市システムの変化(1950年代から1980年代まで)
2	人口からみた日本の地域構造(1):人口推移と人口学方程式	10	都市からみた日本の地域構造(4):都市システムの変化(1990年代以降)
3	人口からみた日本の地域構造(2):人口動態の変化	11	産業からみた日本の地域構造(1):産業構造の変化と地域
4	人口からみた日本の地域構造(3):人口動態の地域性	12	産業からみた日本の地域構造(2):工業都市の形成とその変化
5	人口からみた日本の地域構造(4):人口移動と高齢化の地域性	13	産業からみた日本の地域構造(3):第3次産業の発展と流通革命
6	人口からみた日本の地域構造(5):日本の将来人口とその地域性	14	産業からみた日本の地域構造(4):サービス経済化と地域
7	都市からみた日本の地域構造(1):都市の形成と都市化	15	地誌学と日本の地域構造
8	都市からみた日本の地域構造(2):中枢管理機能と都市の階層性		
評価方法	小レポート及び試験によって評価する		
評価基準	評価語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	教科書は使用しない。各回に資料を用意し、パワーポイントを用いて講義を行う		
参考文献	菊地俊夫編:『日本(世界地誌シリーズ)』朝倉書店		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L244	社会分野
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	人文地理学	授業のテーマ 地理学とは文字通り、地の理を学ぶ学問である。高校時代の地理A・Bや中学校社会科の地理的分野との点で異なる。では、地のことわりを学ぶとはどういうことだろうか？人文地理学は人文現象を対象に、それを究明していく学問である。本講義では環境と人間の関わりを軸に、地の理を明らかにする視点としての地理的見方・考え方の獲得を目的とする。
単位数	2	授業の概要 まずは、地理学がいかに生まれてきたのかを概観してみよう。その後、人間と環境の関わりを地理学がどのようにとらえてきたのか。すなわち、地理学における環境論の変遷をみた後、地理学が対象とする地域を私たちがいかに認識し、地域イメージを形成していくのかを捉えていきたい。その際、地域イメージと文学やマスメディアの関係などに視点を置いて考えることにしよう。
授業形態	講義	科目のキーワード ①地理的見方・考え方 ②環境と人間 ③空間認知 ④心象風景 ⑤地域イメージ ⑥地域
必修・選択	コース必修	到達目標
前提とする科目		
展開科目		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)	地理学の学問体系を理解するとともに、そのなかでの人文地理学の位置づけを自ら説明できるようになる。その上で、地理学がどのように主体である人間のまわりの環境を捉え論じてきたのか、また主体である私たちがまわりの環境をどのように認知してきたのかを理解する。さらに、このような環境の認知とそのイメージ形成がもたらす実態社会の変化がいかに起こるのかを理解し、説明できるようになる。以上によって、地理的見方・考え方の基礎を獲得するとともに地理的思考を培うことを目的とする。
担当教員名	伊藤貴啓	

授業計画

回	主題	回	主題
1	地理学とは：時間と空間、そして地理学	9	心象風景と地域(1)原風景の形成：新美南吉の場合
2	地理的見方・考え方(1)地域と地域の関係	10	心象風景と地域(2)文学と地理空間：夏目漱石の場合
3	地理的見方・考え方(2)自然と自然の関係	11	心象風景と地域(3)軽井沢のイメージはいかにつくられたのか
4	地理的見方・考え方(3)自然と人間の関係	12	地域イメージの形成と地域(1)農村という神話
5	地理的見方・考え方(4)地域的特色の把握	13	地域イメージの形成と地域(2)アニメと地域
6	地理学における空間認識の変遷(1)環境決定論	14	地域イメージの形成と地域(3)マスメディアと地域
7	地理学における空間認識の変遷(2)環境可能論	15	地理学と地域
8	地理学における空間認識の変遷(3)環境認知論		

評価方法	小レポート及び試験によって評価する
------	-------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	教科書は使用しない。各回に資料を用意し、パワーポイントを用いて講義を行う
参考文献	高橋伸夫編『文化地理学入門』東洋館書林、中川正ほか『文化地理学ガイダンス』
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))		
科目コード	L225		
学年・期	2年・前期		
授業科目名	アジアの歴史		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目			
展開科目			
関連資格	教員免許状(中「社会」・高「地歴」)		
担当教員名	渡 昌弘		
カリキュラムの中での位置づけ			
社会分野			
講義の目的			
授業のテーマ			
グローバルな視野の育成をテーマとして、アジアの歴史を取り上げる。			
授業の概要			
アジアといっても、その対象となる地域は様々な地理的景観を含み、民族的関係は複雑で、言語・文字も極めて多様である。そこで西アジア等の地域に分け、それぞれの特徴的な問題を取り上げて現代社会を考える一助とする。			
科目のキーワード			
①イスラーム文化圏 ②パレスチナ問題 ③ムガル帝国 ④植民地インド ⑤カシミール問題 ⑥辛亥革命 ⑦二つの世界大戦 ⑧冷戦			
到達目標			
グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解、尊重の能力を習得する。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	アジアの自然と地理	9	カシミール問題
2	イスラーム文化圏の形成	10	アヘン戦争
3	オスマン帝国の繁栄と衰退	11	辛亥革命と清朝の滅亡
4	パレスチナ問題	12	二つの世界大戦と中国
5	イラン・イラクと欧米諸国	13	冷戦と中国
6	ムガル帝国の盛衰	14	朝鮮半島の分断
7	植民地インドの形成	15	まとめ
8	第二次世界大戦とインド		
評価方法	期末試験。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	特に定めない。		
参考文献	高校等で使用した「世界史」の教科書、図録などの資料集。		
実験・実習・教材費	なし。		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース (教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L226	社会分野
学年・期	2年・前期	講義の目的
授業科目名	社会学Ⅰ	授業のテーマ
単位数	2	現在社会は、さまざまな問題を抱えながら変化している。本講義では、現代社会を取り巻くさまざまな事象を取り上げることによって、社会学の基本的な理論や概念を学ぶとともに、社会学的探究の方法についての理解を深める。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	社会学の理論や概念を概観するとともに、ジェンダー、労働とレジャー、環境、地域、グローバル化、情報などの問題を取り上げ、社会学的視点からの考察を行う。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目	社会学Ⅱ	①コミュニケーション力 ②問題解決力 ③意思決定力 ④洞察力 ⑤価値判断力
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)	到達目標
担当教員名	安福恵美子	社会学の理論や概念についての知識を持つことができるようにする。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	社会学とは何か	9	地域社会と地域づくり(2)
2	社会学に何かできるのか	10	地域社会と地域づくり(3)
3	近代社会の成立	11	現代社会とジェンダー
4	現代社会と労働	12	現代社会と情報(1)
5	現代社会とレジャー活動	13	現代社会と情報(2)
6	文化とグローバル化	14	現代社会と情報(3)
7	現代社会における環境問題	15	まとめ
8	地域社会と地域づくり(1)		

評価方法	ミニテスト(50%)およびミニレポート(50%)によって評価する。
------	-----------------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	安福恵美子『ツーリズムと文化体験』流通経済大学出版会
参考文献	授業のなかで随時紹介する。
実験・実習・教材費	

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L227		
社会分野			
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	欧米の歴史Ⅰ		
授業の概要	欧米の歴史といっても、時代や国、地域によってその内容は様々です。また、政治史のみならず、社会史や文化史など、多様な角度から過去を検討することも可能です。この授業では、ヨーロッパの社会や政治を支え、現代まで影響を及ぼしている文字文化(識字文化)の変化について探っていきます。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
古代から近代にかけてのヨーロッパの歴史を概観しながら、文字の読み書きや教育がどのような変化を辿ったかを考察します。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目			
①文字 ②識字 ③書物 ④教育			
到達目標			
展開科目	欧米の歴史Ⅱ		
到達目標			
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)		
到達目標	ヨーロッパの歴史の流れ、および文字文化についての基本的な知識を獲得することを目標とします。		
担当教員名	大橋真砂子		
到達目標			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	中世bにおけるマニュスクリプトの作成
2	古代～中世の書写材料	10	アラビア文化の影響
3	古代社会と文字(1)ギリシア文字とラテン文字	11	中世の大学
4	古代社会と文字(2)教育と識字	12	ルネサンスとその影響
5	古代における書物	13	活版印刷とその影響
6	キリスト教と文字文化(1)聖書	14	近代における教育制度
7	キリスト教と文字文化(2)聖書vs.古典文学	15	まとめ
8	中世社会と文字		
評価方法	レポート(20%)と期末試験(80%)で評価します。		
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	使用しません。		
参考文献	授業中に適宜紹介します。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース (教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L228	社会分野
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	哲学	授業のテーマ
単位数	2	今日の西洋由来の学問はほとんどすべて哲学から分枝していったものである。この哲学の根本にある西洋的存在の概念展開を理解し、人間存在の理解を試み、そのあるべきあり方を究明する。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	古代から中世、ルネサンスまでの西洋哲学の大きな流れについて把握することを前提として、近代哲学の発展と限界の露呈した状況の意義を理解する。その上で、近代哲学以降の哲学の可能性についてニーチェやハイデッガーなどの思想に探る。授業を通じて、今日の人間理解、自然理解の問題を把握する。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目	倫理学	①存在 ②理性 ③合理論 ④経験論 ⑤歴史 ⑥ニヒリズム ⑦生成 ⑧ルサンチマン ⑨実存 ⑩自然
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)	到達目標
担当教員名	内藤可夫	人間の存在、生と死に関わる存在の問題の意味を把握し、近代哲学の存在理解の挫折と今後の哲学の存在への可能性を理解する。

授業計画

回	主題	回	主題
1	「存在」を問う問いの意味	9	今日の哲学的状況
2	ルネサンスから近代に至る哲学史の概観	10	現代の諸問題1, 「私」とはなにか、死の問いの不在
3	カント、経験論と合理論、批判哲学	11	現代の諸問題2, 環境問題の哲学的意味
4	ヘーゲル、理性、歴史、存在、近代哲学の到達点	12	哲学の可能性(1)
5	近代哲学の限界と実存主義	13	哲学の可能性(2)
6	ニーチェ、「存在」「理性」への徹底的批判	14	現代までの歴史の概観
7	ニーチェ、ニヒリズムとその克服の道、未来の哲学	15	まとめ
8	ハイデッガーから現代へ		

評価方法	論述試験
------	------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している.....	S
学習目標を相応に達成している.....	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある.....	B
学習目標の最低限は満たしている.....	C
学習目標の最低限を満たしていない.....	D

教科書	『西洋哲学史』 岩崎武雄 著 有斐閣
参考文献	適宜配布
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L229		
社会分野			
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	法律と生活		
授業の目的	私たちの市民生活は法律と密接に関係しています。この授業では、法律を初めて学ぶ人を対象に、民法、刑法など、法律の基礎的な知識を習得するとともに、法的な考え方を身につけることにより、皆さんが生活を送る上で直面するであろう様々な問題に対し、自ら考え対処する能力を養っていただきたいと思います。		
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	講義		
授業の概要	民法、刑法など、基本的な法律について、具体的な事例を用いながら平易に説明します。		
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目	日本国憲法		
キーワード	①法 ②責任 ③権利と義務		
展開科目			
到達目標			
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)		
到達目標	法律の基礎的な知識の習得を目指します。		
担当教員名	松村修平		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	イントロダクション	9	財産法各論
2	刑事法総論	10	財産法各論
3	刑事法各論	11	財産法各論
4	刑事法各論	12	家族法各論
5	刑事法各論	13	家族法各論
6	刑事法各論(裁判見学)	14	公法概論
7	民事法総論	15	総復習
8	財産法各論		
評価方法	期末のレポート		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	「はじめての法律学 HとJの物語」(第3版補訂版) 有斐閣		
参考文献	六法(出版社を問わないが、憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法が掲載されているもの)		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L230	社会分野
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	社会学Ⅱ	授業のテーマ
単位数	2	社会学の基本的な理論や概念を基に、現代社会にみられるさまざまな事象に対するアプローチ方法について学ぶ。
授業形態	講義	授業の概要
必修・選択	コース必修	本講義では、現代社会が抱えるさまざまな問題点を取り上げることによって、社会学的視点から問題を捉えるとともに、問題解決に向けた方策について探る。
前提とする科目	社会学Ⅰ	科目のキーワード
展開科目		①コミュニケーション力 ②問題解決力 ③意思決定力 ④洞察力 ⑤価値判断力 ⑥分析力
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)	到達目標
担当教員名	安福恵美子	社会学的視点から社会現象を捉えることができるようにする。

授業計画

回	主題	回	主題
1	社会学的考え方	9	現代社会とイメージ形成(2)
2	社会学と調査	10	情報社会における問題点(1)
3	現代社会における問題に対するアプローチ	11	情報社会における問題点(2)
4	近代社会と制度	12	地域と資源
5	世界遺産(1)	13	地域の活性化(1)
6	世界遺産(2)	14	地域の活性化(2)
7	世界遺産の問題点	15	まとめ
8	現代社会とイメージ形成(1)		

評価方法	ミニテスト(50%)およびミニレポート(50%)によって評価する。
------	-----------------------------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	安福恵美子『ツーリズムと文化体験』(流通経済大学出版会)
参考文献	授業のなかで随時紹介する。
実験・実習・教材費	

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L231		
社会分野			
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	欧米の歴史Ⅱ		
近世以降芸術はその時代の政治・社会・経済と密接にかかわりながら展開してきた。本講義では、時代のビジュアルな記録としての絵画の歴史的背景を紐解くことで、現代につながる近代世界の成り立ちを考える。			
単位数	2		
授業の概要			
各時代の美術作品を足掛りとしながら近世から現代にかけての欧米の政治・社会・経済・文化のダイナミックな展開を通観してゆく。			
授業形態	講義		
必修・選択	コース選択		
科目のキーワード			
①ルネサンス ②宗教改革 ③対向宗教改革 ④大航海時代 ⑤絶対王政 ⑥市民革命 ⑦産業革命 ⑧帝国主義 ⑨自由主義 ⑩民族主義			
前提とする科目	欧米の歴史Ⅰ		
到達目標			
展開科目			
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)		
欧米の歴史の大まかな流れと、それに沿った芸術文化の展開を把握する。			
担当教員名	菅原太		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	授業の概要	9	絶対王政と肖像画の役割3(フランス)
2	ルネサンスの文芸1(人文主義)	10	市民革命と美術の政治意識1(フランス革命)
3	ルネサンスの文芸2(科学としての美術)	11	市民革命と美術の政治意識2(ナポレオン戦争)
4	宗教改革とプロパガンダとしての美術(ドイツ・ルネサンス)	12	市民革命と美術の政治意識3(七月・二月革命)
5	対向宗教改革とプロパガンダとしての美術(イタリア・バロックを中心に)	13	帝国主義の時代と美術の革新1(フランスを中心に)
6	大航海時代における宗教美術の展開(スペイン・バロック、中南米バロック)	14	帝国主義の時代と美術の革新2(オーストリアを中心に)
7	絶対王政と肖像画の役割1(ハプスブルク家)	15	まとめ
8	絶対王政と肖像画の役割2(イングランド)		
評価方法	期末テストの論述により講義内容の理解度を判定		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	無し		
参考文献	中野京子「ハプスブルク家12の物語」光文社新書、中野京子「ブルボン王朝12の物語」光文社新書、「図解世界史」成美堂出版		
実験・実習・教材費	無し		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L321	社会分野
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	政治と国家	授業のテーマ 大学で学ぶ政治学とは、どのようなものだろうか。現実の政治を理解するとは、どのようなことだろうか。これらの問題を、現代日本の政治を材料にしながら考えていきます。時期的には、第二次大戦後から現在(民主党政権の成立と崩壊、自民党政権奪回)までを対象とします。
単位数	2	授業の概要 まず、政治の仕組みをとらえるとはどのようなことなのか考えた上で、自民党長期政権時代(1955～93年。いわゆる「五五年体制」の時代)の仕組みと問題点、その後の政権交代、連立政権の時代の特徴、政治と行政の改革の課題、そして、かつての自民党政権と、現在の自民党政権の性格の違いなどについて考察していきます。
授業形態	講義	科目のキーワード ①政権交代 ②「政治改革」 ③選挙制度 ④派閥 ⑤「族議員」 ⑥「保守本流路線」 ⑦「土建国家」 ⑧財政危機 ⑨官僚制 ⑩「構造改革」 ⑪ポピュリズム
必修・選択	コース必修	到達目標
前提とする科目		
展開科目		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)	大学で学ぶ政治学についての基礎的レベルの理解を得ることを目標とします。より具体的には、現代日本の政治に関する基礎的な用語、概念を理解し、それによって実際の政治の仕組み、動きをある程度説明できること、さらには、マスコミ等の報道を、自分なりに理解し、考えていけるようになることを目指します。
担当教員名	岡田宏太郎	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	映像によるイントロダクション(1)	9	国会をめぐる諸問題
2	映像によるイントロダクション(2)	10	議会政治の行き詰まりと国家財政の危機
3	自民党の個人後援会と派閥	11	1990年代の「政治改革」
4	自民党の内部構造と選挙制度	12	官僚制の諸問題と「行政改革」
5	族議員と政官業の「鉄の三角形」	13	「官僚国家」の構造
6	長期政権時代の自民党権力の性格	14	「構造改革」と自民党の変容
7	社会党のと構造と自民党の長期政権	15	繰り返される政権交代とポピュリズム
8	自民党と社会党の対立と結びつき		

評価方法	期末の試験によります。
------	-------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	教科書は使用しません。
参考文献	授業中に適宜指示していきます。
実験・実習・教材費	特になし。

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))		
カリキュラムの中での位置づけ			
卒業論文作成			
科目コード	L322		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	社会・歴史演習 I		
日本史研究の基本である日本漢文、候文、古文書解読の基礎的知識を修得し、初歩的な古文書などを読めるようにする。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	演習		
基礎的な史料、古文書を輪番で解読し、日本漢文、候文、古文書解読の基礎的な知識を修得する。また、内容について議論し、グループ討議などを行う。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
①吉田松陰の思想 ②西郷隆盛の思想 ③横井小楠の思想 ④勝海舟の思想 ⑤橋本左内の思想 ⑥近世古文書 ⑦近世の思想			
前提とする科目			
到達目標			
展開科目	社会・歴史演習 II		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)		
漢和、国語、くずし字辞典などを使い、史料が読め、解釈できるようになることを目標とする。			
担当教員名	川口・岡		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション、授業の進め方、史料配布	9	勝海舟②
2	吉田松陰①	10	橋本左内①
3	吉田松陰②	11	橋本左内②
4	西郷隆盛①	12	古文書 仮名の基本①
5	西郷隆盛②	13	古文書 仮名の基本②
6	横井小楠①	14	古文書 仮名の基本③
7	横井小楠②	15	まとめ
8	勝海舟①		
評価方法	試験(100%)により行う。試験は期末試験と小テストを含む。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし(折々に配布する)		
参考文献	折々に紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L323	社会分野
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	宗教学	授業のテーマ 宗教の歴史は人類の歴史であるとも言えるほど、人が集まるところには宗教が存在する。それだけに一口に宗教といってもその対象は広大である。この広大な世界を理性的の立場から学問的に考察することが宗教学の課題である。本講義は、その基礎となる宗教史の中から世界の総人口の5割以上の人々の精神的背景となっている一神教の世界を概観する。
単位数	2	授業の概要 現代世界における宗教と宗教研究について考察した後、唯一神教(ユダヤ教・キリスト教・イスラム教)の世界のそれぞれの発端に関して概観する。授業は主として講義形式であるが、ビデオを用いることもある。A4版100頁程度の授業専用テキストを用意する。テキストを読みながら、必要な説明を加える。
授業形態	講義	科目のキーワード
必修・選択	コース選択	①宗教 ②歴史 ③一神教の世界
前提とする科目		到達目標
展開科目		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)	現代世界における宗教と宗教研究の現状の意味を理解した後、唯一神教(ユダヤ教・キリスト教・イスラム教)の世界のそれぞれの発端の概観を理解する。毎回、前回の授業の理解度や学習状況に関するアンケートを実施し、それに基づいて個別的ならびに全体的な勉学の指示を行い、この指示に従って学習することによって最終試験において的確に解答できるように指導する。
担当教員名	伊藤利行	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	第1章 現代世界における宗教と宗教研究 1.世界の宗教人口、2.現代世界における宗教問題、3.宗教の概念、4.宗教研究	8	E. 旧約聖書の重要な思想: 黙示思想
2	第2章 唯一神教の世界 1.舞台としての中近東と三宗教に共通な特徴 A.自然・社会・歴史環境(メソポタミア、シリア・パレスチナ、エジプト、アラビア) B.基本的相互関係 C.唯一神教、啓示宗教、預言者 D.啓典の基本的構成概観(聖書、タルムード、クルアーンなど)	9	F. 旧約から新約へ
		10	4.キリスト教 A.原始キリスト教
3	2.聖書以前	11	B.初期キリスト教の発展と課題(新約聖書正典の成立、基本的教義の確立)
4	3.ユダヤ教 A. 旧約聖書の重要な思想: 創造	12	C.キリスト教諸派の系譜[概観]
5	B. 旧約聖書の重要な思想: 律法	13	5.イスラム教 A.ムハンマドの生涯とイスラム的信仰運動の概観
6	C. 旧約聖書の重要な思想: 預言者	14	B.ムハンマド以後の展開
7	D. 旧約聖書の重要な思想: 知恵	15	C.イスラム教諸派の概観

評価方法	持ち込み無しの筆記試験。
------	--------------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	授業用専用テキスト(配布)
参考文献	担当者ホームページ( <a href="http://www1.uhe.ac.jp">http://www1.uhe.ac.jp</a> )参照。連絡先ito@uhe.ac.jp
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))		
科目コード	L324		
学年・期	3年・前期		
授業科目名	倫理学		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース選択		
前提とする科目	哲学		
展開科目			
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)		
担当教員名	内藤可夫		
カリキュラムの中での位置づけ			
社会分野			
講義の目的			
授業のテーマ			
ヨーロッパにおける倫理学とその歴史、そしてそれ以外の諸文化における倫理の多様性を把握し、現代における倫理および倫理学の課題を理解する			
授業の概要			
存在を探究する哲学と倫理学との関わりについて理解することからはじめ、西洋思想史の歴史的な転換を倫理学の観点から理解し、近代思想批判後の現代に我々が直面する倫理学の課題を把握する。そして諸文化における非西洋的な倫理学の可能性を検証した上で、現代に生きる我々が生きる生き方のあるべき有り様を吟味する。			
科目のキーワード			
①哲学 ②倫理 ③倫理学 ④存在 ⑤生 ⑥人格 ⑦モラル ⑧エートス ⑨性善説/性悪説 ⑩コンプライアンス			
到達目標			
現代の倫理的な諸問題と倫理学的課題について把握し、それらの問題・課題を主体的に引き受け、自ら思想的学問的解決の方策を考えることができるようにする。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	倫理学とは	9	現代における倫理の諸問題の本質への考察
2	倫理学の歴史	10	現代における倫理の選択肢1
3	現代倫理学の困難	11	現代における倫理の選択肢2
4	倫理学における現代の課題	12	儒教的倫理思想の再評価
5	現代における倫理の諸問題1	13	儒教的倫理の可能性と課題
6	現代における倫理の諸問題2	14	現代の倫理学の課題
7	現代における倫理の諸問題3	15	まとめ
8	現代における倫理の諸問題4		
評価方法		論述試験	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	なし		
参考文献	適宜配布		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教科に関する科目(社会))	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L325	卒業論文作成
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	社会・歴史演習Ⅱ	授業のテーマ
単位数	2	中国正史に見える倭国および日本
授業形態	演習	授業の概要
必修・選択	コース必修	中国の史書に関する基本的な事柄を確認した後、諸書に見えるを国および日本関連の記事を読む。
前提とする科目	社会・歴史演習Ⅰ	科目のキーワード
展開科目		①中国正史 ②魏志倭人伝 ③卑弥呼 ④倭の五王 ⑤日出る処の天子 ⑥遣唐使 ⑦日宋貿易
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)	到達目標
担当教員名	渡・川口	「社会」や「日本史」の教科書等に掲載されている資料を読み、外から見た日本の姿を確認する。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	中国正史について	9	「旧唐書倭国日本伝」(1)
2	「魏志倭人伝」(1)	10	「旧唐書倭国日本伝」(2)
3	「魏志倭人伝」(2)	11	「新唐書日本伝」(1)
4	「宋書倭国伝」(1)	12	「新唐書日本伝」(2)
5	「宋書倭国伝」(2)	13	「宋史日本伝」(1)
6	「隋書倭国伝」(1)	14	「宋史日本伝」(2)
7	「隋書倭国伝」(2)	15	まとめ
8	「隋書倭国伝」(3)		
評価方法		期末試験。	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	授業内で提示。		
参考文献	漢和辞典。その他は必要に応じて提示。		
実験・実習・教材費	なし。		

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)		
科目コード	L141		
学年・期	1年・後期		
授業科目名	教職概論		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目			
展開科目	教師と倫理		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」、中「社会」、高「地歴」)		
担当教員名	川口雅昭		
カリキュラムの中での位置づけ			
教職に関する科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
学級崩壊、いじめ、引きこもり、また、青少年犯罪の凶悪化など、現在、我が国の教育が大きな混乱にあることはいうまでもない。また、これらの教育問題の基底に、教師の問題があると考え。そこで、本講では「教育とは何か」、「教師とはどうあるべきか」という、最も基本的な問題を基本から総合的に考察する。			
授業の概要			
授業では、自分自身の教職経験(山口県立高校14年在職)を具体的に語りながら、教育とは何か、教師とはどうあるべきかという問題を、学生に考えさせたい。			
科目のキーワード			
①教育 ②学校 ③教師 ④学級経営 ⑤家庭・地域 ⑥生徒指導 ⑦進路指導			
到達目標			
学生が自分で理想の教師像を描き、それに向かって努力するようにする。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	教育とは何か①	9	教師の性格と課題①
2	教育とは何か②	10	教師の性格と課題②
3	我が国における学校の発達と性格①	11	学級・学校経営
4	我が国における学校の発達と性格②	12	教育内容—我が国の教科書
5	教師の性格と課題①	13	生徒指導の体制と方法①
6	教師の性格と課題②	14	生徒指導の体制と方法②
7	家庭・地域と学校①	15	現在公教育と教育行政の課題
8	家庭・地域と学校②		
評価方法	期末試験(100%)により行う。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし		
参考文献	適時紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L142	教職に関する科目
学年・期	1年・後期	講義の目的
授業科目名	教育原論	授業のテーマ 学級崩壊、いじめ、引きこもり、また、青少年犯罪の凶悪化など、現在、我が国の教育が大きな混乱にあることはいうまでもない。また、これらの教育問題は制度的改革のみで乗り切ることが不可能と考える。そこで、本講では「教育とは何か」という、最も基本的な問題を基本から総合的に考察する。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	授業では、まず、ギリシア、ローマの教育からはじめ、近代学校制度の成立までを概観する。具体的には、各時代、各地域の代表的な「私塾」、「学校」、「教育者」などを取り上げ、そこで行われた教育実践などを概観し、教育のあり方を総合的に考察する。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目		①ギリシアの教育 ②ソクラテス ③プラトン ④アリストテレス ⑤ローマ・イスラエルの教育 ⑥中世の教育 ⑦ルソー ⑧ペスタロッチ ⑨フレーベル
展開科目	教育制度論	到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」、中「社会」、高「地歴」)	近代教育の源流とされるギリシア以来の西欧教育思想を理解し、今後の我が国の教育のあり方を具体的に構想する。
担当教員名	川口雅昭	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	ギリシアの教育①	9	中世の教育②
2	ギリシアの教育②	10	人文主義と教育
3	ソクラテス	11	宗教改革と教育
4	プラトン	12	啓蒙主義と教育
5	アリストテレス	13	ルソー
6	ローマの教育	14	ペスタロッチ
7	イスラエルの教育	15	フレーベル
8	中世の教育①		

評価方法	試験(100%)により行う。試験には期末試験、小テスト、課題提出などを含む。
------	--

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	適時紹介する。
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)		
カリキュラムの中での位置づけ	教職に関する科目		
科目コード	L241		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ	効果的な「学び」を導く教材・教具の作成及び利用		
授業科目名	教材・教具論		
授業の概要			
単位数	2		
授業形態	講義		
1. マンガやアニメなど生の素材を利用した教室活動について知る。2. 生の素材を学習目標に沿って利用する方法を学ぶ。3. 視聴覚教材を利用した授業案を考える。4. 模擬授業を通じて、教材の効果的な利用方法を体得する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード	①学び ②生教材 ③参加型授業 ④教材分析 ⑤模擬授業		
前提とする科目			
到達目標			
展開科目			
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
視聴覚教材(マンガ、写真、動画など生教材)を利用して、効果的な「学び」を導く授業を計画、実施できるようになる。			
担当教員名	文野峯子		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	よい授業と教材の役割	9	教材分析2(写真、動画)
2	教材分析1(紙媒体教材)	10	教材分析2-2(利用方法検討)
3	参加型授業	11	教材利用の授業案作成
4	教材利用の授業案作成	12	教材利用の授業案検討
5	授業案検討1	13	教材利用の授業案検討(リハーサル)
6	授業案検討2	14	模擬授業
7	模擬授業	15	ふり返り
8	模擬授業		
評価方法	成果発表 及び レポート		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	特に定めない		
参考文献	授業時に指示		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L242	教職に関する科目
学年・期	2年・前期	講義の目的
授業科目名	国語教科教育法Ⅰ	授業のテーマ
単位数	2	「国語教科教育法Ⅳ」で具体的な授業方法を学ぶ前に、基礎を復習し、どこにポイントを置か身をもって経験しておく。またそのポイントを説明できるようにする。
授業形態	実習	授業の概要
必修・選択	コース必修	高校で授業を行うにあたって欠かすことのできない古典文法、漢文の基礎基本を徹底的に復習する。また、ポイントに関する説明の仕方を学ぶ。
前提とする科目		科目のキーワード ①古典文法・用言 ②古典文法・助動詞 ③古典文法・接続 ④古典文法・敬語 ⑤古典文法・識別 ⑥漢文・基本ルール ⑦漢文・書き下し ⑧漢文・近体詩のルール
展開科目	国語教科教育法Ⅳ	到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	S. 古典文法の識別ができ、識別法の説明ができる。 A. 接続を含めた助動詞が理解でき、助動詞の意味を踏まえた訳が示せる。漢文の解釈を示せる。 B. 敬語が理解でき、その説明ができる。漢文を書き下せる。 C. 用言が理解でき、その説明ができる。
担当教員名	鈴木研吾	

### 授業計画

回	主題	回	主題
1	1. 言葉の単位、単語の分類 2. 用言①動詞(正格活用)	9	1. 識別⑤けれ、たり、なる、らむ 2. 識別⑥ばや、な、と、たまふ
2	1. 用言②動詞(変格活用) 2. 用言③形容詞・形容動詞	10	1. 識別⑦総復習 2. 敬語①敬語とは
3	1. 助動詞①けり、ず、つ、ぬ 2. 助動詞②き、む、むず	11	1. 敬語②尊敬・謙譲・丁寧 2. 敬語③問われ方、答え方
4	1. 助動詞③たり(存続)、り、たり(断定)、なり(断定) 2. 助動詞④なり(伝推)、す、さす、しむ	12	1. 漢文①漢文基礎1 2. 漢文②漢文基礎2
5	1. 助動詞⑤べし、まし、る、らる 2. 助動詞⑥じ、らむ、けむ、まし	13	1. 漢文③書き下し1 2. 漢文④書き下し2
6	1. 助動詞⑦まほし、たし、らし、めり 2. 助動詞⑧ごとし、やうなり他	14	1. 漢文⑤解釈1 2. 漢文⑥解釈2
7	1. 識別①る、れ、ぬ、ね 2. 識別②なり、なる、に	15	1. 漢詩①近体詩のルール 2. 漢詩②書き下し、解釈
8	1. 識別③なむ、せ 2. 識別④し、しか		

評価方法 古典文法及び漢文のテストを行う。

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	岩淵匡／坂梨隆三／林史典 監修 『基礎から解釈へ新しい古典文法四訂新版』霧原書店、525円(税5%込)540円(税8%込)
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)		
カリキュラムの中での位置づけ			
科目コード	L243		
教職に関する科目			
講義の目的			
学年・期	2年・前期		
授業のテーマ			
授業科目名	社会科・地歴科教育法 I		
中学社会科の授業をつくる力量の育成			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	実習		
中等社会科教育の領域と課題、中学社会科(地理・歴史的分野)授業例の検討、教材研究、使用例、多様な学習方法の考察、学習指導案の作成について考察。模擬授業の実施・分析を行う。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
前提とする科目			
①読書力 ②教材研究力 ③授業構成力 ④展開力 ⑤分析・総括力			
到達目標			
展開科目	社会科・地歴科教育法 II		
履修・実習には熱心な姿勢で臨み、確かな教材研究により、精度の高い模擬授業の展開を図る。			
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)		
担当教員名	堀崎嘉明		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	教育と教師の仕事	9	学習指導案を作る
2	近代日本の中等地理・歴史教育	10	歴史の学び方
3	戦後日本の中等社会・地理教育	11	授業例の紹介・分析 I
4	現行学習指導要領にみる社会科・地歴科の内容	12	授業例の紹介・分析 II
5	地図が描く世界	13	地域史の教材化
6	地形図を読む	14	教材研究の紹介 I
7	授業例の紹介・分析 I	15	模擬授業(その1)分析・討議
8	授業例の紹介・分析 II		
評価方法	成績評価は期末テスト(レポートを含む)のみ		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	使用せず、資料プリントで行う。		
参考文献	斎藤孝『教育力』(岩波新書)貸与・購入の必要なし、中学校社会科教科書(地理・歴史的分野)		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L244	教職に関する科目
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	国語教科教育法Ⅱ	授業のテーマ
単位数	2	改訂学習指導要領国語科の目標、内容を理解し、全国学力調査問題の分析を通し、今求められる国語の力を明らかにする。教材研究を通し、国語科教師としての力を養う。
授業形態	実習	授業の概要
必修・選択	コース必修	中学校学習指導要領が示す国語科の目標、内容、言語活動例などを解説する。教材研究の実習をしながら、学習指導案の概要を学び、授業を構想する。
前提とする科目		科目のキーワード
展開科目	国語教科教育法Ⅲ	①学習指導要領 ②指導事項 ③言語活動の諸能力 ④教材分析 ⑤学習指導案
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)	到達目標
担当教員名	石原比朗志	学習指導要領に示す国語科の目標、内容を理解し、教材にあてはめて指導事項を明確にし、学習指導案を考えることができる。

授業計画

回	主題	回	主題
1	私の国語科教室	9	学習指導要領(国語の特質)
2	中学校国語科の目標(学習指導要領)	10	文学的文章の教材分析と指導過程
3	求められる学力(全国学力調査問題)	11	説明的文章の教材分析と指導過程
4	中学校国語科各学年の目標	12	詩・作文の指導と課題
5	学習指導要領(話すこと・聞くこと)	13	古典教材の配列と指導法
6	学習指導要領(書くこと)	14	学習指導案の基本様式
7	学習指導要領(読むこと)	15	学習指導案の構想、目標、展開
8	学習指導要領(伝統的な言語文化)		

評価方法	期末テスト
------	-------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	文部省「中学校学習指導要領解説 国語編」 東洋館出版社(144円)
参考文献	授業中に適宜指示
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース (教職に関する科目)		
カリキュラムの中での位置づけ	教職に関する科目		
科目コード	L245		
講義の目的			
学年・期	2年・後期		
授業のテーマ			
授業科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ		
高校地歴科の授業をつくる力を育成する。			
単位数	2		
授業の概要			
授業形態	実習		
高校地歴科の授業例の検討、多様な教育法、教材研究、学習指導案の作成方法を会得し、模擬授業の実施・分析、評価法についても考察する。			
必修・選択	コース必修		
科目のキーワード			
①読書力 ②教材研究力 ③授業構成力 ④授業展開力 ⑤分析・総括力 ⑥評価力			
前提とする科目	社会科・地歴科教育法Ⅰ		
到達目標			
展開科目	教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「地歴」)		
履修には熱心な態度で臨み、確かな教材研究で精度の高い模擬授業ができること。			
担当教員名	堀崎嘉明		
授業計画			
回	主題	回	主題
1	教材研究例の紹介1	9	「歴史の授業」をつくる その1
2	授業例の紹介1	10	「歴史の授業」をつくる その2
3	授業例の紹介2	11	日本史の授業例3
4	地理授業例の紹介1	12	模擬授業Ⅱ その1
5	地理授業例の紹介2	13	模擬授業Ⅱ その2
6	世界史の授業例1	14	模擬授業Ⅱ その3
7	日本史の授業例1	15	社会科・地歴科の学力と評価法
8	日本史の授業例2		
評価方法	成績評価は、期末テスト(レポートを含む)のみ		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	使用せず、資料プリントを配布して行う。		
参考文献	高校で使用した日本史・世界史・地理の教科書があるとよい。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L246	教職に関する科目
学年・期	2年・後期	講義の目的
授業科目名	教師と倫理	授業のテーマ 現在、学校の教師に関しては、「暴力」・「ハラスメント」など、「不祥事」が絶えることはない。その主因の一つは、我が国の教師の人的力量の低下であろう。そこで、本講では、一人の人間として、また、教師として、最低必要な倫理とは何かを考察し、それを身に付けることを目的とする。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	授業では、色々な先哲の遺文を通して、人間の生き方を考えながら、一人の人間として、また、教師として、如何にあるべきか、如何にありたいか、ということを考えさせたい。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	教職概論・教育原論	①教師 ②倫理 ③生き方 ④先哲 ⑤人間 ⑥人生 ⑦善と悪 ⑧学問 ⑨学校
展開科目	教育制度論	到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)	学生が現在の生き方を振り返り、教師となるには、人間として何が不足しているかを自覚し、主体的、能動的にそれぞれの目標に向け歩み始める様にする。
担当教員名	川口雅昭	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション、授業の進め方について、史料配布(『南洲遺訓』)	9	吉田松陰③
2	『南洲遺訓』①	10	森信三①
3	『南洲遺訓』②	11	森信三②
4	『南洲遺訓』③	12	森信三③
5	『南洲遺訓』④	13	孔子
6	プロの条件	14	孟子
7	吉田松陰①	15	まとめ
8	吉田松陰②		
評価方法	試験(100%)により行う。授業毎の課題提出を含む		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし(史料は毎回川口が準備、配布する)		
参考文献	適時紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)		
科目コード	L341		
学年・期	3年・前期		
授業科目名	教育制度論		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	教師と倫理		
展開科目	生徒指導・進路指導		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」、中「社会」、高「地歴・公民」)		
担当教員名	川口雅昭		
カリキュラムの中での位置づけ			
教職に関する科目			
講義の目的			
授業のテーマ 古代より我が国の教育は、行政の一分野と位置づけられ、教育制度の形態、学校の設置、運営、教育内容の決定などを主体的に行い、教育水準の維持、発展を目指してきた。本講では、我が国の学校制度の歴史的変遷、現在の法制度の基本などについて取り上げ、それぞれの時代における教育制度の精神的、社会的、制度的、経営的な特徴などを論じる。			
授業の概要			
我が国では、古代より人づくりが始まり、大陸の文化を主体的に取捨選択しながら、制度が整備されてきたことを理解させる。そして、明治以降は欧米、第二次大戦後は米国の教育制度を導入し、現在の教育制度があることを理解させる。			
科目のキーワード			
①教育制度 ②大陸文化と日本化 ③欧米の教育制度と日本化 ④米国の教育制度 ⑤通史 ⑥人づくり			
到達目標			
我が国の教育制度の発達を理解し、現行の制度について、自分の意見がもてるようにする。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	古代国家の成立とその教育制度	9	西洋教育方法の導入と小学校教師の誕生
2	大陸の教育・文化の国風化	10	教育理念の模索と臣民像
3	ヨーロッパ文化・宋明文化の摂取	11	教育改革運動の展開
4	徳川幕府・諸藩の教育政策と学校	12	植民地教育の展開
5	大衆文化の発達と教育の普及	13	戦時体制下の教育
6	幕末維新时期における教育近代化の胎動	14	戦後教育改革の進展
7	近代教育法制の成立と展開	15	国際状況の変化と我が国の教育
8	外国人教師の雇用と高等・中等教育の成立		
評価方法	試験(100%)により行う。試験には期末試験、小テスト、課題提出などを含む。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし。史料は適時配布。		
参考文献	適時紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L342	教職に関する科目
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	特別活動指導法	授業のテーマ 教育の目標は人間の成長保障と学力形成保障の両面があり、学校の教育活動は、各教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間等によって構成されている。しかし、現実に行われている教育活動は、学力形成保障に重点がおかれている。特別活動は生徒の心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人格を形成する重要な諸活動であることを再確認する。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	人間の人格形成と学力形成は表裏一体である。日本の教育の歴史を理解することから教育は人格の形成を図る諸活動が実践されていることを再認識する。また、人格形成を阻害している諸問題があることを理解する。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目		①人格の形成 ②個性の伸長 ③憲法26条・教育基本法第1条 ④生きる力 ⑤人間関係の構築 ⑥日本の教育の歩み ⑦適応教育 ⑧教科外教育 ⑨コミュニケーション能力 ⑩教員の資質
展開科目		到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)	特別活動は心身の調和の取れた発達と個性の伸長を図り、人格形成をする重要な諸活動であることを理解する。人間の個性や社会性は学級会やクラブ・部活動の諸活動を通して形成される。そのために特別活動の意義や諸活動の内容を自分の現在までの経験を想起して再確認する。さらに、豊かな人間性を培うためには教科外教育や適応学級についての正しい認識を見に付ける。
担当教員名	大宮 貢	

授業計画															
回	主題	回	主題												
1	教育の目的 特別活動の学習内容の概観	9	学級活動の指導計画 指導上の留意点												
2	近代学校教育の意義と課題	10	生徒会活動 部活動												
3	戦後の教育と特別活動	11	学校行事の意義 指導計画と内容												
4	人格形成のための学力形成 特別活動と教科指導の関わり	12	総合的な学習の時間												
5	人間を育てる学校 生きる力	13	適応学級(特別支援教育) いじめ 不登校 生徒指導の現状												
6	学力か個性重視の教育か	14	教科外教育 人権教育 同和問題 外国人差別 ハンセン病												
7	特別活動の趣旨と目標	15	特別活動の評価法と教師の資質												
8	学級活動の目標と内容														
評価方法	試験は履修指標のすべての分野から8問～10問出題する。解答はすべて原稿用紙に記述する。1問50点で以下の基準で採点し、絶対評価をする。それを100点に換算する。内容40点(正確な内容であるか 30点 論旨は一貫しているか 10点) 形式10点(文法は正しいか 書式を遵守しているか 誤字、脱字はないか)														
評価基準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価基準</th> <th>評語</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>学習目標をほぼ完全に達成している……………</td> <td>S</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成している……………</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限は満たしている……………</td> <td>C</td> </tr> <tr> <td>学習目標の最低限を満たしていない……………</td> <td>D</td> </tr> </tbody> </table>			評価基準	評語	学習目標をほぼ完全に達成している……………	S	学習目標を相応に達成している……………	A	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B	学習目標の最低限は満たしている……………	C	学習目標の最低限を満たしていない……………	D
評価基準	評語														
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S														
学習目標を相応に達成している……………	A														
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B														
学習目標の最低限は満たしている……………	C														
学習目標の最低限を満たしていない……………	D														
教科書	中学校学習指導要領解説 特別活動編 文部科学省 ぎょうせい														
参考文献	現代語訳 学問のすすめ 福沢 諭吉 著 斉藤 孝 訳 ちくま新書 図説 江戸の学び 市川 寛明・石山 秀和 著 河出書房新社 教育の歴史 横須賀 薫 他2名 著 河出書房新社 教育の職業的意義 本田 由紀 著 ちくま書房														
実験・実習・教材費	なし														

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)		
科目コード	L343		
学年・期	3年・前期		
授業科目名	道徳教育の研究		
単位数	2		
授業形態	講義		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目			
展開科目			
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)		
担当教員名	濱島秀樹		
カリキュラムの中での位置づけ			
教職に関する科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
道徳に関する種々の講義内容と演習を基本に、自ら考え、自分の道徳観を見つめなおし、生徒のおかれた発達段階や社会状況に即して、中学校において道徳教育を行うことのできる基礎的な知識や態度、実践力を身につける。			
授業の概要			
道徳に関する学習指導要領を理解したのちに、授業実践例などを分析する。指導案作成と模擬授業を通して、道徳教育に関して、出席者全員で考えを深めていく。参加者全員が指導案を書き、模擬授業を行う。また、道徳に関する時事的な社会問題、特に、いじめ問題について取り上げ、解説する。そのほか、道徳性の発達などを整理する。			
科目のキーワード			
①道徳教育 ②いじめ問題とその予防 ③道徳指導案 ④道徳模擬授業 ⑤道徳性の発達 ⑥道徳教育とディベート			
到達目標			
①日本の学校教育における道徳教育を学習指導要領により整理し、理解できる。 ②「いじめ」問題とその予防について道徳的観点から考察できる。 ③授業実践を分析し、道徳教育のあり方を検討できる。 ④自分が実践する道徳の授業に関する指導案を書くことができるようになる。 ⑤指導案に従い、模擬授業を行うことができるようになる。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	オリエンテーション 道徳の授業を振り返る	9	道徳教育:授業指導案の分析
2	種々の道徳的課題ーいじめ問題を中心にしてー	10	道徳の授業指導案:テーマ選びと指導内容を考える
3	学習指導要領:道徳教育の歴史と目標	11	道徳の授業指導案:指導案作成
4	学習指導要領:道徳の指導内容	12	「道徳」模擬授業①
5	学習指導要領:道徳の指導計画	13	「道徳」模擬授業②
6	道徳性の発達に関する諸理論	14	「道徳」模擬授業③
7	道徳教育とディベートーモラルジレンマ課題ー	15	模擬授業の振り返りと道徳教育に関するまとめ
8	道徳教育:授業実践例の分析		
評価方法	指導案作成および模擬授業、学習指導要領の配布プリントへの書き込み、授業総括レポートで総合的に評価を行う。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』日本文教出版(139円 税込)		
参考文献			
実験・実習・教材費			

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L344	教職に関する科目
学年・期	3年・前期	講義の目的
授業科目名	国語教科教育法Ⅲ	授業のテーマ
単位数	2	文学的文章・説明的文章の教材研究を通して、学習指導案づくりができる力を養う。基礎的な国語科指導法を学び、教育実習時に生かせるようにする。
授業形態	実習	授業の概要
必修・選択	コース必修	物語、論説、小説等文種ごとに教材研究と学習指導案づくりを並行して実習する。基礎的な指導法、技術の説明と実習を行う。
前提とする科目	国語教科教育法Ⅱ	科目のキーワード
展開科目	教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ	①教材配列、系統性 ②教材研究 ③学習指導案 ④指導技術 ⑤国語科教師
関連資格	教員免許状(中「国語」)	到達目標
担当教員名	石原比朗志	教材研究を的確に行い、教材に応じた目標が設定でき、手だてを考えた学習指導案を作成することができる。

授業計画			
回	主題	回	主題
1	国語科授業はじめ	9	1時間の展開作成
2	中学校国語科教科書の教材配列・系統性	10	指導案検討会
3	学習指導案(構想、目標)	11	指導の技術(発問と予想される反応)
4	物語の教材研究(中1)	12	指導の技術(板書の仕方・板書計画)
5	学習指導案(指導計画・本時の目標)	13	伝統的な言語文化の指導
6	論説の教材研究(中2)	14	国語の特質に関する事項の指導(書写)
7	学習指導案(本時の学習・展開)	15	国語科教師論
8	小説の教材研究(中3)		
評価方法		レポート100%	
評価基準		評語	
学習目標をほぼ完全に達成している……………		S	
学習目標を相応に達成している……………		A	
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………		B	
学習目標の最低限は満たしている……………		C	
学習目標の最低限を満たしていない……………		D	
教科書	特になし 資料プリント配布		
参考文献	中学校国語教科書「国語1, 2, 3」(光村図書)の教材文を主に扱う		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)		
カリキュラムの中での位置づけ	教職に関する科目		
科目コード	L345		
講義の目的			
学年・期	3年・前期		
授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅰ		
授業のテーマ	社会科・公民科は児童生徒の社会認識形成と社会形成力を育成することにより、公民としての資質・能力を育成する社会系教科である。社会科及び公民科の成立過程を現代社会の教育の動向を背景につかみ、その基本的性格及び目標と内容構成、最近の学校現場が抱える問題点等を理解する。学習指導要領の内容構成を理解し、社会科、公民科での授業構想を考え、学習指導案を作成できるようにする。		
単位数	2		
授業の概要	社会科、公民科に関する基本的な教科理論を理解しながら、実際に学校教育現場での教育実習における教科指導ができるように教科の目標、内容、方法を確認した上で学習指導案作りを行う。前半は主に中学校社会科(地理分野・歴史分野・公民的分野)の理論を、後半は公民科(現代社会・倫理・政治経済)の理論とする。講義形式だけではなく、適宜、調べ学習・意見交流・体験学習などの作業的な学習も取り入れ、実践的な力をつけていけるようにする。		
授業形態	実習		
科目のキーワード	①公民的資質②社会認識力③社会形成力④社会的事象⑤社会的な見方・考え方⑥民主政治の本質⑦持続可能な社会⑧授業構成力⑨授業実践力⑩社会科・公民科教材		
必修・選択	コース必修		
到達目標			
前提とする科目			
展開科目	社会科・公民科教育法Ⅱ		
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)		
担当教員名	栗田千恵子		
社会科及び公民科に関する基礎的な教科理論を理解し、現行の学習指導要領の内容から、自分が実習を考えている学校の学習指導案づくりができる。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	今日の学校教育の課題	9	中学校社会科の指導法と評価
2	社会科の成立と基本的な性格	10	社会科のまとめ
3	社会科の目標としての「公民的資質」とは	11	高等学校公民科の目標と内容(その1)
4	学習指導要領の変遷(その1)	12	高等学校公民科の目標と内容(その2)
5	学習指導要領の変遷(その2)	13	高等学校公民科の指導法と評価
6	小・中・高における公民教育の関連	14	中学校社会科学習指導案づくり
7	中学校社会科の学習内容(その1)	15	公民科学習指導案づくり
8	中学校社会科の学習内容(その2)		
評価方法	期末試験(論述) 課題レポート(学習指導案)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	日本公民教育学会編『テキストブック 公民教育』第一学習社、1,728円(本体1,600円+税)		
参考文献	学習指導要領解説(小学校、中学校、高等学校)、東京書籍出版『中学校社会科指導書』、小学校・中学校社会科教科書(各出版社)、現代社会・倫理・政治・経済 各出版社の教科書		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L346	教職に関する科目
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	生徒指導・進路指導	授業のテーマ 学校教育は教科指導のみならず、生徒の人格の完成、人間形成を重視して行われなければならない。生徒の人格、人間形成のために重要な役割を果たしているのは、生徒指導・進路指導である。そこで、本講では、それらについての理解を深め、実際の学校においては、どのような指導が行われているのかを論じたい。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	専門的な用語の解説などから始め、生徒指導・進路指導の理想的なあり方を、自分で考えられるようにする。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	教育制度論	①生徒理解 ②生徒指導 ③進路指導 ④学校の指導体制 ⑤学年の指導体制 ⑥具体的事例 ⑦家庭 ⑧地域
展開科目		到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」、中「社会」、高「地歴・公民」)	生徒指導・進路指導の基本を理解し、学校現場に立った時、具体的に指導ができる基礎を身につける。
担当教員名	川口雅昭	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	生徒指導とは一校内分掌における位置づけ	9	進路指導とは一校内分掌における位置づけ
2	生徒指導とは一生徒理解	10	進路指導とは一生徒理解
3	生徒指導の領域と課題	11	進路指導の領域と課題
4	生徒指導体制の基本的構造	12	進路指導の基本的構造
5	生徒指導の場・機会	13	進路指導の場・機会
6	生徒指導の事例①	14	進路指導の事例①
7	生徒指導の事例②	15	進路指導の事例②
8	生徒指導の事例③		
評価方法	試験(100%)により行う。試験には期末試験、小テスト、課題提出などを含む。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	なし。資料は適時配布。		
参考文献	適時紹介する。		
実験・実習・教材費	なし		

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L347	教職に関する科目
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	教育相談	授業のテーマ 現在、学校現場ではいじめ・不登校・非行そして発達障害など多くの問題に直面している。また、児童生徒だけでなくその保護者や教師への援助も教育相談では必要とされている。よって、本講義では学校の様々な問題に対する理解とその対応について理論や方法論だけでなく、事例も含めて教育相談について学校臨床心理学(スクールカウンセリング)の視点から学習することを主要なテーマとする。
単位数	2	授業の概要
授業形態	講義	教育相談のあり方や特徴を学習し、学校現場が抱える問題の背後にある児童生徒の心理・発達、教師—児童生徒関係についても理解していく。また、個々の問題への対応や援助の方法を習得し、効果的な教育相談が行えることを目標とする。
必修・選択	コース必修	科目のキーワード
前提とする科目	カウンセリングの心理学	①教育相談 ②児童の心理・発達 ③スクールカウンセリング ④学校臨床心理学
展開科目		到達目標
関連資格	教員免許状(中・高「国語」、中「社会」、高「地歴・公民」)	児童生徒の心理・発達の理解および相談方法の習得、保護者への相談対応能力や連携能力の習得
担当教員名	坂本真也	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	教育相談とは	9	ケースディスカッションⅠ(発達障害)
2	教育相談の歴史的背景	10	カウンセリングの理論Ⅰ
3	児童生徒の心理・発達Ⅰ	11	カウンセリングの理論Ⅱ
4	児童生徒の心理・発達Ⅱ	12	カウンセリングの技法
5	教師—児童生徒の人間関係	13	カウンセリング実習
6	児童生徒への相談活動	14	スクールカウンセラー・教師・保護者による連携
7	ケースディスカッションⅠ(不登校・いじめ)	15	まとめ
8	保護者への相談活動		

評価方法	出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。
------	---

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	配布資料
参考文献	川島一夫・勝倉孝治 編著 『臨床心理学からみた生徒指導・教育相談』 プレーン出版 1,995円
実験・実習・教材費	なし

科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L348	教職に関する科目
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	事前指導	授業のテーマ 教育実習は、学生として学ぶ立場から教師として指導する立場へと転換する時期としてとらえることができる。この時期に教師への志望が一段と強くなり、また、人間的にも大きく成長する。この授業では、教育実習参加者が、教育実習の意義を理解し大きな成果をあげるために身につけておくべき事柄について習熟する。
単位数	1	授業の概要 「教育実地研究の手引」を用いながら、教育実習の意義、目的、教育実習の内容、教育実習上の留意事項(登下校時間、服装、ことばづかい、その他)、教育実習簿の記載方法などについて習熟する。
授業形態	講義	科目のキーワード ①教育実習 ②問題解決力 ③教育現場への参加
必修・選択	コース選択	到達目標
前提とする科目	学校体験Ⅰ・Ⅱ	将来教員となるのに必要な基礎力を身につける。
展開科目	教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ	
関連資格	教員免許状(中・高「国語」) 教員免許状(中「社会」、高「地歴・公民」)	
担当教員名	岡良和	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	教育実習の意義・心構え	9	
2	実習ノートの活用	10	
3	指導案の作成・授業方法についての確認	11	
4	まとめ	12	
5	生徒指導	13	
6	教科指導	14	
7	まとめ	15	
8			

評価方法	レポート試験による
------	-----------

評価基準	評語
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S
学習目標を相応に達成している……………	A
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B
学習目標の最低限は満たしている……………	C
学習目標の最低限を満たしていない……………	D

教科書	なし
参考文献	なし
実験・実習・教材費	なし

科目目標			
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)		
科目コード	L349		
学年・期	3年・後期		
授業科目名	国語教科教育法Ⅳ		
単位数	2		
授業形態	実習		
必修・選択	コース必修		
前提とする科目	国語教科教育法Ⅰ		
展開科目	教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ		
関連資格	教員免許状(中・高「国語」)		
担当教員名	鈴木研吾		
カリキュラムの中での位置づけ			
教職に関する科目			
講義の目的			
授業のテーマ			
「国語教科教育法Ⅰ」で具体的な授業方法を学んだが、ここで再度基礎を復習し、どこにポイントを置くか身をもって経験しておく。またそのポイントをより具体的に指摘・説明できるようにする。			
授業の概要			
高校で授業を行うにあたって欠かすことのできない古典文法、漢文の基礎基本を徹底的に復習する。また、ポイントに関する説明の仕方を学ぶ。			
科目のキーワード			
①古典文法・用言 ②古典文法・助動詞 ③古典文法・接続 ④古典文法・敬語 ⑤古典文法・識別 ⑥漢文・基本ルール ⑦漢文・書き下し ⑧漢文・近体詩のルール			
到達目標			
S. 古典文法の識別ができ、識別法の説明ができる。 A. 接続を含めた助動詞が理解でき、助動詞の意味を踏まえた訳が示せる。漢文の解釈を示せる。 B. 敬語が理解でき、その説明ができる。漢文を書き下せる。 C. 用言が理解でき、その説明ができる。			
授業計画			
回	主題	回	主題
1	1. 言葉の単位、単語の分類 2. 用言①動詞(正格活用)	9	1. 識別⑤けれ、たり、なる、らむ 2. 識別⑥ばや、な、と、たまふ
2	1. 用言②動詞(変格活用) 2. 用言③形容詞・形容動詞	10	1. 識別⑦総復習 2. 敬語①敬語とは
3	1. 助動詞①けり、ず、つ、ぬ 2. 助動詞②き、む、むず	11	1. 敬語②尊敬・謙譲・丁寧 2. 敬語③問われ方、答え方
4	1. 助動詞③たり(存続)、り、たり(断定)、なり(断定) 2. 助動詞④なり(伝推)、ず、さず、しむ	12	1. 漢文①漢文基礎1 2. 漢文②漢文基礎2
5	1. 助動詞⑤べし、まじ、る、らる 2. 助動詞⑥じ、らむ、けむ、まし	13	1. 漢文③書き下し1 2. 漢文④書き下し2
6	1. 助動詞⑦まほし、たし、らし、めり 2. 助動詞⑧ごとし、やうなり他	14	1. 漢文⑤解釈1 2. 漢文⑥解釈2
7	1. 識別①る、れ、ぬ、ね 2. 識別②なり、なる、に	15	1. 漢詩①近体詩のルール 2. 漢詩②書き下し、解釈
8	1. 識別③なむ、せ 2. 識別④し、しか		
評価方法	古典文法及び漢文のテストを行う。		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	岩淵匡／坂梨隆三／林史典 監修 『基礎から解釈へ新しい古典文法四訂新版』霧原書店、525円(税5%込)540円(税8%込)		
参考文献	なし		
実験・実習・教材費	なし		



科目目標		
学科	歴史・文化環境専攻 日本研究コース(教職に関する科目)	カリキュラムの中での位置づけ
科目コード	L350	教職に関する科目
学年・期	3年・後期	講義の目的
授業科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	授業のテーマ 社会科・公民科は児童生徒の社会認識形成と社会形成力を育成することにより、公民としての資質・能力を育成する社会系教科である。社会科・公民科教育法Ⅰにおいて履修した内容を生かし、現場における実習で役に立つ授業力育成をめざす。詳細な学習指導案を作成して模擬授業による自己省察、グループディスカッションを行い、より専門的な実践力育成を図る。
単位数	2	授業の概要 授業づくりに必要な「教材開発の意義とその方法」「地域素材の教材化」「教科書の分析と活用」「学習指導の工夫」「学習過程の組織化」「学習形態と学習活動」「板書計画と発問」など、より専門的な内容を扱う。演習を多く取り入れ、社会科、公民科の授業実践力育成を図る。
授業形態	実習	科目のキーワード ①社会的な見方・考え方を養う②社会的事象の比較・関連づけ③言語活動の充実を図る授業 ④適切な学習課題 ⑤作業的・体験的な学習活動 ⑥地域の課題解決 ⑦持続可能な社会 ⑧教育機器・資料の使用 ⑨観点ごとの評価活動 ⑩授業評価
必修・選択	コース必修	到達目標
前提とする科目	社会科・公民科教育法Ⅰ	
展開科目	教育実習Ⅰ・教育実習Ⅱ	
関連資格	教員免許状(中「社会」、高「公民」)	中学校社会科、高等学校公民科の詳細な学習指導案を作成し、模擬授業を行ったりグループディスカッションをしたりして、現場で通用する授業実践力をつける。
担当教員名	栗田千恵子	

授業計画			
回	主題	回	主題
1	めざす社会科・公民科の教師像	9	中学校社会科公民的分野の学習指導計画と学習指導案作成(その1)
2	先行授業実践例から学ぶ(その1)	10	中学校社会科公民的分野の学習指導計画と学習指導案作成(その2)
3	先行授業実践例から学ぶ(その2)	11	中学校社会科公民的分野の模擬授業 授業についての自己省察、グループディスカッション
4	先行授業実践例から学ぶ(その3)	12	高等学校公民科の学習指導計画と学習指導案作成(その1)
5	教材開発の意義とその方法	13	高等学校公民科の学習指導計画と学習指導案作成(その2)
6	教科書の分析と活用	14	高等学校公民科の模擬授業 授業についての自己省察、グループディスカッション
7	社会科研究発表校の授業から学ぶ 10月30日(木)と振り替え	15	学習評価の工夫と実際
8	学習指導の工夫		
評価方法	期末試験(論述) 課題レポート(内容は未定)		
評価基準	評語		
学習目標をほぼ完全に達成している……………	S		
学習目標を相応に達成している……………	A		
学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある……………	B		
学習目標の最低限は満たしている……………	C		
学習目標の最低限を満たしていない……………	D		
教科書	日本公民教育学会編『テキストブック 公民教育』第一学習社 1,728円(本体1,600円+税)		
参考文献	学習指導要領(小学校、中学校、高等学校)、中学校社会科教科書・指導書(各出版社)、現代社会、倫理、政治・経済教科書・指導書(各出版社)		
実験・実習・教材費	なし		

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00101	人間環境学	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学問の意義 人間環境学 総合的教養 主専攻・副専攻	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

人間環境学は人間環境大学の根本理念である。この理念について十分に理解することは、全体知を目指し、又、環境の各々の専門を修めるといふ大学設立以来の教育の目的を達成するために不可欠である。

**授業の概要：**

人間環境学の理念と人間環境大学とについて、その歴史と設立の意義を理解することとともに、人間環境学の学問、研究、教育における歴史的な意義を理解する。そのために、現在、広く学問がどのようなシステムになっているのか、そしてその課題がどのようなものか理解し、さらに、現在人類社会が直面しているさまざまな課題と学問の役割について考察する。

**授業の計画：**

1. 人間環境大学の設立
2. 人間環境大学の概要
3. 人間環境大学の学問理念「人間環境学」
4. 学問とは何か
5. 諸文化における学問
6. ヨーロッパにおける学問の理念と哲学
7. ヨーロッパにおける学問の歴史（1）
8. ヨーロッパにおける学問の歴史（2）
9. 近現代における学問の変容
10. わが国における大学の歴史
11. 世界的な大学および学問の変化
12. 環境問題と人間環境学
13. こころの問題と人間環境学
14. 歴史・文化と人間環境学
15. 人間環境学の意義

**授業方法：**

講義における解説を主として、適宜レポートを課する。

**達成目標：**

人間環境大学の設立理念を理解し、大学での学修の意義、学問の意義を理解する。

**評価方法：**

論述試験

- S. 人間環境学について理解し、本学で学ぶことの意義を把握している。  
A. 人間環境学について理解し、本学で学ぶことの意義を考えることが出来た。  
B. 人間環境学について理解することが出来た。  
C. 人間環境学について一部理解した。  
D. 理解しなかった。

**教科書：**

なし

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00201	哲学A	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学問のルーツ 批判的思考 論理的思考	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

古代ギリシアに起源する哲学の歴史を近世までたどる。その中で、哲学という学問、つまり、あらゆる学問の起源としてのこの知的営為の意味を解明していく。その際、常に哲学の問いの根本にある「存在」の問題を「理性」との関係から論じていく。このようにして、西洋哲学の本質を把握することを目的とする。

#### 授業の概要：

まず哲学という学問の理解から始める。哲学は他の学問とは根本的に異なる側面を持っている。その一つは、その歴史が常に問題とされるということである。したがって、授業では哲学という学問の理解のために哲学の誕生とその歴史をたどることとなる。哲学 A においては、近代に至るその歴史を、代表的な哲学者達の「存在」、「理性」の主張に辿り、ヨーロッパ哲学の本質を論じる。

#### 授業の計画：

1. 哲学の語義、意味
2. 古代ギリシアにおける哲学の発祥
3. ミレトス派の哲学、万物と「アルケー」
4. 哲学の岐路、パルメニデスとヘラクレイトス、存在と生成
5. 多元論と原子論、万物と自然
6. 人間の問い、ソクラテス
7. 存在と本質、プラトンとイデア論
8. アリストテレスから古代後期への哲学
9. ヘレニズムとヘブライズム、キリスト教と中世哲学
10. ルネサンスと科学、機会論的自然解釈
11. 理性と存在、デカルトにおける真理
12. 合理論と経験論、哲学の二つの流れ
13. 近代哲学とは
14. デカルトまでの歴史の概観
15. まとめ

#### 授業方法：

歴史上の諸説について解説し、さらに現代の立場から批判する。また、その歴史的な影響関係から歴史的意義を確認していく。

#### 達成目標：

学問のルーツとしての哲学の歴史と本質を理解する。論理的思考を身につける。

#### 評価方法：

論述試験

- S. 哲学の歴史の意義について適切に論じることができる。
- A. 哲学の歴史の意義について論じることができる。
- B. 哲学の歴史について論じることができる。
- C. 哲学について論じることができる。
- D. 哲学について論じることができない。

#### 教科書：

#### 参考文献：

岩崎武雄『西洋哲学史』有斐閣

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00301	哲学B	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学問 論理的思考 価値判断 批判的思考	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

**授業のテーマ：**

「私」とは、人間とは、生と死とは何か。我々はまだ明確な答えを持っていない。その解明のためには「存在」について考えていくことが必要である。そのため、現代の社会や文化にいまなお大きな影響を残している近代哲学を歴史的に辿り、その本質を批判し、今日我々が直面する諸問題を解き明かしていく。

**授業の概要：**

ヨーロッパ文明の隆盛を導いた哲学は、しかし、近代に至って本質的な矛盾、困難につきあたる。さらに近代哲学批判の後、現代の哲学と学問とは危機に直面した。今日の哲学の動向も含め、以上の歴史を辿る。その中で「私」、「生・死」などについて考えていく。

**授業の計画：**

1. 「存在」を問う問いの意味
2. 古代から近世に至る哲学史の概観
3. カント、経験論と合理論、批判哲学
4. ヘーゲル、理性、歴史、存在、近代哲学の到達点
5. 近代哲学の限界と実存主義
6. ニーチェ、「存在」「理性」への徹底的批判
7. ニーチェ、ニヒリズムとその克服の道、未来の哲学
8. ハイデggerから現代へ
9. 今日の哲学的状況
10. 現代の諸問題1、「私」とはなにか、死の問いの不在
11. 現代の諸問題2、環境問題の哲学的意味、
12. 哲学の可能性（1）
13. 哲学の可能性（2）
14. 現代までの歴史の概観
15. まとめ

**授業方法：**

近代以来の哲学について解説し、さらに現代の立場から批判する。また、今日我々が直面する問題を哲学の立場から考えていく。

**達成目標：**

現代の哲学を理解し、我々を取りまく諸問題を批判的に考える力を身につける。

**評価方法：**

論述試験

- S. 哲学的に現代の問題の本質を適切に論じることができる。
- A. 哲学的に現代の問題の本質を論じることができる。
- B. 哲学的に現代の問題を論じることができる。
- C. 哲学について論じることができる。
- D. 哲学について論じることができない。

**教科書：**

**参考文献：**

岩崎武雄『西洋哲学史』有斐閣

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06801	論理学	4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
論理記号 推論規則 命題論理 真理値 トートロジー	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

アリストテレス以来ほとんど進展が無かった論理学は、20世紀にはいってから急速な進歩を成し遂げた。それが記号論理学である。本講義では、記号論理学中でも命題論理に的を絞って解説する。なお、述語論理については、論理記号と推論規則のみ解説する。

#### 授業の概要：

記号論理学の基礎を理解する。特に、日常的な論理を良く反映しているとされるゲンツェンの「自然な論理計算」を習得する。

#### 授業の計画：

1. 論理学は何をするのか
2. 自然言語から人工言語へ
3. 論理記号による命題の表現法
4. 論理記号の用例
5. 変数を含む命題
6. 推論規則 ( $\rightarrow$ )
7. 推論規則 ( $\wedge$ ,  $\vee$ )
8. 推論規則 ( $\neg$ )
9. 推論規則 ( $\forall$ ,  $\exists$ )
10. 矛盾について
11. 排中律について
12. 真理値の基本的性質
13. 論理式の真理値分析
14. トートロジー
15. まとめ

#### 授業方法：

講義による。なお、毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

#### 達成目標：

論理記号を正しく理解し、推論規則を用いて論理的な推論ができるようになる。また、真理値分析を行うことができ、トートロジーとは何かを理解する。

#### 評価方法：

定期試験の結果によって判定する。

#### 教科書：

前原昭二『記号論理入門』（日本評論社、2,310円）。

#### 参考文献：

戸田山和久『論理学をつくる』名古屋大学出版会（2,000円）。  
必ずしも購入する必要は無い。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00601	倫理学A	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
倫理的思考 ニヒリズム 人格の陶冶 ニーチェ 東洋思想	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思 決定力） グローバルな視野

**授業のテーマ：**

今日、人間の生の意味は失われ、倫理、良心、人格、善悪を究明する倫理学は、どうすれば倫理的、政治的な責任を負わずに済むかを論ずる狡猾な学問に墮している。このような倫理の失われた今日において、我々はいかにして人間の生き方の理想、特別の意味、尊厳を取り戻し得るのだろうか。本講では、倫理学と倫理の現代における可能性に絞って考察を進める。

**授業の概要：**

最初に、今日の倫理学の現状の概説を行う。ここで今日の倫理と倫理学、そして人間とその生きる生の問題を把握したうえで、諸学との関連を考慮しつつ、倫理学の可能性の議論を、人格、自己犠牲、生の意味といった問題に即しつつ論じていく。

**授業の計画：**

1. 倫理学とは
2. 倫理の現在
3. 倫理学の困難について
4. ニーチェによる近代思想批判と倫理
5. ニーチェにおける生の価値の主張
6. ニヒリズムと現代
7. 現在にいたる倫理学の潮流とその本質的な問題
8. 現代にいたる倫理学の潮流とその本質的な問題
9. 現代までの倫理学の困難について（まとめ）
10. 人格の現代倫理学における意味
11. 人格と倫理学の可能性
12. 人格の変容の階梯に関する諸文化の思想
13. 人格に関する諸科学の観点からの考察
14. 人格の倫理の改め得る可能性
15. まとめ

**授業方法：**

講義。適宜小テストや課題を与える。

**達成目標：**

倫理について思考し得る為の基本的な知識と能力を獲得し、人格の倫理学における意義を理解する

**評価方法：**

試験において、下記の基準で判定する。

- S 倫理思想の歴史とその問題を把握し、新しい倫理学の可能性について論じることができる
- A 倫理思想の歴史とその問題を把握し、新しい倫理学の可能性について理解している
- B 倫理思想の歴史とその問題を把握している
- C 倫理思想の歴史を把握している
- D 倫理思想の歴史とその問題を把握できない

**教科書：**

なし

**参考文献：**

適宜指示する

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00701	倫理学B	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ニーチェ 生の意味／価値 批判的思考 他者	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

西洋倫理思想の特殊性の自覚によって、今日の倫理学は大きな転換に直面している。西洋中心主義、人間中心主義等の限界の自覚を理解することとともに、同時に生じた倫理の喪失、欠如、生の意味喪失を超え、処分かの倫理を評価しつつ新しい倫理の可能性を探る。

#### 授業の概要：

古代から現代にかけての倫理思想の大きな転換（ニーチェ等）を辿り、さらに、今日我々が直面する倫理の文化的相対性の問題を考察する。また「倫理学」自体の本質的な問題も反省し、検証しながら、東洋等の諸文化の倫理思想の意義を評価し未来の倫理について考えていく。

#### 授業の計画：

- 1回 倫理学とは
- 2回 西洋倫理思想の歴史（古代から中世）
- 3回 西洋倫理思想の歴史（近代—デカルト、カント）
- 4回 西洋倫理思想の歴史（近代—ベンサム、ヘーゲル等）
- 5回 ニーチェによる西洋倫理思想の批判（ニヒリズム）
- 6回 ニーチェによる西洋倫理思想の批判（道徳の系譜）
- 7回 ニーチェによる西洋倫理思想の批判（生の価値）
- 8回 ニーチェによる西洋倫理思想の批判（権力への意志）
- 9回 現代の倫理学的状況（概要）
- 10回 現代の倫理学的状況（問題と限界）
- 11回 諸文化における倫理（儒教思想）
- 12回 諸文化における倫理（儒教思想と和辻哲郎）
- 13回 諸文化における倫理（仏教思想）
- 14回 人間の死の意味について
- 15回 まとめ

#### 授業方法：

講義を行い適宜レポート等を課す。

#### 達成目標

倫理思想の転換と諸文化の倫理の意義を理解する。

#### 評価方法：

試験において、下記の基準で判定する。

- S 倫理思想の歴史とその問題を把握し、新しい倫理学の可能性について論じることができる
- A 倫理思想の歴史とその問題を把握し、新しい倫理学の可能性について理解している
- B 倫理思想の歴史とその問題を把握している
- C 倫理思想の歴史を把握している
- D 倫理思想の歴史とその問題を把握できない

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

適宜配布

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00801	宗教学A	4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考:
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教 歴史 一神教の世界	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ:

宗教の歴史は人類の歴史であるとも言えるほど、人が集まるところには宗教が存在する。それだけに一口に宗教といってもその対象は広大である。この広大な世界を理性の立場から学問的に考察することが宗教学の課題である。本講義は、その基礎となる宗教史（一神教の世界）を概観する。

#### 授業の概要:

現代世界における宗教と宗教研究について考察した後、唯一神教（ユダヤ教・キリスト教・イスラム教）の世界のそれぞれの発端に関して概観する。

#### 授業の計画:

- 第1回 第1章 現代世界における宗教と宗教研究  
1. 世界の宗教人口、2. 現代世界における宗教問題、3. 宗教の概念、4. 宗教研究
- 第2回 第2章 唯一神教の世界  
1. 舞台としての中近東と三宗教に共通な特徴  
A. 自然・社会・歴史環境（メソポタミア、シリア・パレスチナ、エジプト、アラビア）  
B. 基本的相互関係  
C. 唯一神教、啓示宗教、預言者  
D. 啓典の基本的構成概観（聖書、タルムード、クルアーンなど）
- 第3回 2. 聖書以前
- 第4回 3. ユダヤ教  
A. 旧約聖書の重要な思想：創造  
B. 旧約聖書の重要な思想：律法  
第5回 C. 旧約聖書の重要な思想：預言者  
第6回 D. 旧約聖書の重要な思想：知恵  
第7回 E. 旧約聖書の重要な思想：黙示思想  
第8回 F. 旧約から新約へ  
第9回
- 第10回 4. キリスト教  
A. 原始キリスト教  
B. 初期キリスト教の発展と課題（新約聖書正典の成立、基本的教義の確立）  
第11回 C. キリスト教諸派の系譜 [概観]  
第12回
- 第13回 5. イスラム教  
A. ムハammadの生涯とイスラム的信仰運動の概観  
第14回 B. ムハammad以後の展開  
第15回 C. イスラム教諸派の概観

#### 授業方法:

主として講義形式。ビデオを用いることもある。A4版100頁程度の授業専用テキストを用意する。テキストを読みながら、必要な説明を加える。毎回、前回の授業の理解度や学習状況に関するアンケートを実施し、それに基づいて個別的ならびに全体的な勉学の指示を行うことがある。この指示に従って学習することにより、最終試験において的確に解答できるように指導する。

#### 達成目標:

本講義は宗教史の観点から宗教の抱える諸問題と歴史的影響等についての基本的知識を得ることを目標とする。

#### 評価方法:

持ち込み無しの筆記試験。

#### 教科書:

授業用専用テキスト（配布）

#### 参考文献:

担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先ito@uhe.ac.jp

#### 実験・実習・教材費:

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A00901	宗教学B	4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教 歴史 非一神教の宗教	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

宗教の歴史は人類の歴史であるとも言える程、人の集まるところには宗教が存在する。それだけに一口に宗教といってもその対象は広大である。この広大な世界を理性の立場から学問的に考察することが宗教学の課題である。本講義は、その基礎となる宗教史（非一神教の世界と日本の宗教史）を概観する。

#### 授業の概要：

前期の宗教学Aとペアで宗教史を概観している。宗教史Bでは、非一神教の世界と日本の宗教史を概観する。具体的には、ヒンドゥー教、仏教、東アジアの宗教（道教・儒教・中国仏教・朝鮮仏教）を概観し、最後に日本宗教史を概観する。

#### 授業の計画：

- 第1回 第3章 非唯一神教の世界
1. ヒンドゥー教
    - A. インドの自然・社会・歴史と古代インドの宗教
    - B. ヒンドゥー教
    - C. 仏教の揺籃としてのヒンドゥー教
  - 第2回
  - 第3回 2. 仏教
    - A. 原始仏教（a. 文献、b. ブッタの悟り、c. ブッタと初期仏教教団）
    - B. 部派仏教（a. ブッタ以後の仏教教団、b. 紛争、c. 部派仏教の成立）
    - 第4回 C. 大乘仏教（a. 大衆運動、b. 大乘仏教の特徴、c. 仏教のヒンドゥー化と衰退）
    - 第5回 D. チベット仏教
    - 第6回
    - 第7回 3. 東アジアの宗教
      - A. 道教と儒教
      - 第8回 B. 中国仏教（a. 中国への伝播、b. 格義仏教、c. 仏教の中国的受容）
      - 第9回 C. 朝鮮仏教
      - 第10回 4. 日本の宗教
        - A. 仏教伝来以前の日本の宗教と神道史概観
        - 第11回 B. 日本の仏教（a. 仏教伝来、b. 平安時代、
        - 第12回 c. 鎌倉時代、d. 江戸時代）
        - 第13回 C. 日本のキリスト教
          - （a. 16世紀におけるカトリック・キリスト教の伝来、
          - 第14回 b. キリスト教の禁制からキリシタン潜伏
          - 第15回 c. 幕末・明治のキリスト教）

#### 授業方法：

主として講義形式。ビデオを用いることもある。A4版100頁程度の授業専用テキストを用意する。テキストを読みながら、必要な説明を加える。毎回、前回の授業の理解度や学習状況に関するアンケートを実施し、それに基づいて個別的ならびに全体的な勉学の指示を行うことがある。この指示に従って学習することにより、最終試験において的確に解答できるように指導する。

#### 達成目標：

本講義は宗教史の観点から宗教の抱える諸問題と歴史的影響等について基本的知識を得ることを目標とする。

#### 評価方法：

持ち込み無しの筆記試験。

#### 教科書：

授業専用テキスト（配布）

#### 参考文献：

担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先ito@uhe.ac.jp

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A01201	文学A	4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
『坊っちゃん』 万葉集 古今和歌集 源氏物語 枕草子 平家物語 奥の細道 基礎的な語彙力 主語と述語 明快な表現	コミュニケーション力 美的感受性

**授業のテーマ：**

中学校国語・高等学校「国語総合」に取り上げられる、種々の作品を読み取ることができる。

**授業の概要：**

中学校・高等学校の「国語」の教科書に取り上げられる、奈良時代から明治・大正時代にいたるまでの日本の代表的な文学作品に触れることにより、美しい日本語の表現に接するとともに、日本文学・日本文学史の基礎的な知識を養う。

**授業の計画：**

- 1 はじめに
- 2 夏目漱石『坊っちゃん』
- 3 論理的文章
- 4 論理的文章
- 5 論理的文章
- 6 論理的文章
- 7 論理的文章
- 8 第6章 全体の構成と要旨の整理
- 9 第7章 事実と意見の組み立て
- 10 1から9のまとめ
- 11 万葉集・古今和歌集
- 12 源氏物語・枕草子
- 13 平家物語・奥の細道
- 14 『坊っちゃん』
- 15 まとめ

**授業方法：**

講義形式

**達成目標：**

中学校・高等学校「国語」の教科書に取り上げられる、奈良時代から明治・大正時代にいたるまでの、代表的な日本の文学作品について、高等学校「高等学校 国語総合」程度で説明することができる。

**評価方法：**

期末試験による。

**教科書：**

夏目漱石『坊っちゃん』角川文庫（286円＋税）、ワオ・コーポレーション『日本語表現法』『日本語表現法ワークブック』

**参考文献：**

適宜指示する。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
A01301	文学B	4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
近代文学 宮沢賢治 童話 詩 詩の種類 詩の技法 短歌 短歌の技法 論理的文章 原稿用紙の使い方	コミュニケーション力 美的感受性

**授業のテーマ：**

宮沢賢治のさまざまなジャンルの文学作品に触れ、日本語による表現を正確に読解する力を養うとともに、読み手にわかりやすい文章を記述することを目指す。

**授業の概要：**

宮沢賢治の童話・短歌・詩・芸術論などの作品を読む。

**授業の計画：**

- 1 概説
- 2 宮沢賢治
- 3 洞熊学校を卒業した三人
- 4 洞熊学校を卒業した三人
- 5 洞熊学校を卒業した三人
- 6 1から5のまとめ
- 7 なめとこ山の熊
- 8 なめとこ山の熊
- 9 なめとこ山の熊
- 10 宮沢賢治
- 11 短歌
- 12 詩
- 13 詩
- 14 芸術論
- 15 まとめ

**授業方法：**

講義形式を基本とするが、適宜学生に感想・意見を発表してもらい発表形式を取り入れる。

**達成目標：**

日本語による表現を正確に理解する。読み手にわかりやすい文章を記述する。

**評価方法：**

期末試験による。

**教科書：**

『宮沢賢治全集7』ちくま文庫（1,050円＋税）、『新総合図説国語』東京書籍（880円）。

**参考文献：**

適宜指示する。

**実験・実習・教材費：**

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09201	言語学	4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
動物のことば 言語の音声 言語の構造	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

人間は、その歴史の始まりとともに、言語を用いてきた。人間と言語とのかかわりを考えることは人間そのものについて考えることでもある。この授業を通して受講生には言語を通して人間の思考や文化を考えてもらう。この目的のために、言語研究の方法を紹介し、言語とは何かを考えてもらい、言語研究が人間の研究につながることを理解してもらう。

#### 授業の概要：

言語学とはどういう学問分野で、何を研究対象とするのか、動物のことばとの比較、ことばを作り上げている最小単位の音から語、文の構造へと進み、語や文の意味、さらに日本語の特徴、ことばと文学、という言語学の応用分野を取り上げる。

#### 授業の計画：

1～3回	言語学とは 言語と言語学 言語の定義 言語学の分野	10～12回	語のかたち 語および語の構造 語形成 語形成への制約
4～6回	動物のことば 動物の「ことば」の研究の意義 動物の「ことば」の機能と手段 霊長類の言語習得の実験 異種間コミュニケーションの可能性を目指して	13～14回	文のかたち 文を作る人間の能力と文法 生成変形文法のアプローチ
7～9回	言語と音の関係 言語音のすがた（音声学） 言語音の体系（音韻論） 言語音に関する規則化	15回	まとめ

#### 授業方法：

テキストを利用して解説した後、受講生に資料を分析してもらい、これを講評する。理解度をはかるため、各回の授業終了時に10分程度の課題に取り組んでもらう。

#### 達成目標：

言語の体系を自ら分析することで、人間と言語の関係を理解し、説明できること。

#### 評価方法：

前期末の試験（70%程度）と授業への取り組み（30%程度）により行う。

理論を駆使して完成度の高い独自の分析ができる…	S
理論を部分的に活用して分析ができる……………	A
不十分ながら理論を使い分析ができる……………	B
理論や学術用語を説明できる……………	C
Cのレベルに達していない……………	D

#### 教科書：

石黒昭博他『現代の言語学』金星堂 3,675円

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09301	異文化間コミュニケーション	4	2	岡 良和

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
言語 社会 文化	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

人間と言語や文化は密接な関係にある。この授業では受講生に人間と言語とのかかわりを考え、それがどのように文化に反映されているのかを探ってもらう。このように言語を通して人間の思考や文化を考えるための研究方法を紹介し、言語とは何かを考えてもらい、言語研究が人間や文化の研究につながることを理解してもらう。

#### 授業の概要：

世界の多様な言語と文化を比較する視点の紹介。言語や文化をグループに分けることの可能性。社会方言、人種方言、地方方言、などの言語のバリエーションと文化の関係。ことばの習得は文化の影響を受けるのか。ことばによらないコミュニケーションと文化。などの話題を扱う。

#### 授業の計画：

1～3回	世界の言語と文化 世界の言語と文化の多様性 比較言語学と比較文化学 言語類型論と文化類型論	10～12回	ことばによらないコミュニケーションと文化 非言語コミュニケーションの研究分野 非言語コミュニケーションと文化 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション
4～6回	ことばと社会と文化 ことばと文化の多様性 ことばの社会的変種と文化 ことばの場面的変種と文化	13～14回	ことばの意味と運用 意味論と語用論 語の意味 意味の広がり
7～9回	ことばとところと文化 ことばの習得と文化 ことばと脳と文化 ことばと認識と文化	15回	まとめ

#### 授業方法：

テキストを利用して解説した後、受講生に資料を分析してもらい、これを講評する。理解度をはかるため、各回の授業終了時に10分程度の課題に取り組んでもらう。

#### 達成目標：

言語の体系を自ら分析することで、人間と言語や文化の関係を理解し、説明できること。

#### 評価方法：

前期末の試験（70%程度）と授業への取り組み（30%程度）により行う。

理論を駆使して完成度の高い独自の分析ができる…	S
理論を部分的に活用して分析ができる…	A
不十分ながら理論を使い分析ができる…	B
理論や学術用語を説明できる…	C
Cのレベルに達していない…	D

#### 教科書：

石黒昭博他『現代の言語学』金星堂 3,675 円

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A01601	社会学A	4	2	安福恵美子

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	B	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
現代社会 社会学的視点 社会学的探求	コミュニケーション力 問題解決力 価値判断力 (意思決定力)

**授業のテーマ：**

私たちの社会はさまざまな問題を抱えながら変化している。本講義では、社会的行為、社会集団、地位と役割、社会変動、文化などを取りあげ、社会学の基本的な理論や概念を学ぶとともに、社会学の探求の方法についての理解を深めてゆく。

**授業の概要：**

社会学の概念を概説するとともに、教育、家族、労働、環境、福祉などの問題を取りあげ、社会学の視点から現実の社会や社会問題がどのように分析され、理解されているかを問題提起しながら講義する。

**授業の計画：**

- 1回 社会学とは何か
- 2回 社会学に何ができるのか
- 3回 社会学と調査
- 4回 近代社会の成立
- 5回 現代社会と教育
- 6回 現代社会と家族
- 7回 現代社会と環境
- 8回 現代社会と政治
- 9回 現代社会と福祉
- 10回 現代社会と情報
- 11回 現代社会と労働
- 12回 現代社会とレジャー
- 13回 現代社会における格差
- 14回 現代社会における文化装置
- 15回 まとめ

**授業方法：**

各回のテーマに即した資料・文献（ビデオを含む）を参考に、受講生各自が感想や意見を述べることによってテーマに対する理解を深めてゆく。そのため、受講生各自の積極的な授業参加を求める。

**達成目標：**

さまざまな社会現象を社会的に分析するための視角を養う。

**評価方法：**

小テスト50%および小レポート50%によって評価する。

**教科書：**

安福恵美子著『ツーリズムと文化体験』（流通経済大学出版社）

**参考文献：**

授業のなかで随時紹介する。

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
A01701	社会学B	4	2	安福恵美子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
現代社会 社会学的視点 社会学的探求 地域社会	コミュニケーション力 問題解決力 価値判断力 (意思決定力)

#### 授業のテーマ：

社会学の基本的な理論や概念を基に、戦後急激に変化を遂げた日本社会の仕組みを考察することによって、そのなかに潜在化しているさまざまな問題点を観察・認識する。そして、産業化が進展する中で生じた高度産業社会や地域社会における問題などに焦点を当て、現代社会のあり方について考える。

#### 授業の概要：

本講義では、社会的行為、社会集団、地位と役割、社会変動、文化などの社会学の概念を概説するとともに、地域社会や情報社会などを取りあげ、社会学の視点から現実の社会や社会問題がどのように分析され、理解されているかを問題提起しながら講義する。

#### 授業の計画：

- 1回 社会学的考え方
- 2回 社会学と調査
- 3回 現代社会の問題に対するアプローチ
- 4回 現代社会と労働
- 5回 現代社会とレジャー活動
- 6回 地域社会の仕組みと構造
- 7回 地域社会とまちづくり
- 8回 地域社会と環境
- 9回 地域社会と文化創造
- 10回 情報社会とマス・メディア
- 11回 情報社会とインターネット
- 12回 情報社会における問題点
- 13回 グローバル化社会
- 14回 グローバル化社会における問題点
- 15回 まとめ

#### 授業方法：

各回のテーマに即した資料・文献（ビデオを含む）を参考に、受講生各自が感想や意見を述べることによってテーマに対する理解を深めてゆく。そのため、受講生各自の積極的な授業参加を求める。

#### 達成目標：

さまざまな社会現象を社会学的に分析するための視角を養う。

#### 評価方法：

小テスト40%およびレポート60%によって評価する。

#### 教科書：

安福恵美子著『ツーリズムと文化体験』（流通経済大学出版社）

#### 参考文献：

授業のなかで随時紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
A07301	日本史概説	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
歴史観 日本史知識	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視点

**授業のテーマ：**

高校時代までに学んだ歴史知識の確認を第一として、古代から現在までの我が国の歴史を広い視点から学ぶ。また、周辺諸国や世界の動向との関係も意識し、我が国が如何なる発展をしてきたかを考え、現在の我が国がどのような理由で形成されているのかを理解する。

**授業の概要：**

日本史の基本的知識、その関連知識、また、やや専門的な知識を習得し、プリント等でそれぞれを確認する。基礎学力をチェックして、場合によっては、小学校六年レベルから基礎固めをし、そして、日本のあゆみを理解できるようにする。

**授業の計画：**

- 1 日本のあけぼの
- 2 大和政権の成立
- 3 東アジア情勢と古代国家の成立
- 4 律令国家の変質と摂関政治
- 5 武家社会の形成
- 6 蒙古襲来と武家社会の転換
- 7 下克上と戦国大名
- 8 幕藩体制の確立
- 9 幕政の安定と町人の活動
- 10 幕藩体制の動揺
- 11 幕末の動乱と明治維新
- 12 近代国家の成立と明治立憲制の形成
- 13 日清・日露戦争と帝国主義的発展
- 14 日本をめぐる内外情勢
- 15 「大東亜戦争」と戦後日本

**授業方法：**

講義形式を中心とする。同じ時間内に、プリント等により、講義内容の確認作業を行う。

**達成目標：**

日本史に関する基本的及び主要事件・事項などに関するやや専門的知識を獲得し、我が国の歩みを理解する。

**評価方法：**

試験（100％）により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

**教科書：**

『もういちど読む山川日本史』山川出版社、2009年

**参考文献：**

講義の中で適時紹介する。

**実験・実習・教材費：**

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07401	アジアの歴史	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：教員免許状（社会・地歴）取得のための必修科目
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
理解 尊重 読み書き	グローバルな視野

**授業のテーマ：**

グローバルな視野の育成をテーマとして、アジアの歴史を取り上げる。

**授業の概要：**

アジアといっても、その対象となる地域は様々な地理的景観を含み、民族的関係は複雑で、言語・文字も極めて多様である。そこで西アジア等の地域に分け、それぞれの特徴的な問題を取り上げて現代社会を考える一助とする。

**授業の計画：**

1. アジアの自然と地理
2. 西アジア（1）イスラーム文化圏の形成
3. 西アジア（2）オスマン帝国の繁栄と衰退
4. 西アジア（3）パレスチナ問題
5. 西アジア（4）イラン・イラクと欧米諸国
6. 南アジア（1）ムガル帝国の盛衰
7. 南アジア（2）植民地インドの形成
8. 南アジア（3）第二次世界大戦とインド
9. 南アジア（4）カシミール問題
10. 東アジア（1）アヘン戦争
11. 東アジア（2）辛亥革命と清朝の滅亡
12. 東アジア（3）二つの世界大戦と中国
13. 東アジア（4）冷戦と中国
14. 東アジア（5）朝鮮半島の分断
15. まとめ

**授業方法：**

講義形式

**達成目標：**

グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解・尊重の能力を習得する。

**評価方法：**

試験により行う。

- S…理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる
- A…理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる
- B…理論を使いながら出来事の分析ができる
- C…理論や用語を説明できる
- D…Cのレベルに達していない

**教科書：**

特に定めない。

**参考文献：**

高校で使用した「世界史」の教科書、図録など資料集。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04401	西洋史概説A	4	2	大橋真砂子

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
文字 識字 書物 教育	グローバルな視野

**授業のテーマ：**

西洋の歴史といっても、時代や国、地域によってその内容は様々です。また、政治史のみならず、社会史や文化史など、多様な角度から過去を検討することも可能です。この授業では、ヨーロッパの社会や政治を支え、現代まで影響を及ぼしている文字文化（識字文化）の変化について探っていきます。

**授業の概要：**

古代から近代にかけてのヨーロッパの歴史を概観しながら、文字の読み書きや教育がどのような変化を辿ったかを考察します。

**授業の計画：**

1. イントロダクション
2. 古代～中世の書写材料
3. 古代社会と文字（1）
4. 古代社会と文字（2）
5. 古代における書物
6. キリスト教と文字文化（1）
7. キリスト教と文字文化（2）
8. 中世社会と文字
9. 中世におけるマニユスクリプトの作成
10. アラビア文化の影響
11. 中世の大学
12. ルネサンスとその影響
13. 活版印刷とその影響
14. 近代における教育制度
15. まとめ

**授業方法：**

適宜プリント等を利用しながら講義形式で行います。

**達成目標：**

ヨーロッパの歴史の流れ、および文字文化についての基本的な知識を獲得することを目標とします。

**評価方法：**

レポート（20%）と期末試験（80%）で評価します。

**教科書：**

使用しません。

**参考文献：**

授業中に適宜紹介します。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04501	西洋史概説B	4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ルネサンス 宗教改革 大航海時代 市民革命 産業革命 帝国主義	グローバルな視野 美的感受性

**授業のテーマ：**

近世以降芸術はその時代の政治・社会・経済と密接にかかわりながら展開してゆきました。時代のビジュアルな記録としての絵画、その歴史的背景を紐解くことで現代につながる近代世界の成り立ちを考えます。

**授業の概要：**

各時代の美術作品を足掛りとしながら近世から現代にかけての欧米の政治・社会・文化のダイナミックな展開を通観してゆきます。

**授業の計画：**

1. 授業の概要説明
2. ルネサンスの文芸1 (人文主義)
3. ルネサンスの文芸2 (科学としての美術)
4. 宗教改革とプロパガンダとしての美術 (ドイツ・ルネサンス)
5. 対向宗教改革とプロパガンダとしての美術 (イタリア・バロックを中心に)
6. 大航海時代における宗教美術の展開 (スペイン・バロック、中南米バロック)
7. 絶対王政と肖像画の役割1 (ハプスブルク家)
8. 絶対王政と肖像画の役割2 (イングランド)
9. 絶対王政と肖像画の役割3 (フランス)
10. 市民革命と美術の政治意識1 (フランス革命)
11. 市民革命と美術の政治意識2 (ナポレオン戦争)
12. 市民革命と美術の政治意識3 (七月・二月革命)
13. 帝国主義の時代と美術の革新1 (フランスを中心に)
14. 帝国主義の時代と美術の革新2 (オーストリアを中心に)
15. まとめ

**授業方法：**

主にプリントとプロジェクターの画像を交えた講義形式。

**達成目標：**

欧米の歴史の大まかな流れと、それに沿った芸術文化の展開を把握します。

**評価方法：**

- 期末テスト70%、授業に対する取組み30%
- 講義内容の理解が特に優れている……………S
- 講義内容をほぼ理解できている……………A
- 講義内容の要点は理解できている……………B
- 講義内容を要点を半分以上理解できている……………C
- 講義内容を要点を半分以上理解できていない……………D

**教科書：**

特にありません。

**参考文献：**

- 中野京子「ハプスブルク家12の物語」光文社新書 980円
- 中野京子「ブルボン王朝12の物語」光文社新書 980円
- 「図解世界史」成美堂出版 1,300円

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07001	法律学	4	2	松村修平

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
法 責任 解釈	コミュニケーション力 問題解決力 価値判断力

#### 授業のテーマ：

私たちの市民生活は法律と密接に関係しています。この授業では、法律を初めて学ぶ人を対象に、民法、刑法など、法律の基礎的な知識を習得するとともに、法的な考え方を身につけることにより、皆さんが生活を送る上で直面するであろう様々な問題に対し、自ら考え対処する能力を養っていただきたいと思えます。

#### 授業の概要：

民法、刑法など、基本的な法律について、具体的な事例を用いながら平易に説明します。

#### 授業の計画：

- 1 イントロダクション
- 2 刑事法総論
- 3～6 刑事法各論（刑事裁判見学含む）
- 7 民法総論
- 8～11 財産法各論
- 12～13 家族法各論
- 14 公法概論
- 15 前期の復習

※なお、講義の一環として、名古屋地方裁判所岡崎支部にて刑事裁判見学（傍聴）を実施する予定です。スケジュールがあれば裁判員裁判を傍聴の対象とします。刑事裁判見学は、講義の曜日・時間とは異なる日時で実施することになる可能性がありますので、日時については事前に連絡をします。

#### 授業方法：

講義が中心ですが、なるべく具体的な事例を用いて、受講生にわかりやすく、親しみやすい授業内容を目指します。

#### 達成目標：

法律の基礎的な知識の習得を目指します。

#### 評価方法：

期末のレポートで評価します。

#### 教科書：

「はじめての法律学 HとJの物語」（第3版補訂版） 有斐閣  
六法（出版社を問わないが、憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法が掲載されているもの）

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07101	日本国憲法	4	2	松村修平

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
個人の尊厳 人権 自由	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 効果的な社会参加

**授業のテーマ：**

憲法は、すべての法律の基礎となり、わが国の社会の基盤を支える重要な法律ですが、堅苦しいイメージがあるため、自分には関係がないと思っている方も少なくないかもしれません。しかし、実際には、我々の生活は憲法と密接に関わっています。そこで、この講義を通じて、少しでも憲法や人権を身近なものとして感じてもらいたいと考えています。

**授業の概要：**

憲法について、具体的な事例を用いながら平易に説明します。

**授業の計画：**

- 1 イントロダクション
- 2 憲法の基本原理
- 3～10 人権各論
- 11 統治機構概論
- 12 権力分立
- 13 国会、内閣
- 14 裁判所
- 15 後期の復習

**授業方法：**

講義が中心ですが、なるべく具体的な事例を用いて、受講生に親しみやすい授業内容を目指します。

**達成目標：**

憲法の基礎的な知識の習得を目指します。

**評価方法：**

授業への取り組みと期末のレポート課題を1：1として評価します。

**教科書：**

「憲法」（第5版）芦部信喜（著）・高橋 和之（補訂）岩波書店

**参考文献：**

六法（出版社は問わない）

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09401	政治学	4	2	岡田宏太郎

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
自民党 政権交代 政治改革 構造改革 官僚	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ：

大学での学問としての政治学とは、どのようなものだろうか。現実の政治を理解するとは、どのようなことだろうか。これらのことを、日本の政治を材料にしながら考えていきます。大学で学ぶ政治学について、基礎的レベルの理解を得ること、日本の政治に関する新聞、テレビ等の報道を、自分なりに理解し、考えていけるようになることを目指します。

#### 授業の概要：

まず、政治の仕組みをとらえるとはどのようなことかを論じ、これに基づき、自民党長期政権時代（1955～93年）の仕組みと問題点、その後の政権交代、連立政権の時代の特徴、現在の日本の政治と行政の改革の課題等を考察していきます。

#### 授業の計画：

1. ビデオを使ったイントロダクション（1）
2. ビデオを使ったイントロダクション（2）
3. 自民党の内部構造
4. 選挙制度と自民党
5. 族議員と「鉄の三角形」
6. 保守本流路線と日本の経済成長
7. 政治における「右」と「左」
8. 旧社会党（社民党）の衰退と民主党
9. 国会の機能の問題点
10. 国家財政の危機
11. 1990年代の「政治改革」
12. 官僚制の諸問題
13. 小泉内閣の「構造改革」
14. 民主党政権から再度自民党政権へ
15. 予備日・まとめ

#### 授業方法：

講義ですが、最初の二回はビデオも使用し、日本の政治をテーマにした映画を参考にしながら授業をすすめていきます。

#### 達成目標：

大学で学ぶ政治学について、基礎的レベルの理解を得る。  
日本の政治に関する新聞、テレビ等の報道を、自分なりに理解し、考えていけるようになる。

#### 評価方法：

期末に行う試験により評価します。欠席が多いと失格になる場合があります。

#### 教科書：

使用しません（授業中にノートをとることが必須です）。

#### 参考文献：

授業の中で適宜指示します。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07501	基礎数学	4	2	野田信明

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
有効数字 指数表示 接頭語 対数 $\Sigma$ (シグマ・総和) 平均 偏差 分散 標準偏差 グラフ表示	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力

#### 授業のテーマ：

実験、実習等で得る測定値のデータ処理、数値解析を将来行うにあたって必要とされる数学の基礎知識と技術の習得を目的とする。特に数値計算、統計的な処理、物理単位・有効数字の取り扱い、表とグラフの活用を適切に行えるよう、理解を深める。関数電卓を積極的に活用し、数値計算に関する感覚を養う。

#### 授業の概要：

数値解析の基礎となる次の3項目について講義と演習を行う。(1) 四則演算、関数と指数、対数の計算、関数電卓の取り扱いの習得、(2) 統計の基礎である平均値、分散、標準偏差の計算法を習得する。(3) データの整理、表とグラフ作成と活用方法を習得する。

#### 授業の計画：

- |                  |                    |
|------------------|--------------------|
| 1. 数の概念と演算 数式と関数 | 9. 平均値と中央値         |
| 2. 数の表現 指数表記と分率  | 10. 分布の広がりや分散、標準偏差 |
| 3. 測定精度と有効数字     | 11. 2種類のデータの関係     |
| 4. 関数電卓の活用       | 12. 直線を表す式 一次関数    |
| 5. 指数関数とネイピア数    | 13. 最小二乗法          |
| 6. 対数関数と逆関数      | 14. まとめと補足         |
| 7. これまでのまとめ      | 15. 総合演習           |
| 8. 数直線とグラフ       |                    |

#### 授業方法：

講義方式で行う。毎回例題を出し、15分程度を使って考え方、解き方をその場で指導する。時間内に解けたところまでを提出してもらう。次回の講義で例題回答の解説と補足の説明を行う。詳しい数値計算には関数電卓を活用する。

#### 達成目標：

関数電卓を用いて、正しい順番で計算ができる。有効数字考慮して四則演算ができる。指数表示と接頭語がわかる。分率を理解する。電卓を使わずに同じ底をもつ指数の乗除算、べき乗計算、かんたんな対数計算ができる。相加平均、相乗平均、分散と標準偏差を求めることができる。測定値のグラフを描ける。データ点の関係を表す近似直線を求めることができる。

#### 評価方法：

筆記試験により行う。  
試験では関数電卓使用可 上記達成目標に関連の強い問題を出題する

#### 教科書：

特に既成の教科書は使わない。講義ノートをプリントし配布する。

#### 参考文献：

丹羽勝市著「図解雑学 統計解析」ナツメ社 ￥1,300 (ISBN978-4-8163-3472-6)

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07601	統計処理入門	4	2	野田信明

期間	曜日	時限	備考：「基礎数学」の受講を前提としないが、数学の基礎に関する程度の知識を前提とする。
前期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
相関係数 回帰直線 確率 期待値 二項分布 正規分布 母集団 標本 推測 信頼区間	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力

#### 授業のテーマ：

数学の知識と方法を基礎とし、統計解析の基本的な考え方と応用法を理解する。そのことにより、統計データの意味を読み取る力をつけるとともに、今後自ら収集・測定することによって得たデータの整理、分析法を身につける。

#### 授業の概要：

具体的なデータ例を取り上げ、統計処理で使われる専門用語や手法を理解するとともに、応用する力をつける。統計と確率の関係を理解し、得られた結果をどのように推測や予測に活かすかを学ぶ。解析のツールとして、Excelの基礎的な使い方について学ぶ。その時々話題も実例として取り上げ、理解の助けとする。

#### 授業の計画：

- |                     |                |
|---------------------|----------------|
| 1. 統計解析の概要          | 9. 正規分布        |
| 2. ヒストグラム平均、分散、標準偏差 | 10. 母集団と標本     |
| 3. 様々な相関と相関係数       | 11. 標本平均の性質    |
| 4. 場合の数と確率、期待値      | 12. 標本分散       |
| 5. 順列と組み合わせ         | 13. 母数の推定と信頼区間 |
| 6. これまでのまとめ         | 14. 母比率推定の具体例  |
| 7. 指数関数とネイピア数       | 15. 総合演習       |
| 8. 二項分布             |                |

#### 授業方法：

講義方式で行う。毎回例題を出し、15分程度を使って考え方、解き方をその場で指導する。時間内に解けたところまでを提出してもらう。次回の講義で例題回答の解説と補足の説明を行う。詳しい数値計算には関数付電卓を活用する。

#### 達成目標：

統計解析の基礎となる概念、意義について理解し、数値的な計算が行えるようにする。

#### 評価方法：

前期末のレポート（50%）と例題解答など日常の授業への取り組み（50%）により行う。

統計、確率、予測の概念、手法、専門用語の全面的理解、計算法習熟と応用……………	S
統計処理とその結果の意味するところの基本的理解、計算法習得……………	A
統計処理と結果の基礎的理解……………	B
統計処理分析データを読む力の習得……………	C
Cのレベルに到達していない……………	D

#### 教科書：

特に既成の教科書は使わない。講義ノートをプリントし配布する。

#### 参考文献：

丹羽勝市著「図解雑学 統計解析」ナツメ社 ¥1,300 (ISBN978-4-8163-3472-6)

#### 実験・実習・教材費：

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03201	基礎物理学A	4	2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
エネルギー 仕事 均質化 不均質化 自発的変化 他発的変化 エントロピー 化学ポテンシャル 自由エネルギー 光	分析・統合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

自然環境を体系的に理解するためには、物質とエネルギーに関する知識が欠かせない。また、野菜や穀物などの栽培は光合成を利用して農作物を作ることであり、光合成の理解のためにも物質とエネルギーに関する知識は重要である。

#### 授業の概要：

自然界で進行する変化が均質化と不均質化に分類され、均質化は自発的変化であり、不均質化は均質化と組み合わせることで進行する他発的変化であることをエネルギーの観点から説明する。また、物質とエネルギーに関する知識と、光に関する基礎的な知識を用いて、光合成をエネルギーの観点から理解することを目指す。

#### 授業の計画：

1. エネルギーの定義と仕事の種類
2. 仕事によるエネルギーの出入り
3. 均質化と不均質化①
4. 均質化と不均質化②
5. 物質の化学ポテンシャルと自由エネルギー
6. 光合成と呼吸でのエネルギーの出入り
7. 生物が関わる反応例とエネルギーの出入り
8. 光合成と呼吸でのエントロピーの出入り
9. 光の波動性
10. 光の粒子性と波動性
11. 光の種類
12. 光合成と光のエネルギー
13. エントロピーの性質
14. 均質化とエントロピーの発生
15. システムの維持の条件

#### 授業方法：

配布資料に基づいて、板書を中心に進める。

#### 達成目標：

物質間でのエントロピーと物質量の移動をエネルギー、仕事、均質化、不均質化、自発的、他発的の用語と関連づけて理解する。光合成などの化学反応を化学ポテンシャル、自由エネルギー、光のエネルギー、エントロピーと関連づけて理解する。エントロピーの性質を理解する。

#### 評価方法：

期末試験（100%）により行う。ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなければ、欠席と見なすので注意すること。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04601	基礎生物学A	4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
細胞 呼吸 光合成 有性生殖 遺伝子	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

基本的な生物の構造と生命活動についての体系的な理解。細胞の基本構造，呼吸および光合成などの生化学反応，生殖と世代交代の機構，生命活動における遺伝子の働きを理解することは，生命の本質を理解することでもある。

#### 授業の概要：

細胞レベルの生物学的内容について解説する。細胞の構造と機能，細胞レベルの進化，呼吸・光合成における生化学反応，細胞分裂および生殖と世代交代，生命の設計図を担う遺伝子とその仕組み，植物の組織と器官について，それぞれ解説する。これらの知見をどのように利用して，バイオテクノロジーが発展したかにも触れたい。

#### 授業の計画：

1. 生命体としての生物
2. 細胞の構造
3. 原核生物と真核生物
4. 呼吸1：解糖系
5. 呼吸2：クエン酸回路
6. 光合成1：電子伝達系
7. 光合成2：カルビン回路
8. 無酸素呼吸と化学合成
9. 細胞分裂
10. 減数分裂と有性生殖
11. 世代交代
12. 遺伝子1：DNA
13. 遺伝子3：DNAの複製
14. 遺伝子3：タンパク質の合成
15. さまざまな生物現象

#### 授業方法：

教科書・板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

#### 達成目標：

細胞の構造と機能についての理解，呼吸・光合成における生化学反応の理解，細胞分裂および生殖と世代交代についての理解，遺伝子の構造と複製についての理解，タンパク質合成の理解，植物の組織と器官についての理解。

#### 評価方法：

試験（100％）による。

#### 教科書：

鈴木孝仁（監修）、「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録改訂版」、数研出版、880円（税別、各自で購入のこと）

#### 参考文献：

- 石川 統，「生物学入門」，東京化学同人，2,200円（税別）  
 葛西奈津子，「植物が地球をかえた！」，化学同人，1,200円（税別）  
 福岡伸一，「講談社現代新書 生物と無生物のあいだ」講談社，740円（税別）

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04701	基礎生物学B	4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生物群集 遷移 適応度 生物間相互作用 進化	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

生物群集および生態系についての体系的な理解。様々な生物群集の集合によって構成される生態系は、生物間および環境との相互作用を介して複雑な系を形成している。また、有機物の生成とその循環を担うシステムでもある。生態系が持つ基本的な特徴とそれらの機構を理解することは、生物多様性を人類が賢明かつ持続的に利用するために必要な知識である。

#### 授業の概要：

生態学の基本的な概念と理論について解説する。生態学とは、生物間や環境との相互作用を探究する学問である。基本的な概念としての「生物群集」、有機物とその循環システムとしての「生態系機能」、多様性創出メカニズムとしての「適応度、生態的地位」、そして個体群の共存や増殖に関する「競争と共存、数理モデル」などを扱う。

#### 授業の計画：

1. 生物群集1：定義
2. 生物群集2：極相と遷移
3. 生物群集3：植生類型1
4. 生物群集4：日本の植生1
5. 生物群集5：日本の植生2
6. 生態系機能1：生物濃縮と生態系
7. 生態系機能2：食物網と生態ピラミッド
8. 生態系機能3：物質生産と物質循環
9. 生態系機能4：生産性と地球環境
10. 進化1：適応度と生態的地位
11. 進化2：適応放散と収斂
12. 数理モデル1：競争と共存1
13. 数理モデル2：競争と共存2
14. 数理モデル3：個体群の増殖1
15. 数理モデル4：個体群の増殖2

#### 授業方法：

教科書・板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

#### 達成目標：

生物群集の概念の理解、遷移と極相の概念の理解、生態機能群集の理解、物質循環の理解、適応度と生態的地位の理解、数理モデルの考え方の理解、共存条件の理解、個体群増殖様式の理解。

#### 評価方法：

試験（100％）による。

#### 教科書：

鈴木孝仁（監修）、「視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録改訂版」、数研出版、880円（税別、各自で購入のこと）

#### 参考文献：

日本生態学会、「生態学入門第2版」、東京化学同人、2,800円（税別）。  
 日本生態学会、「エコロジー講座 森の不思議を解き明かす」、文一総合出版、1,890円（税別）。  
 沼田真・岩瀬徹、「図説日本の植生」、講談社学術文庫、1,100円（税別）。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03601	基礎化学 I A	4	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
元素 原子 化学結合 物質	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

環境と生命の本質を化学的な面から理解するための必要な基礎知識を習得する。

**授業の概要：**

物質を構成する原子の構造や結合について基本的な事項から理解させる。さらに化学の基本単位である物質 (モル) の概念と使い方を学ぶ。

**授業の計画：**

- 1 化学で学ぶこと
- 2 元素と周期律表
- 3 原子の構造 (原子核)
- 4 原子の構造 (電子配置)
- 5 イオン結合
- 6 イオン性物質
- 7 共有結合
- 8 共有性物質
- 9 金属結合
- 10 分子間力
- 11 物質—化学の基本単位—
- 12 原子量・分子量・式量と物質
- 13 粒子の数・質量・体積と物質
- 14 液体と溶液
- 15 モル濃度

**授業方法：**

教科書「化学の基礎」を中心にして、授業計画に示した内容について講述する。さらに適宜、小テストや演習問題を行なう。

**達成目標：**

- 1 原子・分子や化学結合について理解させる。
- 2 原子量と質量を使って溶液の濃度計算ができるようにする。

**評価方法：**

テスト (小テスト, 期末テストなど)

**教科書：**

中川徹夫「化学の基礎」化学同人, 1,500 円

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03701	基礎化学 I B	4	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
物質の三態 コロイド溶液 化学反応	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

物質の状態変化とエネルギーとの関係や、物質の化学反応による変化について述べる。

**授業の概要：**

気体・液体・固体間の変化、また、それぞれの状態のもつ特性について学ぶとともに、コロイド溶液の基礎を理解させる。さらに化学反応についての基本事項を習得させる。

**授業の計画：**

- 1 物質の三態
- 2 物質の三態変化と熱エネルギー
- 3 気体の状態変化
- 4 気体の状態方程式
- 5 理想気体と実存気体
- 6 溶液（溶解のしくみ）
- 7 溶解度
- 8 希薄溶液の性質
- 9 コロイドとは
- 10 コロイド溶液
- 11 化学反応と核化学反応
- 12 化学反応が起こる，起こらない。
- 13 化学反応式
- 14 化学反応と触媒
- 15 化学平衡

**授業方法：**

教科書「化学入門」を中心にして、授業計画に示した内容について講述する。さらに、適宜、小テストや演習問題を行なう。

**達成目標：**

- 1 気体・液体・固体の三態変化や、それぞれの特性について理解させる。
- 2 コロイドやコロイド溶液を理解し、実存する種々の溶液の検証ができるようにする。
- 3 化学反応の量論的關係や、反応の促進に関与する要因について理解させ、化学反応の可否を判断できるようにする。

**評価方法：**

テスト（小テスト，期末テストなど）

**教科書：**

大野公一ら「化学入門」共立出版，2,000円

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03801	基礎化学ⅡA	4	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考:
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
有機化学 天然高分子化合物 合成高分子化合物	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ:

化学物質の中で、炭素・水素を基本的な構成元素とし、酸素・窒素なども含む物質が有機化学物質に分類されている。この中には、衣食住に関わる物質や、動植物などの生体関連物質が含まれている。有機化学の基礎を学ぶとともに、身近な物質の化学的な理解を深める。

#### 授業の概要:

有機化学物質について、原子・分子の構造に基づいて理解するとともに、身近な衣食住の物質や生体物質と化学との関連について学習する。

#### 授業の計画:

- |                           |                    |
|---------------------------|--------------------|
| 1 有機化学とは                  | 9 高分子化合物とは         |
| 2 脂肪族炭化水素（飽和炭化水素）         | 10 天然高分子化合物（糖類）    |
| 3 脂肪族炭化水素（不飽和炭化水素）        | 11 天然高分子化合物（タンパク質） |
| 4 酸素を含む脂肪族炭化水素（アルコール）     | 12 合成高分子化合物（繊維）    |
| 5 酸素を含む脂肪族炭化水素（アルデヒド・脂肪酸） | 13 合成高分子化合物（樹脂）    |
| 6 芳香族炭化水素                 | 14 合成高分子化合物（ゴム）    |
| 7 フェノールと芳香族アミン            | 15 まとめ             |
| 8 芳香族カルボン酸                |                    |

#### 授業方法:

教科書「化学入門」を中心にし、授業計画に示した内容について講述する。さらに、小テストを行なう。

#### 達成目標:

- 1 有機化学の基礎事項を理解する。
- 2 生体関連物質や合成化学物質の性質や機能を理解する。

#### 評価方法:

テスト（小テスト、期末テストなど）

#### 教科書:

大野公一ら「化学入門」共立出版、2,000円

#### 参考文献:

なし

#### 実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A03901	基礎化学ⅡB	4	2	片山幸士

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境 生命 生活物質	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

人類を取り巻く環境，エネルギー，食料などの問題を日々の生活の中から取り上げ，有機化学，生化学的な観点から考察する。

**授業の概要：**

生物を構成する物質についての基本的な知識を習得させる。それらの物質と環境，エネルギー，食料などの諸問題との関連について考察する。

**授業の計画：**

- |            |              |
|------------|--------------|
| 1 水と生命     | 9 農薬とフェロモン   |
| 2 地球環境と化学  | 10 栄養とアミノ酸   |
| 3 エネルギーと化学 | 11 薬の化学      |
| 4 燃焼と火災    | 12 ビタミンと病気   |
| 5 セッケンと洗剤  | 13 ホルモンと生体情報 |
| 6 香りと化学    | 14 核酸 - 遺伝情報 |
| 7 色素の化学    | 15 酵素反応      |
| 8 味の化学     |              |

**授業方法：**

教科書「化学入門」を中心にし，授業計画に示した内容について講述する。さらに，小テストを行なう。

**達成目標：**

物質や動植物の生命現象を化学の目を通して理解させる。さらに循環型社会への移行との関係についても，授業計画に挙げた個々の課題の中で検討させる。

**評価方法：**

テスト（小テスト，期末テストなど）

**教科書：**

大野公一ら「化学入門」共立出版，2,000円  
芝哲夫「化学物語 25 講」生きるために大切な化学の知識，化学同人，1,800円＋税

**参考文献：**

金原榮ら「基礎化学 2」化学反応と有機材料，実教出版，1,800円＋税

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04001	基礎化学実験 I	4	2	守村・藤井 <sup>芳</sup>

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
測定 レポート作成 農地	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

農地を理解する上で環境要素を数値データとして知ることは重要である。そのため、土壌の物理化学性、水の挙動、及び気象について基本的な測定手法を修得し、そのデータから環境の状態を判断できるようにすることを目的とする。また、得られたデータを人に伝えるために必要なレポート作成技術を学ぶ。

#### 授業の概要：

大気・土・水の物理性及び化学性の測定を3回ずつ行う。物理性として土壌、気象、蒸散量を扱い、化学性としてpH、電気伝導度（EC）、有機物について実習を行なう。人数の都合上、授業の計画の物理性の測定を先に実施するグループと、化学性の測定を先に実施する2グループに分かれる。実習は各回の積み重ねであり、欠席すると次回の実習の際に危険が伴う可能性がある。休まず出席すること。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス、グループ分け、レポートの全体構成について
2. 物理性の測定①：土壌の物理性の測定
3. レポート指導①：結論と目的の書き方、タイトルの決め方。測定原理の解説
4. 物理性の測定②：農場・地域の気象計測
5. レポート指導②：結果の書き方。測定原理の解説
6. 物理性の測定③：植物の蒸散量の測定
7. レポート指導③：全体構成、目的と結論、タイトル、結果の書き方の確認。測定原理の解説
8. 化学性の測定①：pHの測定
9. レポート指導④：全体構成、目的と結論、タイトル、結果の書き方の確認。測定原理の解説
10. 化学性の測定②：ECの測定
11. レポート指導⑤：方法の書き方について。測定原理の解説
12. 化学性の測定③：有機物の測定
13. レポート指導⑥：目的と結論、タイトル、結果、方法の書き方の確認。測定原理の解説
14. 物理性の測定④：まとめの実験
15. 化学性の測定④：まとめの実験

#### 授業方法：

測定内容を概説した後に実習（屋外も含む）を行ない、受講生はその内容をレポートにまとめる。翌週に測定原理の解説、及びレポートの書き方について指導を行なう。

#### 達成目標：

それぞれの環境測定によって、得られたデータから環境状態を判断できる。得たデータについて、どのような目的でどのようにしてどんな結果を得たのかをレポートにまとめて報告ができる。

#### 評価方法：

筆記試験とまとめの実験のレポートによって評価する。  
 各種測定を実施することができ、そのデータに基づいて環境状態を判断し、構成を踏まえたレポートとして報告することができる。…………… S  
 各種測定を実施することができ、構成を踏まえたレポートとして報告することができる。…………… A  
 各種測定を実施することができ、レポートとして報告することができる。…………… B  
 各種測定について大まかに理解しており、かつレポートの構成について理解している。…………… C  
 Cのレベルに達していない。…………… D

#### 教科書：

無し

#### 参考文献：

授業中にその都度提示する。

#### 実験・実習・教材費：

3,000円（実験消耗品代として）



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A04201	基礎化学実験Ⅱ	4	2	藤井芳一

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
化学実験 データ処理 レポート作成	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

化学分析の基本である容量分析の技術と知識を習得する。ホールピペット、ビュレット、メスフラスコなどの測容器の使用法、洗浄法を修得するとともに、これらの器具の検定を電子天秤と秤量瓶を用いて行なう。さらに、環境試料を採取し、水質測定を行なう。また、これらのデータの統計処理方法を修得する。レポート指導を通じて科学論文の書き方を学ぶ。

#### 授業の概要：

ガラス器具の検定や試薬の調製法を学ぶ。大学近隣のため池で水を採取し、水質測定を行なう。実験は各回の積み重ねであるので、欠席すると次回の実験の際に危険が伴う可能性がある。休まず出席すること。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス、実験を行なうにあたっての諸注意
2. pHとECの測定（原理と方法）、及び採水準備
3. 採水、及び現地水質測定（猿田池）
4. 電子天秤の使用法
5. データの統計処理
6. レポート指導
7. ビュレットの使用法と1滴の体積
8. メスフラスコの使用法、シュウ酸標準溶液の調製
9. レポート指導
10. 猿田池のアルカリ度の測定
11. レポート指導、アルカリ度の解説
12. COD測定：過マンガン酸カリウムの標定
13. COD測定：CODの測定意義と原理について解説
14. COD測定：猿田池のCOD測定
15. COD測定：レポート指導

#### 授業方法：

教科書と配布プリントに従って行なう。毎回の予習とレポートの提出が必須である。

#### 達成目標：

化学実験の基本的な手法とレポート作成法を習得する。

#### 評価方法：

課題実験とそのレポートによって評価する。

基本的な化学実験の操作の実施、及び目的と結論に基づいた構成のレポートを自身の考察を踏まえて報告することができる。…………… S  
 基本的な化学実験の操作の実施、及び目的と結論に基づいた構成のレポートとして報告できる。… A  
 基本的な化学実験の操作の実施、及び実験目的を理解してレポートとして報告できる。…………… B  
 基本的な化学実験の操作の実施、及びレポートとして報告できる。…………… C  
 Cのレベルに達していない。…………… D

#### 教科書：

片山幸士・木曾祥秋編著『ベーシック分析化学実験』化学同人  
 （初回のガイダンスの際に購入について指示をする。）

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

実験試薬及び消耗品代として30,000円。白衣（3,000円程度）は別途購入が必要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09201	海外大学単位互換科目B	4	2	文野・花井

期間	曜日	時限	備考
前期	集中	8~9月	準備期間 H26年4月下旬~研修期間直前 研修期間 H26年8月(予定) ※この授業については、履修登録期間中には登録は行わず、事前説明会を行った上で、別途期間を定め履修登録を行います。

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学生主体 協働学習 異文化間交流 リーダーシップ	コミュニケーション力 分析力・総合の思考力と 判断力 問題解決力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

1. 「獲得型」学習。学生各自が、主体的かつ積極的に活動に参加し、知識・能力を獲得する。
2. 価値観や母語の異なる他者と共に学び合う活動を通して、他者理解だけでなく自己理解を深める。

#### 授業の概要：

この科目は、本学と海外の大学が結んだ単位互換協定にもとづいて実施される。  
 本学の学生が当該科目を履修した場合、修得した科目の単位数は2科目（2単位×2ヵ年=4単位）まで本学の『全学共通基礎科目』の科目として卒業要件単位に算入できる。

#### 授業の計画：

##### ＜研修内容＞

台湾の大学から教員と学生が研修に参加する予定である。テーマ等は、先方の大学と話し合いの上決定する。過去のテーマは、「まちづくり」、「コミュニティづくりと言語管理」、「現代の世相に見る日本の社会」などである。各チームは、台湾の学生と本学の学生で混成グループを作る。グループ編成は、事前のインターネット上のやりとりを通じて台湾の学生の来日前に行われる。

使用言語は、日本語を基本とする。台湾の学生は外国語である日本語でコミュニケーションをしなければならない。日本人の学生には、語学面からの支援や意思疎通が円滑に進むよう気を配るなどの役割が求められる。グループの研究課題決定から活動計画、研究発表に至るまで学生が主体となって行う実習・演習タイプの科目であり、来日した学生との協働の研修であるので、台湾の学生が活動している間日本人学生は全ての過程においてリーダーとして参加することが期待される。

##### ＜研修前の活動＞

- 1) インターネットを通じて台湾の学生とやりとりを行う。
- 2) 週一回程度 日本人側の勉強会、受け入れ準備のための話し合いを行う。

##### ＜研修期間中の活動＞

合宿、あるいはホームステイの形態で宿泊をし、台湾の学生と24時間寝食を共にする。日中は、グループごとにフィールドに行き、必要な調査を行ったり調査結果をまとめたりする。夜は、全体会議でその日の報告をする。最後に、成果を公開で発表する。

##### ＜本学学生の応募条件＞

1. 責任ある態度で主体的かつ積極的な参加ができること。
2. 異文化交流に関心がある者。
3. インターネットでの通信が可能なこと。（学内PC利用も含む）

#### 授業方法：

1. スカイプで会議、フェイスブックを通じて台湾や国内他大学の学生に情報発信・情報共有
2. 学内で準備のためのミーティング
3. 合宿中は、テーマに沿ったフィールドに出て、調査研究を行い、成果を発表する。

#### 達成目標：

協働学習活動に主体的に活動に参加することを通して、広い視野、責任感、自主性、コミュニケーション力、リーダーシップ等社会人に求められる能力を身につける。

#### 評価方法：

準備期間および研修期間中の参加状況、グループへの貢献度、発表などを総合的に評価する。

準備期間の貢献度	10%
グループ演習（グループでの討論、フィールドでの協働作業）	25%
講義・活動報告（講義・フィールドの報告会）	25%
口頭発表（グループ毎にPPTを用いて発表）	30%
報告書作成	10%

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

活動フィールドや活動内容によって実費（数千円程度）が必要となる場合がある。（詳細は事前説明会で説明する。）

※なお、海外からの学生が来日しないなど交流行事そのものが実施されない場合、本科目は不開講となる。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A07801	海外大学単位互換科目D	4	1	文野・花井

期間	曜日	時限	備考
			準備期間 H25年10月～研修期間直前 研修期間 H26年2月 事後活動期間 H26年3月～6月 ※この授業については、春の履修登録期間中前期の単位として登録を行います。

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学生主体 協働学習 異文化接触 海外生活体験	コミュニケーション力 分析力・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

海外における協働学習、研究

#### 授業の概要：

台湾の東海大学の授業を本学の学生が履修し単位を取得する。この活動は、事前（インターネットを利用した準備活動、事前勉強会）、集中授業期間（台湾をフィールドとしたフィールド調査・研究、研究成果発表）、事後（テレビ会議を利用した報告書作成）という3つの部分で構成される。台湾のどこを中心にフィールド調査・研究を行うかにより、台湾における活動内容は変わる。台湾の大学のキャンパスで授業に参加することもある。実際の活動は、日台混成のグループを中心に行う。活動中、日本の学生は東海大学の学生と寝食を共にするため、生活全体が協働作業となる。学生ひとりひとりには、すべての部分に主体的に参加し、グループ内及び調査対象とするコミュニティの他者とコミュニケーションを密にとり、よい人間関係を構築することが活動の前提として求められる。

#### 授業の計画：

10月～1月末：台湾の大学、国内他大学、本学の参加者がスカイプ会議、全体のテレビ会議、フェースブックを利用して事前の話し合いをし、準備活動をする。学内では、週1回準備活動のためのミーティングを行う。  
 2月（1週間程度）：台湾をフィールドにしてフィールド調査・研究・成果発表  
 3月～6月：テレビ会議を利用して共同で報告書作成

#### 授業方法：

スカイプ、フェースブック、テレビ会議、フィールド調査、フィールドでインタビュー、グループ・ミーティング、報告、成果発表、報告書作成などさまざまな活動を、日本と台湾の学生が混成チームを作って協働で行う。

#### 達成目標

- 1) 言語や文化が異なる他者とコミュニケーションや議論ができるようになる。
- 2) 自分を客観的にとらえ、社会に位置付けることができるようになる。
- 3) 他者との相互行為を通じて、学ぶ力を身に付ける。

#### 評価方法：

グループ演習	35%
活動報告	25%
口頭発表	30%
報告書作成	10%

#### 教科書：

特に指定しない。

#### 参考文献：

各フィールドに関する文献やWeb情報

#### 実験・実習・教材費：

渡航費、活動費等

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06601	基礎ゼミナールA（再履修者クラス）	4	1	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
聴く 読む 調べる 整理する まとめる 書く	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

基礎ゼミナールは、本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的な技能や、知的探究心を鍛錬することを目的としています。また、教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯の意識を育てます。

#### 授業の概要：

1. 基礎ゼミナールは、A（前期）とB（後期）に区分され、両科目は必修科目です。
2. 基礎ゼミナールでは、共通テキストを使用して、ノート・テイキング、文献調査、レポート作成、プレゼンテーションなど大学に必要な基礎的技法を学びます。

#### 授業の計画：

1. 第1章 スタディスキルズとは
2. 第2章 ノート・テイキング（その1）
3. 第2章 ノート・テイキング（その2）
4. 第3章 リーディングの基本スキル（その1）
5. 第3章 リーディングの基本スキル（その2）
6. 第4章 より深いリーディングのために（その1）
7. 第4章 より深いリーディングのために（その2）
8. 第5章 大学図書館における情報収集（その1）
9. 第5章 大学図書館における情報収集（その2）
10. 第8章 アカデミックライティングの基本スキル（その1）
11. 第8章 アカデミックライティングの基本スキル（その2）
12. 第9章 効果的なアカデミックライティングのために（その1）
13. 第9章 効果的なアカデミックライティングのために（その2）
14. レポート作成についてのQ & A（その1）
15. レポート作成についてのQ & A（その2）

#### 授業方法：

全員で教科書の理解度を確認した後、課題に取り組みます。

#### 達成目標：

大学の学習に必要な基礎学力、基礎的技能を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。

#### 評価方法：

レポート試験

#### 教科書：

『知へのステップ（改訂版）』（くろしお出版）1,800円＋税  
担当教員によっては別途、補助教材を称することがあります。

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06701	基礎ゼミナールB（再履修者クラス）	4	1	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
まとめる 書く 表現する 伝える	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

基礎ゼミナールは、本学1年生の必修科目であり、これから大学で勉強していく上で必要な基礎的な技能や、知的探究心を鍛錬することを目的としています。また、教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯の意識を育てます。

#### 授業の概要：

1. 基礎ゼミナールは、A（前期）とB（後期）に区分され、両科目は必修科目です。
2. 基礎ゼミナールBでは、前期で学んだことに加え、コンピューターを利用した技法を学び、基礎的現代的な教養や社会問題、問題の発見と解決、創造と発想、調査研究の方法など幅広い分野を取り上げます。査、レポート作成、プレゼンテーションなど大学で必要な基礎的技法を学びます。

#### 授業の計画：

1. 第10章 パソコンによるライティングスキル（その1）
2. 第10章 パソコンによるライティングスキル（その2）
3. 第11章 プレゼンテーションの基本スキル（その1）
4. 第11章 プレゼンテーションの基本スキル（その2）
5. 第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために（その1）
6. 第12章 わかりやすいプレゼンテーションのために（その2）
7. 身の回りにある問題を見つけてみよう（その1）
8. 身の回りにある問題を見つけてみよう（その2）
9. 図書館などで情報を収集してみよう（その1）
10. 図書館などで情報を収集してみよう（その2）
11. レポートを作成してみよう（その1）
12. レポートを作成してみよう（その2）
13. プレゼンテーションをしてみよう（その1）
14. プレゼンテーションをしてみよう（その2）
15. まとめ

#### 授業方法：

全員で教科書の理解度を確認した後、課題に取り組みます。

#### 達成目標：

大学の学習に必要な基礎学力、基礎的技能を修得し、学習意欲と知的探究心を養う。

#### 評価方法：

レポート試験

#### 教科書：

『知へのステップ（改訂版）』（くろしお出版）1,800円＋税

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A42001	プレゼンテーション I	4	2	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
レジュメ 発表 プレゼンテーション スキル	コミュニケーション力 分析力・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

講義を聞きノートをとる。レジュメ（パワーポイント）を作成する。レジュメを使ってわかりやすい発表をする。批判的に聞く。

#### 授業の概要：

講義を聞き、メモを取る練習をする。決められたテーマについて得た情報をもとに、発表のためのレジュメをパワーポイントで作成する。レジュメを使って発表をする。発表を批判的に聞く。発表を聞いて質問する。質問に答える。

#### 授業の計画：

1. メモの取り方を学ぶ。
2. 説明や講義の構成を確認する。
3. メモを参考に説明をする。
4. モデル説明の構成を使って、自分の内容でレジュメを作る。
5. レジュメをパワーポイントで作成する。
6. 発表に必要な表現を学ぶ。
7. 審査の評価項目を決める。
8. テーマを決め、資料を集める。
9. 構成及び資料の使い方を考える。
10. レジュメを作成する。
11. レジュメを検討する。
12. 批判的に聞く。
13. 発表する、質問する、答える。
14. 発表する。質問する、答える。
15. まとめ

#### 授業方法：

参加型の授業であり、毎回産出物を提出する。授業中仕上げられない場合は、宿題となり、翌週授業2日前までにメール添付で提出する。実際に学生が提出した作文や発表を検討材料として、内容検討作業を行う。

#### 達成目標：

説明や講義を聞いて、適切なメモがとれる。メモを元に説明や講義をわかりやすく伝えることができる。構成を考え、レジュメ（パワーポイント）を使って、わかりやすい発表ができる。

#### 評価方法：

産出物（メモ、レジュメ等）	30%
発表	30%
レポート	40%

#### 教科書：

特に指定しない。

#### 参考文献：

『聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A42101	プレゼンテーションⅡ	4	2	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ディベート 肯定側 否定側 反駁	分析力・総合の思考力と判断力 問題解決力 コミュニケーション力

#### 授業のテーマ：

ディベートを通じて、論理的思考力、傾聴する力、コミュニケーション力、広い視野を身につける。

#### 授業の概要：

ディベートについて書籍やビデオ教材などから知識を得る。論題を決め、ディベート決戦に向けて必要な作業を体験する。ディベートを体験する。

#### 授業の計画：

1. ディベートとは：ディベートのルールと教育効果
2. モデルディベート評価、ディベートの構成と各部分の役割
3. 論題を決める
4. 論点を考える（ブレインストーミング）
5. 肯定側立論を書く
6. 立論を検討する
7. 否定側立論を書く
8. 否定側立論を検討する
9. 反論練習 否定側反駁用カード作成
11. 反論練習 肯定側反駁用カード作成
12. マイクロディベート、審査・判定、フローチャートの書き方
13. ディベート決戦
14. ディベート決戦2（肯定側否定側を入れ替えて）
15. 振り返り

#### 授業方法：

論点を述べる、整理する、立論を書くなど産出作業が多いため、授業中に終わらない部分は宿題となる。授業中は、ペアワーク、グループワークで問題解決を行う参加型の活動が主となる。

#### 達成目標：

相手の議論の矛盾点を探しながら批判的に聞く、聞き手の納得が得られるような論理的で分かりやすい議論ができる、一つの現象を複数の視点から見る広い視野を持つ。

#### 評価方法：

立論、反駁などの産出物	20%
ディベート決戦におけるパフォーマンス	50%
期末レポート	30%

#### 教科書：

特に指定しない。

#### 参考文献：

『アカデミックディベート入門』

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A05601	キャリアデザイン I (基礎編)	4	2	樋口・三井

期間	曜日	時限	備考:
前期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
キャリア形成 自己理解 仕事理解 将来設計 キャリア選択	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 (意思決定力) グローバルな視野

#### 授業のテーマ:

キャリアデザインとは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもあります。社会が大きく転換している今、就職・進学を問わず、その環境は目まぐるしく変化しています。社会や自分を取り巻く環境をしっかりと見つめ、自分の将来についてイメージできるようにすることを目標とします。

#### 授業の概要:

キャリアデザインの基礎編として、低学年の早期段階からキャリアデザインを描くために必要な考え方や方策を学びます。具体的には、社会経済の動向をふまえた「仕事理解」と、自分の個性、興味・関心、欲求・動機、価値観、適性といった「自己理解」の両方を推し進め、将来のキャリア選択に備えます。

#### 授業の計画:

1回 主体的なキャリア形成の必要性	9回 職種研究
2回 自分史作り	10回 企業研究
3回 性格分析	11回 21世紀に求められる人材像
4回 社会経済の動向と雇用形態の多様化	12回 プレゼンテーション準備①
5回 未来予想図	13回 プレゼンテーション準備②
6回 価値観分析	14回 プレゼンテーション発表
7回 志向性分析	15回 卒業時になりたい自分
8回 業界研究	

#### 授業方法:

講義と演習を交えて展開します。講義は、基本的にテキストを使って進めます。演習は、個人ワークとグループセッションの二本立てで進めます。まずは、個人ワークで自分なりの考えをまとめます。つぎに、グループセッションで各自の考えを交換し、互いに学び合います。

#### 達成目標:

『大学入学の目的を整理し、卒業時になりたい自分をイメージし、そのために必要な行動がとれるようになる』こと。

#### 評価方法:

授業の取り組み: 50%、課題・演習: 50%

主体的なキャリア形成の必要性を理解したうえで、完成度の高い自らのキャリアデザインができる…S  
 主体的なキャリア形成の必要性を理解したうえで、ある程度のキャリアデザインができる……A  
 キャリア形成の必要性を理解したうえで、一部のキャリアデザインができる……………B  
 キャリア形成の必要性を理解している……………C  
 Cのレベルに達していない……………D

#### 教科書:

樋口貴子著 『キャリアデザインの基礎』 (株)キャリアデザイン ※授業時で販売

#### 参考文献:

授業の中で適宜、紹介します。

#### 実験・実習・教材費:

なし。※教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布します。



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A05801	キャリアデザインⅡ（応用編）	4	2	樋口・三井

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
キャリア開発 職業人意識 社会人常識 ビジネスマナー 仕事の基本	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ：

間近に迫る「卒業・就職」という節目を前に、将来の自分の活躍する姿を見据えながら、自分にとって働く意義・働く意味とは何かを考え、社会人・職業人としての意識を醸成します。また、ビジネスパーソンとして仕事を円滑に進めるために必要な常識や仕事の基本について理解を深めます。さらに、さまざまな演習を通じて、ビジネスマナーを習得します。

#### 授業の概要：

キャリアデザインの応用編として、実践的なキャリア開発を進めます。社会人・職業人として求められる基本姿勢や、仕事の進め方についてケーススタディを交えて学びます。また、ビジネスパーソンとしての予備知識やマナーを身に付けます。就職希望者はぜひ受講してください。

#### 授業の計画：

1回 職業観・勤労観	9回 訪問のマナー
2回 職業人（プロフェッショナル）意識	10回 指示の受け方、報告・連絡・相談
3回 組織で必要とされる基本姿勢	11回 仕事の進め方（PDCAサイクル）
4回 身だしなみ、勤怠のマナー	12回 キャリア展望を考える①
5回 立居振舞い、挨拶	13回 キャリア展望を考える②
6回 言葉遣い（敬語）、話し方	14回 適職探索と職業研究
7回 電話応対	15回 ライフイベントを考える
8回 ビジネスメール、手紙の書き方	

#### 授業方法：

講義と演習を交えて展開します。講義は、基本的にテキストを使って進めます。演習は、個人ワークとグループセッションの二本立てで進めます。まずは、個人ワークで自分なりの考えをまとめます。つぎに、グループセッションで各自の考えを交換し、互いに学び合います。

#### 達成目標：

『ビジネスパーソンとしての基本スキルを身に付け、ビジネスマナーが実践できる』こと。

#### 評価方法：

授業の取り組み：50%、課題・演習：50%

高いプロフェッショナル意識を有し、社会人として通用するビジネスマナーを常に実践できる……	S
プロフェッショナル意識を有し、社会人として通用するビジネスマナーをある程度実践できる……	A
プロフェッショナル意識を有し、社会人として通用するビジネスマナーを一部実践できる……	B
学生として最低限のマナーを実践できる……	C
Cのレベルに達していない……	D

#### 教科書：

樋口貴子著『就職スキル・ビジネスマナー』（有）キャリアサポーター ※最初の授業内で販売します。

#### 参考文献：

授業の中で適宜、紹介します。

#### 実験・実習・教材費：

なし。※教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布します。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06001	キャリアデザインⅢ（実践編・インターンシップ）	4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：この科目は、事前にガイダンスを実施したうえで履修登録を確定させます。後日、別途期間を定めて追加履修登録を受付けます。
前期	集中	8～9月	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション能力 協調性 責任感	コミュニケーション力 問題解決力 社交性（社会的相互関係力）

**授業のテーマ：**

就労体験を通して、仕事に関する知識・理解を深め、自己の適性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力・態度を養成します。

**授業の概要：**

この授業では、自らのキャリアデザインの一環として、企業や団体で将来のキャリアに関する就業体験（約2週間）を行い、事後にレポート提出と報告会を実施します。ただし、就業日数が所定期間に満たない実習については、単位は付与されません。なお、希望者多数の場合は、希望する企業や団体での実習に応じられない場合があります。また、この授業の受講を希望する場合は「キャリアデザインⅡ（応用編）」を受講することが望まれます。

**授業の計画：**

（スケジュール予定）

- 5月 事前ガイダンス
- 7月 派遣前マナー研修会
- 8、9月 インターンシップ実習
- 9月 レポート提出
- 10月 報告会

（インターンシップ実績企業・団体）

物語コーポレーション、蒲郡海洋開発、中部日本広告社、岡崎市役所、岡崎商工会議所、エフエム岡崎、すぎた、西尾信用金庫、SMBC日興証券

**授業方法：**

企業や団体ごとに方法は異なりますが、それぞれの実習先で就業体験します。

**達成目標：**

職場の人と適切なコミュニケーションがとれ、主体的に仕事をこなす。

**評価方法：**

受け入れ企業・団体からの評価、レポートなどから総合的に判断します。

- 職場の人と適切なコミュニケーションがとれ、主体的に仕事ができ、事後報告もきちんとできる…………… S
- あまり主体的には仕事ができなかったが、職場の人と適切なコミュニケーションがとれ、事後報告もきちんとできる…………… A
- 職場の人と適切なコミュニケーションがとれたが、事後報告があまりできていない…………… B
- 適切なコミュニケーションがとれず、事後報告もあまりできない…………… C
- 上記のレベルに達していない…………… D

**教科書：**

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A06101	ビジネスコミュニケーション	4	2	樋口・三井

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション能力 情報伝達 意見主張 意見集約 プレゼンテーション	コミュニケーション力 社交性（社会的相互関係力） 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ：

将来、ビジネスパーソンとして社会で活躍するためには、専門知識や業務処理能力だけでなく、ビジネスを円滑に進めたりするうえで必要不可欠な「相手の話を正しく理解し、自分の意思を正しく伝達し表現する」といった意思疎通をはかるコミュニケーション能力が必要です。本授業では、ビジネスコミュニケーション能力の基本から実際までを理解したうえで、実践的なスキルを習得します。

#### 授業の概要：

就職（採用選考）にあたって最も重視される「コミュニケーション能力」とは何かを理解したうえで、ビジネスシーンを想定したケーススタディやロールプレイングを通じて、実際の場面で活用できるビジネスコミュニケーションを身に付けます。さらに、採用試験の一つであるグループディスカッションや面接に応用できるスキルを学びます。就職希望者はぜひ受講してください。

#### 授業の計画：

1回	ビジネスコミュニケーションとは	9回	情報伝達のスキル
2回	相手の尊重、人間関係の常識	10回	意見主張のスキル
3回	チームワーク	11回	意見集約のスキル
4回	話し方と聞き方の基本	12回	アサーショントレーニング
5回	ノンバーバルスキルとバーバルスキル	13回	コンセンサストレーニング
6回	効果的な話し方トレーニング	14回	プレゼンテーションの企画、設計
7回	質問のスキル	15回	プレゼンテーションの実施
8回	効果的な聞き方トレーニング		

#### 授業方法：

講義と演習を交えて展開します。講義は、基本的にテキストを使って進めます。演習は、個人ワークとロールプレイを中心としたグループワークの二本立てで進めます。

#### 達成目標：

『実践的なビジネスコミュニケーションスキルを身に付け、実際の場面で活用できる』こと。

#### 評価方法：

授業の取り組み：50%、課題・演習：50%	
さまざまな場面で、完成度の高いビジネスコミュニケーションスキルが活用できる……………	S
限定された場面で、ビジネスコミュニケーションスキルが活用できる……………	A
一部のビジネスコミュニケーションスキルが使える……………	B
ビジネスコミュニケーションの基本を理解している……………	C
Cのレベルに達していない……………	D

#### 教科書：

樋口貴子著 『就職スキル・コミュニケーションスキル』（有）キャリアサポーター  
※最初の授業内で販売します。

#### 参考文献：

授業の中で適宜、紹介します。

#### 実験・実習・教材費：

なし。※教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布します。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A42301	キャリア形成演習 I	4	1	樋口貴子 他

期間	曜日	時限	備考：定員60名。 この授業については、履修登録期間中には登録は行わず、事前説明会を行ったうえで、別途期間を定めて履修登録を行います。合宿は12月13日(土)～14日(日)に愛知県青年の家で実施予定。
後期	集中	-	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
キャリア形成 キャリア選択 将来設計 就職活動 社会への移行準備	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力(意思決定力) 効果的な社会参加

#### 授業テーマ：

本格的な就職活動を控え、実践的な就職活動の対策として1泊2日の合宿形式で就職力の強化をはかります。

#### 授業の概要：

各種採用選考を模擬体験することにより、就職活動における自らの課題を明確にします。また、それを踏まえて今後どのように就職活動を進めていけばよいのかを学びます。

#### 事前課題：(15時間)

大学指定の履歴書作成 (5時間)、業界研究シート (5時間)、企業&職種研究シート (5時間)

#### 授業の計画：

(1回あたり1コマ90分※1回目は事前研修、2回～15回目は合宿として実施。)

1回	「オリエンテーション」	就活トレーニング合宿に必要な心構え、事前課題の取り組み方
2回	「最近の就職事情」	四大生の就職活動の実態、就活スケジュールの確認
3回	「採用側の本音」	企業が新卒に求めるもの、採用担当者の視点
4回	「会社説明会」	会社説明会での情報収集、会社訪問・OB/OG訪問の心得
5回	「面接選考」	個人面接・集団面接のポイント、グループワーク・グループ討議の進め方
6回	「グループ討議①」	グループ討議の実践1回目
7回	「グループ討議②」	グループ討議の実践2回目
8回	「面接マナー」	面接時の立ち居振る舞い、話し方
9回	「応募書類準備」	エントリーシート・履歴書の書き方
10回	「履歴書作成①」	履歴書の添削指導
11回	「履歴書作成②」	履歴書の修正(書き直し)、模擬面接の準備
12回	「筆記試験対策」	筆記試験の傾向と対策、SPI模試に挑戦
13回	「模擬面接①」	集団面接形式、ビデオ撮影・観察学習、模擬面接の振り返り
14回	「模擬面接②」	集団面接形式、ビデオ撮影・観察学習、模擬面接の振り返り
15回	「今後の目標設定」	合宿(2日間)の振り返り、就職活動に対する目標設定

#### 授業方法：

講義と演習を交えて展開します。演習では、グループ討議と模擬面接(ビデオ撮影)の二本立てで展開します。また、必要に応じて、履歴書の添削などを含めた個別指導も行います。

#### 達成目標：

自らの将来展望を明確化するとともに、その実現に向けて、今後の就職活動を主体的かつ自立的に進めることができる力を身に付けます。

#### 評価方法：

授業の取り組み：50%、演習・課題：50%

- 自らの将来展望を明確にし、その実現に向けた就職活動を主体的かつ自立的に進めることができる… S  
 自らの将来展望をある程度明確化したうえで、就職活動を主体的に進めることができる…………… A  
 自らの将来展望を部分的に明確化したうえで、就職活動の進め方を理解している…………… B  
 基本的な就職活動の進め方を理解している…………… C  
 Cのレベルに達していない…………… D

#### 教科書：

大学指定「キャリアハンドブック&就職活動手帳」 ※就職・進路相談室より配布

#### 参考文献：

授業の中で適宜、紹介します。

#### 合宿場所：

愛知県青少の家(愛知県岡崎市美合町並松1-2 名鉄美合駅より900m:徒歩15分)

#### 実験・実習・教材費：

参加費5,000円(教材費・宿泊費・食費等を含む)

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A10801	スポーツ実習（1）A	4	1	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
奈良公園 長谷 室生 山辺の道	社交性 効果的な社会参加 美的感受性

#### 授業のテーマ：

文化財や風土を観照しつつトレッキングをおこない、地域の自然環境と伝統文化にふれます。

#### 授業の概要：

集中授業として、ゴールデン・ウィークの学休期間5月1日（木）～5日（月）の内の3日を利用して、2泊3日の日程で奈良公園周辺・山辺の道・長谷・室生の史跡・寺社をトレッキングしながら巡ります。

\*日程・コースは最初の授業に出席者で相談し変更することができます（後期期間中でも可）。

#### 授業の計画：

最初の3回の授業日で概要説明、トレッキングコースの詳細、宿泊施設の予約と部屋割りなどを決めます。詳細な行程は直前の週の授業時間に配布します。

\*この授業に出席しなかった受講生は集中授業には参加できません。

集中授業（案）

1日目：近鉄天理駅集合。山辺の道をトレッキング（近鉄天理駅→石上神宮→長岳寺→近鉄柳本駅）。天理市で宿泊。

2日目：長谷寺周辺と室生寺周辺のトレッキング。天理市で宿泊。

3日目：近鉄奈良駅下車後奈良公園周辺をトレッキング（東大寺戒壇堂→法華堂→春日大社→新薬師寺→白毫寺→奈良町）。近鉄奈良駅で解散。

\*コースは、天候その他の理由で変更の可能性があります。

#### 授業方法：

寺社・史跡を徒歩で巡り（1日約10km程度）、レポートを作成。

#### 達成目標：

地域文化と自然に親しみながら、都市生活で鈍化しがちな身体と感覚器官を活性化させ、健康増進を図る。

#### 評価方法：

授業に対する取組み80%、レポート20%。

#### 教科書：

石井亜矢子『仏像の見方ハンドブック』池田書店 998円

#### 参考文献：

田中英道『法隆寺とパルテノン』祥伝社 1,800円

#### 実験・実習・教材費：

宿泊費は1人1泊4～6千円くらい。現地集合・解散の為、交通費は乗車駅や交通機関などで異なる（自宅から奈良への往復その他で8～9千円くらい）。その他、寺社拝観料（7ヶ所参拝、1ヶ所につき300～600円）が必要です。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A10901	スポーツ実習（1）B	4	1	菅原太
<b>期間</b>	<b>曜日</b>	<b>時限</b>	<b>備考：</b>	
後期	木	3		
<b>授業のキーワード</b>		<b>人間環境大学が育む八つの能力</b>		
三十三所観音 法蔵寺 山林 石仏		分析・総合の思考力と判断力 社交性 美的感受性		

**授業のテーマ：**

文化財や自然の風土を観照しつつトレッキングをおこない、自然環境と地域文化に触れます。

**授業の概要：**

本宿旧街道沿いにある法蔵寺の裏山の石仏を、トレッキングしながら調査します。

**授業の計画：**

1. 日本の仏教美術についての講義。
  2. 三十三所観音の成り立ちについての講義。
  3. 仏像の見分け方の講義。
  - 4～14. 法蔵寺三十三所観音のフィールド調査。
  15. まとめ
- \*天候により変更あり。

**授業方法：**

法蔵寺裏山のフィールド調査をおこない、そこにある三十三体の観音像の図像的特徴を観察し、観音名を当てるゲーム形式。

**達成目標：**

地域文化と自然に親しみながら、都市生活で鈍化しがちな身体と感覚器官を活性化させ、健康増進を図る。

**評価方法：**

授業に対する取組み 70%、三十三ヶ所観音調査レポート提出 30%。

**教科書：**

石井亜矢子『仏像の見方ハンドブック』池田書店 998円

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A11401	スポーツ実習（４）A	4	1	永田恵理

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
前期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スポーツを楽しむ 体力づくり 基本技術の習得 仲間作り	コミュニケーション力 社交性（社会的相互関係力） 効果的な社会参加

**授業のテーマ：**

卓球を行うことで、運動不足解消や体力向上を目指す。さらに、基礎練習やゲームを通じて体を動かす爽快感や新しい仲間を作り活動するなど、スポーツをする楽しさを実感できると良い。

**授業の概要：**

卓球は誰もが気軽に行えるスポーツであるので、更に技術を身に付けることで、体力差や男女差に関係なくゲームを楽しめると良い。また、基礎練習やゲームを行う中で、他の受講生とコミュニケーションをとり、親交を深める場になると良い。

**授業の計画：**

- (1) 基礎練習（フォアハンド、バックハンド、ドライブ、ツッツキ、スマッシュ、サーブ）
- (2) 応用練習（基礎練習を複合させた練習）
- (3) シングルスゲーム（ルール、ゲームの流れの学習）
- (4) ダブルスゲーム（ルール、ゲームの流れの学習）
- (5) ゲーム（リーグ戦、団体戦など）

**授業方法：**

一回の授業の流れは、ウォーミングアップ、技術練習、ゲーム、クーリングダウンとする。技術練習の内容を徐々にレベルアップさせることにより、ゲームの内容を向上できると良い。

**達成目標：**

卓球の技術を高めることや、ゲームに勝つことも大事であるが、最も大切なのは、積極的に参加し、真面目に取り組むことである。つまり、運動能力云々より、技術向上の為に努力できるかが大事であり、また周囲と協力し、皆が楽しく円滑に活動できるよう、率先して行動できるようになることが目標となる。

**評価方法：**

通常授業内での評価

**教科書：**

なし

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

**備考：**

運動できる服装と体育館シューズが必要

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A11501	スポーツ実習（４）B	4	1	永田恵理

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スポーツを楽しむ 体力づくり 基本技術の習得 仲間作り	コミュニケーション力 社交性（社会的相互関係力） 効果的な社会参加

**授業のテーマ：**

バドミントンを行うことで、運動不足解消や体力向上を目指す。また、ゲームやその運営をすることにより、仲間作りや互いに協力して活動する能力を身に付けることをテーマとする。さらに、スポーツの楽しさを実感し、生涯を通じてスポーツをする大切さや、その意義について学習する。

**授業の概要：**

バドミントンは運動量が多く、様々な動きを必要とするため、授業を通して運動不足を実感したり、運動習慣の必要性を感じる場になると良い。また、リーグ戦などを円滑に進めるために周囲と協力して活動し、他の受講生とコミュニケーションをとることで、親交を深める場になると良い。

**授業の計画：**

- (1) 基礎練習（クリアー、ドロップ、ヘアピン、スマッシュなど）
- (2) 応用練習（基礎練習を複合させた練習）
- (3) シングルスゲーム（ルール、ゲームの流れの学習）
- (4) ダブルスゲーム（ルール、ゲームの流れの学習）
- (5) ゲームやその運営（リーグ戦、団体戦など）

**授業方法：**

一回の授業の流れは、ウォーミングアップ、基礎練習、ゲーム、クーリングダウンとする。基礎練習、チーム練習の内容を徐々にレベルアップさせることにより、ゲームの内容を向上できると良い。

**達成目標：**

バドミントンの技術を高めることやゲームに勝つことも大事であるが、最も大切なのは、積極的に参加し、真面目に取り組むことである。つまり、運動能力云々より、技術向上の為に努力できるかが大事であり、また周囲と協力し、皆が楽しく円滑に活動できるよう、率先して行動できるようになることが目標となる。

**評価方法：**

通常授業内での評価

**教科書：**

なし

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

**備考：**

運動できる服装と体育館シューズが必要



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A20101	情報実習（1）	4	2	飛鷹正範

期間	曜日	時限	備考：履修者指定クラス
前期	集中	A・C	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション力 グローバルな視野	コンピュータの活用 ITリテラシ 情報技術

#### 授業のテーマ：

情報技術を正確に効率よく活用するための基礎知識と、実習を通してワープロソフトによる文書作成の基本、表計算ソフトの利用技術として集計・グラフ表現・データベース機能、またプレゼンテーションソフトの基礎、およびネットワークの利用として電子メールの送受信・インターネットの基礎知識など、パソコン検定3級程度の知識・技術の習得を目指す。

#### 授業の概要：

前半では、ワードの操作を実習通して身に付ける。後半では、パワーポイント・エクセルの操作を実習通して身に付ける。また、インターネットの使い方、メールの送受信、またその際に必要となるセキュリティやマナーなど、情報技術を活用する上で必須となる知識を学ぶ。

#### 授業の計画：

前半	後半
1回 パソコン・Windowsの基礎	1回 パワーポイント：基本操作・インターネットの仕組み
2回 日本語入力	2回 パワーポイント：応用操作・セキュリティ
3回 インターネット基礎	3回 パワーポイント：実践・インターネットに関わる権利
4回 メールを活用・データのコピー	4回 パワーポイント：実践・発表
5回 インターネットの活用	5回 エクセル：基礎
6回 ワード：基礎	6回 エクセル：表計算
7回 ワード：書式設定と編集	7回 エクセル：絶対参照
8回 ワード：表の作成	8回 エクセル：IF関数
9回 ワード：オブジェクトの作成	9回 エクセル：グラフの作成基礎
10回 ワード：図形描画とスマートアート	10回 エクセル：グラフ作成応用
11回 ワード：差し込み印刷	11回 エクセル：データベースの活用
12回 ワード：オブジェクトを効果的に使った文書	12回 エクセル：応用関数
13回 ワード：ドロー実習	13回 エクセル：関数演習
14回 ワード：ドロー実習	14回 エクセル：エクセルの実践問題
15回 ワード：総合演習	15回 エクセル：ワードとの連携

#### 授業方法：

テキストに沿って、講義を交えながらパソコンを操作して実習する。  
評価項目ごとに演習課題の作成に取り組む。

#### 達成目標：

コンピュータ・インターネットを活用してレポート、論文の作成を効率よくできる能力を身につける。

#### 評価方法：

評価項目ごとに演習課題に取り組み、その達成度と普段の出席状況・受講態度などから総合評価する。  
評価の内訳は、出席点15%、テスト（演習問題）60%、課題と受講態度25%である。

#### 教科書：

『Windows 7対応30時間でマスター Word2010』（実教出版株式会社）  
『Windows 7対応30時間でマスター Excel2010』（実教出版株式会社）  
『キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2014』（日経BP社）

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A20201	情報実習（2）	4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ヒストグラム 基本統計量 相関関係 回帰分析 主成分分析	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

マーケティング、ファイナンスに必要なビジネス統計の手法をExcelを操作しながら身につけていく。

#### 授業の概要：

前期は、Excelの基本的な操作からはじめて、教科書の第2章までを学習する。後期は、Excelのより高度な使用法を活用して、教科書の第3章から第5章のはじめまでを学習する。

#### 授業の計画：

##### 前期

1. ガイダンス
2. エクセルの基本操作
3. データの取り込み
4. 大量データベースの操作
5. データ分析の基礎：ヒストグラム
6. エクセル操作のまとめ
7. データの中心を求める
8. データのバラツキを求める
9. 正規分布
10. 基本統計量のまとめ
11. 標本抽出
12. ビジネスのさまざまな分野への応用
13. 帰無仮説と対立仮説
14. 検定法
15. 全体まとめ

##### 後期

1. ガイダンス
2. 散布図と相関関係
3. 相関分析
4. 回帰分析
5. 回帰分析ツール
6. 重回帰分析
7. まとめ（1）
8. 時系列分析の基礎
9. サイクル、季節変動、ノイズ
10. 過去から将来を予測する（1）
11. 過去から将来を予測する（2）
12. まとめ（2）
13. 主成分分析の基礎（1）
14. 主成分分析の基礎（2）
15. 全体まとめ

#### 授業方法：

PCを操作しながら問題を解いていく実習形式による。

#### 達成目標：

Excelを用いて、基本的な統計量を計算でき、確率論的にデータを捉えられるようになる。また、EXCELの機能の一つであるソルバーを用いてさまざまな条件を付加したシミュレーションを実施し、最適解を求めることができるようになる。

#### 評価方法：

授業への取組（30%）に試験の結果（70%）を加味して判定する。

#### 教科書：

関 正行『Excelで経営情報を分析するビジネス統計入門』（プレジデント社）

#### 参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A20202	情報実習(2)	4	2	坂本真也

期間	曜日	時限	備考:
通年	水	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
表計算 t検定 図表作成 関数の利用	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ:

心理学と関連する領域において、その関係を客観的データとして数量的に把握し統計・分析することが重要である。数量的なデータをどのようにまとめるか、どのように検定するのかを表計算ソフト(Excel)を利用し、関数の利用や図表の作成を行っていく。

#### 授業の概要:

まず、調査によって得られるデータにはどのようなものがあり、何を測定しているのか検討・解説する。前期ではExcelの基本的な利用方法などを学習し、後期では、Excelを利用して、平均値、標準偏差、不偏分散、ルートの計算など関数の使用方法について理解し、図表としてまとめる作業へつなげていく。

#### 授業の計画:

##### 前期

1. Excelによるデータ入力
2. 基本計算①
3. 基本計算②
4. 計算問題①
5. 計算問題②
6. 表作成①
7. 表作成②
8. グラフ作成①
9. グラフ作成②
10. プレゼンテーション①
11. プレゼンテーション②
12. データに応じた図表作成①
13. データに応じた図表作成②
14. データに応じた図表作成③
15. まとめ

##### 後期

1. データ尺度
2. 数量的データとExcelの利用
3. 関数の利用①
4. 関数の利用②
5. 関数の利用③
6. 実践問題①
7. 実践問題②
8. 実践問題③
9. 調査・統計を利用した図表の作り方
10. 図表作成①
11. 図表作成②
12. 調査データのまとめ方①
13. 調査データのまとめ方②
14. 調査報告の記述方法
15. 発表方法

#### 授業方法:

配布プリントに沿って解説を行い、表計算ソフトを用いてデータ入出力の方法を習得していく。また、必要に応じてプレゼンテーションで利用する図表の作成方法についても取り上げる。

#### 達成目標:

数量的なデータをExcelの関数を使用し、図表として表現できるようになること

#### 評価方法:

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

- S: 数量的なデータを効果的に関数・図表を用いてまとめることができる
- A: 数量的なデータを関数・図表を用いてまとめることができる
- B: 数量的なデータを関数・図表を用いて部分的にまとめることができる
- C: 数量的なデータを部分的に関数・図表を用いることができる
- D: Cに達していない

#### 教科書:

なし

#### 参考文献:

なし

#### 実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30101	英語（１）（再履修者クラス）	4	2	白井恵三

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
前期	月	1・2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
基礎英文法力 語彙力	コミュニケーション力

#### 授業のテーマ：

今まで習ってきた英文法を理解し、それを用いて英文を解釈できるスキルを習得します。

#### 授業の概要：

基礎英文法を理解し、教科書の問題を解くことで身につけます。また、英文については文を構造的に分析し、いかに日本語に変換するのかその分析の仕方を習得します。

#### 授業の計画：

- |                      |                               |
|----------------------|-------------------------------|
| (1) Introduction     | (16) Unit 13 接続詞 (I)          |
| (2) Unit 1 be動詞      | (17) Unit 14 不定詞 (I) ・動名詞 (I) |
| (3) Unit 2 一般動詞 (現在) | (18) Unit 15 受動態              |
| (4) Unit 3 一般動詞 (過去) | (19) Unit 16 完了形              |
| (5) Unit 4 進行形       | (20) Unit 17 接続詞 (II)         |
| (6) Unit 5 未来形       | (21) Unit 18 5つの基本文型          |
| (7) Unit 6 助動詞       | (22) Unit 19 各種疑問文            |
| (8) Unit 7 名詞・冠詞     | (23) Unit 20 不定詞 (II)         |
| (9) Unit 8 代名詞       | (24) Unit 21 Itの特別用法          |
| (10) Unit 9 前置詞      | (25) Unit 22 分詞・動名詞 (II)      |
| (11) Unit 10 形容詞・副詞  | (26) Unit 23 関係代名詞            |
| (12) Unit 11 比較      | (27) Unit 24 仮定法              |
| (13) Unit 12 命令文・感嘆文 | (28) Exercise 3               |
| (14) Exercise 1      | (29) Exercise 4               |
| (15) Exercise 2      | (30) Exercise 5               |

#### 授業方法：

予め予習をし、教科書の演習問題を自分の力で解いて下さい。授業ではその単元の文法内容を解説し、演習問題の答え合わせをします。また、単元によってはより理解度を深めるためにプリントを用意することがあります。

#### 達成目標：

基本的英文法を理解し、実用英語検定準2級レベルに達している。

#### 評価方法：

期末試験（100％）による総合評価。

S：実用英語検定準2級レベルをほぼ完全に出来る。

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる。

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションができる。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない。

#### 教科書：

Tetsuzo Sato、Yukari Aiko著「大学生の英語入門<改訂版>」南雲堂 1,900円

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30201	英語（２）（再履修者クラス）	4	2	白井恵三

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
後期	月	1・2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
基礎英文法 日英文化比較	コミュニケーション力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

イギリスの文化を紹介する英文を読みながら基礎的な英文法を確認し、同時に日本の文化との違いに気付きます。

**授業の概要：**

英文を読むことで各文の構造を解説し、また、基礎的な英文法を確認します。

**授業の計画：**

(1) Lesson 1	present tense	(16) Lesson 14	comparisons
(2) Lesson 2	nouns, pronouns	(17) Lesson 15	gerunds
(3) Lesson 3	past tense	(18) Lesson 16	passive voice
(4) Lesson 4	present perfect tense	(19) Lesson 17	numbers
(5) Lesson 5	progressives	(20) Lesson 18	subjunctives
(6) Lesson 6	adverbs	(21) Lesson 19	relatives
(7) Lesson 7	causative verbs	(22) Lesson 20	negatives
(8) Lesson 8	auxiliary verbs	(23) Lesson 21	participial constructions
(9) Lesson 9	adjectives	(24) Lesson 22	interrogatives
(10) Lesson 10	prepositions	(25) Lesson 23	imperatives
(11) Lesson 11	conjunctions	(26) Lesson 24	reported speech
(12) Lesson 12	to infinitives	(27) Lesson 25	articles
(13) Lesson 13	future tense	(28) Lesson 26	participles
(14) Exercise 1		(29) Exercise 3	
(15) Exercise 2		(30) Exercise 4	

**授業方法：**

テキストに沿って進めます。また、文法の単位によってはより理解度を深めるためにプリントを用意することがあります。

**達成目標：**

授業内容を十分に理解している。

**評価方法：**

期末試験（100％）による総合評価。

S：授業内容をほぼ完全に出来る。

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる。

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションができる。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない。

**教科書：**

Terry O'Brien他著「ストーリーで楽しむ日本とイギリス」南雲堂 2,000円

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30301	英語（3）	4	2	藪谷・山根

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
グローバル人材 異文化理解 コミュニケーション力 情報発信 反復学習 ヒアリング 自学自習	コミュニケーション力 グローバルな視野 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ：

企業がウェブサイトで発信するニュースリリース、事業案内、製品紹介、投資家関連情報など、実際の企業活動が反映された文書を題材に、企業の情報発信に欠かせない語彙・語法、文書スタイルに込められた多様な経営戦略、世界規模での事業展開、最新の業界動向を学ぶ。

#### 授業の概要：

- ①ビジネス英文文書に親しむ ②英文法の復習とスキルアップ ③企業・業界研究  
上記3つを連携させてグローバル人材の基礎力を身につける

#### 授業の計画：

- 1 ガイダンス
- 2 ① 「ローソン～店舗の多様化による顧客拡大」の和訳
- 3 小売商業・コンビニ業界についての解説
- 4 関連文法の確認
- 5 ② 「ソニー銀行～フェアで便利なネット銀行」の和訳
- 6 信販・銀行業界におけるIT活用についての解説
- 7 関連文法の確認
- 8 中間の復習
- 9 ③ 「東京海上グループ～地球温暖化への挑戦」の和訳
- 10 企業の社会的責任についての解説
- 11 関連文法の確認
- 12 ④ 「三菱重工業・三菱航空機～日本の空から世界の空へ」の和訳
- 13 国産飛行機への期待と課題についての解説
- 14 関連文法の確認
- 15 全体的な復習

#### 授業方法：

テキストのテーマ（ケーススタディ）ごとに以下の手順クローで検討する。

- ① 受講生が順にテキストを和訳する。
- ② 当該企業・業界に関する現状と課題、経営的背景について検討する。
- ③ 英文法上の理解度を確認し、復習する。さらに関連文法を学びステップアップを図る。

#### 達成目標：

- ・やや長文で簡潔、論理的な構文を通じて、ビジネス文章のスタイルを知る。
- ・グローバル社会で奮闘する日本の企業・ビジネスの姿を知る。
- ・基本構文を100文程度、習熟する。

#### 評価方法：

- 期末試験100%で評価する
- ・和訳し、内容の理解度は高い…………… S
  - ・和訳し、内容の理解度はやや高い…………… A
  - ・機械的に和訳し、内容の理解度は普通かやや低い…………… B
  - ・和訳に間違いが多く、内容の理解度は低い…………… C
  - ・和訳することがほぼできない、内容の理解度は低い…………… D

#### 教科書：

成美堂「Styling Corporate Messages 世界で活躍する日本の企業」

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A31001	英語（6）	4	2	白井恵三

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読解力 独創性と成長戦略	コミュニケーション力

#### 授業のテーマ：

日本のトップ企業の独創性と成長戦略を英文を読み、英文の読解力だけでなく、就職活動する際のヒント並びに今後の人生に不可欠な知恵となります。

#### 授業の概要：

英文を読み、各文を構造的に解説します。また、本文で使用された有効な表現を確認し、また、ディクテーションをすることでリスニング力も強化します。

#### 授業の計画：

- |                |         |                 |         |
|----------------|---------|-----------------|---------|
| (1) Chapter 1  | アサヒグループ | (16) Chapter 8  | 大正製薬    |
| (2) Chapter 1  | アサヒグループ | (17) Chapter 9  | 豊田通商    |
| (3) Chapter 2  | キャノン    | (18) Chapter 9  | 豊田通商    |
| (4) Chapter 2  | キャノン    | (19) Chapter 10 | 日本金銭機械  |
| (5) Chapter 3  | KDDI    | (20) Chapter 10 | 日本金銭機械  |
| (6) Chapter 3  | KDDI    | (21) Chapter 11 | 日本経済新聞社 |
| (7) Chapter 4  | シチズン    | (22) Chapter 11 | 日本経済新聞社 |
| (8) Chapter 4  | シチズン    | (23) Chapter 12 | HOYA    |
| (9) Chapter 5  | スズキ     | (24) Chapter 12 | HOYA    |
| (10) Chapter 5 | スズキ     | (25) Chapter 13 | マブチモーター |
| (11) Chapter 6 | 積水ハウス   | (26) Chapter 13 | マブチモーター |
| (12) Chapter 6 | 積水ハウス   | (27) Chapter 14 | ヤマダ電機   |
| (13) Chapter 7 | セブンイレブン | (28) Chapter 14 | ヤマダ電機   |
| (14) Chapter 7 | セブンイレブン | (29) Chapter 15 | ユニクロ    |
| (15) Chapter 8 | 大正製薬    | (30) Chapter 15 | ユニクロ    |

#### 授業方法：

テキストに沿って進めます。また、文法の単位によってはより理解度を深めるためにプリントを用意することもあります。

#### 達成目標：

授業内容を十分に理解している。

#### 評価方法：

期末試験（100％）による総合評価。

S：授業内容をほぼ完全に出来る。

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる。

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションができる。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない。

#### 教科書：

Kenji Ozawa他著「日本を代表する企業で学ぶ総合英語」南雲堂 2,100円

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30501	海外英語実習 I	4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：この科目は事前にガイダンスを実施のうえで履修登録を確定させます。後日、別途期間を定めて追加履修登録を受付けます。
前期	集中	8月頃	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
英語運用力 異文化理解	コミュニケーション力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

授業で学んだ英語力やその運用能力をより高めること、また、実生活を通して英語圏の文化や生活・風俗・歴史にじかに触れ、人々と英語でコミュニケーションすることにより、国際人としての視野を広げる。なお、このプログラムにおいては、滞在中に起こる諸問題を自ら解決する能力を身につけることも目的とするので、原則として教員は同行しない。

**授業の概要：**

研修先で実施されるテストにより習熟度別のクラスに配属された上で、1週当たり20時間で構成される集中コースを4週間受講し、日常的な英語を学ぶ。

**授業の計画：**

研修校のプログラムに準ずる。

**授業方法：**

研修校のプログラムに準ずる。

**達成目標：**

英語圏で生活するのに不自由しない程度の語学力と文化理解力を身につける。

**評価方法：**

研修校で発行される成績に基づいて行う。

**教科書：**

研修校で与えられる。

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

**研修にかかる費用（概算）：**

50万円程度（航空券代20万円程度、レッスン代（テキスト代含む）滞在費30万円程度、その他）  
いったん納入された費用は返還されない。

**登録方法：**

4月下旬に説明会を行い適性に関する審査のうえ、別途履修登録を行う。

**危機管理について：**

旅行者損害保険には必ず加入してもらおうが、病気、事故、犯罪被害などの諸問題に関しては、自己責任を基本とする。



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30601	時事英語	4	2	石上文正

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
英語を通して世界を知る	コミュニケーション 分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

この授業の目的は、英字新聞や英語の雑誌を読む力を身につけることを目的としています。さらに、授業に準拠したテープも聴いてもらい、ある程度海外の英語ニュースを聴き取れる力を身につけることも目指します。また、時事英語はたんなる英語の学習ではなく、ニュース英語を通して、現代の社会、内外の政治、経済、環境、軍事等についての理解を深めることも重要な目的です。

#### 授業の概要：

授業はテキストにそって行い、幅広い分野の英文記事を読みます。本学の学生の専攻を考慮して、環境等に関する記事も、できるだけ多く読むようにします。

#### 授業の計画：

##### 前期

- 1～3. Chapter 1 国内政治
- 4～6. Chapter 2 ビジネス
- 7～9. Chapter 3 外交・国際会議
- 10～12. Chapter 4 海外トピックス・文化
- 13～15. Chapter 5 軍事

##### 後期

- 1～3. Chapter 6 災害・気象
- 4～6. Chapter 7 犯罪・司法
- 7～9. Chapter 8 環境・資源・エネルギー
- 10～11. 環境問題に関する自作プリント
- 12～14. Chapter 9 科学・医療
- 15. まとめ

#### 授業方法：

基本的には、テキストにそって英文記事を読み進めていきます。とくに、時事英語学習では、それぞれの分野のある程度の知識や語彙が必要なので——例えば、裁判の記事を読むには、裁判関連の知識および語彙が必要——英文記事の背景知識や語彙の説明等をおこないます。なお、授業には必ず英和辞典を持ってきてください。

#### 達成目標：

ニュース英語の社会、政治、経済、環境、軍事等についての特殊な語彙や言い回しを理解・習得し、自力で英語のニュースを英訳できるようになることを達成目標としています。

#### 評価方法：

年2回の定期試験によって評価します。前期および後期試験をそれぞれ50点満点とし、両テスト足して評価します。なお、試験の前には準備すべき点を詳細に示したプリントを配布します。

#### 教科書：

『時事英語の総合演習 2014年度版』 朝日出版社 1,500円+消費税  
授業に、英和辞典を持参してください

#### 参考文献：

時事的な問題についての自作のプリントを、授業中に配布します。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30701	英会話（1）	4	2	ジェラルド・マクレラン

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
通年	金	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
Speaking Listening Communicating	コミュニケーション力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

In this class students will be required to be able to communicate in English at a basic level. This class will concentrate on reinforcing the language learned at junior high school. As the level is low, students will be expected to master it and to do well in tests. We will do easy tasks in English and there are many structured questions to build confidence.

**授業の概要：**

We will cover all the basic grammar points. Students should be prepared to speak in class and to contribute to the lessons. Students who assume a passive role will fail this class.

**授業の計画：**

- |                                  |                                |
|----------------------------------|--------------------------------|
| 1 : Unit 1 : Exchange students   | 16 : Unit 8 : Weather          |
| 2 : Unit 1                       | 17 : Unit 8                    |
| 3 : Unit 2 : Eating out          | 18 : Unit 9 : Vacations        |
| 4 : Unit 2                       | 19 : Unit 9 :                  |
| 5 : Unit 3 : Music               | 20 : Unit 10 : Buying Gifts    |
| 6 : Unit 3                       | 21 : Unit 10                   |
| 7 : Unit 4 : Activities          | 22 : Unit 11 : Rules           |
| 8 : Unit 4                       | 23 : Unit 11 :                 |
| 9 : Unit 5 : Physical Appearance | 24 : Unit 12 : Fun and Fitness |
| 10 : Unit 5                      | 25 : Unit 12 :                 |
| 11 : Unit 6 : Jobs               | 26 : Unit 13 : Health          |
| 12 : Unit 6                      | 27 : Unit 14 : Summer Plans    |
| 13 : Unit 7 : Personality        | 28 : Unit 14                   |
| 14 : Unit 7                      | 29 : Unit 15 : Getting Around  |
| 15 : Review                      | 30 : review                    |

**授業方法：**

We will use the textbook to discuss the various topics. Each unit should take two class periods.

**達成目標：**

The aim is to allow students to use language that they should already know in a natural way. Emphasis will be given to listening and speaking in this class. Students will be required to study.

**評価方法：**

Effort/ Participation : 30 % . Class Tests : 70 % . Students who DO NOT attend this class will fail. There will be two short class tests each semester. They will last about one hour.  
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 80% in class tests ..... S  
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 70% in class tests ..... A  
 Participates in class, communicates with difficulty, and gets over 60% in class tests ..... B  
 Participates in class, communicates with help, and gets over 60% in class tests ..... C  
 Fails to show, doesn't participate in class, gets below 60% in class tests ..... D

**教科書：**

David Nunan, Go For it! Thomson,

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

None

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A30801	英会話 (2)	4	2	ジェラルド・マクレラン

期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
通年	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
Speaking Listening Communicating	コミュニケーション力

**授業のテーマ：**

In this class students will be required to be able to communicate in English at a basic level. This class will concentrate on reinforcing the language learned at junior high school. As the level is low, students will be expected to master it and to do well in tests. We will do easy tasks in English and there are many structured questions to build confidence. Students will also be expected to make a final 2 minute presentation.

**授業の概要：**

We will cover all the basic grammar points. Students should be prepared to speak in class and to contribute to the lessons. Students who assume a passive role will fail this class.

**授業の計画：**

- |  |   |
|--|---|
| 1 : Unit 1 : What's in a name?                   | 16 : Unit 8 : Plans?                    |
| 2 : Unit 1                                       | 17 : Unit 8                             |
| 3 : Unit 2 : Where do you live?                  | 18 : Unit 9 : Directions?               |
| 4 : Unit 2                                       | 19 : Unit 9                             |
| 5 : Unit 3 : When is your birthday?              | 20 : Unit 10 : How do you make that?    |
| 6 : Unit 3                                       | 21 : Unit Presentation (How to ……)      |
| 7 : Unit 4 : Free Time                           | 22 : Unit 11 : Marriage                 |
| 8 : Unit 4 : Presentation (Free time activities) | 23 : Unit 11                            |
| 9 : Unit 5 : Can you dance?                      | 24 : Unit 12 : Future?                  |
| 10 : Unit 5                                      | 25 : Unit 12                            |
| 11 : Unit 6 : Free Time                          | 26 : Unit 13 : What's your father like? |
| 12 : Unit 6                                      | 27 : Unit 14 : Tall, taller, tallest    |
| 13 : Unit 7 : Holidays?                          | 28 : Unit 14                            |
| 14 : Unit Presentation (Holidays)                | 29 : Unit 15 : A good restaurant        |
| 15 : Review                                      | 30 : review                             |

**授業方法：**

We will use the textbook to discuss the various topics. Each unit should take two class periods. In addition, students will be required to make short presentations in English

**達成目標：**

The aim is to allow students to use language that they should already know in a natural way. Emphasis will be given to listening and speaking in this class. Students will be required to study. Students will be expected to speak out in class.

**評価方法：**

Effort/ Participation: 20 % . Class Tests: 80 % . Students who DO NOT attend this class will fail. There will be two short class tests each semester. They will last about one hour.  
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 80% in class tests ..... S  
 Participates in class, speaks fluently, and gets over 70% in class tests ..... A  
 Participates in class, communicates with difficulty, and gets over 60% in class tests ..... B  
 Participates in class, communicates with help, and gets over 60% in class tests ..... C  
 Fails to show, doesn't participate in class, gets below 60% in class tests ..... D

**教科書：**

Gerry Mclellan. Everyday English. MGS publications (¥2,000)

**参考文献：**

None

**実験・実習・教材費：**

None

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33101	中国語（1）	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション 読み書き 異文化理解	コミュニケーション力

#### 授業のテーマ：

中国語入門。初めて中国語を学ぶ人を対象とする。

#### 授業の概要：

- ・ピンインと簡体字を習得する。
- ・基礎的な文法事項を学び、それらを用いた表現を練習する。

#### 授業の計画：

- |    |                |                      |
|----|----------------|----------------------|
| 前期 | 1. 発音          | 2. 人称代名詞、「是」の用法      |
|    | 3. 「的」の用法      | 4. 動詞述語文、疑問詞         |
|    | 5. 副詞「也」       | 6. 場所を示す指示代名詞        |
|    | 7. 形容詞述語文、量詞   | 8. 連動文、指示代名詞         |
|    | 9. 時間詞と時刻      | 10. アスペクト助詞          |
|    | 11. 選択疑問文      | 12. 副詞「都」、助動詞「想」     |
|    | 13. 反復疑問文、意志表示 | 14. 前置詞「在」、助動詞「能」「会」 |
|    | 15. まとめ        |                      |
| 後期 | 1. 年月日・曜日、時間量  | 2. 助動詞「打算」「要」        |
|    | 3. 動作の回数・順番    | 4. 二重目的語文            |
|    | 5. アスペクト助詞「着」  | 6. 程度副詞              |
|    | 7. 結果補語、方向補語   | 8. 「比」を用いた比較構文       |
|    | 9. 禁止の表現       | 10. 方位詞、変化の「了」       |
|    | 11. 「是～的」構文    | 12. 接続詞の用法           |
|    | 13. 使役文        | 14. 「把」構文            |
|    | 15. まとめ        |                      |

#### 授業方法：

- ・教科書にしたがって進める。
- ・随時、小テストを実施する。

#### 達成目標：

- ・ピンインを正しく発音できる。
- ・教科書収録の重要な表現が読み書きできる。

#### 評価方法：

- 試験（80％）と授業への取り組み（20％）により行う。
- S…正しい発音ができ、基礎的な文法事項を活用した表現ができる
- A…正しい発音ができ、基礎的な文法事項に基づいた表現ができる
- B…正しい発音ができ、基礎的な文法事項を用いた表現ができる
- C…ピンインを読むことができ、基礎的な文法事項を理解できる
- D…Cのレベルに達していない

#### 教科書：

竹島金吾監修、最新2訂版『中国語はじめの一步』、白水社、2,200円（税別）

#### 参考文献：

辞書などは授業時に紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33301	原書講読（中国語）Ⅰ	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読み書き コミュニケーション 異文化理解	コミュニケーション力

**授業のテーマ：**

中国語の初級をひととおり終えた人を対象とし、基礎的な力ならびに運用能力を高めることを目標とする。

**授業の概要：**

初級的な文法事項を復習しつつ、中国に関するテーマにそって学ぶ。

**授業の計画：**

テーマは以下の予定だが、変更する場合がある。

- |    |             |             |
|----|-------------|-------------|
| 前期 | 1. 初級文法の復習  | 2. 辞書の使い方   |
|    | 3. 地球的環境①   | 4. 地球的環境②   |
|    | 5. 地球的環境③   | 6. 人口大国①    |
|    | 7. 人口大国②    | 8. 中国語①     |
|    | 9. 中国語②     | 10. 中国語③    |
|    | 11. 中華料理①   | 12. 中華料理②   |
|    | 13. 黄河①     | 14. 黄河②     |
|    | 15. 前期のまとめ  |             |
| 後期 | 1. 名字①      | 2. 名字②      |
|    | 3. 大都市の若夫婦① | 4. 大都市の若夫婦② |
|    | 5. 大都市の若夫婦③ | 6. 砂嵐①      |
|    | 7. 砂嵐②      | 8. 大学入試①    |
|    | 9. 大学入試②    | 10. 大学入試③   |
|    | 11. 月給①     | 12. 月給②     |
|    | 13. 龍の伝説①   | 14. 龍の伝説②   |
|    | 15. 後期のまとめ  |             |

**授業方法：**

初級の文法事項を確認しつつ、文章を読み進める。

**達成目標：**

ピンインを正しく発音でき、かつ重要な表現が読み書きできる。

**評価方法：**

- 試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。
- S…正しい発音ができ、初級的な文法事項を活用した表現ができる
- A…正しい発音ができ、初級的な文法事項に基づいた表現ができる
- B…正しい発音ができ、初級的な文法事項を用いた表現ができる
- C…ピンインを読むことができ、初級的な文法事項を理解できる
- D…Cのレベルに達していない

**教科書：**

授業内で紹介。

**参考文献：**

辞書などは授業時に紹介する。

**実験・実習・教材費：**

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33401	原書講読（中国語）Ⅱ	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：原書講読（中国語）Ⅰを履修済みの方が対象。
通年	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読み書き コミュニケーション 異文化理解	コミュニケーション力

#### 授業のテーマ：

中国語の初級をひととおり終えた人を対象とし、基礎的な力ならびに運用能力を高めることを目標とする。

#### 授業の概要：

初級的な文法事項を復習しつつ、中国に関するテーマにそって学ぶ。

#### 授業の計画：

テーマは以下の予定だが、変更する場合がある。

- |    |             |             |
|----|-------------|-------------|
| 前期 | 1. 初級文法の復習  | 2. 辞書の使い方   |
|    | 3. 地球的環境①   | 4. 地球的環境②   |
|    | 5. 地球的環境③   | 6. 人口大国①    |
|    | 7. 人口大国②    | 8. 中国語①     |
|    | 9. 中国語②     | 10. 中国語③    |
|    | 11. 中華料理①   | 12. 中華料理②   |
|    | 13. 黄河①     | 14. 黄河②     |
|    | 15. 前期のまとめ  |             |
| 後期 | 1. 名字①      | 2. 名字②      |
|    | 3. 大都市の若夫婦① | 4. 大都市の若夫婦② |
|    | 5. 大都市の若夫婦③ | 6. 砂嵐①      |
|    | 7. 砂嵐②      | 8. 大学入試①    |
|    | 9. 大学入試②    | 10. 大学入試③   |
|    | 11. 月給①     | 12. 月給②     |
|    | 13. 龍の伝説①   | 14. 龍の伝説②   |
|    | 15. 後期のまとめ  |             |

#### 授業方法：

初級の文法事項を確認しつつ、文章を読み進める。

#### 達成目標：

ピンインを正しく発音でき、かつ重要な表現が読み書きできる。

#### 評価方法：

試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。

- S…正しい発音ができ、初級的な文法事項を活用した表現ができる
- A…正しい発音ができ、初級的な文法事項に基づいた表現ができる
- B…正しい発音ができ、初級的な文法事項を用いた表現ができる
- C…ピンインを読むことができ、初級的な文法事項を理解できる
- D…Cのレベルに達していない

#### 教科書：

授業内で紹介。

#### 参考文献：

辞書などは授業時に紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33501	ドイツ語（1）	4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ドイツ語 基礎 ドリル	コミュニケーション力 問題解決力 分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

ドイツ語文法の基礎を学び、基本的な単語・表現を記憶する。

#### 授業の概要：

会話調の短い簡明な文章でドイツ語への入門を導く教科書（全9課）に即し、ドイツ語文法の基礎知識の獲得を目指す。目安として、1年後にBeethovenの第9交響曲のAn die Freude「歓喜に寄す」の歌詞を文法的に完全に理解しドイツ語的に歌えるように指導したい。

#### 授業の計画（大体の予定）：

前期	内容	後期	内容
第1回	概論：ドイツ語の特徴と学習方法など	第1回	第5課-1
第2回	発音1	第2回	第5課-2
第3回	発音2	第3回	第5課-3
第4回	第1課-1	第4回	第6課-1
第5回	第1課-2	第5回	第6課-2
第6回	第1課-3	第6回	第6課-3
第7回	第2課-1	第7回	第7課-1
第8回	第2課-2	第8回	第7課-2
第9回	第2課-3	第9回	第7課-3
第10回	第3課-1	第10回	第8課-1
第11回	第3課-2	第11回	第8課-2
第12回	第3課-3	第12回	第8課-3
第13回	第4課-1	第13回	第9課-1
第14回	第4課-2	第14回	第9課-2
第15回	第4課-3	第15回	第9課-3

#### 授業方法：

受講者は、必ず予習をして出席すること。この作業なしで出席しても実力は上がらないし、評価も出来ない。

#### 達成目標：

ドイツ語の基礎文法と基本語彙の習得。

#### 評価方法：

- ①授業への参加態度（間違っても良いからあらかじめ見当をつけておく）。必ず予習して出席すること。
- ②宿題を課す。各課終了毎にテストを行う。
- ③上記の幾つかの平常点の合計で行い学期末定期試験は原則行わない予定である。授業の進展上、最終課のテスト時間が確保できない場合のみ、定期試験期間中に当該課のテストを行う事がある。

#### 教科書：

『はじめようドイツ語』（郁文堂）ISBN 978-4-261-01217-0 ¥2,500+税

#### 参考文献：

- <参考書>：（一応次のものを挙げておく）  
 常木実『標準ドイツ語』（郁文堂）¥2,500  
 <推薦辞書>：（このほかにもあるが、一応次のものを推薦する。学習意欲に応じて選択のこと）  
 a) 中級以上のドイツ語までやる気のある人には、『郁文堂独和辞典』第2版（郁文堂）¥4,200 [語彙数11万語]  
 b) 入門・初級程度で終わるつもりの人には、『新キャンパス独和辞典』（郁文堂）¥3,000 [語彙数2万3千語]  
 c) どちらか迷っている人には、『クラウン独和辞典』第3版（三省堂）¥4,100 [語彙数6万4000語] や『アクセス独和辞典』第3版（三修社）¥4,100 [語彙数7万3500語] や『フロイデ独和辞典』（白水社）¥4,000 [語彙数7万5千語] など  
 担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先ito@uhe.ac.jp

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A33701	海外ドイツ語実習 I	4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	8月頃	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
会話力 ドイツ文化 体験	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） 美的感受性

#### 授業のテーマ：

実際にドイツに滞在してドイツ語会話能力を向上させ、ドイツ文化を体感すること。

#### 授業の概要：

実際にドイツに滞在して、ドイツ文化とドイツ語に囲まれる生活をし、ドイツ語会話学校に在籍して、そこで学ぶ。

#### 授業の計画：

8月に、ドイツの語学学校ゲーテ・インスティテュート (Goethe-Institut) で、4週間の語学研修 Intensivkurs(vier Woche) を受ける。一日の授業時間は、午前中の4時間である。午後や週末には、任意参加の文化プログラムや小旅行が多数準備されているほか、晚には簡単な飲食会も随時開かれる。これらに積極的に参加し、各国からの参加者とコミュニケーションをとることが不可欠である。

#### 授業方法：

履修希望者は、4月23日(水曜日)までに、担当教員(吉田)に個別に相談すること。その際、ドイツ語のみによる面接を行なって、参加の可否を決定する。その後、参加者を対象として数回のオリエンテーションを実施する(日程と場所は別途指示)。帰国後レポートの提出を求めるが、まとまった参加者がある場合には、報告会を開催する。

#### 達成目標：

ドイツで少なくともある程度のドイツ語会話能力を養うこと。

#### 評価方法：

履修した語学学校で発行される修了証明書を提出してもらい、これによって評価する。オリエンテーションへの参加、帰国後のレポート等も評価対象とする。さらに、現地での履修態度について、担当教員が直接語学学校に問い合わせることもある。

#### 教科書：

事前にはなし。現地では現地の指示に従うこと。

#### 参考文献：

履修が決定した時点で、準備に役立つ参考書などを紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

研修費用は、二人部屋での滞在費用を含めて、およそ1,500ユーロ前後(大都市ほど高い)である。これ以外に、往復の航空運賃、現地での旅行費、食費、研修期間以外に旅行する場合は、その旅費、宿泊費等。

#### 特記：

担当教員は、研修の申し込みに関わる支援は或る程度行なうが、現地での滞在、研修、旅行等については一切支援しない。また、現地におけるリスク(事故、病気、犯罪被害等)もすべて参加者が自分で負わなくてはならず、担当教員は一切責任を負うことができない。履修は、以上の点を十分理解した上で行なうこと。



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A34001	フランス語（1）	4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション 読み書き 対話 異文化理解	コミュニケーション力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

現在フランス語が使われている地域とその歴史的経緯について概観し、フランス語を学ぶ意味について考える。フランス語を使ってコミュニケーションをとるとはということかについて考えを進め、コミュニケーションに必要な基礎知識（文法・語彙・表現）を学ぶ。

#### 授業の概要：

フランス語の基礎を学びながら、フランス語とフランス文化の理解を深める。日常的に使われるきわめて簡単な表現を理解し、簡単な内容であればフランス語でやり取りができるところまで到達できるようにする。

#### 授業の計画：

- |                            |                                  |
|----------------------------|----------------------------------|
| (1) ヨーロッパの中のフランス、フランスの文化   | (16) 前期の確認事項                     |
| (2) フランスとフランス語、つづり字と発音のしくみ | (17) 買い物をする                      |
| (3) 到着、あいさつ                | (18) パリの中の日本                     |
| (4) 名詞と基本表現                | (19) 食べ物の表現                      |
| (5) ホテルで                   | (20) 目的語の代名詞                     |
| (6) 動詞の基礎（1）               | (21) デパートで                       |
| (7) ランデヴー                  | (22) 過去の表現                       |
| (8) パリの人々、フランスの通貨          | (23) 友達を広げる表現                    |
| (9) カフェで                   | (24) サッカーを見に行く                   |
| (10) 形容詞の使い方               | (25) 代名動詞                        |
| (11) 電話をかける                | (26) 旅の話                         |
| (12) 代名詞の使い方               | (27) 別れ                          |
| (13) 道を尋ねる                 | (28) フランス語の検定試験にチャレンジ（1）         |
| (14) パリの美術館                | (29) フランス語の検定試験にチャレンジ（2）         |
| (15) 前期のまとめとチェック           | (30) 後期のまとめとチェック、フランス語のステップアップには |

#### 授業方法：

音声教材を利用して発音練習をし、基本的な表現をもとに練習問題をやります。予習は必要ありませんが必ず復習をしてください。

#### 達成目標：

「言語に関するヨーロッパ共通基準（CEF）」のA 1（基礎レベル入門：くだけた言い回しや日常的な語句、および具体的な用件をすませるためによく使われる簡単な表現を理解し用いることができる）またはフランス語技能検定試験5級合格ラインに到達できること

#### 評価方法：

試験による総合評価

S：A 1レベルをほぼ完全にできる。

A：上記項目について、やや問題はありますがほぼ完全にできる。

B：やや問題はありますが、ほぼコミュニケーションが可能である。

C：表現に問題はありますが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない。

#### 教科書：

藤田裕二 著 『新・彼女は食いしん坊！』 朝日出版社、2,400円

#### 参考文献：

『ロベール・クレ仏和辞典』（駿河台出版社）、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』（旺文社）、『プログレッシブ仏和辞典』（小学館）、『ディコ仏和辞典』（白水社）、『クラウン仏和辞典』（三省堂）

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A34201	海外フランス語実習 I	4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	8月頃	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション 読み書き 対話 異文化理解	コミュニケーション力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

フランス語が実際に使われている地域で学び、生活することによって、フランス語の運用能力をさらに高めること、同時にフランスの生活を直接体験することによって、机上の学修では学ぶことのできない生の文化に触れることを目標とする。

**授業の概要：**

8月の3週間をフランスの語学学校でフランス語研修を受ける。

**授業の計画：**

予定されている研修はフランス北西部の都市ルーアンにあるアリアンス・フランセーズでの夏期集中レッスン。詳細は別途。

**授業方法：**

現地のアリアンス・フランセーズでクラス分けテストを受けてグループレッスンを受ける。

**達成目標：**

**評価方法：**

アリアンス・フランセーズでの評価を受け、本学の評価基準にそって評価する。

S：A1レベルをほぼ完全にできる。

A：上記項目について、やや問題はあるがほぼ完全にできる。

B：やや問題はあるが、ほぼコミュニケーションが可能である。

C：表現に問題はあるが、コミュニケーションはどうか可能である。

D：Cのレベルに到達していない。

**教科書：**

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00301	環境保全論特殊講義 I A (生物環境論)	4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考:
前期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境 生活史 適応度 数理モデル	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力 (意思決定力)

#### 授業のテーマ:

人里の自然を構成する生態系の生物多様性の重要性を理解し、人類がどのような生態系サービスを楽しんでいるか、生物からどのような脅威を受けているかを学ぶことにより、人類が持続的な生活をおこなってゆくには何が必要かを考える機会とする。

#### 授業の概要:

人里の生態系について、その環境の特徴、生物群の特徴、適応的形質、共生系による生態系サービスを中心に解説する。また、近年大きな問題を起こしている侵略的外来生物の実態について紹介する。さらに、農業依存生物について、営農活動の変化にともなう減少・絶滅の現状を解説する。

#### 授業の計画:

1. 生活史環
2. 土壌生態系
3. 送粉共生系
4. 季節適応1
5. 季節適応2
6. 雑草1
7. 雑草2
8. 捕食者・被食者の個体群変動1
9. 捕食者・被食者の個体群変動2
10. 生態的地位と環境収容力
11. 個体群の増殖と生活史戦略
12. 侵略的外来生物1
13. 侵略的外来生物2
14. 農業依存種1
15. 農業依存種2

#### 授業方法:

板書を中心とした講義による。適宜資料を配布する。

#### 達成目標:

人為的な変動環境の理解、人為的撓乱と生物の関係についての理解、里山の自然を構成する生物群の特質の理解、生態系における各種の共生系の理解、侵略的外来生物が引き起こす問題についての正しい知識と理解。

#### 評価方法:

試験(100%)による。

#### 教科書:

なし。ただし、辞書として次の書籍の購入を薦める。  
生態学事典、共立出版、13,000円

#### 参考文献:

- 芹沢俊介, 「人里の自然」, 保育社, 2,300円 (税別)。  
角野康郎・遊磨正秀, 「ウェットランドの自然」, 保育社, 2,300円 (税別)。  
山口裕文, 「雑草の自然史」北海道大学図書刊行会, 3,000円。  
種生物学会, 「農業と雑草の生態学」, 文一総合出版, 3,600円 (税別)。  
日本生態学会, 「外来種ハンドブック」, 地人書館, 4,000円 (税別)。  
種生物学会, 「外来生物の生態学」, 一総合出版, 3,800円 (税別)。

#### 実験・実習・教材費:

#### その他:

「基礎数学」と「基礎生物学」を履修済みであることが望まれる。微分方程式の理解のために数学的要素が必要。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00501	環境保全論特殊講義ⅡA（生物多様性論）	4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
適応進化 生物種 種分化 非生物的環境 生物的環境	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） グローバルな視野

**授業のテーマ：**

生物多様性の創出メカニズムとしての進化。

**授業の概要：**

生物多様性について、進化生物学的な視点からの包括的理解を目指す。多様な環境への適応進化を基軸とした種分化の具体例を通して、生物多様性の進化的・歴史的価値を学ぶ。

**授業の計画：**

- 1～2. 生物の多様性と分類
- 3～5. 非生物的環境と生物多様性
- 6～8. 生物的環境と生物多様性
- 9～10. 種分化
- 11～12. 適応放散
- 13～15. 系統進化と分類

**授業方法：**

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

**達成目標：**

生物多様性を生み出す原動力としての生物進化を理解することにより、生物多様性の意義を生物科学の視点から捉えなおし、生物多様性への科学的思考力を養成する。

**評価方法：**

試験（100％）による。

**教科書：**

なし。

**参考文献：**

- 1) 八杉 竜一他, 「岩波生物学辞典第4版」, 岩波書店, 10,500 円。
- 2) 河野昭一監修, 「植物の世界」草本編上, 草本編下, 樹木編」, ニュートンプレス, 各1,800 ～ 2,040 円。
- 3) 岩槻邦男・馬渡峻輔, 「生物の種多様性」, 裳華房, 4,725 円。
- 4) 岩槻邦男・加藤雅啓, 「多様性の植物学1 植物の世界」, 東京大学出版会, 3,465 円。
- 5) 岩槻邦男・加藤雅啓, 「多様性の植物学3 植物の種」, 東京大学出版会, 4,830 円。
- 6) 馬渡峻輔, 「動物分類学の論理」, 東京大学出版会, 4,830 円。

**実験・実習・教材費：**

**その他：**

「環境保全論」、「基礎生物学」、「基礎化学Ⅱ」が履修済みであることが望まれる。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00601	環境保全論特殊講義ⅡB（生物多様性論）	4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
分布 固有種 生物地理 多様性比較 学名	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） グローバルな視野

**授業のテーマ：**

生物分布の科学、生物多様性の科学的評価、生物多様性の体系的理解。

**授業の概要：**

生物多様性について、生物地理学的視点からの包括的な理解を目指す。生物分布、種数に関する理論と比較法、生物名などの具体例を通して、生物多様性の歴史的・生態的価値を学ぶ。

**授業の計画：**

- 1～3. 生物多様性の現状
- 4～5. 分布と環境
- 6～7. 固有生物
- 8～10. 生物地理
- 11～12. 多様性の比較法
- 13～14. 学名と命名法
15. ホットスポット

**授業方法：**

板書を中心とした講義。資料を適宜配布。

**達成目標：**

生物多様性を大きく規定する生物分布について理解を深めるとともに、種数の比較法と生物名の体系化に関する科学的な考えを学ぶことで、生物多様性への科学的思考力を養成する。

**評価方法：**

試験（100％）による。

**教科書：**

なし。

**参考文献：**

- 1) 八杉 竜一他, 「岩波生物学辞典第4版」, 岩波書店, 10,500 円。
- 2) 鷲谷いづみ・矢原徹一, 「保全生態学入門－遺伝子から景観まで」, 文一総合出版, 3,150 円。
- 3) 「生態学入門」, 東京化学同人, 2,940 円。
- 4) 平嶋義宏, 「生物学名概論」, 東京大学出版会, 4,830 円。
- 5) マッカーサー, 「地理生態学」, 蒼樹書房, (絶版)。

**実験・実習・教材費：**

**その他：**

「環境保全論特殊講義Ⅱ（生物多様性論）A」、「環境保全論」、「基礎化学Ⅱ」、「基礎生物学」が履修済みであることが望まれる。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B00801	環境保全論演習及び実習	4	4	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
後期	水	1・2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
卒業研究 データ解析 発表技能 論理性 客観性	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力）

**授業のテーマ：**

卒業研究。調査計画の構築、データの解析技術、データの解釈。

**授業の概要：**

ゼミ形式での発表と議論を行うと同時に実習形式による指導を行う。

**授業の計画：**

初回時にガイダンス（発表順および実習の計画についての調整と決定）を行うため、必ず出席すること。

- 1：ガイダンスと発表順の決定
- 2：研究論文紹介
- 3～15：担当者による発表

**授業方法：**

研究レポート発表（3年）と卒業研究の中間発表（4年）とそれに対する議論形式で行う。また、データの収集と解析についての実習もあわせて行う。

**達成目標：**

卒業研究に必要な実験計画の構築能力、科学的客観性、科学的論理性、発表技術の習得。

**評価方法：**

レポート（100%）によって評価する。15分以上の遅刻は欠席とみなす。4回以上欠席の場合は単位を認めない。

**教科書：**

山田作太郎・北田修一、「生物統計学入門」、成山堂書店、3,800円（税別、各自で購入のこと）。

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

受講にあたっては、上記教科書の他に実習費（データ解析消耗品費、パソコン・プリンタ消耗品費）7,000円が必要。

**その他：**

本実習を受講するにあたり、「基礎数学」を履修済みであることが望ましい。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09101	森林環境・水環境化学講義A	4	2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
原子 元素 周期表 原子の構造 原子核 金属元素と非金属元素 結合 単体 化合物 水への溶解	分析・統合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

自然環境や生物に配慮した人間活動を行うためには、環境や生物内での物質のふるまいに関する知識を習得することが必要である。その習得のためには、物質の最小単位である原子に関する知識が前提になる。本講義では将来、自然環境保全に関わることを希望する学生を対象に、原子に関する基礎知識を習得させることを目標にしている。

#### 授業の概要：

本講義では、科学的思考の基礎となる原子に関する知識を（１）元素との関係、（２）大きさ、質量、（３）内部構造、（４）原子間の結合に整理して説明する。また、周辺知識として、（６）宇宙での原子の合成過程、自然環境中の元素存在度についても紹介する。

#### 授業の計画：

1. 元素と原子、金属元素と非金属元素、原子の構造
2. 原子オービタルと電子配置
3. 最外殻電子と価電子、原子の電子式
4. 元素の分類、物質の分類
5. 金属結合：金属元素の単体中の原子間の結合
6. 共有結合①：非金属元素の単体中の原子間の結合
7. 共有結合②：非金属元素と水素と酸素からなる化合物中の原子間の結合
8. 共有結合③：電気陰性度
9. イオン結合：金属元素と非金属元素の化合物中の原子間の結合
10. 水中での物質の溶解
11. 共有結合とイオン結合からなる化合物
12. 環境中の主要元素の存在形態
13. 岩石圏の化学像
14. 風化
15. 全体のまとめ

#### 授業方法：

教科書と配布資料にもとづいて、板書を中心に講義を進める。

#### 達成目標：

原子、その結合、物質に関する基礎知識を修得する。

#### 評価方法：

期末試験（100％）により行う。ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなければ、欠席と見なすので注意すること。

#### 教科書：

数研出版編集部、『新課程視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』、数研出版、914円

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09201	森林環境・水環境化学講義B	4	2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
糖類 タンパク質 核酸 脂質 グルコース アミノ酸 ヌクレオチド 脂肪酸 アルコール 脱水縮合と加水分解	分析・統合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

自然環境を科学的に理解するために、生物を構成する物質についての基礎的な知識は必須である。本講義では、これらの知識を原子の結合に注目して整理し、解説する。

#### 授業の概要：

生物に関わる重要な元素は炭素、水素、酸素、窒素、リンである。これらの元素からなる高分子化合物である糖類、タンパク質、脂質、核酸について、これらの物質が、その基本構成物質であるグルコース、アミノ酸、脂肪酸、アルコール、ヌクレオチドの脱水縮合により形成されることを中心に解説する。

#### 授業の計画：

1. 有機化学の基礎① 天然有機物の構成元素
2. 有機化学の基礎② 有機物中の元素の結合
3. 生化学の基礎① 生物を構成する有機物
4. 生化学の基礎② 生物体内での化学反応
5. 糖類① 糖類の構成元素
6. 糖類② グルコースの構造
7. 糖類③ グルコースとデンプン・セルロース
8. 糖類④ 生物とデンプン・セルロース
9. 糖類⑤ 光合成
10. アミノ酸とタンパク質① アミノ酸
11. アミノ酸とタンパク質② アミノ酸とタンパク質
12. アミノ酸とタンパク質③ 生物とタンパク質
13. 脂質① 脂質の種類
14. 脂質② 脂肪酸・アルコールと脂質
15. まとめ

#### 授業方法：

教科書と配布資料にもとづいて、板書を中心に講義を進める。

#### 達成目標：

天然有機物について、その種類と主要元素がわかる。さらに天然有機物を構成する基本構成物質の種類とその構造がわかる。天然有機物とその構成物質が加水分解反応及び脱水縮合反応によって互いに変換すること、そのときエネルギーの出入りがあることがわかる。

#### 評価方法：

期末試験（100%）により行う。ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなければ、欠席と見なすので注意すること。

#### 教科書：

数研出版編集部、『新課程視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』、数研出版、914円

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

分子模型購入費として1,600円程度。



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09501	森林環境・水環境化学特殊講義ⅡA	4	2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
原子の結合 モル モル濃度 化学反応式 エネルギー 化学平衡 溶解と沈殿生成 酸と塩基 酸化剤と還元剤 液性とpH	分析・統合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

自然環境で進行する現象、特に物質循環を科学的に理解するために、化学反応に関する知識は重要である。この知識を修得することで、森林環境や水環境などの化学性を測定すれば、そこで進行している、あるいは将来進行する現象をおおよそ予測し、予測に応じて適切なはたらきかけを環境に施すことができるようになる。

#### 授業の概要：

自然環境では様々な化学反応が進行しているが、化学反応を理解するための基礎となる反応はそれほど多くない。この講義では水環境で進行する重要な3種類の化学反応としてイオン結晶の溶解、中和反応、酸化還元反応を取り上げ、原子の結合に関する知識をもとにして解説する。また、原子や分子、イオンを数える単位であるモルについても紹介する。

#### 授業の計画：

1. 物質と質量
2. モル濃度
3. 濃度商と平衡定数
4. 水素イオン濃度とpH
5. 酸と塩基と塩
6. 強酸・強塩基の水溶液のpH
7. 強酸・強塩基の水溶液のpH
8. 塩の溶解と溶解度積
9. 溶解度積と共通イオン効果
10. まとめと問題演習①
11. 酸化還元反応① 電子の授受を伴う反応
12. 酸化還元反応② 酸化数
13. 酸化還元反応③ 半反応式の組み立て
14. 酸化還元反応④ 酸化還元反応の組み立て
15. まとめと演習問題②

#### 授業方法：

教科書と配布資料にもとづいて、板書を中心に講義を進める。

#### 達成目標：

物質と濃度を理解し、溶解、中和反応、酸化還元反応についての基礎的な知識を修得する。

#### 評価方法：

期末試験（100%）により行う。ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなければ、欠席と見なすので注意すること。

#### 教科書：

数研出版編集部、『新課程視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録』、数研出版、914円

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09601	森林環境・水環境化学特殊講義ⅡB	4	2	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
原子量 物質質量 モル濃度 質量分率 平衡定数 酸 塩基 酸解離定数 水のイオン積 pH	分析・統合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

卒業研究や卒業後の進路で環境試料の化学分析を行うものにとって必要不可欠な、成分濃度の表現と計算への習熟と、水溶液中の反応と化学平衡の關係の正確な理解が本科目のテーマである。

#### 授業の概要：

物質質量と質量の關係を確認した後、水溶液中の溶存成分の代表的な濃度表記であるモル濃度と質量分率について、解説と問題演習を並行して進める。酸塩基反応の平衡計算の例として、酸解離定数を用いて酸水溶液のpHを算出する方法と、pHが既知の水溶液中の酸および塩基の主要化学種の予想の仕方を解説する。

#### 授業の計画：

1. 原子量、式量、分子量の計算 質量と物質質量の換算
2. 化合物の質量と成分元素の質量の關係
3. モル濃度の計算
4. 質量分率
5. モル濃度とppm (w/v)
6. 物質質量の計算と濃度の計算のまとめ
7. 化学反応と平衡定数
8. 酸水溶液中の水と酸の電離の反応式と濃度変化の概要
9. 酸水溶液中の成分濃度①
10. 酸水溶液中の成分濃度②
11. 酸水溶液中の成分濃度③
12. 酸水溶液中の成分濃度④
13. pHがわかった水溶液中の酸と塩基の化学種①
14. pHがわかった水溶液中の酸と塩基の化学種②
15. pHがわかった水溶液中の酸と塩基の化学種③

#### 授業方法：

配布資料にもとづいて、板書を中心に講義を進める。

#### 達成目標：

目的濃度の水溶液を調製するために必要な物質の質量もしくは物質質量を算出することができる。酸解離定数が与えられれば、濃度が既知の酸水溶液のpHを計算により求めることができる。酸解離定数が与えられれば、pHが既知の水溶液中の酸および塩基の主要化学種を予想することができる。

#### 評価方法：

期末試験（100％）により行う。ただし、授業に出席しても、毎回の課題を期日までに提出しなければ、欠席と見なすので注意すること。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

クリスチャン、『分析化学〈1〉基礎編』、丸善、4095円

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B09801	森林環境・水環境化学演習及び実習	4	4	長井正博

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
野外調査 文献調査 データ処理 報告	分析・総合の思考力と判断力

**授業のテーマ：**

自分の研究テーマに必要なデータを集め、データに基づいて考え、考えを他人に伝える力を修得する。

**授業の概要：**

卒業研究の進捗状況、機器の使用状況、野外観測の実施について報告してもらい、議論を行う。

**授業の計画：**

次の事項について本授業のみでなく、日常的に議論して、卒業研究の完成を目指す。

- ・研究テーマの決定
- ・研究計画の立案
- ・実験手法の検討
- ・データの処理と検討
- ・機器の管理
- ・研究報告

**授業方法：**

毎週、研究の進捗状況、野外観測の計画、分析機器の使用状況などを研究グループと個人毎に報告してもらい、報告内容に応じて、議論やアドバイスをを行う。

研究テーマに関する文献を読み、その内容の紹介も行ってもらい、

卒業研究の中間報告を数回行ってもらい、

**達成目標：**

一つのテーマに沿って、文献調査、野外観測、データ処理、報告書の作成、プレゼンテーションができる。

**評価方法：**

データなどの報告書とプレゼンテーションの内容で評価する（100%）。

測定の方法、データ、データ処理結果、考察が報告できる・・・S

測定の方法、データ、データ処理結果が報告できる・・・A

測定の方法、データが報告できる・・・B

測定の方法とデータが報告ができる・・・C

Cのレベルに達しない・・・D

**教科書：**

なし

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B03501	景観生態学特殊講義ⅡA（地域・都市緑化論）	4	2	岡村聖

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地球 水 エネルギー 流れ 循環 気象現象 大気環境 収支 拡散 汚染	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

地球上での水とエネルギーの流れを学び、日常生活やビジネスに直接的にあるいは間接的に関係している大気現象について考察する。

**授業の概要：**

地球上での水とエネルギーの流れと、気象現象及び大気環境を関連付けて考察を行う。

**授業の計画：**

- 1、オリエンテーション
- 2、大気圏の構造
- 3、太陽放射のエネルギーと地球全体の熱収支
- 4、水の循環と状態変化
- 5、空気塊の断熱変化
- 6、大気の安定・不安定
- 7、水蒸気の凝結と雲の発生
- 8、大気循環と熱輸送
- 9、気候の変動と地球環境の変化
- 10、大気拡散と気象条件の関係
- 11、大気境界層
- 12、大気汚染の現状と対策
- 13、大気環境とライフスタイル
- 14、予見性をもった大気環境対策の現状と展望
- 15、まとめ

**授業方法：**

講義。

**達成目標：**

受講者は授業内容について、不案内な相手が望む平易な水準で説明できること、を目標とする。社会では内容の詳細を求められることは少なく、むしろ大枠を踏まえた要点を求められることが多い。

**評価方法：**

講義点（45%）、期末試験（55%）で評価する。

**教科書：**

なし。教材を作成し配布する。

**参考文献：**

授業中にその都度提示する。

**実験・実習・教材費：**

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B03601	景観生態学特殊講義ⅡB（地域・都市緑化論）	4	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
農地 灌漑 農業施設 多面的機能 生産緑地	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

わが国における緑地としての農地の役割は、農村、都市を問わず重要性を増しつつある。本講義では農地を造成し、改良し、維持管理するための理論と方法について学び、さらにはその延長として農村や都市の発展に資するための考え方について学ぶ。

#### 授業の概要：

はじめにわが国の農地の特性について紹介し、その後水田や畑の灌漑と排水、圃場整備、造成について解説する。さらに農地に必要な施設や防災のあり方、水資源涵養や自然環境、景観といった多面的機能について解説しつつ、農地や農村地域、さらには生産緑地としての都市農地を維持管理するための総合的な視点を提供する。

#### 授業の計画：

1. わが国の農地の現状と役割
2. 水田の灌漑と排水（1）
3. 水田の灌漑と排水（2）
4. 水田の圃場整備
5. 復習
6. 畑地の灌漑と排水（1）
7. 畑地の灌漑と排水（2）
8. 畑地の圃場整備と造成（1）
9. 畑地の圃場整備と造成（2）
10. 復習
11. 農業施設の整備
12. 農地の保全と防災
13. 農地の多面的機能
14. 農村空間の整備
15. 持続可能な農業と農地管理

#### 授業方法：

通常の講義形式をとる。教科書をもとにした進行を行うが、適宜図表やスライド等を使用し、視覚的に理解させることを心がける。

#### 達成目標：

水田や畑の土壌特性や水理特性、灌漑、造成、土壌侵食（おもに水食）防止などの維持管理の方法について説明できる。農地の多面的機能について説明できる。

#### 評価方法：

期末試験（60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

#### 教科書：

山路永司・塩沢昌、『農地環境工学』、文永堂出版、4,000円+税

#### 参考文献：

西尾道徳ら、『環境と農業（農学基礎セミナー）』、農山漁村文化協会、1,619円+税

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B03801	景観生態学演習及び実習	4	4	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
造園 緑地 ガーデニング 設計	コミュニケーション力 問題解決力 美的感受性

#### 授業のテーマ：

講義やプロゼミでの内容をふまえ、おもに実習により、景観（緑地）や庭園等に関するより実際的なものの見かたと技術を修得する。

#### 授業の概要：

緑地や園芸の分野に係わるさまざまな技術を幅広く紹介し、4年次の卒業研究課題に結びつけるように指導する。取り扱うテーマは学生の興味なども参考とし決定する。

#### 授業の計画：

- ・樹木の管理、移植技術の修得
- ・植物の生理生態特性（蒸散量、水ポテンシャルなど）の計測技術の修得
- ・土壌診断技術の修得
- ・植物の栽培試験技術の修得
- ・ガーデニング・デザイン（寄植、室内園芸等）技術の修得
- ・緑地の調査と計画に関する技術の修得
- ・レポートの作成技法の修得
- ・文献購読

など

#### 授業方法：

野外実習は実習農場や演習林等で行い、その他は実習室等で行う。実習の性格上、汚れても良いような服装での参加を求められることがある。

#### 達成目標：

造園や環境・緑地デザインの分野に関する、実務レベルに近い知識と技術の習得、また卒業研究テーマに向けた方向性を具体的に得ることを目標とする。

#### 評価方法：

成果物（レポートや制作物、60%）と授業への取り組み（40%）で評価する。

#### 教科書：

特に指定しない。教材は適宜配布する。

#### 参考文献：

適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

3,000円（実習材料費（種、苗木、肥料など）、野外見学費として使用）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41101	現代文明論講義A	4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
神の見えざる手 市場	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

ケインズは、その一番有名な著作の中で「経済学者や政治学者の観念は、それが正しい場合にも、また間違っている場合にも、ともに、一般に理解されているよりもはるかに強力である。・・・いかなる知的影響からもまったく開放されていると自らは信じている実際家たちも、すでに亡くなった経済学者の奴隷であるのが常である」と述べている。

講義では、すでに亡くなった経済学者の思想が現代社会にどのような影響をあたえているかを見ながら、現代社会がこれからどうなるのか、その中で人はどんな風に生きることになるのか、それを改善するにはどうしたらいいか、そのようなことを自らの問題として考えてみたい。

#### 授業の概要：

資本主義の性質についてのアダム・スミスの発見から始まり、マルクスの分析を経てケインズ、フリードマンにいたるまでを概観する。

#### 授業の計画：

1. 金は天下の回り物～経済とは何だろう？
2. 需要曲線と供給曲線
3. GDP
4. 貨幣の誕生
5. 銀行と中央銀行
6. アダム・スミスと分業
7. 政府の役割
8. 使用価値と交換価値
9. 資本主義と格差
10. ケインズと失業
11. 乗数効果
12. ケインズの誤算
13. こんなものいらない～新自由主義
14. 貿易が富を増やす
15. まとめ

#### 授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

#### 達成目標：

現代文明の大きな特徴である資本主義について正しく理解するとともに、その内包する課題について身近な問題として捉えられるようになること。

#### 評価方法：

定期試験の結果によって判定する。

#### 教科書：

池上 彰『池上彰のやさしい経済学1』（日本経済新聞出版社,1,575円）。

#### 参考文献：

その都度参考文献を指示する。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41201	現代文明論講義B	4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
株式会社 株主 経営者 大企業 日本的経営	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

現代社会において、さまざまな生産活動は、企業を中心となって行われている。そこで、企業とは何か、その役割を遂行していくためのさまざまな仕組みや働きなど、現代企業の全体像を、最新のデータや事例を用いて多面的に理解する。

#### 授業の概要：

企業とは何か、その仕組みと働き、企業を取り巻く環境など、現代社会における企業について概観する。とくに株式会社の役割と仕組み、大企業の現実、そして日本型経営について解説する。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. 日本企業と従業員
3. 日本の大企業の経営者
4. 企業の長期戦略
5. 資本集中機構としての株式会社制度（1）
6. 資本集中機構としての株式会社制度（2）
7. 株式会社の現実（1）
8. 株式会社の現実（2）
9. ここまでのまとめ
10. 大企業の支配構造（1）
11. 大企業の支配構造（2）
12. 大企業の性格と機能
13. 大企業のコーポレート・ガバナンス（1）
14. 大企業のコーポレート・ガバナンス（2）
15. まとめ

#### 授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

#### 達成目標：

現代社会において重要な組織である企業について、その役割を正しく捉え、その基本的な仕組みを理解する。

#### 評価方法：

定期試験の結果によって判定する。

#### 教科書：

三戸 浩, 池内 秀己, 勝部 伸夫『企業論 第3版』（有斐閣、2,100円）。

#### 参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

#### 実験・実習・教材費：



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41501	現代文明論特殊講義ⅡA（現代文明の未来）	4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資本主義 世界市場 グローバル化の課題	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

この講義のテーマは、「現代文明はどのような未来を持っているであろうか」である。現代文明は多くの資源を消費しながら成立しており、その限界が言われて久しい。しかし、相変わらずアメリカ、中国、インドなどの国々は、資源を大量に消費しながら経済成長を維持しようと必死になっている。特殊講義Aでは、そうした活動の先に待っているものについて考察を進める。

#### 授業の概要：

資本主義の本質は、経済成長にあることを理解することからはじめて、資本主義ひいては現代文明の将来の姿を考察する。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. 『共産党宣言』の衝撃
3. マルクスの「資本主義」分析
4. ロシア革命とソヴィエト連邦の出現
5. 豊かな社会
6. 東西冷戦
7. 冷戦下の資本主義
8. 冷戦の終結と資本主義
9. 世界市場の出現
10. 世界規模の生産活動
11. 露骨になった資本主義
12. グローバル化の分析
13. グローバル化への懸念
14. これからの経済社会
15. まとめ

#### 授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

#### 達成目標：

露骨になった資本主義と世界市場の出現をキーワードにして、現代日本のおかれている歴史的状況を理解し、その将来について自分の意見を持てるようになること。

#### 評価方法：

授業への取組（30%）に試験の結果（70%）を加味して判定する。

#### 教科書：

#### 参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41601	現代文明論特殊講義ⅡB（現代文明の未来）	4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資本主義 世界市場 グローバル化の課題	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

われわれの生活にとってリスクを理解し、低減することは不可欠である。本講義では、リスクの客観的な様相、リスクの認識、リスクへの対処といった面から我々の生活にかかわるリスクについて講義する。

#### 授業の概要：

リスクとは何かから始まり、その根底にある不確実性、そして人間の認知能力の限界、リスクを受容する際のリスクイメージなどを理解したのちに、リスクを低減するための手法であるリスクマネジメントについて解説する。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. リスク概念
3. リスクの実際
4. リスク認知とバイアス
5. リスクイメージとリスクの受容
6. リスクマネジメントの基本
7. リスクコミュニケーション
8. 自然災害
9. 犯罪
10. 製品安全
11. 食品安全
12. 金融リスク
13. 金融リスクマネジメント（1）
14. 金融リスクマネジメント（2）
15. まとめ

#### 授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

#### 達成目標：

リスクとは何かという基礎的なことから、実際のリスクがわれわれの生活にどの程度の大きさで存在しているのか、そしてそのリスクを低減するためのリスクマネジメントの意義と手法を理解する。

#### 評価方法：

授業への取組（30%）に試験の結果（70%）を加味して判定する。

#### 教科書：

#### 参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B41801	現代文明論演習	4	4	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
批判的吟味 問題発見 問題解決 プレゼンテーション	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

**授業のテーマ：**

各人がそれぞれに興味を持った話題について発表し、その発表に基づいて討論を行う。テーマについての制限は設けず、出来るだけ広範な問題を取り上げて、批判的に考察する能力と態度を養う。

**授業の概要：**

授業の参加者は、まず自分が興味を持てる分野が何かを明確にする。その分野についての参考となるテキストがあるかないかを調べ、見つかったときには、その内容を批判的に吟味する。見つからなかった場合には、テーマにかかわる資料を収集し、その資料の適切さなどをも含めて批判的に吟味する。

**授業の計画：**

4年次生

前期

- (1) 各自の興味に応じて、課題を設定する。
- (2) 課題を探究する上で必要な資料を収集する。
- (3) 収集した資料の分析を行う。

後期

- (4) 作成中の卒業論文の内容について発表し、他のゼミ生からの批判を受ける。
- (5) 卒業論文を完成させる。

**授業方法：**

各人の選択したテキストや資料の講読とそれに基づく議論を中心に、質疑応答を行う演習形式

**達成目標：**

4年次生にとっては卒業論文を完成させること。

**評価方法：**

授業への取組によって判定する。

**教科書：**

**参考文献：**

各人がテキストを選定し、それにもとづいて発表し、議論する。

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02101	環境倫理学講義A	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境問題の意味 世代間倫理 自然の価値 生命の意味	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

地球環境問題を悪化させ続けている現代文明の本質には倫理の問題がある。現代の倫理の問題の本質を現代の自然観や生命観から哲学的に解明することが本講義のテーマである。

#### 授業の概要：

自然の概念、環境の概念を哲学的に規定する事から始め、いわゆるエコロジーの諸説を丁寧に批判しながら、確かな環境倫理学の考え方の基本を身につけていく。その上では、論理的思考、哲学的思考、価値についての思考の力も身につけていく。

#### 授業の計画：

1. 環境倫理学の概要
2. 哲学的思考と倫理的思考の基本
3. 「概念」について
4. 自然の概念
5. 環境の概念
6. 環境倫理学の基本事項の確認
7. エコロジーとは何か
8. 自然の権利と生命観
9. 世代間倫理と権利概念
10. エコロジーと西洋的自然観の問題
11. 現代の環境倫理思想の問題点の確認
12. 科学技術文明と環境破壊
13. 科学技術文明と自然観・人間観
14. 新しい倫理と自然観の可能性
15. まとめ

#### 授業方法：

講義を中心に、適宜小テストやレポート等を課す。

- S 哲学的思考・倫理的思考を身につけ、環境問題の本質を論じることができる
- A 哲学的思考・倫理的思考を理解し、環境問題を論じることができる
- B 哲学的思考・倫理的思考を理解し、環境問題について考える事ができる
- C 環境問題に倫理的な意味があることを知った。
- D 哲学的思考・倫理的思考を理解せず、環境問題についても理解していない。

#### 達成目標：

哲学的思考・倫理的思考を身につける。さらに環境問題の本質を考える能力を身につける。

#### 評価方法：

論述試験によって評価する。

#### 教科書：

適宜プリントを配布。

#### 参考文献：

適宜指示する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02301	環境倫理学特殊講義 I A (自然と生)	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考:
前期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
自然哲学 近代思想 文章読解 学術論文の基本論理と概念	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 (意思決定力)

#### 授業のテーマ:

自然に関する基本的な文献を講読する。文系の様々なスタイルの文献の講読を通じて、文献を読みこなす能力を身につける

#### 授業の概要:

表現が具体的な初歩的な環境問題に関わる論文の読解からはじめ、漸次、諸分野に特徴的なスタイルの論文の講読を行う。

#### 授業の計画:

1. 文献講読について
2. 「文」の構造
3. 「一つのこと」の理解
4. 文献講読: 初歩的な文章の読解 (古代ギリシア 自然哲学) 1
5. 文献講読: 初歩的な文章の読解 (古代ギリシア 自然哲学) 2
6. 文献講読: 初歩的な文章の読解 (古代ギリシア 自然哲学) 3
7. 文章理解の初歩の確認
8. 文の構造と論理関係の把握
9. 文献講読: 論理的な文章の読解 (近代哲学 デカルト) 1
10. 文献講読: 論理的な文章の読解 (近代哲学 デカルト) 2
11. 文献講読: 論理的な文章の読解 (近代哲学 デカルト) 3
12. 文の論理関係の確認
13. 文脈とは
14. 様々なレベルの文脈からの理解について
15. まとめ

#### 授業方法:

文献講読の基本の解説と演習を行う

#### 達成目標:

文系の学術論文を読む能力の基本を修得する

#### 評価方法:

以下の基準に基づき、授業における読解のチェックや提出課題の評価を行う

- S 基本的な学術的な文を読みこなしている
- A 学術論文を読む能力の基本を身につけている
- B 文を読む能力の基本を身につけている
- C 文を読む能力の一部を身につけている
- D 学術論文を読む能力を身につけていない

#### 教科書:

なし

#### 参考文献:

ディオゲネス・ラエルティオス『ギリシア哲学者列伝 上中下』(岩波文庫)、ルネ・デカルト『方法序説』、その他、授業中に適宜指示する

#### 実験・実習・教材費:

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02401	環境倫理学特殊講義 I B (自然と生)	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考:
後期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
近代思想 社会思想 宗教思想 科学思想 アニミズム 文章読解	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 (意思決定力) グローバルな視野

**授業のテーマ:**

自然に関する人文・社会科学の文献を講読する。文系の様々なスタイルの文献の講読を通じて、文献を読みこなす能力を身につける

**授業の概要:**

表現が具体的な初歩的な環境問題に関わる論文の読解からはじめ、漸次、諸分野に特徴的なスタイルの論文の読解を行う。

**授業の計画:**

1. 「文」について
2. 諸分野の文献の特徴
3. 文献講読: 社会科学 (経済学) の文章読解 (アマルティア=セン『貧困と飢餓』) 1
4. 文献講読: 社会科学 (経済学) の文章読解 (アマルティア=セン『貧困と飢餓』) 2
5. 文献講読: 社会科学 (経済学) の文章読解 (アマルティア=セン『貧困と飢餓』) 3
6. 文献講読: 人文科学 (文化人類学/民俗学) の文章の読解 (柳田国男『遠野物語』ほか) 1
7. 文献講読: 人文科学 (文化人類学/民俗学) の文章の読解 (柳田国男『遠野物語』ほか) 2
8. 文献講読: 人文科学 (文化人類学/民俗学) の文章の読解 (柳田国男『遠野物語』ほか) 3
9. 価値の主張にかかわる論文について
10. 文献講読: 人文科学 (比較思想) の文章の読解 (鈴木大拙『東洋的な見方』) 1
11. 文献講読: 人文科学 (比較思想) の文章の読解 (鈴木大拙『東洋的な見方』) 2
12. 文献講読: 人文科学 (比較思想) の文章の読解 (鈴木大拙『東洋的な見方』) 3
13. 近代以後の論文について
14. 文献講読: 人文科学 (科学批判) の文章の読解 (マルティン=ハイデッガーほか)
15. まとめ

**授業方法:**

講読の基本の解説と演習を行う

**達成目標:**

文系の学術論文を読む能力の基本を修得する

**評価方法:**

以下の基準に基づき、授業における読解のチェックや提出課題の評価を行う

- S 基本的な学術的な文を読みこなしている
- A 学術論文を読む能力の基本を身につけている
- B 文を読む能力の基本を身につけている
- C 文を読む能力の一部を身につけている
- D 学術論文を読む能力を身につけていない

**教科書:**

なし

**参考文献:**

アマルティア=セン『貧困と飢餓』岩波書店  
柳田国男『遠野物語』岩波文庫ほか  
鈴木大拙『東洋的な見方』岩波文庫  
そのほか、授業中に適宜指示する

**実験・実習・教材費:**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02501	環境倫理学特殊講義ⅡA（環境行動論）	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
科学技術批判 社会システム 批判的思考 文明論	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

人類文明を崩壊させかねない環境問題はなぜ生じたのか。これは単なる個人のモラルの問題ではなく、社会のシステムやこれを作り出した思想の問題である。私たちはこのシステムの中で否応なく環境を破壊させられている。この問題を考えるため、まず科学技術を経済や社会のシステムの問題として分析し、その中に生きる私たちのあり方を追究する。

#### 授業の概要：

今日直面する環境問題を総覧し、核心的な問題について考察する。その問題をハーバマスやガダマーの議論の観点から分析していく。

#### 授業の計画：

1. 2. 今現在、人類の直面する問題の状況。自然、資源、食料、人口。①②
3. 4. 人類文明の未来の可能性。未来予測の諸説。①②
5. 6. 人類文明の本質に関する諸説。①②
7. 8. 現代文明の本質とは何か。文明と現代。①②
9. 近代思想と科学技術。
10. 11. 12. ハーバマスによる科学技術批判。イデオロギーとしての科学技術。①②③
13. 14. ガダマーによる科学技術批判。科学技術と伝統・文化・哲学。①②
15. まとめ

#### 授業方法：

講義を中心として、適宜レポートを課す。

#### 達成目標：

現代社会の問題の本質を理解する。

#### 評価方法：

試験90%、授業への取り組み10%。

- S. 環境問題の文明論的本質と課題について適切に論じることができる。
- A. 環境問題の文明論的本質と課題について論じることができる。
- B. 環境問題の文明論的本質について論じることができる。
- C. 環境問題の本質を文明論的に論じることができる。
- D. 環境問題の本質を文明論的に論じることができない。

#### 教科書：

無し

#### 参考文献：

授業中に指示。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B02601	環境倫理学特殊講義ⅡB（環境行動論）	4	2	内藤可夫

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
現代文明批判 批判的思考 自然観 人間観	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

地球環境問題は、結局は食糧問題となって経済社会システムの破綻を招くことになる。しかし、自ら自身を破壊する現代文明の問題的な本質を明らかにすることができるならば、この危機を回避する可能性はある。本講は、科学技術文明の背景の思想・自然観・人間観の本質を批判し、これからの社会のあり方、人間の全く新しい生き方を探っていく。

#### 授業の概要：

科学技術文明の本質について確認し、倫理の問題と不可分の人間観・自然観について考察する。又、現代に特有の「死」の隠蔽の問題を分析し、さらに文明論的問題としての環境問題の核心へ迫っていく。

#### 授業の計画：

1. 2. 科学技術批判の議論について。①②
3. 4. 5. 科学技術文明における自然観と人間観。①②③
6. 7. 人間存在の意味・価値。現代文明による死の隠蔽。①②
8. 9. 現代社会のシステムとモラル。エンロン事件とコンプライアンスの意味。①②
10. 11. 12. 今人間は如何に生き、行動すべきか。①②③
13. 14. システムの転換と人間の可能性。①②
15. まとめ。

#### 授業方法：

講義を中心として、適宜レポートを課す。

#### 達成目標：

環境問題の文明論的本質を把握する。

#### 評価方法：

試験90%、授業への取り組み10%。

- S. 環境問題の文明論的本質と課題について適切に論じることができる。
- A. 環境問題の文明論的本質と課題について論じることができる。
- B. 環境問題の文明論的本質について論じることができる。
- C. 環境問題の本質を文明論的に論じることができる。
- D. 環境問題の本質を文明論的に論じることができない。

#### 教科書：

無し

#### 参考文献：

授業中に指示。

#### 実験・実習・教材費：



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B12501	人文地理学	4	2	伊藤貴啓

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地理的見方・考え方 環境と人間 空間認知 地域イメージ 地域	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

地理学とは文字通り、地の理を学ぶ学問である。高校時代の地理A・Bや中学校社会科の地理的分野とこの点で異なる。では、地のことわりを学ぶとはどういうことだろうか？人文地理学は人文現象を対象に、それを究明していく学問である。本講義では環境と人間の関わりを軸に、地の理を明らかにする視点としての地理的見方・考え方の獲得を目的とする。

#### 授業の概要：

まずは、地理学がいかに生まれてきたのかを概観してみよう。その後、人間と環境の関わりを地理学がどのようにとらえてきたのか。すなわち、地理学における環境論の変遷をみた後、地理学が対象とする地域を私たちがいかに認識し、地域イメージを形成していくのかを捉えていきたい。その際、地域イメージと文学やマスメディアの関係などに視点を置いて考えることにしよう。

#### 授業の計画：

- 第1回 地理学とは：時間と空間、そして地理学
- 第2回 地理的見方・考え方 (1) 地域と地域の関係：名古屋大都市圏の拡がり
- 第3回 〃 (2) 自然と自然の関係：自然が織りなす地形
- 第4回 〃 (3) 自然と人間の関係：オランダを事例に
- 第5回 〃 (4) 地域的特色の把握：東日本と西日本
- 第6回 地理学における空間認識の変遷 (1) 環境決定論
- 第7回 〃 (2) 環境可能論
- 第8回 〃 (3) 環境認知論
- 第9回 心象風景と地域 (1) 原風景の形成：新美南吉の場合
- 第10回 〃 (2) 文学と地理空間：夏目漱石の場合
- 第11回 〃 (3) 軽井沢のイメージはいかにつくられたのか
- 第12回 地域イメージの形成と地域 (1) 農村という神話
- 第13回 〃 (2) アニメと地域
- 第14回 〃 (3) マスメディアと地域
- 第15回 地理学と地域 前期まとめ

#### 授業方法：

教科書は利用せず、各回に資料を配付しながら、パワーポイントで講義を行う。参考文献は適宜、提示する。第8回の新美南吉では『ごんぎつね』、第9回の夏目漱石では『門』を取り扱うので、事前に読んでおくこと。なお、各回に疑問点などを提出してもらおう。

#### 達成目標：

地域の諸現象を地理的見方・考え方から認識する能力を培う

#### 評価方法：

評価は試験（レポートを含む）で行う

- S：授業で取り扱わなかった地域の諸現象を地理的見方・考え方をを用いて自ら考察できる水準に達したもの
- A：授業で取り扱った地域の諸現象を4つの地理的見方・考え方をを用いて適切に考察できる水準に達したもの
- B：授業で取り扱った地域の現象を地理的見方・考え方の一つを用いて考察できる水準に達したもの
- C：授業で取り扱った地域の現象と地理的見方・考え方の関係を考察できる水準に達したもの
- D：授業で取り扱った地域の現象と地理的見方・考え方の関係を考察できる水準に達していないもの

#### 教科書：

利用せず

#### 参考文献：

各回に適宜明示

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B12601	地誌学	4	2	伊藤貴啓

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地域と地域性 日本の地域構造 人口移動 都市システム 産業と地域	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

**授業のテーマ：**

地誌学は地理学において、系統地理学とともに二大分野をなす。それは地域を対象に、地域の仕組み・構造を明らかにするものである。社会科では小学校中学年から5年生にかけて、地域教材や日本の産業などさまざまなことを学ぶ。また、中学校地理的分野では学指導要領の改訂によって、日本の各地方や世界に関する地誌的内容を学ぶ場面が増えることとなった。では、地誌的に地域を把握するとはどのようなことであろうか。本講義では、日本を題材に現代日本の地域構造からこの点に迫り、地域を地誌的に考えることができるようになることを目的とする。

**授業の概要：**

まずは地誌学とはどのようなことを究明しようとするのかをみてみよう。その後、社会科における地誌の取扱いをみた後、具体的題材としての現代日本の地域構造を人口・都市・産業の側面から明らかにしていく。

**授業の計画：**

- 1回 地誌学とは
- 2回 地域と地誌
- 3回 人口からみた日本の地域構造 (1)：人口推移と人口学方程式
- 4回 “ (2)：人口動態の変化
- 5回 “ (3)：人口移動の地域性
- 6回 “ (4)：高齢化の地域性
- 7回 “ (5)：日本の将来人口と外国人集住
- 8回 都市からみた日本の地域構造 (1)：都市の形成と都市化
- 9回 “ (2)：都市の階層性とその変化
- 10回 “ (3)：都市システムからみた日本
- 11回 産業からみた日本の地域構造 (1)：産業構造の変化と地域
- 12回 “ (2)：工業都市とその変化
- 13回 “ (3)：工業の地域構造
- 14回 “ (4)：サービス経済化と地域
- 15回 後期のまとめ－地誌学と日本の地域構造

**授業方法：**

教科書は利用せず、各回に資料を配付しながら、パワーポイントで講義を行う。参考文献は適宜、提示する。なお、各回に疑問点などを提出してもらう。

**達成目標：**

地域の特徴を考察できる能力を培う

**評価方法：**

評価は試験（レポートを含む）で行う

- S：授業で取り扱わなかった地域の諸現象を用いて地域的特色を自ら考察できる水準に達したもの
- A：授業で取り扱った地域の諸現象を用いて地域的特色を適切に考察できる水準に達したもの
- B：授業で取り扱った地域の諸現象のうち、一つの側面から地域的特色との関係を考察できる水準に達したもの
- C：授業で取り扱った地域の現象と地域的特色の関係を考察できる水準に達したもの
- D：授業で取り扱った地域の現象と地域的特色の関係を考察できる水準に達していないもの

**教科書：**

利用せず

**参考文献：**

各回に適宜明示

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B14001	自然地理学	4	2	守村敦郎

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
気候 地形 自然災害 環境問題 農業	グローバルな視野 分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

世界や日本各地の文化や社会、さらには農業をはじめとする産業の多様性は、その場所ごとの自然環境のありように大きく依拠している。本講義では、私たちを取り巻く自然的要素とその相互作用の現れ、つまりは気候、地形、植生、土壌、水環境、自然災害などについて概括的に学び、さらには自然環境と農業との関係について理解を深めることを目的とする。

#### 授業の概要：

本講義は初学者が多いことや、教職科目として位置づけられていることなどに配慮し、中学校や高校で取り扱っている内容を中心に授業を進めるが、一部発展的な要素も盛り込む。

#### 授業の計画：

- 1) 惑星としての地球、世界の地域構成（その1）
- 2) 世界の地域構成（その2）
- 3) 世界の気候区分と日本の気候
- 4) 地域スケールの気候
- 5) 気候の変化・変動
- 6) 復習（気候、世界の地域構成）
- 7) 山地・丘陵地の地形
- 8) 平野・海岸の地形
- 9) 世界と日本の植生分布
- 10) 土壌の形成と分布
- 11) 復習（地形、植生、土壌、世界の地域構成）
- 12) 水の循環と水資源
- 13) 鉱物・化石資源の分布と利用
- 14) 自然災害
- 15) 自然環境と農業

#### 授業方法：

通常の講義形式をとる。図表や動画等を多用し、視覚的に理解させることを心がける。また評価には加えないが、各自で地理的知識の習熟度を確認できるよう小テストを随時設ける。

#### 達成目標：

自然環境の姿や成因を正しく自然科学的に理解でき、簡潔に説明できる。自然災害や環境問題、農業と自然環境との関係性について、自分の意見が述べられるようになる。

#### 評価方法：

期末試験（100%）で評価する。

#### 教科書：

なし。教材を作成し配布する。

#### 参考文献：

高橋日出男・小泉武栄『自然地理学概論(地理学基礎シリーズ)』朝倉書店 (3,465円)  
西尾道徳ら『環境と農業(農学基礎セミナー)』農山漁村文化協会 (1,700円)

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13101	森林管理学A	4	2	北川勝弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
森林管理の理念 環境倫理 生態系重視 持続可能な森林管理	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） グローバルな視野 効果的な社会参加

**授業のテーマ：**

森林と人間が共生しうるような望ましい森林管理のあり方を、環境倫理の視点に立って、日本における森林利用の歴史などを辿ることによって検討し、森林生態系を重視した森林管理が重要であることを述べる。さらに、森林のもつ環境保全と木材生産の両機能を両立させうるように、森林管理の方法を改善する取り組みについて、技術的な面からも具体的に考究する。

**授業の概要：**

森林と人間が共生しうる望ましい森林管理の理念について、環境倫理の考え方に基いて検討した後、森林のもつ環境保全機能を維持しながら木材生産を経営的に成り立たせる森林管理を実現させる手法について、森林のゾーニングや路網整備など、技術的な面からも講述する。

**授業の計画：**

1回	森林管理の理念 (1) 従来の問題	9回	森林のゾーニング
2回	<現地見学①：里山整備>	10回	森林管理の基盤整備 - 路網整備と機械化
3回	森林管理の理念 (2) 生態系の重視	11回	<現地見学④：東海道松並木の保全>
4回	森林管理の理念 (3) 自然との共生	12回	森林管理作業の実行
5回	<現地見学②：森林ボランティア育成>	13回	モニタリングプロセスと森林認証
6回	森林管理の理念 (4) 持続可能性	14回	<現地見学⑤：機械化林業>
7回	わが国における森林利用の歴史	15回	森林技術者養成
8回	<現地見学③：人工林整備>		

**授業方法：**

主として教科書に基づく解説の他、適宜、配布資料により内容を補う。なお、「森林管理学B」（4時限目）と組み合わせて、近在の民有林等をマイクロバスで訪問し、森林管理状況などを現地見学する（5回予定）ので、「森林管理学B」との同時受講者のみを、マイクロバスの乗車定員（20名）まで、受け付ける。

**達成目標：**

「望ましい森林管理のあり方」を考えるうえで、「環境倫理」の視点に立ち、森林生態系を重視する必要があることを理解する。

**評価方法：**

試験（100％）により行う。試験には、期末試験と小テストを含む。  
 理論を駆使して完成度の高い持続可能な森林管理の構想案を提示できる・・・S  
 理論を部分的に活用して森林管理方策の選択肢を提示できる・・・A  
 理論を使いながら森林管理に関する問題点の分析ができる・・・B  
 理論や学術用語を説明できる・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

山田容三：『森林管理の理念と技術』。昭和堂、p.225、2009年、(3,150円)

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

現地見学に5回（予定）出かけるためのマイクロバス・チャーター代（1人1,000円／回）を教務課に前納のこと。「森林管理学B」と併せての見学行事。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13201	森林管理学B	4	2	北川勝弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
森林整備 森林の健全性 森林バイオマス利用 持続可能な森林経営 森林保全の国際協調	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思 決定力） グローバルな視野 効果的な社会参加

**授業のテーマ：**

森林と人間が共生しうるような森林管理のあり方に関わる、個別の重要課題を取り上げ、それらの今日的な意義と問題点、および問題解決への方策について、考究する。

**授業の概要：**

里山整備、人工林整備など、森林管理に関わる典型的なトピックスを取り上げて、現地見学とも関連させながら、国際的な視野と地域的な視野の両面から、各課題についての理解を深められるよう、講述する。

**授業の計画：**

- |    |                     |     |                   |
|----|---------------------|-----|-------------------|
| 1回 | 里山整備－COP10と里山イニシアチブ | 9回  | 森林バイオマス利用と木材の地産地消 |
| 2回 | <現地見学①：里山整備>        | 10回 | 持続可能な森林経営         |
| 3回 | 人工林整備－森林作業のあり方      | 11回 | <現地見学④：東海道松並木の保全> |
| 4回 | 森の健康診断－間伐作業の必要度判定   | 12回 | 森林と文明             |
| 5回 | <現地見学②：森林ボランティア育成>  | 13回 | 森林保全の国際協調         |
| 6回 | 都市林の造成－明治神宮の森       | 14回 | <現地見学⑤：機械化林業>     |
| 7回 | 世界の森林利用の歴史          | 15回 | 岡崎市の百年後の森林ビジョン    |
| 8回 | <現地見学③：人工林整備>       |     |                   |

**授業方法：**

毎回、資料を配布して解説する。必要に応じて、テーマと関連したビデオを放映する。なお、「森林管理学A」（3時限目）と組み合わせて、近在の民有林等をマイクロバスで訪問し、森林管理状況などを現地見学する（5回予定）ので、「森林管理学A」との同時受講者のみを、マイクロバスの乗車定員（20名）まで、受け付ける。

**達成目標：**

各トピックスを通じて、「望ましい森林管理のあり方」を考えるうえで基本となる、今日的な視点について理解する。

**評価方法：**

試験（100％）により行う。試験には、期末試験と小テストを含む。  
 理論を駆使して完成度の高い持続可能な森林管理の構想案を提示できる・・・S  
 理論を部分的に活用して森林管理方策の選択肢を提示できる・・・A  
 理論を使いながら森林管理に関する問題点の分析ができる・・・B  
 理論や学術用語を説明できる・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

なし

**参考文献：**

各回の授業の際に紹介する。

**実験・実習・教材費：**

現地見学に5回（予定）出かけるためのマイクロバス・チャーター代（1人1,000円/回）を教務課に前納のこと。「森林管理学A」と併せての見学行事。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13301	森林生態学	4	2	北川勝弘

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生物多様性 生態系 生態系サービス 森林環境 森林生態系の保全・修復	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

地球上の植物生態系の中で最大のバイオマスを持つ森林生態系について、構造、機能、動態などの面から考究し、生態系の保全・修復に関する基本的な考え方についても述べる。最後に、以上の森林生態学の基礎的な知識を踏まえて、今日の世界的な大きな関心事のひとつである、持続可能な森林管理を可能にする道筋について考える。

**授業の概要：**

森林生態系の構造、機能、動態を概観し、森林と樹木の生活史を詳細に分析することにより、生物多様性、生態系、生態系サービス、森林環境、森林生態系の保全・修復についての基本的な理解を深められるよう、講述する。

**授業の計画：**

- |                     |                           |
|---------------------|---------------------------|
| 1回 生物多様性と生態系        | 9回 森林と樹木の生活史（2）有性繁殖       |
| 2回 森林生態系の特徴と生態系サービス | 10回 森林と樹木の生活史（3）有無性繁殖     |
| 3回 森林と環境（1）気候と森林群系  | 11回 森林の生態的保全（1）天然林と二次林    |
| 4回 森林と環境（2）環境と森林植生  | 12回 森林の生態的保全（2）自然撹乱と管理    |
| 5回 森林の遷移（1）生態遷移     | 13回 生態系修復（1）やせ地の緑化        |
| 6回 森林の遷移（2）極相論      | 14回 生態系修復（2）共生菌類の修復への利用   |
| 7回 森林の遷移（3）二次遷移     | 15回 森林・樹木の健全性 - 持続可能な森林管理 |
| 8回 森林と樹木の生活史（1）展葉   |                           |

**授業方法：**

毎回、資料を配布して解説する。必要に応じて、テーマと関連したビデオを放映し、授業内容を補足する。

**達成目標：**

森林の生態に関する基礎的知識を習得し、身近な森林が抱えている問題点について、持続可能な森林管理の在り方を探る視点で、実践的に検討する意欲を持てるようにする。

**評価方法：**

試験（100％）により行う。試験には、期末試験と小テストを含む。  
 理論を駆使して完成度の高い森林生態の保全方策案を提示できる・・・S  
 理論を部分的に活用して森林生態の保全方策の選択肢を提示できる・・・A  
 理論を使いながら森林生態に関する問題点の分析ができる・・・B  
 理論や学術用語を説明できる・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

なし

**参考文献：**

小池孝良 編：『樹木生理生態学』。朝倉書店、p.264、2004年、(5,040円)  
 佐々木恵彦・木平勇吉・鈴木和夫 編著：『森林科学』。文永堂出版、p.294、2007年、(5,040円)

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09701	植物学実習	4	2	藤井伸二

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
前期	金	1・2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
種子植物 花器官 解剖 同定 毎木調査	分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

植物の形態観察の基礎知識と技能を習得することで、図鑑を使いこなせる能力を養成する。図鑑の記載文の読解力および図鑑の検索表の読解力を養うことで、同定能力を身につける。さらに、毎木調査の技能を養成することで、野外調査の基本的な方法を身につける。これらの技能を卒業研究において活用する。

#### 授業の概要：

被子植物の花器官を材料にした双眼実体顕微鏡による形態観察（両生花、単性花、単花被花、無花被花、キク科、イネ科、スゲ属、果実など）、植物の採集、植物標本の作製実習、植物図鑑を用いた同定実習、野外における毎木調査実習。

#### 授業の計画：

1. 顕微鏡の使い方
2. 両性花の構造
3. 単性花の構造
4. キク科の花構造
5. タデ科の花構造
6. イネ科の花構造
7. 無花被花の構造
8. 果実の構造
9. スゲ属の構造
10. 標本採集
11. 標本作製
12. 同定
13. 毎木調査1：常緑性二次林
14. 毎木調査2：落葉性二次林
15. 毎木調査3：データ解析

#### 授業方法：

実験室での実習と野外での実習の両方を行う。

#### 達成目標：

双眼実体顕微鏡の操作技術の習得、形態についての基礎知識の習得、形態用語と実物との対応の理解、植物の形態観察技能の習得、植物図鑑を使った植物種の同定技能の習得、毎木調査の方法および技能の習得。

#### 評価方法：

レポート（100％）による。15分以上遅刻は欠席とみなす。4回以上欠席の場合は単位を認めない。

#### 教科書：

岩瀬徹・大野啓一、「写真で見る植物用語」、全国農村教育協会。2,200円（税別、各自で購入のこと）。

#### 参考文献：

- 1) 佐竹義輔他、「フィールド版日本の野生植物-草本」、平凡社、7,800円（税別）。
- 2) 佐竹義輔他、「フィールド版日本の野生植物-木本」、平凡社、6,602円（税別）。

#### 実験・実習・教材費：

受講にあたっては、上記教科書の他に実習費（顕微鏡観察消耗品費、標本作製消耗品費）7,000円が必要。

#### その他：

環境保全論を主専攻学科目を選択する学生は必ず受講すること。受講にあたっては、「基礎生物学」と「環境保全論講義」が履修済みであることが望まれる。「生物分類技能検定」資格の取得を目指す人に受講を薦める。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09801	環境化学実験 I	4	2	藤井芳一

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
前期	木	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
化学実験 水質測定 野外観測 レポート作成	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 社交性 (社会的相互関係力)

#### 授業のテーマ：

実験計画を立て、これに基づき、器具の準備、試薬調製、試料水の採取、そして成分分析の一連の操作が行なえる力を養成する。

本演習では水質汚濁指標の生物化学的酸素要求量の測定を行なう。この成分の測定は基礎化学実験で修得した技術を応用して行なうことができる。

#### 授業の概要：

大学近隣の河川で水を採取し、BODの測定を行なう。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. BODについて
3. 試薬の濃度確認
4. フローチャートの書き方、試薬の調製
5. 試薬の調製：A液、B液、C液、グルコース-グルタミン酸混合標準液
6. 試薬の調製：硫酸マンガン(II)溶液、アルカリ性ヨウ化カリウム溶液、1/120 M ヨウ素酸カリウム溶液
7. 試薬の調製：デンプン溶液、0.025 M チオ硫酸ナトリウム溶液、硫酸(1+2)
8. チオ硫酸ナトリウム溶液の標定
9. BOD標準物質を用いた試験操作の確認(DO<sub>0</sub>)
10. BOD標準物質を用いた試験操作の確認(DO<sub>7</sub>)
11. データの検討
12. 乙川におけるBODの測定(DO<sub>0</sub>)：終日実験
13. レポートの書き方
14. 乙川におけるBODの測定(DO<sub>8</sub>)：データの検討
15. レポート指導

#### 授業方法：

教科書と配布プリントに従って行なう。毎回の予習とレポートの提出が必須である。

#### 達成目標：

実験書を参考にして、実験を行なうことができる。

#### 評価方法：

実施してきた操作の総集として最後に提出する最終レポートを元に評価する。実験の都度に科す各レポート課題を各回提出していることが、最終レポートを提出するための条件である。

#### 教科書：

片山幸士・木曾祥秋編著『ベーシック分析化学実験』化学同人  
(初回のガイダンスの際に購入について指示をする。)

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

30,000円(実験試薬及び消耗品)



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
A09901	環境化学実験Ⅱ	4	2	藤井芳一

期間	曜日	時限	備考：2時限連続
後期	木	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
機器分析 水質測定 データ処理 レポート作成	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 社交性（社会的相互関係力）

**授業のテーマ：**

機器分析に必要な基礎的な知識と技術を修得する。

測定の対象物質であるリン酸は、環境化学実験Ⅰで扱った生物化学酸素要求量と同様、水質汚濁の指標の一つである。この物質を、分光光度計を用いて、モリブデン青法により分析する。

**授業の概要：**

分光光度計を使用して、環境水中のリン酸濃度を測定する。

**授業の計画：**

1. ガイダンス，モリブデン青法のデモンストレーション
2. リンについて①（富栄養化とリン，水中のリンの形態）
3. リンについて②（生体内でのリンの形態と役割）
4. 試薬調製
5. 試薬調製
6. モリブデン青の吸収スペクトルの測定
7. データ整理
8. モリブデン青の吸光度の時間変化
9. リン濃度とモリブデン青の吸光度の関係
10. データ整理
11. 環境水中のリン酸態リンの定量
12. レポートの書き方について事前指導
13. レポート指導
14. データ整理
15. レポート指導

**授業方法：**

教科書と配布プリントに従って行なう。毎回の予習とレポートの提出が必須である。

**達成目標：**

分析機器の基本的な扱いについて習得する。

**評価方法：**

実施してきた操作の総集として最後に提出する最終レポートを元に評価する。実験の都度に科す各レポート課題を各回提出していることが、最終レポートを提出するための条件である。

**教科書：**

片山幸士・木曾祥秋編著『ベーシック分析化学実験』化学同人  
（初回のガイダンスの際に購入について指示をする。）

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

30,000円（実験試薬及び消耗品）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13701	地球環境問題概説	4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地球環境 温暖化 海洋汚染 生物多様性 森林の減少	分析・総合の思考力と判断力 問題解決能力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

温暖化、砂漠化、森林破壊、海洋汚染、生物多様性の減少など地球環境問題の解決は人類の喫緊的課題であり、高度な国際的取り組みだけでなく、私たち一人一人の自覚と行動が求められています。この授業では地球環境問題全般を概説し、基本的な知識の修得と環境マインドを醸成し、より専門的な学修のための知的土台を形成することにあります。

#### 授業の概要：

地球環境問題の基本的な見方、考え方を説明したうえで、温暖化、酸性雨、砂漠化など代表的な個別テーマを毎回取り上げ、その現象と構造、影響と要因、国際的取り組みと日本の対策などを概説します。最後に地球環境問題の文明史的位置づけを検討します。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. 地球環境問題の見取り図（1）
3. 地球環境問題の見取り図（2）
4. 地球の温暖化（1）
5. 地球の温暖化（2）
6. オゾン層の破壊
7. 酸性雨
8. 海洋汚染
9. 森林の減少
10. 砂漠化
11. 生物の多様性の減少
12. 有害廃棄物の越境移動
13. 開発途上国等の公害
14. 南極地域の環境保護、世界遺産の保全、黄砂
15. 水資源、地球環境問題の歴史的位置づけ

#### 授業方法：

教科書を基本にスライドと配布資料を活用した講義形式とします。

#### 達成目標：

地球環境問題についての現象と構造、影響と要因、国際的取り組みと日本の対策に関する概要を説明でき、関連する時事報道を容易に理解できる知識レベルと、それを正しく読み解く環境リテラシー、環境マインドを身につける。

#### 評価方法：

期末試験（100％）により行う。  
 達成目標をほぼ完全に達成している。……………S  
 達成目標を相応に達成している。……………A  
 達成目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。……………B  
 達成目標の最低限は満たしている。……………C  
 達成目標の最低限を満たしていない。……………D

#### 教科書：

地球環境研究会編『地球環境キーワード辞典』中央法規 1,575円

#### 参考文献：

「気候変動に関する政府間パネル（IPCC）第4次評価報告書統合報告書要約」  
[http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr\\_spm.pdf](http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr_spm.pdf)

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B13901	地球環境科学概論	4	2	藤井芳一

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
地球環境 科学 リスク 多角的視点 熟慮	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

地球環境問題は、性急で一面的な対症療法では解決できず、多様な知識の統合と国際的な協力による総合的な対策が必要である。私たちは、地球環境に関する科学的知見を学ぶ一方で、それらを用いて具体的問題に柔軟な解釈と解決策を見出す能力が求められる。そのため、科学的判断ツールとしてリスクの概念を理解し、多角的で合理的な思考法を身に付けることが本講義の目的である。

#### 授業の概要：

地球環境問題の個別テーマは、別途開講科目である『地球環境問題概説』で取り上げる。本講義では、それらの個別の知識を統合化することによって初めて“現場での”環境問題に対処できることを、事例及び考え方から紹介するとともに、参加学生との議論を踏まえてその理解をより深める。

#### 授業の計画：

1. 概論（本講義の進め方）
2. あなたの考える地球環境問題とは？
3. なぜ環境問題を学ぶのか？
4. 科学的なものの捉え方、考え方
5. リスクという考え方
6. まとめ1
7. 身のまわりのリスク
8. 環境リスク～農薬を例にして
9. 環境リスク～重金属を例にして
10. まとめ2
11. 環境の基盤である土壌の機能
12. 土壌に異変が起きること
13. 環境リスク～食のリスク
14. 環境問題の複雑さ
15. まとめ3

#### 授業方法：

基本的にはスライドを用いた講義形式で行なう。受講生との議論、学生による発表も実施する。

#### 達成目標：

提示されたデータについて、その検証能力を養う。環境問題の現場のみならず、日常生活における多角的で合理的な物の見方を基に、自身の意見を形成する能力を養う。

#### 評価方法：

期末試験及び数回の課題レポートによる。

的確なデータの検証に基づき、多角的で合理的な物の見方で、自身の意見を形成できる。・・・S  
 的確なデータの検証に基づき、多角的で合理的な事象の判断ができる。・・・A  
 的確なデータの検証に基づき、多角的な事象の存在が理解できている。・・・B  
 データに基づいた合理的な判断が大まかにできる。・・・C  
 Cのレベルに達していない。・・・D

#### 教科書：

4 大学連携共通テキスト『環境マインド養成講座』（必要に応じて講義時に無料配布）

#### 参考文献：

講義中にその都度提示する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44101	環境経済学講義A	4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
貨幣 価格 直接金融・間接金融 株式・債券 日本銀行	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

経済全体のお金の流れについて理解する。また、金融の果たす役割を知ると同時に、金融が経済全体の状態を（プラス面でもマイナス面でも）決定的に左右する可能性があることも理解する。

#### 授業の概要：

経済が家計、企業、金融機関、政府、日本銀行というプレーヤー（経済主体）から成り立っていること、そしてそれらの間で商品や金融、税のやりとりが行われていることを理解する。また、金融危機や財政赤字問題などが発生するメカニズムなどについても学ぶ。

#### 授業の計画：

- (1) お金の役割と経済の動き (1)
- (2) お金の役割と経済の動き (2)
- (3) 物価と価格 (1)
- (4) 物価と価格 (2)
- (5) 家計という経済主体
- (6) 家計と金融
- (7) 企業という経済主体
- (8) 企業と金融
- (9) 政府の役割
- (10) 日本銀行の役割
- (11) GDP：景気のパロメーター
- (12) バブル崩壊と金融危機
- (13) サブプライムローン問題
- (14) 財政赤字問題
- (15) まとめ

#### 授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

#### 達成目標：

家計、企業、金融機関、政府、日本銀行などの役割が説明できるようになる。価格や利子率の役割やそれらの決まり方について説明できるようになる。金融危機や財政赤字問題などが発生するメカニズムについて説明できるようになる。

#### 評価方法：

期末試験100%で評価する。

#### 教科書：

平野和之『図解経済入門 基本と常識』西東社、2012年。(950円+税)

#### 参考文献：

授業時に指示する

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44301	環境経済学特殊講義 I A (環境経済学史)	4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考:
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
GDP (国内総生産) 三面等価 物価 45度分析 乗数	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力 (意思決定力)

**授業のテーマ:**

金融機関に就職を希望する者は、個々の企業や金融機関の役割はもちろんのこと、経済全体のしくみも学んでおく必要がある。この授業では、マクロ経済学の入門レベルをマスターすることを通じて、われわれが現在どのような経済の中で生活しているかを理解する。

**授業の概要:**

経済がどのような部分から成り立ち、それらがどのように関係し合っているかを理解する。前期では前段階として、まず金融部門を除いた財市場について学び、GDP (国内総生産) がどのようなメカニズムを通じて決定されるかについて理解する。

**授業の計画:**

- (1) イントロダクション
- (2) 国民所得の諸概念 (1)
- (3) 国民所得の諸概念 (2)
- (4) 国民所得の諸概念 (3)
- (5) 三面等価の原則
- (6) 物価の計算 (1)
- (7) 物価の計算 (2)
- (8) 45度線分析への準備 (1)
- (9) 45度線分析への準備 (2)
- (10) 国民所得の決定——45度線分析 (1) 財市場の均衡
- (11) 国民所得の決定——45度線分析 (2) 財市場の均衡の安定性
- (12) 国民所得の決定——45度線分析 (3) 財市場の均衡
- (13) 国民所得の決定——45度線分析 (4) 政府支出乗数
- (14) 国民所得の決定——45度線分析 (5) 租税乗数
- (15) まとめ

**授業方法:**

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

**達成目標:**

GDPの決定メカニズムを理解し、経済現象や経済政策の意味を把握できるようになる。教科書に載っている初歩レベルの演習問題が解けるようになる。

**評価方法:**

期末試験100%で評価する。  
 経済現象や経済政策の意味をほぼ完璧に理解している…………… S  
 経済現象や経済政策の意味を理解している…………… A  
 経済現象や経済政策の意味を理解しているが問題を解けない… B  
 ところどころ間違っていて理解している…………… C  
 上記のレベルに達していない…………… D

**教科書:**

石川秀樹『経済学入門塾 I マクロ編』中央経済社、2007年。(2,200円+税)

**参考文献:**

授業時に指示する

**実験・実習・教材費:**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44401	環境経済学特殊講義 I B (環境経済学史)	4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考:
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
利子率 流動性選好 投資の限界効率 金融政策	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力 (意思決定力)

**授業のテーマ:**

金融機関に就職を希望する者は、個々の企業や金融機関の役割はもちろんのこと、経済全体のしくみも学んでおく必要がある。この授業では、マクロ経済学の入門レベルをマスターすることを通じて、われわれが現在どのような経済の中で生活しているかを理解する。

**授業の概要:**

経済がどのような部分から成り立ち、それらがどのように関係し合っているかを理解する。後期では金融市場について学び、それを前期で学んでいた財市場と合わせることにより、GDP (国内総生産) と利子率がどのようなメカニズムを通じて決定されるかについて理解する。

**授業の計画:**

- (1) イントロダクション
- (2) 利子理論への準備
- (3) 利子理論——流動性選好理論 (1)
- (4) 利子理論——流動性選好理論 (2)
- (5) 投資理論——投資の限界効率 (1)
- (6) 投資理論——投資の限界効率 (2)
- (7) 金融政策 (1)
- (8) 金融政策 (2)
- (9) 金融政策 (3)
- (10) 財市場の分析——IS曲線 (1)
- (11) 財市場の分析——IS曲線 (2)
- (12) 貨幣市場の分析——LM曲線 (1)
- (13) 貨幣市場の分析——LM曲線 (2)
- (14) 財市場と貨幣市場の同時分析
- (15) まとめ

**授業方法:**

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

**達成目標:**

GDPと利子率の決定メカニズムを理解し、経済現象や経済政策の意味を把握できるようになる。教科書に載っている初歩レベルの演習問題が解けるようになる。

**評価方法:**

期末試験100%で評価する。  
 経済現象や経済政策の意味をほぼ完璧に理解している……………S  
 経済現象や経済政策の意味を理解している……………A  
 経済現象や経済政策の意味を理解しているが問題を解けない…B  
 ところどころ間違っていて理解している……………C  
 上記のレベルに達していない……………D

**教科書:**

石川秀樹『経済学入門塾 I マクロ編』中央経済社、2007年。(2,200円+税)

**参考文献:**

授業時に指示する

**実験・実習・教材費:**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44501	環境経済学特殊講義ⅡA（環境倫理と環境）	4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資本還元の公式 企業価値 貸借対照表 正味現在価値 キャピタルゲイン	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

株価はどう決まり、利回りや値上がり益はどのように実現されるのか。資産価値の変動を法則的にとらえる術を基礎から学ぶ。

#### 授業の概要：

資産価値を考えるときの根本原理である資本還元の公式を理解した後、（オフバランスも含めた）貸借対照表と株価との関連について学ぶ。基本をひとつお押しさえた上で、創業者利益が発生する理由などについて解説していく。

#### 授業の計画：

- (1) イントロダクション：年金問題の病理
- (2) 収益の割引現在価値の公式
- (3) 企業価値とは何か①：貸借対照表と株式の市場評価
- (4) 企業価値とは何か②：貸借対照表では説明できない部分
- (5) 株式会社の資金調達
- (6) ダウ式修正平均株価
- (7) 投資プロジェクトの選択
- (8) ネットキャッシュフローの最大化
- (9) 創業者利得とは何か①：成長する木のたとえ
- (10) 創業者利得とは何か②：株式公開時に生じる大きな利益
- (11) キャピタルゲインとは何か①：不確実性とリスク
- (12) キャピタルゲインとは何か②：企業の成長とキャピタルゲイン
- (13) 株とギャンブルはどう違うのか
- (14) 低成長時代に利殖は可能か
- (15) まとめ

#### 授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

#### 達成目標：

株価の決まり方、（オフバランスも含めた）貸借対照表と株価との関連、創業者利得の発生仕方などについて論理整合的な説明ができる。

#### 評価方法：

期末試験100%で評価する。  
 経済現象の意味をほぼ完璧に理解している……………S  
 経済現象の意味を理解している……………A  
 経済現象の意味を理解しているが問題を解けない…B  
 ところどころ間違っ理解している……………C  
 上記のレベルに達していない……………D

#### 教科書：

三土修平『株とギャンブルはどう違うのか』ちくま新書、2008年。（720円＋税）

#### 参考文献：

授業時に指示する

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B44601	環境経済学特殊講義ⅡB（環境倫理と環境）	4	2	山根卓二

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
消費者の効用最大化 企業の利潤最大化 価格費用 市場の効率性	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

経済的に効率的な（ムダのない）行動（買い物、経営）、経済的に効率的な（ムダのない）社会とは何かについて知ることを通じて、経済経営における基本原理を理解する。

#### 授業の概要：

効率的な市場ではどのように価格が決まる（傾向がある）のか、そこではどのようなメカニズムが働いてムダが省かれるのかについて学ぶ。そのあとで、効率的でない市場が効率的な市場と比べてどんな無駄を抱えているか、そのムダをどうやって取り除くのかなどについて知る。

#### 授業の計画：

- (1) 経済の基礎知識①：お金・経済取引・金融
- (2) 経済の基礎知識②：いい買い物をするには・多くの利益を出すためには
- (3) 消費者の行動①：買い物でより多くの満足
- (4) 消費者の行動②：予算の制約内で買い物
- (5) 消費者の行動③：価格が変わると買い物の仕方はどう変わるか
- (6) 企業の行動①：なるべく小さな費用で多くの生産を
- (7) 企業の行動②：固定費用と変動費用
- (8) 企業の行動③：損益分岐点と操業停止点
- (9) 市場を知る①：自由競争の役割とは
- (10) 市場を知る②：自由競争の弊害（公害など）
- (11) 市場を知る③：市場は基本的にムダをとるしくみである
- (12) 競争のない市場①：独占企業の行動と差別価格
- (13) 競争のない市場②：寡占企業の行動とゲーム理論
- (14) 社会全体から見てムダのない交換とは
- (15) リスクと経済行動

#### 授業方法：

基本的に講義形式で進める。必要に応じて資料を用いる。

#### 達成目標：

消費者や企業の行動様式、価格の変動が消費者や企業の行動に与える影響、市場全体の効率性（ムダのなさ）、寡占企業の戦略的行動などについて論理整合的に説明できる。

#### 評価方法：

期末試験100%で評価する。  
 経済現象の意味をほぼ完璧に理解している……………S  
 経済現象の意味を理解している……………A  
 経済現象の意味を理解しているが問題を解けない…B  
 ところどころ間違っ理解している……………C  
 上記のレベルに達していない……………D

#### 教科書：

木暮太一『世界一わかりやすいミクロの経済学』静山社文庫、2009年。（705円＋税）

#### 参考文献：

授業時に指示する

#### 実験・実習・教材費：

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42301	資源循環型経済社会論特殊講義 I A (循環型社会の経済理論)	4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考:
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資源 エネルギー 文明 物質・エネルギー代謝 持続可能な社会	分析・総合の思考力と判断力 問題解決能力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ:

20世紀の高度に発達した物質文明は地球規模での環境破壊をもたらしたことから、21世紀は持続可能な新たな文明のあり方が模索されています。本講義では文明とは人間と自然との間の物質・エネルギー代謝の仕方(様態)であるという視点から、この代謝の規定要因や歴史的変遷を考察し、今後の持続可能な文明の代謝のあり方を展望します。

#### 授業の概要:

各種の原料資源、エネルギー資源の特性や用途等を概説したうえで、人間社会と自然環境との物質・エネルギー代謝と人口、経済システム、科学技術、エントロピーとの係わりを論じ、最後に、この代謝の歴史的変遷から持続可能な文明の代謝のあり方を展望します。

#### 授業の計画:

1. ガイダンス
2. 環境・資源・文明
3. 原料資源(鉱物資源)
4. 原料資源(生物資源)
5. 原料資源(水資源)
6. エネルギー資源(化石燃料)
7. エネルギー資源(核エネルギー)
8. エネルギー資源(再生可能エネルギー ①)
9. エネルギー資源(再生可能エネルギー ②)
10. 資源と人口(環境の人口圧力)
11. 資源と経済システム
12. 資源と科学技術
13. 資源とエントロピー
14. 日本の物質・エネルギー代謝
15. 文明と物質・エネルギー代謝

#### 授業方法:

基本的に講義形式で進めますが、必要に応じてスライド・プリント等の資料を用います。

#### 達成目標:

文明を物質・エネルギー代謝の視点からとらえる方法論を理解し、かつ各種の原料資源、エネルギー資源の特性や人口・経済システム・科学技術との関係に関する基本的な知識を修得する。

#### 評価方法:

期末試験(100%)により行う。  
 達成目標をほぼ完全に達成している。……………S  
 達成目標を相応に達している。……………A  
 達成目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。……………B  
 達成目標の最低限は満たしている。……………C  
 達成目標の最低限を満たしていない。……………D

#### 教科書:

指定なし

#### 参考文献:

佐々木信行『資源論入門』コロナ社、2,000円 (ISBN4-339-06598-6)  
 西山孝『地球エネルギー論』オーム社、(ISBN4-274-13227-7)

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42401	資源循環型経済社会論特殊講義 I B (循環型社会の経済理論)	4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考:
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
廃棄物 外部費用 経済的厚生分析 環境税 デポジット	分析・総合の思考力と判断力 問題解決能力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ:

何故、20世紀の社会経済は資源循環を阻害し、環境を悪化させてきたのか。その疑問に答えるために、環境経済学を基礎に20世紀の物質文明を支えてきた大量生産・大量消費・大量廃棄型の経済社会システムの仕組みと経済原則を明らかにし、さらに資源循環型社会を実現するための経済システムのあり方とそれを支える新たな経済原則を展望する。

#### 授業の概要:

市場メカニズムの基本を理解したうえで、廃棄物の市場価格や資源循環を阻害してきた外部費用の発生要因等を分析する。次に、限界理論や経済的厚生分析を理解したうえで、循環型社会の政策体系や環境税・デポジット制度などの具体的政策の経済分析を行う。

#### 授業の計画:

1. ガイダンス
2. 市場経済と市場メカニズム
3. 廃棄物の市場価格
4. ワンウェイ型経済の市場価格と外部費用
5. 外部費用の発生要因 (1)
6. 外部費用の発生要因 (2)
7. 外部費用の発生要因 (3)
8. 限界理論 (限界効用逓減と均等の法則)
9. 企業の行動原理と供給曲線
10. 余剰と経済的厚生
11. 循環型経済構築の政策的着眼点
12. 循環型経済を構築するための政策体系
13. 環境税の経済分析
14. デポジット制度の経済分析
15. 拡大生産者責任の経済分析

#### 授業方法:

講義形式で進めますが、必要に応じてスライド・プリント等の資料を用います。

#### 達成目標:

市場メカニズム、廃棄物の市場価格、外部費用の発生メカニズム、限界概念、経済的厚生分析の手法を理解し、環境問題の経済学的アプローチの基本を理解する。

#### 評価方法:

期末試験 (100%) により行う。

達成目標をほぼ完全に達成している。…………… S

達成目標を相応に達している。…………… A

達成目標を相応に達成しているが、不十分な点がある。…………… B

達成目標の最低限は満たしている。…………… C

達成目標の最低限を満たしていない。…………… D

#### 教科書:

吉野敏行『資源循環型社会の経済理論』東海大学出版会、2,987円 (税込)

#### 参考文献:

植田和弘『環境経済学』岩波書店

細田衛士『グッズとバズの経済学』東洋経済新報社

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42501	資源循環型経済社会論特殊講義ⅡA (ゼロエミッション産業論)	4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考:
前期	火	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
汚染者負担 排出者責任 拡大生産者責任 資源循環法	分析・総合の思考力と判断力 問題解決能力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ:

20世紀の大量生産・大量廃棄社会を支えてきた従来の市場メカニズムの下では有効な資源循環の実現が困難であることから、わが国では公共政策として循環型社会形成推進基本法をはじめさまざまな資源循環法が整備されてきました。本講義では、資源循環の諸制度を分析しながら、その背景と制度内容、課題と今後の展望を学びます。

#### 授業の概要:

最初に、環境政策の手段や環境法の体系、資源循環法の理念や原則などを学んだうえで、循環型社会形成推進基本法をはじめ、各分野のリサイクル制度を学びます。授業では実際の法律条文も紹介し、法律文書の読解力も身につけます。

#### 授業の計画:

1. ガイダンス
2. 環境政策の手段と体系
3. 環境法の特徴と体系
4. 汚染者負担原則と排出者責任原則
5. 拡大生産者責任原則
6. 環境基本法、循環型社会形成推進基本法
7. 廃棄物処理法
8. 資源有効利用促進法
9. 容器包装リサイクル法
10. 家電リサイクル法
11. 小型家電リサイクル法
12. 建設資材リサイクル法
13. 食品リサイクル法
14. 自動車リサイクル法
15. グリーン購入法・まとめ

#### 授業方法:

講義形式で進めますが、必要に応じてプリント・スライド等の資料を用いて解説します。

#### 達成目標:

資源循環の諸制度についてその背景、制度内容、課題と今後の展望を理解し、併せて法律条文の読解力を身につけることを学習目標として

- 学習目標をほぼ完全に達成している・・・S  
 学習目標を相応に達成している・・・A  
 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある・・・B  
 学習目標の最低限は満たしている・・・C  
 学習目標の最低限を満たしていない・・・D

#### 評価方法:

期末試験により評価する。

#### 教科書:

なし。

#### 参考文献:

大塚 直『環境法』、有斐閣 3,900円 (ISBN4-641-12878-2)  
 坂口洋一『循環共存型社会の環境法』、青木書店、2,600円 (ISBN4-250-20201-1)

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B42601	資源循環型経済社会論特殊講義ⅡB (ゼロエミッション産業論)	4	2	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考:
後期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
環境経営 環境市場 環境管理システム LCA 環境会計 ゼロエミッション	分析・総合の思考力と判断力 問題解決能力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ:

かつて深刻な公害を引き起こし、地域住民に多大な健康被害を与えてきた企業は、現在進行している環境革命のもとで、戦略的にも企業存続のためにも環境に配慮した企業経営へと大きく変貌しつつある。その歴史的背景と環境市場の動向、開発された環境経営の諸ツールを分析して環境経営のあり方を展望する。

#### 授業の概要:

わが国企業の環境経営へ至る歴史的発展を外観したうえで、環境経営を促進する環境市場の形成、環境経営を支える環境管理システム、LCA、グリーン調達、環境会計、ゼロエミッションなどの主要なツールを取り上げて、環境に配慮した企業経営のあり方を考える。

#### 授業の計画:

1. ガイダンス
2. 環境経営とは
3. 戦前から高度経済成長までの環境敵視型経営
4. 石油危機以後の環境回避・便乗型経営
5. バブル経済以後の環境遵守型経営
6. 21世紀の環境創造・自発型経営
7. グリーン・コンシューマと環境市場の形成
8. グリーン税制・グリーン金融
9. ISO14000シリーズと環境管理システム
10. LCA・環境ラベル
11. グリーン調達、グリーン電力証、CO2排出権
12. 化学物質管理とPRTTR、リスク管理
13. ゼロエミッション
14. 環境報告書、環境会計
15. 諸産業の環境経営

#### 授業方法:

講義形式で進めますが、必要に応じてプリント・スライド等の資料を用いて解説します。

#### 達成目標:

日本企業の環境経営に至る経緯と背景、原則と戦略、諸ツールを理解することを目標に、  
 学習目標をほぼ完全に達成している・・・S  
 学習目標を相応に達成している・・・A  
 学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある・・・B  
 学習目標の最低限は満たしている・・・C  
 学習目標の最低限を満たしていない・・・D

#### 評価方法:

期末試験により評価する。

#### 教科書:

なし。

#### 参考文献:

山口民雄『環境経営への軌跡』（日刊工業新聞社）  
 三橋規宏『日本経済・グリーン国富論』（東洋経済）

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
B42801	資源循環型経済社会論演習	4	4	吉野敏行

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
研究テーマ 研究計画書 政策形成能力 プレゼンテーション能力	分析・総合の思考力と判断力 問題解決能力 コミュニケーション力

#### 授業のテーマ：

本演習の目標は、環境分野における政策形成能力とプレゼンテーション能力の向上にあります。活発な討議を通じて問題意識の共有化と知識の深化を図っていきます。

#### 授業の概要：

参加者へは問題意識の形成、調査研究のテーマ設定、研究計画書の作成、フィールドワークの実施、中間報告、最終報告と段階的な作業を課し、課題抽出や解決策の提案などの訓練を通じて、分析手法や応用理論を身につけます。

#### 授業の計画：

##### <前期>

1. ガイダンス
2. 調査研究テーマの設定
3. 調査研究テーマの設定
4. 調査研究テーマの設定
5. 調査研究テーマの設定
6. 研究計画書の作成
7. 研究計画書の作成
8. 研究計画書の作成
9. 研究計画書の作成
10. 中間報告（1）
11. 中間報告（1）
12. 中間報告（1）
13. 中間報告（1）
14. 中間報告（1）
15. 中間報告（1）

##### <後期>

1. ガイダンス
2. 中間報告（2）
3. 中間報告（2）
4. 中間報告（2）
5. 中間報告（2）
6. 中間報告（2）
7. 中間報告（2）
8. 最終報告
9. 最終報告
10. 最終報告
11. 最終報告
12. 最終報告
13. 最終報告
14. 最終報告
15. まとめと反省

#### 授業方法：

1. 参加者は順番に、①研究テーマの設定、②研究計画書の作成、③中間報告(1)、④中間報告(2) ⑤最終報告を発表します。
2. 発表に当たっては、パワーポイントで作成したスライド発表を行います。

#### 達成目標：

自分の問題意識から学術的研究テーマを設定し、研究スキルを用いて分析と課題の解決策を提案し、効果的なプレゼンテーションができるようになる。

#### 評価方法：

調査研究の発表60%、討議参加40%で評価します。

#### 教科書：

特に指定なし。

#### 参考文献：

吉田文和『循環型社会』（中公新書）、山谷修作編著『循環型社会の公共政策』（中央経済社）

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22301	地域経済論特殊講義 I A (地域資源管理論)	4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考:
前期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
持続可能な地域社会 グローバル ナショナル リージョナル ローカル 産業集積地論 産業空 洞化 自動車産業集積地 地場産業 伝統／文化 ／歴史 地域資源	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ:

日本の経済・社会を地域という切り口から考察する。～日本経済と日本的経営の重要課題と関連付けつつ、グローバル経済下における愛知県・西三河地域の実業の實力と当面する問題点、名古屋大都市圏の構造変化について学ぶ。

#### 授業の概要:

行政統計をベースに、愛知県一西三河地域の地域経済の特徴・構造・問題点等についてSWOT分析を取り入れつつ考察する。関連する経済学の基礎理論を紹介する。  
(講義 I A・I Bはあわせて履修することが望ましい。)

#### 授業の計画:

1. ガイダンス
2. 名古屋大都市圏の日本経済に占める比重
3. 同 全般的な構造分析
4. 愛知県の人口データ
5. 同 人口構造分析
6. 愛知県の産業データ
7. 同 産業構造分析
8. 中間まとめ
9. 愛知県の産業発展史
10. 愛知県の空間編成
11. 愛知県下自治体の財政状況
12. テキスト②による補足
13. テキスト②による補足
14. テキスト②による補足
15. まとめ

#### 授業方法:

テキストを軸に講義するが、DVD、新聞・雑誌記事を資料として活用する。

#### 達成目標:

- ・進路選択、さらには就職後の仕事やビジネスにつなげることを意識して、地域社会の産業・経済・企業に現状と課題を理解し、地域経済の概要を把握する。
- ・統計の目的と種類を知り、簡単な加工ができるようになる。

#### 評価方法:

期末試験100%で評価する

- ・地域経済と企業経営の初歩的知識を修得し、重要課題をよく理解している……………S
- ・上記について、部分的には不十分な点があるが、ほぼ達している……………A
- ・上記について、不十分、不正確な点があるが、おおそは達している……………B
- ・上記について、不十分、不正確な点が多い……………C
- ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

#### 教科書:

- ①岡崎信用金庫月報NO.516～NO.521 藪谷論文 (授業開始後に配布)
- ②東海自治体問題研究所編「大都市圏の構造変化～東海からの発信」自治体研究社, 2013年

#### 参考文献:

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22401	地域経済論特殊講義 I B (地域資源管理論)	4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考:
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
イノベーション 適地適車 グローバル立地調整 グローバル部品調達 完全現地化 トヨタ生産方式 トヨタ・ピラミッド すりあわせ/モジュラー 環境 問題対応 スマートシティ/自動運転/航空機産業	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ:

日本の経済・社会を自動車産業という切り口から考察する。～戦後の日本経済と生産方式を牽引してきた当地域の自動車産業が生き残りをかけた文明的転機にある。このことが世界的な自動車産業集積地；愛知県・西三河地域に及ぼす諸インパクトを学ぶ。

#### 授業の概要:

愛知県・西三河地域経済のリーディング産業である自動車産業の発展史、現状と当面する諸課題を整理し、競争基盤の変化を理解し、日本の製造業（モノづくり）の進路を考える。（講義 I A・I Bはあわせて履修することが望ましい。）

#### 授業の計画:

1. オリエンテーション
2. データで確認する西三河自動車産業集積地
3. 空間構造で確認する西三河自動車産業集積地
4. 産業集積地論①～経済学の基礎理論
5. ②～海外事例
6. 産業空洞化論①～経済学の基礎理論
7. ②～海外事例
8. 中間まとめ
9. トヨタ論①～企業間関係（トヨタピラミッド）
10. ②～トヨタ生産方式
11. ③～自動車部品企業論
12. ④～グローバル立地調整
13. 自動車産業進化論①～電気自動車とスマートタウン
14. ②～ITSと無人・自動運転、国産飛行機
15. まとめ～クルマはどこへ行く

#### 授業方法:

テキストを軸に講義するが、DVD、新聞・雑誌記事を資料として活用する。

#### 達成目標:

- ・自動車産業を通して愛知県・西三河地域の産業と空間の構造転換を迫られている。このことが、個別の企業・自治体・地域社会・世帯等に与える諸インパクトを理解する。
- ・統計の目的と種類を知り、簡単な加工ができるようになる。

#### 評価方法:

- 期末試験100%で評価する
- ・地域経済と企業経営の初歩的知識を修得し、重要課題をよく理解している……………S
  - ・上記について、部分的には不十分な点があるが、ほぼ達している……………A
  - ・上記について、不十分、不正確な点があるが、おおよそは達している……………B
  - ・上記について、不十分、不正確な点が多い……………C
  - ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

#### 教科書:

- ①岡崎信用金庫月報NO.516～NO.521 藪谷論文（授業開始後に配布）
- ②東海自治体問題研究所編「大都市圏の構造変化～東海からの発信」自治体研究社，2013年

#### 参考文献:

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22501	地域経済論特殊講義ⅡA（公共経済学）	4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
持続可能な財政 少子高齢化社会 社会保障と税の一体改革 近代租税国家 量入制出 成熟経済 財政危機 プライマリー・バランス 公共財 アベノミクス	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

初めて財政学を学ぶ人を対象に、財政・税制の基礎（専門用語、基本的な仕組み・制度、基礎理論）を学び、難解にみえる財政学が暮らしと企業の行方を左右するほどの重要な役割をもっていることを理解する。（講義ⅡA・ⅡBあわせて履修することが望ましい。）

#### 授業の概要：

財政と税制（政策）の機能・役割を、日本の経済・社会の状況・動向や政治的情勢、さらに私たちの暮らしの要求と関連付けて解説する。

#### 授業の計画：

1. イントロダクション～財政と財政学
2. 財政とは①～構造と機能
3. 財政とは②～基礎理論
4. 日本の財政制度①～仕組み
5. 日本の財政制度②～予算の概要
6. 中間まとめと補足
7. 租税とは①～原則と基礎理論
8. 租税とは②～制度の概要
9. 消費課税①～基礎理論
10. 消費課税②～実際・問題点
11. 所得課税①～基礎理論
12. 所得課税②～実際・問題点
13. 法人課税①～基礎理論
14. 法人課税②～実際・問題点
15. 総まとめと補足

#### 授業方法：

テキストを軸に講義するが、DVD、新聞記事、行政の統計データを活用する。

#### 達成目標：

新聞やビジネス雑誌等の関連記事に関心をもち、自分なりに読み込む態度を養う。  
財政学が出題される各種試験の初級レベルに対応できる基礎力を修得する。

#### 評価方法：

期末試験100%で評価する  
 ・財政制度の初歩的知識を修得し、現代における重要課題をよく理解している……………S  
 ・上記について、部分的には不十分な点があるが、ほぼ達している……………A  
 ・上記について、不十分、不正確な点があるが、おおよそは達している……………B  
 ・上記について、不十分、不正確な点が多い……………C  
 ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

#### 教科書：

上村敏之「コンパクト財政学 第2版」新世社、2013年

#### 参考文献：

神野直彦「（文春新書897）税金 常識のウソ」文芸春秋、2013年

#### 実験・実習・教材費：



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22601	地域経済論特殊講義ⅡB（公共経済学）	4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
持続可能な地域 都市化と過疎 人口減少時代 社会保障 基礎自治体 地方交付税改革 地域経済 財政危機 財政力指数 地方公共財 公共業務の委 託化（指定管理者制度）	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

財政と税制の基礎を学習した人を対象に、国と地方の財政関係、自治体財政、社会保障財政の基礎（専門用語、基本的な仕組み・制度、基礎理論、実態）について学ぶ。（講義ⅡA・ⅡBはあわせて履修することが望ましい。）

#### 授業の概要：

日本の地方自治体のサイフ事情（大きさ、形、中身、出し入れ、やりくり）を、親元からの仕送りと自活をふまえて考えるスキルを学ぶ。～地方財政の仕組みと役割を様々な統計と指標を使って読み解く意義と手法を実践的に学ぶ。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス
2. 地方財政の役割～少子高齢化・人口減少・成熟経済下の財政
3. ①地方財政の資金の流れ～地方自治体の会計
4. ②地方財政の歳入
5. ③地方税収
6. 中間まとめと補足
7. ①地方財政の目的的歳出
8. ②地方財政の性質的歳出
9. ①国と地方自治体の財政関係～国庫支出金
10. ②国と地方自治体の財政関係～地方交付税
11. ③地方交付税の仕組み～国レベル
12. ④地方交付税の仕組み～地方自治体レベル
13. 地方財政の指標
14. 社会保障財政
15. 総まとめと補足

#### 授業方法：

テキストを軸に講義するが、DVD、新聞・雑誌記事を資料として活用する。

#### 達成目標：

新聞やビジネス雑誌等の関連記事に関心をもち、自分なりに読み込む態度を養う。財政学が出题される各種試験の初級レベルに対応できる基礎力を修得する。

#### 評価方法：

- 期末試験100%で評価する
- ・財政理論と政策の初歩的知識を修得し、重要課題をよく理解している……………S
  - ・上記について、部分的には不十分な点があるが、ほぼ達している……………A
  - ・上記について、不十分、不正確な点があるが、おおよそは達している……………B
  - ・上記について、不十分、不正確な点が多い……………C
  - ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

#### 教科書：

上村敏之「コンパクト財政学 第2版」新世社、2013年

#### 参考文献：

神野直彦「（文春新書897）税金 常識のウソ」文芸春秋、2013年

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B22801	地域経済論演習	4	4	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
グローバル経済 新興国 ものづくり 都市再生 創造都市	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

環境問題に対応しつつ地域経済の振興・都市再生～地域社会の持続可能性を図っていくことをゼミの共通枠組みとし、各自の問題意識を卒業論文に「見える化」する。

#### 授業の概要：

- ① 地域や企業の固有性・独自の強みを掘り起こし、現代的に設計・事業化することで地域経済の活性化、地域・企業の競争力を形成する諸事例・理論に関する文献の検討。
- ② 卒業論文作成。（資料分析、論文作成の技法の指導、プレゼンテーションの練習）

#### 授業の計画：

##### <前期>

1. ガイダンス
2. 卒業論文作成上の留意点と基本的作法について
3. 4. 論文テーマについての発表とコメント
5. 6. 7. 論文の全体構想の提示、分析手法の検討
8. 9. 10. 先行研究についての報告と指導
11. 12. 13. 14. 個人の第1次報告
15. 夏期休暇期間中の作業の確認

##### <後期>

1. ガイダンス（留意点と作業スケジュールの再確認）
2. 3. 4. 5. 個人の第2次報告と討論
7. 8. 報告の結果、さらに必要となった資料、調査等の追加作業の明確化
9. 10. 11. 12. 個人の第3次報告と討論
13. 14. 論文の体裁の整理（目次・概要・参照文献・図やデータ処理等）
15. 口頭試問を想定した概略説明（発表）

#### 授業方法：

- ・卒業論文の進捗にあわせた発表とゼミ生相互の検討。
- ・個人指導。自主的なゼミ運営。
- ・司会や報告の役割分担、討論への主体的参加。

#### 達成目標：

地域経済学・経営学のアプローチ・手法の実践としての卒業論文作成。  
日本経済論と中国経済論の重要な論点の概要を理解する。

#### 評価方法：

- ・積極的にゼミに参加するとともに、卒業論文作成の過程で地域経済学の体系と重要課題をよく理解し、卒業論文の水準が高い……………S
- ・上記について、部分的には不十分な点があるが、ほぼ達している……………A
- ・上記について、不十分、不正確な点があるが、おおよそは達している……………B
- ・上記について、不十分、不正確な点が多い……………C
- ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

#### 教科書：

ゼミ生の卒業論文のテーマを勘案し、授業開始後に指示する。

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45301	企業会計論特殊講義 I A (経営財務分析論)	4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考:
前期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資格取得 日商簿記検定 2級 情報処理能力 ビジネススキル	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ:

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「企業会計論講義」を履修した学生を対象として、高度な簿記技術を習得することを目的としており、日商簿記検定2級合格を目指していく。

#### 授業の概要:

日商簿記検定2級合格を目指した講義を行う。今年度は工業簿記について解説し、日商簿記検定2級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。

#### 授業の計画:

1. オリエンテーション、受講上の注意点
2. 工業簿記の基本
3. 工業簿記上の費用
4. 原価計算
5. 工業簿記の構造
6. 費目別計算 (材料費)
7. 費目別計算 (労務費)
8. 費目別計算 (経費)
9. 財務諸表と製造原価報告書 (1)
10. 財務諸表と製造原価報告書 (2)
11. 単純個別原価計算 (1. 実際配賦)
12. 単純個別原価計算 (2. 予定配賦)
13. 単純個別原価計算 (3. その他)
14. 部門別個別原価計算 (1)
15. 部門別個別原価計算 (2)

#### 授業方法:

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。また、受講者の理解を深めるために、テキストの練習問題を使って実際に問題を解いていく。また適宜、プリントを配布して解説する。

#### 達成目標:

日商簿記検定2級取得

#### 評価方法:

試験 100%

#### 教科書:

榊原正幸・瀧博『工業簿記入門』税務経理協会、¥2,940  
岡本清・廣本敏郎編著『新検定簿記ワークブック 2級工業簿記』中央経済社 ¥735

#### 参考文献:

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45401	企業会計論特殊講義 I B (経営財務分析論)	4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考:
後期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資格取得 日商簿記検定 2級 情報処理能力 ビジネススキル	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ:

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、**企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である**。とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「企業会計論講義」および「企業会計論特殊講義 I A」を履修した学生を対象として、高度な簿記技術を習得することを目的とするものであり、**日商簿記検定 2 級合格**を目指していく。

#### 授業の概要:

日商簿記検定 2 級合格を目指した講義を行う。今年度は工業簿記について解説し、日商簿記検定 2 級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。

#### 授業の計画:

1. 単純総合原価計算 (1)
2. 単純総合原価計算 (2)
3. 等級別総合原価計算
4. 組別総合原価計算
5. 仕損・減損の処理 (1)
6. 仕損・減損の処理 (2)
7. 工程別総合原価計算 (1)
8. 工程別総合原価計算 (2)
9. 標準原価計算 (1)
10. 標準原価計算 (2)
11. 直接原価計算
12. 原価・営業量・利益関係の分析 (1)
13. 原価・営業量・利益関係の分析 (2)
14. 原価予測
15. 工場会計の独立

#### 授業方法:

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。また、受講者の理解を深めるために、テキストの練習問題を使って実際に問題を解いていく。また適宜、プリントを配布して解説する。

#### 達成目標:

日商簿記検定 2 級取得

#### 評価方法:

試験 100%

#### 教科書:

榎原正幸・瀧博『工業簿記入門』税務経理協会、¥2,940  
岡本清・廣本敏郎編著『新検定簿記ワークブック 2 級工業簿記』中央経済社 ¥735

#### 参考文献:

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45501	企業会計論特殊講義ⅡA（企業簿記論）	4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資格取得 日商簿記検定 2級 情報処理能力 経済知識	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、**企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である**。とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「企業会計論講義」を履修した学生を対象として、経営分析の基礎となる高度な簿記技術を習得することを目的としており、**日商簿記検定 2 級合格**を目指していく。

#### 授業の概要：

日商簿記検定 2 級合格を目指した講義を行う。今年度は商業簿記について解説し、日商簿記検定 2 級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。

#### 授業の計画：

1. オリエンテーション
2. 簿記一巡の手続きと財務諸表
3. 現金預金取引
4. 有価証券取引
5. 債権・債務取引
6. 手形取引（1）
7. 手形取引（2）
8. 引当金取引
9. 商品売買取引（1）
10. 商品売買取引（2）
11. 特殊商品売買取引（1）
12. 特殊商品売買取引（2）
13. 固定資産取引
14. 損益取引（1）
15. 損益取引（2）

#### 授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。  
また、理解を深めるために、テキストの演習問題・ワークブックを使って実際に問題を解いていく。

#### 達成目標：

日商簿記検定 2 級取得

#### 評価方法：

試験 100%

#### 教科書：

渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記講義 2 級商業簿記』中央経済社 ¥735  
渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記ワークブック 2 級商業簿記』中央経済社 ¥735

#### 参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45601	企業会計論特殊講義ⅡB（企業簿記論）	4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資格取得 日商簿記検定 2級 情報処理能力 経済知識	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

企業が営利を追求していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。とりわけ簿記は、会計学の学習において基本となるものであり、企業情報を分析するうえでも重要となる。本講義は「企業会計論講義」および「企業会計論特殊講義ⅡA」を履修した学生を対象として、高度な簿記技術を習得することを目的としており、日商簿記検定 2級合格を目指していく。

#### 授業の概要：

日商簿記検定 2級合格を目指した講義を行う。今年度は商業簿記について解説し、日商簿記検定 2級受験対策テキストを用いて、基本事項の解説と演習問題も含めた実践的な講義を行ない、問題の解法について解説する。

#### 授業の計画：

1. 株式会社会計（1）
2. 株式会社会計（2）
3. 株式会社会計（3）
4. 株式会社会計（4）
5. 税金
6. 決算（1）
7. 決算（2）
8. 決算（3）
9. 本支店会計（1）
10. 本支店会計（2）
11. 本支店会計（3）
12. 帳簿組織（1）
13. 帳簿組織（2）
14. 帳簿組織（3）
15. 日商簿記検定試験の出題傾向分析と問題の解法

#### 授業方法：

テキストにしたがい、各項目の内容を詳細に解説し、例題を用いて問題の解法を説明する。また、理解を深めるために、適宜、テキストの演習問題・ワークブックを使って実際に問題を解いていく。

#### 達成目標：

日商簿記検定 2級取得

#### 評価方法：

試験 100%

#### 教科書：

渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社 ¥735  
渡部裕亘・片山覚・北村敬子編著『新検定簿記ワークブック 2級商業簿記』中央経済社 ¥735

#### 参考文献：

開講時および必要に応じて適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B45801	企業会計論演習	4	4	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	3	

授業のキーワード				人間環境大学が育む八つの能力	
企業研究 決定力	情報処理能力	ビジネススキル	意思	分析・総合の思考力と判断力	問題解決力 社交性（社会的相互関係力）

#### 授業のテーマ：

企業が営利を迫及していく組織である以上、そこには必ず会計が存在している。将来、企業に就職しようと考えている学生にとって会計の知識は必要不可欠である。わが国の会計制度は、会計ビッグバンという会計制度の変革に始まり、会社法の制定や国際的な会計基準への統一化（コンバージェンス）など、会計をとりまく環境の変化によって、その姿は大きく変貌してきている。本演習は、こうした会計制度の変革についてその内容を深く考察しようとするものである。また、企業会計の知識を用いた企業研究能力を養い、就職活動に活用していくことも目的としている。

#### 授業の概要：

4年生については卒論発表、3年生は各自の設定したテーマ発表を行なう。  
発表スケジュールについては開講時に受講生と相談の上、決定する。  
必要に応じて企業や施設の見学を行う予定である。  
なお、簿記検定前には問題の解法についての指導を行う。

#### 授業の計画：

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. オリエンテーション     | 16. 4年生（卒論中間発表） |
| 2. 4年生（卒論題目と概要）  | 17. 4年生（卒論中間発表） |
| 3. 4年生（卒論題目と概要）  | 18. 4年生（卒論中間発表） |
| 4. 3年生（テーマ発表）    | 19. 3年生（テーマ発表）  |
| 5. 3年生（テーマ発表）    | 20. 3年生（テーマ発表）  |
| 6. 3年生（テーマ発表）    | 21. 3年生（テーマ発表）  |
| 7. 簿記演習問題        | 22. 簿記演習問題      |
| 8. 簿記検定傾向と対策     | 23. 簿記検定傾向と対策   |
| 9. 4年生（卒論構成発表）   | 24. 4年生（卒論討論）   |
| 10. 4年生（卒論構成発表）  | 25. 4年生（卒論討論）   |
| 11. 4年生（卒論構成発表）  | 26. 4年生（卒論討論）   |
| 12. 3年生（テーマ発表）   | 27. 3年生（卒論計画）   |
| 13. 3年生（テーマ発表）   | 28. 3年生（卒論計画）   |
| 14. 3年生（テーマ発表）   | 29. 4年生（卒論発表）   |
| 15. 夏季休業中の研究計画発表 | 30. 4年生（卒論発表）   |

#### 授業方法：

配布プリントや受講生が各自で選択したテーマについて発表を行い、その後活発な討議を行いながら理解を深めていく。また、卒論指導や簿記検定対策指導では、進捗状況や習得状況に応じた指導を行うほか、受講生間で互いに助言・意見交換を行い、効果的な論文作成・資格取得対策を行っていく。

#### 達成目標：

基本的な企業会計に関する知識の習得、積極的な意見発表、正確なレジュメ・資料作成、日商簿記検定2級取得、企業研究能力の習得

#### 評価方法：

発表50%、授業への取り組み50%。  
なお、演習時において出席に関して注意すべき点を詳細に指示する。

#### 教科書：

輪読文献については開講時に受講生と相談の上、決定する。  
配布プリント（企業会計論に関する外国文献および基準・指針・レポート等）

#### 参考文献：

必要に応じて参考書を適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B51301	金融A	4	2	近藤隆則

期間	曜日	時限	備考:
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
金融仲介 銀行の情報生産 銀行の流動性供給 地域金融機関 優良中小企業の育成	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ:**

金融仲介が経済社会にとっていかに重要な機能であるかをテーマとします。特に銀行の情報生産や流動性供給が「よく機能する」ことが企業や家計の発展に結びつくことに焦点を当てます。

**授業の概要:**

様々な種類の金融仲介を念頭に、特に銀行の預金や貸出の経済的機能やそれを支える金融制度について学び、銀行と地域社会とのつながりや近年の銀行危機についても理解を深めます。

**授業の計画:**

第1回	金融仲介とは何か	第9回	金融制度(1)
第2回	金融仲介機関の種類(1)	第10回	金融制度(2)
第3回	金融仲介機関の種類(2)	第11回	金融制度(3)
第4回	間接金融と銀行の役割	第12回	東海地方の金融の特徴
第5回	銀行の二つの重要な機能	第13回	銀行から見た優良中小企業像
第6回	銀行の貸出審査と担保	第14回	銀行危機はなぜ起こるか
第7回	信用リスクと金利リスク	第15回	全体の復習とまとめ
第8回	前半の復習とまとめ		

**授業方法:**

基本的には講義形式で進め、適宜身近な話題や事例も取り入れて講義のポイントについてみんなで考えます。

**達成目標:**

金融仲介と銀行の機能を正しく理解し、企業の発展や経済社会との関連に理解が及ぶこと

**評価方法:**

期末試験80%、授業への取り組みや発言の回数・内容20%	
金融仲介と銀行の機能および経済社会との関連を理解し具体的に説明できる……	S
おおむね銀行の機能について正しく理解している……	A
一部説明力が不足しているが、相応に理解されてはいる……	B
把握が必ずしも十分ではないものの、最低限の理解はしている……	C
上記水準に達していない……	D

**教科書:**

なし

**参考文献:**

戸谷圭子『イラスト図解 銀行のしくみ』日本実業出版社(1,650円)  
花輪俊哉・小川英治・三隅隆司『はじめての金融経済』東洋経済新報社(3,300円)の第5章、第6章

**実験・実習・教材費:**

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B51401	金融B	4	2	近藤隆則

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
信用創造 資金循環 インフレとデフレ 円高・円安 国際通貨危機	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

一国の資金循環やインフレ・デフレがどういう意味を持つのか、また国際的な金融取引がどのように行われるかをテーマとします。

**授業の概要：**

前半は一国経済の資金の流れを理解し、インフレ・デフレの意味や中央銀行の金融政策の役割を学びます。後半は国際的な金融取引、為替相場の決定要因を学び、近年の国際通貨危機にも触れます。

**授業の計画：**

第1回	貨幣の役割	第9回	前半の復習とまとめ
第2回	貨幣の需要・供給	第10回	国際金融の二つのポイント
第3回	信用創造とマネーサプライ	第11回	為替相場はどう決まるか
第4回	資金循環	第12回	グローバル化とは何か
第5回	財政と資金循環	第13回	二つの金融危機を比較する
第6回	金融政策（1）	第14回	金融危機の世界史と教訓
第7回	金融政策（2）	第15回	全体の復習とまとめ
第8回	金融政策（3）		

**授業方法：**

基本的には講義形式で進め、適宜身近な話題や事例も取り入れて講義のポイントについてみんなで考えます。

**達成目標：**

インフレ・デフレの意味や為替相場の意味を正しく理解し、一国の資金循環や国際金融についての基礎知識を身に付けること

**評価方法：**

期末試験 80%、授業への取り組みや発言の回数・内容 20%  
 物価や為替相場の意味を正しく理解し具体的に説明できる……………S  
 物価や為替相場についておおむね正しく理解している……………A  
 一部説明力が不足しているが、相応に理解されてはいる……………B  
 把握が必ずしも十分ではないものの、最低限の理解はしている……………C  
 上記水準に達していない……………D

**教科書：**

なし

**参考文献：**

花輪俊哉・小川英治・三隅隆司『はじめての金融経済』東洋経済新報社(3,300円)の1, 2, 7, 8章

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B51501	証券市場A	4	2	近藤隆則

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
リスク・リターン 発行市場と流通市場 分散投資 市場ポートフォリオ	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

投資家の観点から証券市場の役割や証券投資の基本的な考え方を身に付けることをテーマとします。

**授業の概要：**

株式市場をはじめ様々な証券市場の機能を学ぶとともに、証券投資に必要なリスク・リターンの関係や価格決定の理論、分散投資の考え方を身に付け、証券バブルが発生する理由についても触れます。

**授業の計画：**

第1回	直接金融と証券市場の役割	第9回	分散投資の重要性（1）
第2回	リスクとリターンの関係を理解する	第10回	分散投資の重要性（2）
第3回	株式市場とはどんな所か	第11回	株価はどう決まるか（1）
第4回	債券市場とはどんな所か	第12回	株価はどう決まるか（2）
第5回	投資信託の役割	第13回	証券市場の効率性
第6回	市場の多様化（1）	第14回	証券バブルはなぜ起きるか
第7回	市場の多様化（2）	第15回	全体の復習とまとめ
第8回	前半の復習とまとめ		

**授業方法：**

基本的には講義形式で進め、適宜身近な話題や事例も取り入れて講義のポイントについてみんなで考えます。

**達成目標：**

投資のリスク・リターンの関係や分散投資の意味、証券価格の決定メカニズムを正しく理解すること

**評価方法：**

期末試験 80%、授業への取り組みや発言の回数・内容 20%  
証券投資の基礎的概念や分散投資の意味を理解し具体的に説明できる…… S  
おおむね証券投資の基礎知識を正しく身に付けている…………… A  
一部説明力が不足しているが、相応に理解されてはいる…………… B  
把握が必ずしも十分ではないものの、最低限の理解はしている…………… C  
上記水準に達していない…………… D

**教科書：**

なし

**参考文献：**

釜江廣志『入門証券市場論（第3版）』有斐閣(2,415円)  
花輪俊哉・小川英治・三隅隆司『はじめての金融経済』東洋経済新報社(3,300円)の第3章

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B51601	証券市場B	4	2	近藤隆則

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
資本コスト コーポレート・ガバナンス 新規株式公開（IPO） 合併・買収（M&A）	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

企業の金融行動について、基本的な考え方と実際の発展段階をたどることをテーマにします。

#### 授業の概要：

企業がどのように資金調達方法を選択し、投資規模や内容を意思決定するかといった金融行動の基本を学んだ後、企業の統治に関する諸問題や企業の各発展段階における金融行動について触れます。

#### 授業の計画：

第1回	企業はどう資金調達するか（1）	第9回	企業は誰のものか
第2回	企業はどう資金調達するか（2）	第10回	企業は誰のためにあるか
第3回	企業はどう資金調達するか（3）	第11回	企業は誰に統治されているか
第4回	企業はどう投資を決定するか（1）	第12回	ベンチャー企業と株式公開
第5回	企業はどう投資を決定するか（2）	第13回	M&Aと企業再編
第6回	企業はどう投資を決定するか（3）	第14回	倒産処理と企業再生
第7回	企業はどう利益を配分するか	第15回	全体の復習とまとめ
第8回	前半の復習とまとめ		

#### 授業方法：

基本的には講義形式で進め、適宜身近な話題や事例も取り入れて講義のポイントについてみんなで考えます。

#### 達成目標：

企業金融の基礎的な概念や企業の各発展段階における金融行動を正しく理解すること

#### 評価方法：

期末試験80%、授業への取り組みや発言の回数・内容20%  
 企業の資金調達や投資行動についての基本的な考え方を理解し具体的に説明できる……………S  
 おおむね企業金融の基礎概念について正しく理解している……………A  
 一部説明力が不足しているが、相応に理解されてはいる……………B  
 把握が必ずしも十分ではないものの、最低限の理解はしている……………C  
 上記水準に達していない……………D

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

米澤康博・小西大・芹田敏夫『新しい企業金融』有斐閣(1,995円)  
 花輪俊哉・小川英治・三隅隆司『はじめての金融経済』東洋経済新報社(3,300円)の第4章

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B51201	経営学総論	4	2	藪谷あや子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本型経営 グローバルスタンダード モチベーション コミュニケーション	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ：

経営学に関心がある学生向けとしてだけでなく、大学生のキャリア教育の基礎—社会人としての必須教養—として、経営学の基本的用語と入門的知識を修得する。

#### 授業の概要：

専門用語や概念について、それぞれの名称と内容を知る。次にそれを自分の言葉で説明、論述できる水準に達するために、要点をまとめ記憶を促す。実際の企業を事例にして解説する。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス・経営学とは何か
2. 組織とは何か
3. 人的資源管理とは何か
4. 経営戦略とは何か
5. 生産管理とは何か
6. マーケティングとは何か
7. 中間点検
8. 営業管理とは何か
9. 意志決定とは何か
10. サプライチェーンマネジメントとは何か
11. 経営情報とは何か
12. 中間点検
13. リーダーシップとは
14. 日本企業の課題
15. まとめ

#### 授業方法：

テキストを軸として講義するが、必要に応じてDVDや新聞記事等を用いて、日本経済や企業経営の実際にひきつけて解説する。

#### 達成目標：

日本や地域の経済や企業に関する報道を、身近なものとして興味・関心がもてるようになる。企業や経営を見る（評価する）目を養う。

#### 評価方法：

期末試験100%で評価する

- ・経営学の専門用語と初歩的知識を修得し、重要課題をよく理解している……………S
- ・上記について、部分的には不十分な点があるが、ほぼ達している……………A
- ・上記について、不十分、不正確な点があるが、おおよそは達している……………B
- ・上記について、不十分、不正確な点が多い……………C
- ・上記について、目標の半分以下のレベルにしか達していない……………D

#### 教科書：

北中英明「プレステップ 経営学」弘文堂、平成21年、

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B50701	環境会計	4	2	磯貝明

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
批判的思考 問題の発見・原因の解明 グローバルな視野	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力

#### 授業のテーマ：

企業は自らの環境に関する活動や影響を認識し、それらを環境情報として外部利害関係者に開示することが求められている。こうした企業の環境情報を貨幣測定し、外部報告する環境財務会計を理解するために、企業の会計情報を外部報告する財務会計の基本的機能や構造について学ぶ。

#### 授業の概要：

会計の意義から考察を始めて、会計の機能の視点から企業の会計情報開示について解説し、環境財務会計を理解するための財務会計の基本的構造について解説する。

#### 授業の計画：

1. 会計の意義と領域・環境会計の位置づけ
2. 環境情報開示と制度会計
3. 会計の基本構造
4. 利益計算の基本原理
5. 現金・預金と金銭債権の会計
6. 有価証券の会計
7. 棚卸資産の会計
8. 有形固定資産の会計
9. 無形固定資産と投資その他の資産の会計
10. 繰延資産の会計
11. 負債の会計
12. 純資産の会計
13. 収益と費用の会計
14. 財務諸表の作成
15. キャッシュ・フロー計算書

#### 授業方法：

会計の意義から考察を始めて、企業の会計情報の開示について詳細に解説する。

#### 達成目標：

企業の会計情報開示について、各項目の会計処理が理解でき、会計手続きの最終段階である財務諸表の内容を理解する。

#### 評価方法：

定期試験100%

#### 教科書：

上野清貴 『財務会計の基礎 第3版』 中央経済社 2013年 ¥2,940

#### 参考文献：

開講時または必要に応じて適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B50901	生産システム論	4	2	奥田栄

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
工場の仕組み 生産管理 カンバン方式と自動化 IT化	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

いまや、あらゆるビジネスの「川上工程」として、生産現場を知らなければ多くの仕事はスムーズに事が運ばなくなってきた。本講義では、脱工業化が進みブラックボックス化している「工場」のしくみを、学生にも理解しやすいように解説する。

#### 授業の概要：

工場の基本的なしくみから、開発・設計、フローショップとジョブショップなどの生産のしくみ、MRPやカンバン方式など生産管理について、原価管理のしくみ、ISO、HACCPといった品質管理、そして工場内の情報システムなど最新IT化事情（ERP、PDM、SCM、CRM、EDIなど）までをわかりやすく説明する。

#### 授業の計画：

1. 工場とは何か
2. ものつくりの工程を見る
3. さまざまな生産のしくみ・タイプ
4. 工場全体のしくみ
5. 中間まとめ
6. 工場の各部門担当者の一日
7. 開発・設計のしくみ
8. 生産管理のしくみ
9. 生産現場の今
10. 中間まとめ（2）
11. 原価管理のしくみ
12. 品質管理のしくみ
13. 自動化とIT活用
14. 工場が拓く未来
15. まとめ

#### 授業方法：

講義形式による。毎回講義の最初の20分くらいを費やして、前回の講義のまとめを兼ねて問題を配布し、指名してそれに答えさせることによって理解の度合いを測る。

#### 達成目標：

製造業の直面する課題を理解し、そうした課題を乗り越えるためにどのような試みが行われているのかを事例に即して考えることができるようになる。

#### 評価方法：

授業への取組（30%）に試験の結果（70%）を加味して判定する。

#### 教科書：

松林光男・渡部弘『イラスト図解 工場のしくみ』日本実業出版（1,400円）

#### 参考文献：

その都度プリントを配布したり参考文献を指示したりする。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60401	基礎心理学A	4	2	

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
感覚・知覚 学習・記憶 動機づけ 情動	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

**授業のテーマ：**

「心理学は心と行動を研究する科学である」という立場から心理現象を理解するとともに、心理学の基礎的な知識を身につける。

**授業の概要：**

心理学の歴史と研究方法について概観し、実験心理学の立場から人間の基本的な心的機能である、感覚・知覚、学習・記憶、動機づけ、情動について解説する。

**授業の計画：**

第1回	心理学の研究対象	第9回	学習・記憶①（行動の分類）
第2回	心理学の歴史と研究方法①	第10回	学習・記憶②（条件づけ）
第3回	心理学の歴史と研究方法②	第11回	学習・記憶③（社会的学習）
第4回	心的過程の生理学的基礎	第12回	学習・記憶④（記憶の分類）
第5回	感覚・知覚①（感覚の種類）	第13回	学習・記憶⑤（記憶の忘却）
第6回	感覚・知覚②（知覚の体制化）	第14回	動機づけと情動①（動機の分類）
第7回	感覚・知覚③（空間と運動の知覚）	第15回	動機づけと情動②（情動の機能）
第8回	感覚・知覚④（知覚の恒常性）		

**授業方法：**

教科書と配布資料の内容に沿って進めていく。内容と関連した映像資料も補助的に用いる。授業内容と関連した課題の提出を求めることもある。授業の進行を妨げる行為（私語や飲食）はもちろん、授業開始 20分以降の遅刻は厳禁とする。

**達成目標：**

心理学の基礎知識を身につけ、科学的視点から日常的な心理現象を考察できる力を身につける。

**評価方法：**

出席回数の基準（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

**教科書：**

梅本・大山・岡本 共著『コンパクト新心理学ライブラリ 1心理学』 サイエンス社 1,418円

**参考文献：**

授業中に適宜紹介する。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61401	学習心理学	4	2	

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学習と適応 条件づけ 認知的学習 社会的学習	分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

成育後のヒトが示すほとんどの行動は生後の経験を通じて学習されたものである。したがって、学習過程の研究は人間行動の理解にとって不可欠であるといえる。この授業ではヒトや霊長類動物の発達や環境適応において重要な役割を果たしている学習行動に関する代表的な理論や研究結果を紹介し、学習という心的過程のメカニズムについて考えていく。

#### 授業の概要：

馴化、鋭敏化、条件づけといった基本的な学習現象から、概念形成、模倣といった複雑な情報処理システムに基づいた学習現象までを解説する。さらにこうした学習現象と関連する心理過程（記憶や動機づけ）のはたらきや、比較心理学や発達心理学的観点からみた学習の意義についても考えていく。

#### 授業の計画：

第1回	学習の定義・学習の様式	第9回	強化スケジュール
第2回	行動の分類	第10回	条件づけの応用
第3回	馴化と鋭敏化	第11回	洞察学習と概念形成
第4回	古典的条件づけの形成	第12回	社会的学習
第5回	古典的条件づけの消去と般化	第13回	技能の習得
第6回	古典的条件づけの隠蔽と阻止	第14回	動物の学習行動
第7回	オペラント条件づけの形成	第15回	学習と記憶の生理学的基礎
第8回	オペラント条件づけにおける強化		

#### 授業方法：

プリントと映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出や小テストも実施する予定である。授業の進行を妨げる行為（私語や飲食）はもちろん、授業開始 20分以降の遅刻は厳禁とする。

#### 達成目標：

学習における普遍的特徴と種特異性、学習と適応の関連性について、広い視野から俯瞰できるようになることを目指す。

#### 評価方法：

出席回数の基準（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

実森・中島 共著『コンパクト新心理学ライブラリ 2 学習の心理』 サイエンス社 1,575円  
岡田・廣中・宮森 共著『コンパクト新心理学ライブラリ 14 生理心理学』 サイエンス社 2,310円

#### 実験・実習・教材費：

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61501	比較心理学	4	2	

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
動機づけ 適応 生理的欲求 内発的動機づけ 社会的動機づけ	分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

動機づけとは、行動を発現させ、方向づけ、持続させる心的過程である。この授業では動機づけの適応的意義についてヒトとそれ以外の動物を比較しながら解説していく。またヒトの生活場面（特に学習と教育）における動機づけの問題についても、研究例をあげながら考えていく。

#### 授業の概要：

心理学における動機づけ研究の枠組みを紹介し、4種類の動機づけ過程（生理的欲求、内発的動機づけ、社会的動機づけ、学習性の動機づけ）について、種間比較の観点から説明していく。併せて、それらの過程の背後にある生理学的メカニズムについても解説する。さらに、「やる気」や「意欲」のコントロールといった日常生活における動機づけの問題について、教育心理学の研究例をもとにして考えていく。

#### 授業の計画：

第1回	動機づけのはたらき	第9回	学習性の動機づけ①
第2回	動機づけの分類	第10回	学習性の動機づけ②
第3回	生理的欲求①	第11回	動機づけの生理学的メカニズム①
第4回	生理的欲求②	第12回	動機づけの生理学的メカニズム②
第5回	内発的動機づけ①	第13回	動機づけと情動
第6回	内発的動機づけ②	第14回	生活場面における動機づけの問題①
第7回	社会的動機づけ①	第15回	生活場面における動機づけの問題②
第8回	社会的動機づけ②		

#### 授業方法：

プリントや映像資料を使いながら進めていく。授業内容と関連した課題の提出や小テストも実施する予定である。授業の進行を妨げる行為（私語や飲食）はもちろん、授業開始 20分以降の遅刻は厳禁とする。

#### 達成目標：

ヒトの動機づけの特徴について種間比較の観点から相対的に理解するとともに、動機づけとそれ以外の心的過程との関連性について俯瞰的に捉えることができるようになることを目指す。

#### 評価方法：

出席回数基準（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

岡田・廣中・宮森 共著『コンパクト新心理学ライブラリ 14 生理心理学』サイエンス社 2,310円  
 大山正 編著『コンパクト新心理学ライブラリ 16 実験心理学』サイエンス社 1,942円  
 上淵寿 編著『動機づけ研究の最前線』北大路書房 3,150円

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61101	心理学実験法	4	2	

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
記述統計と推測統計 データの尺度 代表値と散布度 有意差検定 実験計画法	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。心理学基礎実習および心理学データ解析Ⅰ・Ⅱと併せて受講すること。

#### 授業の概要：

前半では、実験によって測定されたデータの特徴を記述・表現するための手法（図表化と代表値の計算）について解説する。後半は、平均値の差の検定（t検定と分散分析）の方法について解説する。

#### 授業の計画：

第1回	実験研究の目的	第9回	有意差検定とは？
第2回	記述統計と推測統計	第10回	2つの平均値の差の検定①
第3回	データの尺度	第11回	2つの平均値の差の検定②
第4回	データの図表化	第12回	2つの平均値の差の検定③
第5回	母集団と標本	第13回	実験計画法と分散分析①
第6回	代表値と散布度①	第14回	実験計画法と分散分析②
第7回	代表値と散布度②	第15回	実験計画法と分散分析③
第8回	代表値と散布度③		

#### 授業方法：

教科書に沿った解説と計算課題を中心に進めていく。毎時間関数電卓を携行すること。また授業以外にも課題を課すこともある。授業の進行を妨げる行為（私語や飲食）はもちろん、授業開始20分以降の遅刻は厳禁とする。

#### 達成目標：

心理学基礎実習や卒業研究におけるデータ解析や論文作成に必要な心理統計の基礎知識と計算技能を身につける。統計ソフトを使ったデータ処理法を習得する。

#### 評価方法：

出席回数（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

#### 教科書：

田中・山際 共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円

#### 参考文献：

鵜沼・長谷川 共著 『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625円  
 大山ら 共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310円

#### 実験・実習・教材費：

なし

#### 準備物：

関数電卓（カシオ製で統計計算ができるもの）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61201	心理学調査法	4	2	

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	1	

授業のキーワード		人間環境大学が育む八つの能力
相関係数 因子分析	ノンパラメトリック検定 質問紙調査 行動観察	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

心理学研究において重要なことは、日常的な認識を超えて客観的な視点から心理現象を記述・分析することである。この講義では心理学研究における測定とデータ解析について理解し、その技法を修得することを目的とする。心理学基礎実習および心理学データ解析Ⅰ・Ⅱと併せて受講すること。

#### 授業の概要：

調査研究を行うために必要な基礎的統計技能について説明する。前半は相関係数の算出および有意性検定、集計表の分析および度数検定について解説し、後半はより実践的な質問紙調査の作成方法と分析方法について因子分析の概要とあわせて解説する。授業時間内の学習のみでなく、復習を中心とした自主的な学習が要求される。

#### 授業の計画：

第1回	2変数の相関①	第9回	順位についての検定
第2回	2変数の相関②	第10回	質問紙調査の実施と分析①
第3回	2変数の相関③	第11回	質問紙調査の実施と分析②
第4回	相関係数の有意性検定①	第12回	質問紙調査の実施と分析③
第5回	相関係数の有意性検定②	第13回	因子分析①
第6回	度数についての検定①	第14回	因子分析②
第7回	度数についての検定②	第15回	行動観察法の基礎
第8回	度数についての検定③		

#### 授業方法：

教科書に沿った解説と計算課題を中心に進めていく。毎時間関数電卓を携行すること。また授業以外にも課題を課すこともある。授業の進行を妨げる行為（私語や飲食）はもちろん、授業開始20分以降の遅刻は厳禁とする。

#### 達成目標：

心理学基礎実習や卒業研究におけるデータ解析や論文作成に必要な心理統計の基礎知識と計算技能を身につける。統計ソフトを使ったデータ処理法を習得する。

#### 評価方法：

出席回数（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

#### 教科書：

田中・山際 共著 『ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法』 教育出版 3,045円

#### 参考文献：

鵜沼・長谷川 共著 『はじめての心理統計法』 東京図書 2,625円  
大山ら 共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310円

#### 実験・実習・教材費：

なし

#### 準備物：

関数電卓（カシオ製で統計計算ができるもの）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60101	臨床心理学A	4	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心の構造 パーソナリティー 発達段階	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

臨床心理学は人の心を扱う学問であり、人の心のありさまや、人と人が出会い、かかわり、何かを生み出していくことに注意を向けています。その応用としての技法はカウンセリングや心理療法などとして生かされていますが、その基礎は誰でもが持っている「心」を理解するところから始まるでしょう。そしてその「心」は、心病人だクライアントを知ることに関がっていて、幅広い人の心に対する、より広くて深い理解を得ることを目的とします。

#### 授業の概要：

この授業では、まず臨床心理学とは何かについて学び、心の構造について無意識を含んだ考え方について概説します。そこからパーソナリティーや心の発達など、様々な側面に光を当てて基礎的な知識や理解を促し、臨床心理学的な見方について学んでいきます。

#### 授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～3. 臨床心理学とは何か
- 4～5. 臨床心理学を作った人々
6. 人の心を感じる
- 7～9. 心の構造
10. 復習
- 11～12. パーソナリティー
- 13～14. 精神的病と臨床心理学
15. まとめ

#### 授業方法：

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていきます。DVDを見ていただいて感想を書いてもらうこともあります。そしてその時々テーマについて、身近な例を考えながら体得できるように考えていきます。

#### 達成目標：

臨床心理学の基本的な概念と用語を学び、その概略をつかむこと。

#### 評価方法：

受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

#### 教科書：

『はじめての臨床心理学』 森谷寛之・竹松志乃編著 北樹出版 2,500円＋税

#### 参考文献：

授業中に紹介します。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60201	臨床心理学B	4	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理アセスメント 心理療法 社会とのかかわり	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

臨床心理学の概論を学んでいきます。今期は人の心に対する接近法として、まずその基礎となる心の発達段階の問題を考え、人間に対する理解を深めながら心理アセスメントの問題に足を踏み入れます。健常人の心のあり方を土台として、心病人に対するかかわりは精神病理や心理的防衛機制に対する専門的な知識や技法が必要であり、その初歩段階としての多種多様な技法の概略を学んでいくことを目的とします。

#### 授業の概要：

この授業では、まず前期に続いて発達段階のまとめから、臨床アセスメントとは何かについて学び、心理検査の概説を行っていきます。そして次に「カウンセリングや心理療法についての理解をテキストに沿って概説します。そこからパーソナリティや心のあり方についての接近法を学び、基礎的な知識や理解を促し、臨床心理学的な見方を考えていきます。

#### 授業の計画：

1. オリエンテーション
- 2～7. エリクソンの発達段階前期
8. 復習
9. 障害者の問題
- 10～11. エリクソンの発達段階後期
12. 心理アセスメントとは何か
13. 心理テストについて
14. 心理療法への方向性
15. まとめ

#### 授業方法：

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていきます。資料を配付したり、DVDを見ていただいて、感想を書いてもらうこともあります。そしてその時々テーマについて、身近な例を考えながら体得できるように考えていきます。

#### 達成目標：

心理アセスメントと心理療法についての基本的な概念と用語を学び、その概略をつかむこと。

#### 評価方法：

受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

#### 教科書：

『はじめての臨床心理学』 森谷寛之・竹松志乃編著 北樹出版 2,500円＋税

#### 参考文献：

授業中に紹介します。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61701	心理療法	4	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理療法 カウンセリング技法 臨床への適用	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力

#### 授業のテーマ：

心理療法の基礎についてさまざまな技法における特徴と具体的な内容を学習していく。理論と実践が車の両輪であることを理解して、具体的な適用について例を挙げながら比較検討して進めていく。

#### 授業の概要：

この授業では、まず心理療法の意義について学び、さまざまな心理療法が存在することを治療構造の側面、臨床場面での適用の相違や特徴など、具体的で実践的な理解と学習を進めていく。

#### 授業の計画：

1. 人とかかわる事の意味
2. 心に沿うこと
3. 言語療法
4. 行動療法
5. 家族療法
6. 森田療法
7. 内観療法の理論
8. 内観療法の実際
9. 復習
10. 集団心理療法の理論
11. 集団心理療法の実際
12. 神経症への心理療法
13. 精神病への心理療法
14. クライエントの理解
15. まとめ

#### 授業方法：

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていく。そしてその時々テーマについて、具体的な例を考えながら理解できるようにしていく。

#### 達成目標：

心理療法とその理論について基本的な概念と用語を学び、臨床実践に対する理解を深めること。

#### 評価方法：

出席状況および受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

#### 教科書：

「やさしく学べる心理療法の基礎」 窪内節子・吉武光世著 培風館 2,625円（税込み）

#### 参考文献：

授業中に紹介します。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
C60601	教育心理学A	4	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育 学校 学習 発達	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

**授業のテーマ：**

教育の営みに含まれる要因は、対象としての幼児・児童・生徒、働きかけるものとしての教師、両者の関係を通して起こってくる成長、学習、教授等の事象です。これらを理解するための教育心理学の基礎的な事柄について学びます。

**授業の概要：**

教育心理学における学習や発達など基礎的な事柄について学びます。

**授業の計画：**

1. オリエンテーション・教育心理学の概要
2. 学習（1）
3. 学習（2）
4. 学習（3）
5. 個人差（1）
6. 個人差（2）
7. 動機づけ（1）
8. 動機づけ（2）
9. 学習過程
10. 教育と発達
11. 発達（1）乳幼児期
12. 発達（2）児童期
13. 発達（3）青年期
14. 発達（4）まとめ
15. 前期のまとめ

**授業方法：**

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。教育に関するトピックスがあれば、発表することが求められる場合もあります。

**達成目標：**

教育現場で起こるさまざまな問題を検討することによって、教育についての考えを深め、基本的な知識を習得することを目標とします。

**評価方法：**

期末試験（100％）によって評価します。

- 基本的な知識のみならず様々な角度から教育の問題について十分に理解している・・・S  
 基本的な知識のみならず教育の問題についてかなり理解している・・・A  
 基本的な知識は習得しているが教育の問題についての理解はやや不十分・・・B  
 基本的な最低限の知識は習得している・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

西村純一・井森澄江編『教育心理学エッセンシャルズ』第2版（ナカニシヤ出版／2,200円＋税）

**参考文献：**

授業の中で提示します。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60701	教育心理学B	4	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育 学校 学習 発達	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

**授業のテーマ：**

教育の営みに含まれる要因は、対象としての幼児・児童・生徒、働きかけるものとしての教師、両者の関係を通して起こってくる成長、学習、教授等の事象です。これらを理解するための教育心理学の基礎的な事柄について学びます。

**授業の概要：**

学校における適応の問題や発達障害などの基礎的な事柄について学びます。

**授業の計画：**

1. オリエンテーション・教育心理学の概要
2. 教師と児童・生徒
3. 学校適応（1）
4. 学校適応（2）
5. 学校適応（3）
6. 発達障害（1）概要
7. 発達障害（2）知的障害
8. 発達障害（3）広汎性発達障害
9. 発達障害（4）学習障害・AD/HD
10. 発達障害児への支援（1）
11. 発達障害児への支援（2）
12. 教育評価（1）
13. 教育評価（2）
14. 教育評価（3）
15. 後期のまとめ

**授業方法：**

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。教育に関するトピックスがあれば、発表することが求められる場合もあります。

**達成目標：**

教育現場で起こるさまざまな問題を検討することによって、教育についての考えを深め、基本的な知識を習得することを目標とします。

**評価方法：**

期末試験（100％）によって評価します。

- 基本的な知識のみならず様々な角度から教育の問題について十分に理解している・・・S  
 基本的な知識のみならず教育の問題についてかなり理解している・・・A  
 基本的な知識は習得しているが教育の問題についての理解はやや不十分・・・B  
 基本的な最低限の知識は習得している・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

西村純一・井森澄江編『教育心理学エッセンシャルズ』第2版（ナカニシヤ出版／2,200円＋税）

**参考文献：**

授業の中で提示します。

**実験・実習・教材費：**

なし



授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
C61601	発達心理学	4	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
発達 子ども 乳児期 幼児期 学童期	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力

**授業のテーマ：**

発達心理学では、人間の一生を通じて心のはたらきや内容がいかに変化していくのかを学びます。さらに、心理臨床の事例を提示して、発達に必要な援助についても学習していきます。

**授業の概要：**

前期は乳幼児期から学童期にいたる発達の基礎的な事柄を学びます。

**授業の計画：**

- 1 オリエンテーション；発達心理学とは
- 2 乳児期（1）
- 3 乳児期（2）
- 4 幼児期（1）
- 5 幼児期（2）
- 6 児童期（1）
- 7 児童期（2）
- 8 乳幼児期から児童期のまとめ
- 9 青年期（1）
- 10 青年期（2）
- 11 成人期
- 12 老年期
- 13 文化と発達
- 14 教育と発達
- 15 まとめ

**授業方法：**

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。

**達成目標：**

発達上の変化の大きい幼児期・児童期から青年期に至る年齢段階を中心として、様々な角度から発達についての基本的な知識を習得し理解を深めることを目標とします。

**評価方法：**

期末試験（100％）で評価します。

- 基本的な知識のみならず様々な角度から発達について十分に理解している・・・S  
 基本的な知識のみならず発達についてかなり理解している・・・A  
 基本的な知識は習得しているが発達についての理解はやや不十分・・・B  
 基本的な最低限の知識は習得している・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

藤村宣之編著『発達心理学』 ミネルヴァ書房 2,500円＋税

**参考文献：**

授業の中で提示します。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60801	精神病理学A	4	2	高橋蔵人

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
フロイト 精神分析学 神経症 心理療法	価値判断力（意思決定力） 分析・総合の思考力と判断力 コミュニケーション力

#### 授業のテーマ：

精神病理学の基本のひとつである精神分析学において、心の失調や不具合といったものが、どのようにとらえられ、理解され、さらに援助の方法が確立されていったかを学ぶ。

#### 授業の概要：

フロイトは、神経症の治療として始めた自らの治療法を発展させ、精神分析学を確立した。それは神経症患者だけでなく、すべての人間の心に対する理解を深めるものであり、精神病理学の基礎のひとつとなった。本授業では、フロイトが考えを進めていった道筋に沿って学びます。

#### 授業の計画：

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 フロイトの歩み
- 第3回 ヒステリーの治療（症例エリザベート）
- 第4回 心の力動的理解（トラウマと除反応）
- 第5回 フリース体験と精神分析の確立
- 第6回 エディプスコンプレックスの発見
- 第7回 神経症論
- 第8回 夢
- 第9回 隠蔽記憶、錯誤行為、機知
- 第10回 心の構造
- 第11回 性欲論、発達論
- 第12回 （フロイト以降の）発達論・青年期論
- 第13回 精神分析による治療（症例ドラ）
- 第14回 精神分析による治療（転移、エナクトメントと真実性）
- 第15回 まとめ

#### 授業方法：

基本的には講義形式で、毎回プリントにそって進める。受身的にならないように、感想や意見を随時発表してもらいます。

#### 達成目標：

精神分析は人間の心や行動をより深く理解する方法で、それが精神的に病んでしまった人の助けになります。本授業では、精神分析の基本的な考えを理解するだけでなく、人を心理的に援助するときに役立つ人間理解や基本姿勢を身につけることを目指します。

#### 評価方法：

出席回数の基準（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

- フロイト『ヒステリー研究』ちくま学芸文庫／人文書院・フロイト著作集7
- フロイト『夢判断』新潮文庫
- その他（適宜授業の中で紹介します）

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61001	人間関係論	4	2	三後美紀

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
パーソナリティ 発達と成長 社会と対人関係 適応と臨床	分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

心理学の基礎知識を身につけ、さらに、日常生活におけるさまざまな事象を心理学的な視点で捉えようとする思考力を獲得することを目的とします。

#### 授業の概要：

人と人のかかわりに着目しながら、性格心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学における心理学の知見を紹介します。

#### 授業の計画：

- 1) ガイダンス
- 2) パーソナリティ（心のなりたち）
- 3) パーソナリティ（類型論と特性論）
- 4) パーソナリティ（無意識・防衛機制）
- 5) 発達と成長（発達の原理）
- 6) 発達と成長（思考の発達）
- 7) 発達と成長（ライフサイクル）
- 8) 社会と対人関係（自己の形成・自己開示）
- 9) 社会と対人関係（対人認知）
- 10) 社会と対人関係（態度変容）
- 11) 社会と対人関係（集団のダイナミクス）
- 12) 社会と対人関係（リーダーシップ）
- 13) 適応と臨床（ストレスと対処）
- 14) 適応と臨床（さまざまな心理療法）
- 15) まとめ

#### 授業方法：

講義を中心に、適宜、プリントや映像資料を使いながら進めます。受講生の内容理解の確認と知的関心の共有のため、講義中に小レポートの提出を求めています。

#### 達成目標：

われわれの身近にある事象を心理学的に捉えた知見を学ぶことで、分析・総合の思考力と判断力の基礎を学生自身が身につけます。

#### 評価方法：

期末試験（100%）

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

齊藤 勇 『イラストレート心理学入門』 誠信書房 1,575 円  
 大坊郁夫・安藤清志 『社会の中の人間理解』 ナカニシヤ出版 1,995 円  
 その他、授業中に紹介します

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C60301	心理学研究法	4	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
卒業研究 卒業後の進路 心理学研究 批判的思考 心理測定 分析結果 因子分析 精神分析 発達課題 内的対象関係	分析・統合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

心理学について全般的に幅広く学習をはじめ、一般心理学から各論に入る中で、広く研究法について学んでいく。

#### 授業の概要：

大学で心理学を専門的に学び卒業研究を仕上げるまでのプロセスについて説明し、一般的な心理学研究の流れを理解する。特に、臨床心理学、教育心理学、発達心理学、人間関係論といった我々の日常生活に密接した分野における研究の概要について詳しく解説する。

#### 授業の計画：

1. 大学で学ぶ心理学①
2. 大学で学ぶ心理学②
3. 心理学研究の実際①
4. 心理学研究の実際②
5. 論文の読み方①
6. 論文の読み方②
7. 論文の読み方③
8. 論文の読み方④
9. 臨床心理学的見方への架橋
10. 精神分析的な考え方
11. 臨床心理学的なものの見方
12. 研究の方法と事例
13. 事例研究（1）
14. 事例研究（2）
15. 事例研究のまとめ

#### 授業方法：

講義

#### 達成目標：

心理コースで開講されている授業科目間の関連性、卒業研究までのプロセスについて理解する。そして教育心理学、発達心理学、社会心理学などの研究を知り、それらについて批判的に思考する力を身につける。臨床心理学研究の初歩から事例研究の読み方までを考え、臨床心理学的な人の心へのアプローチについて理解する。

#### 評価方法：

テストによる判定

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61101	心理学文献講読	4	2	坂本真也

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理学専門用語（英語） ディスカッション 心理学研究論文	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

心理学の文献を通して、最新の心理学の知見を学ぶと共に、大学院受験を視野に入れた英文和訳も行う。また、テーマに応じて心理学の研究論文を取り上げ、ディスカッションを行い、心理学の研究方法やテーマなどの知見を深めていく。

#### 授業の概要：

心理学のトピックに関して、文献を講読していく中で専門用語とその英語を理解できるようにしたい。また、前半・後半テーマからディスカッションでは、研究論文を取り上げ専門分野の理解を深めていけるようにしたい。

#### 授業の計画：

第1回	心理学研究の特徴（研究論文の構造）	第9回	発達・人格心理学に関する文献Ⅱ
第2回	教育心理学に関する文献Ⅰ	第10回	発達・人格心理学の研究分野まとめ
第3回	教育心理学に関する文献Ⅱ	第11回	臨床心理学に関する文献Ⅰ
第4回	教育心理学の研究分野まとめ	第12回	臨床心理学に関する文献Ⅱ
第5回	社会心理学に関する文献Ⅰ	第13回	臨床心理学に関する文献Ⅲ
第6回	社会心理学に関する文献Ⅱ	第14回	臨床心理学の研究分野まとめ
第7回	社会心理学の研究分野まとめ	第15回	これまでの授業のまとめ
第8回	発達・人格心理学に関する文献Ⅰ		

#### 授業方法：

配布プリントに沿った解説と課題・ディスカッションを中心に進めていく。授業外の課題（宿題）を課すこともある。

#### 達成目標：

心理学の様々な領域の専門用語とその英語を理解し、心理学の専門分野の特徴を把握できることを目指す。

#### 評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

- S：専門用語とその英語を理解し、専門分野について要約して説明できる
- A：専門用語とその英語を理解し、ある程度専門分野について要約して説明できる
- B：専門用語とその英語をある程度理解し、専門分野について要約して説明できる
- C：専門用語とその英語を部分的に理解し、専門分野について説明できる
- D：Cに達していない

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

APA（アメリカ心理学会）著 江藤・前田・田中訳 『APA論文作成マニュアル』 医学書院 3,990円

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C10601～05	心理学基礎実習	4	4	廣藤・渡邊・高橋・塚本

期間	曜日	時限	備考：2時限連続 履修抽選対象科目 ※どの授業コードで登録するかは初回授業時に決定
通年	金	3・4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理実験 心理検査 報告書作成	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ：

心理学の専門的研究を行うために必要な実験と検査の実施方法，データ分析方法，報告書作成方法を習得すること目的とする。この授業の受講においては，基礎心理学，教育心理学，臨床心理学などの科目を履修していることが前提となる。

#### 授業の概要：

実験心理学，教育心理学，臨床心理学の分野で代表的な12テーマを取り上げる。実験や検査の方法について実験者（検査者）および研究対象者（実験参加者・被検査者）として参加体験することで学ぶ。また，実習で得られたデータを処理して報告書を提出することで，研究報告書の作成方法についても学ぶ。

#### 授業の計画：

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 第1回 前期ガイダンス     | 第16回 後期ガイダンス     |
| 第2回 各実習課題の概要説明  | 第17回～実習およびレポート指導 |
| 第3回～実習およびレポート指導 | ・知覚－運動協応学習（鏡映描写） |
| ・ミューラー・リヤー錯視    | ・パーソナル・スペース      |
| ・プライミング効果       | ・メンタル・ローテーション    |
| ・一対比較による尺度構成    | ・投映法Ⅱ（ロールシャッハ）   |
| ・投映法Ⅰ（TAT）      | ・知能検査Ⅱ（WAIS）     |
| ・知能検査Ⅰ（京大NX）    | ・描画法（バウムテスト）     |
| ・性格検査（YG性格検査）   |                  |

#### 授業方法：

参加者を小グループに分割して2週間で1テーマのペースで実習を行い，その翌週に報告書を提出する。報告書の再提出を求める場合もある。前項「授業の計画」に示した課題の順番はグループごとに異なる。途中で履修放棄は他の受講生の迷惑となるので絶対に避けてほしい。

#### 達成目標：

3年次以降の専門的な心理学研究に必要な基礎知識と実験と検査の実施技能，データ処理方法，科学論文の作成方法を身につける。

#### 評価方法：

出席と報告書提出の基準をクリアしていることを前提とし，報告書の評点によって評価する。報告書は科学論文の要件を満たしていることが求められる。遅刻，無断欠席，報告書提出の遅れは一切認めない。

#### 教科書：

『人間環境大学 心理学基礎実習テキスト』 初回授業時に配布

#### 参考文献：

授業中に適宜指示する

#### 実験・実習・教材費：

実習費として30,000円徴収する（テキスト，テスト用紙，実験用具，消耗品費として）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C10301	認知心理学	4	2	増井透

期間	曜日	時限	備考：
後期	集中	E	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人間の情報処理 意識と無意識 潜在的認知 注意のダイナミクス 色彩の心理 記憶の構造 思考のプロセス アフォーダンス	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

人間の認知能力（見る、聞く、覚える、話す、考える、意識する、コミュニケーションするなど）について情報処理の観点から考え、私たちがいかに世界を認識し適応しているかの理解を深める。とくに意識と無意識（潜在的認知）の問題は最近の重要なテーマであり、「認知行動の大半がじつは無意識で行われる」ことや、「私たちはリアルタイムに世界を認識しているわけではない」といった常識に反するような研究成果の意味について考察していく。

#### 授業の概要：

簡単な実験や映像資料を用いて、認知心理学の重要トピックスから最新の脳科学研究の成果まで、認知行動を理解する主要ポイントを体験的に学びながら、人間の情報処理モデルがいかに構成され発展してきたかの過程を通して、科学的な人間観を深める機会とする。

#### 授業の計画：

1. ガイダンス：認知心理学とは何か
2. 私たちは世界をどのように認識しているか1：錯視の意味
3. 世界をどのように認識しているか2：恒常性の意味
4. 注意と意識1：注意のメカニズム
5. 注意と意識2：変化盲
6. 注意と意識3：メンタルスリップ
7. 注意と意識4：意識は遅れて発生する
8. イメージは絵か命題か
9. 記憶のプロセス1
10. 記憶のプロセス2
11. 色彩の心理1
12. 色彩の心理2
13. 思考の歪み：行動経済学
14. アフォーダンス：よいデザインとは
15. 認知心理学を通して見た「人間とは何か」

#### 授業方法：

講義

#### 達成目標：

何気なく体験している日常生活の行動がじつは複雑な認知過程にもとづく仕組みであることや、認知過程の大部分がじつは無意識で行われているという事実を通じて、人間の認知過程を理解し、またそれを解明する方法論を学び、日常生活の具体的な心理現象を理的に説明できることをめざす。

#### 評価方法：

出席回数基準（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

授業内で指示

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C10501	学校心理学	4	2	坂本真也

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スクールカウンセリング 学校臨床心理学 自己理解・他者理解	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 社交性（社会的相互関係力）

#### 授業のテーマ：

現在、学校現場では、子どもたちの抱える問題が深刻化し、どのように対応していくか求められている。よって、子どもたちの抱えるさまざまな問題を理解し、心理学の視点から学校現場について考えていくことを目指していく。

#### 授業の概要：

学校では、学習面の教育だけではなく、人間関係を学んでいる。そのため、人間関係の中で相互理解や他者を受け入れ理解するためには、まず自分自身を理解することが重要である。また、自己理解から他者理解へとつないでいくため、グループ活動中心に体験実習を取り入れていく。

#### 授業の計画：

第1回	学校心理学の概要	第9回	グループワークのまとめ
第2回	エンカウンターグループの理論	第10回	子どものこころの理解と発達課題
第3回	グループワークⅠ（自己理解）	第11回	学校現場における取り組みケース
第4回	グループワークⅡ（他者理解）	第12回	カウンセリングの基礎知識
第5回	交流分析の理論	第13回	カウンセリング実習Ⅰ（技法と応答）
第6回	エゴグラムを利用した自己理解	第14回	カウンセリング実習Ⅱ（体験実習）
第7回	コラージュ・ワークⅠ（概要と体験）	第15回	まとめ
第8回	コラージュ・ワークⅡ（体験と分析）		

#### 授業方法：

本講義では、学校の中で人間関係を形成していく学校での相談のあり方について学び、自己理解・他者理解から相互理解につながるような体験学習、グループワークなどの作業を中心に行っていく。

#### 達成目標：

子どものこころにかかわる教育相談に関する知識の習得を目指し、現場で実践的に役に立つような自己理解・他者理解・相互理解につながるグループアプローチの方法についても知見を深める。

#### 評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

- Sー達成目標をほぼ完全に達成している。
- Aー達成目標を相応に達成している。
- Bー達成目標を相応に達成しているが不十分な点がある。
- Cー達成目標の最低限を満たしている。
- DーCのレベルに達していない。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子著 『これからの心の援助』 ミネルヴァ書房 2,310円  
Cecil R. Reynolds, Terry B. Gutkin. (2009) The handbook of school psychology 4th ed. ¥23,299

#### 実験・実習・教材費：

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61801	心理臨床学	4	2	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理療法 カウンセリング技法 臨床への適用	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

**授業のテーマ：**

心理療法の基礎についてさまざまな技法における特徴と具体的な内容を学習していく。その中でそれぞれの人間観を理解し、類似点や相違など具体的な問題について比較検討しながら進めていく。

**授業の概要：**

この授業では、まず心理療法とは何かを学び、さまざまな心理療法が存在することを治療構造の側面、臨床場面での適用の相違や特徴など、具体的で実践的な理解と学習を進めていく。

**授業の計画：**

1. 心理療法とは
2. 心へのかかわり方
3. 精神分析の基礎理論
4. 心理療法としての精神分析
5. フロイト以後の理論
6. 交流分析
7. 復習
- 8～9. クライアント中心療法
10. フォーカシング
11. 自律訓練
12. 認知行動療法
13. 芸術療法の理論
14. 芸術療法の実践
15. まとめ

**授業方法：**

テキストに基づいて、購読しながらそれに沿って進めていく。そしてその時々テーマについて、具体的な例を考えながら理解できるようにしていく。

**達成目標：**

心理療法とその理論について基本的な概念と用語を学び、臨床実践に対する理解を深めること。

**評価方法：**

受講態度（30%）とテスト（70%）によって総合的に評価します。

**教科書：**

『やさしく学べる心理療法の基礎』 窪内節子・吉武光世著 培風館 2,625円（税込み）

**参考文献：**

授業中に紹介します。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C61901	カウンセリング	4	2	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育 学校 カウンセリング	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力 (意思決定力)

**授業のテーマ：**

教育現場において、不登校やいじめなど、心に関する問題が噴出してきており、それに対応するため、カウンセリングへの要望は高まっています。本講義では、カウンセリングの諸理論の基本的な考え方や特徴について理解することを目的とします。

**授業の概要：**

カウンセリングの基礎的なことからについて理解できるようにします。

**授業の計画：**

1. オリエンテーション：カウンセリングとは
2. カウンセリングの意義・歴史の概観（1）
3. カウンセリングの意義・歴史の概観（2）
4. 守秘義務とは
5. カウンセリングの基本（1）
6. カウンセリングの基本（2）
7. カウンセリングの基本（3）
8. カウンセリングの技法（1）
9. カウンセリングの技法（2）
10. カウンセリングの技法（3）
11. カウンセリングの実際（1）
12. カウンセリングの実際（2）
13. カウンセリングの実際（3）
14. カウンセリングの諸問題
15. まとめ

**授業方法：**

基本的には講義を中心に行います。必要に応じて、視聴覚教材を用います。

**達成目標：**

カウンセリングについての考えを深め、基本的な知識を習得することを目標とします。

**評価方法：**

期末試験（100%）で評価します。

- 基本的な知識のみならずカウンセリングについて考えを深め十分に理解している・・・S
- 基本的な知識のみならずカウンセリングについてかなり理解している・・・A
- 基本的な知識は習得しているがカウンセリングについての理解はやや不十分・・・B
- カウンセリングについて基本的な最低限の知識は習得している・・・C
- Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

使用しません。必要に応じてプリント等の資料を配布します。

**参考文献：**

授業の中で提示します。

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C62001	精神分析学	4	2	三宅朝子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
精神分析 臨床実践 対象関係 物語	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

精神分析の本質に触れることで、より深い人間のこころの世界を理解する。

#### 授業の概要：

現代の精神分析学の根幹を築いた代表的な分析家たちとその理論（特に対象関係論を中心に）を取り上げ、その基礎的な理論や概念の理解を目指す。できるだけ平易な日常的な事象、文学作品、アニメなどを通して解説を進める。さらに、文化、芸術や臨床実践の紹介を通してその理解を深める。

#### 授業の計画：

- ①精神分析とは
- ②フロイトから始まる精神分析学 ①
- ③フロイトから始まる精神分析学 ②
- ④源氏物語をエディプスで読み解く
- ⑤クラインからの対象関係論 ①
- ⑥クラインからの対象関係論 ②
- ⑦「千と千尋の神隠し」と内的対象関係
- ⑧ウィニコットとマザーグース
- ⑨現代精神分析学の展開
- ⑩小テスト
- ⑪「つみきのいえ」と精神分析的過程
- ⑫精神分析と物語
- ⑬臨床実践①
- ⑭臨床実践②
- ⑮総まとめ

#### 授業方法：

基本的には講義形式で進める。様々な概念や理論をできるだけ自分自身に引きつけて熟考できるように、『自ら考える』ことを促したい。教科書の事例についての感想や意見を求める。

#### 達成目標：

精神分析への基礎的な理解がなされ、人間理解に役立つ思考能力を育む。

#### 評価方法：

出席回数の基準（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

#### 教科書：

「物語がつむぐ心理臨床」三宅朝子著 遠見書房／2,100円（税込）

#### 参考文献：

授業内で適宜紹介する

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C11201	社会心理学	4	2	中島誠

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	D	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
社会心理学 コミュニケーション グループ・ダイナミクス	コミュニケーション力 社交性 効果的な社会参加

**授業のテーマ：**

人の幸福を最も強く規定するのは人間関係だといわれている。心理学と聞いて多くの人がイメージする臨床心理学も、信頼できる人間関係を基礎にするものである。講義では社会的影響過程や集団の心理について学習する。それによって、他者との接し方や他者との葛藤について理解を深めることを目指す。

**授業の概要：**

講義では科学的な視点から、社会的動物としての人間の心理について、対人関係、集団を中心とした応用的な知識を概説する。ただし、講義は理論の紹介にとどまらず、ディスカッション等の実習が行われる。他者との葛藤体験を通じ、より具体的で身近な現象から理論を理解していく。

**授業の計画：**

- |    |             |                    |
|----|-------------|--------------------|
| 1  | イントロダクション 1 | 心理学の考え方            |
| 2  | イントロダクション 2 | 社会心理学とは            |
| 3  | 集団          | 社会心理学実験の映像視聴       |
| 4  | 社会的影響 1     | 集団の影響力、社会的促進、抑制    |
| 5  | 社会的影響 2     | 集団アイデンティティ、ステレオタイプ |
| 6  | 社会的影響 3     | コミュニケーションゲーム       |
| 7  | 社会的影響 4     | コミュニケーションの理論       |
| 8  | 社会的影響 5     | 説得の理論と技法           |
| 9  | 社会的影響 6     | 集団討議に関するゲーム        |
| 10 | 社会的影響 7     | 集団討議の理論            |
| 11 | 集団の心理 1     | リーダーシップに関するゲーム     |
| 12 | 集団の心理 2     | リーダーシップの理論         |
| 13 | 集団の心理 3     | 同調と服従              |
| 14 | 集団の心理 4     | 組織における葛藤とその解決      |
| 15 | 集団の心理 5     | まとめ                |

**授業方法：**

講義に加え、演習や映像資料の視聴を行う。演習や映像資料の視聴後には、受講者間で体験の共有を行い、コミュニケーションやグループ・ダイナミクスの理論に対する理解を深める。

**達成目標：**

- 目標 1：対人認知や社会的影響、対人葛藤の理論、専門用語について説明できる。  
 目標 2：専門知識を用いて自らの相互作用の体験を省察し、自他の行動様式の改善方法を提案できる。

**評価方法：**

出席回数の基準（全授業回数の3分の2以上の出席）をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

**教科書：**

特になし、適宜授業内で紹介する

**参考文献：**

特になし、適宜授業内で紹介する

**実験・実習・教材費：**

特になし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C10401	産業・組織心理学	4	2	三後美紀

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ワーク・モチベーション リーダーシップ ストレス・マネジメント キャリア発達	分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

われわれ人間は、人や社会との関係を持ちながら生きている社会的存在です。そして人生の多くの時間を学校や企業などの組織で過ごしています。ここでは、個と組織の関係について産業・組織心理学の見地から再考し、組織における人間の成長について客観的に捉え直す思考力と、生き生きとした組織での生活を創造していく判断力を身につけることを目的とします。

#### 授業の概要：

企業や学校、家庭などの集団における人間の行動や心の動きについて学びます。集団における個人の行動を「個人の集団内での発達」という視点を加えながら理解していきます。

#### 授業の計画：

第1回	イントロダクション	第9回	職場のストレス（1）
第2回	組織における人間観	第10回	職場のストレス（2）
第3回	ワーク・モチベーション（1）	第11回	ストレス・マネジメント
第4回	ワーク・モチベーション（2）	第12回	キャリア発達
第5回	職務満足	第13回	人とのかかわり方（1）
第6回	リーダーシップ（1）	第14回	人とのかかわり方（2）
第7回	リーダーシップ（2）	第15回	まとめ2
第8回	まとめ1		

#### 授業方法：

基本的には講義形式で行いますが、必要に応じて配布資料や映像資料などを用いて理解を深めます。

#### 達成目標：

組織における人間の行動を心理学的に捉えた知見を学ぶことで、分析・総合の思考力と判断力の基礎を学生自身が身につけます。

#### 評価方法：

期末試験（100％）

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

山口裕幸・金井篤子編 『よくわかる産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 2,400円＋税 他、授業中に紹介します。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K23201	パーソナリティの心理学	4	2	坂本真也

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
パーソナリティ（人格） 類型論 特性論 心理査定（心理アセスメント）	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

人は、それぞれ主体的に自身の考えや感情の中で行動を取り、一人ひとり異なっている。パーソナリティ（Personality：人格）とは、このような個人の特徴的な思考、感情、行動の様式などを説明する概念である。本講義では、このパーソナリティについて多角的視点から理解し、その特徴を把握するためアセスメントの方法についても学ぶことを目的とする。

#### 授業の概要：

パーソナリティについて、様々なアプローチから学習していくことで、パーソナリティの捉え方や構造を理解していく。また、発達や障害等についても学び、人格の基本的な測定方法の習得を目指す。

#### 授業の計画：

第1回	ガイダンス	第9回	パーソナリティの発達
第2回	パーソナリティ（人格）とは	第10回	パーソナリティ障害
第3回	特性論と類型論	第11回	人格のアセスメント
第4回	人格と知能	第12回	投影法
第5回	人格理論Ⅰ（精神分析的アプローチ）	第13回	質問紙法
第6回	人格理論Ⅱ（行動主義的アプローチ）	第14回	作業検査法
第7回	人格理論Ⅲ（認知的アプローチ）	第15回	まとめ
第8回	人格理論Ⅳ（人間性アプローチ）		

#### 授業方法：

配布プリントに沿った解説と課題を中心に進めていく。必要に応じてグループワークや検査等の実習を行い、体験的に理解することを促したい。

#### 達成目標：

パーソナリティの諸理論を理解し、人格検査の基本的な手続きや方法を習得する。

#### 評価方法：

出席回数の基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。

- S：人格理論の特徴やアセスメントの基本的な方法について理解して説明できる
- A：人格理論の特徴やアセスメントの基本的な方法についてほとんど理解できている
- B：人格理論の特徴やアセスメントの基本的な方法について間違いはあるものの理解している
- C：人格理論の特徴やアセスメントの基本的な方法について部分的に理解している
- D：Cに達していない

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

西川・大石 編 『人格発達心理学』 ナカニシヤ出版 2,520円

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名		対象学年	単位数	担当教員名
K31001	消費者行動論		4	2	岡本純
期間	曜日	時限	備考：		
前期	集中	C			
授業のキーワード			人間環境大学が育む八つの能力		
心理学的接近 意思決定過程 消費者行動におけるモチベーション 消費者の態度形成と変容 消費者の個人的特性 情報の伝播 消費者心理			分析・総合の思考力と判断力、問題解決力、グローバルな視野		

#### 授業のテーマ：

現代社会において、消費者を取巻いている環境は大きく変化している。特に、ソーシャルメディアをはじめとする双方向社会が出現し、これまでの消費者行動やその論理を変させるようになっている。本講義では、消費者行動に関する基礎理論を理解することは勿論であるが新たな双方向社会における消費者行動を個人と外部環境要因を通して理解する。

#### 授業の概要：

消費者が如何に感じて、モノやサービスを選択しているのかという消費者行動要因を解き明かしていく。消費者行動論は心理学を中核として、社会学や文化人類学など多様な学問分野が交わる領域である。本講義では、心理学的なアプローチをもとに、多様な視点から消費者行動論における基礎的な概念、理論について学習する。

#### 授業の計画：

- 1、オリエンテーション
- 2、マーケティングと消費者行動
- 3、消費者理解とマーケティング戦略 1
- 4、消費者理解とマーケティング戦略 2
- 5、消費者行動の心理学的アプローチ
- 6、消費者の意思決定過程
- 7、消費者の意思決定過程に及ぼす現象
- 8、消費者行動と記憶
- 9、消費者行動における動機づけと感情
- 10、消費者の態度形成と変容 1
- 11、消費者の態度形成と変容 2
- 12、消費者の関与
- 13、消費者行動における個人的要因と外部環境要因
- 14、情報の伝播と消費者行動
- 15、社会文化的要因と消費者行動

#### 授業方法：

講義

#### 達成目標

消費者行動論における理論や概念を理解した上で、「現代社会の変化を理論的に」説明できるようになることを目標とする。

#### 評価方法：

授業への参加度 50% 課題・演習 50%

#### 教科書：

杉本徹雄編『新・消費者理解のための心理学』 福村出版 2012年

#### 参考文献：

中西正雄編『消費者行動分析のニュー・フロンティア』 誠文堂新光社 1984年

#### 実験・実習・教材費：

なし \*教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K30201	商品開発の心理学	4	2	高橋和良

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	B	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
新製品開発 マーケティング 消費者ニーズ プロダクトイン プロダクトアウト 品質保証 知的財産権 CS オズボーンのチェックリスト コンプライアンス	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 社交性（社会的相互関係力）

#### 授業のテーマ：

商品開発と心理学の関わりを考えながら、実際に企業で行われている商品開発について、社会に出て役に立つ実学として学ぶ。

#### 授業の概要：

商品開発の成功例、失敗例などを具体的に（「カレーの王子さま誕生秘話」等）数多くあげ、その原因を心理学的な見地から分析しつつ、実際の商品開発の在り方について学ぶ。

#### 授業の計画：

1. イントロダクション
2. 企業経営と商品開発
3. 消費者ニーズをつかむⅠ(トレンドを捉える)
4. 消費者ニーズをつかむⅡ (マーケティング調査)
5. 消費者ニーズをつかむⅢ (CS:お客様満足)
6. ヒット商品の条件 (ヒット商品の秘密を探る)
7. ヒット商品発想法Ⅰ (ブレインストーミング)
8. 前半講義の復習と質疑応答
9. ヒット商品発想法Ⅱ (アイディアの整理)
10. ヒット商品発想法Ⅲ (概念移動)
11. 商品開発の基本Ⅰ (具象化)
12. 商品開発の基本Ⅱ (心構えと考え方)
13. 企画書とスケジューリング
14. 商品開発の重要ポイント
15. 講義全体のまとめ

#### 授業方法：

講義

#### 達成目標：

商品開発における心理学の役割に対する十分な理解と、その応用によりヒット商品を開発できる下地を作る事を目標とする。また、学習を通して人の心を考えることの大切さと、柔軟なものの考え方を学び社会人としての応用力を身に着ける。

#### 評価方法：

期末試験による

#### 教科書：

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
K30501	広告の心理学	4	2	岡本純

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	A	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
マーケティング 4P 広告メッセージの処理 ブランド コンシューマーインサイト AIDMA/AISAS/, SIPS クチコミ インストアプロ モーション マーケティングリサーチ ニュー ロマーケティング	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グロ ーバルな視野

#### 授業のテーマ：

広告の送り手と受け手の期待を心理学的に分析し理解を深めるとともに、広告を通して、マスコミュニケーションについて学ぶ。

#### 授業の概要：

広告は現代の企業活動に不可欠であり、消費者に対してさまざまな影響を及ぼしている。従来の広告は、マスコミ広告が中心的役割を果たしてきたが、近年ではソーシャルメディアの出現が、広告のあり方を変えると同時に、その考え方も複雑になってきている。本講義では、広告における心理的考察を通して広告について理解を深める。

#### 授業の計画：

- 1、オリエンテーション
- 2、消費者理解
- 3、マーケティング活動における広告と消費者の捉え方
- 4、マーケティング戦略と消費者心理
- 5、ブランド構築と消費者心理
- 6、ブランドエクステンション
- 7、新製品開発と消費者心理
- 8、インストアプロモーション
- 9、広告戦略における消費者心理 1
- 10、広告戦略における消費者心理 2
- 11、企業における広告計画と効果測定
- 12、コンシューマーインサイト
- 13、ネットロコミのマーケティング
- 14、ニューロマーケティング
- 15、インターネット時代の広告コミュニケーション

#### 授業方法：

講義

#### 達成目標

広告コミュニケーションに関する理論や概念を理解した上で、企業と消費者の両側面から広告の考え方に精通する。

#### 評価方法：

授業への参加度 50% 課題・演習 50%

#### 教科書：

杉本徹雄編『マーケティングと広告の心理学（朝倉実践心理学講座）朝倉書店 2013 年

#### 参考文献：

講義中に指示する

#### 実験・実習・教材費：

なし \*教科書以外に必要な内容は、適宜資料を配布

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C62701	心理学演習	4	4	高橋昇

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理臨床学 心理アセスメント 表現療法 夢分析	問題解決力 コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

臨床の現場は近年大きく広がっており、医療、教育、産業、司法、開業分野でもさらに細分化して発展してきています。しかし、根本的な心理臨床に対する「構え」は共通するものがあり、個々の技法を越える人とのかかわり方は、非常に重要なものであるといえましょう。それらをもとに、心理アセスメントとそれに繋がる技法として表現療法と夢の分析に歩を進めていきましょう。そして後期には、自分で考えてまとめる力を身につけるために問題意識を持ち、関心のある臨床心理学のテーマに臨んでいただこうと考えています。

#### 授業の概要：

前期は人が生きることから始め、病を抱えている者にどのようにかかわることができるのか考えていきます。そのような人を理解する手段として心理アセスメントの概説と体験をし、かかわるための技法として表現療法を紹介していきます。後期にはテーマを各自考えてもらい、討論しながら卒業論文に繋がるようなレポートにまとめることを目標にします。

#### 授業の計画：

<前期>	<後期>
1. オリエンテーション	1. オリエンテーション
2. 「病」を抱えた人について	2. テーマの決定と方向性
4. かかわる構えについて	3～6. レポートによる経過報告
5～6. 心理アセスメントについて	7. 報告書作成について
7～8. 表現療法と夢について	8～11. プレゼンテーション
9～14. 作品に表れる人格傾向	12～14. 卒論に向けてのテーマ選択
15. まとめ	15. まとめ

#### 授業方法：

前期は講義形式から始め、その時々のテーマについて討論していきます。資料はその都度担当教員が用意します。アセスメントについては実習形式になるでしょう。後期は研究テーマを考え、文献探索や調査をしたり、グループ討議をすることが中心になります。

#### 達成目標：

心理的な課題を抱えた人に対する態度から技法を学び、卒業論文に向けて問題意識絵を持つこと、思考力を身につけて言語表現することを学び、創造性を養うことを目標とします。

#### 評価方法：

出席状況（50%）および受講態度（30%）とレポート（20%）によって総合的に評価します。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

授業中に紹介します。

#### 実験・実習・教材費：

1,000円（コピー、配布資料代）

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
C62702	心理学演習	4	4	坂本真也

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
基礎心理学 心理学実験 実験計画法 データ解析 卒業研究	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

卒業研究を最終目的として、①研究テーマの選定、②研究計画の立案、③研究の実施、④データ解析、⑤報告書作成の一連の作業を進める。研究計画法や統計分析法についての解説も行い、コンピュータを用いて実験やデータ解析を行うための技能を身につける。心理学基礎実習を履修していることを前提とする。

#### 授業の概要：

各自の関心に基づき、先行研究を紹介しながらディスカッションを行い、具体的な実験・調査計画を立案していく。後期は、その計画に基づいて実験や調査を行ない、研究発表および報告書の提出を求める。

#### 授業の計画：

前期	後期
第1回 ガイダンス	第1回 ガイダンス
第2回～各自の興味・関心についての発表	第2回～第1回研究計画発表
第6回～研究テーマの検討	第4回～第2回研究計画発表
第11回～関連先行研究の紹介	第6回～経過報告とディスカッション
第15回 研究テーマの確定	第14回～研究結果の発表・報告書作成

#### 授業方法：

1回の授業につき2名の発表を基本として進めていく。発表の準備を十分にした上で、積極的な態度で臨んでほしい。発表においてはレジュメ作成は必須とする。

#### 達成目標：

研究を独力で行うことができる基礎技能を身につけ、卒業研究に必要な準備を進めていく。

#### 評価方法：

発表内容（30%）と研究報告書の内容（70%）に基づいて総合的に評価する。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

大山ら 共著 『コンパクト新心理学ライブラリ 12 心理学研究法』 サイエンス社 2,310円  
 大山正 編著 『コンパクト新心理学ライブラリ 16 実験心理学』 サイエンス社 1,943円  
 小川嗣夫 著 『卒論・修論のための心理学実験』 ブレーン出版 1,680円

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C62703	心理学演習	4	4	坪井裕子

期間	曜日	時限	備考：
通年	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育 心理 発達 アイデンティティ 関係性 卒業論文	分析・総合の思考力 問題解決力 価値判断力

#### 授業のテーマ：

3年次ゼミにおける学習を基礎にして、各自が持っている問題意識を明確にし、卒業論文の執筆を行います。また逐次、発表と討議を行うことで、自分の考えを言語化して伝え、他者の考えを理解する力を養うことをねらいとします。

#### 授業の概要：

前期は各自の課題を明確化し、論文を具体化するための作業を行います。後期は、各自の課題を論文の形に纏め上げる作業を中心に行います。

#### 授業の計画：

<前期>

- 1 オリエンテーション
- 2～5 卒論テーマについての発表（問題と目的の明確化）
- 6～10 卒論に関する文献講読と発表（方法の検討）
- 11～15 卒論中間発表

<後期>

- 1～2 卒論についての経過発表（結果の整理）
- 3～10 卒論についての経過発表（考察・まとめ）
- 11～15 卒論完成にむけての作業

#### 授業方法：

各自がレジюмеを作成し、発表・討議する演習方式で行います。

#### 達成目標：

教育や子どもに関する問題を心理学の研究方法により理解し、文章化していく作業を体験的に学ぶことを目標とします。

#### 評価方法：

最終レポートをもとに総合的に判断します。

- 課題について深く理解し自分の考えを十分に文章化できる・・・・・・・・・・・・・S
- 課題について相応に理解し自分の考えを文章化できる・・・・・・・・・・・・・A
- 課題について理解し自分の考えを文章化できる・・・・・・・・・・・・・B
- 課題についての理解および自分の考えの文章化が不十分・・・・・・・・・・・・・C
- Cのレベルに達していない・・・・・・・・・・・・・D

#### 教科書：

小塩真司・西口利文編「質問紙調査の手順」 ナカニシヤ出版（2,200円＋税）

#### 参考文献：

授業の中で提示します。

#### 実験・実習・教材費：

1,000円 資料代およびコピー代

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C62704	心理学演習	4	4	三後美紀

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
心理 人間関係 研究法	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 社交性 (社会的相互関係力)

**授業のテーマ：**

個人を取り巻く社会の変化により、人は成長することもありますし、心身に不調をきたすこともあります。このような社会と個人の相互作用から生じているさまざまな心の現象に着目しながら、各自の学問的関心をより明確にしていき、心理学研究に高めます。

**授業の概要：**

ディスカッションを通して各自の研究を進め、論文にまとめます。

**授業の計画：**

<前期>

- 第1回 オリエンテーション (心理学の研究方法)
- 第2回～第5回 研究計画のプレゼンテーション
- 第6回～第10回 研究経過報告 (問題と目的・方法を中心に)
- 第11回～第15回 研究経過報告 (調査実施と中間報告)

<後期>

- 第16回～第20回 研究経過報告 (結果を中心に)
- 第21回～第25回 研究経過報告 (考察を中心に)
- 第26回～第30回 最終報告

**授業方法：**

人の心の状態について、各自が関心を持っている事象をとりあげて発表し、受講生との議論を通して幅広い観点から心理学研究に高めるための検討を行います。

**達成目標：**

各自の問題意識を心理学的な視点から捉え直し、その問題を追求するための具体的な研究法を身につけて、卒業論文を作成していきます。

**評価方法：**

授業への取り組み (およそ70%) と発表内容 (およそ30%) により総合的に評価します。

**教科書：**

なし

**参考文献：**

授業中に紹介します。

**実験・実習・教材費：**

1,000円 (資料代および配布資料複写代)

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00501	比較日本文化論特殊講義ⅡA（比較日本思想論）	4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教と思想 近代化 多元化 文化 伝統 歴史	分析 総合の思考力と判断力 価値判断力 美的感受性

#### 授業のテーマ：

単に現象面に現れた物事を取り上げて日本文化を論じるのではなく、日本思想に関わる諸問題を比較思想的に考察することにより、日本文化の特質を明らかにする。

#### 授業の概要：

日本で長い歴史をもつ宗教や思想といえば、神道や仏教や儒教であるが、幕末以降、西洋の思想を取り入れるようになってから、日本の伝統的宗教や思想と、西洋の思想や宗教とはどのように関わり、またどのような問題が生じているかということについて考える。

#### 授業の計画：

- 回 主題
1. 導入講義。今年度の講義のテーマについて、何故このテーマの講義としたか
  2. 昨年度の講義との関係1
  3. 昨年度の講義との関係2
  4. 座談会「近代の超克」について
  5. 座談会「近代の超克」に含まれる問題1
  6. 座談会「近代の超克」に含まれる問題2
  7. 近代化という問題1
  8. 近代化という問題2
  9. 日本特有の問題1
  10. 日本特有の問題2
  11. 日本特有の問題3
  12. 日本特有の問題4
  13. 西洋思想との関わり方1
  14. 西洋思想との関わり方2
  15. 前期授業まとめ

#### 授業方法：

授業形態は講義。必要に応じて、参考資料をコピーで配布する。それぞれの思想の言葉に実際に触れることを通して、講義の理解を深めるとともに、その思想の言葉を手掛かりとして、受講者が自分自身で考える姿勢を身につけてほしい。

#### 達成目標：

この種の講義は、知識だけを与えるという講義ではないので、欠席したところは友達に聞けば解るということには必ずしもならない。やむをえない事情のない限り講義に出席して、講義を聴きつつ、考えながら理解することが必要である。そのようにして理解したところに従って、講義の内容に関して提示された問題についてレポートにまとめる。

#### 評価方法：

- (a) 授業への取り組み、(b) 学期末試験、(c) レポート、を同等の比重で重視する。  
(a) における真摯な態度を前提とした上で、(b) と (c) において、  
講義の理解度が特に優れ、課題についてもよく考えられていると認められた場合…………… S  
講義の理解度に問題がないと認められた場合…………… A  
理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合…… B  
かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくつかはあると認められた場合… C  
C に達していない場合…………… D

#### 教科書：

特になし。

#### 参考文献：

授業中、適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

無し。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00601	比較日本文化論特殊講義ⅡB（比較日本思想論）	4	2	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教と思想 近代化 戦後思潮 文化 伝統 歴 史	分析 総合の思考力と判断力 価値判断力 美的 感受性

#### 授業のテーマ：

単に現象面に現れた物事を取り上げて日本文化を論じるのではなく、日本思想に関わる諸問題を比較思想的に考察することにより、日本文化の特質を明らかにする。

#### 授業の概要：

日本で長い歴史をもつ宗教や思想といえば、神道や仏教や儒教であるが、幕末以降、西洋の思想を取り入れるようになってから、日本の伝統的宗教や思想と、西洋の思想や宗教とはどのように関わり、またどのような問題が生じているかということについて、前期Aの内容から、所謂戦後思潮、更に現代にまで話を進めて、考える。

#### 授業の計画：

- 回 主題
1. 導入講義。前期Aの講義との関わり、後期Bの講義で考える問題
  2. 日本の戦後思潮という問題1
  3. 日本の戦後思潮という問題2
  4. 日本の戦後思潮という問題3
  5. 現代の思想的問題1
  6. 現代の思想的問題2
  7. 現代の思想的問題3
  8. 現代の思想的問題4
  9. 現代における日本特有の思想的問題1
  10. 現代における日本特有の思想的問題2
  11. 現代における日本特有の思想的問題3
  12. 現代における日本特有の思想的問題4
  13. 現代における思想的問題と日本特有の問題1
  14. 現代における思想的問題と日本特有の問題2
  15. 後期授業まとめ

#### 授業方法：

授業形態は講義。必要に応じて、参考資料をコピーで配布する。それぞれの思想の言葉に実際に触れることを通して、講義の理解を深めるとともに、その思想の言葉を手掛かりとして、受講者が自分自身で考える姿勢を身につけてほしい。

#### 達成目標：

この種の講義は、知識だけを与えるという講義ではないので、欠席したところは友達に聞けば解るということには必ずしもならない。やむをえない事情のない限り講義に出席して、講義を聴きつつ、考えながら理解することが必要である。そのようにして理解したところに従って、講義の内容に関して提示された問題についてレポートにまとめる。

#### 評価方法：

- (a) 授業への取り組み、(b) 学期末試験、(c) レポート、を同等の比重で重視する。
- (a) における真摯な態度を前提とした上で、(b) と (c) において、
- 講義の理解度が特に優れ、課題についてもよく考えられていると認められた場合……………S
- 講義の理解度に問題がないと認められた場合……………A
- 理解度にやや不十分さはあっても、少なくとも要点は理解できていると認められた場合………B
- かなりの不十分さはあるにせよ、理解できている問題もいくつかはあると認められた場合…C
- Cに達していない場合……………D

#### 教科書：

特に無し。

#### 参考文献：

授業中、適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

無し。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D00801	比較日本文化論演習	4	4	吉田喜久子

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本思想 比較思想的方法 思想の読解	分析 総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） 美的感受性

**授業のテーマ：**

主に日本の思想を（必要に応じて外国語で書かれた思想も）原書で読むことを通して、日本文化を生み出して来た日本人のものの考え方や思想の特徴を、比較思想的手法も駆使しつつ、熟考する。  
履修者自身が、自分の関心を研究にまで仕上げる手助けをする。

**授業の概要：**

上質な日本思想論をテキストとし、熟読含味する作業を行なう。単に知識として知るだけでなく、担当教員の詳しい説明を手掛かりにして、履修者が自分自身で考える力を養う。履修者による研究発表と、それについての討議と指導。

**授業の計画：**

- |  |   |
|--|---|
| <p>前期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本思想論のテキストの解説。卒業論文に関する指導</li> <li>②日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（1）</li> <li>③日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（2）</li> <li>④日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（3）</li> <li>⑤日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（4）</li> <li>⑥日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（5）</li> <li>⑦卒業予定者による研究発表（1）</li> <li>⑧卒業予定者による研究発表（2）</li> <li>⑨日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（6）</li> <li>⑩日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（7）</li> <li>⑪日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（8）</li> <li>⑫日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（9）</li> <li>⑬日本思想論のテキストの読解、詳しい解説、討議（10）</li> <li>⑭卒業予定者による研究発表（3）</li> <li>⑮卒業予定者による研究発表（4）</li> </ul> | <p>後期</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①日本思想論のテキストの読解、解説、討議（11）</li> <li>②日本思想論のテキストの読解、解説、討議（12）</li> <li>③日本思想論のテキストの読解、解説、討議（13）</li> <li>④日本思想論のテキストの読解、解説、討議（14）</li> <li>⑤日本思想論のテキストの読解、解説、討議（15）</li> <li>⑥日本思想論のテキストの読解、解説、討議（16）</li> <li>⑦日本思想論のテキストの読解、解説、討議（17）</li> <li>⑧卒業予定者による研究発表（5）</li> <li>⑨卒業予定者による研究発表（6）</li> <li>⑩日本思想論のテキストの読解、解説、討議（18）</li> <li>⑪日本思想論のテキストの読解、解説、討議（19）</li> <li>⑫日本思想論のテキストの読解、解説、討議（20）</li> <li>⑬卒業予定者による研究発表（7）</li> <li>⑭卒業予定者による研究発表（8）、履修者による研究発表</li> <li>⑮日本思想論のテキストの読解、解説、討議（21）とまとめ</li> </ul> |
|--|---|

**授業方法：**

予告された箇所のテキストについて、前以て不明の箇所を調べ熟読した上で、授業に出席することを、履修者に義務づける。担当教員からの履修者に対する問いと、履修者からの応答の後、担当教員が詳しい解説を行なう。また、卒業予定者と履修者に対する研究指導も、随時行なう。

**達成目標：**

熟読含味理解という作業をおろそかにしないために、進度は遅々としているが、深く考えられた思想が表現された文章をできるかぎり理解するように努める。日本の文化や思想、歴史等に対する履修者の関心を、研究といえる水準にまで高める能力を養う。

**評価方法：**

下準備した上での出席、発表、討議への積極的な参加。これらを総合的に評価する。これらの諸点のいずれかにおいて、特に卓抜であると認められた場合……………S  
優れていると認められた場合……………A  
やや欠けるところはあるが、ある程度の努力はしたと認められた場合……………B  
やや欠けるところもあり、努力する姿勢がもっと必要な場合……………C  
Cに達しない場合……………D

**教科書：**

予めこちらで把握できる履修者に関しては、年度初めまでに事前に通知する。新たな参加者に対しては、初回に知らせる。

**参考文献：**

授業時に適宜紹介する。

**実習・実験・教材費：**

不要。



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01101	日本の言語と文学講義A	4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
語彙力 読解力 文学的文章 論理的文章 要約 意見文 登場人物の整理 心情表現	コミュニケーション力 美的感受性

**授業のテーマ：**

日本の近現代の文学作品を的確に読み取るための基礎的な力を会得する。

**授業の概要：**

新聞のコラム・社説および中学校・高等学校の国語の教科書に載るレベルの近現代の文章を読み解く。

**授業の計画：**

- 1 はじめに
- 2 日本語表現の基礎 1
- 3 日本語表現の基礎 2
- 4 新聞 読者投稿欄をよむ
- 5 コラムをよむ
- 6 社説をよむ
- 7 1から6までのまとめ
- 8 文学的文章をよむ 1
- 9 文学的文章をよむ 2
- 10 文学的文章をよむ 3
- 11 文学的文章をよむ 4
- 12 8から11までのまとめ
- 13 論理的文章をよむ 1
- 14 論理的文章をよむ 2
- 15 全体のまとめ

**授業方法：**

講義形式を基本とするが、適宜対話形式・発表形式を取り入れる。

**達成目標：**

高等学校国語レベルまでの日本語で書かれた様々な種類の文章を的確に読み取ることができる。

**評価方法：**

期末試験（70%）＋受講姿勢（30%）

日本の近現代の文学についてたいへんよく理解している。……S

日本の近現代の文学についてよく理解している。……………A

日本の近現代の文学について理解している。……………B

日本の近現代の文学の基礎的事項を理解している。……………C

**教科書：**

中村明（著）『たのしい日本語学入門』ちくま学芸文庫（950円＋税）、『新総合図説国語』東京書籍（880円）。※授業時には必ず『国語辞典』（書籍・電子辞書）を持参すること。

**参考文献：**

齋藤孝（著）『日本語の技法 読む・書く・話す・聞く—4つの力』東洋経済新報社（1,400円＋税）、石原千秋（著）『大学生の論文執筆法』ちくま新書（740円＋税）、その他適宜紹介する。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01201	日本の言語と文学講義B	4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
国文学史 万葉集 古今和歌集 勅撰和歌集 伊勢物語 源氏物語 土佐日記 枕草子 和歌の修辞 古典文法	コミュニケーション力 美的感受性

#### 授業のテーマ：

中学校・高等学校の国語の教科書に取り上げられている、日本の代表的な古典文学作品について、高等学校『国語総合』レベルで文学史的事項の説明ができることを目指す。

#### 授業の概要：

中学校・高等学校の国語の教科書に取り上げられている、日本の代表的な古典文学作品を教材とし、文学史的事項の確認と作品の読解を行う。

#### 授業の計画：

- 1 はじめに 歴史的事項の確認
- 2 概説 国文学史の基礎
- 3 『万葉集』
- 4 和歌の修辞
- 5 『古今和歌集』
- 6 1から5のまとめ
- 7 『伊勢物語』 1
- 8 『伊勢物語』 2
- 9 『源氏物語』 1
- 10 『源氏物語』 2
- 11 『土佐日記』 1
- 12 『土佐日記』 2
- 13 『枕草子』 1
- 14 『枕草子』 2
- 15 全体のまとめ

#### 授業方法：

講義形式を基本とするが、適宜対話形式・発表形式を取り入れる。

#### 達成目標：

中学校・高等学校の国語の教科書に取り上げられている、日本の代表的な古典文学作品について、高等学校『国語総合』レベルで文学史的事項の説明ができる。

#### 評価方法：

期末試験（70%）＋受講姿勢（30%）

日本文学の歴史についてたいへんよく理解している。……S

日本文学の歴史についてよく理解している。……………A

日本文学の歴史について理解している。……………B

日本文学の歴史の基礎的事項を理解している。……………C

#### 教科書：

『新総合図説国語』東京書籍（880円）、鈴木日出男他（著）『原色 小倉百人一首』文英堂（533円＋税）。

#### 参考文献：

適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01501	日本の言語と文学特殊講義ⅡA（和歌と日本文化）	4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
文学の味わい 万葉集 和歌 和歌の修辞	コミュニケーション力 美的感受性

#### 授業のテーマ：

最初の勅撰和歌集『古今和歌集』以来、季節の風物は和歌の中心的な主題とされた。この講義では、その『古今和歌集』に先立つ『万葉集』の歌を丁寧に読むことを通して、日本文化の基底にある季節観を知ること。また、それを通して現代においても実感する季節の移り変わり、風土と環境を大切に「まなごし」を養うことを目指す。

#### 授業の概要：

『万葉集』という歌集についての基礎的な知識を習得する。  
『万葉集』の時代の人々の季節把握とその表現の特質を学ぶ。

#### 授業の計画：

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介など
- 2 『万葉集』についての概説
- 3 『万葉集』の春の歌 1
- 5 『万葉集』の春の歌 2
- 6 1から5までのまとめ
- 7 『万葉集』の夏の歌 1
- 8 『万葉集』の夏の歌 2
- 9 『万葉集』の秋の歌 1
- 10 『万葉集』の秋の歌 2
- 11 6から10までのまとめ
- 12 『万葉集』の冬の歌 1
- 13 『万葉集』の冬の歌 2
- 14 全体のまとめ 1
- 15 『古今和歌集』へ

#### 授業方法：

講義形式を基本とする。

#### 達成目標：

和歌の表現技法を修得する。  
『万葉集』の歌に詠まれる、その時代の季節の把握を知る。

#### 評価方法：

定期試験（70％）＋授業への取り組み（30％）  
和歌の表現技法・万葉集歌の特質をたいへんよく理解している…S  
和歌の表現技法・万葉集歌の特質をよく理解している……………A  
和歌の表現技法・万葉集歌の特質の理解ができて……………B  
和歌の表現技法・万葉集歌の理解がおおよそできて……………C

#### 教科書：

森淳司 編『訳文 万葉集』笠間書院（税込 1,890円）  
『新総合図説国語』東京書籍（定価880円）

#### 参考文献：

授業のなかで適宜紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01601	日本の言語と文学特殊講義ⅡB（和歌と日本文化）	4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
古今和歌集 和歌 和歌の修辞	美的感受性 コミュニケーション力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

最初の勅撰和歌集『古今和歌集』以来、季節の風物は和歌の中心的な主題とされた。この講義では、『古今和歌集』歌を丁寧に読むことを通して、日本文化の基底にある季節観を知るとともに、和歌を理解するための和歌の修辞・文法的知識を習得する。

**授業の概要：**

『古今和歌集』を中心とした和歌の表現技法を学ぶ。  
和歌における季節の表現を学ぶ。

**授業の計画：**

- 1 はじめに 授業の進め方・参考文献の紹介・歴史的事項の確認
- 2 『古今和歌集』について
- 3 『万葉集』から『古今和歌集』へ
- 4 和歌の修辞
- 5 1から4のまとめ
- 6 『古今和歌集』1（以下、担当学生の発表）
- 7 『古今和歌集』2
- 8 『古今和歌集』3
- 9 『古今和歌集』4
- 10 『古今和歌集』5
- 11 『古今和歌集』6
- 12 『古今和歌集』7
- 13 『古今和歌集』8
- 14 『古今和歌集』9
- 15 全体のまとめ

**授業方法：**

前半は講義形式、後半は担当する歌を決めて発表形式とする。

**達成目標：**

『古今和歌集』などの文学史的な知識を習得する。  
『古今和歌集』の歌を理解するための和歌の修辞・文法的知識を習得する。

**評価方法：**

定期試験＋発表・質疑応答など受講姿勢  
『古今和歌集』についてたいへんよく理解している……………S  
『古今和歌集』についてよく理解している……………A  
『古今和歌集』について理解している……………B  
『古今和歌集』についての基本的事項を理解している……………C

**教科書：**

小町屋照彦 訳注『古今和歌集』ちくま学芸文庫（1,500円＋税）  
鈴木日出男他（編）『原色小倉百人一首』文英堂（533円＋税）  
『新総合 図説国語』東京書籍（定価 880円）  
※授業時には必ず古語辞典（書籍）を持参すること（電子辞書は不可）。

**参考文献：**

朝比奈英夫他 編『古典入門』清文堂出版（1,700円＋税）  
その他は、授業のなかで適宜紹介する。

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D01801	日本の言語と文学演習	4	4	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本文学 問題の発見 問題の解決 批判的思考 プレゼンテーション	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

#### 授業のテーマ：

日本の文学作品の読解を通して、日本の言語と文学についての基本的な諸問題に広く触れる。そのうえで、自ら問題点を見つけ、その問題点について調査・考察したことを口述・記述する力を養うことを目指す。

#### 授業の概要：

はじめに、講義形式で発表方法・資料の作成の仕方を学ぶ。以後は、各自の選んだテーマについて発表と質疑応答を行う。あわせて、卒業回生の卒業論文のテーマについての発表と質疑応答を行う。前期末・後期末には、発表内容についてのレポートを提出する。

#### 授業の計画：

(前期)

- 1 はじめに
- 2～3 論文の書き方
- 4～14 先行論文を読む・発表と質疑応答
- 15 まとめ

(後期)

- 1 はじめに
- 2～14 先行論文を読む・発表と質疑応答
- 15 まとめ

#### 授業方法：

前期・後期の最初の数回は、講義形式で行う。その後は演習形式で進める。毎回1～2名の発表者が資料を用意して発表し、その内容について全員で考え討議する。

#### 達成目標：

文学作品を正確に読むことができる。そのうえで、その作品に対する研究論文を批判的に読み、問題点を見つける。そして、調査・考察により問題を解決し、その結果を口述・記述する力を身につける。

#### 評価方法：

発表 (30%) + 質疑応答 (30%) + レポート (40%)

#### 教科書：

石原千秋『大学生の論文執筆法』ちくま新書 740円+税

#### 参考文献：

授業中に適宜指示する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02501	日本教育史特殊講義ⅡA（吉田松陰の教育思想）	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
吉田松陰 教育思想 人づくり	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意志決定力）

**授業のテーマ：**

吉田松陰は幕末期の我が国を代表する教育者である。彼が萩の野山獄及び松下村塾で行った教育は、現在の教育学の視点からしても、教育方法や教育目的の中心とされる「自己教育力」を重視するものであった。

本講では、松陰教育の目的、方法、内容などを、彼の残した原文書を中心にして、総合的に考察する。

**授業の概要：**

それぞれのテーマについて、松陰の残した史料の解説を中心として、その人間観などを理解させ、人づくりについて、具体的に考えられる段階まで到達することを目的とする。

**授業の計画：**

- 1 松陰教育の現在の意義Ⅰ
- 2 松陰教育の現在の意義Ⅱ
- 3 下田渡海考Ⅰ
- 4 下田渡海考Ⅱ
- 5 下田渡海考Ⅲ
- 6 松下村塾考Ⅰ
- 7 松下村塾考Ⅱ
- 8 松下村塾考Ⅲ
- 9 理想的武士観について－忠概念を中心としてⅠ
- 10 理想的武士観について－忠概念を中心としてⅡ
- 11 理想的武士観について－忠概念を中心としてⅢ
- 12 理想的武士観について－孝概念を中心としてⅠ
- 13 理想的武士観について－孝概念を中心としてⅡ
- 14 理想的武士観について－孝概念を中心としてⅢ
- 15 理想的武士観について－忠孝概念を中心として

**授業方法：**

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

**達成目標：**

松陰の原文書の書き下しが読め、理解できる。また、自分で具体的に松陰教育、ひいては、近世後期の私塾教育を考察することができる。

**評価方法：**

出席（20%）、試験（80%）などによって、評価する。

**教科書：**

拙著『吉田松陰』致知出版社、平成21年

**参考文献：**

なし。史料は適時配布。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02601	日本教育史特殊講義ⅡB（吉田松陰の教育思想）	4	2	川口雅昭
<b>期間</b>	<b>曜日</b>	<b>時限</b>	<b>備考：</b>	
後期	木	1		
<b>授業のキーワード</b>		<b>人間環境大学が育む八つの能力</b>		
吉田松陰 教育思想 人づくり		分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意志決定力）		

**授業のテーマ：**

吉田松陰は幕末期の我が国を代表する教育者である。彼が萩の野山獄及び松下村塾で行った教育は、現在の教育学的視点からしても、教育方法や教育目的の中心とされる「自己教育力」を重視するものであった。

本講では、松陰教育の目的、方法、内容などを、彼の残した原文書を中心にして、総合的に考察する。

**授業の概要：**

それぞれのテーマについて、松陰の残した史料の解説を中心として、その人間観などを理解させ、人づくりについて、具体的に考えられる段階まで到達することを目的とする。

**授業の計画：**

- 1 理想的武士観について－諫死論を中心としてⅠ
- 2 理想的武士観について－諫死論を中心としてⅡ
- 3 理想的武士観について－諫死論を中心としてⅢ
- 4 理想的武士観について－生死観を中心としてⅠ
- 5 理想的武士観について－生死観を中心としてⅡ
- 6 理想的武士観について－生死観を中心としてⅢ
- 7 国際感覚についてⅠ
- 8 国際感覚についてⅡ
- 9 理想的武士観について－生活論を中心としてⅠ
- 10 理想的武士観について－生活論を中心としてⅡ
- 11 理想的武士観について－生活論を中心としてⅢ
- 12 武家政権観についてⅠ
- 13 武家政権観についてⅡ
- 14 天皇観についてⅠ
- 15 天皇観についてⅡ

**授業方法：**

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

**達成目標：**

松陰の原文書の書き下しが読め、理解できる。また、自分で具体的に松陰教育、ひいては、近世後期の私塾教育を考察することができる。

**評価方法：**

出席（20%）、試験（80%）などによって、評価する。

**教科書：**

拙著『吉田松陰』致知出版社、平成21年

**参考文献：**

なし。史料は適時配布。

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D02801	日本教育史演習	4	4	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
通年	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
古文書 日本漢文 くずし字	コミュニケーション力 問題解決能力 社交性(社会的相互関係力)

**授業のテーマ：**

歴史学研究の基本である日本漢文、古文書解読の基礎的知識を修得し、初歩的な古文書などを読めるようにする。

**授業の概要：**

基礎的な史料、古文書を輪番で解読し、日本漢文、古文書解読の基礎的な知識を修得する。また、内容について解説し、グループ討議などを行う。

**授業の計画：**

- 1 吉田松陰
- 2 西郷隆盛
- 3 坂本龍馬
- 4 橋本左内
- 5 石田梅岩
- 6 上杉鷹山
- 7 会沢正志齋
- 8 『旧幕府』①
- 9 『旧幕府』②
- 10 『旧幕府』③
- 11 『旧幕府』④
- 12 『旧幕府』⑤
- 13 『旧幕府』⑥
- 14 『旧幕府』⑦
- 15 『旧幕府』⑧
- 16 『日本外史』①
- 17 『日本外史』②
- 18 『日本外史』③
- 19 『日本外史』④
- 20 『日本外史』⑤
- 21 古文書 仮名読みの基礎①
- 22 古文書 仮名読みの基礎②
- 23 古文書 仮名読みの基礎③
- 24 古文書 候文の基礎①
- 25 古文書 候文の基礎②
- 26 古文書 候文の基礎③
- 27 古文書 基礎史料解読①
- 28 古文書 基礎史料解読②
- 29 古文書 基礎史料解読③
- 30 古文書 基礎史料解読④

**授業方法：**

最初は講義形式を中心とする。学生の進捗状況に応じて、輪読形式とする。

**達成目標：**

くずし字辞典を使い、史料が読め、解釈できることを目標とする。

**評価方法：**

試験(100%)により行う。試験には期末試験と小テストを含む。

**教科書：**

なし

**参考文献：**

折々に紹介する。

**実験・実習・教材費：**



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04501	中国社会的文化論特殊講義ⅡA（中国文化史）	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
前期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
理解 尊重 読み書き	グローバルな視野

**授業のテーマ：**

グローバルな視野の育成をテーマとして、近代以前の中国を取り上げる。

**授業の概要：**

かつての中国社会を特徴づけていた制度の一つは科挙であった。この講義では、科挙制度の変遷を振り返ったのち、それが社会・文化に及ぼした影響について考えていく。

**授業の計画：**

1. はじめに
2. 科挙史概要
3. 資格と任用
4. 貴族、士大夫
5. 詩の発展
6. 儒教の進展
7. 八股文
8. 答案作成
9. 受験カリキュラム
10. 科挙以外の任用
11. モンゴル政権下の科挙
12. 任用後の評価
13. 武科挙の話
14. 科挙以前の官吏任用
15. まとめ

**授業方法：**

講義形式

**達成目標：**

グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解・尊重の能力を習得する。

**評価方法：**

- 試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。
- S…理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる
  - A…理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる
  - B…理論を使いながら出来事の分析ができる
  - C…理論や用語を説明できる
  - D…Cのレベルに達していない

**教科書：**

特に定めない

**参考文献：**

必要に応じて提示

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04601	中国社会文化論特殊講義ⅡB（中国文化史）	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
理解 尊重 読み書き	グローバルな視野

**授業のテーマ：**

グローバルな視野の育成をテーマとして、前近代中国を取り上げる。

**授業の概要：**

中国史書に関する基本的事項にふれた後、「明史日本伝」等に見える日中の文化的交流について論じていく。

**授業の計画：**

以下の予定だが進捗・内容は変更する場合もある。

1. 正史について
2. 明朝の成立（1）
3. 明朝の成立（2）
4. 日明貿易（1）
5. 日明貿易（2）
6. 日明貿易（3）
7. 倭寇（1）
8. 倭寇（2）
9. 倭寇（3）
10. 壬辰・丁酉の乱（1）
11. 壬辰・丁酉の乱（2）
12. 壬辰・丁酉の乱（3）
13. 明清交替（1）
14. 明清交替（2）
15. まとめ

**授業方法：**

講義形式。諸書の記述に基づいて展開する。

**達成目標：**

グローバルな視野のうち、特に基礎的知識の理解・尊重の能力を習得する。

**評価方法：**

試験（80%）と授業への取り組み（20%）により行う。

- S…理論を駆使して完成度の高い独自のグローバルな視野を持つことができる
- A…理論を部分的に活用してグローバルな視野を持つことができる
- B…理論を使いながら出来事の分析ができる
- C…理論や用語を説明できる
- D…Cのレベルに達していない

**教科書：**

特に定めない

**参考文献：**

必要に応じて提示

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D04801	中国社会文化論演習	4	4	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
統合 決定 批判的思考	分析・総合の思考力と判断力

**授業のテーマ：**

それぞれの時代の社会・文化を形づくってきたのは制度ではなく、その中で生きてきた個々人の活動である。この授業では正史などに収められた列伝などを読み、個々人の生き方からそれらを考えていく。

**授業の概要：**

正史の列伝を中心に講読を進める予定だが、同時に関連する小説なども取り上げる。

**授業の計画：**

- |    |              |              |
|----|--------------|--------------|
| 前期 | 1. はじめに      | 2. 三国志演義の大要① |
|    | 3. 三国志演義の大要② | 4. 三国志演義の大要③ |
|    | 5. 三国志演義の大要④ | 6. 歴史と小説①    |
|    | 7. 歴史と小説②    | 8. 歴史と小説③    |
|    | 9. 歴史と小説④    | 10. 歴史から小説へ① |
|    | 11. 歴史から小説へ② | 12. 歴史から小説へ③ |
|    | 13. 歴史から小説へ④ | 14. 歴史から小説へ⑤ |
|    | 15. まとめ①     |              |
| 後期 | 1. 羅貫中の謎①    | 2. 羅貫中の謎②    |
|    | 3. 人物像の変遷①   | 4. 人物像の変遷②   |
|    | 5. 人物像の変遷③   | 6. 人物像の変遷④   |
|    | 7. 三国志外伝①    | 8. 三国志外伝②    |
|    | 9. 三国志外伝③    | 10. 三国志の思想①  |
|    | 11. 三国志の思想②  | 12. 三国志の思想③  |
|    | 13. 三国志の思想④  | 14. 三国志の思想⑤  |
|    | 15. まとめ②     |              |

**授業方法：**

演習形式。毎回担当者が報告し、全員で討議する。必要があれば担当者がレジュメを用意する。

**達成目標：**

分析・総合の思考力と判断力のうち、特に統合の能力を習得する。

**評価方法：**

- 発表（50%）と授業への取り組み（50%）により行う。
- S…理論を駆使して完成度の高い独自の統合の能力を持つことができる
- A…理論を部分的に活用して統合の能力を持つことができる
- B…理論を使いながら批判的に思考することができる
- C…理論や用語を説明できる
- D…Cのレベルに達していない。

**教科書：**

特に定めない。

**参考文献：**

必要に応じて提示。

**実験・実習・教材費：**

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21501	文学の現在特殊講義ⅡA（フランス古典劇の形成）	4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
異文化理解 芸術鑑賞 マルチメディア	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

#### 授業のテーマ：

フランスでは17世紀にアカデミー・フランセーズが設立され、フランス語の規範が作られた。言語や文学が社会に強い影響を与えた時代とその背景をさぐる。

#### 授業の概要：

17世紀を代表する3人の劇作家の中からコルネイユとモリエールに焦点をあてて古典劇の特質を明らかにする。また、演劇を映像化した作品を参考にして、演劇言語と映像言語の違いについても考える。

#### 授業の計画：

- (1) 17世紀のフランス社会
- (2) 17世紀の演劇をとりまく環境
- (3) 劇作法（その1）
- (4) 劇作法（その2）
- (5) コルネイユとリシュリユー
- (6) 『ル・シッド』（その1）
- (7) 『ル・シッド』（その2）
- (8) 『ル・シッド』（その3）
- (9) 『ル・シッド』（その4）
- (10) 『ル・シッド』（その5）
- (11) モリエールとフロンドの乱
- (12) モリエールとイタリア喜劇
- (13) 『女房学校』（その1）
- (14) 『女房学校』（その2）
- (15) 『女房学校』（その3）

#### 授業方法：

パワーポイントもしくはビデオなどの視聴覚資料を見ながら講義をすすめる。必要に応じてプリントを配布する。

#### 達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

#### 評価方法：

授業への取り組み（20%程度）とレポートの内容（80%）で評価する。

- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
- A 上記内容についてプレゼンテーションができる
- B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
- C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
- D Cのレベルに達していない

#### 教科書：

プリントを配布

#### 参考文献：

授業時に指示する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21601	文学の現在特殊講義ⅡB（フランス古典劇の形成）	4	2	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
異文化理解 芸術鑑賞 マルチメディア	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

#### 授業のテーマ：

フランスでは17世紀にアカデミー・フランセーズが設立され、フランス語の規範が作られた。言語や文学が社会に強い影響を与えた時代とその背景をさぐる。

#### 授業の概要：

17世紀を代表する3人の劇作家の中からモリエールとラシーヌに焦点をあて古典劇の特質を明らかにする。また、演劇を映像化した作品を参考にして、演劇言語と映像言語の違いについても考える。

#### 授業の計画：

- (1) 17世紀後半のフランス社会
- (2) モリエールとスペイン喜劇
- (3) 『ドン・ジュアン』（その1）
- (4) 『ドン・ジュアン』（その2）
- (5) モリエールと近代個人主義
- (6) 『ル・ミザントロップ』（その1）
- (7) 『ル・ミザントロップ』（その2）
- (8) ラシーヌとモリエール
- (9) ラシーヌとルイ14世
- (10) 『フェードル』（その1）
- (11) 『フェードル』（その2）
- (12) 『フェードル』（その3）
- (13) 18世紀演劇への道（マリヴォー）
- (14) 18世紀演劇への道（ボーマルシェ）
- (15) フランス社会と演劇

#### 授業方法：

パワーポイントもしくはビデオなどの視聴覚資料を見ながら講義をすすめる。必要に応じてプリントを配布する。

#### 達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

#### 評価方法：

授業への取り組み（20%程度）とレポートの内容（80%）で評価する。

- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
- A 上記内容についてプレゼンテーションができる
- B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
- C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
- D Cのレベルに達していない

#### 教科書：

プリントを配布

#### 参考文献：

授業時に指示する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C21801	文学の現在演習	4	4	日比野雅彦

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
文学 芸術鑑賞 分析 プレゼンテーション	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野 美的感受性

#### 授業のテーマ：

文学と社会との関係についての研究、文学作品そのもの研究などをする場合の基本的な方法を学び、論文作成のテクニックを学ぶ。

#### 授業の概要：

文学研究の意味について考え、そのための様々な方法を実際に使いながら文学作品にアプローチします。2年間の演習をとおして卒業論文のテーマ、論文を書くためのテクニック学びます。

#### 授業の計画：

- |                         |                         |
|-------------------------|-------------------------|
| (1) 文学研究とは？             | (16) プレゼンテーションの方法 (その1) |
| (2) 文学とその時代との関係         | (17) プレゼンテーションの方法 (その2) |
| (3) 文学テキストを分析するには (その1) | (18) プレゼンテーションの方法 (その3) |
| (4) 文学テキストを分析するには (その2) | (19) プレゼンテーションの方法 (その4) |
| (5) 文学形式について (その1) 小説   | (20) 研究成果の発表 (その1)      |
| (6) 文学形式について (その2) 演劇   | (21) 研究成果の発表 (その2)      |
| (7) 文学形式について (その3) 詩    | (22) 研究成果の発表 (その3)      |
| (8) 文字を使わない文学について (その1) | (23) 研究成果の発表 (その4)      |
| (9) 文字を使わない文学について (その2) | (24) 卒業論文にむけて (その1)     |
| (10) 作家と文学作品の関係 (その1)   | (25) 卒業論文にむけて (その2)     |
| (11) 作家と文学作品の関係 (その2)   | (26) 卒業論文にむけて (その3)     |
| (12) 作品分析の実践 (その1)      | (27) 作品分析の実践 (その4)      |
| (13) 作品分析の実践 (その2)      | (28) 作品分析の実践 (その5)      |
| (14) 作品分析の実践 (その3)      | (29) 作品分析の実践 (その6)      |
| (15) 前期のまとめと中間報告        | (30) まとめと最終報告           |

#### 授業方法：

プリントとして配布するテキストを読みながら問題点を取り出し、作品分析を実際に行ってみます。前期はおもに4年生が卒業論文を作成するために、後期は3年生が卒業論文のテーマを決める準備のために役立つ情報を提供しながらすすめます。

#### 達成目標：

文学について概観できる知識を獲得し、また、それを判断する能力を身につける。

#### 評価方法：

- S 文学作品について理論を駆使して完成度の高い内容のプレゼンテーションができる
- A 上記内容についてプレゼンテーションができる
- B 文学作品を鑑賞し、その感想を第三者にわかりやすく表現することができる
- C 文学作品を鑑賞し、表現することができる
- D Cのレベルに達していない

#### 教科書：

プリントを配布

#### 参考文献：

授業時に指示する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C26501	英語コミュニケーション論特殊講義ⅡA (英語習得論)	4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考:
前期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション 批判的思考 問題の発見・原因の解明	コミュニケーション力 グローバルな視野

**授業のテーマ:**

多くの日本人は、中学、高校、大学とかなりの時間を費やして英語を学んでいるが、使えるレベルまで到達する人はそう多くはない。その一方で、英語圏に留学せず日本で学習するだけでペラペラの人もある。このような違いはどこから来るのかを考える。自分のこれまでの英語学習を振り返り、学習法を考えて行く。

**授業の概要:**

第二言語習得に関する母語の役割、子どもはふつう第二言語習得に成功するのに、大人は失敗することが多いのはなぜか、外国が学習の適性と動機づけについて考えてもらう。

**授業の計画:**

- |                         |                             |
|-------------------------|-----------------------------|
| 1回 母語を基礎に外国語は習得される      | 9回 母語を習得することにより、外国語習得が難しくなる |
| 2回 言語間の距離と習得の難しさ        |                             |
| 3回 言語間の距離と言語転移          | 10回 英語子育ては母語に影響するか          |
| 4回 普遍的な習得順序はあるか         | 11回 どんな学習者が外国語学習に成功するか      |
| 5回 スピーキング重視の問題点         | 12回 外国語学習の適性                |
| 6回 なぜ子どもはことばが習得できるのか    | 13回 適性と知能の関係                |
| 7回 第二言語習得に成功するのはどんな学習者か | 14回 適性と学習方法をどうマッチングさせるのか    |
| 8回 大人と子どもはどう違うか         | 15回 統合的動機づけと道具的動機づけ         |

**授業方法:**

教科書に沿って解説を加えた後、受講生が自身の体験も交えて検討する。また、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの英語学習に関する学習講座、報道番組、広告、なども検討の題材として利用する。

**達成目標:**

自らの学習歴を振り返り、検討を経て、よりよい方法を見出す力を身につける。さらにこのプロセスは英語学習以外にも応用することが期待できる。

**評価方法:**

前期末の試験(60%程度)と授業への取り組み(40%程度)により行う。  
 理論を駆使して分析をへて完成度の高い学習法の提示ができる・・・S  
 理論を部分的に活用して分析や学習法の提示ができる・・・A  
 不十分ながら理論を使い分析ができる・・・B  
 理論や学術用語を説明できる・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書:**

白井泰弘 著『外国語学習の科学—第二言語習得とは何か』岩波書店 700円+税

**参考文献:**

なし

**実験・実習・教材費:**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C26601	英語コミュニケーション論特殊講義ⅡB(英語習得論)	4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考:
後期	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
コミュニケーション 批判的思考 問題の発見・原因の解明	コミュニケーション力 グローバルな視野

**授業のテーマ:**

多くの日本人は、中学、高校、大学とかなりの時間を費やして英語を学ぶが、使えるレベルまで到達する人はそう多くはないようである。その一方で、英語圏に留学せず日本で学習するだけでペラペラの人もある。このような違いはどこから来るのかを考える。自分のこれまでの英語学習を振り返り、学習法を考えて行く。

**授業の概要:**

第二言語習得のメカニズム、効果的な教授法や学習法、具体的な学習法のコツを考える。

**授業の計画:**

- |                     |                    |
|---------------------|--------------------|
| 1回 外国語学習のメカニズム      | 8回 正しい外国語への志向      |
| 2回 言語の特質            | 9回 文法か会話か          |
| 3回 言語はルールでは割り切れない   | 10回 文法教育には限界がある    |
| 4回 聞くだけで十分?         | 11回 効果的な外国語学習法     |
| 5回 インプット+アウトプットの必要性 | 12回 例文暗記の効用        |
| 6回 外国語を身につけるために     | 13回 無意味学習と有意味学習の違い |
| 7回 言語学と心理学からのアプローチ  | 14回 動機づけを高める       |
|                     | 15回 まとめ            |

**授業方法:**

教科書に沿って解説を加えた後、受講生が自身の体験も交えて検討する。また、テレビ、ラジオ、新聞、雑誌などの英語学習に関する学習講座、報道番組、広告、なども検討の題材として利用する。

**達成目標:**

自らの学習歴を振り返り、検討を経て、よりよい方法を見出す力を身につける。さらにこのプロセスは英語学習以外にも応用することが期待できる。

**評価方法:**

前期末の試験(60%程度)と授業への取り組み(40%程度)により行う。  
 理論を駆使して分析をへて完成度の高い学習法の提示ができる・・・S  
 理論を部分的に活用して分析や学習法の提示ができる・・・A  
 不十分ながら理論を使い分析ができる・・・B  
 理論や学術用語を説明できる・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書:**

白井泰弘 著『外国語学習の科学—第二言語習得とは何か』岩波書店 700円+税

**参考文献:**

なし

**実験・実習・教材費:**

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C43501	宗教と倫理特殊講義ⅡA（宗教と歴史）	4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人間 孤独 連帯 沈黙 巡礼	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

古代から中世における宗教と社会の関りの諸相について具体的に例を取り挙げながら考察する。特に基本的な宗教的歴史観、宗教と文化の歴史などについて考察する。各年度異なった地域・人物・書物等を取り上げて考察する。

#### 授業の概要：

本年度は（１）石器時代からキリスト教成立に至るまでの唯一神教の成立過程、（２）スペインにおけるレコンキスタ期のイスラム教とキリスト教の折衝から生じた政治的文化的影響の諸相、さらに（３）日本への仏教伝来の過程を見ることによる日本古代史の検証、（４）キリシタン版に現れたキリスト教の日本文化理解を取り上げ、最後に、そのような実例の考察を基礎として宗教と歴史の関わりについて考えてみる。

#### 授業の計画（全15回）：

1. 古代中世の宗教と文化
  - A. 古代中世における西洋の宗教と文化
    - 第1回：唯一神教の成立過程1
    - 第2回：唯一神教の成立過程2
    - 第3回：唯一神教の成立過程3
    - 第4回：唯一神教の成立過程4
    - 第5回：レコンキスタ期の宗教と文化1
    - 第6回：レコンキスタ期の宗教と文化2
    - 第7回：レコンキスタ期の宗教と文化3
  - B. 古代中世における東洋の宗教と文化
    - 第8回：仏教伝来1
    - 第9回：仏教伝来2
    - 第10回：仏教伝来3
    - 第11回：仏教伝来4
    - 第12回：キリシタン版に反映された日本理解1
    - 第13回：キリシタン版に反映された日本理解2
    - 第14回：キリシタン版に反映された日本理解3
2. 宗教と歴史観 [各年度共通]
  - 第15回：宗教と歴史～まとめ

#### 授業方法：

授業用のテキストを用意し、読みながら解説を加える講義形式。ビデオを用いることもある。

#### 達成目標：

古代中世における宗教的ダイナミクスの理解

#### 評価方法：

原則として筆記試験（持込み無し）。

#### 教科書：

授業専用テキスト（配布）

#### 参考文献：

担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先ito@uhe.ac.jp

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
C43601	宗教と倫理特殊講義ⅡB（宗教と歴史）	4	2	伊藤利行

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
宗教 政治 政教分離	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 グローバルな視野

#### 授業のテーマ：

政治と宗教は古来分離することなく結びついてきたが、近代的な思考の中で政教分離の思想が成立した。しかし、今なお、人々の根底には宗教と政治と社会の結びつきはなくなっていない。ここでは中世から現代における宗教と社会の関りの諸相について戦争・社会革命などの具体的例を取り挙げながら考察する。各年度異なった地域・人物・書物等を取り上げて考察する。

#### 授業の概要：

宗教と政治の関わりについて、宗教改革（本年はルター派・カルヴァン派以外のヨーロッパ大陸における運動）、革命における宗教（本年はフランス革命、アメリカ合衆国独立、ロシア革命）、日本における宗教と社会（本年は江戸期における仏教）、戦争と宗教問題（本年は近代日本の場合）の実例を基にして考察し、最後に「政教分離・信教の自由」の思想の観点から、宗教と政治～未来に向けての宗教と歴史の教育について考える。

#### 授業の計画：

1. 宗教と政治のかかわりの諸相
  - A. 宗教改革の思想と社会
    - 第1回：宗教改革の思想と社会 1 ツヴィングリとスイス宗教改革
    - 第2回：宗教改革の思想と社会 2 ドイツ農民戦争と急進派宗教改革
    - 第3回：宗教改革の思想と社会 3 再洗礼派
  - B. 革命における宗教
    - 第4回：革命における宗教 1 フランス革命の場合
    - 第5回：革命における宗教 2 アメリカ合衆国独立の場合
    - 第6回：革命における宗教 3 ロシア革命の場合
    - 第7回：革命における宗教 4 その後の仏・米・露の宗教的現実
  - C. 日本における宗教と社会
    - 第8回：江戸期における仏教 1 江戸幕府の仏教政策
    - 第9回：江戸期における仏教 2 江戸期における仏教教学の発展
    - 第10回：江戸期における仏教 3 江戸期における仏教批判の諸相
  - D. 戦争と宗教問題
    - 第11回：戦争と宗教問題－近代日本の場合 1 幕末・維新期の宗教的諸前提
    - 第12回：戦争と宗教問題－近代日本の場合 2 明治10年まで
    - 第13回：戦争と宗教問題－近代日本の場合 3 明治43年まで
    - 第14回：戦争と宗教問題－近代日本の場合 4 昭和20年8月まで
2. まとめ
  - 第15回：宗教と政治～未来に向けての宗教と歴史の教育

#### 授業方法：

授業用のテキストを用意し、読みながら解説を加える講義形式。ビデオを用いることもある。

#### 達成目標：

社会的レベルでの宗教のダイナミクスの理解

#### 評価方法：

原則として筆記試験（持込み無し）。

#### 教科書：

授業専用テキスト（配布）

#### 参考文献

担当者ホームページ（<http://www1.uhe.ac.jp>）参照。連絡先ito@uhe.ac.jp

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10101	日本史講義 I A (日本古代・中世史研究)	4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考:
前期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
風土と自然 出雲と伊勢 寝殿造 禅宗	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

**授業のテーマ:**

古代から中世にかけての、東アジア地域との交流によって作り出された「日本」を、その時代の建築物と時代に生きた人々の変容と発展過程の中で、建築、文化史の観点から考察する。

**授業の概要:**

基本的に時代の流れをたどりつつ、時代性のあるテーマをとりあげ、全体として通史的な枠組を修得できるようにしていく。

**授業の計画:**

- 1、日本の風土と自然
- 2、狩猟と稲作の文化
- 3、出雲と伊勢
- 4、耶馬大国と大和朝廷
- 5、法隆寺と東大寺
- 6、遣唐使と中国文化の摂取
- 7、寝殿造の住まい方
- 8、平氏政権と日宋貿易
- 9、源実朝と藤原定家
- 10、大仏様と禅宗様の建築
- 11、禅宗の盛行と渡来僧
- 12、元寇の混乱と金沢貞顕
- 13、鎌倉幕府の滅亡と南北朝の内乱
- 14、社会風潮と下克上
- 15、まとめ

**授業方法:**

基本的には講義形式で進めますが、必要に応じてビデオやプリントなど資料を用いていきます。

**達成目標:**

日本の古代・中世史の背景の中で、日本文化の成立過程を学ぶ

**評価方法:**

授業態度を重視  
筆記試験とレポート課題

**教科書:**

「日本史のなかの茶道」(淡交社 2,000円+税)

**参考文献:**

図書館にある通史のシリーズものなどで、日本の古代・中世史に関する本を読んで時代へのイメージを培う

**実験・実習・教材費:**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10201	日本史講義 I B (日本古代・中世史研究)	4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考:
後期	水	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
バサラ 北山文化と東山文化 同朋衆 会所	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

**授業のテーマ:**

古代から中世にかけての、東アジア地域との交流によって作り出された「日本」を、その時代の建築物と時代に生きた人々の変容と発展過程の中で、建築、文化史の観点から考察する。

**授業の概要:**

基本的に時代の流れをたどりつつ、時代性のあるテーマをとりあげ、全体として通史的な枠組を修得できるようにしていく。

**授業の計画:**

- 1、二条落書とバサラ
- 2、南北朝の統一と北山文化
- 3、楼閣建築
- 4、足利義持と勘合貿易
- 5、会所と同朋衆
- 6、室町幕府の衰退と応仁の乱
- 7、足利義政と東山文化
- 8、君台観左右帳記
- 9、書院造における座敷と玄関
- 10、貿易港の堺・博多
- 11、町衆の台頭
- 12、大徳寺と堺
- 13、織田信長と茶の湯
- 14、豊臣秀吉の対外政策と南蛮文化
- 15、まとめ

**授業方法:**

基本的には講義形式で進めますが、必要に応じてビデオやプリントなど資料を用いていきます。

**達成目標:**

日本の古代・中世史の背景の中で、日本文化の成立過程を学ぶ

**評価方法:**

授業態度を重視  
筆記試験とレポート課題

**教科書:**

「日本史のなかの茶道」(淡交社 2,000円+税)

**参考文献:**

図書館にある通史のシリーズものなどで、日本の古代・中世史に関する本を読んで時代へのイメージを培う

**実験・実習・教材費:**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10301	日本史講義ⅡA（日本近世社会論研究）	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
武士 武家社会 幕府 天皇 幕藩体制	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 効果的な社会参加

**授業のテーマ：**

織田・豊臣政権を経て、徳川政権の成立及び幕藩体制の構築という、近世世界形成の歴史的意義を考える。とりわけ、この一連の過程における天皇の果たした役割などに注目しつつ、考察する。

**授業の概要：**

織田信長政権の特質、豊臣政権と関ヶ原合戦、徳川幕府成立後の諸政策の意義。そして、徳川政権の政治的特質などを、天皇の存在意義などの諸問題を論じる。

**授業の計画：**

- 1 序論—講義のプラン
- 2 信長と本能寺の変
- 3 秀吉と天下統一
- 4 関ヶ原合戦
- 5 徳川幕府の成立
- 6 徳川・豊臣二重支配体制
- 7 大坂の陣
- 8 幕藩体制の政治構造
- 9 近世の朝廷・天皇と幕府
- 10 近世の朝廷・天皇
- 11 鎖国とは
- 12 東アジアの国際的環境と鎖国
- 13 東アジアの国際的環境と鎖国
- 14 志士と鎖国
- 15 志士と鎖国

**授業方法：**

講義形式

**達成目標：**

講義内容を理解すると共に、自己の歴史認識能力を高める。

**評価方法：**

授業の取り組み 30%、テスト70%などによって、評価する。

**教科書：**

なし

**参考文献：**

講義の中で折々に紹介する。

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10401	日本史講義ⅡB（日本近世社会論研究）	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
武士 武士道 忠・忠義 近代化	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 効果的な社会参加

**授業のテーマ：**

徳川時代は近代化の胎動期であり、また、現在の日本社会にも通じる多くの文化遺産の産出期であった。授業では、社会の特性を論考すると共に、同時期における、「知」の成長過程を考察する。

**授業の概要：**

武士道や武家社会の構造を通して、江戸という時代のタテ社会のメカニズムを検討し、リーダーシップ、組織と個人との関係を論ずる。また、他方では、文化、思想の多様な展開を検討し、徳川社会の政治的近代化を論じる。

**授業の計画：**

- 1 藩の組織
- 2 武士道Ⅰ
- 3 武士道Ⅱ
- 4 武士道Ⅲ
- 5 元禄時代
- 6 儒学の発展Ⅰ
- 7 儒学の発展Ⅱ
- 8 能力主義とシステム
- 9 ペリー来航と幕藩体制Ⅰ
- 10 志士吉田松陰の誕生
- 11 吉田松陰の武家観
- 12 吉田松陰の天皇観
- 13 吉田松陰の国際観
- 14 維新への胎動
- 15 江戸という時代

**授業方法：**

講義形式

**達成目標：**

講義内容を理解すると共に、自己の歴史認識能力を高める。

**評価方法：**

授業の取り組み 30%、テスト70%などによって、評価する。

**教科書：**

なし

**参考文献：**

講義の中で折々に紹介する。

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
D10501	日本史講義ⅢA（日本近・現代史研究）	4	2	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本近代史 国民国家 立憲政治への胎動	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

本講義は、近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。幕末から太平洋戦争に至るまでの歴史なかで、特にペリー来航以来の幕末から明治十四年の政変までの政治過程を講義する。

**授業の概要：**

明治立憲制が成立していく過程を丹念に追っていく。

**授業の計画：**

- 第1回 立憲政治実現過程の日欧比較
- 第2回 幕閣専断から公議輿論の尊重へ
- 第3回 加藤弘之の「鄰艸」
- 第4回 王政復古の政変
- 第5回 五箇条の御誓文
- 第6回 「公議」の制度化への試み－公議所の開設
- 第7回 版籍奉還と廃藩置県
- 第8回 岩倉使節団
- 第9回 征韓論と明治六年の政変
- 第10回 大久保利通と明治政府
- 第11回 民撰議院設立建白書
- 第12回 自由民権運動
- 第13回 士族反乱と西南戦争
- 第14回 さまざまな憲法構想－私擬憲法と岩倉の憲法意見書
- 第15回 明治十四年の政変と国会開設の勅諭
- 第16回 試験

**授業方法：**

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って詳細な解説を行う。

**達成目標：**

近代国民国家としての日本が如何にして形成されたかを知ること。そのために必要な知識や歴史観を習得する。

**評価方法：**

試験（100％）によって評価する。

**教科書：**

鳥海靖『日本の近代＝国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会、2,100円

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D10601	日本史講義ⅢB（日本近・現代史研究）	4	2	田浦雅徳

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本近現代史 明治憲法 日清・日露戦争 太平洋戦争	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

近代における日本の歩みを、その時々日本の生存条件を考えながら見ていこうとするものである。特に伊藤博文の憲法調査から太平洋戦争開始までの政治過程を講義する。近代国民国家としての日本が如何にして形成され、激動の近代国際社会の中でどのような苦闘の歴史を築いたかを知ることが目標とする。

**授業の概要：**

明治憲法の成立から太平洋戦争にいたる歴史をたどっていく。

**授業の計画：**

- 第1回 伊藤博文の憲法調査と宮中改革
- 第2回 内閣制度の創設と大日本帝国憲法の発布
- 第3回 第一回帝国議会の開会
- 第4回 第四議會と和衷協同の詔勅
- 第5回 明治の外交課題－条約改正と対朝鮮政策
- 第6回 壬午・甲申事変
- 第7回 日清戦争
- 第8回 三国干渉と日露の対立
- 第9回 日露戦争
- 第10回 日露戦後の内政と外交
- 第11回 第一次世界大戦とワシントン会議
- 第12回 中国ナショナリズムの急進化と満洲事変
- 第13回 協調と対立の中の昭和十年代
- 第14回 太平洋戦争の勃発と戦争目的
- 第15回 戦時外交と終戦
- 第16回 試験

**授業方法：**

教科書を読みながら、パワーポイントのスライドを使って解説を行う。

**達成目標：**

近代国民国家としての日本が如何にして形成されたかを知ること。そのために必要な知識や歴史観を習得する。

**評価方法：**

試験（100％）によって評価する。

**教科書：**

鳥海靖『日本の近代＝国民国家の形成・発展と挫折』放送大学教育振興会、2,100円

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D12701	国語学概説A	4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
品詞 自立語・付属語 主語 述語 修飾語 活用 日本語の音声 日本語の表記 日本語の語彙 日本語の文法	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力

**授業のテーマ：**

日本語文法（口語・文語）の基礎的な知識を習得する。

**授業の概要：**

日本語文法（口語・文語）に関わる、一般的な書物を読解することができるレベル知識を習得する。

**授業の計画：**

- 1 概説
- 2 国語学（日本語学）の基礎 1
- 3 国語学（日本語学）の基礎 2
- 4 文の構造
- 5 口語動詞の活用
- 6 文語動詞の活用
- 7 口語・文語の形容詞・形容動詞の活用
- 8 1から8のまとめ
- 9 係り結び
- 10 日本語とは
- 11 日本語の音声
- 12 日本語の文字
- 13 日本語の語彙
- 14 日本語の文法
- 15 全体のまとめ

**授業方法：**

講義形式を基本とするが、適宜対話形式・発表形式を取り入れる。

**達成目標：**

日本語文法（口語・文語）の基礎的な知識を修得し、一般的な文法書の理解ができる。

**評価方法：**

期末試験（70%）＋受講姿勢（30%）

- 日本語文法についてたいへんよく理解している。……S
- 日本語文法についてよく理解している。……………A
- 日本語文法について理解している。……………B
- 日本語文法についての基礎的事項を理解している。…C

**教科書：**

『新総合 図説国語』東京書籍（880円）、中村明（著）『たのしい日本語学入門』ちくま学芸文庫（950円＋税）

**参考文献：**

阪倉篤義（著）『改稿 日本文法の話 第三版』教育出版（2,500円＋税）、朝比奈英夫他（編）『古典入門』（1,700円＋税）

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D12801	国語学概説B	4	2	花井しおり

期間	曜日	時限	備考：
後期	木曜	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
国文学の時代区分 万葉仮名 上代特殊仮名遣い 漢式和文（変体漢文） ヲコト点 カタカナ ひらかな 係り結びの衰退 言文一致	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力

**授業のテーマ：**

上代から近代にいたるまでの日本語の歴史について考える。

**授業の概要：**

我が国の上代、7、8世紀は、人々が口伝えによる言語生活から脱却し、文字によって言葉を定着させる習慣を持ち始めた時代である。日本語は、漢字によって日本語を表記する営みから出発し、漢字からひらがな・カタカナを生み出すといった展開をたどってゆく。そのような日本語の歴史を、日本語の文字資料を中心としてたどる。

**授業の計画：**

- 1 概説 はじめに
- 2 日本語学の基礎 1
- 3 日本語学の基礎 2
- 4 日本語学の基礎 3
- 5 言語学的な準備
- 6 1から5のまとめ
- 7 奈良時代の日本語 1
- 8 奈良時代の日本語 2
- 9 平安時代の日本語
- 10 7から9のまとめ
- 11 中世の日本語
- 12 近世の日本語
- 13 近代の日本語
- 14 11から13のまとめ
- 15 全体のまとめ

**授業方法：**

講義形式を基本とするが、適宜対話形式・発表形式を取り入れる。

**達成目標：**

日本語の歴史に関わる一般向けの書籍（野村剛史（著）『話し言葉の日本史』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー など）を、独力で読解できる知識を会得する。

**評価方法：**

期末試験（70%）＋受講姿勢（30%）

日本語の歴史についてたいへんよく理解している。……S

日本語の歴史についてよく理解している。……………A

日本語の歴史について理解している。……………B

日本語の歴史についての基礎的事項を理解している。……C

**教科書：**

山口仲美（著）『日本語の歴史』岩波新書（740円＋税）

**参考文献：**

『新総合図説国語』東京書籍（880円）、野村剛史（著）『話し言葉の日本史』吉川弘文館 歴史文化ライブラリー（1,700円＋税）、高山善行他（編）『ガイドブック 日本語文法史』ひつじ書房（1,900円＋税）

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D12901	国語表現	4	2	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
後期	水	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
要旨 論理的な文 読解力 論説文	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力

**授業のテーマ：**

正しく、明確に趣旨を読み取る力の養成。趣旨が正確に伝わる文を書く力の養成。

**授業の概要：**

前半は、論説文を読みとり、要旨を書く練習を行う。後半は、構成を考えて、論理的かつ分かりやすい意見文を書く練習を行う。

**授業の計画：**

1. 印象に残る自己紹介
2. 印象に残る自己PR
3. わかりやすい説明
4. 要約（1）論説文を読み、キーワードを探す
5. キーワードをもとにして要旨を書く、文を短くする練習
6. 要約（2）論説文を読み、キーワードを探す
7. キーワードをもとにして要旨を書く
8. 事実と意見を区別する
9. 意見文を書く（1）意見を60字程度で表現する
10. 意見文を書く（2）意見を60字程度で表現する
11. 論説文の要約をもとにした意見文を書く（1）
12. 意見文の検討
13. 論説文の要約をもとにした意見文を書く（2）
14. 修正版発表・検討
15. まとめ

**授業方法：**

文章作成は宿題とし、次の授業までに教員にPCメールで課題作文を送付する。授業の主たる作業は、送付された課題作文の検討とする。文章遂行は、学生同士（ピア）で行うため、自己の意見を相手にわかるように話す能力と積極的にコミュニケーションに参加する態度が求められる。

**授業目標：**

正しく、明確に文章の趣旨を読み取れるようになる。  
趣旨が正確に伝わる文が書けるようになる。

**評価方法：**

試験

**教科書：**

プリント配布

**参考文献：**

『日本語文章能力検定』準2級、『文章表現』

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D13001	漢文学概論A	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：教員免許状（国語）取得のための必修科目
前期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読み書き 対話 コミュニケーション	コミュニケーション力

**授業のテーマ：**

漢文訓読を通して中国の古典を学ぶ。

**授業の概要：**

漢文訓読の方法を学びつつ、中国古典の代表的な作品を概観していく。

**授業の計画：**

1. はじめに（概要紹介）
2. 漢字の基礎、漢和辞典の利用
3. 訓点について
4. 漢文の構文
5. 返読文字
6. 再読文字
7. 受身形・使役形
8. 否定形
9. 疑問形・反語形
10. 限定形・累加形
11. 故事成語（守株、矛盾）
12. 故事成語（刻舟求劍）
13. 故事成語（楚共王遺弓、狐假虎威）
14. 故事成語（蛇足）
15. まとめ

**授業方法：**

教科書にしたがって進める。

**達成目標：**

- ・漢文訓読の方法を理解できる。
- ・教科書収録の作品を自力で訓読できる。

**評価方法：**

試験により行う。

- S…漢文訓読の方法を理解し、白文に自力で訓点等を付すとともに、作品の背景等が分析できる  
A…漢文訓読の方法を理解し、教科書収録の作品を自力で訓読するとともに、作品の背景等が分析できる  
B…漢文訓読の方法を理解し、教科書収録の作品を自力で訓読できる  
C…漢文訓読の方法を理解できる  
D…Cのレベルに達していない

**教科書：**

（1）榊原邦彦ほか編『漢文入門』和泉書院、1,260円（税込）。ただし授業期間内に教科書を終了しない。（2）高校等で使用した漢和辞典

**参考文献：**

必要に応じて提示。

**実験・実習・教材費：**

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D13101	漢文学概論B	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：教員免許状（国語）取得のための必修科目
後期	月	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読み書き 対話 コミュニケーション	コミュニケーション力

**授業のテーマ：**

漢文訓読を通して中国の古典を学ぶ。

**授業の概要：**

漢文訓読の方法を学びつつ、中国古典の代表的な作品を概観していく。

**授業の計画：**

1. 詩の形式
2. 古体の詩（桃夭、古詩十九首）
3. 古体の詩（飲酒）
4. 古体の詩（帰園田居）
5. 唐代の詩（代悲白頭翁）
6. 唐代の詩（春暁）
7. 唐代の詩（涼州詞、登鸛鵲樓）
8. 唐代の詩（鹿柴）
9. 唐代の詩（竹里館、送元二使安西）
10. 唐代の詩（静夜思）
11. 唐代の詩（黄鶴樓送孟浩然之広陵、子夜呉歌）
12. 唐代の詩（月下独酌）
13. 唐代の詩（山中間答、山中與幽人对酌）
14. 唐代の詩（送友人）
15. まとめ

**授業方法：**

教科書にしたがって進める。

**達成目標：**

- ・漢文訓読の方法を理解できる。
- ・教科書収録の作品を自力で訓読できる。

**評価方法：**

試験により行う。

- S…漢文訓読の方法を理解し、白文に自力で訓点等を付すとともに、作品の背景等が分析できる
- A…漢文訓読の方法を理解し、教科書収録の作品を自力で訓読するとともに、作品の背景等が分析できる
- B…漢文訓読の方法を理解し、教科書収録の作品を自力で訓読できる
- C…漢文訓読の方法を理解できる
- D…Cのレベルに達していない

**教科書：**

「漢文学概論A」の残りの部分を用いる。

**参考文献：**

必要に応じて提示。

**実験・実習・教材費：**

なし。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D13401	漢文学講読 I	4	2	渡昌弘

期間	曜日	時限	備考：教員免許状（国語）取得のための必修科目
後期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
読み書き 対話 コミュニケーション	コミュニケーション力

#### 授業のテーマ：

コミュニケーション能力の育成をテーマとして、漢文を講読する。中国の古典文学は古来、様々な形で日本と日本文学に影響を与えてきたが、本来外国語で書かれているものを意外なまでに抵抗なく受容してきた。その背景には漢文訓読が大きく関わっていると考えられる。この授業では、漢文の訓読方法の再確認を目指す。

#### 授業の概要：

『史記』などより選読する。

#### 授業の計画：

以下の予定だが、順序など変更することがある。

1. 「史記」伯夷列伝（1）
2. 「史記」伯夷列伝（2）
3. 「史記」伯夷列伝（3）
4. 「史記」淮陰侯列伝（1）
5. 「史記」淮陰侯列伝（2）
6. 「史記」淮陰侯列伝（3）
7. 「三国志」諸葛亮伝（1）
8. 「三国志」諸葛亮伝（2）
9. 「三国志」諸葛亮伝（3）
10. 五柳先生伝
11. 殿中少監馬君墓誌（1）
12. 殿中少監馬君墓誌（2）
13. 柳子厚墓誌銘（1）
14. 柳子厚墓誌銘（2）
15. まとめ

#### 授業方法：

演習形式。毎回指名する。

#### 達成目標：

コミュニケーション能力のうち、特に文章の効果的な読み書きの能力を習得する。

#### 評価方法：

試験により行う。

- S…理論を駆使して完成度の高い独自の読み書きができる
- A…理論を部分的に活用して読み書きができる
- B…理論を使いながら作品の分析ができる
- C…理論や用語を説明できる
- D…Cのレベルに達していない

#### 教科書：

授業内にて紹介。

#### 参考文献：

漢和辞典

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D13601	書道	4	2	衣川彰人

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
書写 書道 文字 毛筆 硬筆	美的感受性 コミュニケーション力

**授業のテーマ：**

この授業では、①書写書道教育における現状の諸問題と今後の展開について②小・中学校にて行われる国語科の書写教育における楷書と行書の学習についての知識を深める③書字活動を通して行われる他者とのコミュニケーションに必要とされるさまざまな知識を学ぶとともに実技能力の向上を図るという3つのテーマをもとにして講義と実技指導をしていきたい。

**授業の概要：**

文字を正しく整えて書くための字形のとり方や配字法などのポイントについて講義を交えながら実技指導していく。また、細字（小字）や硬筆の指導も行い、実用の書にも対応できるようにしていきたい。

**授業の計画：**

- 第1回 用具・用材について
- 第2回 書の美を求めて…書体について
- 第3回 楷書の基本点画
- 第4回 楷書の字形…文字の概形
- 第5回 楷書の字形…画の長短と間隔
- 第6回 楷書の字形…画の方向・接し方
- 第7回 楷書の字形…筆順
- 第8回 楷書の字形…組み合わせ方（左右）
- 第9回 楷書の字形…組み合わせ方（上下）
- 第10回 楷書の字形…組み合わせ方（内外）
- 第11回 行書の運筆・用筆について
- 第12回 行書の字形…点画の変化
- 第13回 行書の字形…点画の省略
- 第14回 行書の字形…点画の連続
- 第15回 行書の字形…筆順の変化

※希望に応じて、年賀状や慶弔の表書きなどの細字（小字）の筆写についての指導も行う。

※毎回の授業にて毛筆と硬筆の筆写を関連させて指導を行う。

**授業方法：**

講義と実技指導を交えて行う。授業時間の15分程度を書法や字形に関する解説を行ったうえで、残りを実技指導し、毎回、毛筆による清書作品を制作し、その後、硬筆の学習をする。

**達成目標：**

文字を正しく整えて書くために必要な基礎的な知識を理解し、それらを活かしながら自らの書字能力の向上を図ることを目標とする。

**評価方法：**

書写書道の実技を含めた書字に関するレポートによる（100%）。

文字を書くための知識を十分に理解し、書字能力の向上を図ることができた…………… S

文字を書くための知識への理解を深めながら、書字能力の向上を図ることができた…… A

文字を書くための知識を学ぶとともに、書字能力の向上を図ることができた…………… B

文字を書くための知識を学びながら、書字能力の向上のために努力することができた… C

Cのレベルに達することができなかった…………… D

**教科書：**

全国大学書写書道教育学会編『明解書写教育』（萱原書房／1,500円）

書道用具一式（大筆・小筆・紙・墨・硯・下敷き・文鎮等）

硬筆用の鉛筆（Bまたは2B程度の硬さの鉛筆が望ましい）

**参考文献：**

春名好重・三浦康広・杉村邦彦編集『書の基本資料』（中教出版）

**実験・実習・教材費：**

各自で書道半紙・墨汁など、実技練習に必要となるものを用意すること。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D14301	ことばと文化の形成A	4	2	石上文正

期間	曜日	時限	備考:
前期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ことばは不思議で、魔術的力をもっている	コミュニケーション力と分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ:

私たちは、当たり前の日々を、当たり前のように生きています。これは、じつは「不思議」なことです。まず、このことが「不思議」であることに気づいてもらい、そしてこういったことがどのようにして可能なのかについて、ことばや文化から考えていきます。そして、ことばがいかにか私たち自身や生活に、大きな影響を与えているかについて、学生が「驚くこと」ことが、授業の目的です。ことばのもっている「力」のすごさは、想像以上です。また、ことばと文化の違いを認識することをとおして異文化理解について考えていきます。私たちは、いかにしたら(外国)人を理解しあえるのでしょうか。このことを考えることも、この授業の大きなテーマです。

#### 授業の概要:

まず、ことば、記号、文化とは何かを考え、つぎにそれらがどのようにして日常性を作り上げているかについて説明します。さらに、この日常性が異文化と接することによってどのように影響を受けるか具体例を挙げながら論じます。最後に、ことばと文化の関係についての、さまざまな考え方について学んでいきます。

#### 授業の計画:

1. ヴァーチャル・リアリティとしての社会・文化環境
2. ことばと(ヴァーチャル・)リアリティの構築
3. ことばの不思議
4. 言語とは何か?
5. 記号とは何か?
6. ことば・記号と身体
7. ことば・記号と現代社会
8. 文化について
9. 異文化理解について
10. サピア・ウォーフの仮説
11. サピア・ウォーフの仮説
12. 角田理論
13. マクルーハンのメディア理論について
14. オングの声の理論について
15. まとめ

#### 授業方法:

基本的には授業は講義形式で行いますが、対話的な方法も取り入れた授業を展開します。学生は、授業を受け身的に受講するのではなく、積極的に考えながら受講してください。教科書は使用しませんが、関連資料を配付して理解を深めます。

#### 達成目標:

ことばと文化について考える力をつけることによって、さまざまな社会・文化現象を分析する力を養います。とくに、「当たり前のこと」を、批判的に分析・思考する態度を身につけることが目標です。

#### 評価方法:

期末に行う試験(60%)およびレポート(30%)によって、学則に則って評価します。期末試験の前には、試験の準備のための詳しいプリントを配布します。なお、授業への積極的な参加や発言も考慮(10%)する場合があります。

#### 教科書:

使用しません。ただし、資料として自作のプリントを配布します。

#### 参考文献:

- 『文化記号論』池上・山中・唐須、講談社学術文庫  
『言語・思考・現実』ウォーフ、講談社学術文庫  
『メディア論——人間の拡張の諸相』マクルーハン、(みすず書房)  
『声の文化と文字の文化』オング、(藤原書店)  
『日本人の脳』、『続日本人の脳』角田忠信、(大修館書店)

#### 実験・実習・教材費:



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D14401	ことばと文化の形成B	4	2	石上文正

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
ことばは不思議で、魔術的力をもっている	コミュニケーション力と分析・総合の思考力と判断力

#### 授業のテーマ：

私たちは、当たり前の日々を、当たり前のように生きています。これは、じつは「不思議」なことです。まず、このことが「不思議」であることに気づいてもらい、そしてこういったことがどのようにして可能なのかについて、ことばや文化から考えていきます。そして、ことばがいかに私たち自身や生活に、大きな影響を与えているかについて、学生が「驚くこと」ことが、授業の目的です。ことばのもっている「力」のすごさは、想像以上です。

また、ことばと文化の違いを認識することをとおして異文化理解について考えていきます。私たちは、いかにしたら（外国）人を理解しあえるのでしょうか。このことを考えることも、この授業の大きなテーマです。

#### 授業の概要：

まず、ことば、記号、文化とは何かを考え、つぎにそれらがどのようにして日常性を作り上げているかについて説明します。さらに、この日常性が異文化と接することによってどのように影響を受けるか具体例を挙げながら論じます。最後に、ことばと文化の関係についての、さまざまな考え方について学んでいきます。

#### 授業の計画：

- 1～3. 日本語について
- 4～6. 日本語と英語
- 7～9. 『雪国』の英訳を通して見た日本語と英語
- 10～11. 異文化について
12. 日本文化の異文化との接触——文字を中心に（古代～近世）
13. 日本文化の異文化との接触——文字を中心に（明治～現代）
- 14～15. 日米の文化比較

#### 授業方法：

基本的には授業は講義形式で行いますが、対話的な方法も取り入れた授業を展開します。学生は、授業を受け身的に受講するのではなく、積極的に考えながら受講してください。教科書は使用しませんが、関連資料を配付して理解を深めます。

#### 達成目標：

ことばと文化について考える力をつけることによって、さまざまな社会・文化現象を分析する力を養います。とくに、「当たり前のこと」を、批判的に分析・思考する態度を身につけることが目標です。

#### 評価方法：

期末に行う試験（60％）およびレポート（30％）によって、学則に則って評価します。期末試験の前には、試験の準備のための詳しいプリントを配布します。なお、授業への積極的な参加や発言も考慮（10％）する場合があります。

#### 教科書：

使用しません。ただし、資料として自作のプリントを配布します。

#### 参考文献：

- 『日本語 新版（上・下）』金田一春彦（岩波新書）
- 『オノマトペ 擬音・擬態語をたのしむ』田守育啓（岩波書店）
- 『文化記号論』池上・山中・唐須、講談社学術文庫
- 『英語の感覚』（上・下）大津栄一郎（岩波新書）
- 『日本語と外国語』鈴木孝夫（岩波新書）
- 『シリーズ認知言語学入門 認知文法論Ⅱ』中村芳久編、（大修館書店）
- 『「甘え」の構造』土居健郎（弘文堂）
- 『かくれた次元』E・ホール（みすず書房）
- 『人間形成の日米比較』恒吉僚子（中公新書）
- 『アメリカ人と日本人——教科書が語る「強い個人」と「やさしい一員」』今井康夫（創流出版）

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B20501	住環境デザイン論特殊講義ⅡA（住居論）	4	2	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
住まい コミュニティ 環境 モダニズム	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 美的感受性

#### 授業のテーマ：

空間とは何か  
 建築とは何か  
 環境とは何か  
 住まいとは何か について深く考えること。

#### 授業の概要：

現代の住まいやコミュニティを生活スタイルやデザイン、生産のしくみや社会の取り組みなどから考察し、その課題を明らかにし、住まいとは何かを深く考えます。

#### 授業の計画：

- ・現代の課題
- 1. 住まいについて
- 2. 記号化 nLDK
- 3. モダンリビング
- 4. ワークショップ（住宅タイプの収集と分析）
- 5. ワークショップ（住宅タイプの収集と分析）
- ・住まいの性能
- 6. 商品化住宅
- 7. 工業化と規格化
- 8. 住宅の快適性
- 9. 高層化住宅
- 10. ワークショップ（商品化住宅の収集と分析）
- 11. ワークショップ（商品化住宅の収集と分析）
- ・コミュニティへ
- 12. ワンルーム/コレクティブハウス
- 13. コミュニティと住まい
- 14. まちづくりと文化の中の住まい
- 15. まとめ

#### 授業方法：

毎回、テーマをひとつ掲げ、それにかかわる多数の映像を紹介し、説明を加えます。受講者はスクリーンの画像を見ることと、提起される問題点を深く考察することによって、住まいとは何か、コミュニティとは何か、環境のデザインとは何か、を検証します。ディスカッションやワークショップを取り入れるので、発言や質問による積極的な授業参加が必要です。

#### 達成目標：

現代の住宅やコミュニティの課題を発見し、住まいとは何かを明らかにすること

#### 評価方法：

テーマに取り組み、  
 S：達成目標を超えて、自らの視点によって重要な課題が発見できた。  
 A：達成目標に到達でき、重要な課題が発見できた。  
 B：十分とは言えないが、課題が発見できた。  
 C：課題を発見しようとする努力が感じられた。  
 D：取り組みが不足し、課題発見にも至らなかった。  
 授業の取り組み点60%、課題レポートの提出ならびに発表による点40%

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B21601	住環境デザイン論特殊講義ⅡB（住居論）	4	2	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
住まい コミュニティ 環境 モダニズム	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 美的感受性

#### 授業のテーマ：

空間とは何か  
 建築とは何か  
 環境とは何か  
 住まいとは何か について深く考えること。

#### 授業の概要：

20世紀に現れた住環境デザインの考え方や潮流を振り返り、その地域や時代の文化性、価値観や社会意識を発見し、私たちの住まいや生活空間の課題を深く考えます。

#### 授業の計画：

- |                          |                   |
|--------------------------|-------------------|
| 1. はじめに/自分のまちのマップ（中心と領域） | 9. ワークショップ/マップづくり |
| 2. 田園都市構想/近隣住区論          | 10. 課題講評          |
| 3. 住むための機械/バウハウスとミース     | ・フィールドワーク         |
| 4. ケーススタディハウス/プレーリーハウス   | 11. 高蔵寺ニュータウンについて |
| 5. ポストモダニズムの思想/建築家無しの建築  | 12. 視察報告/調査と分析    |
| 6. コレクティブハウス/同潤会         | 13. 視察報告/調査と分析    |
| 7. パタンランゲージ/             | 14. 視察報告/調査と分析    |
| 8. ワークショップ/マップづくり        | 15. 集住について        |

#### 授業方法：

毎回、テーマをひとつ掲げ、それにかかわる多数の映像を紹介し、説明を加えます。受講者はスクリーンの画像を見ることと、提起される問題点を深く考察することによって、住まいとは何か、コミュニティとは何か、環境のデザインとは何か、を検証します。また、各自で高蔵寺ニュータウンを調査してもらいます。それにかかわるディスカッションやワークショップを取り入れるので、発言や質問による積極的な授業参加が必要です。

#### 達成目標：

20世紀における住まいの様々な提言を考察し、現代のあるべき住環境を明らかにすること

#### 評価方法：

テーマに対し、  
 S：達成目標を超えて、自らの視点によって重要な課題が発見できた。  
 A：達成目標に到達でき、重要な課題が発見できた。  
 B：十分とは言えないが、課題が発見できた。  
 C：課題を発見しようとする努力が感じられた。  
 D：取り組みが不足し、課題発見にも至らなかった。  
 授業の取り組み点60%、課題レポートの提出ならびに発表による点40%

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
B21801	住環境デザイン論演習及び実習	4	4	島崎義治

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
空間 建築 環境 デザイン	美的感受性 コミュニケーション力 問題解決力 価値判断力

#### 授業のテーマ：

具体的な設計課題に取り組み、自ら課題作品を制作することによって、  
空間とは何か  
建築とは何か  
環境とは何か  
デザインとは何か について深く考えます。

#### 授業の概要：

年間4～5程度の課題作品を制作します。各課題ごとに取り組むべき内容や進め方を説明した後、  
受講者の制作状況を見ながら随時アドバイスやサポートを行います。提出期限に合わせ、受講者  
自ら研究、設計制作を行い、課題作品を完成させます。

#### 授業の計画：

- <前期>  
1. ファンスワース邸改築計画  
2. 小ギャラリー計画  
<後期>  
3. 瞑想の森計画  
4. 本宿公民館計画

#### 授業方法：

授業時は毎回、受講者自ら進めてきた検討内容を報告したり、互いに意見交換を行ったり、教員が  
アドバイスをしたりすることで、課題作品を高め、作品として完成させてゆくことで授業が進みます。  
住環境デザイン研究室のPCやプリンター、製図板などの備品を使いますが、課題や図面制作、  
モデル制作のための道具等を各自購入のこと。モデル等の制作材料、アウトプット用消耗品等  
は実習費で購入します。

#### 達成目標：

- ・課題作品に潜む社会の問題点を探求し、取り組むテーマを発見する。
- ・テーマを具現化するコンセプトを発見し、魅力ある建築空間をつくる。
- ・つくりたい、人に伝えたいという表現意欲を持って課題作品を完成させる。
- ・美しくプレゼンテーションする技術とセンスを磨く。

#### 評価方法：

テーマに取り組み  
S：自らの独自の表現によって達成目標を超えて、重要な課題を発見することができた。  
A：達成目標に到達でき、重要な課題を発見することができた。  
B：十分な表現とは言えないが、課題を発見することができた。  
C：課題を発見しようとする努力が感じられた。  
D：取り組みが不足し、課題の発見に至らなかった。  
授業の取り組み点40%、課題作品による点60%

#### 教科書：

なし。

#### 参考文献：

必要に応じ説明します。

#### 実験・実習・教材費：

10,000円：課題制作用消耗品（モデル一般材料、文房具、画材、印刷用消耗品等）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D21501	茶道文化論特殊講義ⅡA（茶室と日本建築史）	4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
千利休 古田織部 小堀遠州	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

「茶匠の茶室空間について」

**授業の概要：**

茶道文化は日本伝統文化の中で高度に確立されたもので、日本人の芸術のこころ、空間設定、固体距離などを探求する上で適したものである。各茶匠の茶室と露地を概説してその茶室空間の特色、美学を見極める。

**授業の計画：**

- 1、すまいから茶室へ
- 2、日本建築における茶室の特異性
- 3、茶室の条件
- 4、初期の茶室について
- 5、6、紹鷗と利休の茶室について
- 7、8、宗旦の茶室
- 9、10、11、利休の弟子たちの茶室
- 12、13、貴族の茶室
- 14、小堀遠州の茶室「忘筌」～大名茶
- 15、まとめ

**授業方法：**

最初に茶室と露地の基本的用語を説明します。教科書に則して講義形式で進めますが、ある程度のレベルで各自分担してレジメを作り、発表していただきます。

**達成目標：**

茶室の構成と意匠を理解すると同時に茶庭（露地）のしくみを理解して茶の空間構成を把握する

**評価方法：**

筆記試験（50％）とレポート課題（50％）

**教科書：**

日向進著『茶室に学ぶ』（淡交社／1,890円）  
中村昌生著『茶室を読む』（淡交社／1,238円＋税）

**参考文献：**

尼崎博正著『茶庭のしくみ』（淡交社／1,900円＋税）  
神谷昇司監修『茶室のしくみ』（淡交社／2,600円）

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D21601	茶道文化論特殊講義ⅡB（茶室と日本建築史）	4	2	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
織田有楽 細川三斎 藤村庸軒 片桐石州	分析・総合の思考力と判断力 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

「茶匠の茶室空間について」

**授業の概要：**

茶室の基本的な知識を理解した上で、茶人と茶室について言及する。建築物は、その居住性や利便性を追及することを主眼とした構造となっている。茶室は自然の中に精神的な空間を創ることを目的としている。そのために日本建築では特異な民家の壁構造を採用した。本講義では茶室と露地の成り立ち、特色を概説すると同時に茶室の起こし絵図を作成して茶室空間を把握する

**授業の計画：**

- 1、2 織田有楽と細川三斎の茶室の違い
- 3、4 藤村庸軒の道安囲・千家の継承
- 5、6 武家茶人・片桐石州の工夫
- 7、8 貴族好みに和した金森宗和
- 9、10 松平不昧の茶室と露地
- 11、12 千玄々斎の茶室
- 13、14、15 起こし絵図の作成

**授業方法：**

最初に茶室の基本的用語を説明します。教科書に則して講義形式で進めますが、ある程度のレベルで各自分担してレジメを作り、発表していただきます。

**達成目標：**

起こし絵図を作成して茶室空間を把握する

**評価方法：**

筆記試験（50％）とレポート課題（50％）

**教科書：**

茶室の歴史 中村昌生著『図説 茶室の歴史』（淡交社／1,900円＋税）

**参考文献：**

根岸照彦著『茶室の解明』（淡交社／3,800円＋税）

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D21801	茶道文化論演習及び実習	4	4	神谷昇司

期間	曜日	時限	備考：
通年	月	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
千利休 古田織部 細川三斎 小堀遠州 千宗旦	分析・総合の思考力と判断力 コミュニケーション力 社交性 グローバルな視野

**授業のテーマ：**

「利休・織部・三斎・遠州・宗旦の美学と茶事の実践」

**授業の概要：**

茶の湯大成者である千利休、弟子古田織部・細川三斎、そして利休の孫千宗旦と同時代の生きた大名茶人小堀遠州について。それぞれの茶の湯・茶道具・茶室・美学などに関わる事柄を挙げ、5茶匠の茶人としての人間像を言及する。そして茶事の実践を通して茶の湯の本質を学ぶ。

**授業の計画：**

前期

- |                 |            |
|-----------------|------------|
| 1、利休伝書（抄）       | 2、利休の茶室    |
| 3、利休の茶道具        | 4、秀吉と利休の美学 |
| 5、利休にとっての茶祖「珠光」 | 6、武野紹鷗とわび  |
| 7、「南方録」（覚書）     | 8、利休遺産の継承  |
| 9、織部伝書（抄）       | 10、織部の茶室   |
| 11、織部の茶道具       | 12、織部の美学   |
| 13、「南方録」（減後）    | 14、「山上宗二記」 |
| 15、まとめ          |            |

後期

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1、三斎伝書（抄）     | 2、三斎の茶室       |
| 3、三斎の茶道具      | 4、三斎の美学       |
| 5、遠州伝書（抄）     | 6、遠州の茶室       |
| 7、遠州の茶道具      | 8、遠州の美学       |
| 9、「長闇堂記」（1）   | 10、「長闇堂記」（2）  |
| 11、「長闇堂記」（3）  | 12、「茶話指月集」（1） |
| 13、「茶話指月集」（2） | 14、「茶話指月集」（3） |
| 15、茶事実習       |               |

**授業方法：**

教科書に従って解説し、事前に学生が適宜学生が資料を集め、分担して発表させる。

**達成目標：**

利休、織部、三斎、遠州、宗旦の5人の茶匠の茶の湯を理解する。

**評価方法：**

発表とレポート課題（70%程度）授業への取り組み（30%）

**教科書：**

筒井絃一著『南方録（覚書・減後）』（淡交社／1,200円＋税）  
 神津朝夫著『長闇堂記 茶道四祖伝書（抄）』（淡交社／1,200円＋税）  
 谷端昭夫著『茶話指月集 江岑夏書』（淡交社／1,200円＋税）

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

3,000円（茶事の方法費、消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D23501	日本美術文化論特殊講義ⅡA (日本・アジアの美術と工芸)	4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考:
前期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
仏教美術 ヒンドゥー教美術 ギリシャ美術 シルクロード	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 グローバルな視野 美的感受性

#### 授業のテーマ:

身体表現は、西洋の美術に於いては、ギリシャ美術以来その中心的なものであり、現在ではアジアでも西洋の美意識が支配的となっているといえます。それでは、かつてのアジアに於いて身体は美術の中でどのように表現されてきたのでしょうか。インド、西域、東アジア各地域の身体表現のあり方を見ていき、日本人にとっての身体とは何かを考えます。

#### 授業の概要:

そのプロポーシオンにおいて現代でも身体美の基準とされ、仏像の成立にも影響を与えたとされる古代ギリシャ美術にふれ、古代・中世のインド美術、西域（シルクロード）を経て中国・朝鮮半島の仏教美術を通観。そして、それらの様式的影響下にある日本仏教美術を比較しながら、日本人の身体観と宇宙観を考えます。

#### 授業の計画:

1. 授業の概要、彫刻と偶像の関係
  2. 古代ギリシャ美術
  3. 古代ギリシャ美術
  4. 古代インドの仏教・ヒンドゥー教美術
  5. 古代インドの仏教・ヒンドゥー教美術
  6. 中世インドの仏教・ヒンドゥー教美術
  7. 中世インドの仏教・ヒンドゥー教美術
  8. 西域の仏教美術
  9. 西域の仏教美術
  10. 中国・朝鮮半島と飛鳥時代の仏教美術
  11. 中国と天平時代の仏教美術
  12. 貞観時代の仏教美術と曼荼羅の宇宙観
  13. 藤原時代の仏教美術と浄土の宇宙観
  14. 鎌倉時代の仏教美術
  15. まとめ
- \*より適切な資料の入手や展覧会の開催等があった場合は内容の変更があります。

#### 授業方法:

プリントされた図版や映像を使った講義。

#### 達成目標:

表現様式の違いを通して、それぞれの地域の身体観、世界観のあり方を理解する。

#### 評価方法:

期末テスト70%、授業に対する取組み30%  
 講義内容の理解が特に優れている……………S  
 講義内容をほぼ理解できている……………A  
 講義内容の要点は理解できている……………B  
 講義内容を要点を半分以上理解できている……………C  
 講義内容を要点を半分以上理解できていない……………D

#### 教科書:

瓜生中『仏像がよくわかる本』PHP研究所 860円

#### 参考文献:

田中英道『天平のミケランジェロ』弓立社 2,600円

#### 実験・実習・教材費:



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D23601	日本美術文化論特殊講義ⅡB (日本・アジアの美術と工芸)	4	2	菅原太

期間	曜日	時限	備考:
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
信貴山縁起絵巻 伴大納言絵巻 映画 アニメーション	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力 美的感受性

#### 授業のテーマ:

現代のマンガに至るまで、日本人は静止画であるはずの絵に物語という時間表現を担わせようと果敢に取り組んで来ました。中でも、平安時代の絵巻『信貴山縁起絵巻』・『伴大納言絵巻』は、現代の映画に通じる優れた物語表現で知られています。講義では両絵巻を中心に他の物語絵巻や映画・アニメーションとも比較しつつ、その時空表現の特性を明らかにします。

#### 授業の概要:

映画の編集手法や構図法を紹介し、そうした映画理論をとおして『信貴山縁起絵巻』・『伴大納言絵巻』の時空表現を読み直してゆきます。

#### 授業の計画:

1. 授業の概要説明
2. 絵巻の歴史
3. 絵巻の時間表現
4. 映画編集の歴史1
5. 映画編集の歴史2
6. 映画・アニメーションに見る編集の実際1
7. 映画・アニメーションに見る編集の実際2
8. 眼球運動と絵の知覚1
9. 眼球運動と絵の知覚2
10. 『信貴山縁起絵巻』の時空表現1
11. 『信貴山縁起絵巻』の時空表現2
12. 『信貴山縁起絵巻』の時空表現3
13. 『伴大納言絵巻』の時空表現1
14. 『伴大納言絵巻』の時空表現2
15. まとめ

\*より適切な資料の入手や展覧会の開催等があった場合は内容の変更があります。

#### 授業方法:

プリントされた図版や映像を使った講義。

#### 達成目標:

古典絵画を現代の視点から捉え直す。事物の描写から物語的な感動がどのようにして生まれるのか、その仕組みを理解する。

#### 評価方法:

期末テスト70%、授業に対する取組み30%  
 講義内容の理解が特に優れている……………S  
 講義内容をほぼ理解できている……………A  
 講義内容の要点は理解できている……………B  
 講義内容を要点を半分以上理解できている……………C  
 講義内容を要点を半分以上理解できていない……………D

#### 教科書:

#### 参考文献:

高畑勲『十二世紀のアニメーション』徳間書店 3,780円  
 ルイス・ジアネッティ『映画技法のリテラシー 1』フィルムアート社 3,360円

#### 実験・実習・教材費:

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D23801	日本美術文化論演習及び実習	4	4	菅原太

期間	曜日	時限	備考：
通年	金	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本画 屏風 インテリア 屏障具	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 美的感受性

**授業のテーマ：**

日本絵画形式をテーマに、彩色画、水墨画、コラージュ、CG等、様々な素材とアプローチによる作品制作をおこない、伝統文化を現代の生活空間の中で、どのように再生させていくかを考えます。

**授業の概要：**

日本絵画の形式として、またインテリアとしての屏風の現代的な可能性を探ります。

**授業の計画：**

前期：

屏風の用法と構造の研究  
 テーマ設定及び素材と技法の選択  
 素材の収集やラフ案の作成

後期：

制作案のプレゼンテーションと討議  
 作品制作  
 制作物の展示とプレゼンテーション

**授業方法：**

画材による描画彩色やCGによる制作の実習と発表。

**達成目標：**

屏風の形式を生かした表現法と使用法の創出

**評価方法：**

出席20%、提出作品50%、プレゼンテーション30%。

- ・ 絵画形式を理解した上で自己の美意識や価値観に沿った創意工夫のある課題作品の提出・発表 ..... S
- ・ 絵画形式の理解と創意工夫のある課題作品の提出・発表 ..... A
- ・ 絵画形式を十分に理解した課題作品の提出・発表 ..... B
- ・ 絵画形式をふまえた課題作品の提出・発表 ..... C
- ・ 課題作品の未提出・出席不良 ..... D

**教科書：**

**参考文献：**

**実験・実習・教材費：**

5,000円

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D31201	華道史A	4	2	三浦友馨

期間	曜日	時限	備考：
前期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町期のたてばなを見てみよう。</li> <li>・江戸初期の立花を見てみよう。</li> <li>・京都研修旅行により時代を感じてみよう。</li> </ul>	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） 美的感受性

**授業のテーマ：**

- ・「いけばな」の発生から今日までの変遷を知る。
- ・中国挿花と「日本いけばな」の関係を知る。
- ・伝統文化の一つである「いけばな」がはたしてきた役割を知る。

**授業の概要：**

- ・華道史年表にそって、時代時代の流れを知るとともに時代ごとの作品（デモ）に触れる。
- ・花器と花材の変遷とともに、花形の変化、飾る場所の変化を知る。
- ・レポートを提出することにより、より深い知識を身につける。

**授業の計画：**

いけばなの全体の流れと各時代の特徴を知る様に。

**授業方法：**

- ・テキスト（華道史年表）にそって、いけばなの流れを知る。
- ・レポートテーマ（前期3回）を学ぶことにより代表的な動きに理解を深める。

**達成目標：**

- ・いけばなの歴史をとおして日本の伝統文化を知る。

**評価方法：**

レポートによる評価 100%

**教科書：**

華道史年表（日本華道社発行）

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D31301	華道史B	4	2	三浦友馨

期間	曜日	時限	備考：
後期	金	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・室町期のたてばなを見てみよう。</li> <li>・江戸初期の立花を見てみよう。</li> <li>・京都研修旅行により時代を感じてみよう。</li> <li>・池坊550年祭の行事に参加し、時代の流れを実感してみよう。</li> </ul>	分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意思決定力） 美的感受性

**授業のテーマ：**

- ・「いけばな」の発生から今日までの変遷を知る。
- ・中国挿花と「日本いけばな」の関係を知る。
- ・伝統文化の一つである「いけばな」が果たしてきた役割を知る。
- ・京都研修旅行により、実物に触れたりして「いけばな」に接近してみる。

**授業の概要：**

- ・レポートを提出することにより、より深い知識を身につける。
- ・京都研修旅行の計画・実施を通じ、より深い理解を得る。

**授業の計画：**

- ・研修旅行の目的地を調べ、実り多い研修、安全な旅になるよう。

**授業方法：**

- ・テキスト（華道史年表）にそって、いけばなの流れを知る。
- ・レポートテーマ（後期3回）を学ぶことにより代表的な動きに理解を深める。
- ・研修旅行を通じ、深く「いけばな」に触れる。

**達成目標：**

- ・いけばなの歴史をとおして日本の伝統文化を知る。

**評価方法：**

レポートによる評価 100%

**教科書：**

華道史年表（日本華道社発行）

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

京都研修旅行（11/15,16）…現地集合現地解散、交通費・宿泊費は各自負担、入館料3,000円程となります。

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D32501～2	茶道実習 I	4	2	神谷昇司

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
D32501	通年	火	1	
D32502	通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
和敬清寂 薄茶 盆略点前 床の間	コミュニケーション力 社交性（社会的相互関係力） 美的感受性

#### 授業のテーマ：

「座礼の日本文化である茶道を通して主客の心を学ぶ」

#### 授業の概要：

点前の規律正しさ、節度ある人との対応の仕方、人間としての本来の姿を養うことを目的とする。亭主と客の動作の実習を通して茶道の真の相を学び、和敬清寂の茶道精神を体得し、人に対しても物に対しても気配りのできる感性豊かな人間形成を目指す

#### 授業の計画：

以下の手順にて実習：

(前期)

- (1) 襖のあけしめ、お辞儀の仕方 真、行、草、お菓子、お茶の頂き方
- (2) (3) ふくさの扱い方、割稽古
- (4) 席入りの仕方、床の拝見
- (5) (6) (7) (8) 盆略点前
- (9) (10) 柄杓の扱い方
- (11) (12) (13) (14) 風炉 薄茶 平点前
- (15) 柏露軒茶会

(後期)

- (1) ～ (7) 風炉運び点前
- (8) ～ (14) 炉運び点前
- (15) 柏露軒茶会

#### 授業方法：

授業のはじめに「ことば」「利休道歌」「四規七則」の唱和

前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室見学並びに実習をいたします。

#### 達成目標：

茶道の基本である盆略点前とび薄茶平点前を習得する。茶道文化検定を受検して茶道力を養う。

#### 評価方法：

授業への取り組みを重視。

申請によって裏千家初級の資格（入門・小習・茶箱の許状）が取得できます。

#### 教科書：

『裏千家茶道』（財団法人今日庵発行／900円）

裏千家茶道文化検定3・4級用（1,260円）

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費） 道具を持っていない場合は別途道具代が必要（履修の手引き「茶道の許状取得と茶道実習の履修方法」参照）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D32601～2	茶道実習Ⅱ	4	2	神谷昇司

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
D32601	通年	火	1	
D32602	通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人風炉と炉 平点前 茶箱	コミュニケーション力 社交性（社会的相互関係力） 美的感受性

#### 授業のテーマ：

「茶道の作法を通して日本文化の心を学ぶ」  
 棚薄茶点前及び風炉濃茶点前、また茶箱点前を習得致します。

#### 授業の概要：

実習Ⅰに引きつづき実習Ⅱでは、風炉濃茶点前・炉薄茶（はこび・棚）の実習を致します。履修者には茶通箱・唐物・台天目の裏千家許状取得の資格が得られます。なお茶通箱・唐物・台天目・盆点・和巾についてはその内容についての説明と点前・盆点・和巾手順を解説いたします。

#### 授業の計画：

前期は風炉の点前、後期は炉の点前  
 1、2、3、風炉 薄茶 運び平点前  
 4、5、風炉 薄茶 運び平点前 拝見  
 6、7、風炉 薄茶 棚平点前  
 8、9、風炉 薄茶 棚平点前 拝見  
 9、10、風炉 濃茶 割けい古  
 11、12、濃茶における客の作法  
 13、14、風炉 濃茶 運び点前  
 15、柏露軒茶会  
 1、2、3、炉 薄茶 運び平点前  
 4、5、炉 薄茶 運び平点前 拝見  
 6、7、炉 薄茶 棚平点前  
 8、9、炉 薄茶 棚平点前 拝見  
 9、10、炉 濃茶 割けい古  
 11、12、濃茶における客の作法  
 13、14、炉 濃茶 運び点前  
 15、柏露軒茶会

#### 授業方法：

授業のはじめに「ことば」「利休道歌」「四規七則」の唱和  
 前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室見学並びに実習をいたします。

#### 達成目標：

棚薄茶点前及び風炉濃茶点前、また茶箱点前を習得する。また茶道文化検定を受検して茶道力を養う。

#### 評価方法：

授業への取り組みを重視。  
 「ことば」「四規七則」「利休道歌」「歴代家元」等暗誦の為の小テスト

#### 教科書：

『裏千家茶道』（財団法人今日庵発行／900円）  
 裏千家茶道文化検定3・4級用（1,260円）

#### 参考文献：

『茶道教本 風炉』（淡交社／1,200円＋税）  
 『茶道教本 炉』（淡交社／1,200円＋税）

#### 実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D32701～2	茶道実習Ⅲ	4	2	神谷昇司

授業コード	期間	曜日	時限	備考：
D32701	通年	火	1	
D32702	通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
荘物（かざりもの） 濃茶 棚点前	コミュニケーション力 社交性（社会的相互関係力） 美的感受性

**授業のテーマ：**

「くりかえし反復練習して五感と体で覚える」

**授業の概要：**

各学生のレベルに合わせて棚薄茶点前、荘物（かざりもの）点前、運び濃茶点前を実習します。奥伝（唐物、台天目、盆点、和巾点）の説明と点前の心構えの説明を致します。履修者の内、特に優秀な学生には「行之行台子」の裏千家許状取得が得られます。なお行台子については、その内容についての説明と点前手順の解説を致します。実習Ⅱに引き続き、前期は風炉棚薄茶点前、荘物、濃茶運び点前、後期は炉棚薄茶点前、荘物、濃茶運び点前習の実習を致します。

**授業の計画：**

（前期）風炉	（後期）炉
1、2、 更好棚薄茶点前	1、2、 更好棚薄茶点前
3、4、 丸卓薄茶点前	3、4、 丸棚薄茶点前
5、6、 桑小卓薄茶点前	5、6、 桑小卓薄茶点前
7、 荘物における客の作法	7、 荘物における客の作法
8、 茶筌荘	8、 茶筌荘
9、 茶碗荘	9、 茶碗荘
10、 茶杓荘	10、 茶杓荘
11、 濃茶の割り稽古	11、12、13、14、 炉濃茶運び点前
12、13、14、 風炉濃茶運び点前	15 柏露軒茶会
15、 柏露軒茶会	

**授業方法：**

授業のはじめに「ことば」「利休道歌」「四規七則」を唱和。各自のレベルに応じて棚薄茶・荘物・濃茶の点前を反復実習します。客の作法も学びます。前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室見学並びに実習をいたします。

**達成目標：**

薄茶と濃茶の違いを習得する。茶道文化検定（2級・3級・4級）を受検して茶道力を養う。

**評価方法：**

出席を重視  
「利休道歌」「歴代家元」、「楽家代々」等暗誦の為の小テスト

**教科書：**

茶道検定公式テキスト（1・2級用）（2,100円）

**参考文献：**

『茶道教本 小習事全伝 上』（淡交社／1,575円）

**実験・実習・教材費：**

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D32801～2	茶道実習Ⅳ	4	2	神谷昇司

授業コード	期間	曜日	時限	備考：履修抽選対象科目
D32801	通年	火	1	
D32802	通年	火	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
四ヶ伝（茶通箱・唐物・台天目・盆点）	コミュニケーション力 社交性（社会的相互関係力） 美的感受性

#### 授業のテーマ：

「茶の湯とは心に伝え目に伝え耳に伝えて一筆もなし」  
茶道は繰り返し練習することで五感と体で覚える。

#### 授業の概要：

各学生のレベルに合わせて、茶通箱（さつうばこ）、唐物、台天目、盆点、和巾点の実習を致します。これらの点前を習得した履修者には行の行台子の点前実習を致します。履修者の内、特に優秀な学生には「大円之草（だいえんのそう）」と「引次（ひきつぎ）」の裏千家許状取得の資格が得られます。なお大円之草についてはその内容についての説明と点前手順の解説を致します。実習Ⅲに引き続き、茶通箱を習得し、奥伝の実習を致します。なお優秀な学生には行の行台子の点前の実習を致します。基本的に前期は風炉点前：後期は炉点前

#### 授業の計画：

前期は風炉の点前、後期は炉の点前  
1, 2. 茶通箱（さつうばこ）  
3, 4. 唐物（からもの）  
5, 6. 台天目（だいてんもく）  
7, 8. 盆点（ぼんだて）  
9, 10. 和巾点（わきんだて）  
11, 12. 行の行台子  
13, 14. 初炭（しょずみ）  
15. 柏露軒茶会

#### 授業方法：

授業のはじめに「ことば」「利休道歌」「四規七則」を唱和。各自のレベルに応じて濃茶・荘物・四ヶ伝の点前を反復実習します。客の作法も学びます。前期、後期各一度ずつ名古屋にある神谷柏露軒・孤庵・猿庵にて、茶室見学並びに実習をいたします。

#### 達成目標：

もう一度初心に戻って茶道に対する心構えを見直す。茶道文化検定（1級・2級・3級）を受検して茶道力を養う。

#### 評価方法：

授業への取り組みを重視  
「利休道歌」「歴代家元」「楽家代々」「茶道知識」等暗誦の為の小テスト

#### 教科書：

茶道検定公式テキスト（1・2級用）（2,100円）

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

10,000円（抹茶・菓子代、消耗品費）



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D32901	華道実習 I A (生花)	4	(1)	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：I A・I B両方取得して2単位
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
楽しい時間 癒し 対話	価値判断力 (意思決定力) グローバルな視野 美的感受性

#### 授業のテーマ：

生花の基本的技法、知識を学ぶ。  
池坊華道の様式である「生花」の実習を通して、日本伝統文化の感性と意義を見出し、国際人としての人格形成の一助とする。

#### 授業の概要：

1. 草木の見つめ方、ため方、省略など基本的な花材の生かし方を学ぶ。
  1. 草木の自然と出生の表現を学ぶ。
  1. 一種生、二種生を中心とした基本的な正風体生花を修得する。
- ◎一種生
1. 生花の役枝真副体での構成を学ぶ
  1. 真副体のあしらいの枝、方向性を学ぶ
- ◎二種生
1. 二種生の体を学ぶ
  1. 真副の草木に対しての体の草木の選び方を学ぶ

#### 授業の計画：

第1～第15 一種生  
第16～第30 二種生  
※季節の植物を生けますので、その植物の一番美しい時を選びますから変動も有ります。

#### 授業方法：

手本を生けながら説明した後、実習を行い、生け上がった作品を一作ずつ手直しをする。

#### 達成目標：

自然界にある（生育している）植物の美しさをとらえる目を養う。

#### 評価方法：

半期に一度の実習テストの結果による評価 40%  
授業態度 60%

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

「池坊いけばなテキスト生花 I・生花 II」（日本華道社／各 683 円）

#### 実験・実習・教材費：

26,040 円（「生花」花代 @ 840 × 30 回分 + @ 840 正月花）  
道具を持っていない場合は、別途道具代が必要（約 3,100 円）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33001	華道実習 I B (自由花)	4	(1)	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：I A・I B 両方取得して2単位
通年	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
・たての花をいけてみよう。・よこの花をいけてみよう。・ななめの花をいけてみよう。・自由花入門コースを経験してみよう。	価値判断力 (意思決定力) グローバルな視野 美的感受性

**授業のテーマ：**

教室の使い方、道具、花材の基本的使い方を身につける。  
華道実習を通し、日本の伝統文化の真髄に触れつつ、その美の鑑賞の仕方を身につける。  
基礎的技術を身につけ、美しい「いけばな」をつくりだす。  
植物の美しさに気がつき、その生かし方を勉強する。

**授業の概要：**

- ・季節ごとの花材を手にするにより、その性質を学ぶ。
- ・花材の配置、配色による美しい造形を追求する。
- ・花器との調和、飾る場所との調和を追求する。
- ・自由花入門カリキュラムにそって段階を区切り実習を深める。

**授業の計画：**

第1～第30 入門カリキュラムに添って、花器・花材の取りあつかいを知る。

**授業方法：**

当日使用する花材の名前や性質について説明する。  
花器を選択し、形づくりを考える。

**達成目標：**

基礎的な自由花を身につけることと、作法を身につける。

**評価方法：**

半期に一度の実習テストの結果による評価 40%  
授業態度 60%

**教科書：**

なし

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

26,880 円 (「自由花」花代 @840 × 30 回分 + @ 840 × 2 回分 正月花、クリスマス花)  
道具を持っていない場合は、別途道具代が必要 (約 3,100 円)

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33101	華道実習ⅡA（生花）	4	（1）	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅡA・ⅡB 両方取得して2単位
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
楽しい時間 癒し 対話	価値判断力（意思決定力） グローバルな視野 美的感受性

#### 授業のテーマ：

日本の風土と精神が育てた「生花」をさらに深く学ぶことにより、日本人の美意識を再確認し、日本伝統文化の理解の一助とする。

ⅡAでは基本的技法を踏まえた生花三種生を学ぶとともに、現代的な生花新風体を習得する。

#### 授業の概要：

1. 正風体としての生花三種生を修得する
1. 現代の生活環境に適応した生花新風体を習得する
1. 三種生と生花新風体の違いを学ぶ

#### ◎三種生

1. 一種生、二種生にはない、装飾的な明るい生花を学ぶ

#### 授業の計画：

第1～第10 一種生

第11～第20 二種生

第21～第30 三種生

※季節の植物を生けますので、その植物の一番美しい時を選びますから変動も有ります。

#### 授業方法：

手本を生けながら説明した後、実習を行い、生け上がった作品を一つずつ手直しをする。

#### 達成目標：

自然界にある（生育している）植物の美しさをとらえる目を養う。

#### 評価方法：

半期に一度の実習テストの結果による評価 40%

授業態度 60%

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

「池坊いけばなテキスト生花Ⅰ・生花Ⅱ」（日本華道社／各 683 円）

#### 実験・実習・教材費：

26,040 円（「生花」花代 @ 840 × 30 回分 + @ 840 正月花）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33201	華道実習ⅡB（自由花）	4	（1）	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅡA・ⅡB 両方取得して2単位
通年	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
・入門から応用へ。・楽しく飾ろう。・植物とお友達に。	価値判断力（意思決定力） グローバルな視野 美的感受性

**授業のテーマ：**

華道実習を通じ、日本文化の一端に触れつつ、新しい生活スタイルの中で生きる美しい「いけばな」を追求する。

美しい「いけばな」実習の経験から、豊かな人間性を創りだす。

**授業の概要：**

季節ごとに変化する花材の性質、名前を知る。

配置、配色により美しい「いけばな」の原理を追求する。

「いけばな」の中での花器の役割を知り、よりよい方向を追求する。

草木の美と、構成の美を結合することにより、さらに美しい「いけばな」のできることを体験する。

ⅢB、ⅣBの学生との合併クラスになる為、先輩の良いところを学ぶ。

**授業の計画：**

第1～第30

・応用の手がかりを知る。

・正しい作法を知る。

**授業方法：**

当日の花材の名や、特長について説明する。

花材と花器との調和について考えさせる。

花器に対する「いけばな」構成について考えさせる。

**達成目標：**

・花器、花材と親しむことができた

・礼儀正しいいけばなをすることができた

**評価方法：**

半期に一度の実習テストの結果による評価 40%

授業態度 60%

**教科書：**

なし

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

26,880円（「自由花」花代 @840 × 30回分 + @840 × 2回分 正月花、クリスマス花）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33301	華道実習ⅢA（生花）	4	（1）	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅢA・ⅢB 両方取得して2単位
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
楽しい時間 癒し 対話	価値判断力（意思決定力） グローバルな視野 美的感受性

**授業のテーマ：**

自然の植物をより深く理解し、植物それぞれの持つ特徴（出生）を引き出し、「生花」という様式の中に表現する。  
池坊の現行伝書に基づいて古典を学び、意義を見い出す。

**授業の概要：**

1. 形式にとらわれない生花新風体の理解を深める。
1. 季節に応じた生け方の工夫を学ぶ。
1. 古典生花の現代的応用。

**授業の計画：**

前期はⅡAに順ずる  
後期は生花新風体を勉強

**授業方法：**

手本を生けながら説明した後、実習を行い、生け上がった作品を一作ずつ手直しをする。

**達成目標：**

自然界にある（生育している）植物の美しさをとらえる目を養う。

**評価方法：**

半期に一度の実習テストの結果による評価 40%  
授業態度 60%

**教科書：**

なし

**参考文献：**

「池坊いけばなテキスト生花Ⅰ・生花Ⅱ」（日本華道社／各 683 円）

**実験・実習・教材費：**

26,040 円（「生花」花代 @ 840 × 30 回分 + @ 840 正月花）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33401	華道実習ⅢB（自由花）	4	（1）	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：Ⅲ A・Ⅲ B 両方取得して2単位
通年	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
・植物大好き人間に。・応用って楽しい。・変幻自在に。	価値判断力（意思決定力） グローバルな視野 美的感受性

#### 授業のテーマ：

華道実習を通じ、豊かな人間性を見出す。  
日本伝統文化に触れつつ、新しい生活スタイルの中で生きる「いけばな」を追求する。  
I、IIの経験をふまえ、一層高度な技術と知識を身につける。

#### 授業の概要：

季節にあった「いけばな」、飾る場・時にあった「いけばな」を経験し身につける。  
構成の原理を知り、「いけばな」の中で追求する。  
他の造形についても興味をもち、「いけばな」との関連を学ぶ。  
II B、IV Bとの合併クラスになる為、他の人の個性に触れる。

#### 授業の計画：

第1～第30  
・適材適所のいけばなを経験する。  
・いけばなの楽しさを味わう。

#### 授業方法：

花材の特長を、実習から花材の軽重・長短などを考えさせる。  
花器の色・質・形について考えさせる。

#### 達成目標：

・応用力をつけることができた  
・他の造形との関連を知ることができた

#### 評価方法：

半期に一度の実習テストの結果による評価 40%  
授業態度 60%

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

26,880円（「自由花」花代 @840 × 30回分 + @840 × 2回分 正月花、クリスマス花）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33501	華道実習ⅣA（生花・伝花）	4	（1）	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅣA・ⅣB両方取得して2単位 集中講義（伝花）があります。日程は後日お知らせします。
通年	木	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
楽しい時間 癒し 対話	価値判断力（意思決定力） グローバルな視野 美的感受性

**授業のテーマ：**

日本の伝承美である生花を、池坊の現行伝書に基づいて再現し、その技法を学ぶと共に、「生花」本来の美の認識を新にする。

「伝花」は古典の花器を使用し、特殊な花形を実習する。

**授業の概要：**

1. 古典の花器（御玄猪等）を使用して、剣山ではなく花配り（花留め）を勉強、実習する。
1. 竹の二重切の花器で花の花形を生ける。
1. 「生花」の株分けである水陸二株生、魚道生の実習。

**授業の計画：**

第1～第30 ⅢAに順ずる  
集中講座にて伝花

**授業方法：**

手本を生けながら説明し、その後実習、生け上がった作品を手直し。

**達成目標：**

自然界にある（生育している）植物の美しさをとらえる目を養う。

**評価方法：**

半期に一度の実習テストの結果による評価 40%  
授業態度 60%

**教科書：**

なし

**参考文献：**

「池坊いけばなテキスト生花Ⅰ・生花Ⅱ」（日本華道社／各 683 円）

**実験・実習・教材費：**

34,440 円（「生花」花代 @ 840 × 30 回分 + @ 840 正月花、「伝花」花代 @ 840 × 10 回分）

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
D33601	華道実習ⅣB（自由花・立花）	4	（1）	加藤碧玻

期間	曜日	時限	備考：ⅣA・ⅣB両方取得して2単位 集中講義（立花）があります。日程は後日お知らせします。
通年	金	3	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
立花まで経験してみよう。・いけばなの原形を見てみよう。・学外でのいけばなを見てみよう。	価値判断力（意思決定力） グローバルな視野 美的感受性

#### 授業のテーマ：

最終年度として、経験した知識と技術を確認しつつ、さらに深い感性を身につける。それを実生活の中で生かす工夫をする。  
後期は、立花集中実習を通し、立花の理論と技術を体験する。

#### 授業の概要：

自由花——小さな作品・大きな作品、縦長・横長の作品などを経験し、さまざまな空間に適応する自由花を実習する。  
立花——集中講義により、立花の造形理論とその空間を学習する。  
基礎的な理論とその鑑賞のしかたを身につける。

#### 授業の計画：

第1～第30  
・適材適所のいけばなを経験する。  
・いけばなの楽しさを味わう。

#### 授業方法：

テーマを決め、様々な空間に生きる自由花を楽しみつつ、経験させる。  
立花の実習により、その理論と空間を経験させる。

#### 達成目標：

・応用力をつけることができた  
・他の造形との関連を知ることができた

#### 評価方法：

半期に一度の実習テストの結果による評価 40%  
授業態度 60%

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

35,280 円（「自由花」花代 @840 × 30 回分 + @ 840 × 2 回分 正月花、クリスマス花 + 「立花」花代 @ 840 × 10 回分）



授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F00101	教職概論	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教師 教職 人づくり	コミュニケーション力 問題解決能力 社交性(社会的相互関係力)

**授業のテーマ：**

学級崩壊、いじめ、引きこもり、また、青少年犯罪の凶悪化など、現在、我が国の教育が大きな混乱状態にあることはいままでもない。また、これらの教育問題は制度的改革のみで乗り切ることが不可能と考える。

そこで、本講では「教育とは何か」という最も基本的な問題を総合的に考察する。

**授業の概要：**

授業では、自分自身の教職経験（山口県立高校教諭十四年在職）を具体的に語りながら、教師とは何かということを学生に理解させたい。

**授業の計画：**

- 1 教育とは何か①
- 2 教育とは何か②
- 3 我が国における学校の発達と性格①
- 4 我が国における学校の発達と性格②
- 5 教師の性格と課題①
- 6 教師の性格と課題②
- 7 家庭・地域と学校①
- 8 家庭・地域と学校②
- 9 教師の性格と課題①
- 10 教師の性格と課題②
- 11 学級・学校経営
- 12 教育内容—我が国の教科書
- 13 生徒指導の体制と方法①
- 14 生徒指導の体制と方法②
- 15 現代公教育と教育行政の課題

**授業方法：**

講義形式

**達成目標：**

学生が自分で理想の教師像を描き、それに向かって努力するようにする。

**評価方法：**

試験（100％）により行う。試験には期末試験、小テスト、課題提出を含む。

**教科書：**

なし

**参考文献：**

折々に紹介する。

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F01101	教育原論	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
後期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
西洋 教育史 人づくり	コミュニケーション力 問題解決能力 社交性(社会的相互関係力)

**授業のテーマ：**

学級崩壊、いじめ、とじこもり、また、青少年犯罪の凶悪化など、現在、我が国の教育が大きな混乱状態にあることはいうまでもない。また、これらの教育問題は制度的改革のみで乗り切ることは不可能と考える。

そこで、本講では「教育とは何か」という最も基本的な問題を総合的に考察する。

**授業の概要：**

講義では、まず、ギリシア、ローマの教育からはじめ、近代学校制度の成立までを概観する。具体的には、各時代、各地域の代表的な「私塾」、「学校」、「教育者」などを取り上げ、そこで行われた教育実践などを概観し、教育のあり方を総合的に考察する。

**授業の計画：**

- 1 ギリシアの教育①
- 2 ギリシアの教育②
- 3 ソクラテス
- 4 プラトン
- 5 アリストテレス
- 6 ローマの教育
- 7 イスラエルの教育
- 8 中世の教育①
- 9 中世の教育②
- 10 人文主義と教育
- 11 宗教改革と教育
- 12 啓蒙主義と教育
- 13 ルソー
- 14 ペスタロッチ
- 15 フレーベル

**授業方法：**

講義形式を中心として進める。

**達成目標：**

近代教育の源流とされるギリシア以来の西欧教育思想を理解し、今後の我が国の教育を具体的に構想する。

**評価方法：**

試験（100％）により行う。試験には期末試験、小テスト、課題提出を含む。

**教科書：**

なし。

**参考文献：**

折々に紹介する。

**実験・実習・教材費：**

授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
F03101	教育制度論	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	月	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
日本教育 制度史 歴史	コミュニケーション力 問題解決能力 社交性(社会的相互関係力)

#### 授業のテーマ：

古代より我国の教育は、行政の一分野と位置付けられ、教育制度の形態、学校の設置、運営、教育内容の決定などを主体的に行い、教育水準の維持、発展を目指してきた。本講義では、我国の学校制度の歴史の変遷、現在の法制度などの基本などについて取り上げ、それぞれの時代における教育制度の精神的、社会的、制度的、経営的な特徴などを論じる。

#### 授業の概要：

我が国では、古代より人づくりが始まり、大陸の文化的影響のもと、制度が整備されてきたことを理解させる。そして、現在の我が国の教育制度は、それらの延長線上にあることを理解させる。

#### 授業の計画：

- 1 古代国家の成立とその教育制度
- 2 大陸の教育・文化の国風化
- 3 ヨーロッパ文化・宋明文化の摂取
- 4 幕府・諸藩の教育政策と学校
- 5 大衆文化の発達と教育の普及
- 6 幕末維新时期における教育近代化の胎動
- 7 近代教育法制の成立と展開
- 8 外国教師の雇用と高等・中等教育の成立
- 9 西洋教育方法の導入と小学校教師の誕生
- 10 教育理念の模索と臣民像
- 11 教育改革運動の展開
- 12 植民地教育の展開
- 13 戦時体制下の教育
- 14 戦後教育改革の進展
- 15 国際状況の変化と我国の教育

#### 授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

#### 達成目標：

我が国の教育制度の発達を理解し、現在のそれについて、自分の意見がもてるようになる。

#### 評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験、小テスト、課題提出などを含む。

#### 教科書：

なし。史料は適時配布。

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F09101	教育相談	4	2	坂本真也

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	B	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
スクールカウンセリング 学校臨床心理学 児童の心理・発達 教育相談	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 社交性（社会的相互関係力）

#### 授業のテーマ：

現在、学校現場ではいじめ・不登校・非行そして発達障害など多くの問題に直面している。また、児童生徒だけでなくその保護者や教師への援助も教育相談では必要とされている。よって、本講義では学校の様々な問題に対する理解とその対応について理論や方法論だけでなく、事例も含めて学校臨床心理学（スクールカウンセリング）の視点から学習することを主要なテーマとする。

#### 授業の概要：

教育相談のあり方や特徴を学習し、学校現場が抱える問題の背後にある児童生徒の心理・発達、教師—児童生徒関係についても理解していく。また、個々の問題への対応や援助の方法を習得し、効果的な教育相談が行えることを目標とする。

#### 授業の計画：

第1回	教育相談とは	第9回	ケースディスカッション（発達障害）
第2回	教育相談の歴史的背景	第10回	カウンセリングの理論Ⅰ
第3回	児童生徒の心理・発達Ⅰ	第11回	カウンセリングの理論Ⅱ
第4回	児童生徒の心理・発達Ⅱ	第12回	カウンセリングの技法
第5回	教師—児童生徒の人間関係	第13回	カウンセリング実習
第6回	児童生徒への相談活動	第14回	スクールカウンセラー・教師・保護者による連携
第7回	ケースディスカッション（不登校・いじめ）	第15回	まとめ
第8回	保護者への相談活動		

#### 授業方法：

配布資料をもとに講義を行い、実際に学校現場で抱える問題については体験的に理解できるよう事例を通して討論していく。また、カウンセリング実習していき、相談活動のあり方についても全員で考え、意見を交換していく。

#### 達成目標：

児童生徒の心理・発達の理解および相談方法の習得、保護者への相談対応能力や連携能力の習得

#### 評価方法：

出席回数基準をクリアしていることを前提とし、定期試験の結果によって評価する。  
 S—児童生徒の心理・発達ならびに効果的な相談活動のあり方をほぼ完全に理解できる。  
 A—児童生徒の心理・発達ならびに効果的な相談活動のあり方を理解できる。  
 B—児童生徒の心理・発達ならびに効果的な相談活動のあり方を部分的に理解できる。  
 C—児童生徒の心理・発達ならびに効果的な相談活動のあり方を最低限は理解できる。  
 D—Cのレベルに達していない。

#### 教科書：

なし

#### 参考文献：

Holmgren, V.S. *Elementary School Counseling* Allyn & Bacon 7,139円  
 川島・勝倉 『臨床心理学からみた生徒指導・教育相談』 プレーン出版 1,995円

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F05101	道徳教育の研究	4	2	濱島秀樹

期間	曜日	時限	備考：
前期	集中	D	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
道徳教育 いじめ問題とその予防 道徳指導案 道徳模擬授業 道徳性の発達 道徳教育とディベート	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 価値判断力（意志決定力）

#### 授業のテーマ：

道徳に関する種々の講義内容と演習を基本に、自ら考え、自分の道徳観を見つめなおし、生徒のおかれた発達段階や社会状況に即して、中学校において道徳教育を行うことのできる基礎的な知識や態度、実践力を身につける。

#### 授業の概要：

道徳に関する学習指導要領を理解したのちに、授業実践例などを分析する。指導案作成と模擬授業を通して、道徳教育に関して、出席者全員で考えを深めていく。参加者全員が指導案を書き、模擬授業を行う。また、道徳に関する時事的な社会問題、特に、いじめ問題について取り上げ、解説する。そのほか、道徳性の発達などを整理する。

#### 授業の計画：

第1回	オリエンテーション 道徳の授業を振り返る	第8回	道徳教育：授業実践例の分析
第2回	種々の道徳的課題－いじめ問題を中心に－	第9回	道徳教育：授業指導案の分析
第3回	学習指導要領：道徳教育の歴史と目標	第10回	道徳の授業指導案：テーマ選びと指導内容を考える
第4回	学習指導要領：道徳の指導内容	第11回	道徳の授業指導案：指導案作成
第5回	学習指導要領：道徳の指導計画	第12回	「道徳」模擬授業①
第6回	道徳性の発達に関する諸理論	第13回	「道徳」模擬授業②
第7回	道徳教育とディベート－モラルジレンマ課題－	第14回	「道徳」模擬授業③
		第15回	模擬授業の振り返りと道徳教育に関するまとめ

#### 授業方法：

基本的には学習指導要領および配布資料と教師作成スライドをもとに講義・演習（ディスカッション・ディベート等を含む）を行う。道徳の模擬授業を行うために、自分で調べ、考え、指導案を書き、発表することが求められる。積極的な能動的参加が必要である。その他、中学校での道徳教育の進め方について、また、心理学において道徳性の発達がどのように扱われているのかなどを講義する。道徳に関する時事的な社会問題、とくにいじめ問題について取り上げ、解説する。

#### 達成目標：

①日本の学校教育における道徳教育を学習指導要領により整理し、理解できる。②「いじめ」問題とその予防について道徳的観点から考察できる。③授業実践を分析し、道徳教育のあり方を検討できる。④自分が実践する道徳の授業に関する指導案を書くことができるようになる。⑤指導案に従い、模擬授業を行うことができるようになる。

#### 評価方法：

指導案作成および模擬授業、学習指導要領の配布プリントへの書き込み、授業総括レポートで総合的に評価を行う。

#### 教科書：

文部科学省 『中学校学習指導要領解説 道徳編』 日本文教出版（139円 税込）

#### 参考文献：

なし

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F06101	特別活動指導法	4	2	大宮貢

期間	曜日	時限	備考：
前期	木	2	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
人格の形成 個性の伸長 人間関係の構築 教科外教育 適応教育	コミュニケーション能力 分析・総合の思考力と 判断力 問題解決力 効果的な社会参加

#### 授業のテーマ：

教育の目標は人間の成長保障と学力形成保障の両面があり、学校の教育活動は各教科・道徳・特別活動等によって構成されている。しかし、現実に行われている教育活動は、学力形成に重点が置かれている。特別活動は生徒の心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人格形成をする重要な諸活動であることを再認識する。

#### 授業の概要：

人間の人格形成と学力形成は表裏一体である。日本の教育の歴史を理解することから教育は人格の形成を図る諸活動が実践されていることを再認識する。また、人格形成を阻害する諸問題があることを理解する。

#### 授業の計画：

- 1・教育の目的・特別活動の学習内容の概論
- 2・近代学校教育の意義と課題
- 3・戦後の教育と特別活動
- 4・人格形成のための学力形成 特別活動と教科指導の関わり
- 5・人間を育てる学校 生きる力
- 6・学力重視か個性重視の教育か
- 7・特別活動の趣旨と目標
- 8・学級活動の目標と活動内容
- 9・学級活動の指導計画 指導上の問題点
- 10・生徒会活動 部活動
- 11・学校行事の意義、指導計画と内容
- 12・総合的な学習の時間
- 13・適応学級（特別支援教育、いじめ、不登校、生徒指導の現状）
- 14・教科外教育（同和問題・外国人差別・ハンセン病）
- 15・特別活動の評価法と教員の資質について
- 16・試験（筆記試験）

#### 授業方法：

基本的には講義方式で進め、毎時間授業内容詳説プリントを配布する。また、受講生に対して課題を出して、小論文の形で提出してもらい、意見の交換を行う。その授業の課題について一人ひとり発表し、その後全員で討議し、自分の考えを確立する。

#### 達成目標：

特別活動は心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、人格形成をする重要な諸活動であることを理解する。人間の成長・発達を保障するさまざまな活動や諸問題があることを習得する。

#### 評価方法：

試験60%、課題の小論文（内容の論旨、文章の表現方法）20%、演習での発表（論旨・態度）20%を総合して評価する。

- 教育の目標や特別活動の意義や活動を十分理解し、自分の意見が発表できる・・・S  
 教育の目標や特別活動の意義や活動を理解し、自分の意見が発表できる・・・A  
 教育の目標や特別活動の意義や活動を理解し、自分の意見が持てる・・・B  
 教育の目標や特別活動の意義や活動を理解できる・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

#### 教科書：

文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（ぎょうせい 114円）

#### 参考文献：

講義時間に紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F07101	教材・教具論	4	2	文野峯子

期間	曜日	時限	備考：
後期	木	1	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
学び 生教材 参加型授業 教材分析 模擬授業	分析・総合の思考力と判断力 問題解決力 価値判断力（意思決定力）

#### 授業のテーマ：

効果的な「学び」を導く教材・教具の作成及び利用

#### 授業の概要：

1. マンガやアニメなど生の素材を利用した教室活動について知る。2. 生の素材を学習目標に沿って利用する方法を学ぶ。3. 視聴覚教材を利用した授業案を考える。4. 模擬授業を通じて、教材の効果的な利用方法を体得する。

#### 授業の計画：

1. よい授業と教材の役割
2. 教材分析1（紙媒体教材）
3. 参加型授業とは
4. 教材利用の授業案作成
5. 授業案の検討1
6. 授業案検討2
7. 模擬授業、評価
8. 生教材（漫画、アニメ等映像教材）を教材化する 1回目（素材を探す）
9. 生教材を教材化する 2回目（教材化を考える）
10. 教材を発表する 評価する
11. 学習目標に沿った授業案作成
12. 教材利用方法検討
13. 授業案の修正
14. 模擬授業
15. まとめ

#### 授業方法：

学生が主体的に活動することによって学習が成立する授業である。グループ単位で、教材作成、教案作成、発表等を行う。欠席は、グループ作業を滞らせるため、全出席を旨とする。教材についての情報を得る、教材作成のための資料を得るために、インターネットを利用する。また、発表もパワーポイントを利用して行う。

#### 達成目標：

視聴覚教材（マンガ、写真、動画など生教材）を利用して、効果的な「学び」を導く授業を計画、実施できるようになる。

#### 評価方法：

成果発表 50%  
レポート 50%

#### 教科書：

特に定めない。

#### 参考文献：

ウェブに公開されているさまざまな教材

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F08101	生徒指導・進路指導	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：
前期	火	5	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生徒指導 生徒理解 教職	コミュニケーション力 問題解決能力 社交性(社会的相互関係力)

#### 授業のテーマ：

学校教育は教科指導にみならず、生徒の人格の完成、人間形成を重視しておこなわなければならない。生徒の人格、人間形成のために重要な役割を果たしているのは、生徒指導・進路指導である。そこで、本講義では、それらについて理解を深め、実際の学校においてはどのような指導が行われているのかを論じたい。

#### 授業の概要：

専門用語の解説などから始め、生徒指導、進路指導の理想的なあり方を、自分で考えられるようにする。

#### 授業の計画：

- 1 生徒指導とは一校内分掌における位置付け
- 2 生徒指導とは一生徒理解
- 3 生徒指導の領域と課題
- 4 生徒指導体制の基本的構造
- 5 生徒指導の場・機会
- 6 生徒指導の事例①
- 7 生徒指導の事例②
- 8 生徒指導の事例③
- 9 進路指導とは一校内分掌における位置付け
- 10 進路指導とは一生徒理解
- 11 進路指導の領域と課題
- 12 進路指導の基本的構造
- 13 進路指導の場・機会
- 14 進路指導の事例①
- 15 進路指導の事例②

#### 授業方法：

講義形式を中心として、適時、史料などを講読する。

#### 達成目標：

生徒指導、進路指導の基本を理解し、学校現場に立った時に、具体的に指導ができる基礎を身に付けさせる。

#### 評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験、小テスト、課題提出などを含む。

#### 教科書：

なし。史料は適時配布。

#### 参考文献：

#### 実験・実習・教材費：



授業コード	授 業 科 目 名	対象学年	単位数	担当教員名
F11401	教職実践演習(中・高)	4	2	川口雅昭

期間	曜日	時限	備考：日程については決定次第掲示連絡します。

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教師 学校 教職 完成	コミュニケーション力 問題解決能力 社交性(社会的相互関係力)

#### 授業のテーマ：

教師として必要とされる、教師としての責任感や教育的愛情、社会性や対人能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力などの資質の向上と定着を目的とする。

#### 授業の概要：

教育実習や学校現場の見学によって得られた知識や経験を活用しながら、各回の授業のテーマについて、講義のほか、グループ討論やロールプレイングを行う。なお、「履修カルテ」により、個別指導もあわせて行う。

#### 授業の計画：

- 第1回 教育実習の振り返り：問題点や課題の確認
- 第2回 教員の役割や責任、職務内容について：教師集団の協力体制
- 第3回 ホームルームの運営：集団作り、個と集団の関係
- 第4回 生徒理解と学級経営：目立たない生徒の把握、問題の気づき
- 第5回 学級経営案の作成：年間目標の設定と実行、及び評価
- 第6回 保護者や地域の関係者との人間関係の構築：地域活動、保護者の対応
- 第7回 対人能力、生徒理解、学級経営についてのまとめ 異世代とのコミュニケーションの取り方など
- 第8回 学校現場の見学Ⅰ（学園高等学校）：課外活動の指導
- 第9回 学校現場の見学Ⅱ（東海中学）：
- 第10回 学校現場見学のまとめ・討論
- 第11回 教科の指導力：指導に当たっての基礎学力の確認、指導案とその運用、修正
- 第12回 模擬授業①：グループ学習の進め方
- 第13回 模擬授業②：発問、指名、評価
- 第14回 教科の指導力のまとめ
- 第15回 教師としての資質の確認：教師の自律

#### 授業方法：

講義のほか、グループ討論やロールプレイングを行う。なお、「履修カルテ」により、個別指導もあわせて行う。

#### 達成目標：

教師としての責任感や教育的愛情、社会性や対人能力、生徒理解や学級経営、教科の指導力などの資質の向上と定着。

#### 評価方法：

試験（100％）により行う。試験には期末試験、小テスト、課題提出を含む。

#### 教科書：

なし。

#### 参考文献：

折々に紹介する。

#### 実験・実習・教材費：

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F11101	事前・事後指導	4	1	岡良和

期間	曜日	時限	備考：
通年	木	4	

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
教育実習 問題解決力 教育現場への参加	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 社交性 (社会的相互関係力)

**授業のテーマ：**

教育実習は、学生として学ぶ立場から教師として指導する立場へと転換する時期としてとらえることができる。この時期に教師への志望が一段と強くなり、また、人間的にも大きく成長する。この授業では、教育実習参加者が、教育実習の意義を理解し大きな成果をあげるために身につけておくべき事柄について習熟する。

**授業の概要：**

事前指導では「教育実地研究の手引」を用いながら、教育実習の意義、目的、教育実習の内容、教育実習上の留意事項（登下校時間、服装、ことばづかい、その他）、教育実習簿の記載方法などについて習熟する。事後指導では、教育実習の目的がどこまで達成されたのかを全員で討論し振り返る。

**授業の計画：**

事前指導

- 1回 教育実習の意義・心構え
- 2回 実習ノートの活用
- 3回 指導案の作成・授業方法についての確認
- 4回 まとめ

事後指導

- 1回 生徒指導の振り返り
- 2回 教科指導の振り返り
- 3回 まとめ

**授業方法：**

事前指導では、教育現場における課題や問題に対し、実習生としてどのように対処すべきかを討論する。  
事後指導では、大学で学習したことと、現場で体験したことを比較し、残された課題について検討する。

**達成目標：**

将来教員となるのに必要な基礎力を身につける。

**評価方法：**

授業への取り組み（30%程度）と教育実習校での成果（40%）及びレポート（30%程度）

により行う。将来教師を目指す以上、遅刻や欠席は厳に慎むこと。

- 事前準備が完璧で、教育実習において大いに成果をあげた……………S
- 事前準備がほぼ完璧で、教育実習において満足できる成果をあげた……………A
- 事前準備が一定のレベルにあり、教育実習において一定の成果をあげた……………B
- 事前準備や教育実習が最低限のレベルには到達していた……………C

**教科書：**

なし

**参考文献：**

なし

**実験・実習・教材費：**

なし

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F11201	教育実習 I	4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：前年度に教育実習参加の申込をした学生のみ履修登録可 中1種・高1種免必修
前期			

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生徒 問題解決力 教育現場への参加 教育者としての適性	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 社交性 (社会的相互関係力)

**授業のテーマ：**

教育実習では、大学で学習した理論と技術を、生徒との接触を通して再構築し、教育の現場に適用させることを目的とする。また、教員としての自覚を促し、教育者としての適性を確かめ、教育実践への意欲を持つ機会とする。

**授業の概要：**

実習校において、講義、観察、参加、授業実習が実施される。

**授業の計画：**

実習校により示される。

**授業方法：**

実習校での方針によるが、実習生は実習校に多大な負担をかけているという事実を認識する必要がある。実習生は指導技術や教科内容について未熟であり、受け入れ校での学習計画が変更を余儀なくされる可能性もある。実習校は、多忙な教育活動の中で実習生を受け入れている事実を十分認識して、実習生は謙虚で感謝の気持ちを持って実習期間を過ごすこと。また、常に向上心を持ち、努力と時間を惜しまないこと。

**達成目標：**

将来教員となるのに必要な基礎力を身につけるとともに、自らが教職に就く可能性を客観的に認識する。

**評価方法：**

教育実習校での成績に基づく。  
 教育実習において大いに成果をあげた・・・S  
 教育実習において満足できる成果をあげた・・・A  
 教育実習において一定の成果をあげた・・・B  
 教育実習の成果が最低限のレベルには到達していた・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

必要に応じて実習校で示される

**参考文献：**

必要に応じて実習校で示される

**実験・実習・教材費：**

必要に応じて実習校で示される

授業コード	授業科目名	対象学年	単位数	担当教員名
F11301	教育実習Ⅱ	4	2	岡良和

期間	曜日	時限	備考：前年度に教育実習参加の申込をした学生のみ履修登録可 中1種免必修
前期			

授業のキーワード	人間環境大学が育む八つの能力
生徒 問題解決力 教育現場への参加 教育者としての適性	コミュニケーション力 分析・総合の思考力と判断力 社交性 (社会的相互関係力)

**授業のテーマ：**

教育実習では、大学で学習した理論と技術を、生徒との接触を通して再構築し、教育の現場に適用させることを目的とする。また、教員としての自覚を促し、教育者としての適性を確かめ、教育実践への意欲を持つ機会とする。

**授業の概要：**

実習校において、講義、観察、参加、授業実習が実施される。

**授業の計画：**

実習校により示される。

**授業方法：**

実習校での方針によるが、実習生は実習校に多大な負担をかけているという事実を認識する必要がある。実習生は指導技術や教科内容について未熟であり、受け入れ校での学習計画が変更を余儀なくされる可能性もある。実習校は、多忙な教育活動の中で実習生を受け入れている事実を十分認識して、実習生は謙虚で感謝の気持ちを持って実習期間を過ごすこと。また、常に向上心を持ち、努力と時間を惜しまないこと。

**達成目標：**

将来教員となるのに必要な基礎力を身につけるとともに、自らが教職に就く可能性を客観的に認識する。

**評価方法：**

教育実習校での成績に基づく。  
 教育実習において大いに成果をあげた・・・S  
 教育実習において満足できる成果をあげた・・・A  
 教育実習において一定の成果をあげた・・・B  
 教育実習での成果が最低限のレベルには到達していた・・・C  
 Cのレベルに達していない・・・D

**教科書：**

必要に応じて実習校で示される

**参考文献：**

必要に応じて実習校で示される

**実験・実習・教材費：**

必要に応じて実習校で示される